SYLLABUS

【授業の概要と授業計画2022】

九州情報大学

KIIS

Kyushu Institute of Information Sciences

九州情報大学の三つのポリシー

○大学（学部）

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学が養成しようとする人材は、経営情報の高度で専門的な知識・技能を修め、建学の精神「至心」を進んで実践しようとする豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートです。こうした‘全人格的人間’を社会に輩出するために、本学は以下に示す方針の通り、学則および諸規程が定める基準に達し、併せて学士としてふさわしい力（「学士力」1.知識・理解　2.汎用的技能　3. 態度・志向性　4 .統合的な学習経験と創造的思考力）を修得したと認められる学生に対して「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

Ⅰ　必修科目の単位を含めて 124 単位以上を修得していること。

Ⅱ　学修の成果を卒業研究（またはこれと同等と認められるもの）によって示すことができること。

Ⅲ　建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること。

Ⅳ　経営情報学の汎用的技能や知識・理解について基礎から応用まで修得し、併せて IT パスポート合格および日本商工会議所簿記検定（またはこれらと同等以上と認められる外部標準試験の合格）と同水準の技能を有していると認められること。

Ⅴ　社会の様々な事象について、複眼的な知識・理解や汎用的技能を獲得し、それらを総合的に活用して、自らが立てた新たな課題に適用させることにより、その課題を解決することができる主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得していること。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経営情報の高度で専門的な知識・技能を修め、建学の精神に基づく豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートを養成するために、本学の教育課程は次のような特色の 2 つの科目群から構成されています。それは、幅広い教養と人格を陶冶するための「基礎総合科目」、そして経営情報学の諸分野を体系的に学ぶための「専門教育科目」です。2 つの科目群は基礎から応用へと段階的に学べるように設定されており、以下に示す方針に従って編成され実施されます。

学生の成績は、卒業までに修得してほしい「学士力」（1.知識・理解　2.汎用的技能　3.態度・志向性　4．統合的な学習経験と創造的思考力）のそれぞれの観点から評価されます。

Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。

建学の精神に基づいた全人格的教育を行います。そのために人間性を高め、感性を豊かにすることを目的とした科目や少人数教育を通じて社会的協調性を体得させるための科目（「建学の精神と人生」、「ゼミ」、「演習」、「コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ」など）を設定します。

Ⅱ　経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能や知識・理解を修得させること。

経営情報学の諸分野について、汎用的技能や知識・理解を段階的に修得できるように科目（「専門教育科目」群、「ゼミ」、「演習」など）を設定します。とくに本学の専門教育の学修成果を具体的に示すために、IT パスポート、日本商工会議所簿記検定（またはこれらと同等以上の外部標準試験）の合格を目標とします。そのための対策科目を設定します。

Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。

社会の様々な事象についての複眼的な知識・理解や汎用的技能を修得した有為な社会人を養成するため、本学の教育課程においては、「基礎総合科目」（人文・社会・自然科学、語学、スポーツ科学など）および「専門教育科目」（社会・法律など）の中に多様な科目を設定します。

Ⅳ　主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得させること。

能動型学習（アクティブラーニング）を積極的に推進して、学生が自分で課題を設定して、その解決に取り組むことができるような主体的で創造的な思考力・実践力を養います。特に、そのための科目として「ゼミ」、「演習」などを設定します。

Ⅴ　基礎学力・技能を確認・強化すること。

学生が主体的な学びの力をなるべく早く体得できるように、コミュニケーションや学びのスキルのための初年次科目を設定します。また基礎学力を確認・強化するための科目、コンピュータリテラシーを修得するための科目を設定します。

Ⅵ　キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること。

学生が卒業後の進路を自ら考え、切り開いていけるように初年次からキャリア教育科目を設定します。働くことの意味や就活支援など、学生のニーズに応じた科目、地域の経営者団体と提携して行う産学連携の実際的な科目を設定します。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学が養成しようとする人材は、経営情報の高度で専門的な知識・技能を修め、建学の精神「至心」を進んで実践しようとする豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートです。この基本的理念に基づき、経営情報学科、情報ネットワーク学科共通で、以下の方針に従って入学者を受入れます。

Ⅰ　建学の精神を理解し、実践しようとする意欲を持っていること。

本学建学の精神「至心」を理解し、実践しようとする意欲があり、勉学に進んで取り組み、そして進取の精神に溢れた人を求めます。

Ⅱ　経営情報の分野に関心を持ち、学ぶ意欲があること。

経営情報の諸分野に関心を持ち、知識や技能を身につけ、深めていこうとする意欲がある人、特に経営情報の諸分野に関する検定試験や資格取得に積極的に取り組む意欲がある人を求めます。

Ⅲ　基礎的な学力を身につけていること。

大学で学ぶにあたって必要とされる学力（学校教育法第 30 条の第 2 項による学力の三要素）

（1）基礎的・基本的な知識・技能
（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
（3）主体的に学習に取り組む態度

を入学までに修得している人を求めます。

Ⅳ　社会の諸問題を広く多様な視点から理解し、その解決に貢献したいという意欲があること。

広範な知識・技能を体得し、社会の発展のために積極的に参画していく気概がある人を求めます。

Ⅴ　上記の方針に基づき、本学では下記の入学試験を実施して多様な学生を受け入れる（本学の入学試験の詳細については「九州情報大学入試概要」をご覧ください）。

○学校推薦型選抜（特別推薦・一般推薦）
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを出身高等学校長による調査書と推薦書および面接（口頭プレゼンテーション含む）、自己 PR 作文と小論文（一般推薦のみ）に基づいて総合的に選考します。

○総合型選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成したエントリーシートやインタビュー及び出身高等学校長による調査書を参考にして、面接（口頭プレゼンテーション含む）に基づいて総合的に選考します。
本学の総合型選抜が求める学生像は次の三点です
① 「経営・会計・情報」に強い関心を持つ者
② 企業家を目指す者や家業を継ぐ予定の者
③ 部活動（運動・文化）、課外活動（ボランティア等）、資格・検定の取得に熱心に取り組んだ者

○スポーツ奨学生選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験（実績）、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成したエントリーシートやインタビュー及び出身高等学校長による調査書を参考にして、面接（口頭プレゼンテーション含む）に基づいて総合的に選考します。

○一般選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、出身高等学校長による調査書、自己 PR 作文および高等学校までに修得した基礎学力を筆記試験に基づいて総合的に選考します。本学の一般入試の試験科目については「九州情報大学入試要項」をご覧ください。

○大学入学共通テスト利用選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、出身高等学校長による調査書、自己 PR 作文および高等学校までに修得した基礎学力を大学入学共通テストの得点に基づいて総合的に選考します。

○外国人留学生選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成した日本語作文(総合型選抜の場合は、エントリーシートやインタビューを含む)及び出身学校からの日本語能力等に関する証明書を参考にして、面接と日本留学試験(総合型選抜の場合は本学指定の試験)の成績に基づいて総合的に選考します。

○社会人選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成した志願理由書(総合型選抜の場合は、エントリーシートやインタビュー)を参考にして、面接、小論文に基づいて総合的に選考します。

○編入学選抜
本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを(指定校推薦の場合は、出身学校長の推薦書)を参考にして、面接（口頭プレゼンテーション含む）と小論文（一般のみ）に基づいて総合的に選考します。

Ⅵ　本学が指定する「入学前学習」を指示に従って最後まで履行できること。

入学予定者に対しては、大学で学ぶにあたって必要と思われる基礎学力を確認・強化するために、課題や必要に応じて入学前のスクーリング等を課します。入学予定者は本学の指示に必ず従ってください。

2022年度　学年暦

期	行　事	期　日	備　考
前期	入学前オリエンテーション	4月1日(金)	
	新入生合宿	4月3日(日)～4日(月)	
	在学生オリエンテーション	4月5日(火)	
	4年生履修登録期間	4月5日(火)～8日(金)	
	入学式	4月6日(水)	
	新入生オリエンテーション	4月6日(水)、7日(木)、8日(金)	プレテスト、履修指導
	在学生オリエンテーション	4月8日(金)	
	授業開始	4月11日(月)	
	前期履修登録期間	4月11日(月) ～ 15日(金)	
	補講日	5月21日(土)	
	学生総会	5月25日(水)	短縮授業
	開学記念日(通常授業)	5月27日(金)	
	補講日	6月25日(土)、7月23日(土)	
	前期授業終了	7月29日(金)	
	定期試験期間	8月1日(月) ～ 8月9日(火)	8/8(月)、8/9(火)予備日
	iパス・簿記コンテスト	8月10日(水)	
	夏季休業	8月11日(木) ～ 9月21日(水)	
	追再試験	8月29日(月) ～ 31日(水)	
後期	在学生オリエンテーション	9月22日(木)	
	授業開始	9月26日(月)	
	後期履修登録期間	9月26日(月) ～ 30日(金)	
	補講日	10月22日(土)	
	学園祭	10月29日(土)、10月30日(日)	10/28(金)準備(短縮授業)
	補講日	11月26日(土)、12月24日(土)	
	冬季休業	12月25日(日) ～ 1月9日(月)	
	授業開始	1月10日(火)　※注	※月曜日の授業
	休講日	1月13日(金)	
	補講日	1月21日(土)	
	後期授業終了	1月27日(金)	
	定期試験期間	1月30日(月) ～2月7日(火)	2/6(月)、2/7(火)予備日
	iパス・簿記コンテスト	2月8日(水)	
	追再試験	2月21日(火) ～ 24日(金)	
	学位記授与式	3月18日(土)	
	春季休業	3月25日(土) ～31日(金)	

	4月				5月					6月					7月					8月				授業コマ数
月		11	18	25	2	9	16	23	30		6	13	20	27		4	11		25	1	8			16
火		12	19	26		10	17	24	31		7	14	21	28		5	12	19	26	2	9			16
水		13	20	27		11	18	25		1	8	15	22	29		6	13	20	27	3				16
木		14	21	28		12	19	26		2	9	16	23	30		7	14	21	28	4				16
金		15	22		6	13	20	27		3	10	17	24		1	8	15	22	29	5				16
土							補						補					補						

※定期試験期間＝8/1(月)～ 8/9(火)まで

	9月			10月				11月					12月				1月					2月		授業コマ数
月		26	3		17	24	31		7	14	21	28		5	12	19			16	23	30		6	16
火		27	4	11	18	25		1	8	15	22	29		6	13	20		10	17	24	31		7	16
水		28	5	12	19	26		2	9	16		30		7	14	21		11	18	25		1		16
木		29	6	13	20	27			10	17	24		1	8	15	22		12	19	26		2		16
金		30	7	14	21	28		4	11	18	25		2	9	16	23			20	27		3		16
土					補						補					補			補					

※定期試験期間＝1/30(月)～2/7(火)(予備日を含む)

※1/10(火)は、月曜日の授業を実施

2022年度　学年暦

日	4月		5月		6月		7月		8月		9月		日
1	金	入学前オリエンテーション	日	休日	水	7	金	11	月		木		1
2	土		月	4	木	7	土		火		金		2
3	日	新入生合宿	火	憲法記念日	金	7	日		水	定期試験（8/1～8/9）	土		3
4	月	新入生合宿	水	みどりの日	土		月	13	木		日		4
5	火	4年生オリエン（履修登録4/5～8）	木	こどもの日	日		火	12	金		月		5
6	水	入学式 新入生オリエン	金	3	月	9	水	12	土		火		6
7	木	新入生オリエンテーション	土		火	8	木	12	日		水		7
8	金	新入生プレテスト 2.3年生オリエン	日		水	8	金	12	月		木		8
9	土		月	5	木	8	土		火		金		9
10	日		火	4	金	8	日		水	iパス・簿記コンテスト	土		10
11	月	1 前期授業開始	水	4	土		月	14	木	山の日 / 夏季休業（8/11～9/21）	日		11
12	火	1 1～3年生 履修登録期間（4/11～15）	木	4	日		火	13	金		月		12
13	水	1	金	4	月	10	水	13	土	事務室夏季休業（8/13～15）	火		13
14	木	1	土		火	9	木	13	日		水		14
15	金	1	日		水	9	金	13	月		木		15
16	土		月	6	木	9	土		火		金		16
17	日		火	5	金	9	日		水		土		17
18	月	2	水	5	土		月	海の日	木		日		18
19	火	2	木	5	日		火	14	金		月	敬老の日	19
20	水	2	金	5	月	11	水	14	土		火		20
21	木	2	土	補講日	火	10	木	14	日		水		21
22	金	2	日		水	10	金	14	月		木	後期オリエンテーション	22
23	土		月	7	木	10	土	補講日	火		金	秋分の日	23
24	日		火	6	金	10	日		水		土		24
25	月	3	水	6 学生総会（短縮授業）	土	補講日	月	15	木		日		25
26	火	3	木	6	日		火	15	金		月	1 後期授業開始	26
27	水	3	金	6 開学記念日（通常授業）	月	12	水	15	土		火	1 1～3年生:履修登録期間 4年生:履修登録変更期間（9/26～30）	27
28	木	3	土		火	11	木	15	日		水	1	28
29	金	昭和の日	日		水	11	金	15 前期授業終了	月		木	1	29
30	土		月	8	木	11	土		火	前期追再試験（8/29～31）	金	1	30
31			火	7			日		水				31

日	10月		11月		12月		1月		2月		3月		日
1	土		火	6	木	9	日	元日	水		水		1
2	日		水	6	金	10	月		木	定期試験（1/30～2/7）	木		2
3	月	2	木	文化の日	土	10	火		金		金		3
4	火	2	金	6	日		水		土		土		4
5	水	2	土		月	10	木		日		日		5
6	木	2	日		火	11	金		月		月		6
7	金	2	月	6	水	10	土		火		火		7
8	土		火	7	木	10	日		水	iパス・簿記コンテスト	水		8
9	日		水	7	金	11	月	成人の日	木		木		9
10	月	スポーツの日	木	6	土		火	13 授業開始（月曜日の授業）	金		金		10
11	火	3	金	7	日		水	13	土	建国記念日	土		11
12	水	3	土		月	11	木	13	日		日		12
13	木	3	日		火	12	金	休講日	月		月		13
14	金	3	月	7	水	11	土		火		火		14
15	土		火	8	木	11	日		水		水		15
16	日		水	8	金	12	月	14	木		木		16
17	月	3	木	7	土		火	14	金		金		17
18	火	4	金	8	日		水	14	土		土	学位記授与式	18
19	水	4	土	8	月	12	木	14	日		日		19
20	木	4	日		火	13	金	14	月		月		20
21	金	4	月	8	水	12	土	補講日	火	後期追再試験（2/21～24）	火	春分の日	21
22	土	補講日	火	9	木	12	日		水		水		22
23	日		水	勤労感謝の日	金	13	月	15	木	天皇誕生日	木		23
24	月	4	木	8	土	補講日	火	15	金		金		24
25	火	5	金	9	日	冬季休業（12/25～1/9）	水	15	土		土	春季休業（3/25～3/31）	25
26	水	5	土	補講日	月		木	15	日		日		26
27	木	5	日		火		金	15 後期授業終了	月		月		27
28	金	5 学園祭準備（短縮授業）	月	9	水		土		火		火		28
29	土	学園祭	火	10	木	事務室冬季休業（12/29～1/3）	日				水		29
30	日	学園祭	水	9	金		月	定期試験（1/30～2/7）			木		30
31	月	5			土		火				金		31

九州情報大学　教務課

九州情報大学　履修案内

1.　はじめに

履修とは「決められた学科などを習い修めること」です。大学では、必ず履修しなければならない授業科目（必修科目・選択必修科目）と履修したい授業科目（選択科目）を、自分自身で選択して教務課に届け出なければなりません。学生全員の届け出が終了した後でこれを集計し、授業科目ごとの名簿が作成されます。この一連の手続きを履修登録といい、この履修登録が正しくされないと、卒業にも重大な影響が出てきます。従って履修登録は慎重に行ってください。

本学では１年間を前期と後期の２学期に分けて授業を行います。各学期の１授業科目の授業回数は、15 回です。授業は講義・演習、実験・実習および実技などの形態で行われ、各学期または年１回の定期試験の後、60 点以上の評価であれば所定の単位を与えます。４年以上在学して、学則第 23 条第２項別表第Ⅰおよび別表第Ⅱに定めるところにより所定の授業科目を履修し、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認め「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

以下では、「九州情報大学学則（以下「学則」といいます。）」および「九州情報大学授業科目履修規程（以下「履修規程」といいます。）に沿って履修登録から卒業までの学習に関することがらについて、順を追って説明します。また、学則や履修規程は、改正されることがありますが、**卒業要件は、原則として入学時の規定が適用されます。従って、入学時に配布する学生便覧は、卒業するまで大切に保管してください。**

2.　教育課程

本学の授業科目は、「基礎総合科目」、「専門教育科目」および「教職に関する科目」に分けて編成されています。教職課程科目（「教職に関する科目」を含む）については、別冊「教職課程の手引き」で詳細に説明していますので、ここでは、「学則」第 23 条第２項別表第Ⅰおよび別表第Ⅱに定める授業科目（「基礎総合科目」、「専門教育科目」）について説明します。開設する授業科目、必修・選択の別、単位数などはこの別表第Ⅰおよび別表第Ⅱに示されています。卒業するためには、別表第Ⅰおよび別表第Ⅱの教育課程表に従って授業科目を履修し、124 単位以上を修得しなければなりません。履修規程別表Ⅰおよび別表Ⅱでは、学則別表第Ⅰおよび別表第Ⅱの教育課程表を各学年別に整理して揚げていますが、この履修案内では、入学年度別に分けて「授業科目一覧」を揚げています。履修登録時の参考にしてください。

単位計算の基準は次のとおりです。

区分	授業時間	単位
講義・演習	１コマ／週×15 週	２単位
ゼミ・演習	１コマ／週×30 週	４単位
実　　習	１コマ／週×30 週	２単位
（実　　習	１コマ／週×15 週	１単位）
実　　技	１コマ／週×15 週	１単位

１コマの授業時間 90 分を２時間とみなす

※学則第 24 条が定める講義、演習、実験、実習、実技の主な内容はそれぞれ以下の通りです。

・講義とは　学問の方法や成果、また、研究対象などについて、その内容・性質などを説明する授業形式。
・演習・ゼミナール（ゼミ）とは　担当教員の指導のもとで学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした、少人数の授業の形式。
・実験とは　理論や仮説が正しいかどうかを、人為的な操作により実際に確かめてみる授業形式。
・実習とは　講義などで学んだ技術や方法などを実地または実物にあたって学ぶ授業形式。
・実技とは　技術や演技などを実際に行う授業形式。

また、卒業までの年次別修得単位数の目安は次のとおりです。

１年次	２年次	３年次	４年次	合計
40 単位以上	40 単位以上	36 単位以上	8 単位以上	124 単位以上

これは卒業することだけを主眼に置いた目安です。従って大学生にふさわしい広い視野と豊富な知識を身につけるためには、更に多くの科目を履修し単位を修得することが必要です。とりわけ就職活動を有利に進めたり、各分野で経営情報学部の卒業生として活躍したりするためには、３・４年次に専門教育科目を数多く履修することと、必修科目でもあるゼミナール・演習活動に力を注ぐことが重要です。

3.　授業

授業科目は、その授業が行われる時期によって次のように分類されます。

- **前 期 科 目**　　前期開講、前期終了科目
- **後 期 科 目**　　後期開講、後期終了科目
- **通 年 科 目**　　１年間の継続開講科目
- **集中講義科目**　　時期的に集中開講される科目

授業は、「授業時間割」によって行われますが以下の点に注意してください。
やむを得ない事情により開講又は継続ができなくなった授業科目については、開講時期（集中講義を含む）若しくは担当教員等を変更することがあります。
授業科目によっては、あらかじめ受講者数を制限することがあります。
授業時間は、次のとおりです。

１時限目　８時 50 分 ～ 10 時 20 分
２時限目　10 時 30 分 ～ 12 時 00 分
３時限目　12 時 50 分 ～ 14 時 20 分
４時限目　14 時 30 分 ～ 16 時 00 分
５時限目　16 時 10 分 ～ 17 時 40 分

◇交通機関の運休による授業の取扱い

公共交通機関において天候（降雪、台風）等のため運休になった場合、当日の授業は、下記のとおり取り扱われます。

ア.午前 7 時までに運休が解除されたときは、当日の授業は平常どおり行います。

イ.午前 7 時を過ぎ午前 9 時までの間に運休が解除されたときは、午前の授業は休講とし、午後の授業は平常どおり行います。

ウ.午前 9 時を過ぎても運休が解除されないときは、終日休講とします。

エ.西鉄大牟田線・太宰府線以外の私鉄の交通機関において運休になった場合でも、西鉄大牟田線・太宰府線が通常どおり運行されていれば、授業は平常どおり行います。

オ.以上のほか、交通機関が麻痺し、通学不能と本学が認めた場合は休講とします。

◇休講と補講

都合により授業が実施されない場合があります。この場合は、教務課掲示板に休講日時、休講科目、担当教員等を掲示します。また、休講情報はインターネットを利用したサービスも行っています。アドレス等詳細は、教務課掲示版を確認してください。

・インターネット（九州情報大学→在学生の皆様へ→休講情報）

※ ID と Pass は教務課掲示板をご覧ください。

補講は、原則として指定の土曜日および各学期定期試験前に特別に期間を設けて実施しますが、授業によっては、変則な日時で実施することもありますので注意してください。

4.　履修登録

履修登録とは、各授業科目の受講者名簿に、その科目の履修を希望する学生の学籍番号・氏名を登録することです。

授業科目には、必修科目および選択科目があります。各授業科目間には、それぞれつながりのある科目がありますので、選択科目の履修登録にあたっては、オリエンテーションでの話、「講義の概要と授業計画」（シラバス）、授業時間割、卒業要件および卒業単位数等をよく検討し、学習計画をたてた上で選択してください。

履修しようとする授業科目は、年度又は学期の初めの指定された期間に教務課に登録しなければなりません。ただし、万一事故等のため指定された期間に登録できないときは、教務課に相談してください。本学の場合、１年次前期以外は web 上で履修登録を実施しています。学年暦で指定された期間内に履修登録を行ってください。１年次前期については、履修登録用紙を指定された期間内に教務課に提出してください。

履修登録を行わない人は、授業および定期試験を受けることができません。したがって単位の認定もできなくなります。ただし、正当な理由があって指定された期間に手続ができなかった人は、後日各授業担当教員の承認を得て登録できることもありますので必ず申し出てください。

履修登録後、履修科目確認リストまたは Web 上で、各自確認してください。

※履修登録期間・登録方法等詳細は、その都度掲示等でも連絡します。

履修規定より抜粋　＜参考＞

第5条

２　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として 49 単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

5.　定期試験等

◇試験の種類

履修規程第 10 条第 2 項の定めるところにより、本学における試験の種類と実施に関しては次のとおりとします。

・**定期試験**：前期および後期の学期末に、一定期間内で実施される試験をいいます。

・**臨時試験**：授業科目担当教員（以下、「担当教員」といいます。）の判断により、定期試験期間以外に実施される試験をいいます。

・**追 試 験**：正当な理由により、定期試験を受験できなかった人に対して実施される試験をいいます(後述、追試験の項参照)。

・**再 試 験**：定期試験の結果、不合格の判定を受けた人に対して実施される試験をいいます。再試験は担当教員の判断により実施されないときがあります(後述、再試験の項参照)。

◇試験の実施方法

試験は、原則として筆記試験で行われます。授業科目によっては、レポート、実技、口頭試問等で行われます。また、場合によってはオンライン方式による試験をすることもあります。

試験時間割は、試験開始日の 10 日前に掲示で発表します（試験室は試験当日発表）。

試験時間は、原則として 60 分とします。

◇受験資格

次のいずれかに該当する人は、試験を受けることができません。

・試験を受けようとする授業科目の履修登録をしていない者（ただし、なんらかの過失により履修登録が行われておらず、かつ当該受験科目を常時受講していた場合は、担当教員の承認を得て直ちに履修登録を行うことにより、受験できる場合がある。）

・当該学期分の授業料を前納していない者（ただし、事前に延納願を提出し、学長の許可を得た者を除く。）

・休学中又は停学中の者

・受験時に学生証を携帯していない者（ただし、学生課で当日限り有効の仮学生証の交付を受け、これを学生証に代えることができる。仮学生証の発行は試験期間中２回まで。）

・試験開始後 20 分以上遅刻した者

・原則として当該授業の 3 分の 1 以上欠席した者

◇受験前の注意

試験を受けるまでに、次のことを確認してください。

・試験は教室における対面方式かオンライン方式か。
・試験が行われる日時と場所。
・持ち込み（辞書、自筆のノート等）が許可されている試験か否か。
・筆記用具が指定されている試験か否か。
・学生証は有るか。
・受験許可の有無。
・オンライン試験の URL、クラスコード

◇受験時の注意

試験を受けるときは次のことに留意し、監督者の指示に従ってください。

・必ず指定された教室で、指定又は指示された席で受験してください。
・机の中にノート、教科書等を入れないようにしてください。
・学生証は、試験監督の指定する場所に置いてください。
・参考書、辞書、六法全書等の使用が許可されている場合でも、複写（コピー）したものは認められていません。
・特別に許可がある以外、電子辞書の試験場への持込みはできません。
・図書館(すべての図書館)の図書および資料は試験中利用ができません。
・試験中の私語、物品の貸借等はしてはいけません。
・退室は、試験開始から 30 分以降とします。
・答案用紙は、試験監督者の指定する場所に提出し、提出後は速やかに退室してください。
・答案用紙を持ち帰ることは禁止されています。
・試験終了後、答案の回収が終わるまでは、次の時間の人は入室してはいけません。
・試験中に、試験室横の廊下等での立話は、受験中の人に迷惑をかけることになりますので慎んでください。
・試験開始後、当該試験を棄権したい場合は、採点欄に「キケン」と記入してください。この場合当該科目の単位を放棄したものとします。従って追・再試験を受験することはできません。
・オンライン試験においても、担当教員および教務課の指示に従ってください。

◇レポート

レポートは、担当教員から指示された方式、提出期日等を守って提出してください。なお、郵便および代理人による提出は認められません。

レポート用紙は、Ａ４の大きさで提出してください。ただし、担当教員から別途指示があるときはこの限りではありません。

レポートには授業科目名・題名・学籍番号・氏名を明記した表紙をつけ、ホッチキス等で留めて提出してください。

提出先は、原則として担当教員までとします。なおレポートの受け渡しにあたって、電子メールやインターネット（Google クラスルーム等）を利用することもありますので、メールアドレス、URL、クラスコード等を確認しておいてください。

◇不正行為

試験中に不正行為を行った場合、原則として即時受験停止とします。

不正行為は、学則第 41 条に基づいて懲戒の対象となります。

不正行為は、履修規程第 13 条に基づき当該学期の全受験科目が 0 点となります。

◇試験結果の発表

試験の結果については、定期試験終了後、学内に掲示で発表します。学内掲示には次のように表示されます。

表示	○	×	欠席
内容	（合格）	（不合格）	（欠席または棄権した場合）

追・再試験終了後（各学期成績確定後）「成績通知書」を次のように配布します。「成績通知書」は、秀、優、良、可で表示されます。

教務課 → ゼミまたはクラス担任 ⇒ 学生個人へ
教務課 → 保護者（郵送）

6. 追試験

正当な理由で定期試験を受験できなかった授業科目については、追試験を受けることができます。

追試験を受けようとする人は、定期試験の最終日から７日以内に、理由を明記した欠席届とその証明書を教務課に提出しなければなりません。

追試験を受験できる理由と提出する証明書等の事例は、次のとおりです。

・本人の病気または怪我（医師の診断書）
・二親等以内（父母兄弟など）の危篤または死亡（医師の診断書または会葬礼状等）
・就職試験の受験（受験証明書）
・天候不順や事故等による交通機関の乱れ（遅延証明書）
・天災等の非常災害（証明できるもの）
・その他やむを得ないと判断されたとき（証明できるもの）

追試験は、最高 90 点（学則年度 219 までは 80 点）で評価されます。

◇追試験の申込み

追試験を受けようとする人は、指定された期間に「追・再試験受験願書」を教務課に提出してください。

追試験を申込むときは、１授業科目につき 1,500 円の試験料が必要です。

7. 再試験

試験の結果、不合格となった授業科目（成績発表時に「×」で表示）については、再試験を受けることができます。ただし、再試験が行われない科目もありますので注意してください。また、本試験を棄権した場合も再試験の受験はできません。

再試験は、最高 60 点で評価されます。

◇再試験の申込み

再試験を受けようとする人は、指定された期間に「追・再試験受験願書」を教務課に提出してください。

再試験を申込むときは、１授業科目につき 1,500 円の試験料が必要です。

8.　再履修

不合格となった授業科目は、次年度に再度履修（以下、「再履修」という）することができます。

当該年度に再履修しようとする授業科目が開講されなかったときや廃止されたときは、指定された代替科目を履修してください。

◇必修科目の再履修について

在籍学年に再履修クラスが設けられているときは、再履修クラスで登録してください。在籍学年の必修科目と再履修科目の時間が重複しているときは、教務課に相談してください。

◇選択科目の再履修について

選択科目の再履修は、必修科目の再履修と同じ方法で時間割を組むか、卒業単位等をよく検討して別の科目を選択することもできます。

9.　成績の評価

授業科目の成績は、次の基準により評価され、学則第 27 条により、秀、優、良、可、が合格、不可が不合格となります。

秀	100 点～90 点
優	89 点～80 点
良	79 点～70 点
可	69 点～60 点
不可	59 点～ 0 点

合格した科目は、単位が認定され、「成績証明書」には、秀、優、良、可で表示されます。ただし、不合格となった科目については単位が認定されず、同証明書には、何の表示もされません。

入学前に修得した科目が本学の授業科目に振り替えられた場合、資格が単位として認定された場合は、その表示は「認」で表示されます。

※本学では、提出された成績評価を GPA で計算する場合があります。

GPA（Grade Point Average）とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことです。

一般的に試験の成績 100～90 を 4 点、89～80 を 3 点、79～70 を 2 点、69～60 を 1 点、59 以下を 0 点換算し、各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数（履修登録単位の総数）で求めます。

10.　単位の認定

授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与えます。

合格した授業科目の再履修、再受験、取消はできません。

11.　卒業延期、退学勧告

授業科目の内容を理解するには、少なくともその総授業時間の 3 分の 2 以上出席していることが望まれます。出席状況が悪いと授業内容がわからなくなり勉学の意欲が薄れ、定期試験の受験資格を得られなかったり、若しくは、合格率が悪くなり、卒業延期（留年）や退学等の原因ともなりますので注意してください。

【学則年度　２２０～】

履修規程第 8 条に基づき、3 年次の必修科目である専門ゼミⅠまたは経営学専門演習Ⅰ・情報学専門演習Ⅰを履修登録するためには、2 年次の必修科目である**基礎ゼミまたは経営学基礎演習･情報学基礎演習の単位を修得している必要があります。もし単位が取れなかった場合、3 年次で基礎ゼミまたは経営学基礎演習・情報学基礎演習と専門ゼミⅠまたは経営学専門演習Ⅰ・情報学専門演習Ⅰを同時履修することはできません。つまり 4 年間で卒業することができなくなります。**

同じように 3 年次で専門ゼミⅠまたは経営学専門演習Ⅰ・情報学専門演習Ⅰの単位を修得することができなかった場合、4 年次になって必修科目である**専門ゼミⅡまたは経営学専門演習Ⅱ・情報学専門演習Ⅱと同時に履修することもできないので 4 年間で卒業することができなくなります。**

なお履修規程第 22 条の 2 第 5 項により、専門ゼミⅠ及び専門ゼミⅡの履修にあたり累積 GPA が 1.00 未満の者は履修登録することができません。

【学則年度　２１９】

履修規程第 8 条に基づき、3 年次の必修科目である専門ゼミⅠを履修登録するためには、二年次の必修科目である**基礎ゼミの単位を修得している必要があります。もし単位が取れなかった場合、3 年次で基礎ゼミと専門ゼミⅠを同時履修することはできません。つまり 4 年間で卒業することができなくなります。**

同じように 3 年次で専門ゼミⅠの単位を修得することができなかった場合、4 年次になって必修科目である**専門ゼミⅡと同時に履修することもできないので 4 年間で卒業することができなくなります。**

【学則年度　２１４～】

履修規程第 8 条に基づき、3 年次の必修科目である専門ゼミⅠまたは経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰを履修登録するためには、2 年次の必修科目である**基礎ゼミまたは経営学基礎演習・情報学基礎演習の単位を修得している必要があります。もし単位が取れなかった場合、3 年次で基礎ゼミまたは経営学基礎演習・情報学基礎演習と専門ゼミⅠまたは経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰを同時履修することはできません。つまり 4 年間で卒業することができなくなります。**

同じように 3 年次で専門ゼミⅠまたは経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰの単位を修得することができなかった場合、4 年次になって必修科目である**専門ゼミⅡまたは経営学演習Ⅱ・情報学演習Ⅱと同時に履修することもできないので 4 年間で卒業することができなくなります。**

なお履修規程第 22 条の 2 第 5 項により、専門ゼミⅠ及び専門ゼミⅡの履修にあたり累積 GPA が 1.00 未満の者は履修登録することができません。

各学年の授業科目をできるだけ多く受講し、確実に単位を修得してください。なお、3 年

生までの成績は「成績証明書」として就職試験時の参考資料にもなりますし、修得単位数によっては「卒業見込証明書」が発行されず、就職活動ができません。
＊「卒業見込証明書」は、4 年生以上で履修登録をした科目を修得すれば、卒業要件を満たす場合に発行されます。
　４年終了までに、卒業要件である 124 単位以上の単位を修得できないとき、又は必修科目を１科目でも修得できないときは、卒業延期（留年）となります。

　正当な理由がなく、各学年において修得単位が著しく少ない人には、担任教員や教務課から指導が行われることがあります。
　また履修規程第 22 条の 2 第 6 項（1）に基づき、2 学期連続して GPA が 1.00 未満の者については、学生部長及び教務部長が勧告・指導・助言を行います。さらに 3 学期連続して GPA が 1.00 未満の者については、履修規程第 22 条の 2 第 6 項（2）に基づき、学部長が退学を勧告します。

※9 月卒業について
4 年以上在学した者で次の要件を満たす場合は、9 月（前期）に卒業することができます。
（1）前期科目を修得することによって卒業要件を満たす場合

12.　入学年度別授業科目一覧

　履修規程の別表Ⅰ・Ⅱでは、学則別表第Ⅰ・Ⅱの教育課程表を各学年別に整理して揚げています。履修登録時の参考にしてください。

GPA（Grade Point Average）制度について

GPA（Grade Point Average）とは

九州情報大学では、2017 年度から GPA 制度を導入しました（2017 年度以降入学生のみ対象）。GPA 制度の評価方法は、科目の成績評価にグレード・ポイント(GP)を付与することにより、1 単位あたりの成績の平均値を示すものです。

(1) 成績評価基準とグレード・ポイント（GP）

点数	評価	合否	GP	
100-90	秀	合格（単位修得）	4	GPA＜成績評価を受けた科目の単位＞（分母）の対象
89-80	優		3	
79-70	良		2	
69-60	可		1	
59-0	不可	不合格	0	
棄権・欠席	-		0	
認定	認	認定(合格)	GPA の計算対象外	

※認定：編入学および資格取得における単位認定科目

(2) GPA の算出式

$$\text{GPA} = \frac{\text{【 成績評価を受けた科目の単位数 × 科目の GP 】 の 合計}}{\text{【 成績評価を受けた科目の単位数 】 の合計}}$$

(3) GPA の確認方法

・成績通知書：通算 GPA が表示されます。

・Campus Plan：成績状況参照の「GPA 欄」にて各学期・各年度の GPA を確認することができます。

(4) GPA の目安

GPA の値	評価の平均値	学修・生活面の状態
4.0～3.0	優評価を平均的に修得	非常に優秀です。問題はありません。
2.9～2.0	優評価～良評価を平均的に修得	問題はありませんが、セメスターごとに下がってきている場合は注意が必要です。
1.9～1.0	良評価～可評価を平均的に修得	ぎりぎり合格しているレベルです。今後の学修姿勢に注意が必要です。
0.9～	不合格の割合が多い	学修状況や生活面での見直しが必要です。

以上

社会福祉主事

(1) 取得できる資格について

社会福祉主事とは、福祉事務所現業員（老人福祉指導主事、母子相談員等）として任用される者に要求される資格です。また、社会福祉施設の職員等（施設長、生活指導員等）の資格にも準用されています。

社会福祉各法に定める援護又は更生の措置に関する事務を行うために、福祉事務所には必置義務があります。（福祉事務所のない町村には任意設置）

「社会福祉主事」の任用資格は、卒業までに(2)に記載の授業科目のうち３科目分の単位を取得すると得ることができます。

同資格の取得を希望する者は、取得に必要な講義の履修登録に留意すること。

社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおり。

行政	福祉事務所	現業員、査察指導員、老人福祉指導主事、母子相談員、家庭児童福祉主事[児童福祉事業主事２年以上等]、家庭相談員[児童福祉事業従事２年以上等]
	各種相談所	知的障害者福祉司[知的障害者福祉事業従事２年以上等]、身体障害者福祉司[身体障害者福祉事業従事２年以上等]
		児童福祉司[児童福祉事業従事２年以上等]
社会福祉施設		施設長、生活指導員　等

※ [　]内は、社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

(2) 修得すべき授業科目について

授業科目名	配当年次	H31(2019)以降入学	H24(2012)～H30(2018)入学
法学	1 年	法学	法学
民法	2 年	民事法	民法Ⅰ・民法Ⅱ
経済学	1 年	経済学	経済学Ⅰ・経済学Ⅱ
社会学	1 年	社会学	社会学Ⅰ・社会学Ⅱ
心理学	1 年	心理学	心理学Ⅰ・心理学Ⅱ
資格取得に必要な科目数		上記科目のうち３科目	

※ 2012 年度以降入学者適用

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　経営情報学科

【学籍番号】
214～218台
216～220編入

○卒業要件
必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数　　**※必修16単位を含み、34単位以上修得**

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合」の分野から＊を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊を含み6単位以上修得
（注4）「演習」の分野から＊を含み16単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）（前)は前期開講、（後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合	人文科学	＊　建学の精神と人生（前）	2						
			宗教と人生（後）	2						
			＊　情報倫理（後）	2						
			心理学Ⅰ（前）	2						
			心理学Ⅱ（後）	2						
			文学（前）	2						
			日本文化論（後）	2						
			芸術論Ⅰ（前）	2						
			芸術論Ⅱ（後）	2						
			基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝ（後）	2						
			☆　日本事情A（前）	2						
		社会科学	法学（前）	2	民法Ⅰ（契約総論）（前）	2				
			日本国憲法（後）	2	民法Ⅱ（契約各論・不法行為）（後）	2				
			社会学Ⅰ（前）	2						
			社会学Ⅱ（後）	2						
			政治学Ⅰ（前）	2						
			政治学Ⅱ（後）	2						
			経済学Ⅰ（前）	2						
			経済学Ⅱ（後）	2						
			☆　日本事情B（後）	2						
		自然科学	基礎数学（前）	2						
			統計学（後）	2						
		スポーツ科学	ｳｪﾙﾈｽ（前）	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論（前）	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ（後）	1	ｳｪﾙﾈｽ理論（後）	2				
	語学	英語	英会話BasicⅠ（前）	2	英会話AdvancedⅠ（前）	2				
			英会話BasicⅡ（後）	2	英会話AdvancedⅡ（後）	2				
			＊　総合英語（前）	2	英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ（前）	2				
			英検中級・TOEIC基礎（後）	2	英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ（後）	2				
		中国語	入門中国語（前）	2	中級中国語（前）	2				
			初級中国語（後）	2						
		韓国語	入門韓国語（前）	2	中級韓国語（前）	2				
			初級韓国語（後）	2	上級韓国語（後）	2				
		日本語	☆　日本語Ⅰ（前）	2						
			☆　日本語Ⅱ（後）	2						
			☆　日本語Ⅲ（前）	2						
			☆　日本語Ⅳ（後）	2						
		特別講義	特別講義（語学）　2～4							
	演習	基礎	＊　大学基礎総合Ⅰ（前）	2	＊　ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ（前）	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ（前）	2		
			大学基礎総合Ⅱ（後）	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ（後）	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ（後）	2		
			＊　情報ﾘﾃﾗｼｰ演習Ⅰ（前）	2						
			情報ﾘﾃﾗｼｰ演習Ⅱ（後）	2						
			＊　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ（前）	2						
			＊　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ（後）	2						

専門教育科目の開講時期と単位数　　**※必修26単位を含み、90単位以上修得**

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「Ⅰ類（経営・会計・社会と経済）」、「演習」の分野から必修科目を含み64単位以上修得
（注3）「Ⅱ類（情報）」の分野から必修科目を含み26単位以上修得
（注4）（前)は前期開講、（後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋＜参考＞
第8条　専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰは、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習
を修得した者でなければ履修登録できない。
ただし、編入学生については、これを適用しない。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	Ⅰ類（経営・会計・社会と経済）	経営	＊　経営学入門（前）	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務Ⅰ（前）	2			国際経営論（前）	2
			＊　経営学総論（後）	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務Ⅱ（後）	2			財務管理論Ⅰ（前）	2
					経営統計（後）	2			財務管理論Ⅱ（後）	2
					労務管理論（前）	2			生産管理論（後）	2
		マーケティング・流通	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論（前）	2					ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ（前）	2
			消費者行動論（後）	2					Webｻｰﾋﾞｽ論（後）	2
			初級小売商業Ⅰ（前）	2	中級小売商業Ⅰ（前）	2			上級小売商業Ⅰ（前）	2
			初級小売商業Ⅱ（後）	2	中級小売商業Ⅱ（後）	2			上級小売商業Ⅱ（後）	2
		ベンチャー	ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門（前）	2	経営戦略論（前）	2			ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ（前）	2
			ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論（後）	2	中小企業論（後）	2				
		会計	簿記Ⅰ（前）	2	中級簿記Ⅰ（前）	2			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計Ⅰ（前）	2
			簿記Ⅱ（後）	2	中級簿記Ⅱ（後）	2			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計Ⅱ（後）	2
			＊　会計学入門（前）	2	財務会計論Ⅰ（前）	2			経営分析（前）	2
			＊　会計学総論（後）	2	財務会計論Ⅱ（後）	2			監査論（後）	2
					税務会計論Ⅰ（前）	2			原価計算論（前）	2
					税務会計論Ⅱ（後）	2			管理会計論Ⅰ（前）	2
									管理会計論Ⅱ（後）	2
		社会・法律			税法学入門（前）	2			知的所有権（前）	2
					税法学総論（後）	2			国際政治学（前）	2
					組織心理学（前）	2			ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ（前）	2
					会社法（前）	2			ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ（後）	2
					商法（後）	2	職業指導（通年）	4		
		経済			地域経済論（前）	2			国際経済論（後）	2
					金融論（後）	2				
		特別講義	特別講義（経営）　2～4							
			特別講義（会計）　2～4							
	Ⅱ類（情報）	情報専門基礎	＊　情報学入門（前）	2	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論（前）	2				
			＊　情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ（前）	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習Ⅰ（通年）	2				
			情報数学（後）	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習Ⅱ（通年）	2				
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門（後）	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ（前）	2			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論（前）	2
			初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習（後）	2					中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習（前）	2
		情報システム	ﾈｯﾄﾜｰｸ情報システム入門（後）	2	計算機システム論（前）	2			情報システムの開発と管理（前）	2
					ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造（後）	2				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習（通年）	2				
					ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論（前）	2				
					経営情報論Ⅰ（前）	2				
					経営情報論Ⅱ（後）	2				
		ビジネスネット			Webﾃﾞｻﾞｲﾝ（後）	2			Webｼｽﾃﾑ（前）	2
									ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ（後）	2
		ネットワーク情報	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門（後）	2					＊　情報ｾｷｭﾘﾃｨ（後）	2
									ﾈｯﾄﾜｰｸ演習（前）	2
		情報専門応用			ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学（前）	2			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論（前）	2
					ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ（後）	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論（前）	2
									計測・制御論（前）	2
		特別講義	特別講義（情報）　2～4							
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ（前）	2	＊　基礎ｾﾞﾐ（通年）	4	＊　専門ｾﾞﾐⅠ（通年）	4	＊　専門ｾﾞﾐⅡ（通年）	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ（後）	2	経営学基礎演習（通年）		経営学演習Ⅰ（通年）		経営学演習Ⅱ（通年）	

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　情報ネットワーク学科

【学籍番号】
214～218台
216～220編入

○卒業要件
必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数　　**※必修16単位を含み、34単位以上修得**

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合」の分野から＊を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊を含み6単位以上修得
（注4）「演習」の分野から＊を含み16単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）（前）は前期開講、（後）は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教と人生 (後)	2						
			＊ 情報倫理 (後)	2						
			心理学Ⅰ (前)	2						
			心理学Ⅱ (後)	2						
			文学 (前)	2						
			日本文化論 (後)	2						
			芸術論Ⅰ (前)	2						
			芸術論Ⅱ (後)	2						
			基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝ (後)	2						
			☆ 日本事情A (前)	2						
		社会科学	法学 (前)	2	民法Ⅰ(契約総論) (前)	2				
			日本国憲法 (後)	2	民法Ⅱ(契約各論・不法行為) (後)	2				
			社会学Ⅰ (前)	2						
			社会学Ⅱ (後)	2						
			政治学Ⅰ (前)	2						
			政治学Ⅱ (後)	2						
			経済学Ⅰ (前)	2						
			経済学Ⅱ (後)	2						
			☆ 日本事情B (後)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
			統計学 (後)	2						
		ｽﾎﾟｰﾂ科学	ｳｪﾙﾈｽ (前)	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論 (前)	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ (後)	1	ｳｪﾙﾈｽ理論 (後)	2				
	語学	英語	英会話BasicⅠ (前)	2	英会話AdvancedⅠ (前)	2				
			英会話BasicⅡ (後)	2	英会話AdvancedⅡ (後)	2				
			＊ 総合英語 (前)	2	英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ (前)	2				
			英検中級・TOEIC基礎 (後)	2	英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ (後)	2				
		中国語	入門中国語 (前)	2						
			初級中国語 (後)	2						
		韓国語	入門韓国語 (前)	2	中級韓国語 (前)	2				
			初級韓国語 (後)	2	上級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2						
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2						
			☆ 日本語Ⅲ (前)	2						
			☆ 日本語Ⅳ (後)	2						
		特別講義	特別講義(語学) 2～4							
	演習	基礎	＊ 大学基礎総合Ⅰ (前)	2	＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ (前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ (前)	2		
			大学基礎総合Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ (後)	2		
			＊ 情報ﾘﾃﾗｼｰ演習Ⅰ (前)	2						
			情報ﾘﾃﾗｼｰ演習Ⅱ (後)	2						
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ (前)	2						
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ (後)	2						

専門教育科目の開講時期と単位数　　**※必修26単位を含み、90単位以上修得**

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「Ⅰ類(情報)」、「演習」の分野から必修科目を含み64単位以上修得
（注3）「Ⅱ類(経営・会計・社会と経済)」の分野から必修科目を含み26単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋＜参考＞
第8条　専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰは、原則として
その履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習
を修得した者でなければ履修登録できない。
　ただし、編入学生については、これを適用しない。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	Ⅰ類(情報)	情報専門基礎	＊ 情報学入門 (前)	2	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論 (前)	2				
			＊ 情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習Ⅰ (通年)	2				
			情報数学 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習Ⅱ (通年)	2				
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	＊ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ (前)	2	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 (前)	2		
			初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2			中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (前)	2		
		情報システム	ﾈｯﾄﾜｰｸ情報システム入門 (後)	2	計算機システム論 (前)	2	情報ｼｽﾃﾑの開発と管理 (前)	2		
					ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (後)	2	情報ｼｽﾃﾑ設計 (後)	2		
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習 (通年)	2				
					ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2				
					経営情報論Ⅰ (前)	2				
					経営情報論Ⅱ (後)	2				
		ﾋﾞｼﾞﾈｽﾈｯﾄ			Webﾃﾞｻﾞｲﾝ (後)	2	Webｼｽﾃﾑ (前)	2		
							ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築 (前)	4		
							ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ (後)	2		
		ネットワーク情報	＊ 情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2	ﾈｯﾄﾜｰｸ基礎 (前)	6	ｲﾝﾄﾗﾈｯﾄ技術 (前)	6		
					ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術 (後)	6	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術 (後)	6		
							ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ (前)	2		
							＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (後)	2		
							ﾈｯﾄﾜｰｸ演習 (前)	2		
		情報専門応用			ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論 (前)	2		
					ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ (後)	2	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
							計測・制御論 (前)	2		
		特別講義	特別講義(情報) 2～4							
	Ⅱ類(経営・会計・社会と経済)	経営	＊ 経営学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務Ⅰ (前)	2	財務管理論Ⅰ (前)	2		
			経営学総論 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務Ⅱ (後)	2	生産管理論 (後)	2		
					経営統計 (後)	2				
					労務管理論 (前)	2				
		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・戦略	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2			Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2		
			消費者行動論 (後)	2						
			初級小売商業Ⅰ (前)	2	中級小売商業Ⅰ (前)	2				
			初級小売商業Ⅱ (後)	2	中級小売商業Ⅱ (後)	2				
		ﾍﾞﾝﾁｬｰ	ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論 (後)	2	経営戦略論 (前)	2				
					中小企業論 (後)	2				
		会計	簿記Ⅰ (前)	2	中級簿記Ⅰ (前)	2	経営分析 (前)	2		
			簿記Ⅱ (後)	2	中級簿記Ⅱ (後)	2	原価計算論 (前)	2		
			＊ 会計学入門 (前)	2	財務会計論Ⅰ (前)	2	管理会計論Ⅰ (前)	2		
			会計学総論 (後)	2	財務会計論Ⅱ (後)	2	管理会計論Ⅱ (後)	2		
					税務会計論Ⅰ (前)	2				
					税務会計論Ⅱ (後)	2				
		社会・法律			組織心理学 (前)	2	知的所有権 (前)	2		
					会社法 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ (前)	2		
					商法 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ (後)	2		
							職業指導 (通年) 4			
		経済			金融論 (後)	2				
		特別講義	特別講義(経営) 2～4							
			特別講義(会計) 2～4							
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ (前)	2	＊ 基礎ｾﾞﾐ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅡ (通年)	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ (後)	2	情報学基礎演習 (通年)		情報学演習Ⅰ (通年)		情報学演習Ⅱ (通年)	

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　経営情報学科

【学籍番号】
219
221編入

○卒業要件
必修科目43単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数　※必修15単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修・選択必修)3単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
　2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教学 (後)	2						
			心理学 (前)	2						
			文学 (前)	2						
			哲学 (後)	2						
			日本文化論 (後)	2						
		社会科学	法学 (前)	2						
			日本国憲法 (後)	2						
			社会学 (後)	2						
			政治学 (前)	2						
			経済学 (前)	2						
			☆ 日本事情 (前)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
			地球と環境 (後)	2						
		スポーツ科学			*1内選択必修 スポーツ実技Ⅰ (前)	1*				
					スポーツ実技Ⅱ (後)	1*				
					ウエルネス理論 (前)	2				
	語学	英語	＊ 総合英語 (前)	2	英会話AdvancedⅠ (前)	2				
			英会話BasicⅠ (前)	2	英会話AdvancedⅡ (後)	2				
			英会話BasicⅡ (後)	2						
		中国語			初級中国語 (前)	2				
					中級中国語 (後)	2				
		韓国語			初級韓国語 (前)	2				
					中級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2	☆ 日本語Ⅲ (前)	2				
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2	☆ 日本語Ⅳ (後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊ 情報リテラシー演習 (前)	2	文章表現Ⅰ (前)	2				
			＊ コミュニケーションと自己発見Ⅰ (前)	2	文章表現Ⅱ (後)	2				
			＊ コミュニケーションと自己発見Ⅱ (後)	2						
		キャリア開発			＊ キャリアデザイン入門Ⅰ (前)	2	キャリアデザインⅠ (前)	2		
					＊ キャリアデザイン入門Ⅱ (後)	2	キャリアデザインⅡ (後)	2		
	特別講義	特別講義(基礎)	特別講義「語学」	1～4						
			特別講義「実践力養成」	1～4						
			特別講義「キャリア」	1～4						

専門教育科目の開講時期と単位数　※必修28単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目10単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

大分類	中分類	小分類	1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	経営・会計	＊ 経営学総論Ⅰ (前)	2	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2				
			会計学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務 (前)	2				
			＊ 初級簿記 (前)	2	民事法 (前)	2				
			＊ 簿記演習 (後)	2	経営情報論Ⅰ (前)	2				
			＊ 情報倫理 (後)	2						
		情報	情報学入門 (前)	2	統計学入門 (前)	2	＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (前)	2		
			情報数学Ⅰ (後)	2			情報ｼｽﾃﾑの開発と管理 (前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習 (後)	4						
	専門発展	経営・会計	＊ ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2	企業金融 (前)	2	組織心理学 (前)	2		
			ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門 (後)	2	ｺﾏｰｽ論Ⅰ (前)	2	知的所有権 (前)	2		
			＊ 経営学総論Ⅱ (後)	2	日本経営史 (前)	2	労務管理論 (前)	2		
					経営分析 (前)	2	経営思想 (前)	2		
					＊ 会計学 (後)	2				
					統計学 (後)	2				
					経営組織論 (後)	2				
		情報	計算機ｼｽﾃﾑ論 (後)	2			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 (前)	2		
			情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ (前)	2			中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2		
					ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (前)	2	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論 (前)	2		
					ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2	計測・制御論 (後)	2		
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門 (前)	2				
					初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2				
					ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ (後)	2				
	専門応用	会計			中級簿記演習Ⅰ (前)	2	税務会計論 (前)	2		
					中級簿記演習Ⅱ (後)	2	税法学 (後)	2		
					原価計算論Ⅰ (前)	2				
					原価計算論Ⅱ (後)	2				
					財務会計論 (前)	2				
					財務管理 (後)	2				
					会社法 (前)	2				
					監査論 (後)	2				
					ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計 (前)	2				
		経営	経営戦略論 (前)	2	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾆﾝｸﾞ (後)	2		
			消費者行動論 (後)	2	Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2	事業承継論 (前)	2		
					SNS活用と問題解決 (前)	2	計量経済分析 (後)	2		
					ｺﾏｰｽ論Ⅱ (後)	2				
					経営情報論Ⅱ (後)	2				
					ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論 (後)	2				
					中小企業論 (前)	2				
		国際ビジネス			国際経営論 (後)	2	国際経済論 (前)	2		
					国際情報分析 (後)	2	国際政治学 (前)	2		
					国際金融論 (後)	2				
					ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ (前)	2				
					ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ (後)	2				
					TOEICⅠ (前)	2				
					TOEICⅡ (後)	2				
					国際地域文化論 (前)	2				
	演習	ｾﾐｰﾙ基礎			＊ 基礎ｾﾐ (通年)	4				
		ｾﾐｰﾙ専門					＊ 専門ｾﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾐⅡ (通年)	4
	特別講義	特別専門講義	特別講義「経営」	1～4						
			特別講義「会計」	1～4						
			特別講義「情報」	1～4						

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　情報ネットワーク学科

【学籍番号】
219
221編入

○卒業要件
必修科目43単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数　　※必修15単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修・選択必修)3単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教学 (後)	2						
			心理学 (前)	2						
			文学 (前)	2						
			哲学 (後)	2						
			日本文化論 (後)	2						
		社会科学	法学 (前)	2						
			日本国憲法 (後)	2						
			社会学 (後)	2						
			政治学 (前)	2						
			経済学 (前)	2						
			☆ 日本事情 (前)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
			地球と環境 (後)	2						
		スポーツ科学			*1内選択必修 スポーツ実技Ⅰ (前)	1*				
					スポーツ実技Ⅱ (後)	1*				
					ウエルネス理論 (前)	2				
	語学	英語	＊ 総合英語 (前)	2	英会話Advanced Ⅰ (前)	2				
			英会話Basic Ⅰ (前)	2	英会話Advanced Ⅱ (後)	2				
			英会話Basic Ⅱ (後)	2						
		中国語			初級中国語 (前)	2				
					中級中国語 (後)	2				
		韓国語			初級韓国語 (前)	2				
					中級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2	☆ 日本語Ⅲ (前)	2				
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2	☆ 日本語Ⅳ (後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊ 情報ﾘﾃﾗｼｰ演習 (前)	2	文章表現Ⅰ (前)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ (前)	2	文章表現Ⅱ (後)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ (後)	2						
		キャリア開発			＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ (前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ (前)	2		
					＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ (後)	2		
	特別講義	特別基礎講義	特別講義「語学」	1～4						
			特別講義「実践力養成」	1～4						
			特別講義「ｷｬﾘｱ」	1～4						

専門教育科目の開講時期と単位数　　※必修28単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目10単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

大分類	中分類	小分類	1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	情報	情報学入門 (前)	2	統計学入門 (前)	2	＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (前)	2		
			情報数学Ⅰ (後)	2			情報システムの開発と管理 (前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習 (後)	4						
		経営・会計	＊ 経営学総論Ⅰ (前)	2	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2				
			会計学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務 (前)	2				
			＊ 初級簿記 (前)	2	民事法 (前)	2				
			＊ 簿記演習 (後)	2	経営情報論Ⅰ (前)	2				
			＊ 情報倫理 (後)	2						
	専門発展	情報	計算機ｼｽﾃﾑ論 (後)	2	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (前)	2	計測・制御論 (後)	2		
			＊ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ (前)	2	情報数学Ⅱ (前)	2	ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ (前)	2		
			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ (後)	2	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2				
					ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論 (後)	2				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ (前)	4				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ (後)	4				
					＊ 情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ (前)	4				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ (後)	4				
	専門応用	ネットワーク	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ (後)	2	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ (前)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ (前)	2		
					Webﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ Ⅰ (後)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ (後)	2		
					ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術 (前)	2	ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築 (通年)	4		
					ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術 (後)	2	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術 (前)	2		
					SNS活用と問題解決 (前)	2				
					Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2				
		データサイエンス	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2	統計学 (後)	2	多変量解析 (前)	2		
			消費者行動論 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ (前)	2	ﾃﾞｰﾀ解析 (前)	2		
					ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ (前)	2	ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ (後)	2		
					経営分析 (前)	2	統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ (後)	2		
					会計学 (後)	2	機械学習 (前)	2		
							人工知能 (後)	2		
							計量経済分析 (後)	2		
	演習	ｾﾐﾅｰﾙ基礎			＊ 基礎ｾﾞﾐ (通年)	4				
		ｾﾐﾅｰﾙ専門					＊ 専門ｾﾞﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅡ (通年)	4
	特別講義	特別専門講義	特別講義「経営」	1～4						
			特別講義「会計」	1～4						
			特別講義「情報」	1～4						

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　経営情報学科

【学籍番号】
220
222編入

○卒業要件
必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

別表Ⅰ－Ⅰ基礎総合科目の開講時期と単位数　※必修16単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修)4単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
　2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教学 (後)	2						
			心理学 (前)	2						
			文学 (前)	2						
			哲学 (後)	2						
			日本文化論 (後)	2						
			＊ 情報倫理 (後)	2						
		社会科学	法学 (前)	2						
			日本国憲法 (後)	2						
			社会学 (後)	2						
			政治学 (前)	2						
			経済学 (前)	2						
			☆ 日本事情 (前)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
		スポーツ科学	ｳｪﾙﾈｽ (前)	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論 (前)	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ (後)	1	ｳｪﾙﾈｽ理論 (後)	2				
	語学	英語	＊ 総合英語 (前)	2	英会話Advanced Ⅰ (前)	2				
			英会話Basic Ⅰ (前)	2	英会話Advanced Ⅱ (後)	2				
			英会話Basic Ⅱ (後)	2						
		中国語			初級中国語 (前)	2				
					中級中国語 (後)	2				
		韓国語			初級韓国語 (前)	2				
					中級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2	☆ 日本語Ⅲ (前)	2				
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2	☆ 日本語Ⅳ (後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊ 情報ﾘﾃﾗｼｰ演習 (前)	2	文章表現Ⅰ (前)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ (前)	2	文章表現Ⅱ (後)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ (後)	2						
		キャリア開発			＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ (前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ Ⅰ (前)	2		
					＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ Ⅱ (後)	2		
	特別講義	特別基礎講義	特別講義「語学」	1～4						
			特別講義「実践力養成」	1～4						
			特別講義「ｷｬﾘｱ」	1～4						

別表Ⅰ－Ⅱ専門教育科目の開講時期と単位数　※必修26単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
大分類	中分類	小分類	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	経営・会計	＊ 経営学総論Ⅰ (前)	2	ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2				
			会計学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務 (前)	2				
			＊ 初級簿記 (前)	2	民事法 (前)	2				
			＊ 簿記演習 (後)	2	経営情報論Ⅰ (前)	2				
		情報	情報学入門 (前)	2	統計学入門 (前)	2	＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (前)	2		
			情報数学Ⅰ (後)	2			情報ｼｽﾃﾑの開発と管理 (前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習 (後)	4						
	専門発展	経営・会計	＊ ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2	企業金融 (前)	2	組織心理学 (前)	2		
			ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門 (後)	2	ｺﾏｰｽ論Ⅰ (前)	2	知的所有権 (前)	2		
			＊ 経営学総論Ⅱ (後)	2	日本経営史 (前)	2	労務管理論 (前)	2		
					経営分析 (前)	2	経営思想 (前)	2		
					＊ 会計学 (後)	2				
					統計学 (後)	2				
					経営組織論 (後)	2				
		情報	計算機ｼｽﾃﾑ論 (後)	2			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 (前)	2		
			情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ (前)	2			中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2		
					ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (前)	2	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論 (前)	2		
					ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2	計測・制御論 (後)	2		
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ (前)	4				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ (後)	4				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門 (前)	2				
					初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2				
					ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ (後)	2				
	専門応用	会計			中級簿記演習Ⅰ (前)	2	税務会計論 (前)	2		
					中級簿記演習Ⅱ (後)	2	税法学 (後)	2		
					原価計算論Ⅰ (前)	2				
					原価計算論Ⅱ (後)	2				
					財務会計論 (前)	2				
					財務管理 (後)	2				
					会社法 (前)	2				
					監査論 (後)	2				
					ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計 (前)	2				
		経営	経営戦略論 (前)	2	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾆﾝｸﾞ (後)	2		
			消費者行動論 (後)	2	Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2	計量経済分析 (後)	2		
					SNS活用と問題解決 (前)	2				
					ｺﾏｰｽ論Ⅱ (後)	2				
					経営情報論Ⅱ (後)	2				
					ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論 (後)	2				
					中小企業論 (前)	2				
		国際ビジネス			国際経営論 (後)	2	国際経済論 (前)	2		
					国際情報分析 (後)	2	国際政治学 (前)	2		
					ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ (前)	2				
					ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ (後)	2				
					TOEICⅠ (前)	2				
					TOEICⅡ (後)	2				
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ (前)	2	＊ 基礎ｾﾞﾐ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅡ (通年)	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ (後)	2	経営学基礎演習 (通年)		経営学専門演習Ⅰ (通年)		経営学専門演習Ⅰ (通年)	
	特別講義	特別専門講義	特別講義「経営」	1～4						
			特別講義「会計」	1～4						
			特別講義「情報」	1～4						

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　情報ネットワーク学科

【学籍番号】
220
222編入

○卒業要件
必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

別表Ⅱ－Ⅰ基礎総合科目の開講時期と単位数　※必修16単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修)4単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
　2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教学 (後)	2						
			心理学 (前)	2						
			文学 (前)	2						
			哲学 (後)	2						
			日本文化論 (後)	2						
			＊ 情報倫理 (後)	2						
		社会科学	法学 (前)	2						
			日本国憲法 (後)	2						
			社会学 (後)	2						
			政治学 (前)	2						
			経済学 (前)	2						
			☆ 日本事情 (前)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
		スポーツ科学	ｳｪﾙﾈｽ (前)	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論 (前)	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ (後)	1	ｳｪﾙﾈｽ理論 (後)	2				
	語学	英語	＊ 総合英語 (前)	2	英会話Advanced Ⅰ (前)	2				
			英会話Basic Ⅰ (前)	2	英会話Advanced Ⅱ (後)	2				
			英会話Basic Ⅱ (後)	2						
		中国語			初級中国語 (前)	2				
					中級中国語 (後)	2				
		韓国語			初級韓国語 (前)	2				
					中級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2	☆ 日本語Ⅲ (前)	2				
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2	☆ 日本語Ⅳ (後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊ 情報ﾘﾃﾗｼｰ演習 (前)	2	文章表現Ⅰ (前)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ (前)	2	文章表現Ⅱ (後)	2				
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ (後)	2						
		キャリア開発			＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ (前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ (前)	2		
					＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ (後)	2		
	特別講義	特別講義（基礎）	特別講義「語学」	1～4						
			特別講義「実践力養成」	1～4						
			特別講義「ｷｬﾘｱ」	1～4						

別表Ⅱ－Ⅱ専門教育科目の開講時期と単位数　※必修26単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

大分類	中分類	小分類	1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	情報	情報学入門 (前)	2	統計学入門 (前)	2	＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (前)	2		
			情報数学Ⅰ (後)	2			情報ｼｽﾃﾑの開発と管理 (前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習 (後)	4						
		経営・会計	＊ 経営学総論Ⅰ (前)	2	ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2				
			会計学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務 (前)	2				
			＊ 初級簿記 (前)	2	民事法 (前)	2				
			＊ 簿記演習 (後)	2	経営情報論Ⅰ (前)	2				
	専門発展	情報	計算機ｼｽﾃﾑ論 (後)	2	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (前)	2	計測・制御論 (後)	2		
			＊ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ (前)	2	情報数学Ⅱ (前)	2	ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ (前)	2		
			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ (後)	2	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2				
					ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論 (後)	2				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ (前)	4				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ (後)	4				
					＊ 情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ (前)	4				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ (後)	4				
	専門応用	ネットワーク	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ (後)	2	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ (前)	2	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術 (前)	2		
					WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ (後)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ (前)	2		
					ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術 (前)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ (後)	2		
					ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術 (後)	2	ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築 (通年)	4		
					SNS活用と問題解決 (前)	2				
					Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2				
		データサイエンス	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2	統計学 (後)	2	多変量解析 (前)	2		
			消費者行動論 (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ (前)	2	ﾃﾞｰﾀ解析 (前)	2		
					ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ (前)	2	ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ (後)	2		
					経営分析 (前)	2	統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ (後)	2		
					会計学 (後)	2	機械学習 (前)	2		
							人工知能 (後)	2		
							計量経済分析 (後)	2		
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ (前)	2	＊ 基礎ｾﾞﾐ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅡ (通年)	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ (後)	2	情報学基礎演習 (通年)		情報学専門演習Ⅰ (通年)		情報学専門演習Ⅰ (通年)	
	特別講義	特別専門講義	特別講義「経営」	1～4						
			特別講義「会計」	1～4						
			特別講義「情報」	1～4						

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　経営情報学科

【学籍番号】
221・222

○卒業要件
必修科目40単位を含めて124単位以上を修得すること

別表Ⅰ－Ⅰ基礎総合科目の開講時期と単位数　※必修16単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修)4単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
　2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊ 建学の精神と人生 (前)	2						
			宗教学 (後)	2						
			心理学 (前)	2						
			文学 (前)	2						
			日本文化論 (後)	2						
			＊ 情報倫理 (後)	2						
		社会科学	法学 (前)	2						
			日本国憲法 (後)	2						
			社会学 (後)	2						
			政治学 (前)	2						
			経済学 (前)	2						
			☆ 日本事情 (前)	2						
		自然科学	基礎数学 (前)	2						
		スポーツ科学	ｳｪﾙﾈｽ (前)	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論 (前)	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ (後)	1	ｳｪﾙﾈｽ理論 (後)	2				
	語学	英語	＊ 総合英語 (前)	2	英会話Advanced Ⅰ (前)	2				
			英検中級・TOEIC基礎 (後)	2	英会話Advanced Ⅱ (後)	2				
			英会話Basic Ⅰ (前)	2						
			英会話Basic Ⅱ (後)	2						
		中国語			初級中国語 (前)	2				
					中級中国語 (後)	2				
		韓国語			初級韓国語 (前)	2				
					中級韓国語 (後)	2				
		日本語	☆ 日本語Ⅰ (前)	2	☆ 日本語Ⅲ (前)	2				
			☆ 日本語Ⅱ (後)	2	☆ 日本語Ⅳ (後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊ 情報ﾘﾃﾗｼｰ演習 (前)	2						
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ (前)	2						
			＊ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ (後)	2						
			大学基礎総合 (前)	2						
			文章表現 (後)	2						
		キャリア開発			＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ (前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ (前)	2		
					＊ ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ (後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ (後)	2		
	特別講義	特別講義	特別講義「語学」 1～4							
			特別講義「実践力養成」 1～4							
			特別講義「ｷｬﾘｱ」 1～4							

別表Ⅰ－Ⅱ専門教育科目の開講時期と単位数　※必修24単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目4単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	経営・会計	＊ 経営学総論Ⅰ (前)	2	ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学 (前)	2				
			＊ 会計学入門 (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務 (前)	2				
			＊ 簿記Ⅰ (前)	2	民事法 (前)	2				
			簿記Ⅱ (後)	2	経営情報論Ⅰ (前)	2				
					経営情報論Ⅱ (後)	2				
		情報	情報学入門 (前)	2	統計学入門 (前)	2	＊ 情報ｾｷｭﾘﾃｨ (前)	2		
			情報数学Ⅰ (後)	2			情報ｼｽﾃﾑの開発と管理 (前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門 (後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論 (前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習 (後)	4						
	専門発展	経営・会計	＊ ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 (前)	2	企業金融 (前)	2	組織心理学 (前)	2		
			ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門 (後)	2	ｺﾏｰｽ論Ⅰ (前)	2	知的所有権 (前)	2		
			＊ 経営学総論Ⅱ (後)	2	日本経営史 (前)	2	労務管理論 (前)	2		
			会計学 (後)	2	経営分析 (前)	2	経営思想 (前)	2		
					統計学 (後)	2				
					経営組織論 (後)	2				
		情報	計算機ｼｽﾃﾑ論 (後)	2			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 (前)	2		
			情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ (前)	2			中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2		
					ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 (前)	2	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論 (前)	2		
					ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 (前)	2	計測・制御論 (後)	2		
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ (前)	4				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ (後)	4				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門 (前)	2				
					初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習 (後)	2				
					ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ (後)	2				
	専門応用	会計			中級簿記演習Ⅰ (前)	2	税務会計論 (前)	2		
					中級簿記演習Ⅱ (後)	2	税法学 (後)	2		
					原価計算論Ⅰ (前)	2				
					原価計算論Ⅱ (後)	2				
					財務会計論 (前)	2				
					財務管理 (後)	2				
					会社法 (前)	2				
					監査論 (後)	2				
					ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計 (前)	2				
		経営	経営戦略論 (前)	2	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾆﾝｸﾞ (後)	2		
			消費者行動論 (後)	2	Webｻｰﾋﾞｽ論 (後)	2	計量経済分析 (後)	2		
					SNS活用と問題解決 (前)	2				
					ｺﾏｰｽ論Ⅱ (後)	2				
					ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論 (後)	2				
					中小企業論 (前)	2				
		国際ビジネス			国際経営論 (後)	2	国際経済論 (前)	2		
					国際情報分析 (後)	2	国際政治学 (前)	2		
					英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ (前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ (前)	2		
					英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ (後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ (後)	2		
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ (前)	2	＊ 基礎ｾﾞﾐ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅠ (通年)	4	＊ 専門ｾﾞﾐⅡ (通年)	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ (後)	2	経営学基礎演習 (通年)		経営学専門演習Ⅰ (通年)		経営学専門演習Ⅰ (通年)	
	特別講義	特専門講義	特別講義「経営」 1～4							
			特別講義「会計」 1～4							
			特別講義「情報」 1～4							

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧　　情報ネットワーク学科

【学籍番号】
221・222

〇卒業要件
必修科目40単位を含めて124単位以上を修得すること

別表Ⅱ－Ⅰ基礎総合科目の開講時期と単位数　　※必修16単位を含み、40単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「総合教養」の分野から＊(必修)4単位 を含み12単位以上修得
（注3）「語学」の分野から＊(必修)2単位 を含み6単位以上修得
（注4）「実践力養成・キャリア開発」の分野から＊(必修)10単位 を含み12単位以上修得
（注5）　☆　印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
（注6）(前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋　＜参考＞
第5条
2　本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

			1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基礎総合科目	総合教養	人文科学	＊　建学の精神と人生　(前)	2						
			宗教学　(後)	2						
			心理学　(前)	2						
			文学　(前)	2						
			日本文化論　(後)	2						
			＊　情報倫理　(後)	2						
		社会科学	法学　(前)	2						
			日本国憲法　(後)	2						
			社会学　(後)	2						
			政治学　(前)	2						
			経済学　(前)	2						
			☆　日本事情　(前)	2						
		自然科学	基礎数学　(前)	2						
		スポーツ科学	ｳｪﾙﾈｽ　(前)	1	ｽﾎﾟｰﾂ理論　(前)	2				
			ｽﾎﾟｰﾂ　(後)	1	ｳｪﾙﾈｽ理論　(後)	2				
	語学	英語	＊　総合英語　(前)	2	英会話Advanced Ⅰ　(前)	2				
			英検中級・TOEIC基礎　(後)	2	英会話Advanced Ⅱ　(後)	2				
			英会話Basic Ⅰ　(前)	2						
			英会話Basic Ⅱ　(後)	2						
		中国語			初級中国語　(前)	2				
					中級中国語　(後)	2				
		韓国語			初級韓国語　(前)	2				
					中級韓国語　(後)	2				
		日本語	☆　日本語Ⅰ　(前)	2	☆　日本語Ⅲ　(前)	2				
			☆　日本語Ⅱ　(後)	2	☆　日本語Ⅳ　(後)	2				
	実践力養成・キャリア開発	実践スキル	＊　情報ﾘﾃﾗｼｰ演習　(前)	2						
			＊　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ　(前)	2						
			＊　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅱ　(後)	2						
			大学基礎総合　(前)	2						
			文章表現　(後)	2						
		キャリア開発			＊　ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ　(前)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　(前)	2		
					＊　ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ　(後)	2	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　(後)	2		
	特別講義	特別講義（基礎）	特別講義「語学」　1～4							
			特別講義「実践力養成」　1～4							
			特別講義「ｷｬﾘｱ」　1～4							

別表Ⅱ－Ⅱ専門教育科目の開講時期と単位数　　※必修24単位を含み、84単位以上修得

（注1）　＊　印のついた科目は必修科目
（注2）「専門基礎」の分野から必修科目6単位を含み20単位以上修得
（注3）「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
（注4）「専門応用」の分野から24単位以上修得
（注4）(前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

大分類	中分類	小分類	1年生		2年生		3年生		4年生	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	専門基礎	情報	情報学入門　(前)	2	統計学入門　(前)	2	＊　情報ｾｷｭﾘﾃｨ　(前)	2		
			情報数学Ⅰ　(後)	2			情報ｼｽﾃﾑの開発と管理　(前)	2		
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門　(後)	2			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論　(前)	2		
			ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習　(後)	4						
		経営・会計	＊　経営学総論Ⅰ　(前)	2	ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学　(前)	2				
			＊　会計学入門　(前)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務　(前)	2				
			簿記Ⅰ　(前)	2	民事法　(前)	2				
			簿記Ⅱ　(後)	2	経営情報論Ⅰ　(前)	2				
					経営情報論Ⅰ　(後)	2				
	専門発展	情報	計算機ｼｽﾃﾑ論　(後)	2	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造　(前)	2	計測・制御論　(後)	2		
			＊　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ　(前)	2	情報数学Ⅱ　(前)	2	ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ　(前)	2		
			ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ　(後)	2	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論　(前)	2				
					ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論　(後)	2				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ　(前)	4				
					ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ　(後)	4				
					＊　情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ　(前)	4				
					情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ　(後)	4				
	専門応用	ネットワーク	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ　(後)	2	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ　(前)	2	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術　(前)	2		
					WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ　(後)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ　(前)	2		
					ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術　(前)	2	WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ　(後)	2		
					ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術　(後)	2	ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築　(通年)	4		
					SNS活用と問題解決　(前)	2				
					Webｻｰﾋﾞｽ論　(後)	2				
		データサイエンス	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論　(前)	2	統計学　(後)	2	多変量解析　(前)	2		
			消費者行動論　(後)	2	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ　(前)	2	ﾃﾞｰﾀ解析　(前)	2		
			会計学　(後)	2	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ　(前)	2	ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ　(後)	2		
					経営分析　(前)	2	統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ　(後)	2		
							機械学習　(前)	2		
							人工知能　(後)	2		
							計量経済分析　(後)	2		
	演習	ゼミ	ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ　(前)	2	＊　基礎ｾﾞﾐ　(通年)	4	＊　専門ｾﾞﾐⅠ　(通年)	4	＊　専門ｾﾞﾐⅡ　(通年)	4
			ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ　(後)	2	情報学基礎演習　(通年)		情報学専門演習Ⅰ　(通年)		情報学専門演習Ⅰ　(通年)	
	特別講義	特別講義（専門）	特別講義「経営」　1～4							
			特別講義「会計」　1～4							
			特別講義「情報」　1～4							

九州情報大学教育課程表（カリキュラム）のナンバリング（科目番号付け）について

学生生活を送るにあたって、学生の皆さんが必ずしなければいけないことの一つに履修登録（学生が授業で学ぶ科目を届け出ること）があります。この履修登録の時に、自分がどの科目を登録したらよいか、判断の材料にしていただきたいのが科目のナンバリング（科目番号付け）です。

ナンバリングは３つのゾーンに分かれており、それぞれを「－」（ハイフン）で繋いでいます。各ゾーンは左から順に「科目情報」、「開講情報」、「履修情報」を表します。それぞれ、「科目情報」は４桁、「開講情報」は４桁、「履修情報」は３〜４桁で構成されており、ナンバリング変数を以下の様にしています。

ナンバリング変数　$S_1S_2S_3S_4$-$C_1C_2C_3C_4$-$T_1T_2T_3T_4$

科目情報　開講情報　履修情報

S_1 は科目を開設する教育課程を表します。S_2S_3 は科目群、S_2 はカリキュラム表の大分類、S_3 は中分類ならびに小分類を表します。S_4 は科目水準を表します。

$C_1C_2C_3$ は S_1 の教育課程内で３桁の連番（501〜999）を付し、科目名のヨミガナ昇順とします。両学科や他コースに配置される同一科目名は同じ番号とします。C_4 は受講に際しての前提条件（前提科目）を表し、前提条件が無ければ０、有れば１以上の値とします。前提条件を備えた一連の科目は、ヨミガナに関わらず $C_1C_2C_3$ を同一とし、履修の順番を C_4 で示しています。

T_1 は開講学年、T_2 は単位数、T_3 は選択・必修科目を表します。T_4 は教職科目のうち、別表Ⅲ(1)ならびに別表Ⅲ(2)の教科に関する科目等を表します。

具体的なコード表は３ページ以降に示します。

【ナンバリングの例】

ナンバリング変数　$S_1S_2S_3S_4$-$C_1C_2C_3C_4$-$T_1T_2T_3T_4$

教育課程　科目群　科目水準　－　連番　前提条件　－　開講学年　単位数　選択・必修　教職教科（必修）

それではナンバリングについて、「建学の精神と人生」という科目を例にして説明しましょう。この科目の番号とその意味は次の通りです。

建学の精神と人生　1：授業開設学部（1は経営情報学部の科目）　G：分類①（Gは基礎総合科目）　G：分類②（Gは総合教養科目）　N：科目水準（N指定無し）　-547：科目連番　0-：履修条件（0は条件無し）　1：開講学年（1は1年次の科目）　2：単位数（2単位の科目）　C：選択・必修（Cは必修科目）

このようにナンバリングは、皆さんが履修の時に必要なその科目に関する様々な情報が表示されています。たとえば科目の分類（基礎総合科目、専門教育科目など）、科目の水準（入門・基礎、応用・発展）、履修条件（授業によっては、関連科目を履修または合格を履修条件にする科目あり）、開講学年、単位数、選択・必修の区別などです。

本学の授業科目は、１年次から４年次まで段階を追って入門基礎から応用発展まで追って無理なく学ぶことができるように編成されています。皆さんは、自分の学年、単位の取得状況、興味関心、将来の進路など考慮したうえで、科目の履修登録をしてください。その際はそれぞれの科目のナンバリングを参考にしましょう。また、科目の内容についてきちんと理解したうえで履修登録をすることが肝心です。ですからシラバスをしっかりと読むことはもちろんですが、わからないところは担当教員や教務課に聞いてみましょう。

ナンバリングは学科、分類、開講年次、単位数などの情報に従って、11 桁の番号で表します。ただし、教職科目については 12 桁としています。

①授業開設学部　S_1

学部	S_1
経営情報学部	1
教職	2
大学院　修士課程	3
大学院　博士課程	4

② 科目群１　S_2　、　③ 科目群２　S_3

学士課程

科目群１（大分類）	S_2	科目群２（中小・分類）	S_3
基礎総合	G (General)	総合教養	G (General)
		語学	L (Language)
		実践力養成・キャリア開発	C (Career)
専門基礎	B (Basic)	経営・会計系	M (Management)
		情報系	I (Information)
		基礎ゼミ	S (Seminar)
専門発展	A (Advanced)	経営・会計系	M (Management)
		情報系	I (Information)
		専門ゼミ I	S (Seminar)
専門応用	E (Expand)	経営系	M (Management)
		会計系	A (Accounting)
		国際ビジネス系	G (Global)
		ネットワーク系	N (Network)
		データサイエンス系	D (Data science)
		専門ゼミ II	S (Seminar)
特別講義	S (Special)	経営系	M
		会計系	A
		情報系	I
		総合教養系	G
		語学系	L
		実践力養成・キャリア系	C

教職課程

科目群１（大分類）	S_2	科目群２（中小・分類）	S_3
教職課程	T (Teacher)	教職に関する科目	T (Teacher)

大学院（修士課程、博士課程）

科目群１（大分類）	S_2	科目群２（中小・分類）	S_3
修士課程	M (Master)	経営	M (Management)
		会計	A (Accounting)
		税法	T (Tax)
		情報	I (Information)
		M　演習	S (Seminar)
博士課程	D (Doctor)	経営	M
		会計	A
		情報	I
		D　演習	S

④ 科目水準　S_4

水準	S_4	
基礎・入門	B	Basic
応用・発展	A	Applied・Advanced
無し	N	Neutral

---

⑤⑥⑦ 連番　　C_1 C_2 C_3

科目群内でアイウエオ順の連番（3 桁、501～999）

開講学年	C_1 C_2 C_3
学部	501～999
教職課程	501～999
修士課程	501～999
博士課程	501～999

※ 連番を 2 グループに分け、001～499 と 501～999 はカリキュラム変更によって、交互に使用する。

⑧ 前提条件（履修条件）　C_4

履修条件　内容	C_4
履修条件なし	0
履修条件あり	1 以上の数 1 は最初に履修 2 は 1 の後に履修 n+1 は n の後に履修

⑨ 開講学年　T_1

開講学年	T_1
1 年生	1
2 年生	2
3 年生	3
4 年生	4
1 ・ 2	X
1 ～ 4	Y
3 ・ 4	Z
2 ・3	U
1 ～3	V
2 ～ 4	W

⑩ 単位数　T_2

単位数	T_2
1 単位	1
2 単位	2
4 単位	4
6 単位	6
2～4（特別講義）	W
1～4（特別講義）	Y

⑪ 必修・選択　T_3

選択制限	T_3	
必修科目	C	**C**ompulsory subject
選択科目	E	**E**lective subject
選択必修	D	

⑫ 教職　T_4

教科に関する科目	T_4	
必修科目	T	**T**eaching subject
選択科目	S	teaching subject of **S**election

number	初期 No.	大分類	中分類	小分類	科目名
1GGN-5470-12C	1	基礎総合	総合	人文科学	建学の精神と人生
1GGN-5660-12E	2	基礎総合	総合	人文科学	宗教学
1GGN-5850-12E	3	基礎総合	総合	人文科学	心理学
1GGN-6080-12E	5	基礎総合	総合	人文科学	哲学
1GGN-6260-12E	6	基礎総合	総合	人文科学	日本文化論
1GGN-6400-12E	4	基礎総合	総合	人文科学	文学
1GGN-6710-12CS	48	基礎総合	総合	人文科学	情報倫理
1GGN-5420-12E	11	基礎総合	総合	社会科学	経済学
1GGN-5650-12E	9	基礎総合	総合	社会科学	社会学
1GGN-5890-12E	10	基礎総合	総合	社会科学	政治学
1GGN-6240-12ET	8	基礎総合	総合	社会科学	日本国憲法
1GGN-6250-12E	12	基礎総合	総合	社会科学	日本事情
1GGN-6450-12E	7	基礎総合	総合	社会科学	法学
1GGB-5270-12E	13	基礎総合	総合	自然科学	基礎数学
1GGN-5140-22E	18	基礎総合	総合	スポーツ科学	ウェルネス理論
1GGN-5870-11ET	15	基礎総合	総合	スポーツ科学	ウェルネス（スポーツ実技Ⅰ）
1GGN-5880-11ET	16	基礎総合	総合	スポーツ科学	スポーツ（スポーツ実技Ⅱ）
1GGN-6700-22E	17	基礎総合	総合	スポーツ科学	スポーツ理論
1GLN-0190-12ES	220	基礎総合	語学	英語	英検中級・TOEIC基礎
1GLN-5150-22ES	22	基礎総合	語学	英語	英会話 AdvancedⅠ
1GLN-5160-22ES	23	基礎総合	語学	英語	英会話 AdvancedⅡ
1GLN-5170-12ES	20	基礎総合	語学	英語	英会話 BasicⅠ
1GLN-5180-12ES	21	基礎総合	語学	英語	英会話 BasicⅡ
1GLN-5940-12CS	19	基礎総合	語学	英語	総合英語
1GLN-5810-22ES	24	基礎総合	語学	中国語	初級中国語
1GLN-6000-22ES	25	基礎総合	語学	中国語	中級中国語
1GLN-5800-22ES	26	基礎総合	語学	韓国語	初級韓国語
1GLN-5990-22ES	27	基礎総合	語学	韓国語	中級韓国語
1GLN-6200-12E	28	基礎総合	語学	日本語	日本語Ⅰ
1GLN-6210-12E	29	基礎総合	語学	日本語	日本語Ⅱ
1GLN-6220-22E	30	基礎総合	語学	日本語	日本語Ⅲ
1GLN-6230-22E	31	基礎総合	語学	日本語	日本語Ⅳ
1SLN-6160-YYE	41	特別講義	語学		特別講義「語学」
1GBN-1510-12E	36	基礎総合	実践力キャリア	実践スキル	大学基礎総合
1GCB-5780-12CS	32	基礎総合	実践力キャリア	実践スキル	情報リテラシー演習
1GCN-5580-12C	33	基礎総合	実践力キャリア	実践スキル	コミュニケーションと自己発見Ⅰ
1GCN-5590-12C	34	基礎総合	実践力キャリア	実践スキル	コミュニケーションと自己発見Ⅱ
1GCN-6410-22E	35	基礎総合	実践力キャリア	実践スキル	文章表現
1GCN-5290-32E	39	基礎総合	実践力キャリア	キャリア	キャリアデザインⅠ
1GCN-5300-32E	40	基礎総合	実践力キャリア	キャリア	キャリアデザインⅡ
1GCN-5310-22C	37	基礎総合	実践力キャリア	キャリア	キャリアデザイン入門Ⅰ
1GCN-5320-22C	38	基礎総合	実践力キャリア	キャリア	キャリアデザイン入門Ⅱ
1SCN-6140-YYE	43	特別講義	実践力キャリア		特別講義「キャリア」
1SCN-6170-YYE	42	特別講義	実践力キャリア		特別講義「実践力養成」
1BMB-5220-12E	45	専門基礎	経営・会計		会計学入門
1BMB-5331-12C	44	専門基礎	経営・会計		経営学総論Ⅰ
1BMB-5830-12C	46	専門基礎	経営・会計		簿記Ⅰ（初級簿記）
1BMB-6300-22E	50	専門基礎	経営・会計		ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務
1BMB-6460-12C	47	専門基礎	経営・会計		簿記Ⅱ（簿記演習）
1BMN-5360-22E	52	専門基礎	経営・会計		経営情報論Ⅰ
1BMN-6510-22ET	49	専門基礎	経営・会計		ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学
1BMN-6540-22E	51	専門基礎	経営・会計		民事法
1BIB-5710-12E	54	専門基礎	情報		情報数学Ⅰ
1BIB-6110-22E	57	専門基礎	情報		統計学入門
1BIB-6310-14E	56	専門基礎	情報		ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習
1BIN-5690-12ES	53	専門基礎	情報		情報学入門
1BIN-5700-Z2ET	59	専門基礎	情報		情報ｼｽﾃﾑの開発と管理
1BIN-5730-Z2CS	58	専門基礎	情報		情報ｾｷｭﾘﾃｨ
1BIN-5770-12ET	55	専門基礎	情報		情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門
1BIN-6530-Z2ET	60	専門基礎	情報		ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論
1AMA-5350-Z2E	74	専門発展	経営・会計		経営思想
1AMB-5332-12C	63	専門発展	経営・会計		経営学総論Ⅱ
1AMB-6091-22E	69	専門発展	経営・会計		統計学
1AMB-6190-22E	66	専門発展	経営・会計		日本経営史
1AMN-5200-22C	68	専門発展	経営・会計		会計学
1AMN-5260-22E	64	専門発展	経営・会計		企業金融
1AMN-5390-22E	70	専門発展	経営・会計		経営組織論
1AMN-5400-22E	67	専門発展	経営・会計		経営分析
1AMN-5560-22E	65	専門発展	経営・会計		ｺﾏｰｽ論Ⅰ
1AMN-5950-Z2E	71	専門発展	経営・会計		組織心理学

number	初期 No.	大分類	中分類	小分類	科目名
1AMN-5980-Z2ET	72	専門発展	経営・会計		知的所有権
1AMN-6440-12E	62	専門発展	経営・会計		ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門
1AMN-6490-12C	61	専門発展	経営・会計		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論
1AMN-6570-Z2ET	73	専門発展	経営・会計		労務管理論
1AIB-5720-22E	125	専門発展	情報		情報数学Ⅱ
1AIB-6360-12C	128	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ
1AIB-6371-12E	129	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ
1AIN-5120-22ET	77	専門発展	情報		ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造
1AIN-5190-22E	126	専門発展	情報		ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論
1AIN-5430-12ES	75	専門発展	情報		計算機ｼｽﾃﾑ論
1AIN-5440-Z2ET	85	専門発展	情報		計測・制御論
1AIN-5610-Z2ET	84	専門発展	情報		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論
1AIN-5740-X2ET	76	専門発展	情報		情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ
1AIN-5750-24C	132	専門発展	情報		情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ
1AIN-5760-24E	133	専門発展	情報		情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ
1AIN-6060-22ET	78	専門発展	情報		ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論
1AIN-6341-24E	130	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ
1AIN-6342-24E	131	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ
1AIN-6381-U2ET	79	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門
1AIN-6382-U2ET	80	専門発展	情報		初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習
1AIN-6383-Z2ES	82	専門発展	情報		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論
1AIN-6384-Z2ES	83	専門発展	情報		中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習
1AIN-6520-U2ES	81	専門発展	情報		ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ
1AIN-6550-Z2ES	127	専門発展	情報		ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ
1EAN-5230-Z2E	92	専門応用	会計		会社法
1EAN-5240-22E	93	専門応用	会計		監査論
1EAN-5480-22E	88	専門応用	会計		原価計算論Ⅰ
1EAN-5490-22E	89	専門応用	会計		原価計算論Ⅱ
1EAN-5600-22E	94	専門応用	会計		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計
1EAN-5620-22E	90	専門応用	会計		財務会計論
1EAN-5630-22E	91	専門応用	会計		財務管理
1EAN-5900-Z2E	96	専門応用	会計		税法学
1EAN-5910-Z2E	95	専門応用	会計		税務会計論
1EAN-6020-22E	86	専門応用	会計		中級簿記演習Ⅰ
1EAN-6030-22E	87	専門応用	会計		中級簿記演習Ⅱ
1EMN-5010-22E	102	専門応用	経営		SNS活用と問題解決
1EMN-5070-22E	101	専門応用	経営		Webｻｰﾋﾞｽ論
1EMN-5370-U2ET	104	専門応用	経営		経営情報論Ⅱ
1EMN-5380-12E	97	専門応用	経営		経営戦略論
1EMN-5450-Z2E	108	専門応用	経営		計量経済分析
1EMN-5570-22E	103	専門応用	経営		ｺﾏｰｽ論Ⅱ
1EMN-5640-Z2E	107	専門応用	経営		事業承継論
1EMN-5670-12E	98	専門応用	経営		消費者行動論
1EMN-6040-U2E	106	専門応用	経営		中小企業論
1EMN-6320-Z2E	99	専門応用	経営		ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ
1EMN-6430-U2E	105	専門応用	経営		ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論
1EMN-6470-22E	100	専門応用	経営		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ
1EGA-5520-Z2E	117	専門応用	国際ビジネス		国際経済論
1EGA-5540-Z2E	118	専門応用	国際ビジネス		国際政治学
1EGN-5030-22ES	114	専門応用	国際ビジネス		TOEICⅠ
1EGN-5040-22ES	115	専門応用	国際ビジネス		TOEICⅡ
1EGN-5500-22E	111	専門応用	国際ビジネス		国際金融論
1EGN-5510-22E	109	専門応用	国際ビジネス		国際経営論
1EGN-5530-22E	110	専門応用	国際ビジネス		国際情報分析
1EGN-5550-22E	116	専門応用	国際ビジネス		国際地域文化論
1EGN-6280-22E	112	専門応用	国際ビジネス		ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ
1EGN-6290-22E	113	専門応用	国際ビジネス		ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ
1ASA-5280-34C	120	専門発展	ゼミ		専門ゼミⅠ
1BSB-5280-24C	119	専門基礎	ゼミ		基礎ゼミ
1ESA-5280-44C	121	専門応用	ゼミ		専門ゼミⅡ
1SAN-6130-YYE	123	特別講義	会計		特別講義「会計」
1SMN-6150-YYE	122	特別講義	経営		特別講義「経営」
1SIN-6180-YYE	124	特別講義	情報		特別講義「情報」
1ENN-5010-22E	143	専門応用	ネットワーク		SNS活用と問題解決
1ENN-5050-12E	134	専門応用	ネットワーク		Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ
1ENN-5060-22E	135	専門応用	ネットワーク		Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ
1ENN-5070-22E	144	専門応用	ネットワーク		Webｻｰﾋﾞｽ論
1ENN-5091-22E	136	専門応用	ネットワーク		WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ
1ENN-5092-Z2E	137	専門応用	ネットワーク		WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ
1ENN-5093-Z2E	138	専門応用	ネットワーク		WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ

number	初期 No.	大分類	中分類	小分類	科目名
1ENN-5861-22E	140	専門応用	ネットワーク		ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術
1ENN-5862-22E	141	専門応用	ネットワーク		ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術
1ENN-5863-Z2E	142	専門応用	ネットワーク		ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術
1ENN-6270-Z4ES	139	専門応用	ネットワーク		ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築
1EDB-6091-22E	145	専門応用	データサイエンス		統計学
1EDN-5200-22E	157	専門応用	データサイエンス		会計学
1EDN-5251-Z2E	151	専門応用	データサイエンス		機械学習
1EDN-5252-Z2E	152	専門応用	データサイエンス		人工知能
1EDN-5400-22E	156	専門応用	データサイエンス		経営分析
1EDN-5450-Z2E	158	専門応用	データサイエンス		計量経済分析
1EDN-5670-12E	154	専門応用	データサイエンス		消費者行動論
1EDN-6050-Z2E	148	専門応用	データサイエンス		ﾃﾞｰﾀ解析
1EDN-6070-Z2E	149	専門応用	データサイエンス		ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ
1EDN-6092-Z2E	147	専門応用	データサイエンス		多変量解析
1EDN-6120-Z2E	150	専門応用	データサイエンス		統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ
1EDN-6372-22E	146	専門応用	データサイエンス		ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ
1EDN-6470-22E	155	専門応用	データサイエンス		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ
1EDN-6490-12E	153	専門応用	データサイエンス		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論
2TTA-5040-43ET	162	教職課程	教職科目		教育実習（事前事後指導）
2TTA-5070-32ET	165	教職課程	教職科目		教育相談
2TTA-5110-42ET	169	教職課程	教職科目		教職実践演習（高）
2TTA-5120-32ET	170	教職課程	教職科目		生徒指導（進路指導を含む）
2TTB-5010-32ET	159	教職課程	教職科目		「情報」教科教育法Ⅰ
2TTB-5020-32ET	160	教職課程	教職科目		「情報」教科教育法Ⅱ
2TTB-5030-22ET	161	教職課程	教職科目		教育課程論（特別活動を含む）
2TTB-5050-22ET	163	教職課程	教職科目		教育社会学
2TTB-5060-22ET	164	教職課程	教職科目		教育心理学
2TTB-5080-22ET	166	教職課程	教職科目		教育哲学
2TTB-5090-32ET	167	教職課程	教職科目		教育方法学（ICT活用を含む）
2TTB-5100-12ET	168	教職課程	教職科目		教師入門
2TTN-5130-32ET	171	教職課程	教職科目		総合的な探求の時間の指導法
2TTN-5140-22ET	172	教職課程	教職科目		特別支援教育
3MMB-5050-X2E	182	修士課程	経営		経営科学特論
3MMB-5060-X2E	173	修士課程	経営		経営学特論
3MMB-5080-X2E	178	修士課程	経営		経営戦略特論
3MMB-5090-X2E	175	修士課程	経営		経営組織特論
3MMB-5100-X2E	180	修士課程	経営		国際経営特論
3MMB-5110-X2E	176	修士課程	経営		財政学特論
3MMB-5120-X2E	177	修士課程	経営		財務管理特論
3MMB-5280-X2E	174	修士課程	経営		日本経営史特論
3MMB-5310-X2E	179	修士課程	経営		労働経済特論
3MMB-5320-X2E	181	修士課程	経営		ロジスティックス特論
3MAB-5030-X2E	184	修士課程	会計		会計監査特論
3MAB-5040-X2E	183	修士課程	会計		会計情報学特論
3MAB-5230-X2E	185	修士課程	会計		税務会計特論
3MTB-5190-X2E	186	修士課程	税法		税法学特論Ⅰ
3MTB-5200-X2E	187	修士課程	税法		税法学特論Ⅱ
3MTB-5210-X2E	188	修士課程	税法		税法学特論Ⅲ
3MTB-5220-X2E	189	修士課程	税法		税法学特論Ⅳ
3MTB-5290-X2E	190	修士課程	税法		民事・行政訴訟特論Ⅰ
3MTB-5300-X2E	191	修士課程	税法		民事・行政訴訟特論Ⅱ
3MTB-5330-X2E		修士課程	税法		税法学特論Ⅴ
3MTB-5340-X2E		修士課程	税法		民法特論
3MTB-5350-X2E		修士課程	税法		会社法特論
3MTB-5360-X2E		修士課程	税法		民事・行政訴訟特論
3MIB-5070-X2E	196	修士課程	情報		経営情報システム設計特論
3MIB-5130-X2E	192	修士課程	情報		情報科学特論
3MIB-5140-X2E	195	修士課程	情報		情報セキュリティ特論
3MIB-5150-X2E	194	修士課程	情報		情報ネットワーク特論
3MIB-5160-X2E	193	修士課程	情報		情報メディア特論
3MIB-5170-X2E	200	修士課程	情報		人工知能特論
3MIB-5180-X2E	199	修士課程	情報		数値解析特論
3MIB-5240-X2E	198	修士課程	情報		データ解析特論
3MIB-5250-X2E	197	修士課程	情報		データベース特論
3MSA-5010-14C	201	修士課程	M　演習		演習Ⅰ
3MSA-5020-24C	203	修士課程	M　演習		演習Ⅱ
3MSA-5260-14C	202	修士課程	M　演習		特別演習Ⅰ
3MSA-5270-24C	204	修士課程	M　演習		特別演習Ⅱ
4DMB-5070-V2E	207	博士課程	経営		企業経済分析特別研究
4DMB-5080-V2E	205	博士課程	経営		経営学特別研究

number	初期 No.	大分類	中分類	小分類	科目名
4DMB-5090-V2E	208	博士課程	経営		国際経営特別研究
4DMB-5150-V2E	206	博士課程	経営		日本経営史特別研究
4DAB-5050-V2E	210	博士課程	会計		会計監査論特別研究
4DAB-5060-V2E	209	博士課程	会計		会計情報学特別研究
4DAB-5160-V2E		博士課程	会計		税務会計特別研究
4DTB-5180-V2E		博士課程	税法		税法学特別研究
4DTB-5190-V2E		博士課程	税法		民法特別研究
4DIB-5040-V2E	215	博士課程	情報		応用数値解析特別研究
4DIB-5100-V2E	211	博士課程	情報		情報科学特別研究
4DIB-5110-V2E	213	博士課程	情報		情報セキュリティ特別研究
4DIB-5120-V2E	212	博士課程	情報		情報メディア特別研究
4DIB-5130-V2E	216	博士課程	情報		人工知能特別研究
4DIB-5140-V2E	214	博士課程	情報		数値解析特別研究
4DIB-5170-V2E		博士課程	情報		情報・信号処理特別研究
4DSA-5010-14C	217	博士課程	D　演習		演習Ⅰ
4DSA-5020-24C	218	博士課程	D　演習		演習Ⅱ
4DSA-5030-34C	219	博士課程	D　演習		演習Ⅲ

経営情報学科　2021・2022年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目40単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目　　※：留学生科目

基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）

総合教養

必修4単位を含み12単位以上

小分類

〈人文科学〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C
宗教学	1後	1GGN-5660-12E
心理学	1前	1GGN-5850-12E
文学	1前	1GGN-6400-12E
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E
◎情報倫理	1後	1GGN-6710-12CS

〈社会科学〉

法学	1前	1GGN-6450-12E
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET
社会学	1後	1GGN-5650-12E
政治学	1前	1GGN-5890-12E
経済学	1前	1GGN-5420-12E
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E

〈自然科学〉

基礎数学	1前	1GGB-5270-12E

〈ｽﾎﾟｰﾂ科学〉

ウェルネス	1前	1GGN-5870-21DT
スポーツ	1後	1GGN-5880-21DT
スポーツ理論	2前	1GGN-6700-22E
ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E

語学

必修2単位を含み6単位以上

小分類

〈英語〉

科目名	授業を行う年次	番号
総合英語	1前	1GLN-5940-12CS
英検中級・TOEIC基礎	1後	1GLN-0190-12ES
英会話 Basic Ⅰ	1前	1GLN-5170-12ES
英会話 Basic Ⅱ	1後	1GLN-5180-12ES
英会話Advanced Ⅰ	1前	1GLN-5150-22ES
英会話Advanced Ⅱ	1後	1GLN-5160-22ES

〈中国語〉

初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES
中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES

〈韓国語〉

初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES
中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES

〈日本語〉

※日本語Ⅰ	1前	1GLN-6200-12E
※日本語Ⅱ	1後	1GLN-6210-12E
※日本語Ⅲ	2前	1GLN-6220-22E
※日本語Ⅳ	2後	1GLN-6230-22E

特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE

実践力養成・キャリア開発

必修10単位を含み12単位以上

小分類

〈実践スキル〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS
◎コミュニケーションと自己発見Ⅰ	1前	1GCN-5580-12C
◎コミュニケーションと自己発見Ⅱ	1後	1GCN-5590-12C
大学基礎総合	1前	1GBN-1510-12E
文章表現	1後	1GCN-6410-22E

特別講義「実践力養成」	1～4	1SCN-6170-YYE

＜キャリア開発＞

◎キャリアデザイン入門Ⅰ	2前	1GCN-5310-22C
◎キャリアデザイン入門Ⅱ	2後	1GCN-5320-22C
キャリアデザインⅠ	3前	1GCN-5290-32E
キャリアデザインⅡ	3後	1GCN-5300-32E

特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE

専門教育科目（必修24単位を含み84単位以上）

専門基礎

必修8単位を含み20単位以上

小分類

〈経営・会計〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
◎会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
◎簿記Ⅰ	1前	1BMB-5830-12C
簿記Ⅱ	1後	1BMB-6460-12C
ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学	2前	1BMN-6510-22ET
ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務	2前	1BMB-6300-22E
民事法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E
経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET

〈情報〉

情報学入門	1前	1BIN-5690-12ES
情報数学Ⅰ	1後	1BIB-5710-12E
情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門	1後	1BIN-5770-12ET
ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習	1後	1BIB-6310-14E
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報ｾｷｭﾘﾃｨ	3・4前	1BIN-5730-Z2CS
情報ｼｽﾃﾑの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-Z2ET
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論	3・4前	1BIN-6530-Z2ET

⇒

専門発展

必修4単位を含み14単位以上

小分類

〈経営・会計〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論	1前	1AMN-6490-12C
ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門	1後	1AMN-6440-12E
◎経営学総論Ⅱ	1後	1AMB-5332-12C
企業金融	2前	1AMN-5260-22E
ｺﾏｰｽ論Ⅰ	2前	1AMN-5560-22E
日本経営史	2前	1AMB-6190-22E
経営分析	2前	1AMN-5400-22E
会計学	1後	1AMN-5200-22C
統計学	2後	1AMB-6091-22E
経営組織論	2後	1AMN-5390-22E
組織心理学	3・4前	1AMN-5950-Z2E
知的所有権	3・4前	1AMN-5980-Z2ET
労務管理論	3・4前	1AMN-6570-Z2ET
経営思想	3・4前	1AMA-5350-Z2E

〈情報〉

計算機ｼｽﾃﾑ論	1後	1AIN-5430-12ES
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ	1・2前	1AIN-5740-X2ET
ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造	2前	1AIN-5120-22ET
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論	2前	1AIN-6060-22ET
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ	2前	1AIN-5750-24C
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ	2後	1AIN-5760-24E
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門	2・3前	1AIN-6381-U2ET
初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習	2・3後	1AIN-6382-U2ET
ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ	2・3後	1AIN-6520-U2ES
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論	3・4前	1AIN-6383-Z2ES
中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習	3・4後	1AIN-6384-Z2ES
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論	3・4前	1AIN-5610-Z2ET
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-Z2ET

⇒

専門応用

24単位以上

小分類

〈会計〉

科目名	授業を行う年次	番号
中級簿記演習Ⅰ	2前	1EAN-6020-22E
中級簿記演習Ⅱ	2後	1EAN-6030-22E
原価計算論Ⅰ	2前	1EAN-5480-22E
原価計算論Ⅱ	2後	1EAN-5490-22E
財務会計論	2前	1EAN-5620-22E
財務管理	2後	1EAN-5630-22E
会社法	2前	1EAN-5230-Z2E
監査論	2後	1EAN-5240-22E
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計	2前	1EAN-5600-22E
税務会計論	3・4前	1EAN-5910-Z2E
税法学	3・4後	1EAN-5900-Z2E

〈経営〉

経営戦略論	1前	1EMN-5380-12E
消費者行動論	1後	1EMN-5670-12E
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	3・4後	1EMN-6320-Z2E
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ	2前	1EMN-6470-22E
Webｻｰﾋﾞｽ論	2後	1EMN-5070-22E
SNS活用と問題解決	2前	1EMN-5010-22E
ｺﾏｰｽ論Ⅱ	2後	1EMN-5570-22E
ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論	2後	1EMN-6430-U2E
中小企業論	2前	1EMN-6040-U2E
計量経済分析	3・4後	1EMN-5450-Z2E

〈国際ビジネス〉

国際経営論	2後	1EGN-5510-22E
国際情報分析	2後	1EGN-5530-22E
ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ	3・4前	1EGN-6280-22E
ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅱ	3・4後	1EGN-6290-22E
英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ	2前	1EGN-5030-22ES
英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ	2後	1EGN-5040-22ES
国際経済論	3・4前	1EGA-5520-Z2E
国際政治学	3・4前	1EGA-5540-Z2E

演習

小分類

〈プレゼミ〉

科目名	授業を行う年次	番号
ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ	1前	
ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ	1後	

⇒

〈ゼミナール基礎〉

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	
経営学基礎演習	2	

⇒

〈ゼミナール専門〉

科目名	授業を行う年次	番号
専門ｾﾞﾐⅠ	3	
経営学専門演習Ⅰ	3	
専門ｾﾞﾐⅡ	4	
経営学専門演習Ⅱ	4	

特別講義

小分類

〈特別講義専門〉

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1～4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1～4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1～4	1SIN-6180-YYE

情報ネットワーク学科　2021・2022年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目40単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目　　※：留学生科目

基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）

総合教養

必修4単位を含み12単位以上

小分類

〈人文科学〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C
宗教学	1後	1GGN-5660-12E
心理学	1前	1GGN-5850-12E
文学	1前	1GGN-6400-12E
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E
◎情報倫理	1後	1GGN-6710-12CS

〈社会科学〉

法学	1前	1GGN-6450-12E
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET
社会学	1後	1GGN-5650-12E
政治学	1前	1GGN-5890-12E
経済学	1前	1GGN-5420-12E
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E

〈自然科学〉

基礎数学	1前	1GGB-5270-12E

〈ｽﾎﾟｰﾂ科学〉

ウェルネス	1前	1GGN-5870-21DT
スポーツ	1後	1GGN-5880-21DT
スポーツ理論	2前	1GGN-6700-22E
ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E

語学

必修2単位を含み6単位以上

小分類

〈英語〉

科目名	授業を行う年次	番号
総合英語	1前	1GLN-5940-12CS
英検中級・TOEIC基礎	1後	1GLN-0190-12ES
英会話 Basic Ⅰ	1前	1GLN-5170-12ES
英会話 Basic Ⅱ	1後	1GLN-5180-12ES
英会話Advanced Ⅰ	1前	1GLN-5150-22ES
英会話Advanced Ⅱ	1後	1GLN-5160-22ES

〈中国語〉

初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES
中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES

〈韓国語〉

初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES
中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES

〈日本語〉

※日本語Ⅰ	1前	1GLN-6200-12E
※日本語Ⅱ	1後	1GLN-6210-12E
※日本語Ⅲ	2前	1GLN-6220-22E
※日本語Ⅳ	2後	1GLN-6230-22E

特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE

実践力養成・キャリア開発

必修10単位を含み12単位以上

小分類

〈実践スキル〉

科目名	授業を行う年次	番号
◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS
◎コミュニケーションと自己発見Ⅰ	1前	1GCN-5580-12C
◎コミュニケーションと自己発見Ⅱ	1後	1GCN-5590-12C
大学基礎総合	1前	1GBN-1510-12E
文章表現	1後	1GCN-6410-22E

特別講義「実践力養成」	1～4	1SCN-6170-YYE

＜キャリア開発＞

◎キャリアデザイン入門Ⅰ	2前	1GCN-5310-22C
◎キャリアデザイン入門Ⅱ	2後	1GCN-5320-22C
キャリアデザインⅠ	3前	1GCN-5290-32E
キャリアデザインⅡ	3後	1GCN-5300-32E

特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE

専門教育科目（必修24単位を含み84単位以上）

専門基礎

必修6単位を含み20単位以上

小分類

〈情報〉

科目名	授業を行う年次	番号
情報学入門	1前	1BMB-5331-12C
情報数学Ⅰ	1後	1BMB-5220-12E
情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門	1後	1BMB-5830-12C
ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習	1後	1BMB-6460-12C
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報ｾｷｭﾘﾃｨ	3・4前	1BIN-5730-Z2CS
情報ｼｽﾃﾑの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-Z2ET
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論	3・4前	1BIN-6530-Z2ET

〈経営・会計〉

◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
◎会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
簿記Ⅰ	1前	1BMB-5830-12C
簿記Ⅱ	1後	1BMB-6460-12C
ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学	2前	1BMN-6510-22ET
ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務	2前	1BMB-6300-22E
民事法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E
経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET

⇒

専門発展

必修6単位を含み14単位以上

小分類

〈情報〉

科目名	授業を行う年次	番号
計算機ｼｽﾃﾑ論	1後	1AIN-5430-12ES
ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造	2前	1AIN-5120-22ET
情報学入門	2前	1AIB-5720-22E
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論	2前	1AIN-6060-22ET
ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論	2後	1AIN-5190-22E
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-Z2ET
ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ	3・4前	1AIN-6550-Z2ES
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ	1前	1AIB-6360-12C
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ	1後	1AIB-6371-12E
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ	2前	1AIN-6341-24E
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ	2後	1AIN-6342-24E
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ	2前	1AIN-5750-24C
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ	2後	1AIN-5760-24E

⇒

専門応用

24単位以上

小分類

〈ネットワーク〉

科目名	授業を行う年次	番号
Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ	1後	1ENN-5050-12E
Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ	2前	1ENN-5060-22E
WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ	2後	1ENN-5091-22E
WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ	3・4前	1ENN-5092-Z2E
WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ	3・4後	1ENN-5093-Z2E
ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築	3・4	1ENN-6270-Z4ES
ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術	2前	1ENN-5861-22E
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術	2後	1ENN-5862-22E
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術	3・4前	1ENN-5863-Z2E
SNS活用と問題解決	2前	1ENN-5010-22E
Webｻｰﾋﾞｽ論	2後	1ENN-5070-22E

〈データサイエンス〉

統計学	2後	1EDB-6091-22E
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	2前	1EDN-6372-22E
多変量解析	3・4前	1EDN-6092-Z2E
ﾃﾞｰﾀ解析	3・4前	1EDN-6050-Z2E
ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ	3・4後	1EDN-6070-Z2E
統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	3・4後	1EDN-6120-Z2E
機械学習	3・4前	1EDN-5251-Z2E
人工知能	3・4後	1EDN-5252-Z2E
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論	2前	1EDN-6490-12E
消費者行動論	2後	1EDN-5670-12E
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ	2前	1EDN-6470-22E
経営分析	2前	1EDN-5400-22E
会計学	1後	1EDN-5200-22E
計量経済分析	3・4後	1EDN-5450-Z2E

演習

小分類

〈プレゼミ〉

科目名	授業を行う年次	番号
ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ	1前	
ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅡ	1後	

⇒

〈ゼミナール基礎〉

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	
経営学基礎演習	2	

⇒

〈ゼミナール専門〉

科目名	授業を行う年次	番号
専門ｾﾞﾐⅠ	3	
経営学専門演習Ⅰ	3	
専門ｾﾞﾐⅡ	4	
経営学専門演習Ⅱ	4	

特別講義

小分類

〈特別講義専門〉

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1～4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1～4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1～4	1SIN-6180-YYE

基礎総合科目

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5470-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
建学の精神と人生	共通	1年生・前期	2単位	必修	副学長・担当教員	
履修の前提条件	学生便覧の「建学の精神をたずねて」を読んでおくこと。※禁止事項：遅刻厳禁					

授業概要 （Course Outline）

麻生学園の創立者 麻生繁樹先生は、建学の精神を 1.「至心」、2.「報恩感謝・慈愛と奉仕」3.「容（かたち）は心を呼び、心は容を呼ぶ」に定めた。これらの精神は、本学の教育・研究活動の根幹をなすものであるが、同時にわれわれすべてが日々の暮らしを営むにあたって従うべき行動準則となり、目標となりうるものである。本講義では、建学の精神がひとりひとりの人間存在そのものにとっていかなる意義を持ちうるのかというその根源的意味を探求していく。そして本学の由来や創立の経緯、麻生繁樹先生の軌跡や言葉を辿ることにより、建学の精神の背景や内容を考察していく。さらに、建学の精神と本学の教育・研究活動の関連性について説明する。また、建学の精神に則った学生生活のあり方について提唱する。さらに、太宰府や地域の歴史や事情を学ぶことにより、われわれと太宰府・地域との紐帯について自覚を学生に促していく。以上をもって、学生諸君が建学の精神を体得し、全人格的な人間性を備えた有為な社会人として世に貢献できるように、その素地を涵養していく。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル Mathematics	
	情報リテラシー Information Literacy	
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力 Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力 Self-management	○
	チームワーク Teamwork	
	リーダーシップ Leadership	
	倫理観 Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	○
	生涯学習力 Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

この授業の目標は以下の通りである。
①建学の精神 1.「至心」、2.「報恩感謝・慈愛と奉仕」、3.「容（かたち）は心を呼び、心は容を呼ぶ」の意味を理解できること。
②太宰府・地域の歴史や諸事情を理解できること。
③その他

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

毎回の授業の内容に関して理解度を確認するために課題を出すので、Googleクラスルームの所定のページに提出すること。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

担当教員の研究室を確認すること。
授業についての問い合わせ等は、各教員のメールまたはGoogleクラスルームの所定のページを介して行うこと。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

「KIIS学修ポートフォリオ＆ルーブリック」に必要事項を記入し最終講義後にGoogleクラスルームの所定のページに提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
プリント配布			

参考文献 （Reference Books）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
幼児教育と親心	麻生繁樹	三晃書房	
新菅家御伝	味酒安則・村田眞理	太宰府天満宮文化研究所	
人物叢書 菅原道真	坂本太郎	吉川弘文館	
菅原道真	滝川幸司	中公新書	
大学的福岡・太宰府ガイド	西高辻・赤司・高倉 編	昭和堂	
日本古典文学大系72 菅家文草・菅家後集	川口久雄	岩波書店	

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験80% 平常点（毎回の授業に関する課題の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出状況、その他）20%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	4月12日（火） 副学長 ①1回～15回の概要 ②日本の教育制度 ②大学の教育力 ③建学の精神・教育理念・校訓	
	事前学習（内容・時間）	学生便覧「建学の精神を訪ねて」を読み、本学の教育理念について理解を深めておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「大学で何を学び、何に挑戦するのか」まとめておく。（2時間）
第2回	4月19日（火） 教務部長 本学の教育目的と教育課程	
	事前学習（内容・時間）	学生便覧の教育課程表（学則別表第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ）を読んでおくこと、自分が履修した科目の シラバス（授業計画）を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	四年間の履修計画を立てること。（2時間）
第3回	4月26日（火） 学長 建学の精神Ⅰ （至心について）	
	事前学習（内容・時間）	本学が公表している「至心」の意味を調べておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「至心」と関係する自らの行動について考察する。（2時間）
第4回	5月10日（火） 学長 建学の精神Ⅱ （四恩の学び舎とは）	
	事前学習（内容・時間）	四恩とは何かを調べておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	四恩の学び舎において自らが実践出来る事を考察する。（2時間）
第5回	5月17日（火） 学部長 いま大学で「学ぶ」ということ Ⅰ ～「大学」の歴史的・社会的な意義～	
	事前学習（内容・時間）	Classroomで 事前配布の資料を読み、事前課題に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今日の課題に取り組み、・授業の振り返りと整理・まとめを行う。（2時間）
第6回	5月24日（火） 学部長 いま大学で「学ぶ」ということ Ⅱ～大学での「学び」はあなたの人生に何をもたらすのか～	
	事前学習（内容・時間）	Classroomで 事前配布の資料を読み、事前課題に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今日の課題に取り組み、・授業の振り返りと整理・まとめを行う。（2時間）
第7回	5月31日（火） 学生部長 出身高校で多くの先生方から学んだ生きる力（誇り等）と4年後を見据えた学生生活の在り方について	
	事前学習（内容・時間）	出身高校3年間で学習や生活、特別活動において、自分自身が変化したと感じた強く印象に残る先生についてまとめておくこと。（その時の自分を変えた言葉や自分を奮い立たせた理由等）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	先生たちの思いで自身を変えるきっかけとなった瞬間の言葉、行動を、これからの学生生活にどのように生かしたいか（このことだけは続けたい等）まとめること。（2時間）
第8回	6月7日（火） 経営情報学科長 経営情報学と経営情報学科について	
	事前学習（内容・時間）	学生便覧、大学のパンフレット（大学HPにあるWebパンフレットをダウンロード）を読むこと（特に経営情報学科についての部分）。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	経営情報学科と情報ネットワーク学科との役割について考えてもらう。（2時間）
第9回	6月14日（火） 情報ネットワーク学科長 本学における情報教育のあり方について	
	事前学習（内容・時間）	学生便覧、大学のパンフレット（大学HPにあるWebパンフレットをダウンロード）を読むこと（特に情報ネットワーク学科についての部分）。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	身に着けたい情報技術を3点以上調べまとめて提出すること。（2時間）
第10回	6月21日（火） 国際交流センター長 国際社会の中の太宰府	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第11回	6月28日（火） 教務部長 「至心」の哲学的探求：麻生学園の創立者 麻生繁樹先生の思想その1	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第12回	7月5日（火） 教務部長 「至心」の哲学的探求：麻生学園の創立者 麻生繁樹先生の思想その2	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第13回	7月12日（火） 教務部長 菅原道真と太宰府天満宮について その1	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第14回	7月19日（火） 教務部長 菅原道真と太宰府天満宮について その2	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第15回	7月26日（火） 教務部長 菅原道真と太宰府天満宮について その3	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、あなたが特に関心を持った点について明確にしておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容に関する課題を作成して提出すること。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験およびポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5660-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
宗教学	219～	1年生・後期	2単位	選択	安達義弘	
宗教と人生	～218					

履修の前提条件	・事前に、「建学の精神（①至心、②報恩感謝・慈愛と奉仕、③容は心を呼び、心は容を呼ぶ）」を理解しておくこと。 ・なぜ宗教学を学ぶ必要があると思ったのかを考えておくこと。 ・ディスカッションには積極的に参加すること。（指名することもあります） ・授業中の私語は厳禁。

授業概要　（Course Outline）

・世界の主要な宗教（とくにユダヤ教、キリスト教、イスラム教）、および日本の宗教（とくに神道と仏教）を取り上げます。
・それらの宗教の起源と歴史、基本的な行動のパターン、および精神文化を比較しながら考察します。
・それによって、宗教の違いによって人の考え方や行動のパターンがどのように違うのかを考察します。
・そのような授業を通して、宗教を相対化する力、グローバル社会の中で生き抜く力、および社会人として必要な態度・志向性、豊な人間性を修得することを目指します。
・そして最後に、宗教学の視点から、本学の「建学の精神」の意味と意義について考察を深めます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

・世界の主要な宗教の起源と歴史、基本的な行動のパターンやそれぞれの精神文化を理解し、説明できるようになります。
・日本の主要な宗教、とくに神道と仏教の起源と歴史、基本的な行動のパターンと精神文化を理解し、説明できるようになります。
・そのような学習を通じて、宗教を相対化する力、グローバル化社会の中で生き抜く力、および社会人として必要な態度・志向性を修得します。
・また、本学の「建学の精神」の理解を深めます。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・毎回の講義でカーボン・ノートに、講義中に考えたこと、興味や疑問を持った点、意見などを記入し、講義終了後に提出していただきます。
・重要と思われるテーマや受講生の多くが関心を持っているテーマについては、次回の授業で取り上げ解説し、必要に応じてディスカッションを行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡・問い合わせ・相談などは授業の前後に対応します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

講義のカーボン・コピー・ノートを毎回の講義終了時に提出していただきます。
学習の確認については、ポートフォリオ＆ルーブリックのシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、最終講義時に提出していただきます。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
講義中に資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
世界がわかる宗教社会学入門	橋爪大三郎	筑摩書房	978-4480422279
世界宗教大事典	山折哲雄（監修）	平凡社	4-582-13002-X
仏教文化事典	柳川啓一、他（監修）	佼成出版社	4-333-01355-0
原始仏典を読む	中村元	岩波書店	978-4-00－600317-3
『コーラン』を読む	井筒俊彦	岩波書店	4006002831

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験50%
レポート20%
平常点（カーボン・コピー・ノート、ポートフォリオ＆ルーブリック、ディスカッション）30%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の概要、受講上の注意、成績評価方法の説明）	
	事前学習（内容・時間）	宗教学とは何か、について自分なりの考え方をまとめておいてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	宗教学で、何に関心があるか、なぜ関心があるか、を書いてください。2時間
第2回	宗教と現代社会（現代社会での宗教と科学の関係、宗教が関係する出来事を取り上げます。）	
	事前学習（内容・時間）	宗教が関係する事件や出来事を調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	宗教はなぜ問題を引き起こすのかを、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第3回	ユダヤ教（1）（ユダヤ教の起源とその社会背景について考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	ユダヤ教に関係する出来事について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	ユダヤ教がどのように成立したのか、授業内容を中心にまとめてください。2時間
第4回	ユダヤ教（2）（ユダヤ教の精神文化について考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	ユダヤ教の聖書の創世記の後半と出エジプト記を事前に読んでください。2時間
	事後学習（内容・時間）	ユダヤ教の精神文化について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第5回	ユダヤ教（3）（ユダヤ教の歴史をキリスト教との関りにおいて考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	ユダヤ教のデアスポラ（離散）とシオニズム運動について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	ユダヤ教の歴史の特徴について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第6回	キリスト教（1）（キリスト教の起源とその社会背景について考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	イエス・キリストとはどのような人だったのかについて調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	キリスト教の起源とその社会背景について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第7回	キリスト教（2）（キリスト教の特徴をユダヤ教と比較しながら考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	キリスト教の三位一体説について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	キリスト教とユダヤ教の異同について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第8回	キリスト教（3）（キリスト教の精神文化について考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	キリスト教の現代社会における影響について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	キリスト教と近代社会との関係について、講義内容を中心にまとめてください。2時間

第9回	イスラム教（1）（イスラム教の起源とその社会背景について考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	イスラム教が関係する出来事について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	ムハンマドはどのような人だったかについて、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第10回	イスラム教（2）（イスラム教の歴史をユダヤ教やキリスト教と比較しながら考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	イスラム教においてジハード（聖戦）とは何か、について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	イスラム教の歴史の特徴を、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第11回	イスラム教（3）（イスラム教の精神文化について解説します。）	
	事前学習（内容・時間）	イスラム教の偶像崇拝の禁止とそれに関する出来事について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	イスラム教の精神文化について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第12回	日本の宗教（1）（インドで生まれた仏教が日本に到達するまでの歴史について解説します。）	
	事前学習（内容・時間）	仏陀はどのような人だったか、を調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	初期仏教の歴史について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第13回	日本の宗教（2）（日本における神道と仏教の成立と歴史を考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	神道とはどのような宗教か、について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	神道と仏教の成立について、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第14回	日本の宗教（3）（日本における神道と仏教の精神文化を考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	神道と仏教の基本的な考え方について調べてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	神道と仏教の精神文化とその日本的特徴を、講義内容を中心にまとめてください。2時間
第15回	本学の「建学の精神」の考察（日本の宗教文化の視点から考察します。）	
	事前学習（内容・時間）	「建学の精神」について、事前に理解を深めておいてください。2時間
	事後学習（内容・時間）	本学の専門教育と「建学の精神」との関係についてまとめてください。2時間
第16回（定期試験）	講義内容の振り返りと確認のための筆記試験を行います。	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5850-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
心理学	219～	1年生・前期	2単位	選択	鈴木　和也	
心理学Ⅰ	～218					

履修の前提条件	1．日常生活を心理学的な視点から理解しようとする意欲を持っていること。2．受講者は、日本心理学諸学会連合主催の心理学検定試験2級を受験すること。

授業概要　（Course Outline）

近年、インターネットなどの情報化の進展やグローバル化に伴い、私たちの生活は、利便性、効率性、多様性が高まっている。その反面、個人や社会的には、物質的な豊かさとは裏腹に心の貧しさを感じることも多くなってきている。本講義では、心理学を学ぶことで、本来の豊かで人間らしい高い生活の質(QOL)を持った人生送るために必要な、豊かな人間性と創造的かつ実践的な力を醸成していくための知識を身に付ける。

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

自分が自分自身に対し、現実から目をそらさずに積極的に向き合い、課題と取り組むための冷静さと積極性をもって日常を生きるヒントとなる知識や態度を心理学という学問・方法から出来るだけ多く学びとれること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問、相談等は研究室（553）にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。（オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。）

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
入門　心理学 ―わかりやすく学ぶ基礎・応用―	島田博祐　他著	文化書房博文社	978-4-8301-1139-6

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基礎心理学Ⅰ　入門心理学	加藤義明　他著	八千代出版	978-4-8429-0648-5
はじめて出会う　心理学	長谷川寿一　他著	有斐閣	978-4-641-12345-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1.定期試験（80%）、2.小テスト（10%）、3.学修課題の提出（5%）、4.授業への取組み（5%）

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	授業概要（授業の進め方、評価について） 心理学とは		
	事前学習（内容・時間）	教科書1頁～6頁を確認する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第2回	心理学の基礎分野		
	事前学習（内容・時間）	教科書24頁～36頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第3回	学習		
	事前学習（内容・時間）	教科書38頁～50頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第4回	認知		
	事前学習（内容・時間）	教科書52頁～65頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第5回	神経・生理		
	事前学習（内容・時間）	教科書67頁～81頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第6回	個人差―パーソナリティ、知能		
	事前学習（内容・時間）	教科書84頁～98頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第7回	乳幼児期から児童期前半の発達と臨床		
	事前学習（内容・時間）	教科書99頁～117頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第8回	児童期後半（青年前期）・思春期・青年期の発達と臨床		
	事前学習（内容・時間）	教科書119頁～140頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第9回	成人期から老年（高齢）期の発達と臨床		
	事前学習（内容・時間）	教科書144頁～163頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第10回	社会・集団心理		
	事前学習（内容・時間）	教科書166頁～175頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第11回	対人関係とコミュニケーション		
	事前学習（内容・時間）	教科書178頁～189頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第12回	社会病理の心理学		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「社会病理の心理学」を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第13回	スクールカウンセリング		
	事前学習（内容・時間）	教科書191頁～202頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第14回	福祉心理学		
	事前学習（内容・時間）	教科書205頁～215頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第15回	コンピュータと人間		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「コンピュータと人間」を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （まとめと振り返りを行う。）		

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6400-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
文学	共通	1年生・前期	2単位	選択	全　彰煥	

履修の前提条件	① 各作品の「あらすじ」と「作品の背景」を事前に熟読すること。 ② 与えられる資料を理解すること。

授業概要　（Course Outline）

本科目は、本学の建学精神である『至心』、すなわち「優れた専門性を磨く前に温かい人間性を、優れた社会人になる前に豊かな人間性を」をモットーとして、「紫苑」―「四恩」の⑴親・祖先の御恩　⑵教師・先生の御恩　⑶社会・国家の御恩　⑷神・仏の絶対なる御恩に報いられる人間づくりの教育目標を基にしている。

授業内容は、次のとおりである。

① 近・現代のアメリカ文学の代表作の内容、背景と作家について説明する。
② 作品の主な部分を日本語で輪読する。
③ 各作品の映画を鑑賞し、原作と比較した感想文を提出しなければならない。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

グローバル時代の世界文化の理解、国境を越えた情報化時代の教養知識を世界の文学作品を通して習得することで、建学精神の『至心』を持った人間づくりに寄与することを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

① 作品別に関連資料を自主的に調査して、演劇・映画・音楽・美術等を鑑賞、経験する。
② 作品別に原作（日本語版）と映画（DVD）の比較感想文を作成して、討論会を実施する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

① 連絡・問い合わせ・相談：研究室（453）にて随時受け付ける。
② オフィスアワー：＜水＞2-5限目
③ メール：jonhan@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

① 外部試験：該当なし
② 学習確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1)『黒猫・アッシャー家の崩壊』	エドガー・アラン・ポー 巽 孝之 訳	新潮文庫	978-4-10-202804-9
2)『グレート・ギャッツビー』	スコット・フィッツジェラルド 村上 春樹 訳	中央公論新社	4-12-403504-7
3)『ライ麦畑でつかまえて』	J.D. サリンジャー 野崎 孝 訳	白水ブックス	4-560-07051-2
4)『カッコーの巣の上で』	ケン・キージー 岩元 巌 訳	白水社	978-4-560-07192-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『面白いほどよくわかる世界の文学』	世界文学研究会	日本文芸社	978-4-537-25197-5

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

① 定期試験 ⇒ 40%、感想文 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 30%
② 平常点は、「討論会」と発表を基本とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（アメリカ文学の過去と現在）	
	事前学習（内容・時間）	アメリカの文学史に関する基礎調査をする。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「アメリカ文学」の資料論文を熟読する。(2時間)
第2回	『アッシャー家の崩壊』①　／　『The Fall of the House of Usher』: Edgar Allan Poe	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間)
第3回	『アッシャー家の崩壊』②　／　DVD映画鑑賞－1	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)
第4回	『アッシャー家の崩壊』③　／　DVD映画鑑賞－2	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)　／　感想文の作成、提出
第5回	『グレート・ギャッツビー』①　／　『The Great Gatsby』: Scott Fitzgerald	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間)
第6回	『グレート・ギャッツビー』②　／　DVD映画鑑賞－1	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)
第7回	『グレート・ギャッツビー』③　／　DVD映画鑑賞－2	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)　／　感想文の作成、提出
第8回	『グレート・ギャッツビー』④　／　DVD映画鑑賞－3　＜2013年版＞	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	DVD1、2と比較する。(2時間)
第9回	『ライ麦畑でつかまえて』①　／　『The catcher in the rye』: Jerome David Salinger	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間)
第10回	『ライ麦畑でつかまえて』②　／　DVD映画鑑賞－1	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)
第11回	『ライ麦畑でつかまえて』③　／　DVD映画鑑賞－2	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)　／　感想文の作成、提出
第12回	『カッコーの巣の上で』①　／　『One flew over the cuckoo’s nest』: Kenneth Elton Kesey	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間)
第13回	『カッコーの巣の上で』②　／　DVD映画鑑賞－1	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)
第14回	『カッコーの巣の上で』③　／　DVD映画鑑賞－2	
	事前学習（内容・時間）	和訳文を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	和訳文と映画を比較する。(2時間)　／　感想文の作成、提出
第15回	4作品のまとめと各作者の名言について	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	各作者の名言を「英文」「和文」で覚える。(2時間)
第16回（定期試験）	1. 指定作品の「背景」の説明と「主題」に関する意見を述べる。 2. 指定作者の名言を翻訳する。(英語⇔和文)	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6260-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本文化論	共通	1年生・後期	2単位	選択	進藤　康子	

履修の前提条件	日本の文化について関心を持っていること。日本語で日常会話が理解できること。授業中のディスカッションには積極的に参加すること。私語、遅刻厳禁です。

授業概要　（Course Outline）

留学生にも親しみやすい資料を用い、なるべく平易に解説する。授業の前に課題や問題点を調べておく。授業が終わってから自分の意見をまとめレポートを出すことを課する。①浮世絵などの「絵画資料」②ヨーロッパでのジャポニズム（ゴッホ・モネ・ルノアール・ゴーギャン）③「ひらがな・漢字・カタカナの歴史と成り立ち」を学ぶ。④和歌や俳句を実作指導する。日本文化を体感し、より深い理解に到達できるようになる。⑤「武道」「神道」「茶道」「香道」「書道」を担当を決めて発表することにより、「道」の文化の精神性を、より身近に具体的に理解できるようになる。⑥　江戸時代のマンガ（北斎漫画）や浮世絵など。⑧万葉集・源氏物語・雨月物語⑨日本独自の趣のある文化を時間軸に沿いながら総合的に学ぶことにより、日本人としてのアイデンティティーの確立と、建学の精神『至心』の根本理念に基づき、現代にもつながる日本文化の精神性への理解ができるようになる。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

日本の伝統文化、および歴史への考察を深め、正しく理解するために、この学科では、歌舞伎や浮世絵や、江戸時代の実物のカルタ遊びや、「茶道」、「書道」、「武士道」、「香道」、「忍者」、「和食」など「道」の文化の精神性について学ぶ。日本文化の根底にある、八百万神への畏敬の念を、留学生にもわかる様にかみ砕いて教えることにより、より的確に日本文化を理解できるようになることを目指している。又、百人一首や、福岡（博多）の歌人大隈言道の和歌を学び、和歌、俳句を実作することにより、言語感覚と、リズムを体感し、かつ、日本文化の「雅と俗」の基礎知識、建学の精神『至心』などへの理解をすることができる。江戸時代の漫画、現代につづくマンガについても採り上げ、浮世絵の歴史にも言及する。ヨーロッパにおける日本文化の評価の高さは、江戸時代の浮世絵になど関するジャポニズムの流行を知ることにより更に理解が深まる。これらの日本文化の質の高さを知ることにより、学生のアイデンティティーの確立に寄与するものとなることをも目指している。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学生が自主的にテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。対話型の授業を心がけています。学生から積極的に自分の考えを発言することを期待します。毎回の授業の終わりには、コメントカード、ミニレポートの作成・提出をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。　教室内の学習30時間→1コマ2時間（90分）×15週，　授業時間外学習60時間→事前学習2時間+事後学習2時間×15週

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談、質問は随時授業の終わりに受け付ける。また、ミニレポート提出先でも受け付ける。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオの作成と提出をお願いします。履修の目的、毎回の授業の内容、予習、復習、自己評価を記入し、授業第7回目の終わりと第15回目の終わりに提出してください。提出先は、ミニレポート提出と同じです。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本文学の歴史9 和歌文学大系　74　草径集	ドナルド・キーン 進藤　康子	中央公論社 明治書院	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（10%）レポート（10%）定期試験（80%）。平常点は、科目別履修状況チェック表の提出状況、授業の中で行うディスカッションの様子、積極的な発言、提案、質問の様子で判断する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション （授業の概要・授業の方針・受講上の諸注意などを説明する）	
	事前学習（内容・時間）	日本文化で興味のあるものは何かを自分で考え、いくつか見つけてくる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の概要・授業の方針を復習する。ポートフォリオを作成する。以後毎回。（2時間）
第2回	日本文化と伝統的年中行事　１ （日本文化の概観と世界の中の日本文化の特色の説明をする）	
	事前学習（内容・時間）	日本の伝統文化といえば、代表的なものは何かをいくつか調べて200字でまとめる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	年中行事について復習し、授業で習ったことと自分の感想をミニレポートを提出する（2時間）
第3回	日本文化と伝統的年中行事　２　（月の異称について説明する。）	
	事前学習（内容・時間）	日本の伝統的な年中行事を調べ、それはどんな願いが込められているか考えてくる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	年中行事と月の関係など授業で習ったことを200字でミニレポートに提出する。（2時間）
第4回	日本文化と絵画資料１（まんが資料・鳥獣戯画などを説明する）	
	事前学習（内容・時間）	日本のまんがで、あなたが好きなものは何か。また、北斎漫画についても調べてくる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本のまんがの歴史をまとめて、さらに興味をもったことは調べて、ミニレポート提出する。（2時間）
第5回	日本文化と絵画資料２（浮世絵・ジャポニズムについて説明する）	
	事前学習（内容・時間）	浮世絵について調べて200字でまとめておく。授業中に発表する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ジャポニズムとは何か。授業で習ったことを200字でまとめ、自分の感想も加えて。ミニレポート提出する。（2時間）
第6回	日本文化と絵画資料３（カルタ遊び・百人一首について説明する）	
	事前学習（内容・時間）	日本のカルタ遊びとは何か。また百人一首の歌を一首調べて意味を書いてくる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	百人一首かるたについて、授業で習ったことを200字で、ミニレポート提出する。（2時間）
第7回	日本文化と演劇・芸能 （歌舞伎・人形浄瑠璃文楽を説明する）	
	事前学習（内容・時間）	歌舞伎とはどんなものが調べて100字にまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオを提出する。（2時間）
第8回	いろは歌「いろはにほへと」、50音図「あいうえお」 の歴史を説明する。	
	事前学習（内容・時間）	「いろは」うたについて調べてくる。疑問点をまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「はひふへほ」と「ぱぴぷぺぽ」の歴史をまとめて、ミニレポート提出する。（2時間）
第9回	俳句の実作（松尾芭蕉・小林一茶・仙涯　などの楽しい俳句を紹介する）	
	事前学習（内容・時間）	俳句とは何かを調べて100字でまとめておく。また、有名な俳句を一句調べてくる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自分のオリジナルで、季節の俳句を作って、ミニレポート提出する。（2時間）
第10回	和歌１　和歌の実作（万葉集・古今集などの歌）と大宰府の歴史（梅花の宴「の坂本神社など）	
	事前学習（内容・時間）	和歌とは何かを調べて100字でまとめておく。第6回の「百人一首」の復讐をしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	和歌のすばらしさを200字でまとめ、また、和歌を一首作って、ミニレポート提出する。（2時間）
第11回	和歌２　歌人、大隈言道（おおくまことみち）と、橘曙覧（たちばなあけみ）の和歌について鑑賞する。	
	事前学習（内容・時間）	前回の授業の和歌についての疑問点、質問店をまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	橘曙覧「たのしみは」で始まる和歌にならって、「たのしみは」の和歌を作る（2時間）
第12回	日本を代表する物語、 源氏物語、雨月物語について解説する	
	事前学習（内容・時間）	源氏物語、雨月物語について調べて、200字でまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で習った源氏物語、雨月物語の特色を200字でミニレポート提出する。（2時間）
第13回	神道・茶道・華道・弓道・香道・武道・書道　など「道」の文化の根本理念と建学の精神について説明する。	
	事前学習（内容・時間）	神道・茶道・華道・弓道・香道・武道・書道のうち、自分の興味がある「道」を選んで調べる。
	事後学習（内容・時間）	授業で習った「道」について200字でまとめてミニレポート提出する。（2時間）
第14回	2回～13回までの授業の中で習たことについての復讐とミニテスト	
	事前学習（内容・時間）	2回～13回までの授業の中での振り返りテストのための質問を考えてくる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	復讐テストのやり直しをしてメール送付すること。（2時間）
第15回	レポートを発表し、内容についてデイスカッションする。定期試験に向けての学習と質問を受ける。	
	事前学習（内容・時間）	自分のテーマのレポートをまとめ、発表の練習をしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	定期テストのための勉強をして準備をする。ポートフォリオを提出する。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6710-12CS

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報倫理 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	共通	1年・後期	2単位	必修	丹羽　崇之	
履修の前提条件	新聞の切り抜きなどを続けて、情報社会、メディアの動向に注意すること。					

授業概要　（Course Outline）

情報通信技術の発達により、利便性は飛躍的に向上した。一方で、大規模な情報漏洩やサイバー攻撃、個人情報の不正利用、プライバシー侵害など、犯罪や権利侵害も深刻になっている。豊かで安心して暮らせる社会を目指すためには、情報に関するモラルやルールを構築することは極めて重要である。この授業では、情報社会を構成する個人として、情報倫理の知識を身につけ、自ら考え行動する力を養う。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

建学の精神をふまえ、情報社会の構成員として情報倫理の知識を十分に修得し、責任ある行動ができる。また、自分にかかわる人々の権利・利益を守ることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

情報とモラルをめぐる事例を取り上げ、ディスカッションする。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問は授業の前後のほか、オフィスアワーを積極的に活用してほしい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

情報学系の科目に加え、「知的所有権」、「法学」、「日本国憲法」、「民事法」、「会社法」などの法学系科目を受講することにより、理解を深めてもらいたい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『情報倫理〔第2版〕』	高橋・原田・佐藤・岡部	技術評論社	978-4297110819

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『情報社会と情報倫理』	梅本吉彦【編著】	丸善出版	978-4621304686

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（ディスカッションへの参加や小テスト）30点、筆記試験70点により総合的に評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	はじめに	
	事前学習（内容・時間）	「情報社会」にはどのような問題があるのか、新聞などで調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配付資料を読み返し、学んだこと、理解したことをまとめる（2時間）
第2回	情報倫理について	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１章を読み、「倫理」の意味と「情報倫理」の範囲を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、「情報倫理」の重要性を確認する（2時間）
第3回	情報社会について	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章を読み、「情報社会」の歴史を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、「情報社会」の特性を確認する（2時間）
第4回	ネット時代のコミュニケーション	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章を読み、情報化に伴うコミュニケーション手段の変遷について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、第3章の内容を整理する（2時間）
第5回	メディアの変遷について	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章を読み、「メディア」の歴史について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、現代における「倫理」の重要性を確認する（2時間）
第6回	メディア・リテラシー	
	事前学習（内容・時間）	教科書第5章を読み、「メディア・リテラシー」の定義について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、「メディア・リテラシー」の重要性を確認する（2時間）
第7回	情報技術とセキュリティ	
	事前学習（内容・時間）	教科書第6章を読み、情報技術とセキュリティについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、第6章の内容を整理する（2時間）
第8回	インターネットと犯罪	
	事前学習（内容・時間）	教科書第7章を読み、インターネットと犯罪について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、第7章の内容を整理する（2時間）
第9回	個人情報とプライバシー	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章を読み、「個人情報」「プライバシー」の意味を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、「個人情報保護」の重要性を確認する（2時間）
第10回	知的所有権とコンテンツ	
	事前学習（内容・時間）	教科書第9章を読み、「知的所有権」の意味と種類を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、「知的所有権」の保護について確認する（2時間）
第11回	企業と情報倫理	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１０章を読み、情報に関する企業の社会的責任について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書と配付資料を読み返し、企業の関係者が守るべき倫理について確認する（2時間）
第12回	ビッグデータとAIの倫理	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１２章を読み、ビッグデータとAIについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、１２章の内容を整理する（2時間）
第13回	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１３章を読み、ユニバーサルデザインについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、１３章の内容を整理する（2時間）
第14回	ソーシャルネットワークサービスと情報モラル	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１４章を読み、ソーシャルネットワークサービスについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、１４章の内容を整理する（2時間）
第15回	情報通信社会とリテラシー	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１５章を読み、情報リテラシーとメディアリテラシーについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書および講義内容について復習をし、１５章の内容を整理する（2時間）
第16回（定期試験）	筆記試験を課す。	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6080-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
哲学	219・220	1年生・後期	2単位	選択	坂上　宏	
政治学Ⅱ	～218					

履修の前提条件	①哲学や思想について関心を持っていること。②プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』を読了しておくことが望ましい。②4年生については、「政治学」の単位を取得した者の履修を認めません（履修規程第5条3項に基づく）。 ※禁止事項：不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。

授業概要　（Course Outline）

下記に掲げた古代ギリシアの哲学者の思想をとりあげて、国家（社会）と人間の相克と調和について考えていきます。また彼らの思想のうちで理想と現実の関係、ものの認識のありかたについても併せて講義し、古代ギリシア思想についての理解を深めていきたいと思います。特にアテナイにおける「徳」の意味するものについて留意しながら講義を進めていきますが、「徳」について考えることは、混迷の時代に暮すわれわれ現代人にとって、「善い生」についての何らかの示唆を与えることでしょう。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

古代ギリシア世界の偉大な哲学者の思想を通して、理想と現実の関係、国家（社会）と人間のあり方について学習し、その要点が理解できるようになることを目指しています。そして受講者それぞれが、国家（社会）と人間のあるべき姿について深く考え、「徳」のある生活を送るための素養を培うことがさらなる目標です。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。
毎回の授業の終わりにポートフォリオ＆ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（363）およびメール（sakagami@g.kiis.ac.jp）にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『ソクラテスの弁明・クリトン』『国家上・下』 『パイドン』『法律上・下』（プラトン） 『政治学』『ニコマコス倫理学』『形而上学上・下』（アリストテレス） 『生の短さについて他二篇』（セネカ） 『エピクロス―教説と手紙―』（エピクロス）		岩波文庫	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出）。
成績評価の基準　①ソフィストの思想について、特にプロタゴラスの思想およびフィシスとノモスについて理解しているか。②ソクラテスの思想について、特に無知の知、魂の配慮、真の知恵、国法と正義について理解しているか。③プラトンの思想について、特にイデアと洞窟の比喩、エロス（愛）、正しい国家と正しい人間の徳（四つの徳）、哲人政治について理解しているか。④アリストテレスの思想について、特に最高善と観照、中庸の徳、国制(民主制)、正義と友愛について理解しているか。 ⑤ストア派とエピクロス派の思想について、特に禁欲主義や不動心、快楽主義について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業の方針等、古代ギリシャ世界の形成と哲学の誕生：ﾌﾟﾘﾝﾄ1	
	事前学習（内容・時間）	徳のある生活とはどのようなものですか。第1回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自然哲学の特徴、内容について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第2回	古代ギリシャ世界の形成と哲学の誕生（続き）、ポリスと政治学の誕生：ﾌﾟﾘﾝﾄ2	
	事前学習（内容・時間）	アテナイの民主政と市民の立場について、第2回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	アリストテレスの言葉「人間は自然に（本性上）国的（ポリス的）動物である」の意味について説明してください。（2時間）
第3回	ポリスとソフィスト「あらゆるものの尺度であるのは人間だ」 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ3	
	事前学習（内容・時間）	ソフィストとはどのような人たちですか。第3回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プロタゴラスの言葉「あらゆるものの尺度であるのは人間だ」の内容について説明してください。（2時間）
第4回	ソクラテスの思想ー生涯と思想、無知の知、魂の配慮、真の知恵 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ4	
	事前学習（内容・時間）	ソクラテスが述べる「無知の知」とはどのような意味ですか。第4回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	魂の配慮についてソクラテスの考えを説明してください。（2時間）
第5回	ソクラテスの思想－福徳一致と知行合一、ソクラテスの死について ：ﾌﾟﾘﾝﾄ5	
	事前学習（内容・時間）	ソクラテスは、「幸福」についてどのように考えていますか。第5回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ソクラテスは、なぜ逃げずに死刑を受け入れたのでしょうか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第6回	ソクラテスの思想ーソクラテスの死について（続き）、プラトンの思想ーその生涯と思想 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ6	
	事前学習（内容・時間）	ソクラテスの死と知行合一、福徳一致について第6回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	哲人政治とはどういう意味ですか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第7回	プラトンの思想ー認識論、イデア論 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ7	
	事前学習（内容・時間）	あなたが見たものや考えたこと、言葉にして表した事物は、その事物の本当の姿でしょうか。第7回授業プリントを読んで答えてください。答えの理由も書いてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	イデアについてプラトンはどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第8回	プラトンの思想ーイデア論（洞窟の比喩）、哲人政治：ﾌﾟﾘﾝﾄ8	
	事前学習（内容・時間）	洞窟の比喩に関するプラトンの主張の要点について、第8回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「理想国家の徳」と「正しい国家、正しい人間」について、プラトンはどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第9回	プラトンの思想ー哲人政治（続き）、四つの徳 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ9	
	事前学習（内容・時間）	プラトンは「真の哲学者」についてどのように述べていますか。第9回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	正しい国家の四つの徳について授業の内容を説明してください。（2時間）
第10回	アリストテレスの思想ープラトン哲学への批判、形相と質量 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ10	
	事前学習（内容・時間）	プラトンのイデア論に対するアリストテレスの批判の要点について、第10回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	形相と質料の関係についてアリストテレスはどのように考えていますか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第11回	アリストテレスの思想ー可能態と現実態、善と幸福と徳、観照的な活動 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ11	
	事前学習（内容・時間）	あらゆる事物、あらゆる運動の目的についてアリストテレスはどのように考えていますか。第11回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	観照的な活動とはどのような意味ですか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第12回	アリストテレスの思想ー知性的徳と倫理的徳、徳のあり方～中庸、国制論 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ12	
	事前学習（内容・時間）	知性的徳と倫理的徳についてのアリストテレスの考えを第12回の授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	アリストテレスは正しい政治（国制）のあり方についてどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第13回	アリストテレスの思想ー国制論（続き）、正義と友愛 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ13	
	事前学習（内容・時間）	配分的正義と矯正的正義の意味について、アリストテレスの考えを第13回の授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	アリストテレスは、最善の政治についてどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第14回	ヘレニズム時代の思想ーストア派の思想 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ14	
	事前学習（内容・時間）	ヘレニズム時代の思想の特徴と代表的思想について、第14回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ストア派の主張する禁欲主義について、授業の内容を説明してください。（2時間）
第15回	ヘレニズム時代の思想ーエピクロス派の思想 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ15	
	事前学習（内容・時間）	エピクロスの主張「魂の平静さ」とはどのような意味ですか。第15回の授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	エピクロスの主張「快楽主義」について、授業の内容を説明してください。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6450-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
法学	共通	1年生・前期	2単位	選択	丹羽 崇之	
履修の前提条件	常日頃から新聞をよく読んでおくこと。					

授業概要 （Course Outline）

現代社会は社会的・経済的諸活動などあらゆる生活領域が法的関係に取り囲まれている。とりわけ、経営・情報などの分野では多様かつ複雑な法的問題に触れる機会も多く、これらの分野の従事者は法的なものの見方、リーガルマインドの涵養が要請される。そこで、本科目では、建学の精神をふまえ、これからの個別領域での法律学の習得のための端緒としてその導入部的理解を進めた上で、適宜経営・情報等の分野での事例を素材としながら、法学の基礎を学ぶ。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

本科目は、以下の授業計画にしたがって法学領域全般にかかわる基礎的理解を得ることにより、「法的なものの考え方」・「リーガルマインド」習得のための第一歩を踏み出し、法学部門で中心的領域を占める憲法・刑法・民法など各法令の特質と相違の概略を知ることにある。そのうえで、この科目を出発点とし、今後の各種法分野の知見を習得し、研修を重ねることにより、リーガルマインドが涵養されることとなる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

事例をあげながら、学生諸君に適用法令、法律関係を考えてもらう。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。（提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。）
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
法学入門	宍戸常寿・石川博康編	有斐閣	978-4-64126183

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ポケット六法　令和4年版	佐伯・大村編	有斐閣	978-4641009226
法律学小辞典	高橋和之他	有斐閣	978-4641000292

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（ミニテスト、レポート）30%、定期試験70%により総合評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス　法の学び方	
	事前学習（内容・時間）	法の学び方を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	法の学び方について復習する（2時間）
第2回	法とは何か	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１章を読み、法とは何かについて考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第１章を読み返し、法とは何か、法の解釈と適用について復習する（2時間）
第3回	法と手続	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章1を読み、「法と手続」について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章1を読み返し、「法と手続」について復習する（2時間）
第4回	民法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章2を読み、民法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章2を読み返し、民法について復習する（2時間）
第5回	犯罪と法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章3を読み、刑事法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章3を読み返し、刑事法について復習する（2時間）
第6回	憲法（総論・統治）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章4を読み、立憲主義について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章4を読み返し、立憲主義について復習する（2時間）
第7回	憲法（人権）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章4を読み、基本的人権について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章4を読み返し、基本的人権について復習する（2時間）
第8回	ライフスタイルと法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章1を読み、家族法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章1を読み返し、家族法について復習する（2時間）
第9回	人々の暮らしと法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章2を読み、労働法、消費者法、不法行為法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章2を読み返し、労働法、消費者法、不法行為法について復習する（2時間）
第10回	組織に関する法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章3を読み、法人、地方公共団体について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章3を読み返し、法人、地方公共団体について復習する（2時間）
第11回	市場にかかわる法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章4を読み、契約法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章4を読み返し、契約法について復習する（2時間）
第12回	公益実現のための法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章6を読み、公益実現のための法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章6を読み返し、公益実現のための法について復習する（2時間）
第13回	情報にまつわる法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章6を読み、情報にまつわる法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章6を読み返し、情報にまつわる法について復習する（2時間）
第14回	グローバル社会の法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章7を読み、国際法について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章7を読み返し、国際法について復習する（2時間）
第15回	近代法の確立と修正	
	事前学習（内容・時間）	教科書第４章を読み、近代法の確立と修正について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第４章を読み返し、近代法の確立と修正について復習する（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6240-12ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本国憲法 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	共通	1年生・後期	2単位	選択	吉野　正	
履修の前提条件	前期の法学を履修済みであることが望ましい。また、日本社会に関心をもっていること。					

授業概要　（Course Outline）

めまぐるしく発展する現代社会の中で生じてきた憲法のさまざまな論点を理解することを通じて、憲法の基本的な知識としくみについて解説します。この講義では、特に日本国憲法において実際の社会で生じた具体的な事件に焦点を当てながら皆さん自身の立場や価値観を見つめなおす機会にしてもらいたいと思います。なお、教職課程を目指す受講者には、教育者として学生のもつ人権に配慮することの意味と役割について理解することができるようになることを求めます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

以下の3点を授業の目標とします。
①日本国憲法の基礎知識・用語法を習得し、説明できること
②日本国憲法をめぐって生じた争いや具体的な事件の背後にある立場や考え方の違いを説明できること
③日本国憲法の学説や判例の立場の違いを理解したうえで自分自身の立場を明確にしながら説明できること

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回、講義においてかなりの文章量を小レポートとして書くように求めます。日本国憲法の裁判例では意見や立場の違いから争いがしばしば生じますが、受講生には自分としてはどちらが正しいのかを主張してもらい、その主張に対する理由づけをしてもらうつもりです。このことには受講生の能動的な参加が不可欠です。積極的に取り組んでください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

講義の開始前後を使って質問などは受け付けます。時間がない場合などはコメントカードを通じて質問の受付を行う予定です。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

講義は板書を用いて行いますので、初回からノートを必ず持参してください。
また、初回のガイダンスにおいて教員作成の毎回の学習確認のチェックリストを配布します。そこに毎回の予習・復習の範囲を書いていますので、必ず初回のガイダンスには出席してください。
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
目で見る憲法 【第5版】	初宿正典ほか	有斐閣	978-4-641-22735-4

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
別途、配布資料にて紹介します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（授業内容15回分に関して到達目標①と②の観点から出題）…70%
毎回の小レポート（到達目標③の観点から出題、1回2点×15回）…30%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	憲法と法律のちがい	
	事前学習（内容・時間）	憲法と法律のちがいを教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第2回	日本国憲法の成立史	
	事前学習（内容・時間）	憲法の成立史を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第3回	日本国憲法の基本原理、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義	
	事前学習（内容・時間）	3原理を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第4回	国民主権と天皇制	
	事前学習（内容・時間）	天皇制を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第5回	平和主義	
	事前学習（内容・時間）	憲法前文を5回読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第6回	基本的人権　幸福追求権	
	事前学習（内容・時間）	憲法11条から13条まで考えておく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第7回	基本的人権　法の下の平等	
	事前学習（内容・時間）	平等と自由の違いを教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第8回	精神的自由権	
	事前学習（内容・時間）	表現の自由を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第9回	経済的自由権	
	事前学習（内容・時間）	営業の自由を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第10回	社会権（生存権と教育を受ける権利）	
	事前学習（内容・時間）	ストライキ権を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第11回	参政権	
	事前学習（内容・時間）	一票の価値の不平等について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第12回	民主政治のしくみ　立法（国会）	
	事前学習（内容・時間）	何故二院があるのか教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第13回	行政（内閣）	
	事前学習（内容・時間）	内閣総理大臣の選任手続きについて教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第14回	司法（裁判所）	
	事前学習（内容・時間）	違憲審査権について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第15回	地方自治	
	事前学習（内容・時間）	県知事と県議会の関係について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第16回（定期試験）	定期試験など	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5650-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
社会学	219～	1年生・後期	2単位	選択	平田 毅	
社会学Ⅱ	～218					
履修の前提条件	自己と、自己をとりまく他者（＝社会）について、洞察しようとする姿勢をもっていること。					

授業概要 （Course Outline）

この授業では、現代社会の諸事象について社会学的に考察していきます。その際、最も大切なことは、自らの生活感覚（リアル）と重ね合わせて理解し検証することです。つまり自ら論理的に「考える」ことです。
そこでこの授業では、現代社会について、都市化、消費文化、情報化の3つの領域をとりあげ、それぞれの観点を通して現代社会のあり方を考察していきます。
なお,本授業はディプロマポリシーのVに基づき、「社会の様々な事象について、複眼的な知識・理解や汎用的技能を獲得し、それらを総合的に活用して、自らが立てた新たな課題に適用させることにより、その課題を解決することができる主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得」するための一助として位置づけられています。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

・現代社会に生起する諸事象の文化的特質と構造を理解し、それを自らのリアリティと重ねて検証することができる。
・レポート作成や定期試験、授業での討議活動などを通して、自らの「考え」を社会学的に根拠づけて論理的に展開できる力を養う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

基本的には対話型の授業スタイルで学習を進めていきます。授業時間中の私の問いかけには主体的に応えてください。みなさんから質問や疑問点がある場合も適宜発話してください。相互のコミュニケーションを通して学習を深められることを期待しています。
必要に応じて、全体もしくはグループでの討論・討議を通した授業も実施します。自ら考え、積極的に発言することで、みんなで学ぶ場を豊かにしていってください。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

授業終了後に私に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。
メールアドレス： t-hirata@kiis.ac.jp

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

GoogleClassroomを活用して「学び」の構築を図ります。
毎授業時間に「社会学『学び』のまとめシート」を記入し、今日の学びを振り返ってもらいます。しっかり、文章で記入するようにしてください。
また、この授業では、学びの足跡を定着させるために、各自で「ノート」の作成することを重視しています。それぞれが自分の「社会学のノートをつくる」ことを念頭に置いて取り組んでください。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出してください。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
なし （資料等を配布します）			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
放課後の社会学	大多和直樹	北樹出版	978-4-7793-0427

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

論述式の期末試験の成績（80%）をベースに、
プレレポート（10%）・「学び」の記録＆振り返りシート（10%）などを加味し、
総合的に評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	社会学概論（1） 社会学一歩前（授業ガイダンス、「社会学」とはどんな学問だろう？　社会学で学ぶこと）	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読む。「社会学」という学問領域についてネット等で下調べをしておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。プレレポートのテーマに即して作成の構想を練る。[2h]
第2回	社会学概論（2） 社会学 はじめの一歩（「社会」とは何か？「社会」研究・2つのアプローチ、社会学の方法論）	
	事前学習（内容・時間）	プレレポートを作成する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第3回	マックス・ウェーバーの社会学（方法論的個人主義、社会的行為と行為連関）	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第4回	現代社会を読み解く（1）　都市社会としての現代社会① 都市とは何か、「都市」の社会学的定義	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第5回	現代社会を読み解く（2）　都市社会としての現代社会② 都市と村落の比較、都市/村落二分法	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第6回	現代社会を読み解く（3）　都市社会としての現代社会③ ゲマインシャフトからゲゼルシャフト　近代的価値原理としての都市文化	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第7回	現代社会を読み解く（4）　都市社会としての現代社会④ 都市化とアーバニズム　都市文化の特徴	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第8回	現代社会を読み解く（5）　都市文化の浸透と消費文化の興隆① 都市文化のスペクタクル　祝祭空間としての都市	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第9回	現代社会を読み解く（6）　都市文化の浸透と消費文化の興隆② 百貨店と都市・消費文化の形成	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第10回	現代社会を読み解く（7）　記号的消費と消費社会① 消費社会とは何か　記号消費の時代	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第11回	現代社会を読み解く（8）　記号的消費と消費社会② ボードリヤールの消費社会論　記号化する社会・情報化する社会	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第12回	現代社会を読み解く（9）　情報社会としての現代社会① 情報化と情報社会（IT化の進展と情報文化）	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第13回	現代社会を読み解く（10）　情報社会としての現代社会② ICT化の進展とコミュニケーションの変容	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第14回	現代社会を読み解く（11）　グルーバル化する現代社会 グローバル化する社会、ローカル化する社会、地球規模化のなか社会と文化の行方	
	事前学習（内容・時間）	提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。（復習）[2h]
第15回	まとめ 現代の社会を生きるために、「社会学する」ということ	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業のキーワードを復習し、授業全体を振り返っておく。（予習）[2h]
	事後学習（内容・時間）	これまでの配付資料とノートを見直し・整理し総復習をする。[2h]
第16回（定期試験）	論述問題にて出題します。	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5890-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
政治学	219～	1年生・前期	2単位	選択	坂上　宏	
政治学Ⅰ	～218					

履修の前提条件	①政治学や政治思想について関心を持っていること。②下記の参考書のうちでいずれかに目を通しておくことが望ましい。③留年生については、「政治学Ⅱ」の単位を取得した者の履修は認めません（履修規程第5条3項に基づく）。※禁止事項：不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。

授業概要　（Course Outline）

近代西欧において、個人の諸権利の擁護を目的とした民主主義思想が生まれ、さらに自律的な人格を目指す近代的自我の思想が確立しました。本講義では主としてホッブズ、ロック、ルソーの思想をとりあげて、このような近代民主主義思想の主軸をなす社会契約論と「独立した個人」のあり方について講義します。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

近代西欧思想の歴史に燦然とそびえ立つホッブズ、ロック、ルソーの思想の学習を通して、受講者が近代民主主義思想の特質とその歴史的背景、および個人の主体性と道徳的自由の意味について理解できるようになることを目指しています。そして受講者自身が、国家(社会)と人間のあるべき姿について深く考え、真の自由(人間らしい自由)を実践しようとする資質を養うことがさらなる目標です。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。
毎回の授業の終わりにポートフォリオ＆ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（363）およびメール（sakagami@g.kiis.ac.jp）にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『リヴァイアサン1-4』 『完訳 統治二論』『人間知性論1-4』 『社会契約論』 『人間不平等起原論』 『エミール上中下』	ホッブズ ロック ルソー ルソー ルソー	岩波文庫	4003362330,4003300000 4003362217,2225,2233 4003362330 4003300000 4003362217,2225,2233

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出)。
成績評価の基準：①近代民主主義思想の誕生の歴史的背景およびデカルトの合理論、ベーコンの経験論の要点を説明できるか。 ②ホッブズの社会契約説について、自然権（自己保存を追求する自由）、「各人の各人に対する戦い」という言葉を使って説明できるか。 ③ロックの社会契約説について、固有権、信託、抵抗権という言葉を使って説明できるか。　④ルソーの社会契約説について、「人間はいたるところで鎖につながれている」、憐みの情、一般意志という言葉を使って説明できるか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業の方針など、国家における個人の権利と義務、ホッブズの思想－その生涯と清教徒革命 :ﾌﾟﾘﾝﾄ1	
	事前学習（内容・時間）	社会契約説とは何ですか。第1回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ホッブズの著書『リヴァイアサン』の出版の目的について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第2回	ホッブズの思想－その生涯と清教徒革命（続き）、認識論 :ﾌﾟﾘﾝﾄ2	
	事前学習（内容・時間）	ホッブズの機械論的自然観と社会観について、第2回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ホッブズは、人間の認識がどのようにして生まれると考えていましたか。授業の内容を説明してください。（2時間）
第3回	ホッブズの思想一人間性について、自己保存と戦争、自然権と自然状態 :ﾌﾟﾘﾝﾄ3	
	事前学習（内容・時間）	ホッブズの考える人間性の本質について、第3回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ホッブズの言葉「各人の各人に対する戦争」について、自然権と自然状態という言葉を使って説明してください。（2時間）
第4回	ホッブズの思想一自然法、社会契約 :ﾌﾟﾘﾝﾄ4	
	事前学習（内容・時間）	ホッブズが述べている第一の自然法、第二の自然法、第三の自然法について、第4回授業プリントを読んでその内容を説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ホッブズの社会契約説について、授業ではどのように述べられていましたか。
第5回	ホッブズの思想一社会契約（続き） :ﾌﾟﾘﾝﾄ5	
	事前学習（内容・時間）	ホッブズが述べている統治者（主権者）の主権のあり方について、第5回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ホッブズの政治思想に対する批判と意義について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第6回	ロックの思想－ジョン・ロックの生涯と名誉革命 :ﾌﾟﾘﾝﾄ6	
	事前学習（内容・時間）	ロックの政治思想の意義について、第6回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ロックの著書『統治二論』の主な内容について説明してください。（2時間）
第7回	ロックの思想—ロックの認識論 :ﾌﾟﾘﾝﾄ7	
	事前学習（内容・時間）	ロックは生得観念についてどのように考えていましたか。第7回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	経験の種類としての「感覚」と「内省」について、ロックの考えを説明してください。（2時間）
第8回	ロックの思想一絶対王政批判（父権論批判）、自然状態、自然権、自然法 :ﾌﾟﾘﾝﾄ8	
	事前学習（内容・時間）	『統治二論』の主な内容と出版の社会的・政治的背景について、第8回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ロックは自然状態における人間性についてどのように述べていますか。（2時間）
第9回	ロックの思想一自然状態、自然権、自然法（続き）：固有権 :ﾌﾟﾘﾝﾄ9	
	事前学習（内容・時間）	ロックは、固有権についてどのように述べていますか。第9回の授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ロックは、自然法についてどのように説明していますか。（2時間）
第10回	ロックの思想一社会契約説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ10	
	事前学習（内容・時間）	ロックの社会契約説について、第10回の授業プリントを読んで、「信託」という言葉を使って説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ロックの社会契約説に関して、「抵抗権」とはどのような意味ですか。（2時間）
第11回	ルソーの思想一ルソーの生涯と思想、自然状態における人間 :ﾌﾟﾘﾝﾄ11	
	事前学習（内容・時間）	ルソーの理想とする社会について、第11回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ルソーは、人間の自然状態をどのように説明していますか。（2時間）
第12回	ルソーの思想一自然状態における人間（続き）～憐れみの情、自然状態、自然権、自然法、社会状態と不平等 :ﾌﾟﾘﾝﾄ12	
	事前学習（内容・時間）	ルソーは、憐れみの情についてどのように述べていますか。第12回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ルソーは、社会状態と不平等についてどのように説明していますか。（2時間）
第13回	ルソーの思想一社会状態と不平等（続き）、社会契約説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ13	
	事前学習（内容・時間）	ルソーの社会契約説の特徴A～Fについて、第13回授業プリントを読んで書いてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ルソーの言葉「個人のすべての権利や身体を国家へ譲渡する」とはどういう意味ですか。その目的は何ですか。（2時間）
第14回	ルソーの思想一社会契約説（続き）「一般意思」 :ﾌﾟﾘﾝﾄ14	
	事前学習（内容・時間）	ルソーの思想「一般意志」について、第14回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ルソーが主張する直接民主政について説明してください。（2時間） 直接民主政について
第15回	ルソーの思想一社会契約説（続き）「政治と人間の改革」 :ﾌﾟﾘﾝﾄ15	
	事前学習（内容・時間）	ルソーの社会契約説の意義と目的として、「政治と人間の改革」とはどのような意味ですか。第15回授業プリントといままでの授業の内容を踏まえて説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ルソーの思想がその後の世界に与えた影響について説明してください。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5420-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経済学	219～	1年生・前期	2単位	選択	坂本　徹	
経済学Ⅰ	～218					

履修の前提条件	テキストを通読して、家計や企業　政府が日々どのような経済活動をし、結果としてどのような市場の様相を引き起こしているか、著者の見方と考え方に接しておいて欲しい。

授業概要　（Course Outline）

国民所得の対前年伸び率が年々変化する様子を見ると、好景気・不景気がある周期で繰り返されていることが分かる。その原因については諸説あるものの、ある範囲内の上下動は通常の経済活動の結果であって、経営手腕のみせどころでさえある。ただ過度の変動はインフレーションや失業を引き起こし、経済問題を超えた社会不安の震源となることから、安定成長を図って種々の対策が採られる。本講義ではそれ等（例えば増減税、公共支出の増加と抑制、利子率の上げ下げ）がどのような考え方に基づいて決定され、どのような結果をもたらすかを説明する。ディプロマポリシーに基づき、この授業では経済学についての基礎レベルについて説明します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

日頃見聞する経済ニュースを手がかりにして現況を判断し、将来を見通す力を養う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

テキストの通読、事前学習を通して自身の考えをまとめておいて下さい。それから生じる疑問点・意見は、できるだけその場で聞いて、理解を深める訓練を習慣付けて行きたい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目（12:50～16:00）をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

経済学検定、ファイナンシャルプランナー、日商簿記検定などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる	井堀利宏	角川文庫	ISBN-978-4-04-604057-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
明快ミクロ経済学	荏開津　典生	日本評論社	ISBN4-535-55198-7
明快マクロ経済学	荏開津　典生	日本評論社	ISBN4-535-55310-6

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

評価　＝　受講姿勢　＋　定期試験評価
　　3　　：　　7

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	経済学の成り立ち	
	事前学習（内容・時間）	経済学が取り扱う範囲、経済学の歴史、家計・企業の経済行動のいずれか1つについて、下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の関心事がどういう経済的背景を持っているかについてまとめて下さい。（2時間）
第2回	需要曲線・供給曲線	
	事前学習（内容・時間）	需要と効用最大化、供給と利潤最大化について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	価格・数量平面においてその第1象限にひかれた曲線はある価格と数量の組み合わせを表していることを具体例で示す練習をしてみて下さい。（2時間）
第3回	市場の均衡	
	事前学習（内容・時間）	市場における価格決定のメカニズムについて下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	市場均衡点が示す均衡数量と均衡価格の解釈を具体例を挙げてまとめてみて下さい。（2時間）
第4回	市場取引の利益	
	事前学習（内容・時間）	「社会的余剰」について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「消費者余剰」「生産者余剰」が市場均衡点において最大となることを確かめてみて下さい。（2時間）
第5回	資源配分の効率性、「見えざる手」	
	事前学習（内容・時間）	「本源的生産要素」について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	土地・労働・資本が一国の中で適正に利用されている状態とはどんな時かまとめてみて下さい。（2時間）
第6回	所得配分	
	事前学習（内容・時間）	「生産要素市場」について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	土地に対しては「地代」が、労働に対しては「賃金」が、資本に対しては「利子」（2時間）
第7回	バブル経済とその崩壊	
	事前学習（内容・時間）	バブル経済、失われた20年、の2つについて下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「貨幣数量説」の立場で1960年代～現在までのGDPとマネーサプライの関係をまめて下さい。（2時間）
第8回	GDP（国内総生産）とは何か	
	事前学習（内容・時間）	主たる経済指標の1つであるGDPについて下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「国民所得」をどの指標でどうとらえるかについてまとめて下さい。（2時間）
第9回	GDPには生産機械の価値の目減り分が含まれる	
	事前学習（内容・時間）	会計学でいう減価償却について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	GDPに含まれないものとその理由について、あなたの理解をまとめて下さい。（2時間）
第10回	フローとストック	
	事前学習（内容・時間）	フローとストックの意味を経済学の視点から調べてみて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	GDPが毎年の生産物（フロー）であり、それを生み出しているのが国内の生産設備（ストック）であるが、おおまかな循環についての理解をまとめてみて下さい。（2時間）
第11回	三面等価の原則	
	事前学習（内容・時間）	経済学における「生産」「分配」「支出」について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	生産物がどのように分配され、それがどのように支出に回るかの循環についてあなたの理解をまとめてみて下さい。（2時間）
第12回	国民所得の決定メカニズム	
	事前学習（内容・時間）	もう一度GDPの三面等価を復習しておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	有効需要の大きさが現実のGDPを決めるが、これと資源配分との関係について下調べをしておいて下さい。（2時間）
第13回	家計の消費行動	
	事前学習（内容・時間）	あなたは収入の内、何%を支出していますか？大体で良いですから直近一か月の収支について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	予算制約の下で効用を最大化することについて、身近な具体例をあげた説明をまとめてみて下さい。（2時間）
第14回	企業の投資行動	
	事前学習（内容・時間）	投資の分類について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	一国の集計量でみた投資が貯蓄となることを説明して見て下さい。（2時間）
第15回	政府の存在	
	事前学習（内容・時間）	政府の一般会計（2020年度）について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	租税と公共支出が有効需要を制御する過程をまとめてみて下さい。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6250-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本事情	219～	1年生・前期	2単位	選択	坂上　宏	
日本事情B	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	大日本帝国憲法および日本国憲法の条文に目を通しておくことが望ましい。※履修規程第5条3項に基づいて原則として外国人留学生は全員履修すること、日本人の履修は認めない。※禁止事項：不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。

授業概要　（Course Outline）

授業では、近現代における日本の政治・経済に関わる事情をなるべく平易に解説します。まず政治については、天皇、国会、内閣の権能について、大日本帝国憲法および日本国憲法の条文を比較しながら説明します。次にサンフランシスコ講和条約以降の日本の平和外交の歩みについて説明します。経済については、第二次大戦後の経済復興、高度経済成長、バブル経済とその破綻などについて説明します。必要に応じて、現代日本が直面している主要な問題についても言及したいと思います。本講義によって、留学生が近現代の日本の政治経済事情について理解を深めることができれば幸いです。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」、カリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

①明治維新以後の天皇の立場および日本の政治制度（特に国会、内閣）の変化について理解できるようになること。
②現代日本外交の主な特徴について理解できるようになること。
③現代日本の経済発展の経緯と特徴、産業構造とその変容について理解できるようになること。
④現代日本社会の諸問題について理解できるようになること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。
毎回の授業の終わりにポートフォリオ＆ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（363）およびメール（sakagami@g.kiis.ac.jp）にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『詳説　政治・経済』	山崎 広明	山川出版	463470062X
『もういちど読む山川政治経済』	〃	〃	4634590670
『日本の歴史〈26〉よみがえる日本』	蝋山 政道	中公文庫	412204748X
『戦後と高度成長の終焉 日本の歴史24 』	河野 康子	講談社学術文庫	4062919249

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出）。
成績評価の基準 ：①大日本帝国憲法および日本国憲法における天皇、国会、内閣の権能について理解しているか。②日本外交の平和主義の特徴について理解しているか。③日米同盟と日本の戦後外交の歩みについて理解しているか。④戦後の日本の経済再建と経済の民主化について理解しているか。⑤日本の高度経済成長とその要因および産業構造の特徴について理解しているか。⑥戦後日本の主要な社会問題の内容と原因について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	近代日本の出発：立憲主義について、江戸時代から明治時代へ（立憲国家への歩み） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ1	
	事前学習（内容・時間）	立憲主義とは何ですか。第1回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	江戸時代から明治時代になって、日本の政治は大きく変わりました。授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第2回	近代日本の出発：江戸時代から明治時代へ（立憲国家への歩み 続き）、大日本憲法の制定と国会の開設 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ2	
	事前学習（内容・時間）	日本における近代立憲国家の誕生について、第2回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	大日本帝国憲法の主な特徴について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第3回	日本国憲法の成立と民主主義の発展～太平洋戦争の敗戦、民主化と非武装、日本国憲法の公布と施行、日本国憲法の三大要素 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ3	
	事前学習（内容・時間）	日本国憲法の三大要素について、第3回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本国憲法は、「天皇の地位と主権在民」についてどのように定めていますか。（2時間）
第4回	大日本帝国憲法における天皇の立場（元首、万世一系、天皇主権）、日本国憲法における天皇の立場（象徴としての存在） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ4	
	事前学習（内容・時間）	大日本帝国憲法における天皇の地位について、第4回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本国憲法における天皇の地位について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第5回	日本国憲法における天皇の立場 続き（権限と国事行為）、天皇と日本の宗教、文化、 大日本帝国憲法における国会の役割（天皇の立法権に対する協賛機関） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ5	
	事前学習（内容・時間）	日本国憲法における天皇の権限と国事行為について、第5回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	大日本帝国憲法における帝国議会（国会）の役割について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第6回	大日本帝国憲法における国会の役割 続き（貴族院と衆議院、立憲主義）、なぜ帝国議会は戦争を防げなかったか（議会と軍部） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ6	
	事前学習（内容・時間）	帝国議会における貴族院と衆議院の違いについて、第6回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	帝国議会と立憲主義について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第7回	日本国憲法における国会の役割（国民主権と代表民主制、国権の最高機関、国の唯一の立法機関、衆議院と参議院）：ﾌﾟﾘﾝﾄ7	
	事前学習（内容・時間）	日本国憲法前文と第一条は、主権についてどのように述べていますか。第7回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本国憲法第41条は、「国会は、国権の最高機関であつて、国の唯一の立法機関である。」と規定していますが、その意味について説明してください。（2時間）

第8回	大日本帝国憲法における内閣の立場（天皇の輔弼機関）、日本国憲法における内閣の立場（最高の行政権、議院内閣制）：ﾌﾟﾘﾝﾄ8	
	事前学習（内容・時間）	大日本帝国憲法における内閣の立場について、第8回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本国憲法における内閣の立場について説明してください。（2時間）
第9回	日本国憲法における内閣の立場 続き（内閣総理大臣の立場と権限、内閣の職務）、三権分立と民主主義 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ9	
	事前学習（内容・時間）	内閣総理大臣の立場と権限について、第9回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	三権分立について説明してください。（2時間）
第10回	戦後日本の外交（平和主義と日本国憲法第9条、現在の防衛政策の原則、日米同盟と日米安全保障条約） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ10	
	事前学習（内容・時間）	日本国憲法第9条の内容について、第10回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日米安全保障条約の特徴とその意味について説明してください。（2時間）
第11回	戦後日本の外交（国際連合への加盟と対ソ連（ロシア）関係、日・中関係、日・朝鮮半島関係）、第二次世界大戦後の日本経済の民主化と改革（財閥解体、農地改革、労働の民主化） ：ﾌﾟﾘﾝﾄ11	
	事前学習（内容・時間）	日中平和条約（1978年）第2条で規定している「反覇権」とはどのような意味ですか。第11回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	戦後日本の経済の三大改革について説明してください。（2時間）
第12回	高度経済成長、産業構造の高度化、オイルショックと低成長 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ12	
	事前学習（内容・時間）	高度経済成長の5つの要因について、第12回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	オイルショックが日本経済に与えた影響について説明してください。（2時間）
第13回	バブル経済とその崩壊、資源・エネルギー問題 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ13	
	事前学習（内容・時間）	日本のバブル経済はなぜ生まれたのでしょうか。第13回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本の資源・エネルギー対策について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第14回	公害問題、少子高齢化と社会福祉 ：ﾌﾟﾘﾝﾄ14	
	事前学習（内容・時間）	公害問題が日本で深刻になった理由について、第14日授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	憲法第25条が規定している生存権とはどのような意味ですか。（2時間）
第15回	少子高齢化と社会福祉 続き ：ﾌﾟﾘﾝﾄ15	
	事前学習（内容・時間）	少子高齢化の問題点について、第15回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	社会福祉の問題解決の2つの見方について説明してください。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

ナンバリング（Numbering）
1GGB-5270-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
基礎数学	共通	1年生・前期	2単位	選択	宮﨑　武	

履修の前提条件	高校までの数学を復習して講義に臨むこと.

授業概要　（Course Outline）

情報、経済、経営などの分野では、現象のモデル化やシミュレーションによって現状把握や将来予測などが盛んに行われています。本講義では，ディプロマポリシーに基づき，モデル化の基礎となる数学を理解し、数学がどのように使われ、活用されているかを学びます。また、統計学に必要となってくる確率についても学習します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

【知識】
・定義・定理を説明できる。
・問題演習において、適切な定義・定理を選択できる。
・定義・定理を適切に使用できる。
【態度・習慣】
・疑問点を尋ねることができる。
・講義に参加できる。
【技能】
・例題を模倣し、演習問題を解くことができる。
・時間内で、与えられた問題を解くことができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義中にはできなかった練習問題・応用問題などを自ら進んで解くこと。
講義中に随時演習時間を設けるので，積極的に取り組むこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室（653）を訪ねること。
オフィスアワーの時間は、掲示を参照すること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基礎数学 式計算から微積の初歩まで	小澤善隆　編集 永井　敦　他	裳華房	ISBN978-4-7853-1556-6

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
適宜紹介する.			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（10%），演習ノート（40%）、定期試験（50%）の総合評価とします。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	数の分類と文字式	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第2回	式の計算１ （展開と因数分解）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第3回	式の計算２ （方程式と不等式）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第4回	式の計算３ （複素数と2次方程式）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第5回	式の計算４ （整式の割り算と因数定理）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第6回	関数１ （１次関数、２次関数）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第7回	関数２ （分数関数、無理関数）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第8回	関数３ （指数関数、対数関数）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第9回	関数４ （三角関数）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第10回	関数５ （関数の極限）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第11回	関数６ （微分と積分）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第12回	確率１ （順列・組み合わせ）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第13回	確率２ （数学的確率・統計的確率）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第14回	確率３ （条件付き確率）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行う。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は 書籍やWebなどを通して確実に理解する。(2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5870-21DT

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ウェルネス （教職関連科目 必 高等学校 情報）	220～	1年生・前期	1単位	選択	竹石　洋介	
スポーツ実技Ⅰ （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219	2年生・前期		選択必修		
ウェルネス （教職関連科目 必 高等学校 情報）	～218	1年生・前期		選択		

履修の前提条件	必ず運動のできる、汗をかいてもよい服装を用意し、体育館においては室内履きの着用をすること。授業を受ける上での最低限のマナーを守ること（私語を慎む、飴やガムを食べながら、携帯電話やメールをしながら・・・など）。

授業概要　（Course Outline）

今日、生活習慣病やストレスによる精神的疾患が急増し、大学教育における健康・体力づくりの意義が強調されています。また、高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に、生涯にわたって健康を維持し、生きがいある生活を実現するため運動の重要性が著しく高まりつつあります。授業は、建学の精神を踏まえ、形態・体力の測定を行い、次に運動の方法を学びながら学習目標に到達出来るようにする。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

① 健康・体力づくりの必要性と方法を理解し、客観的に自身の生活を見直すことのできる。
②基本的な運動を実践できる。
③運動を通じてマナーの修得や人間関係の改善と向上を図ることが出来る。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

健康に関してのテーマに基づいてディスカッションを行います。積極的に参加することが望まれます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（502）にて随時受け付けます。yousuke@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシートに必要事項を記入して竹石までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
実習ノート ソフトボール教室	吉村 正	大修館書店	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
The GOLFRULES 日本一わかりやすいゴルフの教科書	マイク青木 深見 悦司	日本ヴォーグ社 成美堂出版	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点70%、授業態度等30%を加味して総合的に評価します。本授業は実技授業のため、特に授業に取り組む姿勢を重視します。
※体育館の使用規則を守れない学生は評価しません。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（実習ノート作成・クラス分け・他）	
	事前学習（内容・時間）	シラバスの確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	授業内容の復習（30分）
第2回	形態・脈拍数のチェック、肥満度・運動強度の設定（心拍数測定、BMI計算）	
	事前学習（内容・時間）	健康維持増進のために必要だと思うことを具体的にピックアップしておく（30分）
	事後学習（内容・時間）	日常の中でのウォーキング、ジョギングを、心拍数を計測して評価する（30分）
第3回	①体力測定（握力・上体起こし・長座体前屈）・バドミントン（基礎的技術習得）	
	事前学習（内容・時間）	ストレッチの種類・方法について調べる・バトミントンのルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	実施したストレッチの目的と方法を確認し実践する・バトミントンの技術確認（30分）
第4回	②体力測定（立ち幅跳び・反復横跳び）・バドミントン（ルール説明と試合）	
	事前学習（内容・時間）	ストレッチの種類・方法について調べる・バトミントンのルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	実施したストレッチの目的と方法を確認し、実践する・バトミントンの技術確認（30分）
第5回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有	
	事前学習（内容・時間）	ゴルフ・ソフトボールのルールの確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールのルールの復習（30分）
第6回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有	
	事前学習（内容・時間）	ゴルフ・ソフトボールの技術の確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールの技術の復習（30分）
第7回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有	
	事前学習（内容・時間）	ゴルフ・ソフトボールの技術の確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールの技術の復習（30分）
第8回	③体力測定（50m走）　・　バドミントン（ルール説明と試合）	
	事前学習（内容・時間）	無酸素運動とは何か、またその効果を調べる・バトミントンのルールの確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	各自の目的に応じた運動強度を把握する・バトミントンの技術の確認（30分）
第9回	④体力測定（ハンドボール投げ）　・　卓球（基礎的技術習得）	
	事前学習（内容・時間）	ストレッチの種類・方法について調べる・卓球のルールの確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	ストレッチ、卓球の技術の復習（30分）
第10回	⑤体力測定（シャトルラン）　・　卓球（ルール説明と試合）	
	事前学習（内容・時間）	有酸素運動とは何か、またその効果を調べる・卓球のルールの確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	各自の目的に応じた運動強度を把握する・卓球の技術の復習（30分）
第11回	体力測定と自己評価　・　卓球（試合）	
	事前学習（内容・時間）	健康維持増進のために必要だと思うことを考える・卓球の技術の確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	現在の生活の中でできる健康維持を考える・卓球の技術の復習（30分）
第12回	ウォーミングアップとストレッチ　・　フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	ストレッチングの種類・方法について調べておく（30分）
	事後学習（内容・時間）	実施したストレッチングの目的と方法を確認し、実践する（30分）
第13回	目標心拍数を用いたウォーキング及びジョギング　・　フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	有酸素運動の効果を調べておく（30分）
	事後学習（内容・時間）	有酸素運動に応じた運動強度のエクササイズを実践してみる（30分）
第14回	SAQトレーニングとバランストレーニング	
	事前学習（内容・時間）	バランスボールの特徴と効果について調べる（30分）
	事後学習（内容・時間）	プリントのエクササイズのポイントを確認しておく（30分）
第15回	レポート発表と提出	
	事前学習（内容・時間）	健康や身体づくりのために必要なエクササイズを調べる（30分）
	事後学習（内容・時間）	習得した運動を生かして健康を考える（30分）
第16回（定期試験）	テストをする	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5880-21DT

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
スポーツ （教職関連科目 必 高等学校 情報）	220～	1年生・後期	1単位	選択	竹石　洋介	
スポーツ実技Ⅱ （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219	2年生・後期		選択必修		
スポーツ （教職関連科目 必 高等学校 情報）	～218	1年生・後期		選択		

履修の前提条件	必ず運動のできる、汗をかいてもよい服装を用意し、体育館においては室内履きの着用をすること。授業を受ける上での最低限のマナーを守ること（私語を認めない、飴やガムを食べながら、携帯電話、メールをしながら・・・など）。

授業概要　（Course Outline）

スポーツには、「するスポーツ」・「見るスポーツ」・「ささえるスポーツ」・「きわめるスポーツ」と様々な性質を持っており、私達の身近な生活に存在しています。特に、現代は高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に健康・体力づくりの意識が高まりつつある中、スポーツは運動の一つとして捉えられ、より健康で充実した生活を送るための方法として役割を担うようになってきました。
授業では、建学の精神を踏まえて、指定されているスポーツを実践していく中で、ルールを理解し、基本的な技術を学び学習目標に到達出来るようにする。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①各スポーツを通じて健康・体力づくりの必要性を理解できる。
②各スポーツの基本的なルールや技術を養い、ゲーム（試合）ができる。
③各スポーツのルールからマナーを養い、より良い人間関係を構築できる。
これらの実践を通じてスポーツの心地よさを体感し、生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力と態度を身につける。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

スポーツに関してのテーマに基づいてディスカッションを行います。積極的に参加することを望みます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（502）にて随時受け付けます。yousuke@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシートに必要事項を記入して竹石までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
実習ノート ソフトボール教室	吉村 正	大修館書店	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
The GOLFRULES 日本一わかりやすいゴルフの教科書	マイク青木 深見 悦司	日本ヴォーグ社 成美堂出版	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点20%、実技試験80%、平常点は、レポートの提出状況、授業の中で行うディスカッションの様子などで判断する。
※体育館の使用規則を守れない学生は評価しません。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション　実習ノート作成	
	事前学習（内容・時間）	シラバスの確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容の復習（2時間）
第2回	バドミントン（基礎的技術習得）	
	事前学習（内容・時間）	サーブ・ドライブについて調べる（30分）
	事後学習（内容・時間）	改善点をまとめる（30分）
第3回	バドミントン（ルール説明と試合）	
	事前学習（内容・時間）	スマッシュについて調べる（30分）
	事後学習（内容・時間）	改善点をまとめる（30分）
第4回	バドミントン（試合）	
	事前学習（内容・時間）	シングルスの目標を立てる（30分）
	事後学習（内容・時間）	試合結果を振り返り、まとめる（30分）
第5回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有　ゴルフに関する基礎知識(ルール・マナー)・ソフトボールの基礎	
	事前学習（内容・時間）	ゴルフのルール確認・ソフトボールの必要なルールを確認する（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第6回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有　スイングの基礎（グリップ、スイング）・（キャッチング、バッティング）	
	事前学習（内容・時間）	スイング技術を理解する・ソフトボールに必要な基本技術を確認する（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第7回	ゴルフ・ソフトボール　※天候により変更有　実践的なショット・ソフトボール（チーム練習・試合）	
	事前学習（内容・時間）	ゴルフの技術確認をしておくこと・ソフトボールの試合のルールを確認する（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第8回	卓球（基礎的技術習得）	
	事前学習（内容・時間）	卓球の技術確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	卓球の技術の復習（30分）
第9回	卓球（ルール説明と試合）	
	事前学習（内容・時間）	卓球のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	卓球のルール、技術の復習（30分）
第10回	卓球（試合）	
	事前学習（内容・時間）	卓球のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	試合の改善点をまとめる（30分）
第11回	フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	各種目のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第12回	フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	各種目のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第13回	フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	各種目のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第14回	フリースポーツ（バドミントン／卓球選択）	
	事前学習（内容・時間）	各種目のルール確認（30分）
	事後学習（内容・時間）	次回への改善点をまとめる（30分）
第15回	レポートの発表と提出	
	事前学習（内容・時間）	習得した競技のまとめ（30分）
	事後学習（内容・時間）	習得した競技を生かして健康を考える（30分）
第16回（定期試験）	テストを行う	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-6700-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
スポーツ理論	220～ ～218	2年生・前期	2単位	選択	桑野裕文	

履修の前提条件	スホーツに関心があり、スポーツの実践を心掛けている人.

授業概要 （Course Outline）

建学の精神「至心」を進んで実践しようとする豊かな人間性を備えた人材を養成するために、授業内容は1. 発育発達に応じた運動とスポーツの実践 2. 各種トレーニング法 3. スポーツ文化 4. スポーツの歴史 とする。演習の時間（「2. 各種トレーニング法」トレーニング機器を用いての測定）は、履修生が相互に関連しあいながら精神性（相手をおもいやる心）と行動性（相互に助け合う）を高めるための時間であり、建学の精神の「報恩感謝、慈悲慈愛と奉仕」の具現化を目指している。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル Mathematics	
	情報リテラシー Information Literacy	
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力 Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力 Self-management	○
	チームワーク Teamwork	○
	リーダーシップ Leadership	
	倫理観 Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	○
	生涯学習力 Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

豊かなスポーツライフを送るための基礎知識とスポーツ実践法への理解を深める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

①スポーツクラブでのトレーニング体験。②スポーツイベントへの参加及びボランティア活動

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

研究室（359研究室）、オフィスアワー時間内、部活動指導時間内に随時受け付ける。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

スポーツ関連の講座参加者、シスポーツ関資格有資格者は成績評価の対象とする。ポートフォリオシートに必要事項記入し提出。

教科書 （Textbooks）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
教員作成資料配布。			

参考文献 （Reference Books）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
教養としてのスポーツ科学	鈴木一行	大修館	4－469－26521－7

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

発表・レポート（20%）、小テスト・有資格者（20%）、定期試験（60%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	1. スポーツ　（1）スポーツと体育の違い（成り立ち）	
	事前学習（内容・時間）	「運動」・「体育」・「スポーツ」が゜どのように使い分けられているか調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	好きなスポーツの起源について調べる。（2時間）
第2回	（2）日本のスポーツ（歴史、競技スポーツ、ニュースポーツ）と世界のスポーツ	
	事前学習（内容・時間）	スポーツ人口の多いスポーツ種目を調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日本版スポーツ起源年表を作成する。（2時間）
第3回	（3）世界のスポーツ（歴史、組織）	
	事前学習（内容・時間）	世界のスポーツ起源年表を作成する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	世界（日本を含む）スポーツ起源年表を完成させる。（2時間）
第4回	（4）オリンピック（歴史、商業オリンピック、オリンピックムーブメント）	
	事前学習（内容・時間）	1964年東京オリンピックと2020東京オリンピックの実施種目について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	オリンピックの将来像（2024パリオリンピック）を考える。（2時間）
第5回	2. トレーニング　（1）トレーニングの原則、栄養・休養・運動	
	事前学習（内容・時間）	生活の様々な場面での心拍数（脈拍数）を計る。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	運動前と運動中と運動後の心拍数（脈拍数）を計る。（2時間）
第6回	（2）年齢別・種目別トレーニング	
	事前学習（内容・時間）	室内でできるトレーニングを作る。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	日常生活の中で実践可能なトレーニングを作る。（2時間）
第7回	（3）スポーツマッサージ、テーピング、準備運動とクールダウン	
	事前学習（内容・時間）	体の一部のスポーツマッサージを実践する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	回りの人（家族、友人、他）にスポーツマッサージを実践する。（2時間）
第8回	（4）ウェイトトレーニング（ベンチプレスの測定、ダンベルを使ってのトレーニング）	
	事前学習（内容・時間）	トレーニング機器に触れてみる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	トレーニング機器を使ってトレーニングを実践する。（2時間）

第9回	3. スポーツライフ　（1）スポーツクラブ（企業スポーツクラブ、総合型スポーツクラブ、他）	
	事前学習（内容・時間）	スポーツの盛んな会社を調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	スポーツクラブ所有する会社のを種目別・業種別一覧を作成する。（2時間）
第10回	（2）スポーツイベント（参加型イベント、観るイベント、世界規模のスポーツイベント）	
	事前学習（内容・時間）	これまでに出場したスポーツ大会の主催者について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	スポーツイベ゜ントの規模別の主催、主管、後援、協賛を調べる。（2時間）
第11回	（3）プロスポーツ（プロ野球、サッカー、相撲、他）	
	事前学習（内容・時間）	回り・身近なプロスポーツ選手の経歴について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	回り・身近なプロスポーツ選手の引退後について調べる。（2時間）
第12回	（4）スポーツメディア	
	事前学習（内容・時間）	スポーツメディア一覧を作成する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	スポーツ番組とバラェテイ番組の視聴率の比較を行いその要因について考える。（2時間）
第13回	（5）スポーツ傷害（傷害と障害、発育期の障害、種目別傷害）と予防	
	事前学習（内容・時間）	回りの人（家族、友人、他）のスポーツにおける怪我防止策について情報収集する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	回りの人（家族、友人、他）リハビリの方法・手段についてインタビューしまとめる。（2時間）
第14回	（6）スポーツとルール（ルールの機能と構造）	
	事前学習（内容・時間）	好きなスポーツのルールの変遷について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	好きなスポーツのルール改正案提示する。（2時間）
第15回	（7）スポーツ行政とスポーツの将来像	
	事前学習（内容・時間）	スポーツ庁の設立について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	オリンピックの将来像について考える。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GGN-5140-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ウェルネス理論	220～	2年生・後期	2単位	選択	桑野裕文	
	219	2年生・前期				
	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	「スポーツ・健康に関する意識調査」及び「食生活の調査」の提出者。

授業概要　（Course Outline）

本学建学の精神の「至心」は誠実さで積極果敢に事に臨む精神的態度であり、「容（かたち）は心を呼び、心は容を呼ぶ」は動変容の基本原理である。本講義では精神性と行動性を高める学問としての、1．健康維持増進　2．運動・栄養・休養のバランスのとれた生活　3．生活習慣病、疾病、感染症への理解とその予防法　を学習し、「優れた社会人たるにふさわしい豊かな人間性」と「優れた科学者たる豊かな人間性」を兼ね備えた人材養成を目指す。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①食生活、②病気、予防・医療へ理解を深める　②健康診断の習慣化。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

定期的に体重と血圧の測定を行う。「熱中症対策」・「感染症対策」のポスター作成・掲示の広報活動。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

研究室（359研究室）、オフィスアワー時間内、部活動指導時間内に随時受け付ける。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

医療機関を利用しての健康診断の受診を促す。献血の広報活動等への積極的な関与を促す。
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
適宜プリントを配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
健康・運動・スポーツの科学	鈴木一行	大修館書店	978-4－469－26654－2

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

発表・レポート提出（20%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	1．ウェルネスとは　（1）健康観の変遷とヒトの発育発達	
	事前学習（内容・時間）	「感染症対策」のポスター作成。スポーツ・健康に関する意識調査」と「食生活調査」の確認。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自分の生活スタイルを考え「健康〇〇」としてまとめる（書きだす）。第2回目に提出。（2時間）
第2回	（2）健康寿命（平均寿命と健康寿命の違い、死因の推移、他）	
	事前学習（内容・時間）	第1回目授業中に配布したプリントを読んで疑問点などをまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	次回の小テスト（第2回の振り返りテスト）勉強・復習。小テスト対策としての復習の習慣化はかる。（2時間）
第3回	2．体の仕組みと疾病　（1）仕組み（脳・感覚器官、血液・血圧・循環器官、呼吸器官、消化器官）と痛み	
	事前学習（内容・時間）	自分自身のこれまでの病気歴をまとめる。及び「母子手帳」の確認。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	履修前提条件に提出した「スポーツ・健康にかんする意識調査」と疾病についてまとめる。（2時間）
第4回	（2）生活習慣病とメタボリックシンドローム	
	事前学習（内容・時間）	自分の日常生活と周りの人々（家族や友人など）の生活習慣の違いについて調べておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	インフルエンザなどの感染症の現状について調べている。（2時間）
第5回	（3）感染症生活習慣病とメタボリックシンドローム	
	事前学習（内容・時間）	食生活を記録する（第10回「ライフスタイル」の時間に発表する）。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「感染症対策」のポスター作成（次回提出）。（2時間）
第6回	（4）健康と生活環境（住居、気象）	
	事前学習（内容・時間）	自分の住んでいる部屋の掃除及び家の周辺の安全確認（危険な場所の有無）。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	屋内（家の中、自分の部屋、他）でできる手軽な運動の実践。（2時間）
第7回	3．健康生活　（1）健康と運動（有酸素性運動、水中運動、ウォーキング）	
	事前学習（内容・時間）	屋外でできる手軽な運動の実践。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	屋内外でできる手軽な運動を企画・立案し、実践する。（2時間）
第8回	（2）癒し（睡眠、入浴、温泉、森林浴）	
	事前学習（内容・時間）	国内の温泉地について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	近くの公園での散歩または軽登山の実践。（2時間）

第9回	（3）薬（西洋薬・漢方薬、飲み方・保管方法）と医療行政（保険、介護）	
	事前学習（内容・時間）	自分の「お薬手帳」の確認。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	常備薬の保存方法の確認及び見直し。（2時間）
第10回	4．ウェルネの危機　（1）ライフスタイル（栄養摂取と食習慣）	
	事前学習（内容・時間）	履修前提条件提出の「食生活調査」の調査内容について確認。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	周りの人（家族、友人、他）のBMIを計算する。（2時間）
第11回	4．ウェルネの危機　（1）ライフスタイル（未病、健康診断、予防医療）	
	事前学習（内容・時間）	自分のこれまでの健康診断の確認。（健康診断表等記録があれは授業時に持参する）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	これまでの予防接種について接種歴について確認する。（2時間）
第12回	5．発表とディスカッション　（1）学生個々の興味・関心の高いテーマについて発表（1テーマ10分）。	
	事前学習（内容・時間）	発表資料の作成。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	発表内容に対する、意見・質問について調べる。（2時間）
第13回	（2）学生個々の興味・関心の高いテーマについて発表（1テーマ10分）。デスカッション（1テーマ5分）	
	事前学習（内容・時間）	第12回で発表した発表への意見・質問等について調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第13回での発表内容に対する、意見・質問について調べる。（2時間）
第14回	6測定結果の集計と分析（1）各自の摂取カロリーの集計と分析	
	事前学習（内容・時間）	1週間の自分の食事（摂取した食物）についてまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	回りの人（家族、友人、他）の食事生活について調査する。（2時間）
第15回	（2）血圧測定の集計と分析	
	事前学習（内容・時間）	授業内（第2回から14回まで血圧測定実施）での血圧測定値を集計する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第1回から15回までの内容について定期試験に備えて復習する。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-5940-12CS

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
総合英語	共通	1年生・前期	2単位	必修	藤内　響子 内田　水生	
履修の前提条件	事前学習をきちんと行うこと。熱意を持って授業に取り組むこと。					

授業概要　（Course Outline）

TOEICへの架け橋として活用されているTOEIC Bridgeの問題を利用して、基礎的また実用的な英語を学ぶ。なお、この授業は、本学のディプロマポリシーに基づき行われます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

日常的で身近な英語に慣れ親しみ、近年次第に重要視されつつある、英検やTOEIC受験にも役立つような基礎的、実用的な英語を学ぶ。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学生の積極的な参加を期待します。疑問に感じたことは必ず質問として用意し、他人の質問についても授業の中の議論に積極的に参加して常に考え続ける姿勢を持ってください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

随時研究室（272）にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。
ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Practical TOEIC Bridge: L&R Tests	アリソン　キツマン 三原　京　他	南雲堂	978－4－523－17908－5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
なし。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Activities	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第2回	Eating Out	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第3回	Entertainment	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第4回	Travel	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第5回	Housing	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第6回	School	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第7回	Health	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第8回	Shopping	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第9回	Family	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第10回	News	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第11回	Job Hunting	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第12回	Advertisements	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第13回	Office Work	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第14回	Office Messages	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第15回	Meetings	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-0190-12ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英検中級・TOEIC基礎	221～ ～218	1年生・後期	2単位	選択	藤内　響子	
履修の前提条件	事前学習をきちんと行うこと。熱意を持って授業に取り組むこと。 前期に総合英語を受講していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

特にTOEICを受験する場合に必要な文法事項を厳選し、必要な項目を効率的に学習する。
学習者にとって必要不可欠なものを無駄なく学ぶ。なお、この授業は、本学のディプロマポリシーに基づき行われます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

英語の基本的な文法事項の再確認を効率的に行い、高校までに学んだ英語の力を活性化させる。英語のより高度な運用技能を養うための基礎力の確保および維持を目的とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学生の積極的な参加を期待します。疑問に感じたことは必ず質問として用意し、他人の質問についても授業の中の議論に積極的に参加して常に考え続ける姿勢を持ってください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

随時研究室（272）にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。
ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Practical Grammar for the TOEIC Test	古家　聡、櫻井千佳子、マーク・ショーラム	南雲堂	978-4-523-17679-4

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
なし。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	品詞の種類	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第2回	動詞（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第3回	動詞（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第4回	助動詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第5回	不定詞と動名詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第6回	分詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第7回	形容詞と副詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第8回	前置詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第9回	接続詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第10回	名詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第11回	代名詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第12回	比較	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第13回	関係詞	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第14回	仮定法	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第15回	Part6対策	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。各項目ごとに、文法用語の把握と確認をきちんとしておくこと。わからない単語の下調べを十分に行うこと。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書・ノート等で授業内容を確認し、疑問点や間違った部分を中心に見直しを行い、理解を深めてください。予習の際の知らない単語を集めた、オリジナルの単語帳を作成し常に確認できるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-5170-12ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英会話Basic Ⅰ	共通	1年生・前期	2単位	選択	クリス　フリン	
履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること					

授業概要　（Course Outline）

テキストに沿って海外旅行で使う英会話をプレゼンテーションを交えながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫する。英検の2次試験の模擬試験も毎週練習する。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP）、学習目標（学則1，3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。
オフィスアワー：火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。
試験日　6月、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、7月30日までに　フリンまでメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Passport 1 English for International Communication	Angela Buckingham Lewis Lansford	Oxford University Press	978-0-19-4718186-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30%
・成績評価の基準：①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introduction to spoken English	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Introducing yourself and your family	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	Speaker controlling techniques	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	Text Chapter 1 Ordering a meal on a plane	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Text Chapter 2 Going through	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Text Chapter 3 Talking about your family	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Text Chapter 4 Staying at a friend's house	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Text Chapter 5 Ordering at a restaurant	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第9回	Text Chapter 6 Asking directions	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Text Chapter 7 Going to a bank	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Text Chapter 8 Booking a hotel room	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Text Chapter 9 Buying medicine	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Eiken interview techniques L3, LP2, L2	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Text Chapter 10 Small talk with friends	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第15回	BUILD MY TEST preparation	
	事前学習（内容・時間）	定期試験のための原稿をまとめる、講義中添削してもらう。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	BUILD MY TEST 原稿をペアと一緒に練習する。(2hr)
第16回（定期試験）	定期試験。テストを参考にした原稿を(先生の前で)発表する。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-5180-12ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英会話BasicⅡ	共通	1年生・後期	2単位	選択	クリス　フリン	
履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること					

授業概要　（Course Outline）

英会話Basic 1　に続いてテキストに沿って海外旅行で使う英会話をプレゼンテーションを交えながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫する。英検の2次試験の模擬試験も毎週練習する。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP)、学習目標（学則1, 3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。
オフィスアワー：火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。
試験日　1月　、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに　フリンまでメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Passport 1 English for International Communication	Angela Buckingham Lewis Lansford	Oxford University Press	978-0-19-4718186-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30%
・成績評価の基準：①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Orientation	
	事前学習（内容・時間）	教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Text Chapter 11 Visiting a Tourist Information Center	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	Text Chapter 12 Talking about experiences	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	Text Chapter 13 Talking about sport	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Text Chapter 14 Organising meeting times	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Text Chapter 15 Shopping and bargaining	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Text Chapter 16 Sending mail and parcels	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Text Chapter 17 Discussing things to do at tourist destinations	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第9回	Text Chapter 18 Dealing with lost property	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Text Chapter 19 Using public transportation	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Text Chapter 20 Looking back on a trip	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Eiken test interview techniques LP2	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Eiken interview techniques L3, LP2, L2	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Speech presentation	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第15回	Review/Speech	
	事前学習（内容・時間）	定期試験のための原稿をまとめる、講義中添削してもらう。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	BUILD MY TEST 原稿をペアと一緒に練習する。(2hr)
第16回（定期試験）	定期試験。テストを参考にした原稿を(先生の前で)発表する。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-5150-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英会話Advanced Ⅰ	共通	2年生・前期	2単位	選択	クリス　フリン	
履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること					

授業概要 （Course Outline）

テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP)、学習目標（学則1, 3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論（DEBATE）できるようになることとTOEIC 800, 英検の2・準1級の2次試験を合格できるレベルを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。
オフィスアワー：火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。試験日　1月、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。 TOEICは学外で受験。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに　フリン　までメールで提出してください。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Challenge Book #4	Helene Uchida	Little America Press	978-4-947736-55-0

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30%
・成績評価の基準：①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introductions 自己紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Introducing family and friends 家族の紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	English quiz and games 英語のクイズ大会	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	English quiz and games 英語のクイズ大会	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Presentation Test 発表テスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Study a movie scene 映画シーンのせりふを覚えよう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Restaurants 好きなレストランの紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Studying the lyrics of a song 歌の歌詞を勉強しよう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)

第9回	My school days 懐かしい学校時代を思い出そう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Talking about travel 思い出の旅行	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Presentation Test 発表テスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Talking about music 好きなアーティスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Talking about movies 好きな映画	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Eiken interview test techniques L2 英検2次試験演習 2級	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第15回	Presentation test practice 発表テスト練習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第16回（定期試験）	定期試験 学生が準備した会話を発表する。ペアでプリンどなしで会話を発表。	

ナンバリング(Numbering)
1GLN-5160-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英会話Advanced II	共通	2年生・後期	2単位	選択	クリス フリン	
履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること					

授業概要 (Course Outline)

テキストに沿って英語の対話力を身に付ける。毎週のダイアログを復習して、教室で発表する。日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。また毎週スピーチや会話を発表する。テキストに加えて動画、ネットコンテンツ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるようにする。英検の準2級と2級の2次試験形式を毎週練習する。建学の精神、3つのポリシー(CP, DP)、学習目標(学則1, 3条)に基づいています。

授業を通して修得できる力 (Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル Mathematics	
	情報リテラシー Information Literacy	○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力 Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力 Self-management	
	チームワーク Teamwork	○
	リーダーシップ Leadership	
	倫理観 Ethical Sense	
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	
	生涯学習力 Lifelong Learning	○

到達目標 (Objectives)

21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。英検のLISTENING問題も定期的にします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)

連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。
オフィスアワー:火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

外部試験:英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。
試験日 6月 、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。
学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、7月30日までに フリンまでメールで提出してください。

教科書 (Textbooks)

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
Challenge Book #4	Helene Uchida	Little America Press	978-4-947736-55-0

参考文献 (Reference Books)

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)

・成績評価の方法:定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30%
・成績評価の基準:①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introductions 自己紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Introducing family and friends 家族の紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	English quiz and games 英語のクイズ大会	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	English quiz and games 英語のクイズ大会	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Presentation Test 発表テスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Study a movie scene 映画シーンのせりふを覚えよう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Restaurants 好きなレストランの紹介	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Studying the lyrics of a song 歌の歌詞を勉強しよう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)

第9回	My school days 懐かしい学校時代を思い出そう	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Talking about travel 思い出の旅行	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Presentation Test 発表テスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Talking about music 好きなアーティスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Talking about movies 好きな映画	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Eiken interview test techniques L2 英検2次試験演習 2級	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	テストで使う会話原稿を準備して、提出。(2hr)
第15回	Presentation test practice 発表テスト練習	
	事前学習（内容・時間）	添削されたテストで使う会話原稿を練習。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第16回（定期試験）	定期試験 学生が準備した会話を発表する。ペアでプリンどなしで会話を発表。	

ナンバリング(Numbering)
1GLN-5810-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
初級中国語	219～	2年生・前期	2単位	選択	喬　秦寧	
	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	①中国文化・中国語に興味があること　②授業に積極的に参加すること。

授業概要　(Course Outline)

この授業は建学の精神『至心』に基づいて、初めて中国語を学習する人を対象とする講義を行う。本講義履修を通じて、中国文化への理解、社会的スキルとしてのコミュニケーション能力と協同力の向上を目指している。

発音編では、声調、母音、子音などを学ぶ。発音練習を繰り返し行うことにより、発音の基礎を身に着ける。本篇では、日常会話と講読を中心に、基本的な文法項目、語彙などを学ぶ。対話練習と翻訳練習を通して学習事項の定着を図ると同時に「コミュニケーション能力」と「他者と協同する能力」を高める。さらに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。

授業概要:

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

1. 会話、文法ポイント、短文の学習と読解による発音・語彙・文法の理解に基づいて、中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎力を身に着けることを目標とする。
2. コミュニケーション能力と協同力が向上できる。
（中国語検定試験準4級程度）

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

対話型の授業を心がけると同時に、協同学習を促進し、グループ活動を重視する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

オフィスアワー：授業終了後（火曜日2限目～）
連絡方法：kyo@g.kiis.ac.jp

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

・学習の確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」に必要事項を毎回授業後記入し、学期末に必ず提出する。
・外部試験：「中国語検定試験」の受験を勧める。試験日：3月、6月、11月の第4日曜日。詳細は後日連絡する。
http://www.chuken.gr.jp　受験料：3300円。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「中国語への道」	内田慶市、奥村佳代子、塩山正純ら	金星堂	978-4-7647-073-8

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「作文のルール」	相原茂 他	朝日出版社	978-4-255-45138-1

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

定期試験（50%）、宿題・練習問題の完成度・「科目別履修確認チェック表」（30%）、授業態度（20%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	1.ガイダンス、中国語とは 2.第1課　声調、単母音、複母音、子音①、軽声①	
	事前学習（内容・時間）	なぜ中国語を履修するのか、中国の何について興味があるのかを考えて、授業の時に発表する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 繰り返しP12-14のCDを聴き、声調、単母音、複母音、子音①、軽声①を復習する。特に声調に慣れる。 2. 第一課の会話を日本語に訳す（2時間）
第2回	第2課　1、会話　2. 子音②、鼻母音、変調のパターン①	
	事前学習（内容・時間）	CDを繰り返し聴き、特にそり舌音と鼻母音に慣れる。P15-16（2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. CDを繰り返し聞き、特に有気音と無気音になれる。2. 会話を日本語に訳し、暗記できる　P15-17（2時間）
第3回	第3課　数字、基本語彙リスト、よく使う量詞、軽声②、変調パターン①②	
	事前学習（内容・時間）	CD1-25～1-31を繰り返し聞き、中国語のリズムに慣れる。P18-19（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第3課の会話を日本語に訳し、暗記できる。数字の表現と値段の表現を身に着ける。　P18-19（2時間）
第4回	発音まとめ、自己紹介、小テスト	
	事前学習（内容・時間）	繰り返しCDを聴き、r化された言葉、声調の組み合わせの言葉の発音リズムをつかむ。P18-20（2時間）
	事後学習（内容・時間）	繰り返しCDを聴き、第3課の会話とP21の決まり文句の会話表現を暗記できるようになる。P18-21（2時間）
第5回	第4課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P22（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①文法ポイントを理解し、日本語に翻訳する。②会話文を繰り返し聞き、暗記できるほど真似て音読する。このように中国語のリズム感を養う。P22-23（2時間）
第6回	第4課二回目　文法説明、閲読の読解・練習、練習問題の学習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読のCDを繰り返し聞き、その独特なリズムになれる。P24（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①スマートフォンの録音機能を利用して、第4課の会話（P22）と閲読（P24）を録音して、音声メッセージとして提出する。②P81-82の小テストを90点以上取れるまで練習する。（2時間）
第7回	第5課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P 26（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①文法ポイントを理解し、日本語に翻訳する。②会話文を繰り返し聞き、暗記できるほど真似て音読する。このように中国語のリズム感を養う。P26-27（2時間）
第8回	第5課二回目　文法説明、閲読の読解・練習、練習問題の学習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読のCDを繰り返し聞き、その独特なリズム感になれる。P28（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①スマートフォンの録音機能を利用して、第5課の会話（P26）と閲読（P28）を録音して、音声メッセージとして提出する。②P83-84の小テストを90点以上取れるまで練習する。（2時間）
第9回	第6課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P 30（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①文法ポイントを理解し、日本語に翻訳する。②会話文を繰り返し聞き、暗記できるほど真似て音読する。このように中国語のリズム感を養う。P30-31（2時間）
第10回	第6課二回目　文法説明、閲読の読解・練習、練習問題の学習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読のCDを繰り返し聞き、その独特なリズムになれる。P32（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①スマートフォンの録音機能を利用して、第6課の会話（P30）と閲読（P32）を録音して、音声メッセージとして提出する。②P85-86の小テストを90点以上取れるまで練習する。（2時間）
第11回	第7課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P 34（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①文法ポイントを理解し、日本語に翻訳する。②会話文を繰り返し聞き、暗記できるほど真似て音読する。このように中国語のリズム感を養う。P34-35（2時間）
第12回	第7課二回目　文法説明、閲読の読解・練習、練習問題の学習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読のCDを繰り返し聞き、その独特なリズムになれる。P36（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①スマートフォンの録音機能を利用して、第7課の会話（P34）と閲読（P36）を録音して、音声メッセージとして提出する。②P87-88の小テストを完成する。（2時間）
第13回	第8課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P 30（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①文法ポイントを理解し、日本語に翻訳する。②会話文を繰り返し聞き、暗記できるほど真似て音読する。このように中国語のリズム感を養う。P38-39（2時間）
第14回	第8課二回目　文法説明、閲読の読解・練習、練習問題の学習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読のCDを繰り返し聞き、その独特なリズム感になれる。P40（2時間）
	事後学習（内容・時間）	①スマートフォンの録音機能を利用して、第8課の会話（P38）と閲読（P40）を録音して、音声メッセージとして提出する。②P89-90の小テストを完成する。（2時間）
第15回	総合復習	
	事前学習（内容・時間）	第4課～第8課の小テストをもう一回チャレンジする。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	総合復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6000-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中級中国語	219～	2年生・後期	2単位	選択	喬　秦寧	
	～218 経営情報学科	2年生・前期				
履修の前提条件	基本的に「初級中国語」を履修済み、或いは同等レベルの持つ人を対象とする。					

授業概要　（Course Outline）

この授業は建学の精神『至心』に基づいて、「中級中国語」を学習する人を対象とする講義を行う。中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎を学習する。協同学習を通して学習事項の定着を図る。テキストは「初級中国語」に引き続き、「中国語への道」を使用する。第9課から始める。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・「中級中国語」の講義は、正確な発音とより多くの語彙、文型、豊かな表現、中国語特有の「会話のコツ」を習得することに基づいて、中国語の「聴き・読み・書き・話す」の基礎能力を高めることを目標とする。
・コミュニケーション能力と協同力が向上できる。
（中国語検定試験4級程度）

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけると同時に、協同学習を促進し、グループ活動を重視する。

教員との連絡方法・オフィスアワー（office hour）

オフィスアワー：授業終了後（火曜日2限）、
連絡先：kyo@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し、学期末に提出する。
外部試験：「中国語検定試験4級」の受験を勧める。
試験日：3月、6月、11月の第4日曜日。詳細は後日連絡する。http://www.chuken.gr.jp　　受験料：4800円

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「中国語への道」	奥村佳代子、塩山正純など	KINSEIDO	978-4-7647-0723-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「中国語辞書」	相原　茂	朝日出版社	4-255-00113-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（45%）、平常点（課題・練習問題・授業参加）（50%）、「科目別履修確認チェック表」5%により総合評価する。
課題の提出先：kyo@g.kiis.ac.jp

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	第9課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	1.「初級中国語」を復習する。P12-41　2. 単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P42（2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P43）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P42）（2時間）
第2回	第9課二回目　介詞、数量補語、過去の経験、方位詞などを説明し、閲読文の読解・練習	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P44 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P44の閲読文を録音し、提出する。②P91-92の発展練習問題を完成する。（2時間）
第3回	第10課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P46 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P47）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P46）（2時間）
第4回	第10課二回目　主述述語文、完了・変化の「了」、願望の表現などを学習する	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P48 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P48の閲読文を録音し、提出する。　②P93-94の発展練習問題を完成する。（2時間）
第5回	第11課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P50 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P51）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P50）（2時間）
第6回	第11課二回目　動作の進行、状態の持続、連動文、結果補語	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P52 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P52閲読文を録音し、提出する。②P95-96の発展練習問題を完成する。（2時間）
第7回	第12課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P54 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P55）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P54）（2時間）
第8回	第12課二回目　可能を表す助動詞と必然・当然を表す助動詞、副詞「才」と「就」	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P56 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P56の閲読文を録音し、提出する。②P97-98の発展練習問題を完成する。（2時間）
第9回	第13課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P58 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P59）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P58）（2時間）
第10回	第13課二回目　様態補語、二重目的語、受け身の表現	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P60 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P60の閲読文を録音し、提出する。②P99-100の発展練習問題を完成する。（2時間）
第11回	第14課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P62 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P63）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P62）（2時間）
第12回	第14課二回目　存現文と自然現象の表現、方向補語と可能補語	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P64 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P64の閲読文を録音し、提出する。②P101-102の発展練習問題を完成する。（2時間）
第13回	第15課一回目　トピックの文化背景の説明、会話の学習・練習、文法説明	
	事前学習（内容・時間）	①単語帳をつくる。新出語句の日本語の意味を事前に下調べをする。それを読めるように頑張る。P66 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	1. 文法ポイントを理解し、日本語に訳す（P67）　2. 会話文を繰り返し聴きながら、真似て音読する（P66）（2時間）
第14回	第15課の二回目　状況の確認「是不是A？」、使役の表現	
	事前学習（内容・時間）	語句②を単語帳に追加する。閲読の音声を繰り返し聴き、その独特なリズムになれる。P68 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	①P68の閲読文を録音し、提出する。②P103-104の発展練習問題を完成する。（2時間）
第15回	総合復習	
	事前学習（内容・時間）	単語帳のまとめ、P91-104の発展練習問題をもう一度チャレンジしてみる。
	事後学習（内容・時間）	テスト勉強（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1GLN-5800-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
初級韓国語	219～	2年生・前期	2単位	選択	全　彰煥	
	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	韓国国籍所持者以外の学生及び、ハングル(韓国語)を母国語としていない日本人と留学生を該当者とする。

授業概要　(Course Outline)

本科目は、本学の建学精神である『至心』、すなわち「「優れた専門性を磨く前に温かい人間性を、優れた社会人になる前に豊かな人間性を」をモットーとして、「紫苑」ー「四恩」の⑴親・祖先の御恩　⑵教師・先生の御恩　⑶社会・国家の御恩　⑷神・仏の絶対なる御恩に報いられる人間づくりの教育目標を基にしている。

授業内容は、次のとおりである。

① 学習内容は、ハングル文字の構造、発音を説明して読み・書きを通じて習得させる。
　また、テキストの会話文を覚えて発表させる。
② 学習者は毎週、出席カード用の小テストを提出しなければならない。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

国際化・グロバル化の時代において隣国の言語を学習することで、建学精神の『至心』を持った人間づくりに寄与することを目標とする。

具体的内容は次の通りであある。

① 生活に必要な基礎的な言語技能を遂行することができ、「自分自身、家族、趣味、天気」などたいへん私的で身近な話題に関連した内容を理解し表現することができる。
② 約800個の基礎語彙と基本文法に関する理解を基に簡単な文章を生成することができる。
③ 簡単な生活文と実用文を理解し構成することができる。
④「初級韓国語」の受講及び「韓国語能力試験(TOPIK)」Ⅰ ー1、2級の受験を指導する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

① 対話型授業を中心とする。
② 授業中のグループ、チーム発表に積極的に参加しなければならない。
③ レポート代わりの1：1の確認発表をする。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

① 連絡・問い合わせ・相談：研究室(453)にて随時受け付ける。
② オフィスアワー：＜水＞2―5限目
③ メール：jonhan@kiis.ac.jp

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

① 外部試験：「韓国語能力試験(TOPIK)」Ⅰ(1・2級)、または「ハングル検定試験」(5級)を受験する。
　　試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。
② 学習確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「韓国語の世界へ」入門編	李　潤玉　外4人	朝日出版社	978-4-255-55647-5

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「ゼロからスタート」 韓単語　BASIC1400	鶴見ユミ	Jリサーチ出版	978-4-901429-66-5

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

① 定期試験 ⇒ 50%、確認発表/1：1発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%
② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	「イントロダクション」と 第1課 文字と発音（1）	
	事前学習（内容・時間）	ハングルの子音と母音の確認しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「反切表」の暗記と「練習１～９」を解く。（2時間）
第2回	文字と発音（2）	
	事前学習（内容・時間）	「説明２－1から２－4」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～８」を解く。（2時間）
第3回	第3課 文字と発音（3）	
	事前学習（内容・時間）	「説明３－1から３－4」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～９」を解く。（2時間）
第4回	第4課 한국 사람입니다. （韓国人です。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明４－1から４－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～５」を解く。（2時間）
第5回	第5課 한국어는 전공이 아니에요.（韓国語は専門ではありません。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明５－1から５－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～５」を解く。（2時間）
第6回	第6課 강의실은 계단 옆에 있어요..（講義室は階段の横にあります。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明６－1から６－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～５」を解く。（2時間）
第7回	復習（第4課・第5課・第6課）	
	事前学習（内容・時間）	「4課の復習」、「まとめ4」、「5課の復習」、「6課の復習」、「まとめ5，6」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「4課の復習」、「まとめ4」、「5課の復習」、「6課の復習」、「まとめ5，6」を解く。（2時間）
第8回	第7課 오후에 시간 괜찮아요?（午後、時間大丈夫ですか。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明７－1から７－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～３」を解く。（2時間）

第9回	第8課 초등학생에게 태권도를 가르쳐요..（小学生にテクォンドを教えます。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明８－1から８－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～３」を解く。（2時間）
第10回	第9課 보통 여섯 시에 일어나요.（普通、6時に起きます。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明９－1から９－４」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～３」を解く。（2時間）
第11回	復習（第7課・第8課・第9課）	
	事前学習（内容・時間）	「7課の復習」、「8課の復習」「まとめ7，8」、「9課の復習」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「7課の復習」、「8課の復習」「まとめ7，8」、「9課の復習」を解く。（2時間）
第12回	第10課 야구를 아주 좋아해요.（野球が大好きです。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明１０－1から１０－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～４」を解く。（2時間）
第13回	第11課 점심 안 먹었어요?（昼ご飯食べてませんか。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明１１－1から１１－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～４」を解く。（2時間）
第14回	第12課 봄 방학 때 뭐 할 거예요?（春休みに何をしますか。）	
	事前学習（内容・時間）	「説明１２－1から１２－３」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習１～6」を解く。（2時間）
第15回	復習（第10課・第11課・第12課）	
	事前学習（内容・時間）	「10課の復習」、「まとめ9，１０」、「１１課の復習」、「１２課の復習」、「まとめ１１，１２」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「10課の復習」、「まとめ9，１０」、「１１課の復習」、「１２課の復習」、「まとめ１１，１２」を解く。（2時間）
第16回（定期試験）	各課の「練習問題」と「復習問題」を基本とする試験を行う。	

ナンバリング(Numbering)
1GLN-5990-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中級韓国語	219～	2年生・後期	2単位	選択	全　彰煥	
	～218	2年生・前期				

履修の前提条件	基本的に、ハングル(韓国語)を母国語としていない日本人と留学生として、「入門韓国語」の履修者か、90時間以上の韓国語教育履修者を該当者とする。

授業概要　(Course Outline)

本科目は、本学の建学精神である『至心』、すなわち「優れた専門性を磨く前に温かい人間性を、優れた社会人になる前に豊かな人間性を」をモットーとして、「紫苑」ー「四恩」の(1)親・祖先の御恩　(2)教師・先生の御恩　(3)社会・国家の御恩　(4)神・仏の絶対なる御恩に報いられる人間づくりの教育目標を基にしている。
授業内容は、次のとおりである。
① 前期学習内容の復習、各課の文法説明、テキストの会話文暗記を通して会話文を習得させる。
② 学習者は毎週、出席カード用の小テストを提出しなければならない。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

国際化・グローバル化の時代において隣国の言語を学習することで、建学精神の『至心』を持った人間づくりに寄与することを目標とする。
具体的内容は次の通りである。
①「電話する、頼みごとをする」などの日常生活に必要な技能と「郵便局、銀行」などの公共施設の利用に必要な技能を遂行することができる。
② 約1,500～2,000個の語彙を利用して私的で身近な話題に関して段落単位で理解し使用することができる。
③ 公式的な状況と非公式的な状況での言語を区分して使用することができる。
④「中級韓国語」の受講及び「韓国語能力試験(TOPIK)」Ⅰ－1、2級の受験を指導する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

① 対話型授業を中心とする。
② 授業中のグループ、チーム発表に積極的に参加しなければならない。
③ レポート代わりの1；1の確認発表をしなければならない。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

① 連絡・問い合わせ・相談：研究室(453)にて随時受け付ける。
② オフィスアワー：＜水＞2～5限目
③ メール：jonhan@kiis.ac.jp

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

① 外部試験：「韓国語能力試験(TOPIK)」Ⅰ(1・2級)、または「ハングル検定試験」(4級)を受験する。
試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。
② 学習確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「韓国語の世界へ」初・中級編	李　潤玉外4人	朝日出版社	978-4-255-55644-4

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「キゾー式 パーフェクトハングル」	小倉紀蔵	精興社	4-88724-417-7

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

① 定期試験 ⇒ 50%、確認発表/1：1発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%
② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	第1課　몇 학번이에요?(学籍番号は何番ですか。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明１－１」から「説明１－２」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」「練習２」を解く。(2時間)
第2回	第2課　한국어를 열심히 공부할 거예요.(韓国語を一所懸命に勉強します。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明２－１」から「説明２－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習５」を解く。(2時間)
第3回	第3課　저 구두 좀 보여 주세요.(あの靴をちょっと見せてください。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明３－１」から「説明３－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習４」を解く。(2時間)
第4回	第4課　자주 가는 한식집 있으면 소개해 주세요.(よく行っている韓食屋があったら紹介して下さい。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明４－１」から「説明４－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習６」を解く。(2時間)
第5回	復習（第１課～第４課）	
	事前学習（内容・時間）	「１課の復習」「２課の復習」「聞いてみよう1」「３課の復習」「４課の復習」「ステップアップ１」予習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「１課の復習」「２課の復習」「聞いてみよう1」「３課の復習」「４課の復習」「ステップアップ１」復習（2時間）
第6回	第5課　함께 찍은 사진을 첨부했어요.(一緒に撮った写真を添付しました。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明５－１」から「説明５－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習５」を解く。(2時間)
第7回	第6課　발표 시간에 늦어서 죄송합니다..(発表時間に遅れてすみません。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明６－１」から「説明６－４」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習６」を解く。(2時間)
第8回	第7課　더운 여름에 삼계탕을 먹어요.(暑い夏にサンゲタンを食べます。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明７－１」から「説明７－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習４」を解く。(2時間)

第9回	第8課　안 무거우니까 혼자 할게요.(重くないから自分でします。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明８－１」から「説明８－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習４」を解く。(2時間)
第10回	復習（第５課～第８課）	
	事前学習（内容・時間）	「５課の復習」「６課の復習」「聞いてみよう2」「７課の復習」「８課の復習」「ステップアップ２」予習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「５課の復習」「６課の復習」「聞いてみよう2」「７課の復習」「８課の復習」「ステップアップ２」復習（2時間）
第11回	第9課　컴퓨터 잠깐 빌려도 돼요? (コンピューターをちょっと借りてもいいですか。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明９－１」から「説明９－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習４」を解く。(2時間)
第12回	第10課　리무진 버스가 편하겠죠?(リムジンバスが便利でしょう？)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明１０－１」から「説明１０－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習３」を解く。(2時間)
第13回	第11課　도자기도 만들어 봤어요?(陶磁器を作ったことありますか。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明１１－１」から「説明１１－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習５」を解く。(2時間)
第14回	第12課　한국 회사에 취직하려고 해요.(韓国の会社に就職するつもりです。)	
	事前学習（内容・時間）	会話文と「説明１２－１」から「説明１２－３」を熟読する。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「練習１」から「練習４」を解く。(2時間)
第15回	復習（第９課～第１２課）	
	事前学習（内容・時間）	「9課の復習」「10課の復習」「聞いてみよう3」「11課の復習」「12課の復習」「ステップアップ3」予習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「9課の復習」「10課の復習」「聞いてみよう3」「11課の復習」「12課の復習」「ステップアップ3」予習（2時間）
第16回（定期試験）	各課の「練習問題」と「復習問題」を基本とする試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6200-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅰ（J1・J3）	共通	1年生・前期	2単位	選択	古川　幸子 進藤　康子	
履修の前提条件	非漢字圏の学生で漢字学習を深めたいと思っていること。日本語1を履修したものは日本語2も履修することが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

日本での留学生活はもちろん、大学での学習に必要な漢字（初級後半から中級程度）を授業で扱いながら、日本語力の総合的な向上を目標とする。読み書きを中心に、聞く、話す力を総合的に身につける。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業は建学の精神『至心』に基づいて、日常生活に必要なことがらに真摯に向き合うための語学力を高めることが目標である。留学生活で目の当たりにする様々な書類やテキストなどの漢字が読め、また必要なことが書けるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

漢字学習がメインとはいえ、日本語力を高めることを目標にしているので、対話をしながら進めます。積極的な日本語での発話を期待しています。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：進度に合わせた小テストなどで学習理解度を確認します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語漢字トレーニング	松浦真理子・上妻直博・半田健一	アスク出版	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語総まとめN2漢字	佐々木仁子	アスク出版	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験70%、小テスト20%、平常点10%（提出物の取り組み方や内容によって評価します）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業方針説明、受講上の注意、自己紹介、レベルテスト	
	事前学習（内容・時間）	テキストの準備 （2時間）
	事後学習（内容・時間）	レベルテストの反省（2時間）
第2回	漢字をきれいに書くルールとポイント	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第3回	漢字の読み方がわかるルール①	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第4回	漢字の読み方がわかるルール②	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第5回	漢字の読み方が変わるルール①	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第6回	漢字の読み方が変わるルール②	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第7回	漢字の意味が分かる記号	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第8回	漢字一字の意味を考える	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第9回	少しの漢字から言葉を増やす	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第10回	漢字の前について言葉を作る漢字	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第11回	漢字の前後について言葉を作る漢字	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第12回	同じ読み方の漢字を覚える	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第13回	同じ意味を持つ漢字	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第14回	文章の中の漢字を考える	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第15回	身近なものから情報を得る	
	事前学習（内容・時間）	該当ページの予習 読んで質問内容などをまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 漢字ノートにきれいに書いて覚える（2時間）
第16回（定期試験）	筆記試験を行います。（持ち込み不可）	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6200-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅰ（J2）	共通	1年生・前期	2単位	選択	全　彰煥	

履修の前提条件	本講義は留学生を対象者とする基礎日本語講座である。 主に、初級から中級へのレベルアップするための学習をする。

授業概要　（Course Outline）

本科目は、本学の建学精神である『至心』、すなわち「優れた専門性を磨く前に温かい人間性を、優れた社会人になる前に豊かな人間性を」をモットーとして、「紫苑」ー「四恩」の⑴親・祖先の御恩　⑵教師・先生の御恩　⑶社会・国家の御恩　⑷神・仏の絶対なる御恩に報いられる人間づくりの教育目標を基にしている。
授業内容は、次のとおりである。
① 「日本語能力試験２級(N2)」の語彙、文法と「漢字検定4級」の漢字を学習する。
② 学習者は、毎週与えられる「漢字検定4級」の問題と「ワークブック問題」をレポートで提出しなければならない。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

外国人留学生として、正しい日本語学習を通して日本人と日本文化に対する理解力を増進することで、建学精神の『至心』を持った人間づくりに寄与することを目標とする。
具体的内容は次の通りである。
① 日本語基礎文法を学び、中級レベルと漢字検定4級以上の日本語力取得を目指す。
② 「日本語能力試験２級(N2)」の語彙、文法を学習する。
③ 「日本語能力試験２級(N2)」と「漢字検定4級」の受験・取得を目指す。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

① 対話型例文を熟知して、「1：1チーム発表」で発表をする。
② レベル別漢字テストの基本漢字の関連単語と語句を自主的に調査し、課題として提出する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

① 連絡・問い合わせ・相談：研究室（453）にて随時受け付ける。
② オフィスアワー：＜水＞2-5限目
③ メール：jonhan@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

① 外部試験：「日本語能力試験（JLPT）」N2と「漢字検定」4級を受験する。
試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。
② 学習確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語能力試験N2文法 必修パターン	氏原庸子／佐伯玲子	Jリサーチ出版	978-4-86392-331-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「書き込み式、漢字の学習」 ー漢検対応ー	明治書院教科書編集部	明治書院	978-4-625-23302-9

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

① 定期試験 ⇒ 50%、課題/1：1チーム発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%
② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	基礎の復習ー1．助詞、2．副詞 ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	特定無し（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問①（2時間）
第2回	基礎の復習ー3．接続詞、4．敬語❶ ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問②（2時間）
第3回	基礎の復習ー4．敬語❷ ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「敬語資料」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「敬語資料」暗記する。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問③（2時間）
第4回	「N3文型」の整理 （1）、（2）、（3）、（4） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問④（2時間）
第5回	「N3文型」の整理 （5）、（6）、（7）、（8） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑤（2時間）
第6回	「N3文型」の整理 （9）、（10）、（11）、（12） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑥（2時間）
第7回	「N2文型」の整理 （1）、（2） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑦（2時間）
第8回	「N2文型」の整理 （3）、（4） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑧（2時間）
第9回	「N2文型」の整理 （5）、（6） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑨（2時間）
第10回	「N2文型」の整理 （7）、（8） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑩（2時間）
第11回	「N2文型」の整理 （9）、（10） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑪（2時間）
第12回	「N2文型」の整理 （11）、（12） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑫（2時間）
第13回	「N2文型」の整理 （13）、（14） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑬（2時間）
第14回	「N2文型」の整理 （15）、（16） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑭（2時間）
第15回	「N2文型」の整理 （17）、（18） ／ インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検4級ー過去問⑮（2時間）
第16回（定期試験）	1．テキストの「練習問題」「応用問題」「実践問題」「模擬試験問題」を基本とする試験を行う。 2．漢字検定4級の課題を基本とする試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6210-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅱ（J1）	共通	1年生・後期	2単位	選択	古川　幸子	
履修の前提条件	漢字の読み書き、また、作文論文表現能力への向上意欲を持っていること。					

授業概要　（Course Outline）

正しい文法で短い文章を作る（書く）練習から始め、最後には長い文章（レポートなど）が書けるようになるよう、課題に取り組む。書くことだけにとどまらず、コミュニケーション能力の向上も目指し、お互いの異文化に触れながらでぃずカッションをして理解を深める。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業は建学の精神『至心』に基づいて、留学生として積極的に学ぶための、様々な場面で必要とされる文章を読み書きできる力を身につける。自分の意思を自分の力で表現する力、また相手の意見を明確に理解できる力を身につける。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

自分の考えを正しく表現することが目標であるので、考える→話す→聞く→書く→（まとめる）という順番で行う。授業中は意見を求めることも多いので、予告されたテーマについて準備しておくこと。最後の課題、レポートはWordで提出。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業時間前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：進度に合わせて小テストなどを行い、理解度を確認します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリント配布			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
大学で学ぶための日本語ライティング	佐々木瑞枝、細井和代、藤尾清子	The　Japan　Times	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験70%、平常点30%（出席率、提出物の内容等でも判断します）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：講義内容、方針説明、受講上の注意など	
	事前学習（内容・時間）	テキストの準備 1課を読んでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第2回	書き言葉と話し言葉、文体について。	
	事前学習（内容・時間）	該当箇所の予習　予告されたテーマについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第3回	状況を説明し、意見を述べる①	
	事前学習（内容・時間）	身の回りの出来事を描写する言い方をまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第4回	状況を説明し、意見を述べる②	
	事前学習（内容・時間）	該当箇所の予習　予告されたテーマについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第5回	段落を作る①	
	事前学習（内容・時間）	該当箇所の予習　配布プリントを読んで予習しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第6回	段落を作る②	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第7回	文や段落をつなぐ練習（接続詞など）	
	事前学習（内容・時間）	該当箇所の予習　接続詞などについてまとめておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第8回	体験したことを書く	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第9回	テーマに沿って意見文を書く①（疑問提示、伝聞、因果関係、予想、意見主張の表明）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第10回	テーマに沿って意見文を書く②	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第11回	レポート書くための基礎知識と構成①	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第12回	レポート書くための基礎知識と構成②引用の表現	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第13回	レポートを書くために基礎知識③資料を引用して書く	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第14回	レポートを書く（資料をまとめる）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第15回	レポートを書く（レポートの大筋を立てて書く準備をする）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの該当箇所の予習　指定した文法事項について確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習　授業内に書いたものの清書（2時間）
第16回（定期試験）	筆記試験を行います。持ち込み不可。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6210-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅱ（J2）	共通	1年生・後期	2単位	選択	全　彰煥	

履修の前提条件	留学生を対象者とする中級日本語講座である。 主に、中級から上級へレベルアップするための学習をする。

授業概要　（Course Outline）

本科目は、本学の建学精神である『至心』、すなわち「優れた専門性を磨く前に温かい人間性を、優れた社会人になる前に豊かな人間性を」をモットーとして、「紫苑」ー「四恩」の⑴親・祖先の御恩　⑵教師・先生の御恩　⑶社会・国家の御恩　⑷神・仏の絶対なる御恩に報いられる人間づくりの教育目標を基にしている。

授業内容は、次のとおりである。

① 「日本語能力試験」N1の語彙、文法と「漢字検定3級」の漢字を学習する。
② 「日本語能力試験」N1の重要表現を文型を中心に学習する。
③ 「日本語能力試験」N1の文法問題を課題として熟知する。
④ インターネット・ニュースを持って時事問題を接し、聴解力と発表力を鍛えさせる。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

外国人留学生として、正しい日本語学習を通して日本人と日本文化に対する理解力を増進することで、建学精神の『至心』を持った人間づくりに寄与することを目標とする。

具体的内容は次の通りである。

① 「日本語能力試験」N1の語彙、文法を学習する。
② 「日本語能力試験」N1と「漢字検定」3級以上の受験・取得を目指す。
③ インターネット・ニュースを通して聴解力と発表力の向上を目指す。
① 指定のインターネット・ニュースを発表する。
② レベル別漢字テストの基本漢字の関連単語と語句を自主的に調査し、課題として提出する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

① 連絡・問い合わせ・相談：研究室（453）にて随時受け付ける。
② オフィスアワー：＜水＞2ー5限目
③ メール：jonhan@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

① 外部試験：「日本語能力試験（JLPT）」N1と「漢字検定」3級を受験する。
試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。
② 学習確認：ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語能力試験N1文法 必修パターン	氏原庸子／岡本牧子	Jリサーチ出版	978-4-86392-233-4

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「日本語総まとめ」 ーN1、文法ー	佐々木仁子・松本紀子	アスク出版	978-4-87217-726-8
「書き込み式、漢字の学習」 ー漢検対応ー	明治書院教科書編集部	明治書院	978-4-625-23302-9

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

① 定期試験 ⇒ 50%、課題/聴解・発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%
② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	文法の復習1、2、3　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	特定無し（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問①（2時間）
第2回	文法の復習4．敬語　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「敬語資料」を熟読する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「敬語資料」暗記する。 ／ 【課題】漢検3級一過去問②（2時間）
第3回	N2・N3の復習1．2、3、4　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問③（2時間）
第4回	N2・N3の復習5、6、7、8　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問④（2時間）
第5回	N2・N3の復習9、10、11、12　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑤（2時間）
第6回	N1文型の整理（1）、（2）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑥（2時間）
第7回	N1文型の整理（3）、（4）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑦（2時間）
第8回	N1文型の整理（5）、（6）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑧（2時間）
第9回	N1文型の整理（7）、（8）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑨（2時間）
第10回	N1文型の整理（9）、（10）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑩（2時間）
第11回	N1文型の整理（11）、（12）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑪（2時間）
第12回	N1文型の整理（13）、（14）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑫（2時間）
第13回	N1文型の整理（15）、（16）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑬（2時間）
第14回	N1文型の整理（17）、（18）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。 ／ 【課題】漢検3級一過去問⑭（2時間）
第15回	N1文型の整理（19）、（20）　／　インターネットニュース：聞き取り練習	
	事前学習（内容・時間）	「意味・機能」「例文」を予習する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「練習問題」「応用問題」を解く。（2時間）
第16回（定期試験）	1．テキストの「練習問題」「応用問題」「実践問題」「模擬試験問題」を基本とする試験を行う。 2．漢字検定3級の課題を基本とする試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6220-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅲ（J1）	219～	2年生・前期	2単位	選択	古川　幸子	
	～218	1・2年生・前期				

履修の前提条件	留学生を対象とする日本語講座です。日本語運用能力向上に意欲のある学生の受講を求めます。

授業概要　（Course Outline）

日本語を学び活用するうえで、学習者が陥りやすい誤用や不自然さを意識しながら語彙力をつける。日本語の基礎力と応用力を身につける。日本語能力試験の対策も行います。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業は建学の精神『至心』に基づき、日本の大学で学ぶ上で必要な日本語運用能力、また多数ある類似語を場面で使い分けて表現し円滑なコミュニケーションが積極的にとれるようになる。また、語彙から日本の文化や習慣、価値観などに関して知り、日本社会について理解を深めます。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

特定の場面を提案するので、それぞれが既習の語彙を使って会話をし、さらによりよい表現になるように新しい言葉を学びながら練習をします。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業時間前後の休み時間など、教務課内にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：進度に合わせた小テストなどで学習理解度を確認します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリント配布			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語総まとめN2読解文法	佐々木仁子	アスク社	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験70%、小テスト20%、平常点10%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業方針説明、受講上の注意、自己紹介、プレテスト	
	事前学習（内容・時間）	Googleclassroom で配布したプリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プレテスト内容の復習
第2回	4月の言葉（花見）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第3回	4月の言葉（入学）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第4回	5月の言葉（ゴールデンウイーク）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第5回	5月の言葉（こどもの日、こどもに関する言葉）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第6回	手の動きに関する言葉	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第7回	6月の言葉（梅雨など天気に関する言葉）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第8回	6月の言葉（ジューンブライド、結婚式など）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第9回	7月の言葉（海に関する言葉）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第10回	7月の言葉（景色に関する言葉）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第11回	7月の言葉(話すことに関する言葉）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第12回	心に関する言葉（気持ちなど）	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第13回	お祭りに関する言葉	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第14回	秋に関する言葉	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第15回	身近なものから情報を得る	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを読んで疑問点などをまとめておく。授業で質問します。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	筆記試験を行います。（持ち込み不可）	

ナンバリング（Numbering）
1GLN-6230-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本語Ⅳ（J1）	219～	2年生・後期	2単位	選択	古川　幸子	
	～218	1・2年生・後期				

履修の前提条件	留学生を対象とする日本語講座です。日本語運用能力向上に意欲のある学生の受講を求めます。

授業概要　（Course Outline）

論理的思考を養うために様々な文章を読み、練習問題を重ねながらアカデミックジャパニーズを身につけます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業は建学の精神『至心』に基づき、日本をより理解し、積極的に文献などを読み学習にあたるため、様々な文章に触れながら読解力を深め、さらには考えることを習慣化し、自分の考えを表現できるようになります。

トピックスを正しく読み取り、ディスカッションしたりして意見をまとめ発表します。学生からの積極的な発話をお願いします。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日本語ロジカルトレーニング　中級	西隈俊哉	アルク	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新聞記事など			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験70%、小テスト20%、平常点10%（発表等での態度や内容でも評価します）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業方針説明、評価の方法	
	事前学習（内容・時間）	テキストの準備　テキストの構成などを見ておく（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第2回	発想力：言葉の地図を作ってみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第3回	イラストを見て考えよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第4回	文章を読んで図や表にしてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第5回	標グラフの内容を読み取ってみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第6回	マッピングをしながら読んでみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第7回	登場人物になったつもりで読んでみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第8回	理由を考えながら読んでみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第9回	意味を考えながら読んでみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された内容について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第10回	キーワードをつなげて書いてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された内容について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第11回	イラストを見て書いてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第12回	文章を読んで考えてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された言葉について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第13回	文章を読んで考えてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された内容について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第14回	文章を読んで考えてみよう	
	事前学習（内容・時間）	指定された内容について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	指定された内容について理解を深める。授業中に質問します（二時間）
	事後学習（内容・時間）	学習済内容の復習 （2時間）
第16回（定期試験）	筆記試験を行います。持ち込み不可。	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6341-24E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報リテラシー演習 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219～	1年生・前期	2単位	必修	リテラシー担当教員	
情報リテラシー演習Ⅰ （教職関連科目 必 高等学校 情報）	～218					
履修の前提条件	パソコンの基本操作やタイピングに慣れていることが望ましい。					

授業概要 （Course Outline）

本演習ではディプロマポリシーに基づき、少人数クラスに分かれて担当教員が分担して、情報リテラシーの基礎となるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどに関する基礎技能を学ぶ。また、これらの基礎技能を用いて、実データの収集、分析、応用の方法について体験する。さらに、情報教育の基礎となる情報検索方法や情報モラル・セキュリティ、ネットワークコミュニケーション、人工知能についても概説する。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

【知識】
・パソコンの基礎的事項（五大装置、通信方法）を説明できる。 ・情報の定義、情報モラル、セキュリティについて説明できる。
・インターネットの利点・欠点、SNSの利点・欠点を列挙できる。 ・人工知能の定義、実用例について説明できる。
【態度・習慣】
・疑問点を尋ねることができる。 ・講義に参加できる。
【技能】
・タッチタイピングができる。 ・ビジネス文書の例を模倣し、自分で作成することができる。 ・Excelで表やグラフの作成、数式の利用ができる。 ・Powerpointで発表スライドを作成し、発表できる。 ・講義レポートを作成することができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

ただ実習をこなすだけでなく、卒業論文や科目レポートの作成を念頭に、学ぶ機能がどう使えるかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、各担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

MOS（Microsoft Office Specialist）の合格者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇します。
学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
リメディアル教育のための 情報リテラシー	鈴木和也・荒平高章	八千代出版	978-4-8429-1812-9

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
適宜資料を配布する。			

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

提出課題(30%)、講義中の発表(10%)、実習試験(30%)、筆記試験(30%)で評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	パソコンの基本設定1（学内ネットワーク接続、メール環境構築）	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し、本科目の内容について把握する。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h)
第2回	パソコンの基本設定2（オフィスソフトのインストール、共有フォルダ設定）	
	事前学習（内容・時間）	大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h)
第3回	授業計画説明、メールの書き方、人工知能・データサイエンス（導入講義）	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第4回	第1章 パソコン入門、第2章 タイピングの基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第5回	第3章 文書作成の基礎（1）、第4章 文書作成の基礎（2）	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第6回	第5章 文書作成の応用	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第7回	第6章 表作成の基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第8回	第7章 グラフ作成の基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第9回	第8章 表計算の応用	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第10回	第9章 レポート作成の基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第11回	第10章 プレゼンテーションの基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第12回	第11章 プレゼンテーションの応用	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第13回	第12章 学生生活と情報、第13章 インターネットと情報検索	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第14回	第14章 情報モラルとセキュリティ	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第15回	第15章 最新のネットワークコミュニケーション	
	事前学習（内容・時間）	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)
第16回（定期試験）	実習試験および筆記試験を実施する。	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5580-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コミュニケーションと自己発見Ⅰ	共通	1年生・前期	2単位	必修	担任	

履修の前提条件	入学前課題を提出していること。必修科目であるため、1年生は履修すること。

授業概要　（Course Outline）

この授業は、本学の建学の精神に基づいた必修授業である。授業内で実施するさまざまな学習・実践を通して、順調に大学生活がスタート出来るよう、担任制による少人数クラス、または合同クラス講義を通じて将来の自分の考え、将来の自分を見つける出発点とすることを学びます。個人での活動やグループでの活動など、さまざまな「活動」が中心の授業となりますので、主体的に授業に取り組んで「動く」、「考える」、「表現する」ことが重要になります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

大学生活をスムーズにスタートさせるための仲間づくりと、教員との親睦を図り、大学生活を有意義なものとするため　の基礎となるさまざまな人間力を身につけようとする態度を養います。また、大学における講義や試験などの受け方を理解し、「聞く」、「読む」、「書く」、「話す（発表する）」という、大学生活において最も基本的な技能（技術＆能力）を身に付けます。
授業での活動を通じて「動く」、「考える」、「表現する」ことが重要になります。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業毎の内容に関して、レポート作成し提出する。
個人・集団（グループ）での調査学習、グループワークの場でグループディスカッションやディベートなどを行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

担任教員の研究室を訪ねて下さい。
研究室の場所、オフィスアワーの時間帯は授業内にプリントにて配布します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：日本漢字能力検定協会の実施する日本漢字能力検定、文章読解・作成能力検定の3級以上を受験すること。2級以上の合格は文章表現Ⅰ・Ⅱの成績評価の対象となります。
試験日、会場（受験教室、本学にて受験します）、詳細は後日連絡します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、授業内で指定された期日までに各担任へ提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
講義スライド 配布テキスト	担当教員		

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
大学学びのことはじめ	佐藤智明ほか　編	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0227-9C0037

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：出席（40%）授業での活動状況、提出レポート、発表等の成績（60%）により総合的に評価する。
・成績評価の基準　：①集団の中で他者と協力・協調できているか、②責任もった行動がとれているか、③提出物や発表（プレゼンテーション）で大学生としての自己表現ができているか、など。また、8月に行われるITパスポート＆簿記コンテストに積極的に参加してもらう。試験期間後だが、出席状況とコンテストの成績も単位認定の参考にする。
・最初に提供する、「自己紹介シート」を必ず提出すること。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	大学での学び入門(1)：大学生の学び、基本的生活習慣について（プレテスト予定）	
	事前学習（内容・時間）	入学前に配布された課題を済ませること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第2回	大学での学び入門(2)：「学力」と「人間力」を身につける	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第3回	大学での学び入門(3)：授業（講義）の受け方、ノートの取り方 ／ オフィスアワーを活用しよう	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第4回	大学での学び入門(4)：チームで動く（動画＆コンテンツを考える）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第5回	大学での学び入門(5)：中小企業家同友会特別授業	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第6回	大学での学び入門(6)：4年後の自分を考える～「働く」ことの意味とキャリア開発（1）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第7回	大学での学び入門(7)：社会人としての常識的マナーを身につけよう	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第8回	大学での学び入門(8)：イベントを計画しよう：学園祭への準備(1)概要と計画	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第9回	大学での学び入門(9)：イベントを計画しよう：学園祭への準備（2）企画を考える	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第10回	大学での学び入門(9)：イベントを計画しよう：学園祭への準備(3)概要と計画	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第11回	大学での学び入門(11)：イベントを計画しよう：学園祭への準備(4)企画案発表	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第12回	大学での学び入門(12)：イベントを計画しよう：学園祭への準備(5)企画案発表	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第13回	仲間とイベントをつくろう[1]：学園祭への参加について、前年度の取り組み（学友会から）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第14回	仲間とイベントをつくろう[2]：実践的な販売計画の立て方	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第15回	仲間とイベントをつくろう[3]：申請書の書き方、計画書の作成	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	後期に向けて課題をまとめること。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に提出資料を中心に試験を行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5590-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コミュニケーションと自己発見Ⅱ	共通	1年生・後期	2単位	必修	担任	

履修の前提条件	積極的に課題に取り組み、他者と協力できること。

授業概要　（Course Outline）

この授業は、本学の建学の精神に基づいた新入生のための基礎導入科目である。後期は仲間とともに学園祭でのイベント事業を成し遂げることを中心に授業は進んでいきます。グループメンバーで協力して、話し合い・作業すること求められますので、無断欠席やサボタージュ、他者依存は、本授業での趣旨から逸脱する事態を引き起こします。「チームではたらく力」を実践的に身につけるためにも、積極的にグループでの活動に関わるようにしましょう。それがあなた自身の力と自信、そしてキャリアになります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

小人数クラスの中でコミュニケーションを積極的に行うことにより、大学生活を成功に導くための、仲間づくりと教員と関係を積極的に築き上げていく力と態度を育てる。また、イベント計画、その実践と反省を通じて、他者と協力して事業を成功に導くことの大切さに気づき、「チームではたらく力」を育む。さらには、小人数クラスの中での相互協力と高め合いを通して、「聞く」、「読む」、「書く」、「話す（発表する）」という、大学生活において最も基本的な技能(技術＆能力)を身に付ける。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業毎の内容に関して、レポート作成し提出する。
個人・集団（グループ）での調査学習、グループワークの場でグループディスカッションやディベートなどを行う。
後期は前期で企画したイベントの実践の場で、体験を通じて問題の解決を行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

担任教員の研究室を訪ねて下さい。
研究室の場所、オフィスアワーの時間帯は授業開始時にプリントにて配布します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：日本漢字能力検定協会の実施する日本漢字能力検定、文章読解・作成能力検定の3級以上を受験すること。2級以上の合格は文章表現Ⅰ・Ⅱの成績評価の対象となります。
試験日、会場（受験教室、本学にて受験します）、詳細は後日連絡します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、授業内で指定された期日までに各担任へ提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
講義スライド 配布テキスト	担当教員		

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
大学学びのことはじめ	佐藤智明ほか　編	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0227-9C0037

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：出席（40%）授業での活動状況、提出レポート、発表等の成績（60%）により総合的に評価する。
・成績評価の基準　:①集団の中で他者と協力・協調できているか、②責任もった行動がとれているか、③提出物や発表（プレゼンテーション）で大学生としての自己表現ができているか、など。
・通常の講義時間外にも参加、または活動しなければならない。（第7回、第8回、第15回）
また、2月に行われるITパスポート＆簿記コンテストに積極的に参加してもらう。試験期間後だが、出席状況とコンテストの成績も単位認定の参考にする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業ガイダンス ／ イベント事業の企画を練り上げる(1)：企画書の作成	
	事前学習（内容・時間）	前期の課題を仕上げてくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	与えられた課題を来週までに仕上げてくること。（2h）
第2回	イベント事業の企画を練り上げる(2)：報告書を見据えた準備をしよう。	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第3回	仲間とイベントの計画・準備をしよう(1)　作業	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第4回	仲間とイベントの計画・準備をしよう(1)　報告	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第5回	仲間とイベントの計画・準備をしよう(1)　作業	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第6回	仲間とイベントの計画・準備をしよう(1)　報告	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第7回	イベント報告準備①（報告書作成）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第8回	イベント報告準備②（提出）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第9回	イベント報告準備③（提出）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第10回	イベント報告準備④（発表用PowerPointの作成・発表練習）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第11回	大学での学びの方向を決める（基礎ゼミ・基礎演習説明会）	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第12回	学園祭イベント報告会①	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第13回	「働く」ことの意味とキャリア開発（2）※中小企業家同友会連携授業	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第14回	学園祭イベント報告会②	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	当日配布される資料を作成して、来週提出すること。（2h）
第15回	学園祭イベント報告会③	
	事前学習（内容・時間）	先週提示した課題を済ませておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提出課題は試験の代用になる場合もある。きちんとまとめておくこと（2h）
第16回（定期試験）	一年を振り返って（総括）基本的に提出資料を中心に試験を行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）
1GBN-1510-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
大学基礎総合	221～	1年生・前期	2単位	選択	平田　毅・全　彰煥	
履修の前提条件	履修規程第5条3項に基づいて、原則として次の事項に該当する者の履修を許可します。①4月に実施する「プレテスト」の結果、この科目の履修を勧奨された者、②担当教員から特に履修の必要ありと認められた1年生、③その他。※原則として2～4年生の履修は認めません。					

授業概要　（Course Outline）

この授業では、習熟度に応じたクラス編成を行い、それぞれの実態に即した内容で学習を行います。漢字・日本語学習を中心に課題（自主学習を含む）に取り組みながら、国語力（漢字能力、日本語表現力）を中心に、基礎的な能力とスキルの充実と学習習慣の形成を図ります。授業は、反復学習や自宅での学習を軸に構成されていますので、自学自習の意欲に基づいた主体的な取り組みと継続的な課題の提出が毎回要求されます。
なお、本授業は、本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅴ　基礎学力・技能を確認・強化すること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①大学での授業を理解し知識や技能を習得していく上で、必要とされる基礎的な学力（漢字力・日本語力等）の充実を図る。
②各自の漢字・日本語能力の向上と定着を図るために漢字能力検定・日本語能力検定の合格をめざした課題学習を取り組む。
③授業および自宅での課題に積極的に取り組むことを通して、意欲的に学習する習慣と態度を養う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業そのものは、漢字力・日本語力の向上のための反復学習が中心となります。自身の弱点を見きわめ、日常的にその克服に向けた学習の習慣を築くことが非常に大切です。そのため、授業での課題を契機として、地道にそして主体的に自らの欠点を改善してほしいと願っています。また、漢字能力検定・日本語能力検定に関連する参考書や問題集を自ら購入し、主体的に取り組んでほしいと願っています。「自学自習」の姿勢こそが、自らの漢字力・日本語力を向上させるうえで欠かせない要素です。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

GoogleClassroomを活用します。
漢字能力検定・日本語能力検定の目標級の取得を目指して取り組みます。
本学で実施される検定試験は必ず受験してください。
学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリント配布 （GoogleClassroomを活用）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
漢字検定準2級頻出度順問題集（高橋書店） 日本語能力試験公式問題集N2 （日本国際教育支援協会） その他多数			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

①定期試験の結果（90%）
②平常点(課題の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出、その他)（10%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業ガイダンス 、漢字能力検定・日本語能力検定の概要説明、練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ①	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第2回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ②	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第3回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ③	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第4回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ④	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第5回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑤	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第6回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑥	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第7回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑦	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第8回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑧	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第9回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑨	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第10回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑩	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第11回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑪	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第12回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑫	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第13回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑬	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第14回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑭	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第15回	練習問題と解説 :ﾌﾟﾘﾝﾄ⑮	
	事前学習（内容・時間）	配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-6410-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
文章表現Ⅰ	219・220	2年生・前期	2単位	選択	平田 毅	
大学基礎総合Ⅰ	～218	1年生・前期		必修		

履修の前提条件	漢字能力検定3級以上レベルの技能を持ち、文章作成の能力を伸ばしたいという意欲をもち、文章検準2級の取得を目指す者を対象とします。 また、毎週提出を求められる課題に対して、真摯に取り組める継続力をもっていることが必要です。 毎回の課題提出を連続して怠った場合、また提出頻度が低い場合には、履修登録を取り消すことがあります。 ※履修人数が20名を超えた場合には、受講者の人数制限を行う場合があります。

授業概要 （Course Outline）

この授業、大学で必要とされるレポートや小論文を作成する上でのスキル向上と、文章読解・作成能力検定（文章検）準2級レベルの課題を熟せるようになることを目的とします。それらは、事実と意見を区別して文章記述する力、語彙力、文章読解力を身につけていくことにつながるものです。就職試験さらには社会人として必要な文章力にもつながるものです。
各自が取り組んだ課題文は、毎回、授業担当者が添削して返却します。
課題に毎回怠ることなくしっかりと取り組むこと（つまり「あなたが実際に“書くこと”」）以外には、文章を書く力を向上させる方法はありません。このことを肝に銘じて取り組んでください。
なお、本授業は学則第1条、およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅴ 基礎学力・技能を確認・強化すること。」に則り開講される科目です。

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル Mathematics	
	情報リテラシー Information Literacy	○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力 Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力 Self-management	○
	チームワーク Teamwork	○
	リーダーシップ Leadership	
	倫理観 Ethical Sense	
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	
	生涯学習力 Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

①大学での授業（講義）を理解し、知識や技能を習得していくうえで必要とされる漢字能力、文章読解力の充実と定着を図る。
②大学での卒業論文やレポート作成に必要とされる漢字能力、文章読解能力の向上を図り、文章検・漢字検定の合格を目指す。
③自己の学力（漢字力・文章力）を見極め、向上のため目的的・意欲的に学習する習慣と態度を身につけ、授業および家庭での課題に積極的に取り組む姿勢を育む。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

授業は、文章力・漢字能力の向上のための反復した取組・練習が中心となります。全員の前（もしくはグループ内）で音読、つまり声に出して読む授業形態をとります。また、お互いに批評し合う場面もあります。よって、一人一人の主体的で能動的な取り組みが必要となります。
また、この授業の時だけでなく、他の様々な「文章を書く」場面で、この授業で身につけたことを「意識して」文章を書くことを習慣づけることが非常に大切です。また、検定に関連する参考書や問題集を自ら購入し、主体的に取り組んでほしいと願っています。「自学自習」の姿勢こそが、自らの文章力を向上させるうえで欠かせない要素です。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

GoogleClassroomを活用して授業を進めていきます。
文章検（文章読解・作成能力検定）準2級および日本漢字能力検定3級以上の合格を目指して取り組みます。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
基礎から学べる！文章力ステップ 【文章検準2級対応】		公益財団法人 日本漢字能力検定協会	978-4-89096-351-5

参考文献 （Reference Books）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山 和久	NHK出版 （NHKブックス No.1194）	978-4-14-091194-5

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回の課題（予習・復習）への取り組み（20%）、中間テスト（10%）、期末試験（70%）
および、検定試験の結果をもとに、総合的に評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業ガイダンス ～文章を読む力の大切さ。「文章検」の概要。（漢字検定の概要） プレテスト（文章検準2級・漢検3級）の実施	
	事前学習（内容・時間）	これまでの生活における自分自身の文章を読んだり書いたりしてきた経験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	プレテストの見直し（復習）[2h]
第2回	簡単な文（単文）を読む。音読の技術と漢字の読み。文の意味の把握。語彙力の増強。（1）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業課題の見直しをする。[2h]
第3回	簡単な文（単文）を読む。音読の技術と漢字の読み。文の意味の把握。語彙力の増強。（2）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第4回	文章検準2級の概要（再・論説文を中心に）・論説文作成のツボ ／ 漢検3級の攻略法	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第5回	論説文（文章検準2級）作成（1） ／ 漢検3級の課題（1）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第6回	論説文（文章検準2級）作成（2） ／ 漢検3級の課題（2）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第7回	論説文（文章検準2級）作成（3） ／ 漢検3級の課題（3）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第8回	中間テスト（論説文作成・漢字の読み）	
	事前学習（内容・時間）	中間テストへの準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	中間テストの復習シートに取り組む。[2h]
第9回	中間テストの振り返り（論説文作成・漢字の読み）と 課題	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第10回	手紙文（文章検準2級）作成のツボと作成（1） ／ 語彙問題（文章検準2級）の課題（1）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第11回	手紙文（文章検準2級）作成（2） ／ 語彙問題（文章検準2級）の課題（2）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第12回	文章読解（文章検準2級）のツボと問題 （1）	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験対策の学習に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬試験問題の復習シートに取り組む。[2h]
第13回	模擬試験（文章検準2級・漢検3級）	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題問題の復習シートに取り組む。[2h]
第14回	模擬試の振り返り と 論説文作成の課題再び	
	事前学習（内容・時間）	予習課題に取り組む。[2h]
	事後学習（内容・時間）	これまでの課題問題の総復習をする。[2h]
第15回	学習の振り返りと今後の文章読解・作成能力の充実に向けて	
	事前学習（内容・時間）	これまでの課題問題の総復習をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	これまでの課題問題の総復習をし、定期試験対策をする。[2h]
第16回（定期試験）	文章読解・文章作成の問題 と 漢字検定3級の問題 を出題	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-6410-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
文章表現	221	1年生・後期	2単位	選択	平田　毅	
文章表現Ⅱ	219・220	2年生・後期				
大学基礎総合Ⅱ	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	漢字能力検定3級以上レベル、文章検準2級レベルの技能を持ち、さらに文章作成の能力を伸ばしたいという意欲をもった者を対象とします。 また、毎週提出を求められる課題に対して、真摯に取り組める継続力をもっていることが必要です。 毎回の課題提出を連続して怠った場合、また提出頻度が低い場合には、履修登録を取り消すことがあります。 ※履修人数が20名を超えた場合には、受講者の人数制限を行う場合があります。

授業概要　（Course Outline）

この授業、大学で必要とされるレポートや論文を作成する上でのスキル向上と、文章読解・作成能力検定（文章検）2級レベルの課題を熟せるようになることを目的とします。それらは、卒業論文作成に役立つことはもちろんのこと、就職試験さらには社会人として必要な文章力にもつながるものです。
各自が取り組んだ課題文は、毎回、授業担当者が添削して返却します。
課題に毎回怠ることなくしっかりと取り組むこと（つまり「あなたが実際に“書くこと”」）以外には、文章を書く力を向上させる方法はありません。このことを肝に銘じて取り組んでください。
なお、本授業は学則第1条、およびカリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅴ　基礎学力・技能を確認・強化すること。」に則り開講される科目です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①大学でのレポート作成や卒業論文や就職試験での小論文の作成に対応できる文章作成の技能の向上・充実を図り、文章検の合格を目指す。
②自己の文章力を向上させるため目的的・意欲的に学習する習慣と態度を身につけ、授業および家庭での課題に積極的に取り組む姿勢を育む。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業は、文章作成能力の向上のための反復した取組が中心となります。
また授業では、自分が作成した課題文を全員の前（もしくはグループ内）で声に出して読み・批評し合う場面を設けますので、一人一人の主体的で能動的な取り組みが必要となります。
また、この授業の時だけでなく、レポートや卒論、就活など様々な「文章を書く」場面で、この授業で身につけたことを「意識して」文章を書くことが非常に大切です。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。
メールアドレス：t-hirata@kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

GoogleClassroomを活用して授業を進めます。毎回の課題の提出、添削の返却もGoogleClassroomで行います。
文章検（文章読解・作成能力検定）２級の合格を目指して取り組みます。
自らの文章読解・作成能力の水準を客観的に把握するため、2月に本学で実施される「文章検」の検定試験は、必ず受検するようにしてください。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基礎から学べる！文章力ステップ 【文章検 2級対応】		公益財団法人 日本漢字能力検定協会	978-4-89096-368-3

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山 和久	NHK出版 （NHKブックス No.1194）	978-4-14-091194-5

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回の課題（予習・復習）への取り組み（20%）、模擬試験（10%）、期末試験（70%）の成績を基づいて、総合的に評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	文章を書くということ ～「文章作成能力」とは何か。 「文章検」の概要。プレテスト（文章検2級の問題）	
	事前学習（内容・時間）	これまでの生活における自分自身の文章作成経験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	履修にあたってのアンケートに回答し、課題01（プレテスト）に取り組む。⇒提出[2h]
第2回	文章検問題の概要と具体例、プレテスト課題01への講評と解説、小論文と文章検の論説文の違い	
	事前学習（内容・時間）	課題01（プレテスト）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題01（プレテスト）の見直し[2h]
第3回	文章作成力（考える力・小論文）の課題02への講評・解説、「構成メモ」の活用法	
	事前学習（内容・時間）	課題02（小論文課題）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題02（小論文課題）の見直し・検証[2h]
第4回	文章作成力（考える力・小論文）の課題03への講評・解説、、「構成メモ」の活用法	
	事前学習（内容・時間）	課題03（小論文課題）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題03（小論文課題）の見直し・検証[2h]
第5回	文章作成力（考える力・小論文）の課題04の講評・解説、「チェックシート」の使い方	
	事前学習（内容・時間）	課題04（小論文課題）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題04（小論文課題）の見直し・検証[2h]
第6回	文章作成力（考える力・小論文）の課題05の講評・解説 卒業論文（卒業研究）の進め方	
	事前学習（内容・時間）	課題05（小論文課題）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題05（小論文課題）の見直し・検証[2h]
第7回	文章作成力（考える力・小論文）の課題06の講評・解説 文章検2級の概要（再び）、「レポートの構成」「文章の要約」問題への取り組み方	
	事前学習（内容・時間）	課題06（小論文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題06（小論文）の見直し・検証[2h]
第8回	文章検2級「論説文」問題への取り組み方、「構成メモ」の活用 文章作成力（論説文）の課題07の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題07（レポートの構成、文章の要約）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題07（レポートの構成、文章の要約）の見直し・検証。[2h]
第9回	文章作成力（論説文）の課題08の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題08（論説文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題08（論説文）の見直し・検証。[2h]
第10回	文章作成力（論説文）の課題09の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題09（論説文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題09（論説文）の見直し・検証。[2h]
第11回	文章作成力（論説文）の課題10の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題10（論説文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題10（論説文）の見直し・検証。[2h]
第12回	文章作成力（手紙）課題11の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題11（手紙文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題11（手紙文）の見直し・検証。[2h]
第13回	文章作成力（手紙文）の課題12の講評・解説	
	事前学習（内容・時間）	課題12（手紙文）に取り組む⇒提出[2h]
	事後学習（内容・時間）	課題12（手紙文）の見直し・検証。[2h]
第14回	文章検2級 模擬試験	
	事前学習（内容・時間）	これまでの課題の復習をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬試験問題の自己採点とやり直し。[2h]
第15回	総復習とまとめ。	
	事前学習（内容・時間）	これまでの課題を再度総復習する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	これまでの課題を再度総復習し、定期試験対策をする。[2h]
第16回（定期試験）	「文章検」2級水準の問題を出題	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5310-22C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
キャリアデザイン入門Ⅰ	共通	2年生・前期	2単位	必修	大多　正人	○
履修の前提条件	自分の将来について充実したものにしたいという思いと関心を持つこと					

授業概要　（Course Outline）

キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、実社会で必要となる能力・資質を示し、大学生活を充実させることでそれらを磨くよう促します。建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性を」「優れた科学技術者になる前に豊かな人間性を」はまさに「実社会で必要となる資質」といえます。この講座は、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。様々なワークを通じて、自分で考え行動し、周りと協働して成果を生み出すことで、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」など、「社会人基礎力」を修得していく構成となっています。学生が自らの将来を主体的に「キャリアデザイン」し、人間性を磨くことで、悔いのない進路選択ができるようサポートします。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

社会で必要になる以下の様々な能力・資質の修得を目指して、イメージし、感じ、行動することを通じて、社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めます。
1）自分を肯定する～「これでいいのだ」
2）自分らしさを知る～「私の強みは〇〇だ」
3）社会を知る～「仕事は、大人は、面白い」
4）社会で必要となる資質を磨く～「コミュニケーションってこういうことか」
5）卒業後のイメージを具体的に描く～「10年後はこうありたい」
6）そのために今から取り組むべきことを明確にする～「ここからはじめよう」
7）毎日を充実させるためのアクションを起こす～「やるなら、今」

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を実施していきます。また、グループワークの機会も多くあります。積極的にコミュニケーションを図り、周囲に働きかけることを期待します。
授業の最後にミニッツペーパーに「気づいたこと・発見したこと」「今後どう活かしたいか」「質問事項」を記入、提出してもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業担当者への相談は基本的に授業の前後にお願いします。
その講義の問い合わせ他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター（CDC）」までご連絡下さい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「キャリアデザイン入門Ⅰ」 テキスト・ワークブック （専用テキスト）	大多正人・CDC	九州情報大学作成	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
随時紹介			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

①遅刻・途中退席は原則認めない。
②テキスト・筆記具を持たない学生は受講できない。
③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。
④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。
⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。
⑥毎回提出するミニッツペーパーで出席を確認し、その記載内容のレベルも平常点に反映する。
⑦成績評価の方法…平常点（60%）・課題レポート点（20%）・定期試験（20%）
　＊平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ホートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（受講ルール説明、講座の趣旨・進め方について説明します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを準備し、一通り目を通しておく。大学生活をどう充実させるか、卒業後の進路選択をどうするのか、自分なりのイメージを描いておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。（2.0h）
第2回	コミュニケーション① 仲間づくり（講義、仲間づくりの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第3回	コミュニケーション② 協働ゲーム（講義、協働ゲームの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第4回	自分を知る① キャリアアンカー（講義、キャリアアンカーの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第5回	自分を知る② 自分らしさについて（講義、自分マッピングなど体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第6回	自分を知る③ ストレスマネジメント（講義、ストレスマネジメントの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第7回	社会を知る① 働くってどういうこと？（講義、働くことの意味の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第8回	社会を知る② 社会人訪問のすすめ（講義、社会人訪問の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。中間課題に取り組む。（2.0h）
第9回	社会を知る③ 社会が求める人材（講義、人材採用の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第10回	社会を知る④ 学生と社会人の違い（講義、ビジネスマナーの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第11回	社会を知る⑤ ワークルール（講義、事例に基づく体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第12回	社会を知る⑥ しごと研究のすすめ（講義、アサーションの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第13回	ロールモデルを探す～先輩に学ぶ学生生活の過ごし方（講義、先輩への質疑応答、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第14回	自分を知る④ 社会人基礎力（講義、社会人基礎力の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。（2.0h）
第15回	総括～大学生活を充実させるために（講義、行動計画作成など体験型ワーク、課題・レポート作成を行います）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオを完成させ、自身の大学生活を充実させる行動計画を立て、卒業後の進路選択のイメージを具体化する。（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5320-22C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
キャリアデザイン入門Ⅱ	219～ ～218	2年生・後期	2単位	必修 選択	平川　淳一	

履修の前提条件	・キャリアデザイン入門Ⅰを履修していることが望ましい。 ・受講上のマナーを守れる人（時間厳守やスマートフォンの使用など）。

授業概要　（Course Outline）

就職活動において、書類選考を通過した後、攻略しなければならない関門となるのが適正検査です。SPIは、応募者の知的能力や性格面での適正を測定するために多くの企業で利用されています。この関門を突破しなければ、面接試験のチャンスを得ることはできません。
この科目では、SPI総合検査の中でも「能力検査」に主眼を置き、出題形式から解答手順、解答に至るまでの内容を総合的に学習し、適正検査を攻略するための糸口を見い出していきます。
また、SPI総合検査の学習を通して、ビジネスパーソンに必要とされる課題解決思考や情報を整理して判断する能力などを養い、キャリアをデザインしていくための礎を築きます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・この授業は、カリキュラムポリシー「Ⅵ キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること。」に基づいて、就職試験に対応するための、基礎的能力の習得を目標とします。
・目的意識を持ち、目的を達成するための行動や考え方についての基本的能力を身につけることを目標にします。
・キャリアをデザインしていく上で必要とされる、課題解決思考や情報を整理して判断する力の習得を目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・対話型の授業を心がけるので、積極的な発言を期待します。
・中間試験は、学習プランと実行状況についての自己点検を行うために実施します。
　自己点検の結果から学習サイクルの改善につなげるアクティブな学習を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

2号館1階の講師控室にお越しください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

・配布プリントの管理のために、ファイルを準備しておいてください。
・ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に、必要事項を記入してから最終講義に提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
2024年度版 SPI3&テストセンター 出るとこだけ! 完全対策	就活ネットワーク（編集）	実務教育出版	978-4788983465

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
2024年度版 本気で内定! SPI&テストセンター1200題	ノマド・ワークス	新星出版社	978-4405027190

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価方法：平常点 20%、課題 20%、定期試験 60%
　※平常点は、受講マナーや学習意欲を見て総合的に評価します。
　注）受講マナーを守れない人は、「減点」、「欠席」、「受講停止」になる場合があります。

・成績評価の基準：SPI能力検査の意図や内容について、理解しているか。
　論理的思考力が、身についているか。
　数的な処理能力が、身についているか。
　言葉の意味や話の要旨を捉えて理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション （授業の概要とSPI3について、SPI総合検査を体験）	
	事前学習（内容・時間）	「SPIとは、どのような検査？」500文字程度にまとめて、返答できるようにしておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	体験したSPI総合検査を振り返り、疑問点を調べて記録を残しておくこと。(2.0h)
第2回	損益算と料金の割引 （P.44～63）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第3回	分割払いと代金の精算 （P.64～75）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第4回	速さと表の読み取り （P.76～95）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第5回	集計表と推論［～が正しければ～も必ず正しい］ （P.96～109）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第6回	推論［順位付け］と推論［内訳］ （P.110～125）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第7回	推論［人口密度・濃度・増加率］と組み合わせ （P.126～141）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第8回	中間試験	
	事前学習（内容・時間）	第1～7回を復習して、中間試験対策をしておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	中間試験の内容を振り返り、理解度の再確認と苦手分野の補強をしておくこと。(2.0h)

第9回	確率と物の流れと比率 （P.142～157）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第10回	条件と領域 （P.158～165）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第11回	グラフの領域と長文の読み取り［計算］ （P.166～177）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第12回	資料の読み取りと割合 （P.178～186）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第13回	二語関係と熟語 （P.188～209）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第14回	語の用法と長文読解 （P.210～241）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	教科書を精読して復習。授業で得た気づきを、事前記録に付け加えて更新しておくこと。(2.0h)
第15回	文章の並べ替えと性格検査 （P.242～254）	
	事前学習（内容・時間）	テーマの練習問題の解答手順と解答の詳細をノートに記録しておくこと。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	定期試験を意識し、全授業内容についての再復習をしておくこと。(2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5290-32E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
キャリアデザインⅠ	共通	3年生・前期	2単位	選択	大多　正人	○

履修の前提条件	①「社会基準」としてマナー（時間厳守、挨拶、筆記具・ノート必携など）を実践できること。 ②講演者の話をしっかり聴き、メッセージの要諦を書きとる習慣を身につけておくこと。

授業概要　（Course Outline）

「何のために働くのか？」「働くことで何が得られるのか？」「どんな仕事があるのか？」「働くうえで大切にしたいことは何か？」「社会に出るうえで学生生活を通してどんな準備をすればいいのか？」地場中小企業の経営者6人の講話から「生の声」を聴くことができる貴重な「体験」の機会です。経営理念や指針、ビジネスの現場の具体事例などに触れ、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深めます。複数の企業を経験の後、キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援を豊富に経験し、更に人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、経営者と学生との間に立ち理解がより深まるように講演をコーディネイトします。また、経営者の講話を受けて学生同士でディスカッションするアクティブラーニングの場を通じ、「学んだこと・発見したことを今後にどう活かすか」を共有し、語り合うことで、自分ではキャッチできなかったメッセージに気づく「目からウロコ体験」の機会にもなります。ここでも、学生が相互に気づきを共有し、自分の糧として活かせるように、講師がこれまでのキャリアコンサルタントとしての知識・経験を活かして導きます。また、この講座は、「社会基準」を重視した授業を行うことで、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。これらのアプローチを通して、「社会を知る」ことはもちろん、大学生活をさらに充実したものにし、自身の「キャリアデザイン」に磨きをかけていくことにつながります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

○社会や組織の中で自分が生きていくために必要な経験・知識とは何か、経営者の生の話を聴き、感じ取り、それを次週のグループ討議でお互いに確認しあう中で、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深め、自分の行動指針として定着させることを目指します。
1）社会を知る～「仕事って、働くってそういうことか」
2）ビジネスの現場を知る～「想像していたより職場は○○だ」
3）経営者の考えを知る～「会社ってそういうものなのか」
4）仲間の考えを知る～「そんな考え方もあるのか」
5）社会で必要となる資質を磨く～「学生生活を充実させて社会に出る準備をしよう」
6）卒業後のイメージを具体的に描く～「こんなオトナになりたい」「こんな仕事をしたい」

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

企業経営者の講話の中で、あるいは講話を振り返るグループディスカッションにおいて、学生同士で考え方や価値観を共有する場が設けられます。積極的に意見交換し、刺激を受け合いながら、自身の「キャリアデザインの解像度」を高めてくれることを期待しています。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業担当者・ゲストスピーカー（企業経営者）への相談は授業の前後にお願いします。
その他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター（CDC）まで連絡ください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて資料を配布			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
随時紹介			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

①遅刻・途中退席は原則認めない。
②ノート・筆記具を持たない学生は受講できない。この科目のためのノートを用意しておくこと。
③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。
④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。
⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。
⑥毎回提出するミニッツペーパーで出席を確認し、その記載内容のレベルも平常点に反映する。
⑦成績評価の方法…平常点（80%）・定期試験（20%）
　＊平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ホートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。
⑧定期試験は自筆ノート及び配布資料のみ持ち込み可。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（受講ルール説明、講座の趣旨・進め方）	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを事前に確認しておく。2年次の必修科目「キャリアデザイン入門Ⅰ」を振り返り、自分なりの職業観について考えを整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。中間課題に取り組む。（2.0h）
第2回	経営者講演①（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第3回	アクティブ・ラーニング①（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第4回	経営者講演②（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第5回	アクティブ・ラーニング②（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第6回	経営者講演③（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	次回ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第7回	アクティブ・ラーニング③（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第8回	経営者講演④（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第9回	アクティブ・ラーニング④（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第10回	経営者講演⑤（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第11回	アクティブ・ラーニング⑤（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第12回	経営者講演⑥（地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第13回	アクティブ・ラーニング⑥（前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます）	
	事前学習（内容・時間）	前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。（2.0h）
第14回	IT業界を知る（業界に精通した講師を招き、その実情や企業選びのポイントについて伺います）	
	事前学習（内容・時間）	ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。（2.0h）
第15回	企業（業界）研究の進め方 アクティブ・ラーニング⑦（学んだことをどう活かすかそれぞれに考えます）	
	事前学習（内容・時間）	自分自身の職業観や仕事を選ぶ基準について整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオを完成させ、自身の卒業後のキャリアのイメージを具体化する。（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施	

ナンバリング（Numbering）
1GCN-5300-32E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
キャリアデザインⅡ	共通	3年生・後期	2単位	選択	大多　正人	○

履修の前提条件	①「社会基準」としてマナー（時間厳守、挨拶、筆記具・ノート必携など）を実践できること。 ②実践的なアプローチ（グループワークなど）において能動的に取り組めること。

授業概要　（Course Outline）

キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、進路決定する上で必要な最新の情報を提供するとともに、実践的な就職活動の準備をエスコートします。悔いのない進路選択、納得のいく就職先に進むための準備講座です。キャリア科目の集大成となる「実戦」的なアプローチで、直前に迫った就職活動に自信を持って臨めるよう最新情報でチューンナップしていきます。そのためには、確かな情報を手にしてしっかり準備することが必要で、それにより自信をもって採用選考に臨むことができます。また、この講座は、「社会基準」を重視した授業を行うことで、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。就職を希望する3年生には是非とも履修して欲しい科目です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

1）就職活動の実像を知り、疑問や不安を解消する。具体的には、
　①就職活動のルールと流れを知る
　②マナーや心構えをつくる
　③すべきことを明確にする
2）実戦的なワークやアクティビティを通して、「雄気堂々」本番に臨めるように準備する。具体的には、
　④希望する業界・企業を絞り、事前に研究する
　⑤自己分析を通して履歴書・エントリーシートを準備する
　⑥グループディスカッションや面接の対策をする

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

就職活動はすべてが「アクティブ」です。自己分析や履歴書・エントリーシートの作成では、自分自身の「強み・改善点」「学生生活で得たもの」「志望動機」「ビジョン」などを整理し、わかりやすく自己表現することが必要です。また、面接では、それらを全身でアピールすることが求められます。さらに、グループディスカッションでは、意見交換を通して、異なる見解や対立を乗り越えながら集団で意思決定しなければなりません。授業では皆さんがこれから遭遇するだろうと思われる場面を極力「リアルに再現」して、実戦的なトレーニングを行います。本番で「後悔しない」よう、積極的に取り組むことを期待します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業担当者への相談は授業の前後にお願いします。その他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター」（CDC）までご連絡ください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「キャリアデザインⅡ」 テキスト・ワークブック （専用テキスト）	大多正人・CDC	九州情報大学作成	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
随時紹介			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

①遅刻・途中退席は原則認めない。
②テキスト・筆記具を持たない学生は受講できない。
③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。
④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。
⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。
⑥毎回提出するミニッツペーパーで出席を確認、その記載内容のレベルも平常点に反映する。
⑦成績評価の方法…平常点（80%）・定期試験（20%）
　＊平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ホートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（「就職活動はなんのため？」「どうすればいいのか？」について説明します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを準備し、一通り目を通しておく。2年次の必修科目「キャリアデザイン入門Ⅰ」及び3年次前期「キャリアデザインⅠ」（履修者のみ）を振り返り、自分なりの職業観について考えを整理しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。（2.0h）
第2回	就活を知る①　就職活動の全体像（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。（2.0h）
第3回	社会が求める人物像①　ビジネスマナーの重要性とコミュニケーション、コンピテンシー、モチベーション（講義、体験型ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。（2.0h）
第4回	仕事を知る①　企業研究の手がかり（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。（2.0h）
第5回	仕事を知る②　企業研究の進め方（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。（2.0h）
第6回	仕事を知る③　後悔しない企業（職場）選び（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。中間課題に取り組む。（2.0h）
第7回	自分を知る①　自己分析ノススメ（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。各種自己分析ワークシートに取り組む。（2.0h）
第8回	自分を知る②　コンピテンシーから考える自己分析（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。各種自己分析ワークシートに取り組む。（2.0h）
第9回	履歴書・エントリーシート①　自己PRと短所（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。（2.0h）
第10回	履歴書・エントリーシート②　学生時代に力を注いだこと（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。（2.0h）
第11回	履歴書・エントリーシート③　志望動機、履歴欄の書き方（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。（2.0h）
第12回	就活を知る②　内定者による就職活動報告会（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	インターンシップに参加するなど自身で就職活動に関する情報収集を行う。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	自身の就職準備に向けた行動計画を具体的に立てる。（2.0h）
第13回	グループディスカッション②　実践編（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みを通して、ディスカッションへの臨み方をシミュレーションする。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	自分たちでグループディスカッションやグループワークの経験を積む。（2.0h）
第14回	面接①　基本編（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの読み込みを通して、面接への臨み方をあらかじめシミュレーションする。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	講義で目撃・体験したことを踏まえ、改めてテキストを読み込み、面接への臨み方をシミュレーションする。（2.0h）
第15回	面接②　実践編（講義、ワーク、課題・レポートを作成します）	
	事前学習（内容・時間）	自身のアピール内容を整理し、表現できるよう準備しておく。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ポートフォリオを完成させ、提出する。自分たちで面接の経験を積む。（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施	

専門教育科目
（両学科共通）

ナンバリング（Numbering）
1BMB-5331-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営学総論Ⅰ	219～	1年生・前期	2単位	必修	遠藤　真紀	○
経営学入門	～218					

履修の前提条件	両学科とも必修科目であり，IT人材となるための基礎として，経営情報および企業の経営・マネジメントに関心を持っている事。 日頃から社会（世の中）の出来事や経済・企業に関係するニュース等に関心を持つ事。

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営に関する基本理論を体系的に理解するとともに，その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に，伝統的な理論から現代の経営学まで，その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は，情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから，これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。
「経営学総論Ⅰ（経営学入門）」では，企業と社会についての基本的な視点から考察を進めます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

1．経営学の体系を理解するとともに，生活者としての企業との関わり方，近現代における企業の発展の歴史，企業がもたらす社会への貢献と負の影響の側面の理解。
2．企業を取り巻く大きな環境の変化の理解。
3．個人個人が，企業との関わりの中でどのようにセルフコントロールしていくべきかの理解。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
また企業経営や経営戦略等に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
企業経営入門	井上善海　他	中央経済社	978-4-502-42681-0

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営学要論	岸川善光	同文舘出版	978-4-4953-9010-5

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：学習に対する積極性および環境変化と企業の役割・機能などについて基礎的な理解が図られている。自身と企業とのかかわりが理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解） 企業経営を考える	
	事前学習（内容・時間）	テキストの事前確認および企業経営等に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第2回	1．企業の種類と統治 企業の概念，企業の形態，企業の統治	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第3回	2．企業の経営目的と理念 企業の経営特性，企業の経営目的，企業の経営理念	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	3．企業の社会的責任とSDG's 企業の社会的責任，CSRと企業評価，CSRとSDG's	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	4．企業の成長戦略とイノベーション 企業と戦略，企業の成長戦略，イノベーション	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	5．企業の競争戦略とグローバル化 競争と競争戦略，VUCA時代と競争戦略，グローバル化と競争戦略	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	6．企業の組織構造と組織文化 組織とは，組織構造，組織文化	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	講義のまとめ（中間）と演習	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	7．企業の採用と人材育成 採用，育成，将来を見通した人材の成長	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	8．企業の評価と報酬 人事評価，人事評価の困難性，報酬	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	9．企業の動機づけとリーダーシップ 動機づけ，リーダーシップ，企業活動における動機づけとリーダーシップの実際	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	10．企業の生産と販売 生産管理，マーケティング，生産から販売までの全体最適	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	11．企業の情報と意思決定 情報と意思決定，企業の意思決定と情報，企業が記録し蓄積する情報	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	12．企業の資本と資金 企業の資本調達，企業の資金運用，企業の資金管理	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1BMB-5220-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
会計学入門	221～	1年生・前期	2単位	必修	宮崎　裕士	
	219・220			選択		
	～218			必修		

履修の前提条件	会計には計算がつきものになりますので、電卓は必ず持参してください。そうはいっても、基本的には足し算、引き算、掛け算しか使いませんので計算自体は簡単です。力を抜いて履修していただければと思います。ただし、講義を受ける上でのマナーは守ってください。 なお、会計学入門の履修者は、必ず簿記Ⅰ(前期)と簿記Ⅱ(後期)を履修するようにしてください。

授業概要　(Course Outline)

本講義では、会計学とは何を学ぶのか、どのように社会で役に立っているのか、学修によって何ができるようになるのかを網羅的に学習していきます。 また、簿記や他の会計関係の講義への橋渡しになるスタートアップの授業となります。　　本講義の学修によって、本学のディプロマポリシーⅡおよびⅢを満たします。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

会計学の知識は、現在、ビジネスに関わる人にとっては、身に付けておかねばならない重要な常識になっています。本講義は、このような社会的要請に応えるため、下記の目標を設定しています。
・会計学分野のすべての科目に通じる基礎的な知識を習得すること。
・習得した基礎的な知識を通じて、企業経営に参画するビジネスパーソンとしての手掛かりを得ること。
・より発展したものとして、簿記などの資格取得にトライする意欲を養うこと。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。
・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。
＊研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について

学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スタートアップ会計学　第3版	上野清貴　編著	同文舘出版	2022年３月刊行予定

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
税理士・会計士・簿記検定 はじめての会計基準 [第2版]	並木秀明	中央経済社	978-4502350214

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(60%)
2.平常点(40%)
＊平常点の内訳:各回の小テスト(30%)、授業への取組み(10%)

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（授業の内容と進め方）・なぜ会計を学ぶのか（第2章相当）？	
	事前学習（内容・時間）	まずは教科書を一読し、講義の全体像をイメージしてみましょう。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第2回	第１章　会計ってなに―くらしと会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第1章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第3回	第３章　会計はどう利用するの―財務分析	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第3章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第4回	第４章　企業の成績はどうやってみるの―財務諸表	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第4章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第5回	第５章　会計は経営にどう役立つの―管理会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第5章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第6回	第６章　モノがいくらでできたかはどうやって決まるの―原価計算	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第6章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第7回	第７章　会計情報はどうやってつくられるの―簿記入門	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第7章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第8回	第８章　会計制度はどうなっているの―制度会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第8章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第9回	第９章　財務諸表は信頼できるの―財務諸表監査	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第9章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第10回	第１０章　会社の経営にどう役立つの―管理会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第10章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第11回	第１１章　グローバル経済における会計ルールってなに―国際会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第11章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第12回	第１２章　持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの―環境会計・CSR会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第12章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第13回	第１３章　ボランティア活動にも儲けが必要なの―NPOの会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第13章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第14回	第１４章　自治体の会計はどうなっているの―公会計	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第14章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第15回	第１５章　簿記・会計はどこからやってきたの―簿記・会計史・これまでのまとめ	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第15章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験（講義全体をとおした学習成果の確認）	

ナンバリング（Numbering）
1BMB-5830-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
簿記Ⅰ	222 経営情報学科	1年生・前期	2単位	必修	岩下　昌美	

履修の前提条件	テキストを必ず購入すること。なお、使用するテキストは市販されていませんので，初回の講義開始時に購入してもらいます。掲示板でもお知らせしますので，ご留意ください。 12桁程度の電卓を準備してください。推奨電卓は講義内でご案内をいたします。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーにもとづき、この授業では、簿記の基礎的レベルについて説明します。
ビジネス社会において必要不可欠といわれる会計の知識，その基礎となっているのが，複式簿記の原理と技術です。複式簿記とは，企業の日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を明らかにする技能のことです。
本講義では，小規模な株式会社を前提した複式簿記の原理と技術の基礎的知識を習得します。企業の経営活動の記帳方法，簿記一巡の手続き，決算資料（財務諸表）の作成について学習します。日本商工会議所主催の簿記検定3級の内容です。後期の「簿記Ⅱ」の講義内容を含めて簿記検定3級の範囲を網羅しますので，必ず受講をするようにしてください。簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本学では4年間で簿記検定3級，全員取得を掲げています。そこで本講義では，簿記一巡の手続きを理解し，小規模な株式会社における帳簿記帳の基礎的知識を習得することを目標とします。
そして「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」の履修により日本商工会議所簿記検定3級取得を目指します。簿記検定のペーパー試験（統一試験）は6月，11月，2月（翌年）に実施されます。2021.4月からWEB検定（受験日自由選択）も実施されることになりました。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。
授業終了時には毎回の理解度をチェックするため，ミニテストを実施します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは2号館2階270室の研究室にてオフィスアワー時（年度はじめに掲示），あるいは電子メール（アドレス：masami-i@g.kiis.ac.jp）で受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『2022　日商簿記3級テキスト』，1,500円	岩下昌美	なお、使用するテキストは市販されていませんので，初回の講義開始時に購入してもらいます。	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ）	TAC簿記検定講座	TAC出版	978-4813299080

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験（70%），平常点（15%），復習課題（15%）。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況，毎回の授業最後の成果物提出状況で判断する。
成績評価の基準：①3級の取引の仕訳ができるか。②試算表が作成できるか。③伝票が起票できるか。④決算整理事項から精算表および財務諸表（貸借対照表・損益計算書）が作成できるか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の進め方，講義内容，受講上の諸注意，評価方法など）を確認します。 第1章　簿記の基礎（簿記の意味，目的，種類，簿記一巡の手続，簿記上の取引，5大要素）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第1章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第2回	第1章　簿記の基礎（「貸借対照表」と「損益計算書」の構造）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第1章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第3回	第2章　取引と仕訳（取引の種類と仕訳のルール）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第2章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第4回	第2章　取引と仕訳（勘定記入の方法と帳簿の種類）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第2章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第5回	第3章　株式会社の設立・剰余金の配当，資金の借入れ・貸付けの会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第3章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第6回	第4章　商品売買（商品の仕入れ，売上げ，付随費用，請求書・領収証など証憑類）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第4章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第7回	第5章　現金・預金・小口現金の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第5章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第8回	第6章　掛け取引（売掛金，買掛金，貸倒れ，貸倒引当金）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第6章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第9回	第7章　手形取引と電子記録債権・債務（手形の振出しや受取り，電子記録債権・債務の発生や消滅）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第7章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第10回	第8章　固定資産（種類，取得，減価償却，売却）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第8章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第11回	第9章　その他の取引（債権・債務，未収入金と未払金，仮払金と前受金，立替金と預り金，受取商品券，差入保証金）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第9章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第12回	第10章　税金（税金の種類，法人税等，消費税）の会計処理について学習します。 第11章　伝票会計（3伝票制，入金伝票・出金伝票・振替伝票の作成）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第10章，第11章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第13回	第12章　試算表（勘定記入の検証，合計試算表・残高試算表・合計残高試算表の作成）について学習します。第13章　決算（決算の意義，手続き，決算整理）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第12章，第13章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第14回	第13章　決算（商品の棚卸し，売上原価の算定，費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第13章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第15回	第13章　決算（精算表および財務諸表の作成，元帳の締切りと繰越試算表の作成）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第13章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第16回（定期試験）	60分の定期試験（電卓持ち込み可）	

ナンバリング(Numbering)
1BMB-5830-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
簿記Ⅰ	222 情報ネットワーク学科	1年生・前期	2単位	選択	長友　陛富	
	221			経営　必修 NW　選択		
初級簿記	219・220			必修		
簿記Ⅰ	～218			選択		

履修の前提条件	本学では、日本商工会議所主催の簿記検定3級の取得を大きな目的としています。この簿記を学んだことのない学生も基礎基本をしっかり学習することで、簿記3級の内容を理解し、簿記検定3級の検定に合格できると思います。「大原で合格る日商簿記3級」のCHAPTER0～11を読み、その内容を確認し、学習項目の流れを理解しておきましょう。本講義では、簿記検定3級の内容を学習項目ごとに段階的に修得するために、簿記の基礎基本の内容をしっかりかつ繰り返し学習します。 なお、計算することがありますので、電卓を購入しておいてください。 また、配布プリント等をとじる紙ファイルを準備してください。なお、講義中の注意事項は以下の通りです。 1 私語はしない　2 時間を守る　3 飲食禁止(ペットボトルや食べ物など机上に置かない)4 携帯電話の利用は禁止　5講義開始と終了の挨拶の実践と学ぶ姿勢を身に付けさせる。 なお、ネットワーク学科の学生で、前期の会計学入門履修者は、簿記検定3級合格のために、必ず簿記Ⅰ(前期)と簿記Ⅱ(後期)を履修してください。

授業概要　(Course Outline)

企業を経営管理するためには会計情報の知識(会社がどういう経営状態か)が必要です。必要な情報として会計情報を正確に理解するためには、簿記を理解することが不可欠です。経営情報学部を卒業する学生は、将来企業の経営管理に関わる可能性が高いことを考えると、簿記の知識習得は必須となります。本科目では、企業が行う経済活動により発生する、資産、負債、純資産、費用、収益の増減を一定のルールに従って、記録・計算・整理することを実践します。また、講義では建学の精神に則った学生生活の在り方を提唱する中で、この科目の学修の目的と進路意識を持たせ、何事にも意欲的に取り組む姿勢の一歩とし、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

①簿記の基本概念及び記帳計算の基礎を理解できる。
②日常の手続きを理解し、仕訳及び勘定記入ができ、決算の意味を理解し、試算表の作成ができる。
③簿記一巡の手続を理解し、財務諸表作成までの計算構造を理解できる。
④簿記の機能と役割を理解させ、簿記への興味関心を持たせ、学習習慣と学ぶ姿勢を確立し、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

学生からの積極的な発言を期待し、毎回授業中に知識の定着を図るための口頭試問を実施します。また、学生自ら段階別の問題を作成し解答の具体的な説明を行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

連絡、問い合わせ、相談等は研究室(556)にて随時受け付けます。連絡先はnagatomoy@kiis.ac.jpです。
なお、出勤日は火曜日、水曜日、木曜日です。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について

外部試験:日本商工会議所主催の簿記検定3級を必ず受験します。(検定月は、6月、11月、2月です。
検定料は￥2,850です。CDC就職課から申し込みの案内が2か月前にあります。)
学習の確認:ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に説明します。

教科書　(Textbooks)

大原で合格る日商簿記3級 ￥1,210	資格の大原	中央経済社	978-4-502-30111-7

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日商簿記3級過去問への ステップアップ問題集 ¥1,320	資格の大原	大原出版	978-4-864-86-620-0

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

成績評価の方法
(1)講義回数の3分の2以上の出席を必須条件とします。
(2)定期試験50%
　口頭試問10%
　提出物　15%
　簿記コンテスト及び日本商工会議所簿記検定受験15%
　学習意欲(課題板書及び説明)10%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	簿記で学ぶこと（簿記の基本を学ぶための、資産、負債、純資産、費用、収益について説明） また、学習に対する取り組み姿勢や時間管理、注意事項など受講の在り方についての説明を行います。	
	事前学習 （内容・時間）	簿記で学ぶこと CHAPTER 0（P2～P8）までを読、貸借対照表項目と損益計算書項目を 記憶すること。（2時間）ステップアップ問題集（P4～P7）
	事後学習 （内容・時間）	CHAPTER 0（P2～P8）で学んだことを復習し、配布プリントを再確認すること。（2時間）ステップ アップ問題集（P4～P7）
第2回	簿記の意味と目的、意義、必要性等を興味深く説明し、目的を達成する財務諸表として貸借対照表及び損益計算書の作成を行います。（貸借対照表から企業の必要な資金の状態が分かり、記載するカテゴリーとして、資産、負債、純資産の分類を理解し、カテゴリーの中の勘定科目を記憶します。	
	事前学習 （内容・時間）	貸借対照表カテゴリーのそれぞれの勘定科目を区別して記憶すること。教科書P4～P5までの勘定科目及び配布プリントの勘定科目を明確に記憶し作成できること。ステップアップ問題集（P4～P7）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義中に学習した内容を教科書と配布プリントでしっかり振り返り、カテゴリー別の勘定科目を 確認すること。ステップアップ問題集（P4～P7）（2時間）
第3回	財務諸表の1つ損益計算書のカテゴリーの中のそれぞれの勘定科目を区別して、内容理解と共に記憶する こと。また、損益計算書の算式を理解すること。（P6～P8）ステップアップ問題集（P2～P5）	
	事前学習 （内容・時間）	教科書P4～P5の確認とP6～P8までをしっかり確認し学習内容の把握をすること。ステップアップ 問題集（P2～P5）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	貸借対照表カテゴリーのそれぞれの勘定科目の理解、損益計算書のカテゴリーのそれぞれの勘定科目の理解を、 配布プリントで確認しそれぞれの表を作成できるようにする。ステップアップ問題集（P2～5）（2時間）
第4回	貸借対照表に関する勘定科目と、損益計算書に関する勘定科目の分類の説明と取引の意味を踏まえて仕 訳を行い、それぞれの勘定への転記を教科書、配布プリント及び問題集で説明する。（P10～P16）	
	事前学習 （内容・時間）	貸借対照表項目と損益計算書項目の分類と簿記上の取引について事前学習を行う。 ステップアップ問題集（P4～P10）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	貸借対照表及び損益計算書に関する勘定科目を区別して配布プリントを参考に理解し、簿記上の取引を見分け仕 訳を行い、各勘定への転記を理解する。ステップアップ問題集（P4～P10）（2時間）
第5回	各勘定への転記が正しいかどうかの判断を行うために試算表を作成する。一定期間の範囲の中で取引と判断できる取引を仕訳し、それぞれの勘定へ転記する。この一連の流れが正しいかどうか判断するための資料作成を説明する。（P10～P18）ステップアップ問題集（P11～P17）	
	事前学習 （内容・時間）	各項目の勘定科目の意味と分類をしっかりと理解し、取引か取引でないかの判断をしたうえで仕訳を行い、それぞれ の勘定に転記する意味を考え、記入方法を理解しておくこと。（P10～P18）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	取引か取引でないかの判断を行い、仕訳しそれぞれの勘定に転記して、その一連の行為が 正しいか判断する試算表の作成を理解する。ステップアップ問題集（P11～P17）（2時間）
第6回	商品売買に関する記帳を3分法で行う説明を行います。繰越商品勘定と仕入勘定と売上勘定の関係を説明し、繰越商品と仕入勘定は原価が記帳されている意味を理解させる。また、現金で商品を売買する、掛取引で売買する場合の処理方法、並びに返品や値引きを受ける時やした場合の会計処理、商品購入時の引取り費用の会計処理、販売時の発送費の会計処理方法について説明する。（P20～P27）ステップアップ問題集（P14～P20）	
	事前学習 （内容・時間）	3分法の意味や会計処理、掛取引の会計処理、値引き返品の会計処理、引き取り費用及び発送費の会計処理について意味の理解をしておく。（P20～P27）ステップアップ問題集（P14～P20）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	商品購入の会計処理、商品売買の会計処理に関して現金使用時、掛取り引き時、商品購入時の引取運賃や商品販売時の発送費の会計処理を配布プリントで確認し理解を深める。ステップアップ問題集（P14～P20）（2時間）
第7回	商品売買契約を確実に行うため、商品受け渡し前に代金の一部を内金または手付金とする会計処理、ギフトカードや商店街や自治体が発行したものなど、売上取引に関連して、他者発行の商品券の会計処理について説明します。（P28～P34）	
	事前学習 （内容・時間）	内金や手付金の会計処理や商品券の会計処理の方法について、その内容を把握しておくこと。 また、前回の内容の確認をしておくこと。ステップアップ問題集（P14～P20）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	第7回講義内容、前払い金と前受け金の簿記上の意味を理解し、その会計処理について配布 プリントで確認理解を深めておくこと。ステップアップ問題集（P14～P20）（2時間）
第8回	簿記上の現金とは何か、その会計処理について、また、現金勘定の帳簿残高と実際有高との不一致の 場合の会計処理について、プリントを配布し説明します。（P36～P41）	
	事前学習 （内容・時間）	内金や手付金の確認と同時に、現金勘定の会計処理についてその内容を把握しておくこと。 また、現金過不足の意味や会計処理を把握しておくこと。（P36～P41）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	第8回講義内容、現金勘定の会計処理及び現金過不足の意味や会計処理について勘定記入を含めて、配布プリント及び問題集で確認し理解を深める。ステップアップ問題集（P21～P23）（2時間）
第9回	支払手段としての普通預金、当座預金勘定の意味と会計処理及び約束手形の意味と会計処理、電子記 録債権債務の会計処理について、教科書やプリントを配布し説明します。（P42～P52）	
	事前学習 （内容・時間）	支払手段としての現金の理解を確認したうえで、現金以外の支払い手段の内容について理解 をしておくこと。（P42～P52）ステップアップ問題集（P24～P32）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	支払手段としての普通預金及び当座預金、約束手形の意味や処理方法、そして勘定記入を 配布プリントで理解を深めること。ステップアップ問題集（P24～P32）（2時間）
第10回	有形固定資産の購入、改善と改良の会計処理、クレジット取引の会計処理、金銭を貸す場合や借りる場 合の会計処理について教科書及び配布プリントに従って説明します。（P54～P62）	
	事前学習 （内容・時間）	約束手形の確認をプリントで行ったうえで、有形固定資産の会計処理とクレジット売掛金の 会計処理について配布プリントで理解を深める。（P54～P62）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	有形固定資産の会計処理と金銭の貸借の会計処理、クレジット売買の会計処理の理解をプリ ント、問題集を使って深めること。ステップアップ問題集（P33～P38）（2時間）
第11回	金銭の貸し付けや借り入れを行うとき、手形を用いる場合の会計処理、商品以外の売買取引で代金を後日受取る場合と後日支払う場合の会計処理、従業員のために一時的に金銭を立て替えた場合、給料の源泉所得税を差し引いて一時的に預かり、後日税務署に支払う会計処理をプリント等で説明します。（P63～P70）	
	事前学習 （内容・時間）	有形固定資産の会計処理と金銭の貸借の会計処理、クレジット売買の会計処理の理解をプリントを使って深める。また、給料の会計処理や手形による金銭貸借等について理解しておく。（P63～P70）ステップアップ問題集（P33～P40）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	手形を用いて金銭貸借の会計処理や商品以外の掛取引の会計処理、給料の会計処理につ いてプリントなどで理解を深めること。ステップアップ問題集（P33～P40）（2時間）
第12回	従業員の出張に関する会計処理、従業員が出張中に取引先から金銭を送金してくる場合の会計処理契約を実行する担保として債務者が債権者に対して差し入れた保証金についての会計処理、消費税の会計処理について（間接税）プリントを交えて説明します。（P71～P78）ステップアップ問題集（P36～P38）	
	事前学習 （内容・時間）	手形を用いて金銭貸借の会計処理や商品以外の掛取引の会計処理、給料の会計処理についてプリントなどで理解 を深め、また、従業員の出張に関する会計処理を理解しておく。ステップアップ問題集（P33～P38）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	出張に関する会計処理、消費税の会計処理について、配布プリントで確認し、理解を深める。 ステップアップ問題集（P33～P38）（2時間）
第13回	主要簿と補助簿の記入方法、仕訳帳の記入方法、総勘定元帳の記入方法、受取手形記入帳や支払手形 記入帳、仕入帳や売上帳についてプリントを配布し、記帳練習を繰り返し説明します。（P96～P108）	
	事前学習 （内容・時間）	出張に関する会計処理、消費税の会計処理について、配布プリントで確認し、理解を深める。 また、主要簿や補助簿、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳などの理解をしておく。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し 記入方法を理解する。（P96～P108）ステップアップ問題集（P59～P62・P66・P67・P68）（2時間）
第14回	売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法についてプリントを配布して説明します。 （P109～P116）ステップアップ問題集（P63～P71）	
	事前学習 （内容・時間）	総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し 記入方法を理解した上で、商品有高帳の記載について理解しておく。（P109～P116））（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリント で確認し理解を深める。（P109～P116）ステップアップ問題集（P63～P65・P68～P71）（2時間）
第15回	伝票会計の会計処理を行い、仕訳日計表の作成をプリント等を使用して説明します。（P118～P124）	
	事前学習 （内容・時間）	売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリント で確認し理解を深める。また、伝票会計について理解しておく。（P118～P124）（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	伝票会計の会計処理を行い、仕訳日計表の作成をプリント等で確認し理解を深める。 （P118～P124）ステップアップ問題集（P76～P82）（2時間）
第16回 （定期試験）	商工会議所簿記検定3級試験の検定範囲の中（学習した内容）で、決算問題を中心に60分間 で実施します。 持ち込み可能なもの ①電卓のみ	

ナンバリング（Numbering）
1BMB-6460-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
簿記Ⅱ	222 経営情報学科	1年生・後期	2単位	選択	岩下　昌美	
	221					
簿記演習	219・220			必修		
簿記Ⅱ	～218			選択		

履修の前提条件	「簿記Ⅰ」または「初級簿記」の単位を取得していること。 テキストを必ず準備してください。使用するテキストは，2022年度の前期「簿記Ⅰ」で使用したものになります。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーにもとづき，この授業では簿記についての基礎レベルについて説明します。
本講義は，日本商工会議所主催の簿記検定3級の範囲，小規模な株式会社を前提した複式簿記の原理と技術の基礎的知識を習得するため，前期「簿記Ⅰ」と連続した内容になりますので，必ず受講をするようにしてください。簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本学では4年間で簿記検定3級，全員取得を掲げています。そこで本講義では，簿記一巡の手続きを理解し，小規模な株式会社における帳簿記帳の基礎的知識を習得することを目標とします。
そして「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」の履修により日本商工会議所簿記検定3級取得を目指します。簿記検定のペーパー試験（統一試験）は6月，11月，2月（翌年）に実施されます。2021.4月からWEB検定（受験日自由選択）も実施されることになりました。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。
授業終了時には毎回の理解度をチェックするため，ミニテストを実施します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは2号館2階270室の研究室にてオフィスアワー時（年度はじめに掲示），あるいは電子メール（アドレス：masami-i@g.kiis.ac.jp）で受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『2022　日商簿記3級テキスト』，1,500円 2022年度前期の「簿記Ⅰ」テキストと同じです。	岩下昌美	前期に購入していない場合は，空き時間を利用して岩下（270号室）研究室で購入してください。	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ）	TAC簿記検定講座	TAC出版	978-4813299080

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験（70%），平常点（15%），復習課題（15%）。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況，毎回の授業最後の成果物提出状況で判断する。
成績評価の基準：①3級の取引の仕訳ができるか。②補助簿の作成できるか。⑤決算整理事項から精算表および財務諸表（貸借対照表・損益計算書）が作成できるか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の進め方，講義内容，受講上の諸注意，評価方法など）を確認します。 前期「簿記Ⅰ」の復習として，総合的な仕訳問題その1（株式会社の設立等，商品売買，掛け取引，現金預金等）を解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前期「簿記Ⅰ」の復習および勘定科目一覧表を確認しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第2回	前期「簿記Ⅰ」の復習として，総合的な仕訳問題その2（貸倒れ，手形取引等，固定資産，その他の債権・債務，税金，決算整理）を解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前期「簿記Ⅰ」の復習および勘定科目一覧表を確認しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第3回	第14章　分記法（商品売買）の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第14章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第4回	第15章　補助簿（商品有高帳，仕入帳，売上帳，得意先元帳，仕入先元帳，現金出納帳）の作成方法について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第15章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第5回	第15章　補助簿（当座預金出納帳，小口現金出納帳，手形記入帳，固定資産台帳，）の作成方法について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第15章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第6回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料①をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	勘定科目一覧表で資産・負債・純資産・費用・収益について確認してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第7回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料②をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第8回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料③をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第9回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の補助簿作成・穴埋め問題を配布資料④をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第10回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の補助簿作成・穴埋め問題を配布資料⑤をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第11回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の伝票問題を配布資料⑥をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第12回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理・精算表作成問題を配布資料⑦をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第13回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理・財務諸表作成問題を配布資料⑧をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第14回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理後試算表作成問題を配布資料⑨をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第15回	日本商工会議所簿記検定3級の過去の帳簿記入と締切り，繰越試算表作成問題を配布資料⑩をもとに解いていきます。	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。（2時間）
第16回（定期試験）	60分の定期試験（電卓持ち込み可）	

ナンバリング（Numbering）
1BMB-6460-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
簿記Ⅱ	222 情報ネットワーク学科	1年生・後期	2単位	選択	長友　陛富	

履修の前提条件	本学では、日本商工会議所主催の簿記検定3級の取得を大きな目的としています。この簿記を学んだことのない学生も基礎基本をしっかり学習することで、簿記3級の内容を理解し、簿記検定3級の検定に合格できると思います。「大原で合格る日商簿記3級」のCHAPTERO～１１を読み、その内容を確認し、学習項目の流れを理解しておきましょう。本講義では、簿記検定3級の内容を学習項目ごとに段階的に修得するために、簿記の基礎基本の内容をしっかりかつ繰り返し学習します。 なお、計算することがありますので、電卓を購入しておいてください。 また、配布プリント等をとじる紙ファイルを準備してください。なお、講義中の注意事項は以下の通りです。 1 私語はしない　2 時間を守る　3 飲食禁止（ペットボトルや食べ物など机上に置かない）4 携帯電話の利用は禁止　5講義開始と終了の挨拶の実践と学ぶ姿勢を身に付けさせる。 なお、ネットワーク学科の学生で、前期の会計学入門履修者は、簿記検定3級合格のために、必ず簿記Ⅰ（前期）と簿記Ⅱ（後期）を履修してください。

授業概要　（Course Outline）

企業を経営管理するためには会計情報の知識（会社がどういう経営状態か）が必要です。必要な情報として会計情報を正確に理解するためには、簿記を理解することが不可欠です。経営情報学部を卒業する学生は、将来企業の経営管理に関わる可能性が高いことを考えると、簿記の知識習得は必須となります。本科目では、企業が行う経済活動により発生する、資産、負債、純資産、費用、収益の増減を一定のルールに従って、記録・計算・整理することを実践します。また、講義では建学の精神に則った学生生活の在り方を提唱する中で、この科目の学修の目的と進路意識を持たせ、何事にも意欲的に取り組む姿勢の一歩とし、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①簿記の基本概念及び記帳計算の基礎を理解できる。
②日常の手続きを理解し、仕訳及び勘定記入ができ、決算の意味を理解し、試算表の作成ができる。
③簿記一巡の手続を理解し、財務諸表作成までの計算構造を理解できる。
④簿記の機能と役割を理解させ、簿記への興味関心を持たせ、学習習慣と学ぶ姿勢を確立し、日本商工会議所簿記検定3級合格を 目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学生からの積極的な発言を期待し、毎回授業中に知識の定着を図るための口頭試問、課題の板書及び説明することを実施します。また、学生自ら段階別の問題を作成し解答を含め説明・発表します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（556）にて随時受け付けます。連絡先はnagatomoy@kiis.ac.jpです。
なお、出勤日は火曜日、水曜日、木曜日です。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオの作成と提出）について

外部試験：日本商工会議所主催の簿記検定3級を必ず受験します。（検定月は、6月、11月、2月です。
検定料は￥2,850です。CDC就職課から申し込みの案内が2か月前にあります。）
学習の確認：ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に説明します。

教科書　（Textbooks）

大原で合格る日商簿記3級 ￥1,210	資格の大原	中央経済社	978-4-502-30111-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
日商簿記3級過去問へのステップアップ問題集 ¥1,320	資格の大原	大原出版	978-4-864-86-620-0

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法
（1）講義回数の3分の2以上の出席を必須条件とします。
（2）定期試験50%
　口頭試問10%
　提出物　15%
　簿記コンテスト及び日本商工会議所簿記検定受験15%
　学習意欲（課題板書及び説明）10%

授業計画 （Course Schedule）

テーマ Theme		
第1回		会計学入門や簿記Ｉで学習した内容を振り返る。そのうえで精算表の作成を説明し、貸し倒れの会計処理、貸借対照表のにおける貸倒引当金の表示、有形固定資産の減価償却の会計処理について説明する。（教科書P161～P177）
	事前学習（内容・時間）	前期の会計学入門と簿記Ｉの講義の内容を、教科書やプリントで振り返り理解を深め、精算表の作成についてその方法を理解しておくこと。（P161～P177）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	精算表の作成に決算整理事項として出題される貸し倒れと減価償却の計算方法、会計処理について、その仕訳と記帳方法を配布プリントで理解すること。ステップアップ問題集（P90～P115）（2時間）
第2回		会計学入門や簿記Ｉで学習した内容を振り返る。そのうえで精算表の作成を説明し、貸し倒れの会計処理、貸借対照表のにおける貸倒引当金の表示、有形固定資産の減価償却の計算及び会計処理について説明する。（P161～P177）ステップアップ問題集（P90～P115）
	事前学習（内容・時間）	第1回講義内容、精算表の作成に決算整理事項として出題される貸し倒れと減価償却について、その仕訳と記帳方法を配布プリントで理解し、有形固定資産の売却の会計処理について理解しておく。（P161～P177）ステップアップ問題集（P90～P115）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	精算表の作成に関して、貸倒の設定、減価償却の計算及び会計処理、有形固定資産の売却時の会計処理について配布プリントや問題集で確認する（P161～P177）ステップアップ問題集（P90～p115）（2時間）
第3回		精算表の作成に関して、費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え説明する。（P182～196）ステップアップ問題集（P98～100）
	事前学習（内容・時間）	貸倒れと減価償却等を配布プリントで理解を深め、費用収益の前払いや前受け、未払い・未収について、理解しておくこと。（P182～P196）ステップアップ問題集（P90～P100）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	精算表の作成を理解する。費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え理解を深める（P183～P196）ステップアップ問題集（P98～P99・P112～P115）（2時間）
第4回		精算表の作成に関して、費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え説明する。教科書（P182～P196）ステップアップ問題集（P98～P99）
	事前学習（内容・時間）	貸倒れと減価償却等を配布プリントで理解を深め、費用収益の前払いや前受け、未払い・未収について、理解しておくこと。教科書（P182～P196）ステップアップ問題集（P90～P99）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	精算表の作成を理解する。費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え理解を深める（P209～P212）ステップアップ問題集（P114～P115）
第5回		精算表の作成をプリント・問題集を利用して決算整理事項を含めて、作成の理解を深める。（P209～P212）ステップアップ問題集（P114～P115）
	事前学習（内容・時間）	決算整理事項に関係する、貸倒、減価償却、売上原価、現金過不足、前受金、税金関係、費用・収益の見越し繰り延べ、貯蔵品等を含めた精算表作成の理解を深めておくこと。（P161～P212）ステップアップ問題集（P86～P115）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	精算表の作成手順をプリント・問題集を活用して明確に理解を深めること。（P161～P212）ステップアップ問題集（P86～P115）（2時間）
第6回		帳簿の締め切り及び財務諸表の作成までの一連の手続きについて、プリントと教科書で説明します。損益勘定の締め切り、資産・負債・資本書簡上の締め切りを行い、損益計算書と貸借対照表の作成を説明します。（P214～P221）ステップアップ問題集（P116～P125）
	事前学習（内容・時間）	決算整理事項を終了した後、各勘定を締め切る流れについて理解を深めること。また、一連の流れの中から損益計算書及び貸借対照表の作成について理解しておくこと。（P214～P221）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第5回講義内容、損益計算書と貸借対照表の作成の手順と受取手形や売掛金に対する貸倒引当金及び減価償却累計額の表示の方法について明確に理解すること。ステップアップ問題集（P116～P125）（2時間）
第7回		帳簿の締め切り及び財務諸表の作成までの一連の手続きについて、プリントと教科書で説明します。損益勘定の締め切り、資産・負債・資本書簡上の締め切りを行い、損益計算書と貸借対照表の作成を説明します。（P214～P221）ステップアップ問題集（P116～P125）
	事前学習（内容・時間）	決算整理事項を終了した後、各勘定を締め切る流れについて理解を深めること。また、一連の流れの中から損益計算書及び貸借対照表の作成について理解しておくこと。（P214～P221）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第6回講義内容、損益計算書と貸借対照表の作成の手順と受取手形や売掛金に対する貸倒引当金及び減価償却累計額の表示の方法について明確に理解すること。ステップアップ問題集（P116～P125）（2時間）
第8回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。1、過去に出題された仕訳問題をプリントを活用して解く。ステップアップ問題集（P22～P125）
	事前学習（内容・時間）	取引から仕訳に関係する、今までに配布したプリントや問題集を振り返り、理解を深めておくこと。ステップアップ問題集（P22～P125）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	取引と判断できる場合の仕訳をあらゆるジャンルで出来るように繰り返し行い、理解を深めること。ステップアップ問題集（P22～P125）（2時間）
第9回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。1、過去に出題された仕訳問題をプリントを活用して解く。ステップアップ問題集（P22～P125）
	事前学習（内容・時間）	取引から仕訳に関係する、今までに配布したプリントや問題集を振り返り、理解を深めておくこと。ステップアップ問題集（P22～P125）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	取引と判断できる場合の仕訳をあらゆるジャンルで出来るように繰り返し行い、理解を深めること。ステップアップ問題集（P22～P125）（2時間）
第10回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。2、過去に出題された試算表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）
	事前学習（内容・時間）	試算表の作成を行うためには、日々の取引の簡単な仕訳と転記が必要です。地道なことの繰り返し根気強く取り組んでください。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	試算表の作成は多くの時間を要します。根気よく問題に向かって解くこと以外に方法はありません。繰り返し解くことで理解を深めてください。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）（2時間）
第11回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。2、過去に出題された試算表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）
	事前学習（内容・時間）	試算表の作成を行うためには、日々の取引の簡単な仕訳と転記が必要です。地道なことの繰り返しですので根気強く取り組んでください。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	試算表の作成は多くの時間を要します。根気よく問題に向かって解くこと以外に方法はありません。繰り返し解くことで理解を深めてください。（P130～P142）ステップアップ問題集（P74～P75）（2時間）
第12回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。3、過去に出題された精算表、損益計算書・貸借対照表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。（P144～P212）ステップアップ問題集（P86～P125）
	事前学習（内容・時間）	過去に出題された精算表・損益計算書・貸借対照表を教科書や問題集及びプリントを活用して、しっかり理解し正確な解答が出るように会計処理を高めること。（P144～P212）ステップアップ問題集（P86～P125）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第12回の講義内容、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成時間が40分で完成できるように繰り返し問題を解き、正確性とスピード力を身につけること。（P144～P212）ステップアップ問題集（P86～P125）（2時間）
第13回		日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。3、過去に出題された精算表、損益計算書・貸借対照表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。（P144～P212）ステップアップ問題集（P86～P125）
	事前学習（内容・時間）	過去に出題された精算表・損益計算書・貸借対照表を教科書や問題集及びプリントを活用して、しっかり理解し正確な回答が出るように会計処理を高めること。（P144～212）ステップアップ問題集（P86～P125）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第13回講義内容、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成時間が40分で完成できるように繰り返し問題を解き正確性とスピード力を身につけること。（P144～P212）ステップアップ問題集（P86～P125）（2時間）
第14回		日商簿記検定３級の総合問題をジャンル別に学習する。4、伝票の起票、集計、をプリント及び問題集を活用して解く。売掛金元帳・買掛金元帳、商品有高帳、仕入帳・売上帳の記入方法につて理解しておくこと。（P96～P124）ステップアップ問題集（P59～P71）（2時間）
	事前学習（内容・時間）	総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し記入方法を理解した上で、商品有高帳の記載について理解しておく。（P96～P124）ステップアップ問題集（P59～P71）（2時間）
	事後学習（内容・時間）	売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリントで確認し理解を深める。（P96～P124）ステップアップ問題集（P59～P71）（2時間）
第15回		日商簿記検定３級の総合問題の理解度確認し、抑えるべ項目の把握と理解度を高める。（３級検定試験全体）
	事前学習（内容・時間）	日商簿記3級検定試験範囲を繰り返し学習する過程で、時間配分や配点の部分まで考えて合格に結びつけられるよう問題を解く習慣を身につけておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	3級全体の問題に対する解答をバランスよく出来るように確認を最大限に行う。ステップアップ問題集（全体）（2時間）
第16回（定期試験）		商工会議所簿記検定３級試験の検定範囲の中（学習した内容）で、決算問題を中心に60分間で実施します。 持ち込み可能なもの ①電卓のみ

ナンバリング（Numbering）
1BMN-6510-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
マネージメント科学 （教職関連科目　必　高等学校　情報）	共通	2年生・前期	2単位	選択	古川　哲也	
履修の前提条件	「情報リテラシー演習Ⅰ、Ⅱ」を履修済であること。数学関連科目を受講していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、経営の意思決定における複眼的な知識・理解や汎用的技能を獲得する。具体的には、問題を解決するための理論やモデル作成について学習すると共に、結果を身近な問題に応用して演習をする。分析やシミュレーション結果をグラフ等を用いて視覚的に表現し解決策を解りやすくする。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

経営には需要を予測することや在庫を適切に管理する等の問題がある。それら経営上の問題を科学的に解決する初歩的な解決技法を理解し習得する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業で学習した問題解決の手法を実際の問題に適用し、自ら問題を解決する実習を行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡にはメールを用いる。
furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオ「科目別履修状況チェック表」を作成し、第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
・経営科学と情報処理 ・問題解決のための オペレーションズ・リサーチ入門	宮川 公男、他 高井英造、他	実教出版株式会社 日本評論社	ISBN 4-407-02775-4 ISBN978-4-535-55191-6

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

課題の提出結果（30%）　＋　定期試験（70%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	1）授業内容、授業の進め方、成績評価の仕方を説明する。	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、経営上の問題を科学的に解くとはどういうことなのか理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	説明内容を復習し、技術用語、専門用語など不明なものは調べるなどして確認する。（2時間）
第2回	2）統計データの分析	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、必要な数学の知識を復習しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。（2時間）
第3回	3）需要予測： 時系列データの分析手法	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、移動平均法、最小二乗法、季節変動の考え方を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成する。（2時間）
第4回	3）需要予測： 時系列分析による予測	
	事前学習（内容・時間）	資料の正規方程式の導出と計算の部分を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。（2時間）
第5回	3）需要予測： 回帰分析による予測	
	事前学習（内容・時間）	資料の決定係数と相関の部分を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。（2時間）
第6回	4）在庫管理： 最適在庫管理と確定需要の在庫管理	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、確定需要の場合の在庫費用の計算を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	最適発注量の導出を理解し、練習問題を解く。（2時間）
第7回	4）在庫管理： 不確定需要で発注が独立している場合	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、不確定性を期待値で考えることを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。（2時間）
第8回	4）在庫管理： 不確定需要で発注が独立していない場合	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、在庫基準量の計算方法を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。（2時間）
第9回	5）線形計画法： 線形計画問題	
	事前学習（内容・時間）	文章による記述から目的関数、制約条件式を求めることができるようにしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	線形計画問題の最適解がどのようなものになるのか復習し、十分に理解する。（2時間）
第10回	5）線形計画法： グラフによる解法	
	事前学習（内容・時間）	2変数の線形計画問題での実行可能領域を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	連立二元一次方程式の解、線形計画問題の解、実行可能領域の関係を復習する。（2時間）
第11回	5）線形計画法： シンプレックス法による解法	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、シンプレックス法の考え方を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	例題を完成し、シンプレックス法の計算手順を確認する。（2時間）
第12回	5）線形計画法： シンプレックス法の計算	
	事前学習（内容・時間）	シンプレックス法の各計算手順で何を求めているのかを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	練習問題をシンプレックス法で解き、最適解を導く。（2時間）
第13回	6）日程計画： 日程計画表とネットワーク表示、日程の計算	
	事前学習（内容・時間）	資料を読み、日程計画の考え方を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で用いた例題を完成し、日程を完成する。（2時間）
第14回	6）日程計画： クリティカルパス、AonAとAonN	
	事前学習（内容・時間）	資料を読み、AonAとAonNの考え方の違いを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	練習問題を解き、2つの方法でクリティカルパスを求める。（2時間）
第15回	7）全体のまとめ： マネージメント科学で何を学習したか。	
	事前学習（内容・時間）	この授業で学習した内容を復習しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	最終レポートをまとめる。（2時間）
第16回（定期試験）	8）定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1BMB-6300-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネス実務	219～	2年生・前期	2単位	選択	鈴木　和也	
ビジネス実務Ⅰ	～218					

履修の前提条件	1.経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱ、マーケティング論などの関連科目を履修し単位を取得していること。2.履修者は全員秘書技能検定試験(3級)を受験すること。

授業概要　(Course Outline)

この講義では、ビジネス実務の知識やスキルの習得、さらには広い視野から社会に広がるビジネス実務の諸課題を、具具体的な活動プロセスの中で探求し、実践の場で生かせるような必要な知識や方法を学習をとおして身に付けることに主眼をおいている。また体験学習を積極的に取り入れ、現場の課題に取り組む姿勢についても学習をする。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

本講義では、職業人として、企業においてビジネス実務を実際に行うために必要な基礎的な考え方と知識・技能 を習得する。また講義をとおして、そうすることが「なぜ」必要なのかという考え方を持ち、 実際に活用できる能力も身に付ける。信頼される社会人として、ふさわしい言動や人柄を身に付け、社会に必要となる豊かな教養と温かい人間性を兼ね備えた人材としての基本を培う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施するロールプレイや小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研 究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください)

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
秘書検定 集中講義3級	公益財団法人 実務技能検定協会 編	早 稲 田 教 育 出 版	978-4-7766-1018-2

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
秘書検定 実問題集3級 2021年度版	公益財団法人 実務技能検定協会 編	早 稲 田 教 育 出 版	978-4-7766-1443-2

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%)

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーション［講義の進め方、成績評価について］ 必要とされる資質［秘書の心構え］		
	事前学習（内容・時間）	教科書1頁～15頁、18頁～39頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第2回	必要とされる資質［要求される資質］		
	事前学習（内容・時間）	教科書42頁～52頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第3回	職務知識［秘書の機能と役割］		
	事前学習（内容・時間）	教科書56頁～71頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第4回	職務知識［職務上の心得と仕事の進め方］		
	事前学習（内容・時間）	教科書73頁～82頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第5回	一般知識［企業の基礎知識］		
	事前学習（内容・時間）	教科書86頁～104頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第6回	一般知識［社会常識］		
	事前学習（内容・時間）	教科書106頁～110頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第7回	マナー・接遇［職場での話し方（聞き方）］		
	事前学習（内容・時間）	教科書114頁～141頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第8回	マナー・接遇［電話応対］		
	事前学習（内容・時間）	教科書144頁～149頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第9回	マナー・接遇［接遇］		
	事前学習（内容・時間）	教科書151頁～167頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第10回	マナー・接遇［交際］		
	事前学習（内容・時間）	教科書170頁～183頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第11回	技能［会議］		
	事前学習（内容・時間）	教科書186頁～193頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第12回	技能［文書の作成］		
	事前学習（内容・時間）	教科書195頁～213頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第13回	技能［文書の取り扱い］		
	事前学習（内容・時間）	教科書215頁～227頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第14回	技能［資料管理］		
	事前学習（内容・時間）	教科書230頁～241頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第15回	技能［日程管理・オフィス管理］		
	事前学習（内容・時間）	教科書244頁～253頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （まとめと振り返りを行う。）		

ナンバリング（Numbering）
1BMN-6540-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
民事法	219～	2年生・前期	2単位	選択	丹羽 崇之	
民法Ⅰ（契約総論）	～218					

履修の前提条件	「法学」、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。□

授業概要 （Course Outline）

私たちの私的生活関係は、二つの生活関係から成り立っている。契約のような、経済的取引活動を中心とする生活関係と、夫婦や親子、相続などの家族に関する生活関係である。前者に関する法規範を財産法といい、後者に関する法規範を家族法という。民法は、この二つを規律していて、市民生活の基本となる法律である。本講では、民法を中心に、民事手続法、会社法について学ぶ。□

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル Mathematics	
	情報リテラシー Information Literacy	
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力 Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力 Self-management	
	チームワーク Teamwork	
	リーダーシップ Leadership	
	倫理観 Ethical Sense	
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	○
	生涯学習力 Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

建学の精神をふまえ、私法のルールを理解し、市民生活を営むうえで必要となる民事法の基本的知識、考え方を身につける。□

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

判例を簡略化した事例を題材にするので、学生諸君に適用条文や法律関係を考えてもらう。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。（提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。）
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
民事法入門〔第8版補訂版〕	野村豊弘	有斐閣	978-4641221987

参考文献 （Reference Books）

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
ポケット六法 令和4年版	佐伯・大村編	有斐閣	978-4641009226
民法基本判例集〔第4版〕	遠藤・川井他編	勁草書房	978-4326451227
民法Visual Materials〔第3版〕	池田真朗他	有斐閣	978-4641138575

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（ミニテスト、レポート）30%、定期試験70%により総合評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	民事法の意義	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章を読み、民事法、民法の意義を考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第1章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第2回	民法と民法典、権利と義務	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章・第3章を読み、民法の基本原理を考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章・第3章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第3回	法律行為	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章を読み、法律行為、権利の主体について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第4章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第4回	代理	
	事前学習（内容・時間）	教科書第5章を読み、代理のしくみについて考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第5章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第5回	時効	
	事前学習（内容・時間）	教科書第6章を読み、時効について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第6章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第6回	契約	
	事前学習（内容・時間）	教科書第7章を読み、時効について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第7章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第7回	所有権	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章を読み、物権について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第8章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第8回	不法行為	
	事前学習（内容・時間）	教科書第9章を読み、不法行為の意義、要件、効果について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第9章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第9回	事務管理・不当利得	
	事前学習（内容・時間）	教科書第10章を読み、事務管理。不当利得の意義、要件、効果について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第10章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第10回	債務の弁済	
	事前学習（内容・時間）	教科書第11章を読み、債務の担保、債務の弁済について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第11章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第11回	家族	
	事前学習（内容・時間）	教科書第12章を読み、親族法の意義、基本原理について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第12章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第12回	親子、扶養	
	事前学習（内容・時間）	教科書第13章を読み、親子、親権、親族扶養について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第13章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第13回	相続	
	事前学習（内容・時間）	教科書第14章を読み、相続の意義、法定相続、遺言について考える。（2時間）□
	事後学習（内容・時間）	教科書第14章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第14回	団体	
	事前学習（内容・時間）	教科書第15章を読み、法人、会社について考える。（2時間）□
	事後学習（内容・時間）	教科書第15章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第15回	権利の実現	
	事前学習（内容・時間）	教科書第16章を読み、権利実現の方法、紛争の解決、裁判制度について考える。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第16章を読み返し、設例の解答を書いてみる。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1BMN-5360-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営情報論Ⅰ	共通	2年生・前期	2単位	選択	秋吉浩志	
履修の前提条件	「経営学総論Ⅰ」「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー（情報処理入門）」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。					

授業概要 （Course Outline）

本学の建学の精神と3つのポリシーを基盤とした、本学の経営情報学の全体像を把握するための重要な科目である。
経営情報学とはなにか。その入り口の内容をさまざまな分野から説明を行っていく。
業種毎（製造業、流通業、金融業）のシステム構成や具体的システム事例（家電メーカ、コンビニエンスストア、銀行等）について解説する。
ITパスポート試験（ストラテジー分野）から出題した小テストを毎回実施する。
この科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）必修科目である。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 （Objectives）

経営情報の基本的な理論の理解を目指す。さらに業種毎の経営情報システムの仕組み、特徴について正しく理解し、説明が出来るようになる。
また、社会で求められる経営情報に関する土台としての知識を習得し、他の基礎科目、および応用・発展科目へと導き、より深い知識を得る道しるべを得ることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

毎回の授業で、授業内容をまとめた課題と実体験のレポート提出があります。意見、感想なども記入してください。
①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。
②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。
など

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

基本的に研究室（2号館5階555研究室）にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。
研究室訪問の際、メール；akiyoshi@g.kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。（遠隔授業の場合はGoogleクラスルームを活用して連絡を随時行う）

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。
学修の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、次回授業までに共有フォルダもしくは指定したGoogleクラスルームへ提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
テキストは使用せず、毎回教員が作成した資料を配布する。			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム 経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム　第3版	薦田憲久、水野浩孝他 武藤明則 島田達己、高原康彦	コロナ社 同文舘出版 日科技連	4339026301 9784495384111 9784817192141

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験もしくは期末レポート（60%）、出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。（30%）、授業態度、ミニテスト（10%）を基準とする。
パソコン（タブレット型も含む）、携帯（スマートフォン）その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合によっては科目受講失格（0点）にする。基本的に座席指定を行う。使用する際は事前に連絡をする。
成績評価の基準：利用部門での情報リーダーに必要な、情報系システムの企画・開発に関する知識がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（授業の概要・受講上の諸注意）	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料を読んで、重要なポイントを把握しておく（2h）
	事後学習（内容・時間）	ミニッツペーパーにて課題を提出（2h）
第2回	経営情報システムの概要（経営情報システムの構成、体系について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第3回	製造業情報システム（製造業における情報システムの構成について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第4回	製造業情報システム（生産計画、在庫管理、資材調達、需要予測、顧客管理等について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第5回	製造業情報システム（家電メーカ等を事例にして具体的に学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第6回	流通業情報システム（流通業における情報システムの構成について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第7回	流通業情報システム（販売管理、在庫管理、受発注、物流・配送、売れ筋分析等について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第8回	流通業情報システム（コンビニエンスストア等を事例にして具体的に学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第9回	金融業情報システム（金融業情報システムの発展について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第10回	金融業情報システム（金融業における情報システムの構成について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第11回	金融業情報システム（勘定系、営業店、ファームバンキング、リスク管理等について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第12回	金融業情報システム（銀行等を事例にして具体的に学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第13回	ワークフロー管理システム（企業内でのグループ業務を支えるシステムについて学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第14回	テレワーク（企業内での遠隔業務を支えるシステムについて学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第15回	TCO（情報システムにかかる費用を把握し、削減対策について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト＆資料の指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）
1EMN-5370-U2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営情報論Ⅱ	221～	2・3年生・後期	2単位	選択	岸川　洋	○
	219・220 経営情報学科					
経営情報論Ⅱ （教職関連科目　必　高等学校　情報）	～218	2年生・後期				
履修の前提条件	「経営学総論Ⅰ」「情報学入門」を履修していること。（履修規程第5条3項に基づく） 「情報テクノロジー（情報処理入門）」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門（公共・金融）の業務経験がある教員が、経営環境の変化や情報技術の進展により、経営情報システムがどのように発展してきたかを解説することにより、各経営情報システムの利点・欠点・留意点について学修する。
ITパスポート試験（ストラテジー分野）から出題した小テストを毎回実施する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

「学修成果(Student Learning Outcomes) 3項 社会で求められる知識・技能を修得し、もろもろの課題に主体的に取り組むことができる創造的な思考力や実践力を修得している。」に基づき、
経営情報システムの発展過程を理解できる、各経営情報システムについてイメージ図を描いて考え方を説明できる、ネットワーク社会の新しい分野で活躍できる人材となることを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。資料やネット検索等を活用して補足してください。
意見、感想なども記入してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：メールで連絡してください。又は事務局へ伝えてください。
オフィスアワー：授業日の休憩時間等に対応いたします。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。
学修の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、課題と一緒に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム	薦田憲久、水野浩孝、 赤津雅晴	コロナ社	9784339026306

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム　第3版	武藤明則 島田達己、高原康彦	同文舘出版 日科技連	9784495384111 9784817192141

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：平常点（60%）、定期試験（40%）。平常点は授業での参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポートで総合的に判断する。
成績評価の基準：利用部門での情報リーダーに必要な、経営情報システムに関する知識がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（授業の概要・受講上の諸注意）	
	事前学習（内容・時間）	「経営情報システム」についてネット検索等で調べ、疑問点を整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業を受講するためのネットワーク環境や資料を整備する。（2時間）
第2回	経営情報システムの発展過程（経営情報システムの変遷について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第3回	MIS（経営情報システムの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第4回	EDPSとDSS（勘定系システムと情報系システムの違いについて学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第5回	SIS（戦略的情報システムの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第6回	BPR（ビジネスプロセスリエンジニアリングの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第7回	ERP（統合業務パッケージの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第8回	SCM（サプライチェーンマネジメントの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第9回	CRM（顧客関係管理の考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第10回	POS（販売時点管理の考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第11回	EC（電子商取引の利点や課題について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第12回	EUC（エンドユーザコンピューティングの考え方について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第13回	クラウド（クラウドコンピューティングの利点や留意点について学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第14回	セキュリティとリスク管理（情報システムの構築、運用の際に認識すべきことについて学習する）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	全体を振り返り、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	キーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1BIN-5690-12ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報学入門 （教職関連科目 選 高等学校 情報）	219～ ～218	1年生・前期	2単位	選択 必修	合田　和正	
履修の前提条件	情報について学ぶ意識を強く持つことを期待します。					

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野全般の基本的な知識（人工知能、ICTを含む）を習得することを目標とする。
具体的には、情報処理や情報ネットワークのような技術的な内容だけではなく、情報や情報メディアおよびそれらの活用、活用する際の姿勢・態度について学ぶ。情報ネットワーク学科の他の先生方とのオムニバス形式で運用するため、順番が前後したり、内容に若干の変更があったりすることがあります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

情報や情報技術に興味を持ち、それを扱う際に欠かせない基礎知識を学び、またメディアリテラシーの素養を育む。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ただ授業を受けるだけでなく、実生活でも身近になってきたネットショッピングサイトを題材に、そこで用いられている技術だけでなく、プラットフォーム、メディアとしての捉え方、活用する際の姿勢・態度についても考察する。その際には、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。紙のノート・ルーズリーフでの学習を推奨。
ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、
関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
「痛快！コンピュータ学」	坂村健	集英社	978-4087474282

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
※オムニバス形式のため、各回の担当者の評価を合計して科目全体の評価とする。授業担当者以外の評価は、1)提出物とみなす。
さらに、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	入門（1）　　身近な例から始める情報と社会、情報とは（値、データなど）	
	事前学習（内容・時間）	大学入学までの情報に関する学習を振り返ってまとめる。[2.0h]
	事後学習（内容・時間）	データ、情報、知識についてまとめておく。振り返りを書く。[2.0h]
第2回	入門（2）　　情報の種類と特性（アナログ、デジタル）、意味、価値	
	事前学習（内容・時間）	身近なアナログ、デジタルの例を探してまとめておく。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	アナログ、デジタルの違い、特徴、利点欠点についてまとめておく。振り返りを書く。[1.0h]
第3回	メディア（1）　　媒体：メディアの種類と特性、媒介される対象としての情報	
	事前学習（内容・時間）	身近なメディアについて、書き出してまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	ノートをまとめ直す。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	データサイエンス（1） データ、情報、知識	
	事前学習（内容・時間）	データサイエンス、データリテラシーという用語について調べておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	データサイエンスの概要についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	データサイエンス（2） 人材、技術、実例	
	事前学習（内容・時間）	データサイエンスの応用事例について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	データサイエンティストの活躍分野、就職先について調べる。振り返りを書く。[1.0h]
第6回	情報通信システム（1） 情報通信産業、スマートシティ	
	事前学習（内容・時間）	スマートシティ、スマートソサエティ、スマートスピーカについて調べる。[3.0]
	事後学習（内容・時間）	インターネットを支えるインフラについて調べる。振り返りを書く。[1.0h]
第7回	情報通信システム（2） モバイル通信	
	事前学習（内容・時間）	IoT, ToSという用語、便利と危険のバランスについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	5Gで広帯域通信が可能になったらしてみたいことについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第8回	情報と医療（1） 遠隔医療	
	事前学習（内容・時間）	遠隔教育、通信教育、テレワークについて調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	遠隔医療に不可欠なインフラとその維持についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第9回	情報と医療（2） 再生医療と情報	
	事前学習（内容・時間）	人工物と自然物の融合について考察し、まとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	開発競争と情報共有における問題、産業機密について考察。振り返りを書く。[1.0h]
第10回	情報セキュリティ入門（1） 暗号入門	
	事前学習（内容・時間）	暗号の歴史、暗号をトリックにした小説について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	暗号の有用性についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	情報セキュリティ入門（2） PKI(Public Key Infrastructure)	
	事前学習（内容・時間）	暗号の活用とそのためのインフラ（社会基盤）について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	量子暗号について調べる。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	生体情報（1） 脳、生物、歩行	
	事前学習（内容・時間）	人間の五感覚とセンサーとの対応、人間の代理としてのセンサーについて考察。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	二足歩行、四つ足、這うということの観察の仕方と再現についてまとめる。[1.0h]
第13回	生体情報（2） スポーツと情報	
	事前学習（内容・時間）	eスポーツについて調べる。従来のスポーツとの違いをまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	従来のスポーツとeスポーツとゲームとの関係を考察してまとめる。[1.0h]
第14回	メディア（2） 情報メディアの光と影	
	事前学習（内容・時間）	情報メディア、伝達メディア、表現メディアについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	情報の容器、道具としてのメディアの利点欠点をまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回の内容をまとめる。できるだけ紙のノートに書きだしてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、想定問題を考え、対策を立てる。 [1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1BIB-5710-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報数学Ⅰ	219～	1年生・後期	2単位	選択	荒平　高章	
情報数学	～218					
履修の前提条件	基礎数学を履修していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、大量データの処理に欠かせない数学の一分野である「線形代数」について学びます。「線形代数」は、経営学、会計学、統計学や情報処理の基礎知識である重要な科目です。個々のデータを一括表現することで、データ分析の本質的な要素を理解したり、大局的な視点を持つ素養を身に着けます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

線形代数の基礎知識である①行列の演算、②逆行列と行列式の関係、③連立一次方程式の解法、④ベクトル空間と線形写像の性質、⑤固有値・固有ベクトルなどを理解することを目標とします。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回授業の終わりに小テストを行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
テキスト線形代数	小寺　平治	共立出版	ISBN978-4-320-01710-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、プレースメントテスト	
	事前学習（内容・時間）	高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第2回	ベクトルと行列の表現	
	事前学習（内容・時間）	高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第3回	ベクトルの演算	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第4回	ベクトルの内積	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第5回	ベクトルの交角	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第6回	行列の和・差・スカラー倍	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第7回	行列の積	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第8回	掃き出し法	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第9回	逆行列	
	事前学習（内容・時間）	前回までの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	教科書やノートを見ながら試験問題を解く(2h)
第10回	行列の階数	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第11回	ベクトルの一次独立性	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第12回	基底と次元	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第13回	ベクトル空間	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第14回	線形写像	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第15回	固有値・固有ベクトル	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。これまでに間違えた問題を理解できるまで何度も解く(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1BIN-5770-12ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選		授業担当者 Instructor	実務経験
情報ネットワーク入門 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219～ ～218	1年生・後期	2単位	選択 経営選択	NW必修	車　炳玘	

履修の前提条件	情報検索機器の操作やWebアプリケーションの操作等に慣れること。

授業概要　（Course Outline）

Webシステムを通して通信ネットワークの役割やネットワークシステムの基本構成、データ転送の仕組み、通信プロトコルなどを修得する。さらにWWW、電子メール、ネットニュースなどについて理解を深めることによりコミュニケーションの目的や仕組みについて習得する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、情報ネットワークに関する用語や基礎知識の習得及び最近技術動向を修得することにより、ITパスポートおよび基本情報技術者試験のネットワーク分野の出題問題に対応できるレベルに達することを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

情報ネットワークに関する最新のトレンドをつかむため、２人から4人のグループで必修用語や最新技術等をWeb上で調べ（5回以上）、ポートフォリオに記入すること。また、個人ホームページを作成し、第１５回目の授業時間に提出すること。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日２、３時限、木曜日３時限　研究室：６５６号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（CCENT、ITパスポート、基本情報技術者）　学習の確認：情報ネットワーク関連用語のテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第１２回目の授業時間に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
かんたんネットワーク入門 改訂3版	三輪賢一	技術評論社	978-4-7741-8190-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
3分間ネットワーク基礎講座	網野衛二	技術評論社	978-4774143736

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（３０％）、Webテスト（２０％）、Web学習（３０％）、その他（２０％、専用ノート、レポート、実習課題、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	情報通信ネットワークの役割・歴史	
	事前学習（内容・時間）	テキストP3～P21を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。2時間
第2回	ネットワークシステムの基本構成	
	事前学習（内容・時間）	テキストP24～P37を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第3回	クライアント・サーバモデル	
	事前学習（内容・時間）	テキストP38～P47を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第4回	イントラネット及びLANの管理	
	事前学習（内容・時間）	テキストP48～P53を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第5回	デジタルデータの仕組み及びOSI参照モデル	
	事前学習（内容・時間）	テキストP56～P63を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第6回	イーサネットとTCP/IP	
	事前学習（内容・時間）	テキストP64～P71を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第7回	IPアドレスとポート番号	
	事前学習（内容・時間）	テキストP72～P77を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第8回	経路選択及びルーティングプロトコル	
	事前学習（内容・時間）	テキストP78～P79を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第9回	インターネットの仕組み	
	事前学習（内容・時間）	テキストP84～P89を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第10回	ドメインについて	
	事前学習（内容・時間）	テキストP90～P91を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第11回	インターネット接続技術	
	事前学習（内容・時間）	テキストP92～P113を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第12回	インターネットプロトコル	
	事前学習（内容・時間）	テキストP116～P119を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第13回	ネットワークアプリケーションの仕組み	
	事前学習（内容・時間）	テキストP120～P145を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第14回	インターネットの現状	
	事前学習（内容・時間）	テキストP148～P155を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第15回	セキュリティ対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP156～P167を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第16回（定期試験）	四択及び記述式問題による定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）	
1BIB-6310-14E	※218カリキュラムの学生はﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習ⅠとⅡの両方を履修すること

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネスソフト活用演習	219～	1年生・後期	4単位	選択	平川　淳一	
ビジネスソフト活用演習Ⅰ	～218※	2年生・通年	2単位			
ビジネスソフト活用演習Ⅱ			2単位			

履修の前提条件	・2時限続けて必ず受講できる人。 ・MOS資格の取得に意欲がある人。 ・受講マナーを守れる人。 ※履修希望者、多数の場合は人数を制限します。（第１回目にテストを実施）

授業概要　（Course Outline）

国際的資格であるMicrosoft Office Specialistの内容について講義します。
演習問題は、「MOS」試験の、一般レベル（Word、Excel、PowerPoint）から、上級レベル（Excel、Word）までの範囲を網羅した内容です。
この科目は、カリキュラムポリシー「Ⅴ 基礎学力・技能を確認・強化すること。」に基づいて、コンピューターリテラシーの修得、基礎の確認と強化を目的とします。
パソコンの操作に自信がなくても、基本から応用の内容まで学ぶことができるので、苦手意識に払拭に役立ちます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

・MS社が認定する国際的資格、Microsoft Office Specialistの最上位となる「MOS Expert」の称号を目指します。
（MOS Expertの認定要件は、5科目の合格となります。※詳細は授業の中で紹介します。）
・経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能を習得するために、この科目ではビジネスシーンにおけるソフトウェアの活用方法を学び、実践できるようになることを目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・ビジネスソフトの活用を想定した確認問題は、受講者の自主的な作成となります。
　ビジネスソフトの活用能力を発揮して、すべてのMissionをコンプリートしてください。
・毎回、習得状況や目標スケジュール、進捗状況などを記録して、自己管理に努めてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

2号館1階の講師控室にお越しください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：Microsoft Office Specialist 365&2019
試験日：随時試験　※月に複数回実施
試験会場：任意で選択　※パソコン教室など多くの場所で受験可能
受験料：学割価格　8,580円（税込）　※受験には、事前に受験者IDの登録が必要
MOS公式HP：http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
MIS Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-447-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-429-5
MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-430-1
MOS PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-440-0
MOS Word 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-448-6

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価方法：平常点 20%、課題 20%、定期試験 60%
　※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価します。
　　注）受講マナーを守れない人は、「減点」、「欠席」、「受講停止」になる場合があります。
　※定期試験をMOS受験（外部試験）に代えることを認めます。（事前に申し出ること。）
　　合否に関係なく、試験の得点を評価します。（試験結果の提出義務有り）（最低得点ライン有り）
　※定期試験前にMOS試験を受験した人は、定期試験を免除します。

・成績評価の基準：MOS試験の合格レベルに達しているか。ビジネスソフトを正しく利活用することができているか。
　Word：ビジネス文書やビジュアル文書を効率よく作成できているか。
　Excel：関数やグラフなど自主的な判断により選択し、活用することができているか。
　PowerPoint：ソフトの特性を理解して効果的に利用することができているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：科目とMOS試験の概要、ビジネスソフトの操作力を確認するテストを行います。 ※座席数に限りがあるため、履修希望者が多数の場合は、選抜テストとなります。（要出席）	
	事前学習（内容・時間）	必修科目「情報リテラシー演習」で学んだ内容を復習しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テスト結果を再確認して、自身の得手、不得手な操作をノートにまとめておくこと。（2.0h）
第2回	Word Specialist ①： 文書の管理 （テキスト P.16～67） Word Specialist ②： 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 （テキスト P.68～91）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第3回	Word Specialist ③： 表やリストの管理 （テキスト P.92～129） Word Specialist ④： 参考資料の作成と管理 （テキスト P.130～155）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第4回	Word Specialist ⑤： グラフィック要素の挿入と書式設定 （テキスト P.156～205） Word Specialist ⑥： 文書の共同作業の管理 （テキスト P.206～229）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第5回	【Checkテスト】MOS Word Specialist 模擬試験問題	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、操作練習をしておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第6回	Excel Specialist ①： ワークシートやブックの作成と管理 （テキストP.16～64） Excel Specialist ②： セルやセル範囲のデータの管理 （テキスト P.66～122）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第7回	Excel Specialist ③： テーブルとテーブルのデータ管理 （テキスト P.124～144） Excel Specialist ④： 数式や関数を使用した演算の実行 （テキスト P.146～171）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第8回	Excel Specialist ⑤： グラフの管理（テキスト P.174～200）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第9回	【Checkテスト】MOS Excel Specialist 模擬試験問題	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、操作練習をしておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第10回	PowerPoint Specialist ①： プレゼンテーションの管理 （テキスト P.16～95） PowerPoint Specialist ②： スライドの管理 （テキスト P.96～123）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第11回	PowerPoint Specialist ③： テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 （テキスト P.124～169）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第12回	PowerPoint Specialist ④： 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 （テキスト P.170～219）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第13回	PowerPoint Specialist ⑤： 画面切り替えやアニメーションの適用 （テキスト P.220～243）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第14回	【Checkテスト】PowerPoint Specialist ⑥： MOS PowerPoint Specialist 模擬試験問題	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、操作練習をしておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第15回	Word Expert ①： 文書のオプションと設定の管理 （テキスト P.16～71） テンプレートの管理、共同作業用の文書、言語オプションの設定	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第16回	Word Expert ②： 高度な編集機能や書式設定機能の利用 （テキスト P.72～99） 高度な検索と置換、段落レイアウトのオプション、スタイルの作成と管理	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第17回	Word Expert ③： ユーザー設定のドキュメント要素の作成 （テキスト P.100～141） 文書パーツの作成、索引・図表一覧の作成と管理	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）

第18回	Word Expert ④-1 ： 高度なWord機能の利用 （テキスト P.142～168） フォーム、フィールド、コントロールの管理、マクロの作成と管理	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第19回	Word Expert ④-2 ： 高度なWord機能の利用 （テキスト P.169～189） 差し込み印刷の設定と管理	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第20回	【Checkテスト】MOS Word Expert 模擬試験問題	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、操作練習をしておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第21回	Word Expert ⑤ ： MOS Expert 模擬試験問題 解答解説	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムで、再度模擬試験を解答しておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムで、第2回模擬試験を解答しておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
第22回	Excel Expert ① ： ブックのオプションと設定の管理 （テキスト P.16～51） ブックの管理、共同作業用のブック、言語オプションの設定	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第23回	Excel Expert ②-1 ： データの管理と書式設定 （テキスト P.52～78） データの表示形式や入力規則の活用	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第24回	Excel Expert ②-2 ： データの管理と書式設定 （テキスト P.79～93） 詳細な条件付き書式やフィルターの利用	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第25回	Excel Expert ③-1 ： 高度な機能を使用した数式およびマクロの作成 （テキスト P.94～130） 関数の活用（論理演算、データ検索、高度な日付と時刻、財務）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第26回	Excel Expert ③-2 ： 高度な機能を使用した数式およびマクロの作成 （テキスト P.131～167） What-If分析、数式のトラブルシューティング、マクロの作成と管理	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）

第27回	Excel Expert ④-1 ： 高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理 （テキスト P.168～186） グラフの活用（ ヒストグラム、マップグラフ、サンバースト、ウォーターフォール図など）	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第28回	Excel Expert ④-2 ： 高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理 （テキスト P.187～219） ピボットテーブルやピボットグラフの作成、ドリルダウン分析	
	事前学習（内容・時間）	テーマに対応したLesson問題を解いておくこと。※1Lesson 5分×10問＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	確認問題を解答して、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第29回	【Checkテスト】MOS Excel Expert 模擬試験問題	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、操作練習をしておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムを使って、誤答箇所の記録と操作を再確認しておくこと。（2.0h）
第30回	Excel Expert ⑤ ： MOS Excel Expert 模擬試験問題 解答解説	
	事前学習（内容・時間）	模擬試験プログラムで、再度模擬試験を解答しておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	模擬試験プログラムで、第2回模擬試験を解答しておくこと。※1回 50分＋解答確認（2.0h）
第31回（定期試験）	定期試験　※Microsoft Office Specialist試験に準じた内容で、実施します。	

ナンバリング（Numbering）
1BIB-5710-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
統計学入門	219～	2年生・前期	2単位	選択	宮﨑　武	

履修の前提条件	基礎数学、情報数学Ｉを修得していることが望ましい.

授業概要　（Course Outline）

統計データには，アンケートや計測などで得られた1次データ（生データともいう）と，それらを何らかの目的で第三者がまとめた2次データがある.
本講義では，2次データの読み取りや，目的に沿ったデータのまとめ方や視覚化と分析について学ぶ．また，実際の調査データや実験データなどを用いてデータ解析の意味や現代社会における統計スキルの必要性について学ぶ.

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業ではデータの視覚化や基本統計量などを踏まえて，データの特性や関連性を理解し、統計データを通した社会の見方や，エビデンス（証拠や根拠）を基にした議論の素養を身につけることを目標とします．また，データを読む力，説明する力の基礎を身につけ，データを扱えるようになることを目標します.

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回の授業終わりに小テストを行います.

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プレステップ統計学I 記述統計学（プレステップシリーズ14）	稲葉 由之（著）	弘文堂	13: 978-4335000843

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
①統計データはためになる	①　本川　裕	①　技術評論社	① ISBN978-4-7741-5293-6
②地理B　統計・データの読み方が面白いほどわかる本	②　伊藤　彰芳	②　KADOKAWA	② ISBN978-4-04-601537-2

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	データに意識をしてニュースや新聞を読む(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第2回	統計データの分類	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第3回	統計データの集計	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第4回	集計表と各種グラフ	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第5回	度数分布表とヒストグラム	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第6回	中心の位置の統計量	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第7回	平均値	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第8回	中間試験	
	事前学習（内容・時間）	前回までの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	教科書やノートを見ながら試験問題を解く(2h)
第9回	変化を表す統計量	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第10回	散らばりの統計量	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第11回	散らばりのグラフ表現	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第12回	データの分布	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第13回	2変数の関連性	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第14回	記述統計と推測統計	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。これまでに間違えた問題を理解できるまで何度も解く(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1BIN-5730-Z2CS

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報セキュリティ （教職関連科目　必　高等学校　情報）	219～	3・4年生・前期	2単位	必修	車　炳玘	
	～218	3・4年生・後期				
履修の前提条件	セキュリティの観点からインターネットの最新技術の動向を調べること。					

授業概要　（Course Outline）

情報漏えいに関する事例紹介を通して情報通信技術に潜む危険について認識した上で、情報セキュリティの基本概念、セキュリティリスク及びその対策などについて調べる。情報セキュリティに関する最新技術、関連法規及び個人や企業の情報セキュリティに対する取組み動向について調べる。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、情報セキュリティに関する事例や基礎知識の習得を通して、情報化社会における情報セキュリティの理解及びその全体像を把握するとともに、SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定、情報セキュリティ管理士、ITパスポート、基本情報技術者試験のセキュリティ分野の出題問題に対応できる知識レベルに達することを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

情報セキュリテイに関する最新のトレンドをつかむため、2人から4人のグループで必修用語や最近の出来事等をWeb上で調べ（5回以上）、ポートフォリオに記入すること。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日2、3時限、木曜日3時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定、情報セキュリティ管理士、ITパスポート、基本情報技術者）　学習の確認：情報セキュリティ関連用語のテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第12回目の授業時間に提出すること。学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報セキュリティ読本（四訂版）	情報処理推進機構	実業出版	978-4-407-33076-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報セキュリティの基本と仕組み	相戸浩志	秀和システム	978－4798025582

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（30%）、Webテスト（20%）、Web学習（30%）その他（20%、専用ノート、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	セキュリティリスクの実例	
	事前学習（内容・時間）	テキストP2～P5を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。2時間
第2回	危険の認識と対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP6～P8を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第3回	情報セキュリティの基本概念及び外部のリスク要因	
	事前学習（内容・時間）	テキストP10～P18を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第4回	内部のリスク要因	
	事前学習（内容・時間）	テキストP19～P24を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第5回	マルウェアの種類及び感染の原	
	事前学習（内容・時間）	テキストP26～P37を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第6回	マルウェア対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP38～P49を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第7回	標的型攻撃と誘導型攻撃への対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP50～P52を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第8回	フィッシング詐欺及びスマートフォンの脅威と対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP53～P61を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第9回	無線LANに潜む脅威とその対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP62～P64を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第10回	組織のセキュリティ対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP65～P72を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第11回	情報漏えいについて	
	事前学習（内容・時間）	テキストP73～P78を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第12回	アカウントとパスワードについて	
	事前学習（内容・時間）	テキストP79～P85を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第13回	脆弱性を悪用する攻撃とその対策	
	事前学習（内容・時間）	テキストP86～P96を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第14回	暗号とデジタル証明	
	事前学習（内容・時間）	テキストP97～P106を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第15回	情報セキュリティ関連法規と制度	
	事前学習（内容・時間）	テキストP107～P116を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間
第16回（定期試験）	四択及び記述式問題による定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1BIN-5700-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報システムの開発と管理 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	共通	3・4年生・前期	2単位	選択	荒平　高章	

履修の前提条件	プログラミングの基礎知識があり，情報リテラシー演習を修得していること．

授業概要　（Course Outline）

本講義では，ディプロマポリシーに基づき，様々な分野で利用されている情報システムを念頭に，事例等を提示しながら，情報システムについて概説する．また，システム開発に必要な基本計画や設計について学び，簡単な仕様書の作成を通して，システム開発の手順を経験する．

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①情報システムの例をあげることができ，システムについて説明することができる．
②システム開発の技法について説明することができ，基本計画や設計について述べることができる．
③講義に積極的に参加することができ，自分の意見を表現することができる．
④仕様書の作成について，自分から作成方法を工夫することができる．

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義内容について，議論やグループワークを実施する．

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは研究室（653）にて受け付ける．オフィスアワーの時間については掲示を確認すること．
また，クラスルームを開設するので，講義に関する連絡はクラスルームで行う．

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること．

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基礎シリーズ 最新情報システムの開発	伏見正則	実教出版株式会社	978-4-407-30957-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて補足資料等を配布する．			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（20%），課題提出（40%），定期試験（40%）によって評価する．

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し，受講理由を明確にする．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第2回	情報システム概論	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.6-7)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第3回	情報システムの構造	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.8-9)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第4回	情報システム開発の技法	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.10-13)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第5回	情報システム開発手順	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.14-17)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第6回	情報システム開発の効率化	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.18-19)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第7回	基本計画	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.24-25)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第8回	現状調査と現状分析	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.26-28)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第9回	外部設計	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.34-43)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第10回	内部設計	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.56-62)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第11回	プログラム設計	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.82-122)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第12回	テスト工程	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.172-182)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第13回	運用保守	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.188-200)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第14回	仕様書作成（1）	
	事前学習（内容・時間）	第2回から第13回までの講義内容を復習する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第15回	仕様書作成（2）	
	事前学習（内容・時間）	前回の仕様書の確認をする．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第16回（定期試験）	定期試験を実施する	

ナンバリング（Numbering）
1BIN-6530-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
マルチメディア論 （教職関連科目 選 高等学校 情報）	共通	3・4年生・前期	2単位	選択	荒平　高章	

履修の前提条件	情報リテラシー演習を修得していること.

授業概要　（Course Outline）

本講義では，ディプロマポリシーに基づき，コンピュータ，およびネットワークで取り扱うマルチメディア情報について概説する．また，現代社会で活用されているマルチメディアにも触れ，どのような場面でどのような技術が使用されているかを学ぶ．さらに，マルチメディアに関する調査研究を実施し，発表を行うことでマルチメディアに関する理解を深めてもらう.

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

マルチメディアに関する基礎的事項（マルチメディア構成要素，メディア処理技術，インターネット通信，ネットビジネス）について分類や列挙，説明をすることができ，現代社会におけるマルチメディア技術の例を列挙し，説明することができる.
マルチメディアに関する課題を見つけ，自ら課題解決策を提案でき，第三者に伝えることができる.

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

一方向型講義ではなく双方向型講義を実施する.

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは研究室（653）にて受け付ける．オフィスアワーの時間については掲示を確認すること.
また，クラスルームを開設するので，講義に関する連絡はクラスルームで行う.

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
入門マルチメディア　改訂新版	松阪喜幸	画像情報教育振興協会	978-4903474601

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて資料を配布する.			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

調査研究課題（30%），発表（30%）と定期試験（40%）をもとに総合的に判断する.

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し，受講理由を明確にする．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第2回	マルチメディアの特徴	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.12-27)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第3回	ディジタル端末	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.29-42)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第4回	メディア処理（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.44-53)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第5回	メディア処理（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.54-62)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第6回	インターネットと通信	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.64-76)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第7回	インターネットサービス	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.78-91)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第8回	インターネットビジネス	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.94-112)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第9回	ディジタルとネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.114-124)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第10回	社会に広がるマルチメディア（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.126-133)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第11回	社会に広がるマルチメディア（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.135-142)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第12回	セキュリティと情報リテラシー	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.144-156)を通読する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第13回	テーマ決定，調査研究（1）	
	事前学習（内容・時間）	第2回から第12回までの講義内容を復習する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第14回	調査研究（2）	
	事前学習（内容・時間）	前回の調査内容を確認する．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第15回	調査研究結果発表	
	事前学習（内容・時間）	前回の調査内容を確認する．発表準備をする．(2h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2h)
第16回（定期試験）	定期試験を実施する	

ナンバリング(Numbering)	
1EDN-6490-12E	1AMN-6490-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選		授業担当者 Instructor	実務経験
マーケティング論	219～ ～218	1年生・前期	2単位	経営必	NW選	秋吉 浩志	
				選択			

履修の前提条件	経営やマーケティングに興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。本学の経営情報学を習得するための基礎的な1分野としてとても大事な科目のひとつである。

授業概要 (Course Outline)

本学の建学の精神をふまえつつ、カリキュラムポリシーに基づき、マーケティングの基礎理論を包括的に講義する。毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。それに合わせて、テキストを使用、適宜プリントも配布するが、その回限定のプリントなので、再配布することはしない。よって、必ず出席すること。また、最新のマーケティング＆消費者行動に関するテキストを紹介するので、必ず読むことをすすめる。
この科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)選択科目である。

授業を通して修得できる力 (Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 (Objectives)

マーケティング論の基礎的な講義である。後期または2年次以降の経営情報学関連科目受講に向けての基礎科目であるので、この授業でマーケティングの基礎理論を学んで、2年次以降のとくにマーケティング及び流通関連科目、およびビジネス関連科目を理解する力を養うことが目標である。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)

①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。
②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など

教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)

基本的に研究室(2号館5階555研究室)にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。
研究室訪問の際、メール;akiyoshi@g.kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。(遠隔授業の場合はGoogleクラスルームを活用して連絡を随時行う)

その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士(リテールマーケティング)受験希望者は、必ず履修することを薦める。
学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、指定日までに秋吉までメール(akiyoshi@gkiis.ac.jp)で提出してください。
また、遠隔授業の際は主にZoomと動画にて、授業を行い、課題等はGoogleクラスルームを活用する

教科書 (Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
解&事例で学ぶ マーケティングの教科書	シェルパ(著), 酒井 光雄 (監修)	マイナビ	ISBN978-4839954406

参考文献 (Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
マーケティング基礎読本 増補改訂版	日経デジタルマーケティング	日経BP社	ISBN978-4-8222-3559-8
図解マーケティング大全	安部徹也他	洋泉社MOOK	ISBN978-8003-1479-6

成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)

期末試験もしくは期末レポート(60%)、出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。(30%)、授業態度、ミニテスト(10%)を基準とする。
パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合によっては科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	マーケティングとは何か&ガイダンス（社会のなかでのマーケティングの役割について）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。特にマーケティングの基礎知識解説を読んでおくように。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第2回	アメリカと日本のマーケティングの歴史と定義の変遷について	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第3回	マーケティングミックス（マーケティングの4Pとターゲット層を考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第4回	製品戦略①（メーカーの製品づくりと製品コンセプトを考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第5回	製品戦略②（コモディティ化とメーカーの製品づくり、製品コンセプトを考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第6回	価格戦略①（価格決定について損益分岐点法など価格決定のプロセスについて）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第7回	価格戦略②（現代の価格決定法を考える：サブスクリプションなど新たな動きについて）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第8回	流通（チャネル）戦略①（商業の発展と流通の役割）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第9回	流通（チャネル）戦略②（流通システム、流通チャネル、取引数削減の原理など、流通の問題を考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第10回	プロモーション戦略①（広義のプロモーション戦略を考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第11回	プロモーション戦略②（広告、イベントなど狭義のプロモーションについて考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第12回	サービスマーケティング（サービスとはなにか、サービスの諸特徴について）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第13回	電子商取引とe-マーケティング（電子商取引の劇的な発展に伴う問題点を考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第14回	IT＆ICTとマーケティング（ITやIOTの発展によるマーケティング情報システムの諸問題を考える）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。（2h）
第15回	現代におけるマーケティング概念の劇的な変化と進展について＆まとめ	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	最後にマーケティング論のまとめレポートを書いてもらいます。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング(Numbering)	
1EDN-5200-22E	1AMN-5200-22C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選		授業担当者 Instructor	実務経験
会計学	221～	1年生・後期	2単位	選択		宮崎　裕士	
	219・220	2年生・後期		経営必修	NW選択		
会計学総論	～218	1年生・後期					

履修の前提条件	「会計学入門Ⅰ」、簿記Ⅰ・Ⅱなど会計学の初歩的な知識を習得していることが望ましい。

授業概要　(Course Outline)

企業は株式をとおして投資家から資金を調達したり、銀行などの債権者から借り入れによる資金調達をしたりして、それを元手に製品の製造・販売や、サービスの提供を行っています。しかし、投資家や債権者は資金を提供する企業がどれだけ儲ける力があるのか、資産を有効活用しているのか等の企業の経営成績や財務の状況を判断材料にするため、それらを理解するためには会計が深く関係しています。
本講義では、複式簿記に関する初歩的な理解を基礎にして、企業会計制度、とくに財務会計制度の全体像と主要な概念・問題点について学習し、会計情報を読み解くことを目標にします。本講義の学修によって、本学のディプロマポリシーⅡおよびⅢを満たします。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

会計学の知識は、現在、ビジネスに関わる人にとっては、身に付けておかねばならない重要な常識になっています。本講義は、このような社会的要請に応えるため、下記の目標を設定しています。
・会計学の中でも財務会計と財務諸表分析に通じる基礎的な知識を習得すること。
・習得した基礎的な知識を通じて、企業経営に参画するビジネスパーソンとしての手掛かりを得ること。
・より発展したものとして、簿記などの資格取得にトライする意欲を養うこと。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・グーグルクラスルームを用いての質問も歓迎します。重要な質問内容については随時フィードバックを行います。
・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。
・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。
＊研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

テキスト以外に必要に応じてレジェメを配布します。
学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『入門会計学　改訂版 』	片山覺　山内暁ほか	実教出版	978-4407349542

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
税理士・会計士・簿記検定 はじめての会計基準 [第2版]	並木秀明	中央経済社	978-4502350214

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(60%)
2.平常点(40%)
＊平常点の内訳:小テスト(30%)、授業への取組み(10%)

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（授業の内容と進め方）、簿記・会計システムの基礎的な仕組み（1章・2章）	
	事前学習（内容・時間）	まずは教科書を一読し、講義の全体像をイメージしてみましょう。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第2回	企業会計制度の全体像ー会計情報とは　3章	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第3章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第3回	会計情報の入手方法とその利用　4章	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第4章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第4回	財務諸表の体系　5章	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第5章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第5回	貸借対照表（1）貸借対照表の配列および資産ー流動資産	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第6章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第6回	貸借対照表（2）資産ー固定資産	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第6章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第7回	貸借対照表（3）負債および資産と負債の評価	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第6章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第8回	貸借対照表（4）純資産	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第6章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第9回	損益計算書（1）損益計算書の意義と営業利益の計算	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第7章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第10回	損益計算書（2）経常利益の計算と当期純利益および包括利益の計算	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第7章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第11回	キャッシュ・フロー計算書(1)キャッシュ・フロー計算書の意義と営業キャッシュ・フロー	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第8章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第12回	キャッシュ・フロー計算書(2)投資キャッシュ・フローと財務キャッシュ・フロー	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第8章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第13回	株主資本等変動計算書ー株主資本等変動計算書の意義	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第9章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第14回	会計情報を読むーケーススタディによる財務諸表分析手法	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第10章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう（2時間）
第15回	これまでの講義のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	学習予定範囲（テキスト第10章）を一読してみましょう（2時間）
	事後学習（内容・時間）	これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験（講義全体をとおした学習成果の確認）	

ナンバリング（Numbering）	
1AMN-5400-22E	1EDN-5400-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営分析	219～	2年生・前期	2単位	選択	山下　壽文	
	～218	3･4年生・前期				

履修の前提条件	簿記や会計学の基本的な知識を修得していることが望ましいが、企業の業績や成長性の分析に興味を有することが必要である。

授業概要　（Course Outline）

企業が公表する財務諸表は企業情報の宝庫である。財務諸表等から得られる情報を利用した分析理論と手法を学習し、企業の経営成績・財政状態・キャッシュ・フローの状況を判断できる能力を養う。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

講義では、学則第3条を踏まえて、経営学分野の経営分析について知識を修得することを目標とする。そのため、企業が作成した貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書を使用して、様々な分析（診断）を行う。この過程で、収益性・安全性・成長性等の各種分析手法を身につける。さらに、分析にもとづいて企業経営の問題点を指摘し、これを解決するための提案力を養う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。レポート提出に際しては、その内容に応じて報告を課すこともある。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問、相談等は研究室にて行う。オフィスアワー以外で質問、相談等がある場合は、事前にメール等でアポイントメントを取ってください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営分析を学ぶ	山下壽文他	税務経理協会	978-4-419-05478-6

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
初めて学ぶ財務諸表分析	政岡光宏編著	同文館出版	978-4-495-19911-1

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験60%、レポート提出40%で評価。

tenn		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の内容・進め方）、財務諸表の内容と分析の概論	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　1～2　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第2回	経営分析による会社の業績、成長性、健全性の判断	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　3　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第3回	会社の業績：損益計算書の構造、売上高利益率	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　4～5　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第4回	売上高の推移と会社の成長：対前年度比率、対前年度伸び率、対基準年度比率	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　6～7を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第5回	会社の健全な成長：売上高経常利益率の推移	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　8　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第6回	損益分岐点分析：損益分岐点図表、変動費と固定費	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　9　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第7回	資本の有効利用：総資本回転率、資本利益率、ROE、	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　10　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。.（2時間）
第8回	売上の質：棚卸資産回転率、売上債権回転率	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　11　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）

第9回	危ない会社の見分け方：負債比率、自己資本比率	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　12～13　を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第10回	キャッシュ・フロー分析：資金繰り表、キャッシュ・フロー計算書	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　14～15　をを読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第11回	付加価値分析：労働生産性、資本生産性、付加価値生産性、設備生産性	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　16～17　をを読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第12回	企業集団の分析：企業グループの財務諸表分析	
	事前学習（内容・時間）	テキストCHAPTER　18　をを読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第13回	ケーススタディ（1）	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料のビジネスモデルについて復習。（2時間）
第14回	ケーススタディ（2）	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料のビジネスモデル分析結果についてレポート作成。（2時間）
第15回	まとめ一総合演習	
	事前学習（内容・時間）	テキストの要点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストをもとに経営分析の要点について復習。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)	
1GGB-5270-12E	1AMB-6091-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
統計学	219～	2年生・後期	2単位	選択	荒平　高章	
	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	【219～】 統計学入門を修得していること。 【～218】 Webで「統計とは」と「確率とは」のキーワードをそれぞれ検索し、特に入門的な複数のサイトを選んでその内容を読んでおくこと。

授業概要 (Course Outline)

本講義では、ディプロマポリシーに基づき、記述統計学と推測統計学の違いを意識しながら、データの縮約・視覚化、母集団と標本分布の違い、統計的仮説検定の基本的な手順を学びます。また、データ解析の目的にあわせた基本的な統計処理と確率分布との関連性について、さらに統計処理をする目的やその限界についても学びます。

授業を通して修得できる力 (Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 (Objectives)

【知識】
・母集団と標本、標本抽出法を説明できる。・質的データと量的データの違いを説明できる。・データを記述するための基礎事項(代表値、散布度、標準化、相関係数、回帰直線)を説明できる。・統計的検定やその他の検定法について説明できる。
【態度・習慣】
・疑問点を尋ねることができる。・講義に参加できる。
【技能】
・教科書の例題を模倣し、演習問題を解くことができる。・時間内で、与えられた問題を解くことができる。
・任意のデータを適切に記述できる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)

講義内容に関する応用問題を講義の終わりにほぼ毎回実施します。
また、Excel の分析ツールを用いて、統計的検定の理解と実習を行いますので、積極的に取り組む様に心掛けてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)

教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室(653)を訪ねること。
オフィスアワーの時間は、掲示を参照すること。

その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書 (Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
書き込み式統計学入門	須藤昭義	東京図書株式会社	978-4-489-02315-6

参考文献 (Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
コア・テキスト統計学	大屋　幸輔	新世社	978-4-88384-307-7

成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)

平常点(確認プリント、提出物など)(40%)、期末試験(60%)の総合評価

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	統計とは	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第2回	記述統計学と推測統計学	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第3回	確率分布の期待値と分散	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第4回	正規分布と確率分布	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第5回	標準正規分布	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第6回	母集団と標本	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第7回	母数の推定	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第8回	母平均と標本平均	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第9回	区間推定と t-分布	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第10回	統計的仮説検定の考え方	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第11回	カイ2乗検定	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第12回	平均値の差の検定（t検定－対応なし）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第13回	平均値の差の検定（t検定－対応あり）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第14回	分散分析－1 要因	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験を実施する	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5430-12ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
計算機システム論 （教職関連科目　選　高等学校　情報）	219～	1年生・後期	2単位	選択	朝廣　雄一	
	～218	2年生・前期				
履修の前提条件	「基礎数学」を合格していることを前提とする（履修規程第5条3項に基づく）。					

授業概要　（Course Outline）

経営情報学分野においては種々の計算を計算機（コンピュータ）に行わせるため、様々な知識を理解・利用していくためには、コンピュータの基本原理について理解しておくことが重要である。そこで学則第3条を踏まえて、本講義では、計算機における3つの基幹技術であるハードウェア、ソフトウェア、通信について取り上げる。例えば、以下のような話題について紹介する。
　ハードウェア：コンピュータの中はどのように動作して、情報をどのように格納しているのか
　ソフトウェア：コンピュータへの指示はどのようにして行うのか、どのような処理をおこなえるのか
　通信：どのようにしてネットワーク上での通信が行われているのか
なお問題演習やPCを用いた実習を適宜取り入れることにより、知識の定着を図る。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

経営情報学分野の基礎的な知識を修得するために、この科目では計算機を構成するハードウェア・ソフトウェア・通信がどのような働きをしているかについての基礎的知識を習得することを目指している。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

演習問題に主体的に取り組み、疑問点などについて積極的に発言して下さい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

オフィスアワーはなし。電子メールにてasahiro@is.kyusan-u.ac.jp宛てに連絡を取ってください。ただし、携帯電話やフリーメールアドレスからではなく、大学のアドレスから発信して下さい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

授業で扱う内容の一部は、基本情報技術者試験の試験範囲に含まれる。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修状況チェック表」に必要事項を記入すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ディジタル作法	Brian W. Kernighan 著 久野　靖　訳	オーム社	978-4-274-06909-3

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プログラムはなぜ動くのか	矢沢久雄	日経BP社	978-4-8222-8315-5

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法
　レポート(10%)　中間試験(30%)　定期試験(60%)
・成績評価の基準
　授業計画の欄に示した各項目について理解しているかが成績評価の基準である。具体的には、それぞれの項目についてレポート課題、中間試験、定期試験のいずれかに出題し、合計得点で評価することにより、総合的な理解度を評価する。

なお、感染症への対策などに伴い、成績評価方法を変えることがある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	コンピュータとは何か？	
	事前学習（内容・時間）	教科書 p.26 までを読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第2回	ビット・バイトと情報の表現	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.27-46 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第3回	CPUの中身	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.47-66 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第4回	まとめと中間試験1	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第5回	アルゴリズム	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.67-86 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第6回	プログラミングとプログラミング言語	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.87-114 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第7回	ソフトウェアシステム	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.115-140 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第8回	まとめと中間試験2	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第9回	プログラミングを学ぶ	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.141-158 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第10回	ネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.159-184 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第11回	インターネット	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.185-220 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第12回	まとめと中間試験3	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第13回	World Wide Web	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.221-256 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第14回	データ、情報、プライバシー	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.257-290 を読む(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第15回	計算機（コンピュータ）を用いた演習（実習を含む）	
	事前学習（内容・時間）	PCの準備（アダプターやケーブルなどの準備，ならびに事前設定など）を行う（1時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中に完了できなかった課題とレポート作成に取り組む(3時間)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5120-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
アルゴリズムとデータ構造 （教職関連科目　必　高等学校　情報）	219～	2年生・前期	2単位	選択	朝廣　雄一	
	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	「基礎数学」と「プログラミング初歩I」（情報ネットワーク学科），または「基礎数学」と「プログラミング入門」(経営情報学科)を合格していることを前提とする（履修規程第5条3項に基づく）。

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、経営情報学分野の応用的な知識として、情報システムの基本的かつ重要な要素であるアルゴリズムとデータ構造を扱い、各種の問題とそれらに対するアルゴリズムの漸近的な性能を解析する手法について解説する。まず単純な問題を対象とし、アルゴリズムとその性能を解析する流れについて概説する。その後、実際に基本的データ構造を用いた、各種の計算などのアルゴリズムについて漸近的な性能の解析を行う。問題演習やPCを用いた実習を適宜取り入れることにより、知識の定着を図る。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

経営情報学分野の応用的な知識として、アルゴリズムとデータ構造の知識を習得し、アルゴリズムの漸近的な性能を解析する手法について習得するのを目指している。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

演習問題に主体的に取り組み，疑問点などについて積極的に発言して下さい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

オフィスアワーはなし。電子メールにてasahiro@is.kyusan-u.ac.jp宛てに連絡を取ってください。ただし、携帯電話やフリーメールアドレスからではなく、大学のアドレスから発信して下さい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

授業で扱う内容の一部は、基本情報技術者試験の試験範囲に含まれる。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
授業は配布プリントに従って実施する			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
アルゴリズムイントロダクション　第3版　第1巻	コルメン、ライザーソン、リベスト、シュタイン（浅野、岩野、梅尾、山下、和田訳）	近代科学社	978-4-7649-0406-4

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法
　レポート（10%）　中間試験（30%）　定期試験（60%）
・成績評価の基準
　授業計画の欄に示した各項目について理解しているかが成績評価の基準である。具体的には，それぞれの項目についてレポート課題、中間試験、定期試験のいずれかに出題し、合計得点で評価することにより、総合的な理解度を評価する。

なお、感染症への対策などに伴い、成績評価方法を変えることがある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	計算におけるアルゴリズムの役割について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第2回	疑似プログラムとSRAMモデルの概要について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第3回	単純な問題とアルゴリズムについて理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第4回	まとめと中間試験１	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第5回	各種演算とアルゴリズムについて理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第6回	条件分岐と最悪、最良実行時間について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第7回	高度な条件分岐について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第8回	まとめと中間試験２	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第9回	数列について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第10回	ループ構造を持つアルゴリズム（１）数の和を計算するアルゴリズムについて理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第11回	ループ構造を持つアルゴリズム（２）ループ不変式について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第12回	まとめと中間試験３	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習した内容の復習を行う(3時間)
	事後学習（内容・時間）	よく分からなかった問題について復習を行う（1時間）
第13回	ループ構造を持つアルゴリズム（３）自然数の和を計算するアルゴリズムについて理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第14回	O記法について理解する	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を読んで理解し、疑問点についてまとめておく(2時間)
	事後学習（内容・時間）	授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間)
第15回	各種アルゴリズムの実験的評価に取り組む（実習を含む）	
	事前学習（内容・時間）	PCの準備（アダプターやケーブルなどの準備，ならびに事前設定など）を行う（1時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中に完了できなかった課題とレポート作成に取り組む(3時間)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6060-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
データベース論 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	共通	2年生・前期	2単位	選択	宮﨑　武	

履修の前提条件	情報学入門を修得済みであることが望ましい

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業ではデータベースの概要を学ぶ。データベースとしては現在最も広範囲に使用されているリレーショナルデータベースを中心にデータベースの設計方法、アクセス方法を演習を通じて身につける。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

自分でデータベースを作成し、アクセスすることができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回各自のPCで、実際に手を動かしてデータベースへの操作をしてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎回必ずパソコンを持参する事。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
データベースの基礎 （改訂版）- MariaDB/MySQL対応 -	永田武	コロナ社	978-4-339-02919-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
標準MySQL	田中ナルミ/阿部忠光	ソフトバンククリエイティブ	978-4797339550

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

実技試験60%、定期試験40%、iパスコンテストの得点を平常点として加味する

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、データベースとは	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読む(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書第1章を読み内容を理解する(2h)
第2回	Xamppのインストールおよび動作確認	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	Xamppの起動と終了を何度も行い操作に慣れる(2h)
第3回	Tableの作成	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日1つTableを作成する(2h)
第4回	データの挿入	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日Tableにデータを挿入する(2h)
第5回	データの修正	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日Tableのデータを修正する(2h)
第6回	データの削除	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日Tableのデータを削除する(2h)
第7回	データの参照	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日Tableのデータを参照する(2h)
第8回	データの抽出条件による参照	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	毎日Tableのデータを抽出条件を入れて参照する(2h)

第9回	phpプログラムを利用したデータの参照	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する、教科書6.3.1を読む(2h)
第10回	phpプログラムを利用したデータの抽出条件による参照	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する、教科書6.3.1を読む(2h)
第11回	データベースの設計、正規化による整理方法	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中に指示のあった作業をもう一度自分で実施する、教科書5.1, 5.2を読む(2h)
第12回	複数の表の結合によるデータ参照	
	事前学習（内容・時間）	PCのアップデート等授業中に起こらないよう前日に電源を入れアップデートの確認をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する(2h)
第13回	実技試験前半	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業で行ったデータベースに対する操作を何度も自分で繰り返す(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中の問題の復習およびこれまでの授業の復習をする(2h)
第14回	実技試験後半	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業で行ったデータベースに対する操作を何度も自分で繰り返す(2h)
	事後学習（内容・時間）	授業中の問題の復習をする(2h)
第15回	総合演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の5章と6章を読んでおく(2h)
	事後学習（内容・時間）	データ操作言語の命令文をしっかりと復習する(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5750-24C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報テクノロジー演習 I	220～ 219～ 情報ネットワーク学科	2年生・前期	4単位	経営 選 NW 必 必修	ディンダ　プラマンタ	
履修の前提条件	ITパスポート資格取得に意欲的に取り組む意志があること。					

授業概要 （Course Outline）

働く人が共通して備えておきたい情報技術や企業活動に関する基本的な知識を幅広く問われるのが、情報技術者試験のITパスポートである。この授業では、ディプロマポリシーに基づき、ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジ系の3つの分野の出題範囲について、過去問題を通して網羅していく。受講者全員のITパスポート試験合格を目標とする。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

ITパスポート資格について説明できる。テクノロジー分野に関する基本事項、用語について説明することができる。ストラテジー分野に関する基本事項、用語について説明することができる。マネジメント分野に関する基本事項、用語について説明することができる。演習に参加することができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
令和04年 ITパスポート 合格教本	岡嶋　裕史	技術評論社	978-4297124212

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
令和2-3年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 （よくわかるマスター）	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4865104202

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

確認テスト① 20%、確認テスト② 20%、確認テスト③ 20%、定期試験40%。また、本学開催のiパス・簿記コンテストへの参加も含まれる。積極的な参加を推奨する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（ITパスポート試験の概要と演習の進め方）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第2回	プレテスト	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第3回	テクノロジ系①　離散数学	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第4回	テクノロジ系①　情報理論	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第5回	テクノロジ系②　データ構造とアルゴリズム	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第6回	テクノロジ系②　プログラミング・プログラム言語とマークアップ言語	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第7回	テクノロジ系③　コンピュタ構成要素	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第8回	テクノロジ系③　システム構成要素	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第9回	テクノロジ系④　ソフトウェア	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第10回	テクノロジ系④　ハードウェア	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第11回	確認テスト①の練習	
	事前学習（内容・時間）	第3回～第10回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第12回	確認テスト①	
	事前学習（内容・時間）	第3回～第10回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第13回	テクノロジ系⑤　ヒューマンインタフェース技術	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第14回	テクノロジ系⑤　マルチメディア応用	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第15回	テクノロジ系⑥　データベース方式	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第16回	テクノロジ系⑥　トランザクション処理	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第17回	テクノロジ系⑦　ネットワーク方式・送信プロトコル	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）

第18回	テクノロジ系⑦　送信プロトコル・ネットワーク応用	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第19回	テクノロジ系⑧　情報セキュリティ・情報セキュリティ対策	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第20回	テクノロジ系⑧　情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第21回	確認テスト②の練習	
	事前学習（内容・時間）	第１３回～第２０回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第22回	確認テスト②	
	事前学習（内容・時間）	第１３回～第２０回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第23回	マネジメント系①　システム開発技術・開発プロセス	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第24回	マネジメント系①　開発プロセス・手法	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第25回	マネジメント系②　プロジェクトマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第26回	マネジメント系②　プロジェクトマネジメントの知識エリア	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）

第27回	マネジメント系③　サービスマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第28回	マネジメント系③　ファシリティマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第29回	確認テスト③の練習	
	事前学習（内容・時間）	第２３回～第２８回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第30回	確認テスト③	
	事前学習（内容・時間）	第２３回～第２８回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第31回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5760-24E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ	220～	2年生・後期	4単位	選択	平川　淳一	
	219 情報ﾈｯﾄﾜｰｸ学科	2年生・後期				

履修の前提条件	・ITパスポート資格の取得を目標にしている人。 ・受講マナーを守れる人 ※プリント類を管理するためのファイルを1冊準備しておいてください。

授業概要　（Course Outline）

企業活動や情報技術に関する基本的な知識について、広く問われるのが情報技術者試験「ITパスポート」、通称「iパス」と呼ばれる国家資格です。ビジネスパーソンにとって共通して備えておくべき知識を網羅しているため、IT業界のみならず、多くの社会人が受験している注目の資格です。
授業ではiパスの出題範囲、ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジ系の過去問題を通して分野別の知識をインプットし、チェックテストによって、アウトプットすることで、知識の定着を図ります。
この科目は、カリキュラムポリシー「Ⅱ経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能や知識・理解を修得させること。」に基づいて、ITパスポート試験の対策科目として学んでいきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

経営情報学の汎用的技能や知識・理解についての基礎を習得するために、この科目では経営・会計・情報を中心とする経営情報分野全般を横断的に学習し、国家資格情報技術者試験 ITパスポートの取得を目指します。
ITパスポートは通過点と捉え、次なる目標「基本情報技術」のための、基礎知識の定着が最低目標となります。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・それぞれの項目ごとに、復習＋理解度確認のためのCheckテストを実施します。
・配付したプリントはファイリングして管理してください。
・配付するプリントにはメモ欄を用意しているので、たくさん書込みを行って独自の資料を作り上げてください。
　※授業終了時にプリントを確認します。
・間違えノートは、用語辞書としての役割を果たすので、記録を怠らないようにしてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

2号館1階の講師控室にお越しください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：ITパスポート試験
試 験 日 ： 随時試験（受験会場に確認）
受 験 料 ： 7,500円（税込）
試験会場： 天神、博多、久留米、北九州会場
受験には、事前に受験者IDの登録が必要となります。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
令和04年 ITパスポート合格教本	岡嶋　裕史	技術評論社	978-4297124212

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
かんたん合格 ITパスポート過去問題集 令和3年度 秋期	間久保　恭子	インプレス	978-4295011590

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価方法：平常点 20%、課題 20%、定期試験 60%
　※平常点は、学習意欲、受講マナー、獲得ポイント数を見て総合的に評価します。
　　注）受講マナーを守れない人は、「減点」、「欠席」、「受講停止」になる場合があります。
　※学内で実施される『iパス・簿記コンテスト』参加者は、平常点が加算されます。
　※定期試験をITパスポート受験（外部試験）に代えることを認めます。（事前に申し出ること）
　※定期試験前にITパスポート試験を受験した人は、定期試験を免除します。（最低得点ライン有り）
　　合否に関係なく、試験得点を評価上、考慮します。（試験結果の提出義務有り）
・成績評価の基準：第1回授業で把握した苦手分野についての理解度が向上しているか。
　　ITﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ試験の過去問題において各分野での正答率が60%以上の実力を要しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業概要とITパスポート試験の内容を確認。過去問題にチャレンジ。	
	事前学習（内容・時間）	ITパスポート試験について調べ、内容と出題範囲をノートにまとめておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ITパスポートを取得するメリットとデメリットについて、500字程度にまとめておくこと。（2.0h）
第2回	オリエンテーション問題　解答解説 ： 理解度の確認と自己点検	
	事前学習（内容・時間）	ITパスポート試験の過去問題を各自で選択して、最低50問解答しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	オリエンテーション問題で間違えた内容について、調べてノートにまとめておくこと。（2.0h）
第3回	ストラテジ系 ： 1. 経営・組織 （テキスト P.36～53）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第4回	ストラテジ系 ： 2. 業務分析・データ利活用 （テキスト P.54～66）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第5回	ストラテジ系 ： 3. 会計・財務 （テキスト P.19～34）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第6回	ストラテジ系 ： 4. 知的財産権～5. セキュリティ関連法規 （テキスト P.67～74）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第7回	ストラテジ系 ： 6.労働関連・取引関連法～8. 標準化関連 （テキスト P.78～83）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第8回	ストラテジ系 ： 9. 経営戦略手法～10. マーケティング （テキスト P.87～118）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第9回	ストラテジ系 ： 11. ビジネス戦略と目標・評価～13. 技術開発戦略の立案・計画 （テキスト P.119～130）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第10回	ストラテジ系 ： 14. ビジネスシステム～17. IoT システム・組込みシステム （テキスト P.147～163）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第11回	ストラテジ系 ： 18. 情報システム戦略～21. システム活用促進・評価 （テキスト P.131～136）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第12回	ストラテジ系 ： 22. システム化計画～24. 調達計画・実施 （テキスト P.140～146）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第13回	【Checkテスト】 ストラテジ系 （66問）	
	事前学習（内容・時間）	ストラテジ系のすべての配布資料を確認しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	ストラテジ系の過去問題50問を解いて、採点結果まで記録しておくこと。（2.0h）
第14回	【総括】 ストラテジ系　Checkテストの解答解説 ： 理解度の確認と自己点検	
	事前学習（内容・時間）	Checkテストの解答上に生じた疑問点を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	Checkテストの結果を踏まえて、学習方法の再構築案をノートにまとめておくこと。（2.0h）
第15回	マネジメント系 ： 25. システム開発技術～26. 開発プロセス・手法 （テキスト P.167～184）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第16回	マネジメント系 ： 27. プロジェクトマネジメント （テキスト P.185～195）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第17回	マネジメント系 ： 28. サービスマネジメント～30. ファシリティマネジメント （テキスト P.197～201）	
	事前学習（内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）

第18回	マネジメント系 : 31. システム監査～32. 内部統制 （テキスト P.202～209）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第19回	【Checkテスト】 マネジメント系	
	事前学習 （内容・時間）	マネジメント系のすべての配布資料を確認しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	マネジメント系の過去問題50問を解いて、採点結果まで記録しておくこと。（2.0h）
第20回	【総括】 マネジメント系　Checkテストの解答解説 : 理解度の確認と自己点検	
	事前学習 （内容・時間）	Checkテストの解答上に生じた疑問点を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	Checkテストの結果を踏まえて、学習方法の再構築案をノートにまとめておくこと。（2.0h）
第21回	テクノロジ系 : 33. 離散数学～35. 情報に関する理論 （テキスト P.213～226）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第22回	テクノロジ系 : 36. データ構造～39. その他の言語 （テキスト P.241～254）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第23回	テクノロジ系 : 40. プロセッサ～44. システムの評価指標 （テキスト P.277～293）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第24回	テクノロジ系 : 45. オペレーティングシステム～49. ハードウェア （テキスト P.256～275）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第25回	テクノロジ系 : 50. ヒューマンインタフェース技術～53. マルチメディア応用 （テキスト P.227～240）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第26回	テクノロジ系 : 54. データベース方式～57. トランザクション処理 （テキスト P.399～410）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）

第27回	テクノロジ系 : 58. ネットワーク方式～60. ネットワーク応用 （テキスト P.299～325）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第28回	テクノロジ系 : 61. 情報セキュリティ～63. 情報セキュリティ対策・実装技術 （テキスト P.344～379）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストを精読して、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テーマと対応するテキスト「試験問題を解いてみよう」を解いて記録しておくこと。（2.0h）
第29回	【Checkテスト】 テクノロジ系	
	事前学習 （内容・時間）	テクノロジ系のすべての配布資料を確認しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	テクノロジ系の過去問題50問を解いて、採点結果まで記録しておくこと。（2.0h）
第30回	【総括】 テクノロジ系　Checkテストの解答解説 : 理解度の確認と自己点検	
	事前学習 （内容・時間）	Checkテストの解答上に生じた疑問点を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習 （内容・時間）	Checkテストの結果を踏まえて、学習方法の再構築案をノートにまとめておくこと。（2.0h）
第31回 （定期試験）	定期試験 ※情報技術者試験 ITパスポート試験に準じた内容で実施します。	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5440-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
計測・制御論 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219～	3・4年生・後期	2単位	選択	麻生　隆史	
	～218	3・4年生・前期				
履修の前提条件	コンピュータシステムの基礎知識を理解しておくこと。					

授業概要　（Course Outline）

現在、私たちの周辺には、産業用・民製用を問わず、エレクトロニクス機器があふれています。そして、それらの内部にはマイコンと呼ばれる超小型のコンピュータが組み込まれ、高性能・高機能な制御システムを構成しています。特に様々な機器がコンピュータを介してどのようなシステムで構築されコントロールされているのかを知ることが重要です。
本科目では、高度情報化社会の要請をふまえ、身の回りのエレクトロニクス機器の内部構成を理解する上で、共通して必要となる計測及び制御システムに関する知識を学びます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

情報学分野のひとつのシステムである計測・制御について深く理解し、パソコンやネットワークを用いてシステム設計が行えるようになることを目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎講義時間内に計測・制御に関するテーマを提示し、受講者全員でディスカッションを行います。各自の積極的な発言を望みます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡はメールにて行います。又、オフィスアワーは、研究室にて行います。自由に来室願います。調整が必要な場合はすべてグーグルクラスルームを積極的に活用します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎講義終了前に課題を設定しますので、メールにて課題の回答を提出してください。また、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
やさしい制御システム（基礎編）	坂巻　佳壽美	日刊工業新聞社	4-526-03691-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
計測・制御テクノロジーシリーズ11 プロセス制御	高津　春雄	コロナ社	4-339-0336108

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

授業に取り組む態度及び定期試験及び毎講義に設定した課題の回答メールにより学習成果を総合的に評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	制御システムとコンピュータ（オリエンテーション）	
	事前学習（内容・時間）	制御システムとコンピュータについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	制御システムを用いた応用事例を考察する（2時間）
第2回	センサ	
	事前学習（内容・時間）	センサの種類について調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	センサを用いている機器について実例を考察する（2時間）
第3回	定位置検知センサ	
	事前学習（内容・時間）	GPSの仕組みを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	定位置検知センサが用いられている事例を考察する（2時間）
第4回	光及び温度検知センサ	
	事前学習（内容・時間）	光及び温度を検出するシステムを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	光及び温度検知センサを用いた機器を考察する（2時間）
第5回	超音波センサ	
	事前学習（内容・時間）	超音波センサが用いられている事例を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	超音波センサを用いている機器を考察する（2時間）
第6回	アクチュエータの種類	
	事前学習（内容・時間）	アクチュエータの概念を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	アクチュエータを用いている機器を考察する（2時間）
第7回	直流モータと交流モータ	
	事前学習（内容・時間）	直流と交流の違いを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	直流モータと交流モータの機器への応用を考察する（2時間）
第8回	ステッピングモータ及びサーボモータ	
	事前学習（内容・時間）	ステッピングモータ及びサーボモータの違いを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ステッピングモータ及びサーボモータの実用例を考察する（2時間）
第9回	圧電素子	
	事前学習（内容・時間）	身近に利用されている圧電素子を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	圧電素子と静電素子の違いを考察する（2時間）
第10回	アナログ制御とデジタル制御	
	事前学習（内容・時間）	アナログとデジタルの違いについて調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	アナログ制御とデジタル制御の得意不得意分野を考察する（2時間）
第11回	フィードバック制御	
	事前学習（内容・時間）	なぜフィードバックが必要なのか調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	フィードバック制御により得られる実例を考察する（2時間）
第12回	制御システムのステップ応答	
	事前学習（内容・時間）	ステップ応答がなぜ必要なのか調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	制御システムにおけるステップ応答の役割を考察する（2時間）
第13回	制御アルゴリズム	
	事前学習（内容・時間）	アルゴリズムとは何かを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	制御アルゴリズムの高速化手法を考察する（2時間）
第14回	現代制御理論	
	事前学習（内容・時間）	システム制御の歴史を調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	未来における制御システムを考察する（2時間）
第15回	制御システムと通信システム	
	事前学習（内容・時間）	身近な通信システムを調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	通信システムにおける制御の実例を考察する（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）	
1EMN-5670-12E	1EDN-5670-12-E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
消費者行動論	共通	1年生・後期	2単位	選択	秋吉 浩志	

履修の前提条件	経営やマーケティング、消費者行動、ブランド論に興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。経営に関する1分野としてとても大切な科目である。

授業概要 （Course Outline）

本学の建学の精神を基盤としたカリキュラムポリシーに基づき、消費者行動の基礎理論を包括的に講義する。
毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。また、講義ではオリジナルプリントを使用するが、プリントの内容について授業中質問をするので、質問に答えられるよう集中しておくこと。
この科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）選択科目である。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

景気の動向、経済政策、企業経営、文化・ライフスタイル、ファッション、さらには国際化＆グローバル化にいたるまでさまざまな動向を探り、世の中の消費者行動を分析する力を養う。小売店のバイヤー、Webビジネス関係企業、マーケティング関係の企業、マスコミ関係の就職等を望んでいる学生は履修を勧める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。
②動画、プリント以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

基本的に研究室にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。
研究室訪問の際、メール；akiyoshi@g.kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士（リテールマーケティング）受験希望者は、必ず履修することを薦める。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、指定した期日までに秋吉までメール（akiyoshi@g.kiis.ac.jp））で提出してください。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
毎回テキスト使用＆授業プリントを配布、また、ミニッツカードを配り、理解度をチェックする。新テキストは決まり次第発表する			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
消費者行動論 消費者・コミュニケーション戦略	青木幸弘他 田中洋他	有斐閣アルマ 有斐閣アルマ	978-4641124639 978-4641122741

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験もしくは期末レポート（60%）、出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。（30%）、授業態度、ミニテストなど（10%）を基準とする。
パソコン（タブレット型も含む）、携帯（スマートフォン）その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合によっては科目受講失格（0点）にする。基本的に座席指定を行う。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	消費者行動論とはなにか＆ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第2回	消費者行動とマーケティング：身近な個人個人の行動を考えよう	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第3回	消費社会とはなにか①：消費社会の誕生と発展ついて考えよう	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第4回	消費社会とはなにか②：日本での消費社会の発展を歴史を追って考えよう	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第5回	消費者行動論の基礎理論①：消費者行動を把握するための4つの理論について考えよう	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第6回	消費者行動論の基礎理論②BMEモデル、刺激反応モデル、S-O-R理論について考えよう	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第7回	消費者行動論の基礎理論③脳科学的分析方法など最新の消費者行動理論を考える	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第8回	ライフコース、ライフスタイル、ライフサイクルの3類型について考える	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第9回	国際的消費者行動論①「国際的消費者行動と文化について」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第10回	国際的消費者行動論②「現地適応化か、国際標準化か」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第11回	東アジアの文化と消費者行動論①「日本・韓国・中国の基礎文化比較と消費者行動」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第12回	消費者行動とブランド形成について①「ブランドとはなにか」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第13回	消費者行動とブランド形成について②「ブランド形成に必要なものはなにか」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第14回	消費者行動とインターネットにおける相互性について「ネット上の消費者行動」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらう、提出先は指示をする。（2h）
第15回	消費者行動とライフ設計、そして「これからの消費者行動分析について」	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	課題と科目アンケートをミニッツペーパーに書いて提出、提出先は指示をする。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）						
1EMN-6470-22E	1EDN-6470-22E					
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
マーケティング・リサーチ	219～	2年生・前期	2単位	選択	坂本　徹	
	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。					

授業概要　（Course Outline）

マーケティングは、顧客の集まりである市場の創設、潜在的な顧客の取り込み、人々の関心を自社製品に振り向かせる試み等にかかわる企業活動である。そのためにはどんな製品が求められているのか、納得できる価格帯は？有効な販売方法は？どのような流通経路でお客様に商品をお届けすれば良いのかといった事柄についての調査研究（リサーチ）が必要となる。この調査研究には①分析方法、②統計、③コンピューターに関する知識と技術の3つが同時に必要です。この講義ではこの3点について勉強して行きましょう。実際のリサーチにはこれに加えて調査票の設計と作成、調査の実施と集計が必要ですが、ディプロマポリシーに基づき、この授業ではマーケティングリサーチについての基礎レベルについて説明します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

「家計調査年報」にアクセスして、ある品目の消費実態を観察し簡単な分析レポートを書くことができるようになること。その際に意識的に時系列とクロスセクションの双方の視点から対象にアプローチする姿勢を習得する事。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業ではコンピュータの操作を通じて、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目（12:50～16:00）をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

統計検定、マイクロソフトオフィス検定、販売士などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
マーケティング・リサーチ — マーケティング、コンピューター、リサーチ —	坂本　徹	東筑印刷	私家版 授業中に配布

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ･ﾘｻｰﾁの実際	近藤光雄・小田宜夫	日経文庫	ISBN978-4-532-11009-3

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

評価　＝　中間レポート　＋　定期試験評価
　　4　　：　　6

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	マーケティング・リサーチとは何か	
	事前学習（内容・時間）	テキストの目次に目を通して、授業の進行順序を大まかにつかんでおいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	フィリップ・コトラー、ピーター・ドラッガー、市場需要の創造・開拓・拡大について自身の考えをまとめておくこと。（2時間）
第2回	J.M.A.　A.M.A.の定義	
	事前学習（内容・時間）	テキストp4、p5を読んで、マーケティングの対象範囲について予見して下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	顧客満足について自身の考えをまとめておくこと。（2時間）
第3回	企業のマーケティング１	
	事前学習（内容・時間）	J.M.A,　A.M.Aの定義と企業のマーケティングの相違について学習しておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	利益＝総収入−総費用を「有価証券報告書」で確認すること。（2時間）
第4回	企業のマーケティング２	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp8～13を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストp9図2−1中のどれか1場面を選んで自身の説明を試みてください。（2時間）
第5回	コンピューターについて	
	事前学習（内容・時間）	ENIAC、メインフレーム、PC、インターネットの用語について事前準備をして下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	コンピューターの発生から現状までの歴史について自身の理解を確認して下さい。（2時間）
第6回	kiis networkの概要	
	事前学習（内容・時間）	1年次必修「コンピュータ・リテラシー」の内容を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「ネットワークの設定」、「インターネットの設定」、「kiisnwの設定」を再確認してください。（2時間）
第7回	表計算ソフトウェアの概要	
	事前学習（内容・時間）	1年次必修「情報リテラシー・演習」の該当箇所を復習しておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	表計算・関数ｳｨｻﾞｰﾄﾞ、グラフｳｨｻﾞｰﾄﾞ、データベースの操作について練習・確認をしておいて下さい。（2時間）
第8回	セカンダリーデータ（2次資料）とその利用	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp20～30を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	任意のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽにアクセスしてみること。（2時間）
第9回	日本の5大センサス	
	事前学習（内容・時間）	日本の5大センサスへアクセスして、各ホームページへのハイパーリンクを試すこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	国勢調査のHPから出発してテキストp23表4−1のデータを検索して下さい。（2時間）
第10回	国勢調査とマーケティング・リサーチ	
	事前学習（内容・時間）	2020年「国勢調査」について、自身の経験を確認しておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストp23表4−1を利用してﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁに応用できる事例を考えて下さい。（2時間）
第11回	その他の重要な2次資料	
	事前学習（内容・時間）	「家計調査年報」にアクセスして「世帯」、「品目別」、「用途別」の用語について調べておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストp27図4−6を利用し自然動態、社会動態を表す2次資料にアクセスして、太宰府市のデータをとってみましょう。（2時間）
第12回	現状分析例（家計調査年報を利用した時系列分析）	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp37～45を読んでおいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	チーズの年間消費額は観察期間中、何％伸びたか、レポートしてもらいます。（2時間）
第13回	現状分析例（家計調査年報を利用した所得階層別分析）	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp46～53を読んでおいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	チーズ年間消費額の伸びが、年間収入階級別にどうであるかレポートしてもらいます。（2時間）
第14回	現状分析例（家計調査年報を利用した世帯人員数と年齢別分析）	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp54～57を読んでおいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	チーズ年間消費額の伸びが、家族の人数や世帯主の年齢別にどうであるかレポートしてもらいます。（2時間）
第15回	現状分析例（家計調査年報を利用した都道府県別分析）	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp58～62を読んでおいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	チーズ年間消費額の伸びが、地域別にどうであるかレポートしてもらいます。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）	
1ENN-5070-22E	1EMN-5070-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
Webサービス論	219～	2年生・後期	2単位	選択	秋吉 浩志	
	～218	3・4年生・後期				

履修の前提条件	①マーケティング論・消費者行動論、経営戦略論、経営情報論Ⅰ・Ⅱを履修している学生に薦める。 ②デジタル社会における総合的なネットビジネスを通じた問題点を探るため、ネットビジネスに興味のある学生を求めます。

授業概要 （Course Outline）

本学の建学の精神を基盤としたカリキュラムポリシーに基づいた授業を展開する。前半はデジタル社会におけるWebサービス・広告＆マーケティングの基礎を展開し、中盤は広告計画、実践、後半はWebサービスの変化をより具体的に説明を行う。さらにはWebサービスを通じた社会的な問題もとりあげる。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

現代のあらゆるメディア（媒体）とからむWebサービス（ネットビジネス）の基礎を展開してゆく。よって、広告、放送関係業界、通販業界、企業の企画、マーケティング担当者を目指す学生に対して、知識・教養・実践力を身につけることを目標としている。Webサービスは現在あらゆるWebに関する基礎理論を紹介する。経営情報について、またネットビジネスに興味のあるものは、選択をすすめる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。
②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

基本的に研究室にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。
研究室訪問の際、メール；akiyoshi@g.kiis.ac.jp.にメール連絡をしておくことを薦める。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、指定日までに秋吉までメール（akiyoshi@gkiis.ac.jp）で提出してください。
また、遠隔授業の際は主にZoomと動画にて、授業を行い、課題等はGoogleクラスルームを活用する。
資料に関してはGoogleクラスルームを活用して配布する場合もある。教員の案内に注意を払うこと。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
テキストは使用せず、毎回教員が作成した資料を配布する。			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
はじめてでもよくわかる！ デジタルマーケティング集中講義 わかりやすい広告論 これからの広告の教科書	カティサーク 押切 孝雄 石崎徹 佐藤達郎	マイナビ出版 八千代出版 かんき出版	978-4839961619 978-4842915647 978-4761270957

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験もしくは期末レポート（60%）、出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。（30%）、授業態度、ミニテストなど（10%）を基準とする。またポートフォリオの内容作成を毎時間行ってもらう。
資料に関してはGoogleクラスルームを活用して配布する場合もある。教員の案内に注意を払うこと。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンスおよびデジタルビジネス社会における「Webサービス」について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。課題もある場合がある。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第2回	Webサービスとは①そもそもWebの目的とは何か	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第3回	Webサービスとは②広告としてのWebのありかた	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第4回	メディアを考える①四大メディアからWeb関連のメディアへ	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第5回	メディアを考える②新たなメディアの台頭について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第6回	Webメディアを考える。広告関連市場予算の大きな変化	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第7回	Webサービスは消費者の視点からみたメディアへ	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第8回	Webサービスとブランド・コミュニケーションならびにブランドアイデンティティについて	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第9回	Webサービスと体験接点型メディア	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第10回	WebサービスとWeb広告関連の法規と規則	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第11回	グローバル化するWebサービスとメディア	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第12回	デジタルマーケティングの世界①デジタルマーケティングの範囲について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第13回	デジタルマーケティングの世界②デジタル化の進展とネットワーク外部性の効果について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第14回	デジタルマーケティングの世界③AR（仮想現実）と広告	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第15回	デジタル社会におけるビジネス展開上の消費者参加＆発信型メディアの台頭とまとめ	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）	
1EMN-5010-22E	1ENN-5010-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
SNS活用と問題解決	219～	2年生・前期	2単位	選択	秋吉　浩志	
コミュニケーションデザイン	～218	3・4年生・後期				

履修の前提条件	太宰府地区ならびにその周辺地区の方々と積極的に交流するので、書く（メモをとる）、聴く、話す、考える力を要求する。また、基本的なSNSを利用していることが条件である。

授業概要　（Course Outline）

SNSと問題解決（コミュニケーションデザイン）は主にSNSなどを利用した人間の生活・活動に密着した科目であり、生活と不即不離の関係にある。今日の情報化社会において、地域の問題解決を生産される製品や地域の情報を発信、ブランド化に繋げるなど、地域や消費者に好ましい印象を持たせるための問題解決をさぐる。よって講義とにフィールドワークによって生活者・社会人として必要なコミュニケーション能力を高める。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本学のカリキュラムポリシーにもある高度な情報に関する知識と経営の知識を融合を目指した科目のひとつである。さらに講義とフィールドワークなどを通して、社会と密接に関りながら、発想力を強化し、企画・立案等のコンセプトワークの作成やプレゼンテーション能力の向上ならびに個人個人の社会人としてのコミュニケーション能力（デザインとスキル）習得することができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

①講義内では毎回ディスカッション（討論）を行なってもらう
②チームごとにプレゼンテーションを行う（3回開催予定）
③地域のフィールドワークに参加し、コミュニケーションを行い、問題解決の策定を行う（3回開催予定）
④講義は学生同士の討論とディベートを中心とするため、教員はテーマの提供とアドバイスしか行わない

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

この科目は少人数でしか運営できない科目のため、限定先着20名履修可能である。（1回目の講義で履修をやめた人数分繰りあげで受講可能：最大人数を20名とする）
予約日を掲示板で発表するので、掲示板を注意深く見ておくこと。
事前にメールもしくはクラウドを利用したサイトなどにて予約を受けつける（先着順）ので、履修Web登録ができたとしても、それは無効とする。
事前に内容について聴きたい学生は、予約して研究室に来ること。
質問メールアドレス（共有）：akiyoshi@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。
過去旧カリキュラム「SNS応用演習」の科目を履修し、単位を取れた学生はこの科目は履修できない。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ソーシャルメディア論（改訂版）	藤代裕之編	青弓社	ISBN978-4-7872-3449-0

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
問題解決の進め方〔新訂〕	秋光 淳生他	放送大学教育振興会	978-4595319556

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

プレゼンテーション・フィールドワークの内容、課題レポート・課題作品等により評価する(60%)
評価の観点：出席、発表、提出物の内容、創意工夫の成果、自宅学習の程度等により評価を行う。（40%）
チームによる3回のフィールドワーク参加とプレゼンテーションの発表に参加できない学生は評価の対象外となるので、同じチームの成員に迷惑をかけないように臨んでもらいたい。（無断欠席、遅刻はいかなる理由があろうとも一切認めない）。指示があるとき以外はスマートフォンなどの電子機器などの使用を禁止する。守れない場合は失格処分とする。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	準備学習　オリエンテーション（履修の前提条件）自己紹介＆チーム決定	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。課題もある場合がある（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと（2h）
第2回	ポータルサイト「だざいふなび」推奨観光コースを活用した太宰府地区の観光、魅力発見（フィールドワーク）	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第3回	太宰府のコンテンツ、問題点の発見と問題解決方法のチーム発表（パワーポイント）1回目	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第4回	太宰府のコンテンツ、問題点の発見と問題解決方法のチーム発表（パワーポイント）2回目	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第5回	情報発信のありかたと情報発信におけるSNSの利用による問題解決	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第6回	魅力あるコンテンツとWeb文章とはなにか	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第7回	太宰府情報発信サイトを利用した実践的な情報発信を考える（内山地区からの問題発見）	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第8回	太宰府情報発信サイトを利用した実践的な情報発信を考える（内山地区の魅力発信）	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第9回	情報とコミュニケーションデザインの役割について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第10回	言語、視覚によるコミュニケーション法について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第11回	色彩の特質と効果およびサインとシンボルについて	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第12回	図と言語、また写真や動画を使ったコンテンツ企画＆作成計画について	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第13回	多面的なコミュニケーションによる高大連携事業の問題発見と問題解決	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第14回	高大連携事業において発見した問題をどのように解決するか、問題解決に向けての企画立案と提案	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第15回	高大連携事業における問題解決と提案の発表（プレゼンテーション）	
	事前学習（内容・時間）	テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。（2h）
	事後学習（内容・時間）	提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。（2h）
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）						
1EMN-5450-Z2E	1EDN-5450-Z2E					
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
計量経済分析	219～	3・4年生・後期	2単位	選択	坂本　徹	
履修の前提条件	コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。					

授業概要　（Course Outline）

計量経済学の分野では、経済事象のモデル化とシミュレーションについて、多くの事例が報告されてきた。社会科学の分野では繰り返し実験による証明ができなかったからである。そこで実際のデータを使って事象の因果関係をモデル化しシミュレーションを行い、過去の振る舞いが再現できることを確かめてから、将来の予測を行ってきたのである。近年ではコンピュータ、ネットワーク、通信手段、ビッグデータの利用などで、経済事象の振る舞いが直に観測できるようになった。光学顕微鏡で細胞レベルの観察しかできなかったことが、電子顕微鏡の出現で遺伝子、分子レベルで観察できるようになったのと同様に、交通量や人出・消費内容が個人レベルで観察・集計できるようになった。さらにAIの技術との組み合わせで経済学の実証分析の境界が格段に広がりつつある。本講義では伝統的な分析手法でPCを利用して、ディプロマポリシーに基づき、計量経済分析についての基礎レベルについて説明します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

これまで培ってきたコンピュータの技術をある分野の知識と結び付けて、問題の解を見つける体験を是非経験してほしい。実際の計算はコンピュータに任せるとしても、統計に関する知識は経済に限らずどの分野にも必要であるから常に関心をもって、取り込んでほしい。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業ではコンピュータの操作を通して、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3時間目（12:50～14:20）をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

太宰府キャンパスネットワーク、本学地域情報センター、国際交流センター、公開講座の諸事業に参加した者は成績評価の対象とします。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
計量経済分析	坂本　徹	東筑印刷	私家版 授業中に配布

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

評価　＝　受講姿勢　＋　定期試験評価
　　3　　：　　7

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	計量経済学の概要	
	事前学習（内容・時間）	テキスト5章産業立地の科学的な見方を読んでおいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	農業。工業の立地についてまとめてみて下さい。（2時間）
第2回	地域経済学の生い立ち	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp2～6に目を通しておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	近代日本の産業発展と住環境の整備の過程についての概要をまとめてみて下さい。（2時間）
第3回	データに関する知識の拡張	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp2～6に目を通しておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	表形式で提供されることが多いデータベースの地域の概念についてまとめてみて下さい。（2時間）
第4回	日本の5大センサス	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp22～24に目を通して、5大センサスの内どれか1つのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽにアクセスしてみてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストpp20～21を参考に全数調査と標本調査の役割についてまとめてみて下さい。（2時間）
第5回	商業統計・工業統計	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp29～33に目を通して、データの見方について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストp24に目を通して、商業統計か工業統計どれか1つのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽにアクセスして、その内容を確かめてみてください。（2時間）
第6回	システム・ダイナミックスを使った人口モデル	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp25～26に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	社会事象のモデル化とシミュレーションに対する感想をまとめてみて下さい。（2時間）
第7回	データ特性	
	事前学習（内容・時間）	テキストp31に目を通して、データがもつ意味について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	国勢調査を事例に、複数のデータの組み合わせからどのような指標が作成できて、どのような特徴を測ることができるかまとめてみて下さい。（2時間）
第8回	産業立地の科学的な見方	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp34～37に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	農業経営にかかわる立地の科学的な見方として「チューネンの孤立国」がその後の工業・商業の分析の出発点となっている点を中心にまとめてみて下さい。（2時間）
第9回	商業の立地、グラビティ・モデル	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp39～40に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ニュートンの「万有引力」とグラビティ・モデルに対する感想をまとめてみて下さい。（2時間）
第10回	商業地選択の確率、ハフ・モデル	
	事前学習（内容・時間）	テキストp41に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	グラビティ・モデルの2地域間の関係から、ハフ・モデルの3地域機以上の関係に拡張された点に着目して感想をまとめてみて下さい。（2時間）
第11回	商業統計を使った指標の作成	
	事前学習（内容・時間）	テキストp87に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	複数のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを利用して指標を作り、各地域の特性を測る一連の作業をまとめてみて下さい。（2時間）
第12回	ハフ・モデルを使った売上高のシミュレーション	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp90～94に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	モデルの作成過程でどのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを利用するかの一連の作業をまとめてみて下さい。（2時間）
第13回	工業統計を使った指標の作成	
	事前学習（内容・時間）	テキストpp82～85に目を通して、事前準備をしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	複数のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを利用して指標を作り、各地域の特性を測る一連の作業をまとめてみて下さい。（2時間）
第14回	変数間の関係性	
	事前学習（内容・時間）	Excelの「分析ツール」が必要になります。アドインの方法を調べて、出来れば組み込んでおいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	両変数間の関係をプロット図で確認して、相関係数の値の解釈をまとめてみて下さい。（2時間）
第15回	回帰分析の立地選択への応用例	
	事前学習（内容・時間）	計量経済学の代表的分析ツールとして、回帰分析について下調べをしておいて下さい。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	店舗設置の選択に際して、意思決定のための判断材料を提供する事例として、講義内容をﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの視点でまとめてみて下さい。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1SAN-6130-YYE

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
特別講義（会計） ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ初級	共通	1年生・前期	2単位	選択	平川　淳一	

履修の前提条件	・国家検定「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とする人。 ・受講マナーを守れる人。

授業概要　（Course Outline）

私たちのライフプランに関わってくる年金や保険、貯蓄やローン、税制や不動産、贈与や相続といった内容について包括的に学びます。暮らしとお金の相談員が、ファイナンシャルプランナーです。
国が認定する検定資格「FP技能士3級」の内容を学習範囲とします。
講義はFP3級学科試験の過去問題を通して、受講者の興味と理解を深めながら、さらに検定試験の合格レベルに到達することを念頭に置いています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・この科目は、カリキュラムポリシー「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に基づいて、年金や保険、税金、法律などの社会制度について、複眼的な知識の習得を目標とします。
・国家検定「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とします。
・自身のライフプラン実現のために、ファイナンシャル・プランニングが行えるようになることを目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・Checkテストは、授業でInputした内容を、Outputする機会であり、復習と理解度確認のために実施します。
・配付したプリントは、必ずファイリングして管理してください。
・目的を持って、自らの意思において学ぶことを期待します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

2号館1階の講師控室にお越しください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：FP技能検定　（試験実施機関；一般社団法人 金融財政事情研究会）
試験日：5月、9月、1月（年3回）
試験会場：主要都市で開催
受検料：学科試験 3,000円、実技試験 3,000円
URL：　http:://www.kinzai.or.jp/
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スッキリわかる FP技能士3級 2021-2022年	白鳥 光良	TAC出版	978-4813296652

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スッキリとける 過去+予想問題 FP技能士3級 2021-2022年	TAC株式会社(FP講座)	TAC出版	978-4813296683

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価方法：平常点 20%、課題 20%、定期試験 60%
※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価します。
注）受講マナーを守れない人は、「減点」、「欠席」、「受講停止」になる場合があります。

・成績評価の基準：3級FP技能検定の受験レベルに達しているか。
ライフプランニングと資金計画：年金や健康保険、住宅ローンなどについて理解しているか。
リスク管理：生命保険、損害保険などの各種保険商品について理解しているか。
金融資産運用：株式や債券、投資信託などについて理解しているか。
タックスプランニング：所得税や法人税などの税金と控除について理解しているか。
不動産：不動産の売買や法令などについて理解しているか。
相続・事業承継：相続や贈与、事業の継承について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業の概要、FP技能士試験についての説明、FP試験問題の体験	
	事前学習（内容・時間）	FPとは何か、その役割と試験の内容を調べて、ノートにまとめておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。（2.0h）
第2回	ライフプランニングと資金計画 ① FP業務の基本、人生の三大資金 （テキスト P. 2 ～ 30）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第3回	ライフプランニングと資金計画 ② 社会保険のしくみ （テキスト P. 32 ～ 45）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第4回	リスク管理 ① 生命保険 （テキスト P. 50 ～ 67）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第5回	リスク管理 ② 損害保険、第三分野の保険 （テキスト P. 72 ～ 88）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第6回	金融資産運用 ① 金融資産を取り巻く環境、様々な金融商品1 （テキスト P. 90 ～ 107）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第7回	金融資産運用 ② 様々な金融商品2、金融商品の税金 （テキスト P. 112 ～ 128）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第8回	Checkテスト1：ライフプランニングと資金計画、リスク管理、金融資産運用	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第9回	タックスプランニング ① 所得税のしくみ （テキスト P. 132 ～ 155）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第10回	タックスプランニング ② 所得控除、税額控除 （テキスト P. 157 ～ 176）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第11回	不動産 ① 不動産の調査と取引 （テキスト P. 180 ～ 189）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第12回	不動産 ② 不動産に関する法律 （テキスト P. 195 ～ 216）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第13回	相続・事業継承 ① 贈与の基本、相続の基本 （テキスト P. 220 ～ 233）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第14回	相続・事業継承 ② 相続のしくみ、相続財産の評価 （テキスト P. 238 ～ 261）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第15回	Checkテスト2：タックスプランニング、不動産、相続・事業継承	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲を精読し、わからない用語を調べてノートに記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験 ※FP本試験に準じた内容で実施します。	

ナンバリング（Numbering）
1SAN-6130-YYE

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
特別講義（会計） ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ中級	共通	2年生・前期	2単位	選択	平川　淳一	

履修の前提条件	・国家検定「2級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とする人。 ※受検資格があります。 ・受講マナーを守れる人。 ・電卓が必要となります。

授業概要　（Course Outline）

私たちのライフプランに関わってくる年金や保険、貯蓄やローン、税制や不動産、贈与や相続といった内容について包括的に学びます。暮らしとお金の相談員が、ファイナンシャルプランナーです。
金融関係の業界だけでなく、一般企業の総務の仕事でも役立つ内容となっています。
国が認定する検定資格「FP技能士2級」の内容を学習範囲とします。
講義はFP2級実技試験の過去問題を通して、基礎的理解の定着と応用力を養いながら、さらに検定合格レベルに到達することを念頭に学んでいきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・この科目は、カリキュラムポリシー「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に基づいて、年金や保険、税金、法律などの社会制度について、複眼的な知識の習得を目標とします。
・国家検定「2級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とします。
・自身のライフプラン実現のために、ファイナンシャル・プランニングが行えるようになることを目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・Checkテストは、授業でInputした内容を、Outputする機会であり、復習と理解度確認のために実施します。
・配付したプリントは、必ずファイリングして管理してください。
・目的を持って、自らの意思において学ぶことを望みます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：FP技能検定2級　（試験実施機関：一般社団法人 金融財政事情研究会）
試験日：5月、9月、1月（年3回）　　※受検資格有り：FP技能検定3級の合格者
試験会場：主要都市で開催
受検料：学科試験 4,200円、実技試験 4,500円
URL：　http:://www.kinzai.or.jp/
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スッキリわかる FP技能士2級・AFP 2021-2022年	白鳥 光良	TAC出版	978-4813296645

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スッキリとける 過去+予想問題 FP技能士2級・AFP 2021-2022年	TAC株式会社(FP講座)	TAC出版	978-4813296676

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価方法：平常点 20%、課題 20%、定期試験 60%
※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価します。
注）受講マナーを守れない人は、「減点」、「欠席」、「受講停止」になる場合があります。

・成績評価の基準：2級FP技能検定の受験レベルに達しているか。
ライフプランニングと資金計画：年金や健康保険、住宅ローンなどについて理解しているか。
リスク管理：生命保険、損害保険などの各種保険商品について理解しているか。
金融資産運用：株式や債券、投資信託などについて理解しているか。
タックスプランニング：所得税や法人税などの税金と控除について理解しているか。
不動産：不動産の売買や法令などについて理解しているか。
相続・事業承継：相続や贈与、事業の継承について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業の概要、FP技能士試験についての説明、FP試験問題の体験	
	事前学習（内容・時間）	FP3級と2級の違いについて、調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。（2.0h）
第2回	ライフプランニング ① ファイナンシャル・プランニングの倫理と関連法規、健康保険 （テキスト P. 5 ～ 30）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第3回	ライフプランニング ② 公的年金制度、企業年金等、ライフプラン策定上の資金計画 （テキスト P. 35 ～ 58）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第4回	リスク管理 ① リスクマネジメント、保険制度全般の理解、生命保険 （テキスト P. 69 ～ 81）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第5回	リスク管理 ② 生命保険商品、第三分野の保険、損害保険 （テキスト P. 88 ～ 105）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第6回	金融資産運用 ① マーケット環境、預貯金、金融類似商品、株式投資 （テキスト P. 113 ～ 131）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第7回	金融資産運用 ② 投資信託、外貨建て金融商品、金融派生商品とポートフォリオ （テキスト P. 138 ～ 161）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第8回	Checkテスト ① ライフプランニング、リスク管理、金融資産運用	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）

第9回	タックスプランニング ① 所得税の基本、所得税の損益通算 （テキスト P. 169 ～ 181）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第10回	タックスプランニング ② 所得控除、税額控除、法人その他 （テキスト P. 185 ～ 206）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第11回	不動産 ① 不動産の基本、不動産に関する取引 （テキスト P. 215 ～ 223）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第12回	不動産 ② 不動産に関する法令、不動産に関する税金、不動産の有効活用 （テキスト P. 231 ～ 254）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第13回	相続・事業継承 ① 贈与の基本、贈与税、相続と法律 （テキスト P. 265 ～ 284）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第14回	相続・事業継承 ② 相続税、相続財産の評価、相続対策 （テキスト P. 289 ～ 308）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第15回	Checkテスト ② タックスプランニング、不動産、相続・事業継承	
	事前学習（内容・時間）	テキスト範囲の精読と、公的機関のHPから各制度を調べて記録しておくこと。（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	テキストの問題演習を問いて、誤答箇所を調べてからノートにまとめておくこと。（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験 ※FP本試験に準じた内容で実施します。	

ナンバリング（Numbering）
1SMN-6150-YYE

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
特別講義（経営） デジタルビジネス論	共通	2年生・後期	2単位	選択	秋吉浩志	

履修の前提条件	経営情報に関連するあらゆる他の科目につながる科目であり、その学問をどのように社会に生かすかを実際社会で活躍するビジネスパーソンに講義をしてもらい、ヒントをもらうものである。特に本学の経営に関連する科目を履修もしくは興味のある学生には将来を考える機会になると思われるため、履修をすすめる。

授業概要 （Course Outline）

この科目は、本学のアドミッションポリシーにあげているように、経営情報学分野の主に実社会での実践的な内容を体験、修得する科目である。デジタルビジネスの各関連分野で活躍している方を隔週ゲストに呼んで、現代のデジタルビジネスのあらゆる形を実践しているビジネスパーソンから学ぶ。
学生には実際仕事に携わっている社会進出しているかたの生の声を聴いてもらい、そしてそれを通じて、より社会との関りや今後のデジタル化がすすむビジネス社会の問題点などを考えてもらう。
ゲスト出演する講師のかたに向けた業界研究と質問等を前週に考えてもらい、終了後は事後学習としてクラスルームに授業内容の理解、議論、感想などを書いてもらう。これらはまさに将来に役立つ自身の就職や起業などに向けての業界研究につながるものでもある。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

デジタル・ビジネスが急速に発展している現代の社会に進出するときのビジネス基盤を理解し、社会に対応できる知識を身につけ、企画力、実践力など知恵を生み出すことのできる力を身につける。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

隔週で、デジタルビジネスに関するビジネスを実際展開している方々にゲストに来てもらい、社会との接点をビジネスパーソンとしっかり議論してもらう。
場合によっては、グループ分けを行い、その中でテーマを与えながら、ゲスト講師の業界や仕事などを理解するための議論を深く行ってもらう。
特にその社会人との積極的なコミュニケーションをとって自分の知識の蓄積ならびに将来のことに積極的に考えてもらう。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

質問などは、2号館5階555研究室にて。また、メールでも受け付ける
MAIL to akiyoshi@g.kiis.ac.jp
また、クラスルームを開設するので、そこでのストリームメッセージで受け付ける。
なお、個人的な質問はストリームで質問することは禁ずる。（減点対象とする）

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

なお、この科目は主に学外への公開授業の対象となっている。ゲスト講師の講義のときは、学外へネット生配信、動画録画、大学の各SNS等での配信、本学の機関紙などにも掲載されることがあるので、履修の際はその点を注意すること。（履修をした場合は肖像権などを放棄したとみなす）
また、履修する際、ゲストの都合により予定日の講義が別の日になったり、ゲスト講義の内容が中止もしくは変更、講師の変更があることも理解していただき、履修すること。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ネットビジネス進化論: 何が「成功」をもたらすのか	尾原 和啓	NHK出版	ISBN-10 ： 4140818212 ISBN-13 ： 978-4140818213

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
はじめてでもよくわかる! デジタルマーケティング集中講義	カティサーク 押切 孝雄	マイナビ出版	ISBN-10 ： 4839961611 ISBN-13 ： 978-4839961619

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

出席と事前学習＆事後学習の総合点（約50%）、期末試験もしくはレポート（約40%）、授業態度など（約10%）
①対面授業の際は、許可のあるとき以外はパソコン＆スマートフォンの使用は一切認めない。録音＆録画も同様である。使用がわかった場合は即期末課題もしくは試験の受験資格を剥奪する。（録音、録画は教員側で行う。ミニッツペーパー提出期限後YouTube、クラスルームなどで講義内容を公開予定）
②特にゲスト講師の講義の出席と事後学習は配点を高くしているので、欠席と事後学習成果の提出はしっかり提出するように。
③授業態度は、聞く力、書く力、考える力、相手に伝える力を重要視する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンスおよび授業形態の再確認、デジタルビジネスとはなにか	
	事前学習（内容・時間）	テキストを読んで、どのような内容なのか全体像を把握しておくこと(2h)
	事後学習（内容・時間）	紹介したデジタルビジネスについて復習すること(2h)
第2回	デジタルビジネスの全体像	
	事前学習（内容・時間）	テキストを読んで、どのような内容なのか全体像を把握しておくこと(2h)
	事後学習（内容・時間）	デジタルビジネス業界の動向について考えてもらう(2h)
第3回	翌週の特別ゲストの業界に関する講義①	
	事前学習（内容・時間）	テキストを読んで、どのような内容なのか全体像を把握しておくことと、アンケートを書くこと(2h)
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第4回	ゲストを迎えてのデジタルビジネス業界講義①	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第5回	翌週の特別ゲストの業界に関する講義②	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第6回	ゲストを迎えてのデジタルビジネス業界講義②	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第7回	翌週の特別ゲストの業界に関する講義③	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第8回	ゲストを迎えてのデジタルビジネス業界講義③	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第9回	前半の講義に関する理解度を深めるためのチームワーキング＆発表	
	事前学習（内容・時間）	チームで、内容を事前に検討しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第10回	翌週の特別ゲストの業界に関する講義④	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第11回	ゲストを迎えてのデジタルビジネス業界講義④	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第12回	翌週の特別ゲストの業界に関する講義⑤	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第13回	ゲストを迎えてのデジタルビジネス業界講義⑤	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第14回	後半の講義に関する理解度を深めるためのチームワーキング＆発表	
	事前学習（内容・時間）	質問をGoogleフォームに記載、業界のことを再度確認しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第15回	まとめ、デジタルビジネスの発展について（チームワーキング発表もある）	
	事前学習（内容・時間）	チームで、内容を事前に検討しておくこと（2h）
	事後学習（内容・時間）	クラスルームに提示した、学習成果のための課題を提出すること（2h）
第16回（定期試験）	基本的に定期試験は行う。 ①対面の場合はペーパーテスト ②遠隔授業になった場合はレポート提出を行うように考えている。 ③再試は、原則的に行わない。	

ナンバリング（Numbering）
1SMN-6150-YYE

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
特別講義（経営）医事法	共通	2年生・後期	2単位	選択	丹羽 崇之	
履修の前提条件	日頃から新聞等により、医療の動向に注視すること。					

授業概要 （Course Outline）

医事法とは、医事に関連する法のことである。まとまった法典はないが、医事に関するさまざまな法規が存在している。これらは、医師、看護師、薬剤師等のような医療従事者の行為を規律する側面と、医療の提供や制度を規律する側面がある。近年、医学・医療のめざましい進歩により、医療関係者を超えて、一般の関心も高まっている。また、国民医療費の増大も深刻である。この授業では、医療関係者、医療提供体制に関する法に加え、診療情報の保護、感染症対策、生殖補助医療、医学研究、終末期医療、未成年者・高齢者医療、医療事故等についての法律問題を検討する。

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

情報学、経営学を土台とし、建学の精神を生かして社会に貢献する医療情報技師、診療情報管理士、医療経営職等の医療関係者、あるいは医療関連業界において活躍するために必要とされる法の素養をそなえる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

医療に特有の事例を提示し、学生諸君に倫理的問題、社会的要請、法の機能等について考えてもらう。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

質問・意見等、授業中の積極的な発言を歓迎する。また、授業の前後やオフィスアワーの時間も活用してもらいたい。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。（提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。）
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
医事法入門〔第6版〕	手嶋 豊	有斐閣	（近刊）

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
医事法判例百選〔第2版〕	甲斐・手嶋編	有斐閣	978-4641115194
医療情報〔第6版〕医学・医療編	日本医療情報学会	篠原出版社	978-4884122904
医療情報システム入門	保健医療福祉情報システム工業会	社会保険研究所	978-4789418959

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（ミニテスト、レポート）30%、定期試験70%により総合評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス　社会における医療の役割	
	事前学習（内容・時間）	医療の役割について考えておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	医療の役割について復習する（2時間）
第2回	医の倫理	
	事前学習（内容・時間）	「ヒポクラテスの誓い」について調べておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	医の倫理について復習する（2時間）
第3回	医事法総論	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１章を読み、医事法の指導原理について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第１章を読み返し、医事法の指導原理について復習する（2時間）
第4回	医療関係者の資格と業務	
	事前学習（内容・時間）	教科書第２章を読み、医療行為、医療関係者について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第２章を読み返し、医療行為、医療関係者について復習する（2時間）
第5回	医療提供体制	
	事前学習（内容・時間）	教科書第３章を読み、医療の提供体制について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第３章を読み返し、医療の提供体制について復習する（2時間）
第6回	診療情報の保護	
	事前学習（内容・時間）	教科書第４章を読み、診療情報保護の必要性について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第４章を読み返し、診療情報保護の規定について復習する（2時間）
第7回	感染症対策および保健法規	
	事前学習（内容・時間）	教科書第５章を読み、感染症対策、保健法規について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第５章を読み返し、感染症対策、保健法規について復習する（2時間）
第8回	人の出生に関わる諸問題	
	事前学習（内容・時間）	教科書第６章を読み、人の出生に関わる諸問題について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第６章を読み返し、人の出生に関わる諸問題について復習する（2時間）
第9回	医学研究と医薬品・医療機器をめぐる問題	
	事前学習（内容・時間）	教科書第７章を読み、医学研究、医薬品・医療機器について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第７章を読み返し、医学研究、医薬品・医療機器について復習する（2時間）
第10回	人体組織と遺伝子、性の決定をめぐる問題	
	事前学習（内容・時間）	教科書第８章を読み、人体組織等をめぐる問題について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第８章3を読み返し、人体組織等をめぐる問題について復習する（2時間）
第11回	医療事故をめぐる問題	
	事前学習（内容・時間）	教科書第９章を読み、医療事故をめぐる問題について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第９章を読み返し、医療事故をめぐる問題について復習する（2時間）
第12回	脳死問題、臓器移植	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１０章を読み、脳死問題、臓器移植について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第１０章を読み返し、脳死問題、臓器移植について復習する（2時間）
第13回	終末期医療	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１１章を読み、終末期医療について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第１１章を読み返し、終末期医療について復習する（2時間）
第14回	特別な配慮を必要とする患者	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１２章を読み、特別な配慮を必要とする患者について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書１２章を読み返し、特別な配慮を必要とする患者について復習する（2時間）
第15回	グローバリゼーションと医事法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第１３章を読み、グローバリゼーションと医療について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第１３章を読み返し、グローバリゼーションと医療について復習する（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

専門教育科目

（経営情報学科）

ナンバリング（Numbering）
1AMN-6440-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ベンチャービジネス入門	219～ 経営情報学科	1年生・後期	2単位	選択	遠藤　真紀	○
	～218 経営情報学科	1年生・前期				
履修の前提条件	大学を卒業して社会に出れば働く場として必ず「企業」と関わります。企業に雇われてサラリーマンになることを当然とせず、自ら事業を興すなど、ビジネスマンとして自分の仕事を創造していく気概が望まれます。新聞、雑誌等を読む習慣を身に付けるなど、社会のあらゆる事象に興味を持ち、自身の人生を成り行きに任せるのではなく、自分の理想とする社会、仕事、やり甲斐とは何かを考え、前向きに生きようとする事が前提です。					

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。過去の実務経験を基に，ベンチャービジネスに限らず社会やビジネスそのもの，および企業の目的・意義について議論を展開していきます。ビデオの資料等を活用し，身近な事例を題材に講義を進め，働く事の意義やベンチャー企業および社会そのものに関心を持ってもらい，IT人材としての基本的な知識の修得や企業と自分との関係を知ろうとする積極性を養っていきます。卒業後，社会に出て「何をすべきか」「自分ならどうするか」という自らの答えを導き出せる思考能力を培っていきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

自分自身と社会や企業との関わりについて理解できるようになる。またIT人材として広く社会や仕事の意義を理解し、自分の将来像について想い描けるようになるために「やり甲斐のある仕事や企業とは何か」を知り、現実的な思考、手段、人間関係等のあり方について理解している。同時に、事業の成功や失敗のケースを学び、社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、簿記や販売士等各種の資格にも挑むようになること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオ聴講による演習を行います。聴講したビデオに基づきディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
専門基礎ライブラリー ベンチャービジネス論	太田一樹ほか	実業出版	978-4-407-31077-1

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞出版社	10-4532113032

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：広く社会や企業および仕事の意義等について理解している。自分自身の将来について明確な意識を持ち、社会やベンチャー企業等との関わりについて理解している。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解）	
	事前学習（内容・時間）	ベンチャーや起業の体験談およびそれに関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	本講義のアウトラインについて復習，課題への取り組み（2時間）
第2回	企業の目的と企業の意義－ベンチャービジネスとは何か	
	事前学習（内容・時間）	配布資料の事前確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料・講義内容および自身の提出課題内容の再確認（2時間）
第3回	社会や企業と自分との関わりを考える（ビデオ演習）	
	事前学習（内容・時間）	提出課題に基づき，企業と自身の関わりについて検討する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	自分の将来を考える：選択の自由	
	事前学習（内容・時間）	ビデオ演習を含む，前回講義内容を基に，自身の将来像について検討する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成①：会社への依存 or 自立（自律）	
	事前学習（内容・時間）	自身の将来像に関連させ，働く事の意義について検討する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	現代社会とベンチャー企業	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業の特徴等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	起業への準備（1）企業の事を知る①会社の種類	
	事前学習（内容・時間）	課題演習として「企業」について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	起業への準備（1）企業の事を知る②株式会社	
	事前学習（内容・時間）	課題演習として「株式会社」について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	起業への準備（1）企業の事を知る③企業の存在意義	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	起業への準備（2）ビジネスの事を知る：経営者の視点と労働者の視点	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	起業への準備（3）自分の潜在的能力を伸ばす：求められるジンザイ（人材→人財）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成②：ベンチャー・ビジネスの事例	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	起業への準備（4）起業の仕方を知る①ビジネスアイティアの見つけ方	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	起業への準備（4）起業の仕方を知る②開業までのスケジュールとビジネスプラン	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料に基づき，ベンチャー企業等について予習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AMB-5332-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選		授業担当者 Instructor	実務経験
経営学総論Ⅱ	219～ 経営情報学科	1年生・後期	2単位	必修		遠藤　真紀	○
経営学総論	～218			経営必修	NW選択		

履修の前提条件	経営情報学科の必修科目であり，IT人材となるための基礎として，経営情報および企業の経営・マネジメントに関心を持っている事。日頃から社会（世の中）の出来事や経済・企業に関係するニュース等に関心を持つ事。 経営学総論Ⅰを履修している事。

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として，企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営のあり方等について理解するとともに，各理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に，伝統的な理論から現代の経営学まで，その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は，情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから，これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。
「経営学総論Ⅱ」では，「経営学総論Ⅰ」で理解した内容を基礎に，より理解を深めるため現実の企業経営政策・経営現象について，経営管理という視点で客観的に考察を行っていきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

1．今日的な企業経営のあり方やあるべき姿などについての理解。
2．基本的なマネジメント理論（組織構造・機能，経営戦略，経営資源，マーケティング，財務，労務、環境変化への対応等）や「マネジメント（経営管理）」はどのようなものかの理解。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
また企業経営や経営戦略に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営管理要論	岸川善光	同文舘出版	978-4-495-38581-1

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営学要論	岸川善光	同文舘出版	978-4-4953-9010-5

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：学習に対する積極性および企業経営の今日的なあり方やあるべき姿およびマネジメントに関する基礎的理論などについて理解が図られている。自身と企業とのかかわりが理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解） 企業経営を考える	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの事前確認および企業経営等に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第2回	1．経営管理の意義 （企業組織の成立，企業と環境，企業の社会的責任）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第3回	1．経営管理の意義 （経営者の職能，コーポレート・ガバナンス）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	2．経営管理論の生成と発展 （古典的管理論，新古典的管理論，近代的管理論）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	2．経営管理論の生成と発展 （適応的管理論，戦略的管理論，社会的管理論）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	3．経営管理の体系 （経営管理の対象，総合経営管理と機能別管理）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	3．経営管理の体系 （経営管理の階層，経営管理のプロセス，経営管理論の位置づけ）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	4．経営戦略 （経営戦略の意義，ドメイン，製品・市場戦略）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	4．経営戦略 （経営資源，競争戦略，ビジネス・システム戦略）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	5．経営組織 （経営組織の編成，組織の動態化，組織における人間行動）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	5．経営組織 （組織文化，組織変革，組織間関係）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	6．機能別管理 （経営システムの構造，人的資源管理，財務管理，情報管理，法務管理）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	6．機能別管理 （研究開発管理，調達管理，生産管理，マーケティング管理，ロジスティックス管理）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	7．経営情報 （高度情報社会の進展，情報通信技術の進展，情報通信システム，eビジネスの進展，経営と情報）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回 （定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AMN-5260-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
企業金融	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	片山　准一	
金融論	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	基礎的な経営学と簿記・会計学の知識があること。 経営学と簿記・会計学で使われている日本語が理解できること。

授業概要　（Course Outline）

企業金融（コーポレート・ファイナンス）の諸問題を資本調達論の観点から商法（会社法）と関連付けて論じる。企業金融を歴史的・論理的且つ、具体的な事例を通して分析・講義する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

デュプロマポリシーに基づきこの授業では企業の経営財務の諸問題を資本調達論の観点から歴史的・論理的に論じ得ること。講義全体を通して、唯物弁証法的論理思考の構築を到達目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

可能な限り双方向のディスカッションを中心とした講義を心掛けたい。講義中基本的な質問を行うので、積極的に回答してもらいたい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

担当教員と連絡をとりたい場合は、研究室を訪ねること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

kiis学修ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入の上、最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
使用しない（講義資料を配布する）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営財務論	片山伍一・後藤泰二	ミネルヴァ書房	ISBN4-623-01750-8 C3034

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

基本的には定期試験で評価（70%）するが、講義中の質問への回答（10%）及びレポート等の評価（20%）も加味する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	はじめに　　企業金融（コーポレート・ファイナンス）の講義案を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	企業金融・経営財務等の概念をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	講義概要をよく復習しておくこと。疑問があれば次回の講義で質問すること。（120分）
第2回	資本とは　　資本の循環・回転について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	資本とは何かを質問するので、回答できるようネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	資本の循環・回転図を何度も書いて理解すること。（120分）
第3回	資本及び資本家概念について　　「機能資本家」「無機能資本家」概念について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	資本・資本家概念をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	「機能資本家」「無機能資本家」概念及び「出資」と「貸付」概念の相違を理解すること。（120分）
第4回	企業形態の展開過程　　個人企業→合名会社→合資会社→株式会社の展開過程を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	企業組織諸形態を事前にネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	唯物弁証法による企業形態の展開過程を理解すること。（120分）
第5回	株式会社発生前史　ｺﾝﾒﾝﾀﾞ･ｿｷｴﾀｽの企業形態を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	ｺﾝﾒﾝﾀﾞ･ｿｷｴﾀｽ等の概念をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	株式会社の発生過程を史実に基づいて理解すること。（120分）
第6回	株式会社発達史　　東印度会社　運河会社　鉄道会社　重化学工業会社への株式会社形態を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	ｱﾀﾞﾑ･ｽﾐｽの「諸国民の富」4（岩波文庫）を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	株式会社の発展には「バブル」がついて回ることを理解すること。（120分）
第7回	株式会社の古典的学説　　ｱﾀﾞﾑ･ｽﾐｽ ｶｰﾙ･ﾏﾙｸｽ ﾙﾄﾞﾙﾌ･ﾋﾙﾌｧｰﾃﾞｨﾝｸﾞ等の学説を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	「諸国民の富」「資本論」「金融資本論」を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記、3冊を熟読すること。（120分）
第8回	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ①　　会社支配論―所有者支配論　経営者支配論　金融機関支配論について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	配布資料を元に文献検索しておくこと。（120分）
第9回	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ②　　米国のｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽについて述べる。	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	配布資料を元に文献検索をしておくこと。（120分）
第10回	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ③　　日本のｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽについて述べる。	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	配布資料を元に文献検索しておくこと。（120分）
第11回	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ④　　持株会社とｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽについて述べる。	
	事前学習（内容・時間）	配布資料を事前に読んでおくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	配布資料を元に文献検索しておくこと。（120分）
第12回	企業集中①　　企業間競争について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	競争概念をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	競争概念を理解すること。（120分）
第13回	企業集中②　　ｶﾙﾃﾙ　ﾄﾗｽﾄ　ｺﾝﾁｪﾙﾝについて述べる。	
	事前学習（内容・時間）	ｶﾙﾃﾙ･ﾄﾗｽﾄ･ｺﾝﾁｪﾙﾝ概念をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	ｶﾙﾃﾙ･ﾄﾗｽﾄ･ｺﾝﾁｪﾙﾝ概念を理解すること。（120分）
第14回	競争と独（寡）占　　資本主義的競争→独（寡）占へのプロセスについて述べる。	
	事前学習（内容・時間）	独占禁止法をネット検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	企業の独占化への必然性を理解すること。（120分）
第15回	企業金融のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	講義の総括を行うので、復習しておくこと。講義全体を通して疑問があれば質問すること。（120分）
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて復習しておくこと。（120分）
第16回（定期試験）	定期テスト	

ナンバリング（Numbering）
1AMB-6190-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
日本経営史	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	鈴木　和也	
特別講義（経営）経営史	～218	3・4年・前期				
履修の前提条件	経済学、日本事情（留学生のみ）、経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱなどの科目を履修し単位を取得していること。					

授業概要　（Course Outline）

今日おこっている日本経済・経営の諸問題 や今後の展開も、その成立過程、つまり歴史によって規定されている要素はとても多い。この講義では、近代以降の日本の企業経営はどのように展開してきたのか、その結果現在どのような特徴を持つようになったのかについて学ぶ。さらに、史実を垣間見ることによって、すべての社会、産業、経営に関する新しい知識の習得に努め、社会に貢献できる産業人としての基本を醸成する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・歴史を単なる過去に対する知識ととらえず、今日的な問題の源流ととらえる。
・経済・経営の諸問題を、自分自身の身近な現 象として認識し、それに対する知識や見識を深める。
・今後社会人として、会社や社会や他国などと共有できるような知識や意識を身につける。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問、相談等は研究室（553）にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。（オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。）

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1からの経営史	宮本又郎 他編著	碩学社	978-45020890008

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
企業家に学ぶ 日本経営史― テーマとケースでとらえよう	宇田川　勝　他編著	有斐閣	978-4641184008

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1.定期試験（80%）、2.小テスト（10%）、3.学修課題の提出（5%）、4.授業への取組み（5%）

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	授業概要（授業の進め方、評価について） 江戸時代の経営		
	事前学習（内容・時間）	教科書2頁、7頁～24頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第2回	明治の企業家たち		
	事前学習（内容・時間）	教科書27頁～43頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第3回	近代産業経営の成立		
	事前学習（内容・時間）	教科書45頁～61頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第4回	財閥の多角化と組織		
	事前学習（内容・時間）	教科書71頁～85頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第5回	重化学工業化と新興財閥		
	事前学習（内容・時間）	教科書87頁～103頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第6回	技術経営の誕生		
	事前学習（内容・時間）	教科書105頁～121頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第7回	「日本型」人事管理とサラリーマンの誕生		
	事前学習（内容・時間）	教科書123頁～140頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第8回	都市型ビジネスの成立		
	事前学習（内容・時間）	教科書143頁～154頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第9回	経済民主化と企業変革		
	事前学習（内容・時間）	教科書169頁～183頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第10回	大量消費社会の到来と家電メーカーの発展		
	事前学習（内容・時間）	教科書185頁～201頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第11回	企業集団とメインバンク		
	事前学習（内容・時間）	教科書203頁～220頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第12回	日本的生産システムの形成		
	事前学習（内容・時間）	教科書223頁～241頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第13回	流通のイノベーション		
	事前学習（内容・時間）	教科書243頁～261頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第14回	変貌する総合商社		
	事前学習（内容・時間）	教科書263頁～279頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第15回	日本的経営とその内容		
	事前学習（内容・時間）	教科書281頁～298頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （まとめと振り返りを行う。）		

ナンバリング（Numbering）
1AMN-5390-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営組織論	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	秋吉　浩志	
履修の前提条件	経営者、管理職、起業などを考える学生にとって経営組織の知識はなくてはならないものである経営に興味のある者の履修をすすめる					

授業概要　（Course Outline）

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わり生活をしています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、本学の建学の精神をふまえつつ、そのなかのカリキュラムポリシーに基づき、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。さらには組織はすでに市場との密接な関係が深まり、消費者も組織の中に組み込まれています。そのような仕組みを「気づかせる」ことに目的を持っています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

①経営組織に関する知識や考え方を習得する。
②日本的経営のメリット・デメリットを理解し、説明できるようになること。
③日本の経営のあるべき姿を展望できるようになること。
④劇的に変化する組織の形態に対応できるスキルを得ることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。
②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

基本的に研究室（2号館5階555研究室）にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。
研究室訪問の際、メール；akiyoshi@g.kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

この科目は経営学検定試験の「経営の基礎知識」分野の基礎内容にもふれている。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、4月28日までに秋吉までメール（akiyoshi@g.kiis.ac.jp）で提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
毎回テキスト使用＆授業プリントを配布、また、ミニッツカードを配り、理解度をチェックする。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
はじめての経営組織論（有斐閣ストゥディア）	高尾 義明	有斐閣	978-4641150683

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験もしくは期末レポート（60%）、出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。（30%）、授業態度、ミニテスト（10%）を基準とする。
パソコン（タブレット型も含む）、携帯（スマートフォン）その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合によっては科目受講失格（0点）にする。基本的に座席指定を行う。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス： 授業の概要・講義の進め方・成績評価方法などを説明します。	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストの指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第2回	経営組織の特徴と基礎概念（経営組織の範囲と重要性）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第3回	伝統的組織論1： テイラーの科学的管理法	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第4回	伝統的組織論2： フィヨールの管理課程論	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第5回	人間関係論：インフォーマル組織の発見	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第6回	近代組織論：バーナード革命とサイモンの意思決定論	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第7回	組織の基本形態（企業の組織形態のさまざまな種類について）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第8回	組織デザイン（組織の体制を最大限に生かせる環境をつくる）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第9回	日本的経営組織と日本的経営	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第10回	日本の経営1： リーダーシップ（組織におけるリーダーシップのありかた）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第11回	日本の経営2： CSR（企業の社会的責任）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第12回	日本の経営3： 暗黙知と知の創造	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第13回	新たな組織モデル：ティール組織について	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第14回	新たな組織モデル：自律的・分権的ネットワーク組織論（インターネット上での組織の変化について）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第15回	企業、中間組織、市場について（ウイリアムソンの「組織と市場」より）	
	事前学習（内容・時間）	指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h)
	事後学習（内容・時間）	当日出された課題をミニッツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h)
第16回（定期試験）	基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。	

ナンバリング（Numbering）
1AMN-5950-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
組織心理学	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	長池　和代	
	～218	2年生・前期				

履修の前提条件	1. 心理学の基礎知識があるという前提で授業を進めますので1年次に「心理学Ⅰ」と「心理学Ⅱ」を受講し、単位を取得していることが望ましい。 2. 遅刻は厳禁です。3. 私語は認めません。

授業概要　（Course Outline）

1.産業や組織における人々の心理学的な問題を明確化し、解決のための知識や理論を学ぶ。
2.グループ・ワークにより、議論を深める力、傾聴する力を体験する。
3.自身のライフプラン・キャリアプランを見つめ直し、実行すべき目標を立て、実践する力を養う。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

1. 組織の特性について基本的な知識を学修する。
2. 組織人には「社会人基礎力」が必要なことを理解し、建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性」を培う。
3. 組織の人的側面である集団内行動、集団間行動、リーダーシップおよび組織風土を理解し、組織の発展と崩壊について理解する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

集団・組織行動としての授業クラスの活性化・生産性を高めるため、授業内容に関連する課題毎にグループワークを導入し、参加・敢献・シェアリングの課程を通して主体的問題解決力を育成します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法等は初回講義時に案内します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
産業・組織 （キーワード心理学シリーズ12）	角山　剛 （かくやま　たかし）	新曜社	978-4-7885-1266-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
組織行動の心理学 （産業・組織心理学講座：第3巻）	産業・組織心理学会(企画) 角山　剛（編）	北大路書房	978-4-7628-3086-0

毎回、補助教材として、授業内容に関連したプリント資料を配付・活用します。

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験の成績と平素の授業中への参加度（質問・発表・グループワーク等）を総合的に評価します。
両者の比重は6対4。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：産業・組織心理学とは／組織における人間観の変遷～ホーソン実験～	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	テキスト・参考文献の指示する箇所を読んで理解しておくこと。（2h）
第2回	モチベーション （1)仕事と自己実現(何のために働くのか)	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第3回	モチベーション （2)期待と動機づけ／目標と動機づけ(目標設定理論)	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第4回	集団内コミュニケーション　－説得の原理－	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第5回	集団意思決定 （1)コンセンサス課題	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第6回	集団意思決定 （2)集団浅慮	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第7回	リーダーシップ （1)リーダーの特性と行動	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第8回	リーダーシップ （2)状況に対応したリーダーシップ	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第9回	職場におけるメンタルヘルス （1)職業性ストレスモデル	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第10回	職場におけるメンタルヘルス （2)ワークシートへの記入およびグループワークを通じた検討	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第11回	社会人基礎力としてのソーシャルスキル （1)ソーシャルスキルの理論的枠組み	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第12回	社会人基礎力としてのソーシャルスキル （2)グループワークによる実践	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第13回	キャリア形成 （1)振り返る／主体性を発揮する	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第14回	キャリア形成 （2)目標設定／時間管理	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第15回	キャリア形成 （3)選択と自己実現	
	事前学習（内容・時間）	授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。（2h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施：講義内容の理解度を確認する。	

ナンバリング（Numbering）
1AMN-5980-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
知的所有権	219～ 経営情報学科 ～218	3・4年生・前期	2単位	選択	丹羽 崇之	

履修の前提条件	「法学」、「民事法」を履修していることが望ましい。

授業概要 （Course Outline）

知的財産とは、人の知的な創造活動によって生み出された発明や著作物などの成果のことをいう。知的財産権とはそれら成果に対する権利の総称であり、著作権、産業財産権（特許権、実用新案権、意匠権、商標権）等がある。この講義では、知的財産権に関して基礎的な知識を学ぶ。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

建学の精神をふまえ、知的財産権の理解を深め、「法的なものの考え方」・「リーガルマインド」の習得をはかる。そのうえで、関連法分野の知見を習得し、研修を重ねることにより、紛争処理能力を涵養する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

最新の事件や判例等をとりあげるので、学生諸君に法律関係や適用法令について考えてもらう。新聞には毎日目を通し、知的財産に関する記事を切り抜くなどして、記録しておくこと。また、関連する雑誌の記事も確認するようにしてもらいたい。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。（提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。）
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し、最終講義時に提出すること。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プレップ知的財産法	小泉直樹	弘文堂	978-4335313301

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
図録 知的財産法	前田・金子・青木（編）	弘文堂	978-4335358586
知的財産法判例教室	正林真之（監）	法学書院	978-4587561994

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（ミニテスト、レポート）30%、定期試験70%により総合評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、知的所有権とはなにか	
	事前学習（内容・時間）	知的所有権とは何か、考えてみる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	知的所有権とは何か、学んだことを確認する（2時間）
第2回	特許法（1） 特許権は誰のものか	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章を読み、特許権の帰属について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第1章を読み返し、特許権の帰属について復習する（2時間）
第3回	特許法（2） 特許発明の技術的範囲	
	事前学習（内容・時間）	教科書第2章を読み、特許発明の技術的範囲について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第2章を読み返し、特許発明の技術的範囲について復習する（2時間）
第4回	特許法（3） 均等侵害・間接侵害	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章を読み、均等侵害・間接侵害について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第3章を読み返し、均等侵害・間接侵害について復習する（2時間）
第5回	特許法（4） 相手方の反論・損害賠償	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章を読み、相手方の反論・損害賠償について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第4章を読み返し、相手方の反論・損害賠償について復習する（2時間）
第6回	特許法（5） 特許権の成立をめぐる争い	
	事前学習（内容・時間）	教科書第5章を読み、特許権の成立をめぐる争いについて考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第5章を読み返し、特許権の成立をめぐる争いについて復習する（2時間）
第7回	特許法（6） ライセンス（実施権）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第6章を読み、ライセンス（実施権）について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第6章を読み返し、ライセンス（実施権）について復習する（2時間）
第8回	著作権法（1） 著作物	
	事前学習（内容・時間）	教科書第7章を読み、著作物について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第7章を読み返し、著作物について復習する（2時間）
第9回	著作権法（2） 著作者	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章を読み、著作者について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第8章を読み返し、著作者について復習する（2時間）
第10回	著作権法（3） 複製と翻案	
	事前学習（内容・時間）	教科書第9章を読み、複製と翻案について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第9章を読み返し、複製と翻案について復習する（2時間）
第11回	著作権法（4） 著作権の制限	
	事前学習（内容・時間）	教科書第10章を読み、著作権の制限について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第10章を読み返し、著作権の制限について復習する（2時間）
第12回	著作権法（5） 著作者人格権・著作隣接権	
	事前学習（内容・時間）	教科書第11章を読み、著作者人格権・著作隣接権について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書第11章を読み返し、著作者人格権・著作隣接権について復習する（2時間）
第13回	意匠法	
	事前学習（内容・時間）	意匠法の条文を読み、意匠の意義、登録要件、保護主体等について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	意匠法、配布資料を読み返し、意匠の意義、登録要件、保護主体等について復習する（2時間）
第14回	商標法	
	事前学習（内容・時間）	商標法の条文を読み、商標法の概要、商標権侵害について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	商標法、配布資料を読み返し、商標法の概要、商標権侵害について復習する（2時間）
第15回	不正競争防止法	
	事前学習（内容・時間）	不正競争防止法の条文を読み、不正競争防止法の目的、概要等について考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	不正競争防止法、配布資料を読み返し、不正競争防止法の目的、概要等について復習する（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1AMN-6570-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
労務管理論 (教職関連科目　必　高等学校　情報)	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	鈴木　和也	
	～218	2年生・前期				

履修の前提条件	1. 経済学、経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱなどの科目を履修し単位を取得していること。2. 受講者は中央職業能力開発協会主催のビジネス・キャリア検定試験3級人事・人材開発を受験すること。

授業概要　(Course Outline)

企業は労働力という経営資源を獲得しなければ企業活動を実現することができない。そのためにヒトの獲得や活用、さらには労働者(従業員)と企業との間の対立の解決に関わる諸活動や調整が必要となる。この講義では、人事・労務管理、あるいは人的資源管理と呼ばれるこれらの活動の概要と経営的意義について学習を深めていく。さらには、これまでに学んだ経営学やマーケティングなどの基本的知識も活かしながら、社会で活躍できる人材としての基本を培う。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

企業における仕事がどのような性質を有しているか、また企業で働くことが自分の今後の生活にどのような意味をもつ ことになるのかを考えられるようにする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新しい人事労務管理 第6版	佐藤博樹　他著	有斐閣	978-4-641-22144-4

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
人的資源管理論	平野文彦　編著	税務経理協会	4-419-03544-7
人的資源管理〔新訂〕	原田順子・平野光俊　著	放送大学教育振興会	978-4-595-14104-1

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(80%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%)

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	授業概要（授業の進め方、評価について） 人事管理とは		
	事前学習（内容・時間）	教科書Ⅰ～Ⅴ、2頁～15頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第2回	組織をつくる		
	事前学習（内容・時間）	教科書16頁～28頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第3回	働くということ		
	事前学習（内容・時間）	教科書129頁～152頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第4回	システムとしての人事管理		
	事前学習（内容・時間）	教科書288頁～290頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第5回	社員格付け制度：雇用関係を支える仕組み		
	事前学習（内容・時間）	教科書69頁～95頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第6回	採用と退出：雇用関係を交わす		
	事前学習（内容・時間）	教科書33頁～40頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第7回	配置：仕事を割り振る		
	事前学習（内容・時間）	教科書42頁～53頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第8回	評価と報酬：報いる		
	事前学習（内容・時間）	教科書99頁～124頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第9回	人事育成：「育つ」と「育てる」の交差		
	事前学習（内容・時間）	教科書157頁～185頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第10回	労使関係：従業員尊重のための人事管理		
	事前学習（内容・時間）	教科書241頁～257頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第11回	非正社員の基幹化		
	事前学習（内容・時間）	教科書189頁～211頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第12回	女性の活躍推進		
	事前学習（内容・時間）	教科書226頁～228頁、304頁～306頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第13回	ワークライフ・バランスと働き方改革		
	事前学習（内容・時間）	教科書230頁～232頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第14回	高齢者雇用		
	事前学習（内容・時間）	教科書59頁～65頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第15回	グローバル経営と国際的人事管理／人事管理の未来		
	事前学習（内容・時間）	教科書261頁～288頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習問題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （まとめと振り返りを行う。）		

ナンバリング（Numbering）
1AMA-5350-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営思想	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	坂上　宏	
特別講義（経営）産業社会論	～218					

履修の前提条件	①社会思想について関心を持っていること②下記の参考書に目を通しておくこと ※禁止事項：私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。

授業概要　（Course Outline）

フェルディナンド・テンニースとマックス・ウェーバーの思想をとりあげて、近代社会の構造的変容と人間性の疎外の問題について考えていきます。授業の前半は、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの特徴について解説します。後半は、近代資本主義とキリスト教プロテスタンティズムの倫理観の関連について解説します。最後に社会における支配の正当性と官僚制について概述します。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

この授業の目標は次の二つです。第一にテンニースの所説を通じて、ゲマインシャフト(共同社会)とゲゼルシャフト(利益社会)の特徴、およびそれぞれの社会において人間はどのような存在として位置づけられているか、そして人間同士を結びつけるのは何であるか、という点について理解できるようになること。第二にウェーバーの所説を通じて、近代資本主義社会の精神的土台となった禁欲的合理主義について、そして官僚制の特徴と官僚制社会における人間のあり方について理解できるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。
毎回の授業の終わりにポートフォリオ＆ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（363）およびメール（sakagami@g.kiis.ac.jp）にて随時受け付けます。
提出物はGoogleクラスルームへ出してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト上下』 『資本主義の精神とﾌﾟﾛﾃｽﾀﾝﾃｨｽﾞﾑの倫理』	テンニエス ウェーバー	岩波文庫 岩波文庫	4003420713 4003400000 4003420934

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出）。
成績評価の基準 ：①ゲマインシャフトについて、特に個人と集団の関係、産業の特徴などについて理解しているか。②ゲゼルシャフトについて、特に個人と集団の関係、産業の特徴、交換と価値の意味、労働のあり方、都市と人間のあり方などについて理解しているか。③資本主義の精神について、特に合理主義、世俗内禁欲と職業召命観などについて理解しているか。④支配の正当性と官僚制の特徴、官僚制社会の将来と人間のあり方について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業の方針、テンニースの思想とウェーバーの思想について概要紹介 :ﾌﾟﾘﾝﾄ1	
	事前学習（内容・時間）	テンニースは、近代社会がどのようにして発展してきたと考えていますか。第1回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	経済における合理主義の特徴について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第2回	テンニースの思想①（合理主義と歴史主義の総合、本質意志と選択意志、社会発展論、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの本質的概念）:ﾌﾟﾘﾝﾄ2	
	事前学習（内容・時間）	テンニースは社会を結びつけるものについてどのように考えていますか。第2回授業プリントを見て答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの本質的概念について説明してください。（2時間）
第3回	テンニースの思想②（ゲマインシャフトの基本的特徴、初期的形態、父子関係、ゲマインシャフトの発展、ゲマインシャフト的意志）:ﾌﾟﾘﾝﾄ3	
	事前学習（内容・時間）	テンニースは、ゲマインシャフトがどのように発展していくと説明していますか。第3回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ゲマインシャフトの基本的特徴について説明してください。（2時間）
第4回	テンニースの思想③（ゲマインシャフトの成員を結びつける精神、ゲマインシャフトの重要な根本法則、ゲゼルシャフトにおける交換と価値、擬制、ゲゼルシャフト的価値と必要、個人の労働と社会の利益）:ﾌﾟﾘﾝﾄ4	
	事前学習（内容・時間）	テンニースは、ゲゼルシャフトにおける交換と価値についてどのように述べていますか。第4回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ゲゼルシャフト的価値と必要について説明してください。（2時間）
第5回	テンニースの思想④（ゲゼルシャフトは相互的、集団の成立、犠牲的人格、法人、ゲゼルシャフト的な法秩序の前提、「市民社会」ま、たは「交易ゲゼルシャフト」、競争と同盟）:ﾌﾟﾘﾝﾄ5	
	事前学習（内容・時間）	ゲゼルシャフトは相互的とはどういう意味ですか。第5回授業プリントを読んで答えてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ゲゼルシャフトにおける個人や集団の行動の特徴について説明してください。（2時間）
第6回	テンニースの思想⑤（国家のゲゼルシャフト的な発展、世界市場の成立、大都市と人間の運命、合理化の進展と人間関係の変化、世界都市と人間疎外）:ﾌﾟﾘﾝﾄ6	
	事前学習（内容・時間）	国家のゲゼルシャフト的な発展について、第6回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	合理化の進展と人間関係の変化について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第7回	テンニースの思想⑥（現代の運命、人間らしい生活を取り戻せるか…）、ウェーバーの思想①（問題意識、経歴）:ﾌﾟﾘﾝﾄ7	
	事前学習（内容・時間）	近代資本主義に関するウェーバーの問題意識について、第7回の授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	経済における合理主義について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第8回	ウェーバーの思想②（西洋近代の資本主義の合理的性格、資本主義の倫理観（精神）、生活態度、合理主義の特徴、プロテスタンティズムの思想）:ﾌﾟﾘﾝﾄ8	
	事前学習（内容・時間）	プロテスタンティズム運動と思想の特徴について、第8回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	資本主義の倫理観について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第9回	ウェーバーの思想③（信仰と救済、世俗内禁欲と職業、1647年「ウェストミンスター信仰告白」） :ﾌﾟﾘﾝﾄ9	
	事前学習（内容・時間）	カルヴァン派の二重予定説について、第9回の授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	世俗内禁欲と職業について、授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第10回	ウェーバーの思想④（救済の自己確信と職業労働、神と人間の関係、職業召命観）:ﾌﾟﾘﾝﾄ10	
	事前学習（内容・時間）	カルヴァン派は、救済の確信をどのようにして得られると考えていますか。第10回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	職業召命観について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第11回	ウェーバーの思想⑤（信仰と営利、利得と節約、宗教的倫理の喪失） :ﾌﾟﾘﾝﾄ11	
	事前学習（内容・時間）	信仰と営利について、第11回の授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	カルヴァン派の世俗内禁欲の思想と資本主義のエートスについて授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第12回	ウェーバーの思想⑥（新しい職業倫理の誕生、「精神のない専門人」と「心情のない享楽人」、近代的官僚制社会の特徴と将来）:ﾌﾟﾘﾝﾄ12	
	事前学習（内容・時間）	「独自の市民的な職業のエートス（習慣、道徳」としての「資本主義の精神」について、第12回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ウェーバーの言葉「精神のない専門人」、「心情のない享楽人」について授業ではどのように述べられていましたか。（2時間）
第13回	ウェーバーの思想⑦（近代官僚制の重要な特徴、官僚制は必然的な支配形態、官僚の支配する社会）:ﾌﾟﾘﾝﾄ13	
	事前学習（内容・時間）	近代官僚制の重要な特徴としてウェーバーは4つあげています。それは何ですか。第13回授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	官僚制社会の進行が生み出すものとして、ウェーバーはどのように述べていますか。（2時間）
第14回	ウェーバーの思想⑧（支配の正統性そのⅠ）:ﾌﾟﾘﾝﾄ14	
	事前学習（内容・時間）	支配の正統性としてウェーバーは3つあげています。それは何ですか。第14回の授業プリントを読んで説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	合法的支配の内容について説明してください。（2時間）
第15回	ウェーバーの思想⑨（支配の正統性その2）:ﾌﾟﾘﾝﾄ15	
	事前学習（内容・時間）	伝統的支配の内容について説明してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	資本主義社会における人間の生き方について、あなたの考えを述べてください。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5740-X2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報テクノロジー （教職関連科目 選 高等学校 情報）	219～ 経営情報学科	1・2年生・前期	2単位	選択	ディンダ　プラマンタ	
	～218	1年生・前期		必修		

履修の前提条件	高等学校における情報関連科目など入学前までに学習した情報関連科目があれば復習しておくこと。

授業概要　（Course Outline）

前半はコンピュータの仕組み、後半はネットワークを含む情報システムの仕組みについて学びます。コンピュータの仕組みでは、全体構成からハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの情報表現や演算処理について学び、一連の情報処理の中でそれらがどのように関わり、利用されているかを理解できるようにします。情報システムの仕組みでは、その構築に欠かせないデータベース、ネットワーク通信、プログラミング言語の概要について学び、企業と情報システムの関連やその業務に携わる職種や職業についても言及します。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

この授業ではディプロマポリシーに基づいて、コンピュータや情報システムの基礎的な仕組みや構成を理解し、その知識を活用できるようにすることを目指します。
具体的にはITパスポートのテクノロジー分野に出題されるような基礎的な項目を理解することを到達目標とします。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義内容に関するディスカッションを行う可能性がありますので、その場合は積極的に発言するように心掛けてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

講義資料を共有フォルダを介して配布するので、毎回PCを持参することが望ましい。
また、KIISNW にアクセスできるように環境を整えておいて下さい。
学習の確認：毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
コンピュータと情報システム（第2版）	草薙　信照	サイエンス社	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報科学の基礎　改訂版	石田晴久監修、 井内善臣、梅田茂樹、 大道　卓、山本誠次郎　著	実教出版	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

中間試験50%、定期試験50%。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンスとコンピュータの歴史と性能	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第2回	コンピュータの基礎知識１（機器構成、CPU、情報の単位と接頭辞）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第3回	コンピュータの基礎知識２（データ表現、2進数とn進数、基数変換）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第4回	コンピュータの基礎知識３（算術演算、補数、論理演算）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第5回	ハードウェア１（中央処理装置と記憶装置）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第6回	ハードウェア２（入出力装置と周辺装置）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第7回	ソフトウェア（OS、言語、アプリケーション）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第8回	データ形式とマルチメディア（文字コード、文字・画像・音声・動画データ）	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第9回	中間試験	
	事前学習（内容・時間）	第1回～第8回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題については各自復習すること。（2時間）
第10回	通信ネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第11回	インターネットとセキュリティ	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第12回	社会や企業と情報システム	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第13回	データベースと情報システム	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第14回	システムの運用と管理	
	事前学習（内容・時間）	次回の学習範囲について、教科書やインターネットによって予習を行っておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	第10回～第14回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6381-U2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング入門 （教職関連科目　必　高等学校　情報）	219～ 経営情報学科	2・3年生・前期	2単位	選択	宮崎　武	
	～218 経営情報学科	1年生・後期				
履修の前提条件	情報リテラシー演習を修得済みであることが望ましい					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業ではScratchおよびVisual Basicでのプログラミングを通して、プログラミングの手順や流れを修得する。どのプログラミング言語を学ぶ上でも根本が同じであることを2種類の言語を通じて体感する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

順次処理、分岐処理、繰り返し処理について理解し、簡単なプログラムであれば本を見ながら自分で書くことができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からパソコンを持参すること。原則として初回授業の欠席者の履修は認めない。やむを得ない事情で1回目授業を欠席した者は2回目授業前日までに研究室に来ること。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学生のためのVisual Basic	若山芳三郎	東京電機大学出版局	4-501-52860-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Scratchではじめよう！ プログラミング入門	杉浦学	日経BP社	978-4-8222-9774-9

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回のプログラミング課題50%、定期試験50%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、Scratchのインストール	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読み、PCがすぐに使えるようアップデート等をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第2回	Scratchでスプライトを動かす	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第3回	分岐処理、繰り返し処理を用いた簡単なゲーム作成	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第4回	多分岐処理	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第5回	乱数	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第6回	変数	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書3.1を読む(2h)
第7回	コンピュータに計算をさせる	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書pp. 32を読む(2h)
第8回	コンピュータと対話する	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第9回	Visual Basicの使い方	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章を読む(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書第2章を読む(2h)
第10回	算術演算子	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書3.1を読む(2h)
第11回	変数（Visual Basic）	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書3.2を読む(2h)
第12回	分岐処理（If文）	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書pp. 44からpp. 46を読む(2h)
第13回	分岐処理（ElseIf）	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書pp. 48, 49を読む(2h)
第14回	繰り返し処理（For…Next）	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書pp. 64, 65を読む(2h)
第15回	二重繰り返し処理	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で説明のあったプログラムをもう一度自分で新たに作成する(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う、教科書pp. 67, 68を読む(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6382-U2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
初級プログラミング実習 （教職関連科目　必　高等学校　情報）	219～ 経営情報学科	2・3年生・後期	2単位	選択	合田　和正	
	～218	1年生・後期				

履修の前提条件	原則として、「情報リテラシー演習」に合格し、タイピングに不自由がないこと、 「プログラミング入門」に合格済、または同時に履修することが望ましい。

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野のソフトウェア、プログラミングについての基本的な知識・技能を習得することを目標とする。
具体的には、プログラミング統合環境の基本操作から始め、コーティング、コンパイル、デバック、実行といった基本的なソフトウェア開発活動について学ぶ。さらにそれらの手順、流れを実習によって体得する。プログラミング言語としてC言語を用いて、簡単なプログラムを例として、プログラミング技法を学ぶ。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

プログラミング言語であるC言語の文法を修得すること。次にプログラミングとは何か。アルゴリズムとは何かについて、C言語を通して学習する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業内容に関して受講者が自主的にテーマを設定してレポートを作成してもらう。対話型の授業を心がける。まず授業内容について、実習を行う前に解説します。学生自身が実習を通して積極的に授業に参加するしくみを行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：情報に関する検定試験を受験すること。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学生のための詳解C	中村　隆一	東京電機大学出版局	978-4-501-54260-3

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学生のためのC	内山　章夫　他	東京電機大学出版局	978-4-501-52310-7

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（約20%）　実習課題（約30%）　定期試験（約50%）
成績評価の基準
①C言語の文法を理解しているか②プログラミングとは何かについて理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、授業内容の説明、受講上の注意、プログラミングについて	
	事前学習（内容・時間）	プログラミングの概要について学習すること。テキスト1頁（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プログラムとは何かについて理解を深めること（2時間）
第2回	ガイダンス、授業内容の説明、受講上の注意、プログラミングについて(2)実習環境について	
	事前学習（内容・時間）	プログラミング環境の概要について学習すること。テキスト1頁（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プログラムとはプログラミングとは何かについて理解を深めること（2時間）
第3回	プログラミング言語、C言語とは何か、C言語のスタイルについて： 座学・説明中心	
	事前学習（内容・時間）	プログラムの作成手順（テキスト1頁）、構造化プログラミングについて（2時間）
	事後学習（内容・時間）	流れ図について学習すること（2時間）
第4回	プログラミング言語、C言語とは何か、C言語のスタイルについて： 実習	
	事前学習（内容・時間）	プログラムの作成手順（テキスト1頁）、構造化プログラミングについてまとめること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	流れ図について実際に描いてみることを含め、学習すること（2時間）
第5回	文字列の出力（1）、文字列の出力（2） 演習問題： 説明・留意点、ヒントなど座学中心	
	事前学習（内容・時間）	データの出力（テキスト4～10頁）を読んでprintf関数について学習すること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題について自宅で確認すること（2時間）
第6回	文字列の出力（1）、文字列の出力（2） 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	データの出力（テキスト4～10頁）を読んでprintf関数の機能についてまとめること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書掲載分や授業中の実習問題の類題を自作してプログラミングしてみること（2時間）
第7回	変数と型宣言、演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11頁、整数と実数について学習すること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題をもう一度確認すること（2時間）
第8回	変数と型宣言、演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11頁、整数と実数の違いにきをつけてまとめること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	教科書計算の実習問題について、99頁までどのような問題かを一度確認すること（2時間）
第9回	算術演算（加減乗除、剰余の計算） 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト10～17頁を重点的に目を通しておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第10回	算術演算（加減乗除、剰余の計算） 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト10～17頁を参照に目を通し、数学の演算記号との違いについてまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第11回	入力（1）入力（2）について 演習問題： 説明、座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト13～17頁を読んで、scanf関数について学習する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第12回	入力（1）入力（2）について 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト13～17頁を読んで、scanf関数についてprintf関数と対比してまとめること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第13回	選択処理（if文）について 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト24～33頁を読んでおくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第14回	選択処理（if文）について 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト24～33頁を読んで、今回の新しい内容をまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第15回	選択処理に関する演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	第3章選択処理に関する項目を読んでおくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第16回	選択処理に関する演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	第3章選択処理に関する項目を読んで、具体的な制御文についてまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第17回	くり返し処理（for文） 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト47～50頁のfor文に関する学習（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）

第18回	くり返し処理（for文） 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト47～50頁のfor文について、選択処理との違いをまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第19回	くり返し処理（while文） 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト50～51頁 while文に関して事前に読んでおくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第20回	くり返し処理（while文） 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト50～51頁 while文に関して事前に読んでfor文とのちがいをまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第21回	くり返し処理（do-while文） 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト52～53頁 do-whileに関する事前理解（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第22回	くり返し処理（do-while文） 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト52～53頁 do-whileに関して、for文、while文との違いをまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第23回	くり返し処理に関する総合的な演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	for文、while文、do-while文について理解する事（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第24回	くり返し処理に関する総合的な演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	for文、while文、do-while文について違いと使い分けを理解すること（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第25回	配列（1） 1次元配列について 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	第5章 1次元配列について事前に読んでおくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第26回	配列（1） 1次元配列について 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	第5章 1次元配列について、これまでのデータ型との違いを理解しておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）

第27回	配列（2） 2次元配列について 演習問題： 説明・座学中心	
	事前学習（内容・時間）	テキスト85～99頁の2次元配列について目を通しておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の問題の理解・解釈で間違った点、方針を確認（2時間）
第28回	配列（2） 2次元配列について 演習問題： 実習	
	事前学習（内容・時間）	テキスト85～99頁の2次元配列について、1次元配列との違いを整理しておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第29回	総合演習	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習したC言語の文法の確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	実習問題の間違った点を確認し、今後は間違えにくいようにすること（2時間）
第30回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学習したC言語の文法についてまとめておくこと（2時間）
	事後学習（内容・時間）	これまで学習した実習問題の問題点を確認（2時間）
第31回（定期試験）	プログラミング言語であるC言語の基礎的内容に関する問題を出題予定	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6520-U2ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
マネージメントゲーム （教職関連科目　選　高等学校　情報）	219～ 経営情報学科	2・3年生・後期	2単位	選択	古川　哲也	
	～218	2年生・後期				
履修の前提条件	「情報リテラシー演習Ⅰ、Ⅱ」を履修済であること。「マネージメント科学」を修得済であることが望ましい。数学関連科目を受講していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

他企業との競争に係る企業経営における意思決定について、デイプロマポリシーに基づき、課題を解決することができる主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得する。具体的には、意思決定の考え方を理解し、モンテカルロシミュレーションの演習をすると共に、ゲーム理論を学習する。また、簡便なビジネスゲームを体験して、ビジネス上の意思決定をする考え方や結果をマルティメディア表現することを学習する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

乱数を使用した初歩的なシミュレーションが出来ると共に、利害が伴う相手との交渉をする場合の合理的な判断モデルを考えられるようになる。また、ビジネス上の判断の重要性を知る。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学習した内容を、各自がパソコンを用いて実習する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡にはメールを用いる。
furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオ「科目別履修状況チェック表」を作成し、第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて資料を配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営科学と情報処理 ビジネスゲームセオリー	宮川 公男、他 御立 尚資、他	実教出版株式会社 日本評論社	ISBN 4-407-02775-4 ISBN978-4-535-55557-0

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

課題とプレゼンテーションの結果（30点）　＋　定期試験（70点）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業内容、授業の進め方、成績評価の仕方を説明する。	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、企業のマネージメントをゲームとして捉えることを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	説明内容を復習し、技術用語、専門用語など不明なものは調べるなどして確認する。（2時間）
第2回	決定理論	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、決定理論の考え方を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	練習問題を解き、それぞれの原理に基づく意思決定を求める。（2時間）
第3回	待ち行列の解析的分析	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、どのような手順で待ち行列を分析するのかを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で分析したデータをExcelを用いて検証する。（2時間）
第4回	モンテカルロシミュレーション	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、乱数とモンテカルロシミュレーションを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業で説明したExcelを用いたシミュレーションを完成する。（2時間）
第5回	モンテカルロシミュレーションの応用1	
	事前学習（内容・時間）	例題として用いるシミュレーションの内容を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	サービス窓口が2つのときのシミュレーションを完成する。（2時間）
第6回	モンテカルロシミュレーションの応用2	
	事前学習（内容・時間）	例題として用いるシミュレーションの内容を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	様々な状況のシミュレーションを完成し、企業の意思決定を行う。（2時間）
第7回	ゲーム理論の概要	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、ビジネスをゲームとして形式化する考え方を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を復習し、支配戦略とナッシュ均衡の練習問題を解く。（2時間）
第8回	ゲーム理論とその応用	
	事前学習（内容・時間）	資料を読んで、2段階ゲームと意思決定の順序がある場合を理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を復習し、意思決定の順序がある場合の均衡の練習問題を解く。（2時間）

第9回	ビジネスゲームとは	
	事前学習（内容・時間）	資料のビジネスゲームの概要の部分を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ビジネスゲームで何を学習できるのかをレポートにまとめる。（2時間）
第10回	シミュレーションのための企業モデル	
	事前学習（内容・時間）	企業や市場がゲームの中でどのようなモデルで表されているかを理解する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	市場をシミュレーションするExcelのワークシートを完成する。（2時間）
第11回	モデル企業経営（練習）	
	事前学習（内容・時間）	自身が所属する企業（チーム）の戦略を様々な状況をシミュレーションして考えておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第1期、第2期の結果を分析し、各企業の戦略を評価する。（2時間）
第12回	モデル企業経営	
	事前学習（内容・時間）	練習の分析結果を基に、戦略を検討しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第1期、第2期の貸借対照表、在庫などから、企業（チーム）の財務状況等を把握する。（2時間）
第13回	モデル企業経営（続き）	
	事前学習（内容・時間）	企業（チーム）の財務状況等、他チームの状況等から、戦略を検討しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	最終結果を分析し、自企業（チーム）の戦略を評価する。（2時間）
第14回	マルティメディアを用いた経営結果プレゼンテーション資料の作成	
	事前学習（内容・時間）	プレゼンテーションの内容を検討しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プレゼンテーション資料を完成する。（2時間）
第15回	プレゼンテーションおよびビジネスゲームから知ること	
	事前学習（内容・時間）	作成した資料を点検し、プレゼンテーションの練習しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	他の企業（チーム）のプレゼンテーションを評価し、レポートをまとめる。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6383-Z2ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング論	共通 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	合田　和正	

履修の前提条件	プログラミング入門に合格していること。（編入生は別途対応） ビジネスプログラミング(他学科履修)に合格済であることが望ましい。 原則として、プログラミング未経験者は受講不可。

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野のソフトウェア、プログラミングについての知識・技能を習得することを目標とする。
具体的には、フローチャートや変数表を活用して第三者が作成したプログラムを理解したり、更新したりできるようにする。また、逆に第三者が理解や更新を施すのが容易なプログラムの記述方法、例えば字下げや注釈添付なども学ぶ。さらに高度なプログラムを作成し、より高品質、より高信頼のプログラム作成を目指す。高品質を実現する方法の一つとしてGUI(Graphical User Interface)を用いた、プログラム作成にも挑戦してみる。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

プログラミング入門で学習したプログラミングの基礎理論に基づいて、そしてさらにイベント駆動やオブジェクト指向といった異なるプログラミング様式にも触れながら実際に多くのプログラムを作成しつつ、プログラミング理論への理解をいっそう深める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学生のためのExcel VBA　第2版	若山芳三郎	東京電機大学出版局	978-4-501-55450-7

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	関連項目の総復習・プレースメント試験	
	事前学習（内容・時間）	プログラミング入門の内容を復習し、プレースメント試験に備える。[2.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題について復習。振り返りを書く。[2.0h]
第2回	開発環境、文字列出力、命令文、GUI部品の基本	
	事前学習（内容・時間）	GUIとCUIについて調べる。GUI部品について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第3回	基本データ型と宣言文、定数、演算子	
	事前学習（内容・時間）	基本データ型について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	データ型I（整数型を中心に）	
	事前学習（内容・時間）	整数型、浮動小数点数型、固定小数点数型について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	制御文I（選択構造）	
	事前学習（内容・時間）	制御文について調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第6回	データ型II（整数型以外）	
	事前学習（内容・時間）	文字型、通貨型、配列について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第7回	制御文II（反復構造）	
	事前学習（内容・時間）	繰り返し文（反復文）について調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第8回	中間試験	
	事前学習（内容・時間）	第7回までの内容（プログラミング入門の内容を含む）を総復習して備える。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題について復習。振り返りを書く。[1.0h]
第9回	プログラムの抽象化	
	事前学習（内容・時間）	抽象化・一般化、具体化・特殊化について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第10回	手続きと関数I（戻り値なし）	
	事前学習（内容・時間）	手続きについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	手続きと関数II（戻り値あり）	
	事前学習（内容・時間）	関数について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	再帰とスタック	
	事前学習（内容・時間）	再帰、スタック、キューについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第13回	応用プログラムI	
	事前学習（内容・時間）	12回までの内容をまとめる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第14回	応用プログラムII	
	事前学習（内容・時間）	13回で何がよかった、足りなかったかを踏まえて準備する。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの内容をまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、想定問題を作成し、解答の説明を考える。振り返りを書く。[1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験等	

1AIN-6384-Z2ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中級プログラミング実習（教職関連科目 選 高等学校 情報）	219～ 経営情報学科	3･4年生・後期	2単位	選択	宮崎　武	
	～218	3･4年生・前期				

履修の前提条件	初級プログラミング実習およびプログラミング論を両方とも合格していること。

授業概要 （Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業ではプログラムの作成仕様を満足するだけでなく、第三者にとって、理解、保守が容易なプログラムを作成できるようになることを目指す。その中で効率的なプログラミングや効果的な注釈文の書き方を体得していく。より高度なプログラミングに対応するために実習を通して配列などの複雑なデータ構造やそれらのデータを操作するための演算子への理解をさらに深める。そして、プログラムを抽象化することで見通しの良い、理解が容易なプログラムに仕上げる手法について学ぶ。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 （Objectives）

初級プログラミング実習を基礎として、さらに高度なプログラミングに挑戦する。また、他者にも理解できるプログラミングができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。また、自身が作成したプログラムについての発表もしてもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新　わかりやすいJava 入門編　第2版	川場隆	秀和システム	978-4-7980-5774-3

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回のプログラミング課題50%、定期試験50%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、開発環境のインストール	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読み、PCのアップデート等がないか確認する（0.5h）
	事後学習（内容・時間）	教科書第1、2章を読みながらソフトの起動をする(0.5h)
第2回	開発環境の構築	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読み、PCのアップデート等がないか確認する（0.5h）
	事後学習（内容・時間）	教科書第1、2章を読みながらソフトの起動をする(0.5h)
第3回	プログラムの書き方	
	事前学習（内容・時間）	ソフトの起動方法の復習(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第4回	変数	
	事前学習（内容・時間）	ソフトの起動方法の復習(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第5回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第5章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第6回	演算子	
	事前学習（内容・時間）	教科書第5章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第7回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第6章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第8回	標準クラスのメソッド	
	事前学習（内容・時間）	教科書第6章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第9回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第7章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第10回	配列とfor文	
	事前学習（内容・時間）	教科書第7章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第11回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第12回	for文	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第13回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第9章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第14回	関係演算子、論理演算子	
	事前学習（内容・時間）	教科書第9章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第15回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第10章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第16回	while文	
	事前学習（内容・時間）	教科書第10章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第17回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習（内容・時間）	教科書第11章を読んでおく(0.5h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(0.5h)

第18回	if文	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第11章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第19回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第12章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第20回	分岐とジャンプによる制御	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第12章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第21回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第13章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第22回	配列	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第13章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第23回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第15章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第24回	メソッド	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第15章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第25回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第15章までをもう一度読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)
第26回	ここまでの復習演習課題	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第15章までをもう一度読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題を行う(0.5h)

第27回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第16章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題の復習を行う(0.5h)
第28回	オブジェクトの作り方	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第16章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題の復習を行う(0.5h)
第29回	各自の作成したプログラムの発表および意見交換	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第17章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題の復習を行う(0.5h)
第30回	クラスの仕組み	
	事前学習 （内容・時間）	教科書第17章を読んでおく(0.5h)
	事後学習 （内容・時間）	課題の復習を行う(0.5h)
第31回 （定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5610-Z2ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コンピュータグラフィックス論 （教職関連科目 必 高等学校 情報）	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	鶴野　玲治	
	～218	3・4年生・前期				

履修の前提条件	テキストに従って事前学習、事後学習しておくことを推奨します。 基礎的な数学や物理学の知識、また、説明を読解するため若干の英語力が必要になります。 windowsへのソフトウエア導入と設定、基本的な操作やエラー対応などは各自で対応できるという前提で進めます。

授業概要　（Course Outline）

この授業では建学の精神『至心』に基づいて、心に描いたものを表現し、人に伝え、お互いの考えを理解する方法として、コンピュータを使ったビジュアルな表現方法を学びます。人は8割から9割の情報を視覚を通して取得しています。視覚に働きかける表現方法として、三次元CG(コンピュータグラフィックスを扱います。三次元CGの基礎を講義し、演習を通して体験的に学びます。CGの処理は三次元の物体や空間をコンピュータの中にどのように定義するかという「モデリング」とこれを二次元的なコンピュータ画像としてどのように表現するかという「レンダリング」に大きく分けることができます。本科目ではこの流れを概観しながら、これらを構成する技術や考え方を解説し、同時にCGソフトウエア(PovRay)を使った演習を通して体験的に学んでいきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

コンピュータグラフィックスの本質は情報科学です。コンピュータの中に人工的な空間や物体を設定し、光を計算して画像を作ります。そのために空間や被写体を感覚的にとらえ、構造や配置などを論理的に考えて記述します。この一連の流れを通して知識だけでなく論理的思考力や問題解決力を身につけることが目標です。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

最初のうちは説明を聞いて例題を試してください。そのあとは自分なりに応用的な課題を設定し、各自で進めてください。たくさんの試行錯誤の中から問題の本質を見極めてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

担当教員は非常勤なので授業の時以外は学内には居ません。質問や相談は授業の時にお願いします。
緊急の場合のみ、メールで受け付けます。アドレスは授業中にお伝えします。メールには必ず、所属名、授業名、氏名を記述してから問い合わせ内容を書いてください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

インターネットからオンラインソフトウエアをダウンロードしインストールします。
これらが可能な自分専用のwindowsの入ったPCを用意してください。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
POV-Rayによる3次元CG制作 ーモデリングからアニメーションまでー	鈴木広隆・倉田和夫・佐藤尚	CGARTS協会	978-4-903474-19-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
コンピュータグラフィックス	コンピュータグラフィックス[改訂新版]編集委員会	CGARTS協会	978-4-903474-49-6

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回の授業での課題を出題し、さらに全体を通した最終課題を出題します。
課題の提出物から授業内容の理解度、理論の応用力、表現力、構成力など判断し評価点(60%)とし、これに平生点(40%)を加えて最終評価とします。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	三次元CG技法の概観。全体を構成する技術とそれによって作られる画像や映像を解説。	
	事前学習（内容・時間）	一般的な事例の確認（2h）
	事後学習（内容・時間）	紹介した技術、理論、事例の再確認（2h）
第2回	空間座標系、モデリングとレンダリングの説明。実習ソフトウエア(povray)の説明と動作確認。	
	事前学習（内容・時間）	幾何学の概念の復習、コンピュータos(windows)とソフトウエアインストール環境の確認（2h）
	事後学習（内容・時間）	コンピュータグラフィックスの技術的視点からの考え方の復習、ソフトウエア動作確認（2h）
第3回	空間の考え方。直交座標系の中での光源、視点、投影空間などの説明、単一のオブジェクトを描く。	
	事前学習（内容・時間）	三次元空間の扱い方の復習、ソフトウエアインストールと動作確認（2h）
	事後学習（内容・時間）	ソフトウエア内での空間の扱い方の概念の復習（2h）
第4回	空間の中でのオブジェクトの配置、シーンスクリプト(記述言語)の構成と簡単な文法を説明。	
	事前学習（内容・時間）	データの入力と編集方法の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	モデリング、エディッティング、レンダリングの一連の動作の再確認（2h）
第5回	反射色と発光色の概念。RGB(Red,Green,Blue)のみを使って加法混色と減法混色を表現する	
	事前学習（内容・時間）	光学系、色の表現と取扱い方法の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	仮想的な色と光のモデル、発光と反射による表現実験（2h）
第6回	座標変換。平行移動、回転移動、スケーリングの考え方と変換方法。スクリプトでの実装。	
	事前学習（内容・時間）	座標変換、幾何学的変換の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	アフィン変換の実験と結果の確認、オブジェクトモデリングへの適用と確認（2h）
第7回	連続的、パラメトリックな座標変換。パラメータを使った複数オブジェクトの取り扱い方法を確認。	
	事前学習（内容・時間）	モデリングとレンダリングでの定数と変数の扱い方の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	パラメータ化による自動変換方法の確認（2h）
第8回	CSGモデリング。物体形状を基本立体の演算(union, difference, intersection)で表現する。	
	事前学習（内容・時間）	空間内形状演算方法の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	空間内形状演算の実験と結果の確認、応用モデルの試作（2h）
第9回	前半で解説、実習した内容を応用し、課題制作を行う。	
	事前学習（内容・時間）	任意のオブジェクト、シーン、光源環境、動作等の構想（2h）
	事後学習（内容・時間）	上記の表現方法、スクリプト記述方法の試行、レンダリングと結果確認（2h）
第10回	表面模様の表現方法。マッピングの考え方を解説し、演習する。	
	事前学習（内容・時間）	テクスチャマッピングの概念の確認（2h）
	事後学習（内容・時間）	スクリプトへの実装方法の復習、レンダリング結果の再確認（2h）
第11回	材質感の表現方法。物体表面の反射モデルを説明し、石、木材、金属などの質感表現を実習する。	
	事前学習（内容・時間）	マテリアル表現、反射特性の考え方の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	反射モデルの分類と特性と効果の再確認（2h）
第12回	透明で光が屈折するモデルを説明する。ガラス、水晶、水などの質感表現を実習する。	
	事前学習（内容・時間）	マテリアル表現、光の透過屈折特性の考え方の予習（2h）
	事後学習（内容・時間）	透過屈折モデルの特性とレンダリング結果の再確認（2h）
第13回	照明モデルを説明する。平行光線、点光源、指向性光源のモデルとその効果を実習する。	
	事前学習（内容・時間）	ライティングの概念の予習、光源モデルの確認（2h）
	事後学習（内容・時間）	光源モデルの与え方とスクリプトでの記述方法の復習、レンダリング結果の確認（2h）
第14回	CSG、表面反射、透明屈折、照明効果、空間文字列を加えたシーンを練習課題とする。	
	事前学習（内容・時間）	具体的なシーンをイメージしそれぞれを表現する方法や記述方法を計画（2h）
	事後学習（内容・時間）	試行錯誤を通じて具体的なシーンのレンダリングを試行する（2h）
第15回	シーン構成、データ化、レンダリング、フィードバックなど、制作の工程を想定して制作する。	
	事前学習（内容・時間）	具体的なシーンを構成する個々のエレメントのデータ化を考える（2h）
	事後学習（内容・時間）	個々の技術を考えながら全体の具体的なイメージを制作する（2h）
第16回（定期試験）	最終課題 (授業中に出題)	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-6020-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中級簿記演習Ⅰ	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	岩下　昌美	
中級簿記Ⅰ	～218					
履修の前提条件	複式簿記（3級）の基本知識を習得していることが望ましい。 「会計学入門」・「簿記Ⅰ・Ⅱ」などの会計関連科目を履修していることが望ましい。 電卓必須。遅刻は厳禁。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーにもとづき，この授業では，簿記の専門的レベルの知識・技能について説明します。
複式簿記とは，企業の日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を明らかにする原理と技能のことです。本講義では，簿記Ⅰ・Ⅱで習得した複式簿記の基礎的な原理・技術に加えて，日本商工会議所主催の簿記検定2級の商業簿記の内容，つまり，株式会社の経営活動に関わる会計処理・決算手続きを学んでいきます。
ただし，内容は広範囲にわたるため，後期開講の「中級簿記演習Ⅱ」までが2級の学習範囲となります。
簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本講義では，日本商工会議所検定2級の商業簿記の内容中心に簿記の技術や理論を学び，株式会社の経済活動を記録・計算・整理・集計したものを活用して，財務諸表を作成することができることを目標とします。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。
授業終了時には毎回の理解度をチェックするため，ミニテストを実施します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは2号館2階270室の研究室にて，オフィスアワーの時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。
ただし，研究室への来室は事前にメール（masami-i@g.kiis.ac.jp)などでご相談ください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
検定簿記講義　2級　2022版	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子　編著	中央経済社	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
【検定簿記ワークブック】 2級商業簿記　2022版	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子　編著	中央経済社	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験（50%），平常点（30%），課題への取組み（20%）。
平常点は毎回の課題提出や講義への参加状況で判断します。
成績評価の基準：①仕訳ができるか。②補助簿への記入ができるか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の進め方，講義内容，受講上の諸注意，評価方法等を確認する。） 簿記Ⅰ・Ⅱの復習（1）	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第1章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第2回	簿記Ⅰ・Ⅱの復習（2） 第1章　簿記一巡の手続きと財務諸表（1） ・簿記一巡の手続き，財務諸表の体系を復習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第1章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第3回	簿記Ⅰ・Ⅱの復習（3） 第1章　簿記一巡の手続きと財務諸表（2） ・2級での損益計算書，貸借対照表を学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第1章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第4回	第2章　現金預金と売掛金（1） ・現金預金や預金残高の不一致の原因の会計処理，銀行勘定調整表の作成について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第2章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第5回	第2章　現金預金と売掛金（2） ・クレジット売掛金や債権の譲渡の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第2章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第6回	第3章　手形（1） ・手形の裏書き・割引・更改・不渡りの会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第3章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第7回	第3章　手形（2） ・営業外受取手形・営業外支払手形，電子記録債権・電子記録債務の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第3章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第8回	第4章　有価証券（1） ・有価証券とは何か，有価証券の区分，売買有価証券・満期保有目的債権の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第4章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第9回	第4章　有価証券（2） ・子会社株式・関連会社株式・その他有価証券の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第4章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第10回	第5章　その他の債券・債務 ・債務の保証，未決算勘定の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第5章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第11回	第6章　商品売買（1） ・分記法・3分法と売上原価の計算，売上原価対立法の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第6章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第12回	第6章　商品売買（2） ・払出単価の決定方法，割引・割戻の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第6章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第13回	第6章　商品売買（3） ・棚卸減耗損と商品評価損の会計処理について学習します。	
	事前学習 （内容・時間）	テキストの第6章を一読してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第14回	まとめ（1）　総合演習	
	事前学習 （内容・時間）	第1回から第7回までの復習問題・解答を再度確認してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	配布する演習問題を解いてください。（2時間）
第15回	まとめ（2）　総合演習	
	事前学習 （内容・時間）	第8回から第13回までの復習問題・解答を再度確認してください。（2時間）
	事後学習 （内容・時間）	配布する演習問題を解いてください。（2時間）
第16回 （定期試験）	60分の定期試験（電卓持ち込み可）	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-6030-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中級簿記演習Ⅱ	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	岩下　昌美	
中級簿記Ⅱ	～218					

履修の前提条件	複式簿記（3級）の基本知識を習得していることが望ましい。 前期開講の「中級簿記演習Ⅰ」を履修し単位を取得していることが望ましい。 電卓必須。遅刻は厳禁。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーにもとづき，この授業では，簿記の専門的レベルの知識・技能について説明します。
複式簿記とは，企業の日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を明らかにする原理と技能のことです。本講義では，簿記Ⅰ・Ⅱで習得した複式簿記の基礎的な原理・技術に加えて，日本商工会議所主催の簿記検定2級の商業簿記の内容，つまり，株式会社の経営活動に関わる会計処理・決算手続きを学んでいきます。
ただし，前期開講の「中級簿記演習Ⅰ」を引き継ぎ学習していきます
簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本講義では，日本商工会議所検定2級の商業簿記の内容中心に簿記の技術や理論を学び，株式会社の経済活動を記録・計算・整理・集計したものを活用して，財務諸表を作成することができることを目標とします。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。
授業終了時には毎回の理解度をチェックするため，ミニテストを実施します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは2号館2階270室の研究室にて，オフィスアワーの時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。
ただし，研究室への来室は事前にメール（masami-i@g.kiis.ac.jp)などでご相談ください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、後期定期試験日までにメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
検定簿記講義　2級　2022版	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子　編著	中央経済社	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
【検定簿記ワークブック】 2級商業簿記　2022版	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子　編著	中央経済社	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験（50%），平常点（30%），課題への取組み（20%）。
平常点は毎回の課題提出や講義への参加状況で判断します。
成績評価の基準：①仕訳ができるか。②決算整理事項をもとに財務諸表等の作成ができるか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の進め方，講義内容，受講上の諸注意，評価方法等を確認する。） 中級簿記演習Ⅰ・Ⅱの復習	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第1章～第6章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布する復習問題を解いてください。（2時間）
第2回	第7章　固定資産（1） ・固定資産の分類と取得，修繕・改良の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第7章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第3回	第7章　固定資産（2） ・固定資産の減価償却（定率法・生産高比例法）について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第7章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第4回	第7章　固定資産（3） ・固定資産の売却・買換え，除却・廃棄，無形固定資産の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第7章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第5回	第8章　引当金 ・引当金の意義と分類，貸倒引当金・商品（製品）保証引当金・退職給付引当金・修繕引当金・賞与引当金の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第8章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第6回	第9章　収益と費用 ・収益および費用の区分，売上高，販売及び一般管理費，営業外費用・営業外収益の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第9章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第7回	第10章　株式会社の純資産（資本） ・株式会社の純資産（資本）意義，株式会社の設立・開業・増資，剰余金の配当・処分，会社の合併，株主資本以外の純資産の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第10章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第8回	第11章　税金 ・法人税における課税所得の計算方法，法人税等，消費税，圧縮記帳の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第11章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第9回	第12章　リース取引 ・リース取引の意義と分類，ファイナンスリース・オペレーティングリースの借り手の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第12章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第10回	第13章　外貨建取引 ・外貨建ての営業取引，決算と決済取引，為替予約，外貨建金銭債権等の換算の会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第13章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第11回	第14章　税効果会計 ・税効果会計の意義，引当金・減価償却・その他有価証券評価差額金にかかる税効果会計の会計処理について学習します。 第15章　決算 ・決算整理，帳簿決算手続き，製造業における決算，財務諸表の作成について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第14章，第15章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第12回	第16章　本支店会計 ・本支店会計の意義・目的，本支店間取引と決算手続きの会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第16章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第13回	第17章　連結会計（1） ・連結財務諸表の意義と一般原則・一般基準，資本連結，非支配株主持分，のれんの会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第17章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第14回	第17章　連結会計（2） ・連結会社間の取引，未実現損益の消去，連絡財務諸表について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキストの第17章を一読してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。（2時間）
第15回	まとめ：総合演習	
	事前学習（内容・時間）	第1回から第14回までの復習問題・解答の再度確認してください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布する演習問題を解いてください。（2時間）
第16回（定期試験）	60分の定期試験（電卓持ち込み可）	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5480-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
原価計算論Ⅰ	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	山下　壽文	
原価計算論	～218	3・4年生・前期				

履修の前提条件	簿記関連科目を履修し、.日本商工会議者主催簿記検定試験3級程度を理解していることが望ましい。

授業概要　（Course Outline）

講義では、「原価計算基準」にもとづいて、日本商工会議所主催簿記検定試験2級「工業簿記」の内容をテキストをもとに解説、例題による確認、練習問題を解いて復習することにより、工業簿記の基礎を修得する。

kougyoubokino

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

講義では、学則第3条を踏まえて、経営学分野の原価計算について知識を修得することを目標とする。そのため、原価計算、工業簿記の基本的項目を体系的に整理・理解し、製造業の取引を記録、計算、分類、集計して財務諸表作成までを学習する。また、日本商工会議所主催簿記検定試験2級工業簿記に合格できる能力を養う。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

○　対話型の講義を心がけるので、質問等積極的な取組みを期待する。
○　講義内で実施する小テストを活用し、講義内容の理解を深めるとともに講義への積極的な参加を促す。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問、相談等は研究室にて行う。オフィスアワー以外で質問、相談等がある場合は、事前にメール等でアポイントメントを取ってください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価等、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
原価計算論Ⅰ	山下壽文	冊子（実費）	

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
検定簿記講義2級工業簿記	岡本清他	中央経済社	978-4-502-83553-7

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

.定期試験60%、.小テスト40%で評価。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の内容・進め方）、工業簿記と原価計算	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第１回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第2回	原価の勘定体系	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第2回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第3回	製造原価報告書の作成	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第4回	原価の費目別計算（1）： 材料費	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第４回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第5回	原価の費目別計算（2）： 消費賃金（労務費）、経費	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第5回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第6回	製造間接費・個別原価計算：製造間接費の配賦、原価計算表の作成	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第6回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第7回	部門別計算： 部門費の集計、補助部門費の配賦、製造部門費の予定配賦	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第7回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第8回	総合原価計算（1）： 期末仕掛品の計算	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第8回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第9回	総合原価計算（2）： 等級別・組別・工程別・連産品総合計算表、副産物の評価・処理	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第9回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第10回	標準原価計算： 原価差異と原価分析、標準原価計算の記帳	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第10回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）10
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第11回	直接原価計算：損益分岐点分析、全部原価計算と直接原価計算	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第11回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第12回	工場独立会計	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第12回を読んで内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容の復習。（2時間）
第13回	総合問題（1）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの練習問題を予習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布の模範解答による復習。（2時間）
第14回	総合問題（2）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの練習問題を予習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布の模範解答による復習。（2時間）
第15回	まとめ：要点整理	
	事前学習（内容・時間）	テキストを読んで要点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストをもとに工業簿記の要点について復習。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5490-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
原価計算論Ⅱ	219～ 経営情報学科	2学年・後期	2単位	選択	春日　克則	

履修の前提条件	「中級簿記演習Ⅱ」「原価計算論Ⅰ」を履修していることが望ましい。Iパス・簿記コンテストと日商簿記検定試験2級受験に積極的にチャレンジして下さい。

授業概要　（Course Outline）

この講義は、日本商工会議所主催の「簿記検定２級」の内容を学習します。具体的には、前期に開設されている「原価計算論Ⅰ」をふまえて、さらに発展した「標準原価計算」「直接原価計算」と「原価・営業量・利益関係の分析」を学習します。なお、講義の前半では復習のために「個別原価計算」と「総合原価計算」に取り組みます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

原価計算は、製品の原価を計算し、経営管理に役立てるための一連の手続きをいいます。そこで、原価計算に関連した基本的な用語や計算方法を習得し、さらには原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供していることについて理解することを目標とします。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシーの「Ⅲ」を前提としながら、「Ⅳ」および「Ⅴ」の達成に主体的に関与するものです。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けています。そこで、当該時間において、双方向で課題についてコミュニケーションを図って行きたいと思います。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却します。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入し、返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いましょう。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（455研究室）にて随時受け付けています。また、メール(kasuga@kiis.ac.jp)での相談等も歓迎します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：日商簿記検定試験2級と授業内容が関連しています。
学習の確認：ポートフォリオシートと小テストによって学習の確認を行います。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
合格テキスト日商簿記2級工業簿記Ver.9	TAC株式会社	TAC出版	978-4-813-29602-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
合格トレーニング日商簿記2級工業簿記Ver.9	TAC株式会社	TAC出版	978-4-813-29605-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

経営情報学の応用・発展領域にある「原価計算論Ⅱ」について体系的に学習し、一定の理解・技能を修得しているかを評価します。具体的には、定期試験60%、毎回の課題提出40%の割合を持って評価します。なお、講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされますが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなります。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の内容、進め方など）、材料費・労務費・経費の意味と計算方法	
	事前学習（内容・時間）	教科書 テーマ01～07に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第2回	製造間接費の配賦	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ08、09に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第3回	部門費の配賦	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ10、11に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第4回	総合原価計算（1）－月末仕掛品原価の計算	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ12、13に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第5回	総合原価計算（2）－正常仕損の処理	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ14に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第6回	総合原価計算（3）－工程別総合原価計算と組別総合原価計算	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ15、16に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第7回	中間テスト（これまで学習した項目の理解度テスト）とその解説	
	事前学習（内容・時間）	第１回から前回までの総復習を行うこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	中間テストの問題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第8回	標準原価計算（1）－作業能率を向上させるための原価計算	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ18に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第9回	標準原価計算（2）－直接材料費の差異分析	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ19(1)に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第10回	標準原価計算（3）－直接労務費の差異分析	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ19(2)に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第11回	標準原価計算（4）－製造間接費の差異分析	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ19(3)に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第12回	直接原価計算－利益計画に役立つ原価計算（いくら売上があると利益が出るのか）	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ20に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第13回	CVP分析－学園祭の焼きそばをいくらで売ったら良いのか	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ21に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第14回	本社と工場をつなぐ（1）－製造原価報告書と損益計算書	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ17に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第15回	本社と工場をつなぐ（2）－本社工場会計	
	事前学習（内容・時間）	教科書テーマ22に取り組む。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中に取り組んだ課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （まとめと振り返りを行う。）	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5620-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
財務会計論	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	山下　壽文	
財務会計論Ⅰ	～218					

履修の前提条件	「簿記Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門」「会計学総論」等会計学の初歩的な知識を習得していることが望ましい

授業概要　（Course Outline）

講義では、初歩的な簿記の知識を前提として、財務会計の必要性や基礎的な用語、企業会計の理論・制度の両極分化についての実態を把握するとともに、「企業会計原則」および「企業会計基準」に即した財務会計の理論的・制度的構造を、損益、資産、負債、純資産の各分野にわたって考察し、財務諸表における主要な論点について、金融構造の変化との関連を明らかにする。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

講義では、学則第3条を踏まえて、経営学分野の財部会計について知識を修得することを目標とする。今日、実体経済に比べ金融経済が益々優位を占めるようになっているため、財務会計に関する知識はだれもが身につけるべき常識となっている。このような社会的要請に応えるため、講義では財務諸表の基礎を学習する。まず、「企業会計原則」の資産・負債・資本・損益に関する問題を検討し、次に、「企業会計原則」と「国際財務報告基準」、、「収益費用アプローチ」と「資産負債会アプローチ」への制度・理論の両極分化とその主要問題について考察する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義内容および講義資料の性質に応じて、可能な限り、質疑応答等の対話を取り入れる。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問・相談は、研究室で行う。オフィスアワー以外で質問、相談等がある場合は、事前にメール等でアポイントメントを取ってください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基本財務会計	岩崎　勇	税務経理協会	978-4-419-06717-5

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ビギナーのための会計学	山下壽文他	創成社	978-4-7944-1479-3

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

学期末試験60%、レポート40%で評価。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の内容・進め方）、企業会計との関連における財務会計の基本的知識	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第1章を読んで基本的知識について整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに財務会計の基礎について復習。（2時間）
第2回	会計公準の意義・種類・内容、会計主体論	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第2章を読んで会計公準および会計主体論の論点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに会計公準および会計主体論ついて復習。（2時間）
第3回	企業会計の制度的構造、その必要性（企業会計原則）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3章を読んで「企業会計原則」の概要を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに企業会計の制度的構造について復習。（2時間）
第4回	損益会計論 (1)： 損益計算の意義、損益計算の内容	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第4章1～4を読んで期間損益計算の内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに期間損益計算の内容について復習。（2時間）
第5回	損益会計論 (2)： 損益計算の体系、収益費用の認識基準	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第4章5～8を読んで収益費用の認識基準を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに収益費用の認識基準について復習。（2時間）
第6回	貸借対照表会計論の基本的な考え方：静態論と動態論、収益費用アプローチと資産負債アプローチ	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第5章を読んで貸借対照表のアプローチの諸説を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに貸借対照表のアプローチの諸説について復習。（2時間）
第7回	資産の意義、内容、評価基準、分類	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第6章を読んで資産の意義・内容、評価基準および分類を整理しておくこと。（2時間
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに資産会計の全体像について復習。（2時間）
第8回	流動資産の内容、分類	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第7章を読んで流動資産の内容および分類を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに流動資産について復習。（2時間）
第9回	有形固定資産、無形固定資産、繰延資産の内容、分類	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第8章・第9章を読んで固定資産および繰延資産を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに固定資産および繰延資産について復習。（2時間）
第10回	負債の分類、引当金・社債の処理	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第10章を読んで負債とくに引当金および社債について整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに引当金および社債の処理について復習。（2時間）
第11回	純資産の意義、剰余金、自己株式、新株予約権	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第11章を読んで純資産の内容を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに剰余金の区分について復習。（2時間）
第12回	財務諸表の種類、その作成	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第12章を読んで財務諸表の種類を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに財務諸表の作成（プリント）について復習。（2時間）
第13回	連結財務諸表の作成の基礎	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第13章を読んで「連結財務諸表作成基準」を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとにとくに「のれん」の処理について復習。（2時間）
第14回	キャッシュフ・ロー計算書の作成方法、その分析	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第14章を読んでキャッシュ・フロー計算書の作成方法を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとにキャッシュ・フロー計算書について復習。（2時間）
第15回	粉飾決算の実態（ライブドア・カネボウ・東芝等）	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布している講義資料ももとに粉飾決算の実態を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび講義内容をもとに粉飾決算のケース・スタディについて復習。（2時間）
第16回（定期試験）	学期末試験	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5630-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
財務管理	219～ 経営情報学科	2年生　後期	2単位	選択	片山　准一	
財務管理論Ⅰ	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				

履修の前提条件	・経営学入門・総論、会計学入門・総論を履修しておくことが望ましい ・特に企業の「投資」、「資金調達」、「配当」などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解が得られるため、日頃から経済ニュースにふれておくこと。

授業概要　（Course Outline）

財務管理の諸問題を資本調達論の観点から商法（会社法）を関連付けて論じる。財務管理を歴史的・論理的且つ、具体的な事例を通して分析・講義する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

デュプロマポリシーに基づきこの授業では、企業の財務管理の諸問題を資本調達論の観点から歴史的・論理的に論じ得ること。講義全体を通して、唯物弁証法的論理思考の構築を到達目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・講義中、基本的な質問を行うので、積極的に回答してもらいたい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

担当教員と連絡を取りたい場合は、研究室を訪ねること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

kiis学修ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入のうえ、最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
使用しない（講義資料を配布する）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営財務論	片山伍一・後藤泰二	ミネルヴァ書房	ISBN4-623-01750-8 C-3034

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

基本的には定期試験で評価(70%)するが、講義中の質問への回答(10%)及びレポート等の評価(20%)も加味する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	はじめに　財務管理の講義案を述べる。	
	事前学習（内容・時間）	企業金融、経営財務、財務管理等の概念をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	講義概要をよく復習しておくこと。疑問があれば次回の講義で質問すること。（120分）
第2回	資本とは　資本の循環・回転について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	資本とは何かを質問するので、回答できるようネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	資本の循環・回転図を何度も書いて理解すること。（120分）
第3回	資本及び資本家概念について　「機能資本家」「無機能資本家」概念について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	資本・資本家概念をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	「機能資本家」「無機能資本家」概念及び「出資」と「貸付」概念の相違を理解すること。（120分）
第4回	企業形態の展開過程について　個人企業→合名会社→合資会社→株式会社について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	企業組織諸形態をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	唯物弁証法による企業形態の展開過程を理解すること。（120分）
第5回	株式会社の決定指標について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	譲渡自由な等額株券制、全社員有限責任制、法人格等についてネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	株式会社の組織形態を理解すること。（120分）
第6回	株価形成の理論について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	株価に影響を与える要因は何か？をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記を念頭に新聞の株式欄を見てみよう。（120分）
第7回	株式会社の設立について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	株式会社の設立過程をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	商法（会社法）等で規定される会社形態を調べてみよう。（120分）
第8回	株式―株主権　株主の権利・義務について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	利益配当請求権、議決権等についてネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	株主代表訴訟について調べてみよう。（120分）
第9回	配当政策　自己（内部）金融について述べる。	
	事前学習（内容・時間）	欧米と比較して日本の企業の方が配当が低い訳を考えてみよう。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記を念頭に新聞の株式欄を見てみよう。（120分）
第10回	優先株式①	
	事前学習（内容・時間）	優先株式をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記を念頭に新聞の株式欄を見てみよう。（120分）
第11回	優先株式②	
	事前学習（内容・時間）	優先株式をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記を念頭に新聞の株式欄を見てみよう。
第12回	無額面株式	
	事前学習（内容・時間）	何故、日本では全て無額面株になったのか？をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	上記を念頭に新聞の株式欄を見てみよう。（120分）
第13回	自己株式①	
	事前学習（内容・時間）	自己株式の問題点をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	自己株式による企業犯罪をネットで検索してみよう。（120分）
第14回	自己株式②	
	事前学習（内容・時間）	自己株式の解禁は何故行われたのか？をネットで検索しておくこと。（120分）
	事後学習（内容・時間）	自己株式の解禁によって企業財務にどのような影響が生じたかを考えてみよう。（120分）
第15回	財務管理のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	講義の総括を行うので、復習しておくこと。講義全体を通して疑問があれば質問すること。（120分）
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて復習しておくこと。（120分）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5230-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
会社法	219～ 経営情報学科 ～218	2年生・前期	2単位	選択	吉野　正	
履修の前提条件	「法学」を履修していることが望ましいです。					

授業概要　（Course Outline）

会社の法的な仕組みを学んで行きます。まず、会社の法的な性質を理解できるようになった上で、会社の種類ごとの法的な性質の違いを学びます。その後、株式会社の4つの類型を学んで、株式会社の各機関（株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、委員会等）の機能を理解できるよう授業を進めます。最後に取締役にどのような責任が課せらているかを学んで行きます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

株式会社、持分会社についての法的な知識を修得して、ビジネス社会で必要とされる汎用的技能を身に付けます。具体的には、株式会社、持分会社の法的な知識を修得して、ニュース、新聞等の経済報道をより正確に理解できるようになることを目指します。更に株式会社の各機関の役割について知識を身に付け、役員（主に取締役）の法的な責任を深く理解することで、ビジネス社会において法的なリスクを回避できる汎用的技能の修得を目指します。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

株式会社について自主的にテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

金曜・2時限の授業後に連絡、質問、相談等を受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：授業の最初に前回の内容について質問を行いますので、積極的な発言を期待します。
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
現代商法入門（第10版） デイリー六法	近藤光男編 大石 眞 編集	有斐閣 三省堂	9784641221208 978-4-385-15963-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作、神作裕之、他編	有斐閣	9.78464E+12

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験９５％　平常点（レポートの提出状況等）5%。 成績評価の基準：①会社の特徴について理解をしているか。②株式会社、合名会社、合資会社、合同会社のそれぞれの性質の違いを理解しているか。③株式会社のうち取締役会を設置することで機関の権限にどのような違いが出てくるかを理解しているか。④株式会社の指名委員会等設置会社、監査等員会設置会社を理解しているか。⑤取締役にどのような責任が課せられているか説明できること。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	会社法とは	
	事前学習（内容・時間）	民法、商法、会社法、刑法の違いを事前に学ぶ
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第2回	会社の法的意義	
	事前学習（内容・時間）	法人と自然人の違いを教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第3回	持分会社	
	事前学習（内容・時間）	持分会社の種類を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第4回	持分会社の責任	
	事前学習（内容・時間）	持分会社と社員の責任を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第5回	株式会社と持分会社の比較	
	事前学習（内容・時間）	株式会社の株主のことを教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第6回	株式会社の類型（1）	
	事前学習（内容・時間）	取締役会設置会社のことを教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第7回	株式会社の類型（2）	
	事前学習（内容・時間）	委員会設置会社の意味を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第8回	株式会社の役員、機関	
	事前学習（内容・時間）	株式会社の機関の種類について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第9回	公開会社と非公開会社	
	事前学習（内容・時間）	株式譲渡の可否について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第10回	取締役の責任（1）	
	事前学習（内容・時間）	取締役の会社に対する義務について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第11回	取締役の責任（2）	
	事前学習（内容・時間）	経営判断の意味を教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第12回	取締役の責任（3）	
	事前学習（内容・時間）	株主代表訴訟について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第13回	監査役、会社参与及び会計監査人の責任	
	事前学習（内容・時間）	監査役の役割について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第14回	株式の譲渡	
	事前学習（内容・時間）	株式譲渡の方法について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	会社と従業員の関係について教科書で読んでおく
	事後学習（内容・時間）	講義ノートの復習
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5240-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
監査論	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	春日　克則	
	～218 経営情報学科	3・4年生・後期				

履修の前提条件	簿記や会計学の基本的な知識を習得していることが望ましいですが、企業の監査（スポーツでいえば審判すること）に興味を持つことが必要です。

授業概要　（Course Outline）

監査をスポーツの審判と比較すると分かりやすいと思います。スポーツのうち、ボーリングやゴルフなどは自分１人だけでプレイできるため（楽しいかどうかは？）他人にチェックしてもらう必要はありません。しかし、テニスや柔道などは相手がいるスポーツなので、ルールの適用や解釈、得点の判断などはプレーヤー以外の第三者、つまり審判が必要になります。もちろん、審判を置かずにお互いの話し合いでやれなくはないですが、意見が食い違った場合には調整が困難になります。そこで、偏りのない第三者の審判を用意しておいた方がスムースに試合を楽しめます。監査は、会社とその利害関係者（株主や債権者）との間で審判と同じ役割を果たします。つまり、会社と利害関係者の意見が一致しない場合、会社は必要なお金が集められず、株主等も投資が出来なくなります。その結果、社会的に有用な活動が停滞することになります。そこで、独立した第三者（監査人）を用意しておき、審判（監査）を行わせることで、効率的な社会が実現できることになります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

講義では、監査の必要性を学んだ上で、実際の手順、すなわち、実施のための準備、計画、実行、そして結果の報告を行うために必要な基礎的な理解を得ることを目標としています。
この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシーの「Ⅲ」を前提としながら、「Ⅳ」および「Ⅴ」の達成に主体的に関与するものです。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けています。そこで、当該時間において、双方向で課題についてコミュニケーションを図って行きたいと思います。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却します。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入し、返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いましょう。

kasuga

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（455研究室）にて随時受け付けています。また、メール(kasuga@kiis.ac.jp)での相談等も歓迎します。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：公認会計士試験の監査論と授業内容が関連しています。
学習の確認：ポートフォリオシートと小テストによって学習の確認を行います。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『監査論入門［第4版］』	長吉眞一、伊藤龍峰他	中央経済社	978-4-502-32251-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

経営情報学の応用・発展領域にある「監査論」について体系的に学習し、一定の理解・技能を修得しているかを評価します。
具体的には、定期試験60%、毎回の課題提出40%の割合を持って評価します。なお、講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされますが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなります。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション－自己証明は証明にあらず－大日本製糖事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「はじめに」と「目次」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第2回	財務諸表監査の社会的役割と公認会計士－山陽特殊鋼事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第1章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第3回	監査の必要性と法定監査制度	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第1章」を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第4回	監査全体の流れ－東北文化学園大事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第2章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第5回	監査基準－大光相互銀行事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第3章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第6回	リスク・アプローチ監査	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第4章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第7回	内部統制	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第5章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第8回	中間テスト（これまで学習した項目の理解度テスト）とその解説	
	事前学習（内容・時間）	第1回から前回までの総復習を行うこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	中間テストの問題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第9回	監査上の主要な検討事項（KAM－Key Audit Matters－）	
	事前学習（内容・時間）	指定した企業の経営上の問題点について予習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第10回	EDINETによる監査報告書の検索と検討	
	事前学習（内容・時間）	EDINETの検索方法について、配付資料により予習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第11回	監査の実施－東芝事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第7章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第12回	監査計画－オリンパス事件－	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第6章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第13回	監査結果の報告	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第8章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第14回	パブリック・アカウンタビリティ（公的説明責任）	
	事前学習（内容・時間）	教科書「第12章」を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	第9回から前回までの総復習を行うこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5600-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コンピュータ会計	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	岩下　昌美	
コンピュータ会計Ⅰ	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	ソフトのライセンス数により受講制限を行います。 メール（masami-i@g.kiis.ac.jp)にて「受講希望　学籍番号と氏名」と送信してください。メールの先着順により受講者を決定します。 また、操作に関する知識と複式簿記に関する基礎知識が必須。大学内のネットワークにログインできること。必ずテキストを購入すること。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーにもとづき，本講義ではコンピュータ会計の基礎的なレベルについて説明をします。
1年時の「簿記」講義において，手記会計をもとに学んだと思いますが，実社会の企業においては，会計処理（帳簿記録）もコンピュータを利用し会計ソフト（システム）で行われている場合がほとんどです。そこで，業界トップシェアの会計ソフトである「弥生会計」を用いて，会計ソフトのしくみ，メニュー構成，基本操作，各種帳票類の出力方法などを学習します。さらには経理担当者として必要な給料計算および税務の知識などもあわせて学習しますので，税理士事務所などでインターンシップの際に役立つ内容です。
また令和3年度において「電子帳簿保存法」の改正があり、おおむねすべての企業が影響をうけることになりますので、その内容および要件にも触れてみたいと思います。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

会計ソフトのしくみ，メニュー構成，基本操作，各種帳票類の出力，特殊機能，会計情報の活用方法について学習し，企業においての会計ソフトの導入から財務諸表の作成ができる能力を身につけます。会計ソフトに関連する検定試験（電子会計実務　3級，2級　弥生会計　2級）の取得も可能となります。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

企業が現実に行っている会計処理などについて，各自が毎回実習を積み重ねていきますので，遅刻欠席のないようにお願いします。授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。
毎回の授業終了時には成果物の提出をお願いします。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問などは，授業の前後またはオフィスアワーを利用してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

会計ソフトを使用した検定試験（日本商工会議所主催電子会計実務）を推奨します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。

教材

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『令和4年度コンピュータ会計　「基本」テキスト』	弥生スクールプロジェクトメンバー（編集）	実教出版	978-4407355154

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『令和4年度コンピュータ会計　「基本」問題集』	弥生スクールプロジェクトメンバー（編集）	実教出版	978-4407355161

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験（60%），レポート（10%），平常点（30%）。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況，毎回の授業最後の成果物提出状況なで判断する。
成績評価の基準：①会計ソフトのデータファイル作成，基本操作（入力，編集，修正，削除），開始残高登録，科目登録，補助科目登録などができるか。②残高試算表で確認，チェックができるか。③固定資産管理ができるか，④消費税を理解して会計処理ができているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（講義の進め方，講義内容，受講上の諸注意，評価方法などを説明します。） 複式簿記の基礎知識（3級程度）を復習します。	
	事前学習（内容・時間）	簿記3級で学んだ簿記一巡の手続について確認しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義時の簿記3級の問題を再度復習し確認しておくこと。（2時間）
第2回	第1章　企業活動と会計処理：企業経理，会計情報の活用と作成について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第1章pp.8～24を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	企業活動と会計処理について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第3回	第2章　会計ソフトの操作（基礎知識）①：コンピュータの関連知識，会計ソフトの起動，データファイル作成，バックアップ，復元，終了について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第2章pp.26～31を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	会計ソフトの利用方法について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第4回	第2章　会計ソフトの操作（基礎知識）②：会計データの入力操作と帳簿体系，伝票検索・印刷方法，集計表の作成について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第2章pp.32～54を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	会計ソフトの入力操作，帳簿体系について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第5回	第3章　基幹業務の内容とビジネス法務：商取引に必要なビジネス法務，企業の業務システムと会計処理について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3章pp.56～59を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	企業の業務やビジネス法務について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第6回	第3章　業務ごとの会計処理（1）現金預金に関連する業務，（2）売上に関する業務について，入力作業を行います。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3章pp.60～82を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	企業の業務（現金預金，売上）について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第7回	第3章　業務ごとの会計処理（3）仕入に関連する業務，（4）経費に関する業務，（5）その他の債権・債務に関する業務について，入力作業を行います。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3章pp.83～108を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	企業の業務（仕入，経費，その他）について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第8回	第3章　業務ごとの会計処理（6）給料に関する業務について，給料計算の仕組みを学習したのち入力作業を行います。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第3章pp.109～122を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	企業の業務（給与）について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第9回	第4章　税金に関連する業務と会計処理：法人税のしくみ，消費税のしくみについて学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第4章pp.124～143を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	税金に関する業務について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第10回	第5章　会計データの入力処理と集計①：テキスト例題による証憑類のデータ入力を行っていきます。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第5章pp.142～155を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義時の証憑に基づく会計処理について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第11回	第5章　会計データの入力処理と集計②：テキスト例題の証憑類によるデータ入力を行っていきます。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第5章pp.156～175を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義時の証憑に基づく会計処理について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第12回	第5章　会計データの入力処理と集計③：テキスト例題の証憑類によるデータ入力を行っていきます。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第5章pp.176～190を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義時の証憑に基づく会計処理について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第13回	第6章　月次決算に関連する業務と会計処理：決算の手続き，残高チェック，減価償却について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第6章pp.192～203を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	月次決算について，テキストを再度確認して理解を深める。（2時間）
第14回	第6章　年次決算と決算書出力方法について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第6章pp.204～223を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	月次決算および年次決算について，講義時の内容を再度確認して理解を深める。（2時間）
第15回	固定資産管理（固定資産台帳へ登録，減価償却の自動計算）および電子帳簿保存法の概要について学習します。	
	事前学習（内容・時間）	指示された固定資産について，国税庁のホームページより耐用年数を調べておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	減価償却について，講義時の内容を再度確認して理解を深める。（2時間）
第16回（定期試験）	６０分定期試験（実技試験を含む）	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5910-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
税務会計論	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	春日 克則	
税務会計論Ⅰ	～218	2年生・前期				
履修の前提条件	「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、税金に興味を持っていることが大切です。					

授業概要 （Course Outline）

税は、取る者と取られる者との戦いの歴史といえます。例えば、株式会社などの所得（利益）に課せられる法人税は、国から見ると（個人）所得税や消費税と並ぶ大きな財源となっています。反面、納税者の側からは、住民税、事業税を合わせると法人所得の約40%が徴収されることになります。そこで、税務当局と納税者の利害が激しくぶつかることになるのですが、「税務会計論」（税務会計論Ⅰ）では、この戦いをどのように終わらせ、どうしたらお互いが納得できるかの仕組みを学びます。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

税を学ぶ場合に、最も重要な原則は租税法律主義です。この原則は、納税者の代表が決めた法律によってしか税を課すことができないというものです。そこで、この授業では、国と納税者が争った判例をみることによって、租税法律主義を具体的に理解することを目標とします。同時に、このような理念が税額の計算にどのように具体的に活かされているかについても理解することを目標とします。
この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシーの「Ⅲ」を前提としながら、「Ⅳ」および「Ⅴ」の達成に主体的に関与するものです。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けています。そこで、当該時間において、双方向で課題についてコミュニケーションを図って行きたいと思います。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却します。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入し、返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いましょう。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（455研究室）にて随時受け付けています。また、メール(kasuga@kiis.ac.jp)での相談等も歓迎します。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：税のスペシャリスト＝税理士試験の基礎となる授業です。
学習の確認：ポートフォリオシートと小テストによって学習の確認を行います。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示する			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
よくわかる税法入門	三木義一	有斐閣	978-4-641-28150-9

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

経営情報学の応用・発展領域にある「税務会計論」（税務会計論Ⅰ）について体系的に学習し、一定の理解・技能を修得しているかを評価します。
具体的には、定期試験60%、毎回の課題提出40%の割合を持って評価します。なお、講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされますが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなります。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	サラリーマンなのに37年間、所得税を納めなかった男－申告納税制度－	
	事前学習（内容・時間）	日本の税制、特に所得税制についてインターネットを活用して調べる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第2回	ホステスの報酬にかかる源泉徴収事件－税を学ぶ場合に最も重要な原則「租税法律主義」－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読め疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第3回	1600億円をタダでもらっても税金はゼロ？（武富士事件）－租税法律主義は正しいのか－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第4回	同族会社の判定①－特殊関係人－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第5回	同族会社の判定②－具体的な事例を考える－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第6回	税金の金額を計算してみよう①－簿記・会計上の利益を所得に変換する便利な用具（別表4）－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第7回	税金の金額を計算してみよう②－税金の額を簡単に計算するための便利な用具（別表1と次葉）－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第8回	中間テスト（これまで学習した項目の理解度テスト）とその解説	
	事前学習（内容・時間）	第１回から前回までの総復習を行うこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	中間テストの問題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第9回	交際費を使うと税金がかかる－交際費の限度額計算（別表15）－	
	事前学習（内容・時間）	交際費についてインターネット等で概要と問題点をまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第10回	ふるさと納税をしてみよう－寄附金制度－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第11回	寄附をすると税金がかかる－寄附金の限度額計算（別表14）－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第12回	配当金を受け取っても税金がかからない－受取配当等の益金不算入（二重課税の防止）－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第13回	皆さんにとって身近な税金－個人の所得税（納税義務の範囲）－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第14回	どんなことをすると税金がかかるのか－所得の分類－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第15回	国際的な税金逃れを防止する－GAFAの支払っている税金は適正か－	
	事前学習（内容・時間）	事前に配付された資料を読み疑問点をまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題について振り返りの学習を行う。（2時間）
第16回（定期試験）	定期テスト	

ナンバリング（Numbering）
1EAN-5900-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
税法学	219～ 経営情報学科	3・4年生・後期	2単位	選択	平山　誠一郎	○
税法学総論	～218 経営情報学科	2年生・後期				

履修の前提条件	税法は、社会のルール。税法学の授業はそのルールを教える授業。 従って、税法学総論を受講する者は、校則で決められたルールは必ず守っていただきたい。 ①　遅刻・欠席をしない。 ②　やむを得ず遅刻をした場合は、黙って自分の席に座らずに教授のところに来て理由を述べる。 ③　授業中のスマホの私的利用、私語は禁止 ④　居眠り禁止（起こします）

授業概要　（Course Outline）

「租税は、…およそ民主主義国家にあっては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものであ」る(大島判決（最判：昭和60年3月27日判決))とされている。税とは何か、税による国家の活動にはどのようなものがあるかを学ぶ。
また、身近な税である所得税・消費税を取り上げ、今後学生諸君が実生活に出てどのようにかかわっていくかなどを学ぶ。
なお、所得税の確定申告書を作成するなど実践的な学習を行う。 国税庁ホームページにアクセスして、所得税の申告書作成システムを利用した所得税確定申告書の作成模擬演習を行うなど、電子機器を取り入れた授業も予定している。
担当教員は、国税組織において、税法の解釈・適用に関する審理事務や課税処分に対する不服審査事務などの実務経験がある。

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

学則第3条を踏まえ、経営情報学の応用領域にある租税法に関して基本的な知識を修得することを目標とします。
①租税とは何かを理解する。
②所得税の仕組みを理解する。
③所得税確定申告書の作成ができるようになる。（国税庁ホームページを利用しての作成を含む。）
④消費税の仕組みと特色を理解する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

①授業中不明の点があれば積極的に質問してください。また、教授からの質問に対しては自分の考えを率直に述べてください。
②国税庁ホームページなどの情報を提供しますので、自ら閲覧するなどして知識等を広めてください。
③毎回コメント用紙（兼出席票）を配りますので、意見や質問などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問、相談等は、研究室（456）にて随時受け付けます。連絡先はhirayama@kiis.ac.jpです。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート及び小テストにより学習の確認を行います。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
税務大学校講本 （税法入門、所得税法、消費税法）	―	国税庁ホームページ	―

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プレップ租税法〔第4版〕	佐藤　英明	弘文堂	978-4-335-31331-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（講義時の小テストの解答状況や受講態度など）40%、定期試験60%で評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	「租税の意義」	
	事前学習（内容・時間）	税大講本の税法入門（以下「税法入門」という）の１頁を読んでおく。 租税に関して、見聞きしたことや感じていることをまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	ビデオを見た感想を記述し、講義内容について理解を深める。（2時間）
第2回	「財政」（歳入・歳出）	
	事前学習（内容・時間）	税法入門の「財政の仕組みと役割」（87～92頁）を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	我が国における歳入・歳出の状況について、確実に理解する。（2時間）
第3回	「租税負担率・国民負担率」及び「財政赤字」	
	事前学習（内容・時間）	国税庁ホームページ（税の学習コーナー（国の財政））を閲覧して知識を深める。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	我が国の税制の状況を理解し、今後いかにすべきかを考える。（2時間）
第4回	「租税の種類」及び「租税の原則」	
	事前学習（内容・時間）	税法入門の「租税の分類」（7～9頁）及び「租税の原則」(10～12頁)を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだことをまとめ、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第5回	「租税の根拠」及び「担税力」	
	事前学習（内容・時間）	税法入門の「租税の根拠と配分」(1～3頁)及び「租税体系についての考え方」(16～18頁)を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「担税力」、「垂直的公平」、「水平的公平」、「タックスミックス」など授業で学んだことをまとめ、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第6回	「租税法律主義」及び「三権分立」	
	事前学習（内容・時間）	税法入門の「法体系の中における税法の位置づけ」及び「租税法律主義」（20～21頁）を読んでおく。「三権分立」とは何かを調べておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「三権分立という制度について、どのように考えるか」について考えをまとめ、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第7回	「「所得の概念」及び「所得の種類」	
	事前学習（内容・時間）	税大講本の所得税法（以下「所得税法」という）の「所得の概念」（3～4頁）並びに「所得の種類と意義」及び「各種所得の内容」（15～26頁）を読んでおく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだことをまとめ、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第8回	電子機器を使用した所得税確定申告書の作成	
	事前学習（内容・時間）	国税庁ホームページでスマホ申告の概要を確認する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだ「電子機器を使用した所得税確定申告書の作成」の操作要領を復習する。（2時間）
第9回	「給与収入」と「給与所得」の関係	
	事前学習（内容・時間）	所得税法の「給与所得の金額の計算」（30～31頁）を読んでおく。
	事後学習（内容・時間）	「給与収入」と「給与所得」の関係を、出題された計算問題を解くことによって理解する。（2時間）
第10回	「所得控除」について	
	事前学習（内容・時間）	所得税法の「所得控除の種類と意義」及び「各種所得控除の内容」（91～116頁）を読んで所得控除の概要を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだ「所得控除」について、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第11回	「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」	
	事前学習（内容・時間）	「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」の各控除について、所得税法で具体的な要件と控除額を確認しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題（小テスト）により、「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」の控除額の計算を行う。（2時間）
第12回	「課税される所得金額」及び「税額の計算」	
	事前学習（内容・時間）	所得税法の「税額計算」（117～120頁）を読んで、税額計算の方法等を確認しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題（小テスト）により、「税額の計算」等を行う。（2時間）
第13回	「源泉徴収制度」	
	事前学習（内容・時間）	所得税法の「源泉徴収制度」（132～144頁）を読んで概要を理解しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだ「源泉徴収制度」等について、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第14回	「納付税額の計算」及び「所得税確定申告書の作成」	
	事前学習（内容・時間）	第9回から第13回までを復習し、納付税額の計算手順を確認しておく。また、確定申告書の様式を確認しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題で提出された設例を基に、電子機器を利用して確定申告書を作成する。（2時間）
第15回	「消費税の仕組み」	
	事前学習（内容・時間）	税大講本の消費税法の3～10頁を読んで、消費税法の概要を確認しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で学んだことをまとめ、課題（小テスト）を解答する。（2時間）
第16回（定期試験）	記述式問題及び計算問題（租税について正しく理解できているか、所得金額や税額等の計算が正確にできるかなどの確認問題）による定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1EMN-5380-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
経営戦略論	219～ 経営情報学科	1年生・前期	2単位	選択	遠藤　真紀	○
	～218	2年生・前期				
履修の前提条件	1年生から履修可能な科目であるが、経営学の派生理論であるため、経営学の基礎である「経営学総論Ⅰ」「経営学総論Ⅱ」などを履修している事が望ましい。また「マーケティング論」、「ベンチャービジネス入門」、「会計学入門」、「簿記」など、基礎的な経営学関連科目を履修し、理解していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神、3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ、中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。IT人材として必要な、経営戦略に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の戦略論まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

現代企業の経営における戦略の意義や必要性および主な経営戦略理論（分析型・プロセス型経営戦略，ドメイン、製品・市場戦略、経営資源、競争戦略等）について理解していること。具体的には、卒業後、IT人材として就職した企業の経営戦略等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てるようになること。また例えば、企業物とよばれる小説またはビジネス雑誌・書籍等の理解が促進されるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
また企業経営や経営戦略に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営戦略論要論	岸川善光	同文舘出版	4-495-37421-4

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
よくわかる経営戦略論 戦略プロフェッショナル	井上善海・佐久間信夫編著 三枝 匡	ミネルヴァ書房 日経ビジネス文庫	978-4-623-05069-7 978-4-532-19145-0

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：学習に対する積極性および経営戦略の意義や各経営戦略理論等について基礎的な理解が図られている。自身に関係する企業の経営戦略等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解）	
	事前学習（内容・時間）	企業および経営・戦略に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	本講義のアウトラインについて復習，課題への取り組み（2時間）
第2回	経営戦略の意義　－環境変化と経営戦略－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第3回	経営戦略の意義　－経営戦略の定義，企業と環境のかかわり方－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	経営戦略の意義　－将来志向的な構想，意思決定プロセス－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	経営戦略論の生成と発展　－経営戦略論の生成（チャンドラー，アンゾフ，スタイナー等）－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	経営戦略論の生成と発展　－分析型経営戦略論（経験曲線，PPMほか）－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	経営戦略論の生成と発展　－プロセス型・情報創発型・社会調和型経営戦略論－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	経営戦略論の体系　－全体戦略と個別戦略，経営戦略の構成要素－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	経営戦略の体系　－経営戦略策定プロセス，経営戦略の構成要素の適合性－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	ドメイン　－ドメインの意義，ドメイン定義の要件－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	製品・市場戦略　－製品・市場戦略の意義，製品・市場マトリクス－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	製品・市場戦略　－多角化戦略，差別化と細分化，新製品開発，新市場開拓－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	経営資源　－経営資源と経営戦略－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	競争戦略　－競争戦略の意義，価値連鎖，競争基本戦略，競争戦略の定石－	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング(Numbering)
1AMN-5560-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コマース論Ⅰ	219～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	鈴木　和也	
中級小売商業Ⅰ	～218					

履修の前提条件	1.経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱ、マーケティング論などの関連する科目を履修し単位を取得していること。2.履修者全員が販売士検定試験(2級)を受験すること。

授業概要　(Course Outline)

この講義は、多様化・高度化した顧客ニーズを的確に捉え、ニーズに合った商品やサービスの提供、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキルを身に付ける。さらには、将来、商品開発やマーケティング等の分野で活躍できるための専門的な知識も習得する。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

日本商工会議所主催販売士検定試験2級を受験し合格を目指す。(販売士試験については、現在1級から3級までCBT方式にて、指定会場でコンピュータを使った受験になりました。年間を通して受験が可能です。)

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研 究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください)

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
販売士検定試験2級ハンドブック(応用編)～リテールマーケティング(販売士)検定試験2級対応	日本商工会議所 全国商工会連合会	カリアック	H00100227

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ユーキャンの販売士(リテールマーケティング)検定2級速習テキスト＆問題集　第4版	ユーキャン販売士検定試験研究会	自由国民社	978-4-426-61310-5

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%)

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	授業概要（授業の進め方、評価について、販売士検定試験について） 流通と小売業の役割		
	事前学習（内容・時間）	教科書Ⅲ頁～Ⅷ頁を確認する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第2回	小売業態変化に関する理論仮説		
	事前学習（内容・時間）	教科書11頁～17頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第3回	世界の小売業の動向		
	事前学習（内容・時間）	教科書18頁～20頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第4回	組織形態別小売業の運営特性－その１－		
	事前学習（内容・時間）	教科書28頁～39頁を通読する。	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答。	（2.0h）
第5回	組織形態別小売業の運営特性－その２－		
	事前学習（内容・時間）	教科書40頁～52頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第6回	店舗形態別小売業の運営特性－その1－		
	事前学習（内容・時間）	教科書54頁～58頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第7回	店舗形態別小売業の運営特性－その２－		
	事前学習（内容・時間）	教科書59頁～77頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第8回	中小小売業の課題と商業集積の方向性		
	事前学習（内容・時間）	教科書78頁～87頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第9回	マーチャンダイジングの戦略的展開		
	事前学習（内容・時間）	教科書92頁～98頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第10回	商品計画の戦略的立案		
	事前学習（内容・時間）	教科書100頁～116頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第11回	販売計画の戦略的立案		
	事前学習（内容・時間）	教科書118頁～132頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第12回	仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開		
	事前学習（内容・時間）	教科書134頁～151頁を通読する。	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答。	（2.0h）
第13回	販売政策の戦略的展開		
	事前学習（内容・時間）	教科書154頁～177頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第14回	商品管理政策の戦略的展開		
	事前学習（内容・時間）	教科書180頁～204頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第15回	物流政策の戦略的展開		
	事前学習（内容・時間）	教科書206頁～223頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （リテールマーケティング［販売士］検定試験2級と同定程度の内容、難易度の問題で効果測定を実施する。）		

ナンバリング(Numbering)
1EMN-5570-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
コマース論Ⅱ	219～ 経営情報学科	2学年・後期	2単位	選択	鈴木　和也	
中級小売商業Ⅱ	～218					

履修の前提条件	1.コマース論Ⅰを履修し単位を取得していること。2.履修者全員が販売士検定試験(2級)を受験すること。

授業概要　(Course Outline)

この講義は、多様化・高度化した顧客ニーズを的確に捉え、ニーズに合った商品やサービスの提供、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキルを身に付ける。さらには、将来、商品開発やマーケティング等の分野で活躍できるための専門的な知識も習得する。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　(Objectives)

日本商工会議所主催販売士検定試験2級を受験し合格を目指す。(販売士試験については、現在1級から3級までCBT方式にて、指定会場でコンピュータを使った受験になりました。年間を通して受験が可能です。)

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研 究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください)

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
販売士検定試験2級ハンドブック(応用編)～リテールマーケティング(販売士)検定試験2級対応	日本商工会議所 全国商工会連合会	カリアック	H00100227

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ユーキャンの販売士(リテールマーケティング)検定2級速習テキスト＆問題集　第4版	ユーキャン販売士検定試験研究会	自由国民社	978-4-426-61310-5

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%)

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	授業概要（授業の進め方、評価について） 戦略的ストアオペレーションの展開視点		
	事前学習（内容・時間）	教科書Ⅲ頁～Ⅸ頁を確認	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第2回	店舗運営サイクルの実践と管理		
	事前学習（内容・時間）	教科書3頁～28頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第3回	戦略的ディスプレイの実施方法		
	事前学習（内容・時間）	教科書33頁～59頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第4回	レイバースケジューリングプログラムの役割と仕組み		
	事前学習（内容・時間）	教科書73頁～82頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第5回	人的販売の実践と管理		
	事前学習（内容・時間）	教科書89頁～101頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第6回	リテールマーケティング戦略の考え方		
	事前学習（内容・時間）	教科書105頁～128頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第7回	リテールマーケティング戦略の実施方法		
	事前学習（内容・時間）	教科書129頁～143頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第8回	顧客戦略の展開方法		
	事前学習（内容・時間）	教科書205頁～213頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第9回	リジョーナルプロモーションの企画と実践		
	事前学習（内容・時間）	教科書167頁～201頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第10回	インストアマーチャンダイジングとしてのスペースマネジメント		
	事前学習（内容・時間）	教科書194頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第11回	商圏分析ならびに出店戦略の立案		
	事前学習（内容・時間）	教科書147頁～158頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第12回	店舗（業態）開発の手順と実践		
	事前学習（内容・時間）	教科書285頁～301頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第13回	販売管理者の法令知識		
	事前学習（内容・時間）	教科書221頁～282頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第14回	販売事務管理に求められる経営分析		
	事前学習（内容・時間）	教科書307頁～320頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第15回	小売業の組織体制と従業員管理／店舗施設などの維持管理		
	事前学習（内容・時間）	教科書325頁～368頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と練習問題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （リテールマーケティング［販売士］検定試験2級と同定程度の内容、難易度の問題で効果測定を実施する。）		

ナンバリング（Numbering）
1EMN-6430-U2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ベンチャー企業論	219～ 経営情報学科	2・3年生・後期	2単位	選択	遠藤　真紀	○
	～218	1年生・後期				
履修の前提条件	「ベンチャービジネス入門」が一定の基礎となるため履修している事が望ましい。また経営学・会計学関連の科目をできるだけ多く履修している事が望ましい。「ベンチャービジネス入門」同様、社会のあらゆる事象に興味を持ち、自分の理想とする社会や仕事、働く意義ややり甲斐とは何かを考え、前向きに生きようとする事が前提です。					

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。ベンチャーだけでなく，ビジネスや経営は，実際に行ってみないと本当の理解はできません。しかしテキストによる基本理論の理解だけでなく，ビデオ等による演習を通じて疑似体験する事は可能です。これまでの実務経験を踏まえ、企業経営が身近に感じられるような講義を行い，IT人材として必要なベンチャー企業に関する基本的な知識だけでなく，自身と社会や企業との関わりについて深く知ろうとする積極性を養っていきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

IT人材に必要な、ベンチャー企業の社会的意義や特徴および課題等の基礎的知識を理解し、社会や企業について関心を持つようになる。大会社・大企業に執着することなく、またサラリーマン（給料のために働く人）となる事と当然とせず、自ら会社を興すなど、ビジネスマン（自分のやりたい仕事を創造し実践する人）として社会で活躍できるマインドを身につける。また社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、販売士等各種の資格にも挑むようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオの聴講およびベンチャー企業経営者による講演等による演習を行います。聴講したビデオ・講演等に基づきディスカッションを行うため、ビデオや講演内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
専門基礎ライブラリー ベンチャービジネス論	太田一樹ほか	実業出版	978-4-407-31077-1

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞出版社	10-4532113032

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：広く社会や企業および仕事の意義等について理解し、自分自身のと社会やベンチャー企業等との関わりについて理解している。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解）	
	事前学習（内容・時間）	ベンチャーや起業の体験談およびそれに関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	本講義のアウトラインについて復習，課題への取り組み（2時間）
第2回	企業の存在意義とベンチャー企業の必要性	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第3回	ベンチャー企業とは：わが国のベンチャー企業の実態	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成①	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	ベンチャー企業の特性	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	ベンチャー企業の成長・発展過程（1）成長の考え方と経営戦略の論理	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	ベンチャー企業の成長・発展過程（2）マーケティングの重要性	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	ベンチャー企業の成長・発展過程（3）イグジット（出口戦略）とIPO・MBOの動向	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成②	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	ベンチャー企業の活動実態と問題点（1）スタートアップ期	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	ベンチャー企業の活動実態と問題点（2）成長期、成熟期	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	ベンチャー企業の活動実態と問題点（3）安定期	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成③	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	ベンチャー企業と政策	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1EMN-6040-U2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
中小企業論	219～ 経営情報学科	2・3年生・前期	2単位	選択	遠藤　真紀	○
	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	中小企業論は、大企業に焦点をあてた一般的な「経営学」を中小企業にあてはめていく学問です。よってベースとなる基本的な経営学関連科目である「経営学総論Ⅰ」「経営学総論Ⅱ」や「経営戦略論」、「マーケティング論」、「会計学入門」、「簿記」などを履修し、理解しておく必要があります。

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。中小企業は，わが国において企業数および雇用される従業員数とも圧倒的多数を占め，またわが国産業の競争力を下支えしています。IT人材として必要な知識として，講義では，大企業との格差問題や下請問題のみならず，中小企業が社会や地域経済に寄与していることについて議論していきます。テキストだけでなくビデオ教材等を活用し，また実務経験を踏まえ具体的な事例を交え，構造的・政策的・実践的な議論を展開していきます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

IT人材として必要な、中小企業における基礎的知識（特性や役割および政策等）および今日的な課題（大企業との格差問題や下請問題および中小企業に必要なマネジメント等）についての知識を修得し、理解していること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。
また中小企業の経営や戦略等に関するビデオ聴講等による演習を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加味します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
中小企業経営入門（第2版）	井上・木村・瀬戸編著	中央経済社	978-4-502-42141-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
現代中小企業経営論 よくわかる経営戦略論 戦略プロフェッショナル	川上義明 井上善海・佐久間信夫編著 三枝 匡	税務経理教会 ミネルヴァ書房 日経ビジネス文庫	4-419-04660-0 978-4-623-05069-7 978-4-532-19145-0

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：定期試験（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：学習に対する積極性および中小企業の経営についての基礎知識および今日的な課題についての知識を修得し、理解している。また企業経営に関して、今後の自身の自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインの理解）	
	事前学習（内容・時間）	中小企業およびそれに関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	本講義のアウトラインについて復習，課題への取り組み（2時間）
第2回	中小企業の特性	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第3回	中小企業の歴史	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第4回	海外の中小企業	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第5回	中小企業問題と中小企業政策	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第6回	中小企業の戦略マネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第7回	下請分業構造の変容と中小企業のマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第8回	中小企業ネットワークのマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第9回	地域産業集積の変容と中小企業のマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第10回	グローバル経済の変容と中小企業のマネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第11回	中小企業の組織・人材マネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第12回	中小企業の事業承継マネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第13回	中小企業の製品開発・事業開発マネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第14回	中小企業の財務マネジメント	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第15回	講義のまとめ（講義内容全体の総括）	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義ノートに基づき，ビデオ演習を含む，講義内容の復習（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1EMN-6320-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネスプランニング	219～ 経営情報学科	3・4年生・後期	2単位	選択	遠藤　真紀	○
	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	自身のビジネスアイディアを事業計画書へまとめるにあたり、経営学の基礎である「経営学総論Ⅰ」や「経営学総論Ⅱ」をはじめ、「会計学入門」、「簿記」、「経営戦略論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「流通経済論」、「会計学入門」など、基本的な経営学関連科目を履修し、理解している事が前提です。需要予測や資金計画・利益計画も作成するため、特に計数管理に必要な財務会計などの知識は必須となります。					

授業概要　（Course Outline）

本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の事業計画や創業計画の作成支援等，経営コンサルティング実務の経験を持つ教員が担当します。新しくビジネスを興す場合，製品・サービスの市場性等の見きわめ（市場調査・需要予測などの外部環境分析）や自社（自分）の能力評価（内部環境分析）が必要なため，過去の実務経験を踏まえ，アイディアの出し方やまとめ方および事業計画の作成方法をテキストやワークシート等を使って講義します。最終的には，IT人材として自分のビジネスアイディアを事業計画書としてまとめ，その内容をプレゼンテーションしてもらいます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

ビジネスの着眼点や起業して事業を成功させるために必要なマーケティングおよび資金計画・利益計画など、事前検討項目を理解するとともに、講義・演習を通じて、その検討結果を自分自身の事業計画書（ビジネスプラン）としてまとめていく能力を養成します。同時に、IT人材として事業の成功や失敗のケースを学び、社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、積極的に関連する資格（簿記や販売士等）にも挑むようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

基本的に対話型・演習型の講義になります。よってただ単に出席し，講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身のビジネスアイディア・ビジネスプランについての発表が期待されます。またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオ演習等を行います。資料やビデオ等に基づきディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。また土日を使った集中講義（特別講義）や学外の企業見学および既存のお店の損益分析などのビジネスシミュレーションを行う事もあります。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール（endo@kiis.ac.jp）等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

希望者には、必要に応じて、販売士（3級～1級）、経営学検定（マネジメント検定：初級、中級、上級）、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。
宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録（ポートフォリオ等）の提出は平常点として加点します。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
事業再構築のプランニング	井上善海ほか	中央経済社	4-502-37510-1

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
さあ、発明家の出番です！	藤村靖之	風媒社	4-8331-3134-X

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価方法：ビジネスプラン（50%）、平常点（出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート課題等の提出、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性）等（50%）を総合的に考慮して評価します。
評価基準：広く社会や企業および仕事の意義等について理解している。一貫性のあるビジネスプラン作成のプロセスおよび必要な各検討項目を理解している。自分自身のアイディアをビジネスプランとしてまとめることができる。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義の目的と進め方（講義内容のアウトラインおよびワークシートの理解）	
	事前学習（内容・時間）	シラバス，テキストの確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
第2回	自信と企業の関係，企業の存在意義と成長要因	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料の確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
第3回	経営理念・事業コンセプトの重要性	
	事前学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料の確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
第4回	新事業計画の策定手順と記入例	
	事前学習（内容・時間）	配布資料（事業計画書ワークシート）の事前確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料（事業計画書ワークシート記入例）の再確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
第5回	事業計画ワークシートの作成－演習（1）：ビジネスアイディアの抽出	
	事前学習（内容・時間）	配布資料（事業計画書ワークシート記入例）の再確認とビジネスアイディアの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身のビジネスアイディアの検討（2時間）
第6回	事業計画ワークシートの作成－演習（2）：ビジネスアイディアの評価	
	事前学習（内容・時間）	自身のビジネスアイディアの検討と評価（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身のビジネスアイディアの評価とブラッシュアップ（2時間）
第7回	事業計画ワークシートの作成－演習（3）：事業コンセプトと経営理念	
	事前学習（内容・時間）	自身のアイディアの事業コンセプトの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身のアイディアの事業コンセプトのブラッシュアップ（2時間）
第8回	事業計画ワークシートの作成－演習（4）：外部環境と内部環境の評価	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容の外部環境・内部環境の検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容の外部環境・内部環境の再検討（2時間）
第9回	事業計画ワークシートの作成－演習（5）：マーケティングの展開	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容のマーケティングの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容のマーケティングの再検討（2時間）
第10回	事業計画ワークシートの作成－演習（6）：ビジネスモデルの検討	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容のビジネスモデルの検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容のビジネスモデルのブラッシュアップ（2時間）
第11回	事業計画ワークシートの作成－演習（7）：収支計画（見積損益計算書の作成）	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容の収支計画の検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容の収支計画の再検討（2時間）
第12回	事業計画ワークシートの作成－演習（8）：資金計画（設備資金と運転資金）	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容の資金計画の検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容の資金計画の再検討（2時間）
第13回	事業計画ワークシートの作成－演習（9）：販売計画	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業内容の販売計画の検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業内容の販売計画の再検討（2時間）
第14回	ビジネス・プレゼンテーション（プレゼンテーションとビジネスプランの評価）	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業のプレゼンテーション内容の検討（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自身の事業のプレゼンテーション内容のブラッシュアップ（2時間）
第15回	講義のまとめと全体総括	
	事前学習（内容・時間）	自身の事業計画書の再確認（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義のまとめと全体総括の復習（2時間）
第16回（定期試験）	事業計画書(ビジネスプラン)およびプレゼンテーション資料の提出	

ナンバリング（Numbering）
1EGN-5510-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
国際経営論	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	小川　雄平	
	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	①世界経済や多国籍企業に興味があること。 ②新聞を読んで、時事問題に関心を持っていること。					

授業概要　（Course Outline）

経済のグローバル化と少子高齢化の進行に対応して、日本企業は製造業から商業・小売業に至るまで、中国や東南アジア諸国へと進出している。授業では、グローバル化する世界経済の実態を学び、経済環境に対応して採られる企業の国際経営戦略を考察する。実例に相応しい新聞記事を取り上げて理解を深める。
授業は、毎回準備するプリントとテキストを併用して進める。
受講者の理解度を確認するために、小テストを実施する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業では、学則第3条を踏まえて、経営学の基本知識の修得に努め、
・世界経済の現状が把握できること
・企業の国際経営戦略の課題が理解できること
・国際経営分野の更に専門的な学習への橋渡し、あるいは実生活での活用に役立てられること
を目指す。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

①授業中に受講生からの質問を受けたり、受講生に質問したりする等、双方向・対話型の授業を心掛け、受講生の積極的な学習意欲を引き出したい。
②企業の経営者との想定で、貿易摩擦・円高等にどのように対応するかを考え、報告してもらうような取り組みも実施したい。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

オフィスアワーは研究室（182号室）に待機しているので、気軽に訪ねてほしい。
メールによる質問も活用してほしい（メールアドレス：ogawa@kiis.ac.jp）。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修度確認チェック表」に必要事項を記入してメールで提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
国際ビジネス論を学ぶ	小川雄平・猿渡剛編著	中央経済社	978-4-502-35761-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
国際経営　第5版	吉原英樹	有斐閣	978-4-641-22172-7

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験を実施する。成績評価は、学習成果の達成度を評価する観点から、定期試験70%、授業中に実施する小テスト20%、授業への取組み10%とする。欠席日数が3分の1を超える者は定期試験の受験資格を認めない。

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーション：経済と経営の違い、国際経営とは？授業のアウトラインの説明		
	chigai	シラバスをよく読んで、注意事項をメモし、授業の全体の流れを把握しておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	プリントを熟読して授業内容を振り返り、不明な個所を明らかにしておく。	時間：2時間
第2回	株式会社の仕組みと企業経営		
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで「株式会社」について事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。	時間：2時間
第3回	多国籍企業の経営目標と国際経営戦略		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけてておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	テキストの第5章をよく読んで、多国籍企業の理解を深めておく。	時間：2時間
第4回	日本経済の構造変化と企業の多国籍化		
	事前学習（内容・時間）	テキストの序章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけてておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで、授業内容を復習する。	時間：2時間
第5回	日本企業のグローバル展開：グローバルサプライチェーンとは何か		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第6回	少子高齢化と日本的経営		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第7回	日本企業とアジアビジネス		
	事前学習（内容・時間）	テキストの4章と11章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第8回	為替レートと企業戦略Ⅰ：為替レートの決定要因、為替レートの影響、社内レート		
	事前学習（内容・時間）	テキストの3章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。	時間：2時間
第9回	為替レートと企業戦略Ⅱ：円高と生産・輸出拠点の移転・再移転		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。	時間：2時間
第10回	貿易取引の実際と決済		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで「外国為替」について事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第11回	自由貿易協定（FTA）と企業戦略		
	事前学習（内容・時間）	テキストの2章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第12回	メガFTAと企業戦略		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。	時間：2時間
第13回	自動車産業の生産・輸出基地としてのメキシコ		
	事前学習（内容・時間）	テキストの7章をよく読んで、自動車生産についての理解を深めておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第14回	多国籍企業とタックスヘイブン（租税回避地）		
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。	時間：2時間
第15回	日本企業の税務戦略と移転価格税制		
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで「移転価格税制」について事前学習し、疑問点を見つけておく。	時間：2時間
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。	時間：2時間
第16回（定期試験）	定期試験		

ナンバリング（Numbering）
1EGN-5530-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
国際情報分析	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	クリス　フリン	
履修の前提条件	英検準2級・TOEIC 550程度の英語能力が必要。					

授業概要　（Course Outline）

この講義では世界のマスコミや情報源を紹介し、主に英語の情報を分析して研究する。毎週時事ニュースの記事を紹介し、研究する。世界の主な新聞、テレビ、インターネットサイトなどの記事やレポートを徹底的に分析、理解、そして議論する。毎回のプリントが試験持ち込み可なので、大事にとっといてください。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP)、学習目標（学則1, 3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

現代の社会では国際化・情報化がマスコミに大きな影響を与えてきた。衛星テレビ、インターネットのニュースサイトやテレビ局のon-demand動画映像などが大量の情報を供給しているが、その中から適切な情報を検索、選択する技術が求められている。またはいわれるFAKE NEWSを見分けるスキルも身に付ける

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

中間試験と期末試験として、学生が新聞記事などを用意し、クラスに詳しく説明するというプレゼンテーション形式を実施する。または積極的に毎週の主なニュースを調べて、クラスに紹介する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。オフィスアワー：
火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。
試験日　5,10,1月、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
毎週、新聞記事をプリントして配布する。その記事はテストの題材となる			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
講義中に指定します			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

50%授業の貢献度、50%期末レポート・試験

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introduction to Media Studies　国際情報分析・メディア	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第2回	First News Topic　第1回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第3回	Second News Topic　第2回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第4回	Third News Topic　第3回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第5回	Fourth News Topic　第4回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第6回	Fifth News Topic　第5回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第7回	Sixth News Topic　第6回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第8回	Seventh News Topic　第7回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	1から7の記事を復習すること。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第9回	Eigth News Topic　第8回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第10回	Ninth News Topic　91回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第11回	Tenth News Topic　第10回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第12回	中間テスト、これまで勉強した1～4回の記事(TOPIC)についてのテスト	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第13回	中韓テスト　振り返り	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第14回	Eleventh News Topic　第11回のニュース記事	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第15回	Tests preparation テスト準備	
	事前学習（内容・時間）	毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索.(2hr)
第16回（定期試験）	期末テスト、 TOPIC 5～11についての期末テスト	

ナンバリング（Numbering）
1EGN-5030-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ	221～ 経営情報学科	2年生・前期	2単位	選択	クリス　フリン	
TOEICⅠ	219・220 経営情報学科					
英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ	～218					
履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること ③英検3級程度の英語能力は基準					

テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。英検の問題も入れて学習する。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP)、学習目標（学則1, 3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

２１世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論（DEBATE）できるようになることとTOEIC

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。
オフィスアワー：火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。試験日　1月、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。　TOEICは学外で受験。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに　フリン　までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 (4th Edition)	Atsushi　Mizumoto Mark D. Stafford	桐原書店	978-4-34255263-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30%
・成績評価の基準：①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Daily Life 品詞の違い、広告を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書を事前に読んで、TOEICについてネットで調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Places カード、通知を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	People 代名詞、図表とメモを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	Travel 資料と手紙を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Business 動詞の形、通知・メモを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Office 手紙を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Technology 語い関係、メモと概要を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Personnel 記事を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第9回	Management 接続詞、通知を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Purchasing レシートを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Finances 時制、レシピを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Media 記事を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Entertainment Eメールを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Health FAXを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第15回	TEST 定期試験 準備	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	テスト範囲を記録し、学習する。(2hr＋)
第16回（定期試験）	定期試験はTOEIC TEST の形式の縮小版です。LISTENING COMPREHENSION (Part 1, Part 2, Part 3) and READING COMPREHENSION Part 4, Part 5, Part 6, Part 7). Test will be 60 Minutes	

ナンバリング（Numbering）
1EGN-5040-22ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ	221～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	選択	クリス　フリン	
TOEICⅡ	219・220 経営情報学科					
英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ	～218					

履修の前提条件	①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること ③英検準2級程度の英語能力は基準

授業概要　（Course Outline）

前期に続いて、テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。英検の問題も学習する。建学の精神、3つのポリシー（CP, DP)、学習目標（学則1, 3条）に基づいています。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論（DEBATE）できるようになることとTOEIC 800, 英検の2・準1級の2次試験を合格できるレベルを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。
クラスの前に立って声を出して発言をします。
Active Learning Activities に参加します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（362）にて随時受け付けます。
オフィスアワー：火曜日2時限目と5時限目
flynn-c@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。
試験日　1月、会場　CDCセンター、詳細は後日連絡します。 TOEICは学外で受験
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに　フリンまでメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 3 4th Edition	Atsushi　Mizumoto Mark D. Stafford	桐原書店	978-4-342-55264-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥¥svr260007¥share¥flynnc¥index.htm			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30%
・成績評価の基準：①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Daily Life　品詞の違い、広告を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書を事前に読んで、TOEICについてネットで調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第2回	Places　カード、通知を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第3回	People　代名詞、図表とメモを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第4回	Travel　資料と手紙を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第5回	Business　動詞の形、通知・メモを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第6回	Office　手紙を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第7回	Technology　語い関係、メモと概要を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第8回	Personnel　記事を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第9回	Management　接続詞、通知を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第10回	Purchasing　レシートを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第11回	Finances　時制、レシピを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第12回	Media　記事を読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第13回	Entertainment　Eメールを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第14回	Health　FAXを読む	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr)
第15回	定期試験の準備	
	事前学習（内容・時間）	教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr)
	事後学習（内容・時間）	テスト範囲を記録し、学習する。(2hr＋)
第16回（定期試験）	定期試験はTOEIC　TEST　の形式の縮小版です。LISTENING COMPREHENSION (Part 1, Part 2, Part 3) and READING　COMPREHENSION Part 4, Part 5, Part 6, Part 7). Test will be 60 Minutes	

ナンバリング（Numbering）
1EGN-6280-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネス英語Ⅰ	221～	3・4年生・前期	2単位	選択	藤内　響子	
	219・220 経営情報学科	2年生・前期				
	～218	3・4年生・前期				

履修の前提条件	英語の基礎力を持っていること。熱意を持って学習や発表に取り組めること。

授業概要　（Course Outline）

商品価格や為替相場決定のメカニズムから説き起こして、関税、経済ブロック、対外債務、南北格差問題、さらには経済成長が地球環境に及ぼす影響まで。身の回りで起こっている様々な経済事象の中から、最も大きな変化をとげつつあるテーマを題材に選び、今日の世界経済を語るうえで欠かせないテーマを英語で学ぶものである。なお、この授業は、本学のディプロマポリシーに基づき行われます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

基本的な経済事項を英語で理解できる様になること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業の内容を敷衍する形で現実に社会の中で起きている経済事象を確認し、問題点等をまとめて、授業で発表してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

随時研究室（272）にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。
ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
毎回プリントを用意して配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
なし。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introduction	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第2回	Multimedia Revolution	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第3回	Multimedia Revolution	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第4回	New Information Networks	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第5回	New Information Networks	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第6回	The Changing Role of Japanese Trading Companies	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第7回	Price Destruction	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第8回	Untangling Japan’s Distribution System	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第9回	Credit Cards and Smart Cards –A New Era–	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第10回	Credit Cards and Smart Cards –A New Era–	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第11回	The Importance of the Bank of Japan to the Japanese Economy	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第12回	How the Foreign Exchange Market Works	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第13回	APEC Takes Off	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第14回	The Role of the World Trade Organization	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第15回	The Role of the World Trade Organization	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1EGN-6290-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネス英語Ⅱ	221～ 経営情報学科	3・4年生・後期	2単位	選択	藤内　響子	
	219・220 経営情報学科	2年生・後期				
	～218	3・4年生・後期				

履修の前提条件	英語の基礎力を持っていること。熱意を持って学習や発表に取り組めること。

授業概要　（Course Outline）

商品価格や為替相場決定のメカニズムから説き起こして、関税、経済ブロック、対外債務、南北格差問題、さらには経済成長が地球環境に及ぼす影響まで。身の回りで起こっている様々な経済事象の中から、最も大きな変化をとげつつあるテーマを題材に選び、今日の世界経済を語るうえで欠かせないテーマを英語で学ぶものである。なお、この授業は、本学のディプロマポリシーに基づき行われます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

基本的な経済事項を英語で理解できる様になること。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業の内容を敷衍する形で現実に社会の中で起きている経済事象を確認し、問題点等をまとめて、授業で発表してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

随時研究室（272）にて受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。
ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
毎回プリントを用意して配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
なし。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	Introduction	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第2回	Department Stores and Supermarkets	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第3回	Discount Stores	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第4回	Catalogue Shopping	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第5回	Catalogue Shopping	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第6回	Tourism	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第7回	Weather Forecasting and It's Links to the Economy	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第8回	Product Liability Laws	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第9回	Japan's New Product Liability Law	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第10回	Japan's New Product Liability Law	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第11回	Genetic Engineering	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第12回	Genetic Engineering	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第13回	Bioremediation and Bioreactors	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第14回	Bioremediation and Bioreactors	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第15回	New Businesses and Health	
	事前学習（内容・時間）	テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h)
	事後学習（内容・時間）	授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1EGA-5520-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
国際経済論	219～ 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	小川　雄平	
	～218 経営情報学科	3・4年生・後期				

履修の前提条件	①世界経済に関心があること。 ②時事問題に興味を持って新聞を読むこと。

授業概要　（Course Outline）

国際経済・貿易の歴史や理論を踏まえた上で、著しくグローバル化した世界経済の現状を、直接投資、貿易、自由貿易協定等の基本的な内容も学びながら、日本経済との関わりで考察する。
テキストは使用せず、テキストに代わるプリントを準備して授業を進める。
授業の理解度を測るために、授業時間中に小テストを実施する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

この授業では、学則第1条を踏まえて、豊かな人間性を備えた創造的・実践的な人材の育成を目標に、
・グローバル化した世界経済の現状が把握できること
・世界経済の抱える課題が理解できること
・国際貿易の歴史的歩みや諸理論が修得できること
・国際経済分野のより専門的な学習への橋渡し、あるいは実社会での活動に役立てられること
を目指す。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

①授業中に受講生に質問し、受講生の質問にも答える等双方向・対話型の授業を心がける。
②授業内容に関係する新聞記事を配布して問題の所在とその解決策を見出せるように促す。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

①オフィスアワーは研究室（182研究室）に待機しているので、気軽に訪ねてほしい。
②メールによる質問も受け付けるので、ogawa@kiis.ac.jp に送信してほしい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修度確認チェック表」に必要事項を記入して、メールで提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
教科書に代わるプリントを準備する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
東アジア地中海経済圏	小川　雄平	九州大学出版会	4-87378-918-4

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験を実施する。成績評価は、学習成果の達成度を評価する観点から、定期試験70%、授業中の小テスト20%、授業への取組み10%とする。欠席日数が3分の1を超える者は定期試験の受験を認めない。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：国際経済と世界経済の違いは？授業のアウトラインの説明	
	事前学習（内容・時間）	シラバスをよく読んで、授業の全体の流れを理解し、注意事項を確認する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	プリントをよく読んで、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第2回	貿易の歴史：香料貿易・茶貿易・奴隷貿易	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第3回	貿易理論の歴史Ⅰ：重商主義の貿易論とスミスの貿易論	
	事前学習（内容・時間）	重商主義に対するスミスの批判点を調べて予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第4回	貿易理論の歴史Ⅱ：リカードの比較生産費説	
	事前学習（内容・時間）	リカードの「比較優位」とは何かを調べて予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第5回	貿易理論の歴史Ⅲ：ミルの相互需要説	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第6回	貿易理論の歴史Ⅳ：乗数理論と貿易乗数	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第7回	直接投資と国際収支	
	事前学習（内容・時間）	直接投資と間接（証券）投資の違いを調べて、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第8回	貿易取引と為替の原理	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで「外国為替」について予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第9回	為替レートの決定と妥当な為替レート（購買力平価による為替レート）	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで「為替レート」について予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第10回	生産性格差、賃金格差と為替レート	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第11回	関税	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで「関税」について予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
WTO	世界貿易機関(WTO)と自由貿易協定(FTA)	
	事前学習（内容・時間）	「世界貿易機関」について調べておき、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第13回	国際経済と港湾物流	
	事前学習（内容・時間）	プリントを読んで、日本の港湾の地位低下の原因を調べておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第14回	局地的経済圏と地域経済協力	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	参考書の8章をよく読んで、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第15回	世界経済の課題：環境汚染と経済格差	
	事前学習（内容・時間）	プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EGA-5540-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
国際政治学	共通 経営情報学科	3・4年生・前期	2単位	選択	坂上　宏	

履修の前提条件	①ロシア・ウクライナ関連の新聞記事を目を通しておくこと。 ②20世紀の国際関係の歴史についてある程度の知識を持っていること。 ③下記の参考書　油井,古田『世界の歴史〈28〉』に目を通しておくことが望ましい。 ④講義の内容を理解し、ノートを着実に取れるだけの基礎学力があること。 ※禁止事項：不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。

授業概要　（Course Outline）

現在の世界情勢は混迷を極め、まさに危機に瀕しています。その歴史的・政治的背景のひとつとなっているのが、”冷戦“と呼ばれる第2次大戦後のアメリカとソビエト連邦による世界的な対立です。この講義では、戦後の国際関係を方向づけた冷戦について、その開始から終結に至る過程で起きた主要な出来事を取り上げて解説します。特に冷戦が現代の世界にどのような影響を与えたか留意しながら講義を進めます。なおこの授業は、カリキュラムポリシー「Ⅰ　建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ　社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

冷戦の開始から終結に至る過程および冷戦の政治的・歴史的意味について、理解できるようになることを目指しています。そして日本を取り巻く東アジア地域における冷戦の現代的意味について、受講者それぞれが多角的に考えられるようになることがさらなる目標です。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。
毎回の授業の終わりにポートフォリオ＆ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談等は研究室（363）およびメール（sakagami@g.kiis.ac.jp）にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ＆ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリントを配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
『国際関係学講義』 『歴史としての冷戦』 『冷戦の起源Ⅰ・Ⅱ 』 『世界の歴史〈28〉第二次世界大戦から米ソ対立へ 』その他多数	原彬久 ハレー 永井 陽之助 油井 大三郎, 古田 元夫	有斐閣 サイマル出版 中公クラシックス 中公文庫	

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ＆ルーブリックの提出)。
成績評価の基準
①冷戦の定義について、著名な研究者の説を理解しているか。
②冷戦の開始（ｱﾒﾘｶ側の動き、ｿ連側の動き）について、その主な出来事、特にﾄﾙｰﾏﾝﾄﾞｸﾄﾘﾝについて理解しているか。
③朝鮮戦争とその意味について理解しているか。
④キューバ危機とその意味について理解しているか。
⑤ベトナム戦争とその意味について理解しているか。
⑥ﾍﾟﾚｽﾄﾛｲｶ政策と冷戦の終結について理解しているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業の方針、アメリカという国(「マニフェスト・ディストニー」) :ﾌﾟﾘﾝﾄ1	
	事前学習（内容・時間）	「マニフェスト・ディストニー」について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	アメリカ的世界観と外交の特徴について説明してください。(2時間)
第2回	なぜ冷戦についてとりあげるのか、冷戦とは何か(リップマン、アロン)①:ﾌﾟﾘﾝﾄ2	
	事前学習（内容・時間）	冷戦とは何か説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	冷戦の定義について説明してください。(2時間)
第3回	冷戦とは何か②(永井陽之助ほか)、冷戦における対立(2つの世界の対立)、ソ連の対外的姿勢:ﾌﾟﾘﾝﾄ3	
	事前学習（内容・時間）	冷戦における対立の特徴とアメリカ外交の思想について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	ソ連外交の歴史的特徴について説明してください。(2時間)
第4回	第二次大戦の終了と米ソ対立の芽生え(ヤルタ会談、ポツダム会談)、冷戦の原因(東欧問題) :ﾌﾟﾘﾝﾄ4	
	事前学習（内容・時間）	ヤルタ体制について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	ソ連の東欧への拡大とソ連の対外行動の特色について説明してください。(2時間)
第5回	冷戦の開始①(アメリカ側の動き:トルーマンドクトリンなど) :ﾌﾟﾘﾝﾄ5	
	事前学習（内容・時間）	トルーマンドクトリンについて説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	封じ込め政策について説明してください。(2時間)
第6回	冷戦の開始②(ソ連側の動き:ワルシャワ条約機構の設立など)、ベルリン危機(1948年):ﾌﾟﾘﾝﾄ6	
	事前学習（内容・時間）	東欧の共産化について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	ベルリン危機について説明してください。(2時間)
第7回	朝鮮戦争(1950年～53年)(経緯と影響) :ﾌﾟﾘﾝﾄ7	
	事前学習（内容・時間）	南北朝鮮の政治的分断について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	朝鮮戦争の意味について説明してください。(2時間)
第8回	スターリン批判(1956年)と国際関係:ﾌﾟﾘﾝﾄ8	
	事前学習（内容・時間）	スターリン批判の内容について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	スターリン批判が国際関係に与えた影響について説明してください。(2時間)
第9回	キューバ危機①(1962年)(背景と経緯) :ﾌﾟﾘﾝﾄ9	
	事前学習（内容・時間）	キューバ革命について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	キューバ危機とソ連の関連について説明してください。(2時間)
第10回	キューバ危機②(経緯と影響):ﾌﾟﾘﾝﾄ10	
	事前学習（内容・時間）	キューバ危機の終了について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	キューバ危機が世界に与えた影響について説明してください。(2時間)
第11回	ベトナム戦争①(1946～54年,1965～73年)(背景と経緯) :ﾌﾟﾘﾝﾄ11	
	事前学習（内容・時間）	ベトナム戦争に関するアメリカとベトナムの認識の違いについて説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	第1次ベトナム戦争と第2次ベトナム戦争の経緯について簡単に説明してください。(2時間)
第12回	ベトナム戦争②(経緯と影響) :ﾌﾟﾘﾝﾄ12	
	事前学習（内容・時間）	ベトナム戦争についてアメリカの見方、ベトナムの見方を説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	ベトナム戦争の意味について説明してください。(2時間)
第13回	デタントとニクソン･キッシンジャー外交について、ソ連のアフガニスタン侵攻(1979年)と新冷戦の到来(1980年前半)について:ﾌﾟﾘﾝﾄ13	
	事前学習（内容・時間）	ニクソン･キッシンジャー外交とベトナム戦争の終了について説明してください。
	事後学習（内容・時間）	ソ連がアフガニスタンを侵攻した理由について説明してください。(2時間)
第14回	新冷戦とゴルバチョフのペレストロイカ政策:ﾌﾟﾘﾝﾄ14	
	事前学習（内容・時間）	ゴルバチョフ登場の背景について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	ペレストロイカについて説明してください。(2時間)
第15回	冷戦の終結と現代の世界:ﾌﾟﾘﾝﾄ15	
	事前学習（内容・時間）	冷戦の終結とソ連の消滅について説明してください。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	冷戦と現代世界のつながりについて説明してください。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験、ポートフォリオ＆ルーブリック作成等	

専門教育科目

（情報ネットワーク学科）

ナンバリング(Numbering)
1AIB-6360-12C

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング初歩 I	219～ 情報ネットワーク学科	1年生・前期	2単位	必修	合田　和正	
プログラミング入門	～218 情報ネットワーク学科	1年生・後期				
履修の前提条件	特になし。					

授業概要　(Course Outline)

学則第3条を踏まえて、
情報学分野のソフトウェア、プログラミングについての基本的な知識・技能を習得することを目標とする。
具体的には、プログラミングを通して、プログラミングの手順や流れを修得する。どのプログラミング言語を学ぶ上でも根本が同じであることをプログラミング言語を通じて体感する。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

簡単なフローチャートを読み書きできるようになる。基本制御構造について理解し、簡単なプログラミングができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メイルやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、
関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。
学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。			

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Scratchではじめよう！ プログラミング入門	杉浦学	日経BP社	978-4-8222-9774-9

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1) 提出物(授業の振り返りや課題等)が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、プログラミング入門	
	事前学習（内容・時間）	身近なプログラムについて調べる。運動会のプログラムほか。[2.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容をまとめておく。振り返りを書く。[2.0h]
第2回	プログラミング関連の用語、概念	
	事前学習（内容・時間）	概念、コンセプト、イメージについて調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容をまとめておく。振り返りを書く。[1.0h]
第3回	フローチャート入門	
	事前学習（内容・時間）	フローチャート、流れ図、図式について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	端点、線、処理について理解を確認する。実際に描いてみる。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	フローチャートとIPOモデルの考え方	
	事前学習（内容・時間）	起承転結、序論・本論・結論、文章による説明の流れについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	IPO(Input, Process, Output)モデルに近いものを探してみる。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	フローチャートを意識したScratchプログラミング	
	事前学習（内容・時間）	Scratchプログラム（並べたブロック）やその実行結果、実況などを調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	フローチャートとScratchプログラムの類似点を確認する。振り返りを書く。[1.0h]
第6回	Scratchプログラミング実習	
	事前学習（内容・時間）	Scratchプログラムで簡単そうなものを探してみる(scratch.mit.edu)。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業時間内に終わらなかった課題を完成させる。類題に挑戦する。振り返りを書く。[1.0h]
第7回	Scratchプログラミング、より高度な機能	
	事前学習（内容・時間）	これまでに使ったScratchのブロックとその分類についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	ペンに代表される拡張機能や、ブロック定義などを実際に使ってみる。[1.0h]
第8回	フローチャートを意識したScratchプログラミング（2）より高度な機能	
	事前学習（内容・時間）	IPOモデルやフローチャートの定義済み処理を意識したプログラムを考えてみる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	実際にフローチャートを描いてから、それに基づいてプログラミングしてみる。振り返りを書く。[1.0h]
第9回	基本制御構造： 連接、選択、反復	
	事前学習（内容・時間）	プログラムの基本制御構造（連接、選択、反復）について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	Scratchの制御ブロックと選択、反復の対応を確認する。振り返りを書く。[1.0h]
第10回	Scratchプログラミング実習（2）基本制御構造を意識して	
	事前学習（内容・時間）	部品化やIPOモデルを意識したプログラミングを想像してみる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	文章、フローチャート、Scratchプログラムの順に開発してみる。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	Scratchプログラミング実習（3） 選択構造、反復構造	
	事前学習（内容・時間）	10回でプログラミングしやすかった点、しにくかった点についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業時間内に終わらなかった課題を完成させる。類題に挑戦する。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	プログラミングにおける再帰の考え方と反復	
	事前学習（内容・時間）	再帰、基底、帰納、反復について調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	単純なプログラムで再帰と反復を比較してみる。振り返りを書く。[1.0h]
第13回	情報に関する知識とプログラミング	
	事前学習（内容・時間）	プログラミングで扱うデータ表現と情報科学の知識について調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業をうけて、初めてふれたこと、なぜ調べられなかったのか考察。振り返りを書く。[1.0h]
第14回	変数と基本的データ構造とプログラミング	
	事前学習（内容・時間）	基本的データ構造、整数型、実数型、範囲、ビット数などについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	最も基本的なデータ型一つは何か考察する。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの内容をまとめる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、準備する。中間試験の復習もする。[1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIB-6371-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング初歩Ⅱ	219～ 情報ネットワーク学科	1年生・後期	2単位	選択	合田　和正	
プログラミング論	～218 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	原則として、プログラミング初歩Ⅰに合格していること。					

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野のソフトウェア、プログラミングについての基本的な知識・技能を習得することを目標とする。
具体的には、フローチャートや変数表を活用して第三者が作成したプログラムを理解したり、更新したりできるようにする。また、逆に第三者が理解や更新を施すのが容易なプログラムの記述方法、例えば字下げや注釈添付なども学ぶ。さらに高度なプログラムを作成し、より高品質、より高信頼のプログラム作成を目指す。高品質を実現する方法の一つとしてGUI(Graphical User Interface)を用いた、プログラム作成にも挑戦してみる。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

プログラミング初歩Ⅰで学習したプログラミングの基礎に基づいて、さらに実際に多くのより複雑なプログラムを作成しつつ、プログラミング理論への理解をいっそう深める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メイルやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、
関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1) Scratchではじめよう！ プログラミング入門	1) 杉浦学	1) 日経BP社	1) 978-4-501-55450-7
2) 学生のためのExcel VBA　第2版	2) 若山芳三郎	2) 東京電機大学出版局	2) 978-4-8222-9774-9

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、プレースメント試験	
	事前学習（内容・時間）	プログラミング初歩Ⅰの内容を復習する。[2.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題を復習。振り返りを書く。[2.0h]
第2回	開発環境 (Scratch, VBS/VBA, Python)	
	事前学習（内容・時間）	開発環境、プラットフォーム、OS(基本ソフト)について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	プログラミング初歩Ⅰの開発環境についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第3回	基本データ型	
	事前学習（内容・時間）	プログラミング初歩Ⅰで学んだデータ型についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	型付き、型無し、強い型、弱い型についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	データ型Ⅰ	
	事前学習（内容・時間）	基本データ型、派生データ型、配列、構造体、参照型、オブジェクトについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	VBS, VBS, Scratchにおけるデータ型の扱いを確認する。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	制御文（選択構造）	
	事前学習（内容・時間）	選択する際に、二者択一の場合と多岐選択の場合の違いを考察する。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	多岐選択が1つの部品の場合と複数の二者択一の組合せの場合と比較。振り返りを書く。[1.0h]
第6回	データ型Ⅱ	
	事前学習（内容・時間）	データ型と演算子、動的型付けと静的型付けについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	モデル化、付番、数値化について調べる。振り返りを書く。[1.0h]
第7回	制御文（反復構造）	
	事前学習（内容・時間）	選択と反復の違いと特徴を確認する。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定回反復と不定回（条件）反復、前判定と後判定についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第8回	中間試験	
	事前学習（内容・時間）	7回までの内容（プレースメント試験含む）を総復習する。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題を復習。振り返りを書く。[1.0h]
第9回	プログラムの抽象化	
	事前学習（内容・時間）	コンピュータの五大装置と抽象化、データ・手続きの抽象化について考察。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	マジックナンバーの排除の事例、変数・定数の導入を実習。振り返りを書く。[1.0h]
第10回	手続きと関数Ⅰ（戻り値なし）	
	事前学習（内容・時間）	手続き、作業、段取り、ひとまとめについて調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	手続きを含むプログラムを書いて実行してみる。ない場合と比較。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	手続きと関数Ⅱ（戻り値あり）	
	事前学習（内容・時間）	関数、変換、加工、写像について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	関数を含むプログラムを書いて実行してみる。ない場合と比較。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	再帰とスタック	
	事前学習（内容・時間）	再帰と反復の関係、スタック、キューについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	再帰プログラムと反復プログラムを比較。振り返りを書く。[1.0h]
第13回	応用プログラムⅠ	
	事前学習（内容・時間）	Scratch, VBS,VBAを復習する。フローチャート、IPOモデルについて復習する。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業時間内に完成しなかった課題を完成させる。振り返りを書く。[1.0h]
第14回	応用プログラムⅡ	
	事前学習（内容・時間）	VBS/VBA, Pythonを復習する。Scratchとの違いを意識する。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業時間内に完成しなかった課題を完成させる。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの内容をノートにまとめる。手書きを強く推奨。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、想定問題を作成し、解法込で説明できるようにする。[1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1AIN-6341-24E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング実践 I	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・前期	4単位	選択	荒平　高章	
履修の前提条件	プログラミング初歩Iを修得していること.					

授業概要 (Course Outline)

本講義ではディプロマポリシーに基づき，プログラミングに関する基本事項をおさえ，プログラムコードの記述方法，プログラムの実行に関する基本作法を学び，これらを実習を通して体系的に習得する．本実習ではPythonを使用する.

授業を通して修得できる力 (Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 (Objectives)

①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる．②サンプルプログラムを応用できる．③課題に応じて最適な処理構文を選択し，使用できる．④選択処理，反復処理の構文が列挙できる．⑤講義に参加できる．⑥課題解決のためにお互いに助けることができる．⑦疑問点を尋ねることができる．⑧プログラム処理のためにPCを操作できる．⑨サンプルプログラムを模倣できる．⑩プログラム作成のためにフローチャートを自分で準備できる.

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)

聴講型講義ではなく，実習型講義を実施する.

教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)

連絡，問い合わせ，相談などは研究室(653)にて受け付ける．オフィスアワーの時間については掲示を確認すること.
また，クラスルームを開設するので，講義に関する連絡はクラスルームで行う.

その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書 (Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Pythonスタートブック	辻 真吾	技術評論社	978-4774196435

参考文献 (Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Pythonチュートリアル	Guido van Rossum	オーム社	978-4-87311-753-9

成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)

実習課題(50%)と定期試験(50%)で評価する.

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し，受講理由を明確にする．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載し復習する．(2.0h)
第2回	プログラミング概要	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し，受講理由を明確にする．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載し復習する．(2.0h)
第3回	Pythonの実行環境構築	
	事前学習（内容・時間）	教科書の付録AおよびBを通読する(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第4回	Pythonの実行環境構築	
	事前学習（内容・時間）	教科書の付録AおよびBを通読する(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第5回	Pythonプログラミング入門(1)	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.12-24)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第6回	Pythonプログラミング入門(1)　演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.12-24)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第7回	Pythonプログラミング入門(2)	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.25-35)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第8回	Pythonプログラミング入門(2)　演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.25-35)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第9回	プログラムの材料と道具	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.38-61)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第10回	プログラムの材料と道具　演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.38-61)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第11回	データと型	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所を(pp.64-86)通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第12回	データと型　演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所を(pp.64-86)通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第13回	データ型	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所を(pp.88-113)通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第14回	データ型　演習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所を(pp.88-113)通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第15回	中間課題演習(1)	
	事前学習（内容・時間）	第１回から第14回までの講義の復習をする．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第16回	中間課題演習(2)	
	事前学習（内容・時間）	第１回から第14回までの講義の復習をする．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)
第17回	条件分岐と繰り返し(for文)	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所を(pp.118-122)通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し，講義内容を復習する．(2.0h)

第18回	条件分岐と繰り返し(for文) 演習	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.118-122)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第19回	条件分岐と繰り返し(if文)	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.123-128)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第20回	条件分岐と繰り返し(if文) 演習	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.123-128)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第21回	条件分岐と繰り返し(while文とエラー)	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.129-145)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第22回	条件分岐と繰り返し(while文とエラー) 演習	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.129-145)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第23回	ファイルの読み書き(1)	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第24回	ファイルの読み書き(1) 演習	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第25回	ファイルの読み書き(2)	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第26回	ファイルの読み書き(2) 演習	
	事前学習 (内容・時間)	教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)

第27回	期末課題演習(1)	
	事前学習 (内容・時間)	第1回から第26回までの講義の復習をする. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第28回	期末課題演習(2)	
	事前学習 (内容・時間)	第1回から第26回までの講義の復習をする. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第29回	期末課題演習(3)	
	事前学習 (内容・時間)	前回の期末課題演習の準備と復習を行う. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第30回	期末課題演習(4)	
	事前学習 (内容・時間)	前回の期末課題演習の準備と復習を行う. (2.0h)
	事後学習 (内容・時間)	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h)
第31回 (定期試験)	定期試験を実施する.	

ナンバリング(Numbering)
1AIN-6342-24E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
プログラミング実践II	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・後期	4単位	選択	ディンダ　プラマンタ	
履修の前提条件	プログラミング実践Iを履修していること。					

授業概要　(Course Outline)

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、Pythonプログラミングに関する基本事項を復習し、それらの知識・技能を活かして、より応用的な知識及び技能の獲得を目指す。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる。 ②サンプルプログラムを応用できる。 ③課題に応じて最適な処理構文を選択し、使用できる。 ④講義に参加できる。 ⑤課題解決のためにお互いに助けることができる。 ⑥疑問点を尋ねることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

聴講型講義ではなく、実習型講義を実施する。
すべての授業に出席することを期待しています。
授業では教科書には載っていない内容についてもカバーするので、これは特に重要なことです。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Pythonスタートブック	辻 真吾	技術評論社	978-4774196435

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Pythonデータサイエンスハンドブック Pythonではじめるプログラミング	ジェイク・ヴァンダープラス 小波秀雄	オライリージャパン 株式会社インプレ	978-4873118413 978-4-295-00606-0

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

毎回の課題orレポート50%、中間課題演習15%、後期課題演習15%、定期試験20%。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義ガイダンス、プログラミング概要	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などを教科書、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第2回	Pythonプレテスト	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などを教科書、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第3回	復習：データ型	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第4回	復習：データ型の作成	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第5回	条件分岐と繰り返しの復習	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第6回	自前の関数を作成	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第7回	numpy入門：numpy Arraysの基本	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第8回	numpy入門：インデックス・ソート・構造化データ	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第9回	pandas入門：pandasオブジェクトについて	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第10回	pandas入門：データ索引・選択	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第11回	pandas入門：集計とグループ化	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第12回	pandasとその応用	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第13回	探索アルゴリズム: 線形探索	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第14回	ソートと探索アルゴリズム: 二分探索	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第15回	中間課題演習の練習	
	事前学習（内容・時間）	第3回～第14回を復習しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第16回	中間課題演習	
	事前学習（内容・時間）	第3回～第14回を復習しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第17回	再帰的なアルゴリズム：階乗を再帰的に計算する	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)

第18回	再帰的なアルゴリズム：フィボナッチ数列	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書の該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第19回	matplotlib入門:シンプルな可視化	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第20回	matplotlib入門:カスタマイゼーション	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、教科書、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第21回	スクレイピング：selenium	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第22回	スクレイピング：テキスト分析	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第23回	Pythonでゼロから始める線形回帰	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第24回	Pythonで線形回帰のフィッティング	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第25回	データ解析:線形回帰（ scikit-learnの活用）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第26回	データ解析:線形回帰で予測する（scikit-learnの活用）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、参考文献、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）

第27回	OpenCVとPythonで始める画像処理	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第28回	detecto ライブラリを用いた物体検出について	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、Webの該当箇所を通読しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第29回	後期課題演習の練習	
	事前学習（内容・時間）	第１７回～第２８回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第30回	後期課題演習	
	事前学習（内容・時間）	第１７回～第２８回を復習しておくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。（2時間）
第31回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIB-5720-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
情報数学Ⅱ	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・前期	2単位	選択	宮﨑　武	
履修の前提条件	基礎数学を履修していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、大量データの処理に欠かせない数学の一分野である「微分・積分」について学びます。蓄積されたデータから未来を予測するために必要な基礎知識を身に付けます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

1. 基本的な関数の概念を知る。
2. 微分・積分の定義および概念を知る。
3. 言葉・数式・図の3者の翻訳が出来るようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義内容に関する問題を解き、説明をしてもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
計算力をつける微分積分問題集	神永正博・藤田育嗣	内田老鶴圃	978-4-7536-0131-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第2回	極限	
	事前学習（内容・時間）	高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第3回	導関数	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第4回	指数関数・対数関数の微分	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第5回	ネイピア数の微分	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第6回	三角関数の微分	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第7回	微分の証明	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第8回	Chain rule	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第9回	微分と日本語の翻訳	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。(2h)
第10回	不定積分	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第11回	定積分	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第12回	面積	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第13回	積分と日本語の翻訳	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。(2h)
第14回	マクローリン展開・テイラー展開	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h)
第15回	総合演習と復習	
	事前学習（内容・時間）	前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。これまでに間違えた問題を何度も解く(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-5190-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
オペレーティングシステム論	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・後期	2単位	選択	合田　和正	
	～218	2年生・前期				

履修の前提条件	情報学入門に合格していること。ITパスポート試験に合格していることが望ましい。

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野の情報システム、オペレーティングシステムについての基本的な知識を習得することを目標とする。
具体的には、オペレーティングシステムの主たる機能：プロセス制御、割り込み、仮想記憶システム、ファイルの入出力を中心に理解する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

オペレーティングシステム（OS）とは何か、どんな機能を提供しているのか、オペレーティングシステムがなかったらコンピュータはどうなるかについて理解する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

小テストや演習課題等で自主的な学習を促す。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、
関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
オペレーティングシステム入門[新版]	古市栄治	日本理工出版会	978-4-89019-482-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
レクチャー　オペレーティングシステム	福田晃	数理工学社	978-4864810647
IT TEXT オペレーティングシステム	野口健一郎	オーム社	978-4274132506

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス・プレースメント試験	
	事前学習（内容・時間）	情報学入門、ITパスポート試験のテクノロジ分野について学習しておく。[2,0h]
	事後学習（内容・時間）	解けなかった問題、不正解あるいは不安だった問題の復習。振り返りを書く。[2.0h]
第2回	オペレーティングシステムの役割	
	事前学習（内容・時間）	テキストがあれば、目次と本文前半を通読。なければ表題を検索してみる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	役割を表す文章は暗記する。振り返りを書く。 [1.0h]
第3回	プロセスの制御(1) 状態遷移	
	事前学習（内容・時間）	プログラムとプロセスについて調べる。プロセスの状態について調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	プロセスの状態および状態間の遷移について図とともに理解し暗記。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	プロセスの制御(2) 排他制御	
	事前学習（内容・時間）	哲学者の食事問題について調べてまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	排他制御がないと困る場合とそうでない場合を整理。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	プロセスのスケジューリング(1) プロセスの活動と並行動作	
	事前学習（内容・時間）	並行、並列、逐次の各用語について調べまとめておく。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	逐次実行と並行実行を比較して、利点欠点を整理。[1.0h]
第6回	プロセスのスケジューリング(2) 様々なスケジューリング	
	事前学習（内容・時間）	基本的なスケジューリングについて、弱点と必要性をまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	基本的なスケジューリングと比較しながらまとめる。[1.0h]
第7回	割り込みの制御(1) 外部割込みと内部割込み	
	事前学習（内容・時間）	割込みの種類と説明から自分のノートPCでの事例をイメージしまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	外部割込みと内部割込みの具体的事例を自分のノートPCを例に考えてまとめる。[1.0h]
第8回	割り込みの制御(2) 割り込みハンドラ、コンテクスト切替	
	事前学習（内容・時間）	実生活で作業を中断して、別作業後に円滑に元の作業に戻る工夫について考察。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	実生活での工夫とOSでの情報保持について対応を考察。 [1.0h]
第9回	仮想記憶システム(1) 主記憶と仮想記憶	
	事前学習（内容・時間）	各自の短期記憶と長期記憶とノートなどの記録との関係を整理してみる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	各自の記憶・記録と仮想記憶とを比較して対応付けしてみる。 [1.0h]
第10回	仮想記憶システム(2) ページング、入れ替えアルゴリズム	
	事前学習（内容・時間）	スワッピングとページングの違い、基本的なページングアルゴリズムについて整理。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	ノートやExcelで表を作成して実際に記入しながら理解を進める。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	仮想記憶システム(3) 演習、特にFIFO, LRUアルゴリズム	
	事前学習（内容・時間）	教科書の演習問題を解いておく。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題の復習。部分点を得るための工夫を整理。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	入出力とファイルの制御(1) デバイス	
	事前学習（内容・時間）	プロセスのスケジューリングや割込みの内容と関連付ける。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	プリンタやLANなど身近なデバイスと関連付けて考察。振り返りを書く。[1.0h]
第13回	入出力とファイルの制御(2) ファイルシステム、ディレクトリ	
	事前学習（内容・時間）	ルート、ホーム、ディレクトリ、ツリー構造について用語整理。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	相対パスと絶対パス、区切り文字、ルートディレクトリについて整理。振り返りを書く。[1.0h]
第14回	総合演習	
	事前学習（内容・時間）	ページングアルゴリズム、特にLRUについて復習しておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	不正解、不安、不明な問題の復習。部分点を得るための工夫を整理。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの内容をまとめておく。定期試験の想定問題と解説を考えてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、不得意な内容、不安な内容を復習する。[1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1AIN-6550-Z2ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
モバイルネットワーク （教職関連科目　選　高等学校　情報）	共通 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期	2単位	選択	岸川　洋	○
履修の前提条件	「情報学入門」を履修していること。（履修規程第5条3項に基づく）「情報テクノロジー（情報処理入門）」を履修し、テクノロジ分野について理解していることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

電気通信事業会社で、交換設備部門（開発、計画、設計、調達、保守）の業務経験のある教員が、モバイル通信のしくみ、今後の動向及び課題を解説することにより、第5世代・第6世代への基礎知識を学修する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

「学修成果(Student Learning Outcomes) 3項 社会で求められる知識・技能を修得し、もろもろの課題に主体的に取り組むことができる創造的な思考力や実践力を修得している。」に基づき、
　モバイル通信のしくみを理解し効果的にモバイル通信を活用できる、「情報通信白書」等を活用して電気通信事業の動向を把握できる、ネットワーク社会の新しい分野で活躍できる人材となることを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。資料やネット検索等を活用して補足してください。
意見、感想なども記入してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：メールで連絡してください。又は事務局へ伝えてください。
オフィスアワー：授業日の休憩時間等に対応いたします。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。
学修の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、課題と一緒に
　　提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
モバイル基礎テキスト（第7版）	モバイルコンピューティング 推進コンソーシアム	リックテレコム	9784865942385

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
情報通信白書（令和2年版）	総務省	日経印刷株式会社	9784865792263
モバイル通信のしくみと技術がわかる本	井上伸雄	アニモ出版	'9784897951454

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：平常点（60%）、定期試験（40%）。平常点は授業への参加状況、毎回の課題提出状況、
　　小テスト、レポートで総合的に判断する。
成績評価の基準：利用部門での情報リーダーに必要な、モバイル通信ネットワークに関する知識がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション（授業の概要・受講上の諸注意）	
	事前学習（内容・時間）	「第5世代のサービス」についてネット検索等で調べ、疑問点を整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業を受講するためのネットワーク環境や資料を整備する。（2時間）
第2回	モバイル通信の概要	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第3回	モバイル通信の歴史	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第4回	モバイル通信のネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第5回	モバイル通信のつながるしくみ	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第6回	モバイル通信のインターネット接続	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第7回	各世代の特徴（第1世代～第3世代）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第8回	各世代の特徴（第4世代～第6世代）	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第9回	モバイル通信の高速データ通信	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第10回	モバイル通信のGPS機能	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第11回	モバイル通信とクラウドコンピューティング	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第12回	電気通信事業法および電気通信事業者	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第13回	電気通信分野における市場の動向	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第14回	モバイル通信の各産業・分野における活用事例	
	事前学習（内容・時間）	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	全体を振り返り、疑問点について整理する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	キーワードについて説明できるようにする。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5050-12E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
Webコンテンツ制作Ⅰ	219～ 情報ネットワーク学科	1年生・後期	2単位	選択	平塚　智一	○
Webデザイン	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	情報リテラシー演習Ⅰに合格済であることが望ましい。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、ビジネスパーソンおよびITエキスパートとして仕事をする上で必須となるWeb技術の基礎について、現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。
ビジネスとインターネット、各種サービスとインターネットを概観する。ユーザ・インターフェイスと提供したいサービスの機能・構造との関係をどのようにデザインするか考察する。簡単なHTMLファイルについて学習する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

ネットビジネスのためのサーバ構築・運営の全体像や開発工程におけるWebデザインの位置付けを理解しつつ、設計の初歩を学ぶ。エンド・ユーザ(EU)視点でWebシステムの全体像を理解、説明できるようにする。簡単なHTMLファイルを読み書きできるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ただ授業を受けるだけでなく、自分で考えたビジネス等のウェブサイトのデザインを目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員とのメール等で行う。
（メールアドレス等は講義中に指示）

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の参考とする。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1冊ですべて身につくHTML＆CSSとWebデザイン入門講座	Mana	SBクリエイティブ	978-4797398892

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Webディレクションの新・標準ルール 改訂第2版	栄前田 勝太郎, 滝川 洋平	エムディエヌコーポレーション	978-4844369783

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

授業への参加態度等（30%）、課題や授業振り返りなどの提出状況（30%）、小テストおよび定期試験（40%）等で総合的に判断する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第2回	Web制作の流れ（Webとは、UI・UX、ユーザビリティ等）	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第3回	Web制作の流れ（サイトの目的、ターゲットユーザ、ペルソナ等）	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第4回	Web制作の流れ（開発方針、ウェブアクセシビリティ、ユーザ接点等）	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第5回	Web制作の流れ（サイト構造、デザインの検討等）	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第6回	Web制作の流れ（コーディング、公開・運用、Webサイトの評価等）	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第7回	中間試験等	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第8回	HTML・CSSの基礎（見出し、文章、画像等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第9回	HTML・CSSの基礎（リスト、表、フォーム等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第10回	HTML・CSSの基礎（文字サイズ、フォントの種類等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第11回	HTML・CSSの基礎（文字列の配置、色等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第12回	HTML・CSSの基礎（背景画像、幅・高さの指定、余白の調整等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第13回	HTML・CSSの基礎（線を引く、リストの装飾、class・idの指定等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第14回	HTML・CSSの基礎（レイアウトを組む、CSSの初期化等）、演習	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第15回	よりよいコピーの作り方、講義のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5060-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
Webコンテンツ制作Ⅱ	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・前期	2単位	選択	平塚　智一	○
Webシステム	～218	3・4年生・前期				

履修の前提条件	Webコンテンツ制作Ⅰ（Webデザイン）に合格済であることが望ましい。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、ビジネスパーソンおよびITエキスパートとして仕事をする上で必須となるWeb技術の基礎について、現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。
科目「Webコンテンツ制作Ⅰ（Webデザイン）」での学習を踏まえて、各種Webサービスが提供する機能とそのための構造、それらを支える基盤技術やプログラミング技術について総合的に学習する。Web関連ファイルについて理解を深める。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

ネットビジネスのためのサーバ構築・運営の全体像や開発工程におけるWebシステムの位置付けを理解しつつ、システムの開発・構築について学ぶ。特に、設計に基づいた開発について、Webシステムの特徴を踏まえつつ実践を交えて学ぶ。HTMLファイル、CSSファイルなどのWeb関連ファイルについて簡単な読み書きができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ただ授業を受けるだけでなく、ネットショッピングサイトのデザインを目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員とのメール等で行う。
（メールアドレス等は講義中に指示）

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の参考とする。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1冊ですべて身につくHTML＆CSSとWebデザイン入門講座	Mana	SBクリエイティブ	978-4797398892

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
図解まるわかり Web技術のしくみ	西村 泰洋	翔泳社	978-4798169491

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

授業への参加態度等（30%）、課題や授業振り返りなどの提出状況（30%）、小テストおよび定期試験（40%）等で総合的に判断する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第2回	Webシステムとシステム開発、全体像と各種要素	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第3回	Webシステムの開発工程と役割分担	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第4回	一般的なシステム開発とWebシステムの特殊性	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第5回	Webシステムのハードウェア	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第6回	Webシステムのソフトウェア（コンテンツ以外を中心に）、Webプログラミング	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第7回	Webシステムのコンテンツ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第8回	総合演習Ⅰ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第9回	中間試験等	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第10回	サーバ／クライアント	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第11回	アプリケーションサーバ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第12回	データベースサーバ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第13回	基盤技術と先端的技術	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第14回	総合演習Ⅱ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。（各回ごとに2.0h）
	事後学習（内容・時間）	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。（各回ごとに2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5861-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
スイッチング技術	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・前期	2単位	選択	車　炳玘	

履修の前提条件	１年次科目「情報ネットワーク入門」を70点以上の成績で単位を取得すること。

授業概要　（Course Outline）

LANスイッチングに関する技術を実習を通して修得する。具体的には、スイッチの基本設定をはじめ、スパニングツリープロトコル、仮想LAN、VLAN間ルーティングなど企業内ネットワーク機器の根幹をなす機器であるスイッチに関する技術を習得する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、実習を中心に、情報通信ネットワークの基礎技術であるスイッチング技術を習得し、エンタープライズLANのパフォーマンスおよびセキュリティー対策として有効なVLANの運用に必要なスキル習得を目標とする。本授業を履修すると、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。本講義履修と並行にCCNA（CCENT）資格の準備を始める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。
オフィスアワー：:水曜日2、3時限、木曜日3時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（CCENT, CCNA, CCNP）
学習の確認：オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第12回目の授業時間に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
シスコネットワーキングアカデミーオンライン教材　（https://www.netacad.com）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
CCNA/CCENT 問題集	Gene	SBクリエイティブ	978-4797388824

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験・オンラインテスト（40%）、実習（40%）、その他（20%、課題、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	スイッチ導入ネットワークの概要	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション1．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト1．0．1．2の課題を専用のノートにまとめること。2時間
第2回	LAN設計	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション1．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト1．1．1．6の課題を専用のノートにまとめること。2時間
第3回	スイッチ導入環境	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション1．2と1．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト1．1．2．3及び1．2．1．6の課題を専用のノートにまとめること。2時間
第4回	スイッチの基本設定	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション2．0と2．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習2．1．1．6をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第5回	スイッチの管理	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション2．2読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習2．2．4．11をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第6回	スイッチセキュリティ	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション2．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト2．3．1．3のトポロジーの実装をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第7回	VLANの概念	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション3．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト3．0．1．2の課題を専用のノートにまとめること。2時間
第8回	VLANセグメンテーション	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション3．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト3．1．2．7の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第9回	VLANの設計	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション3．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト3．2．2．5の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第10回	VLANの実装	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション3．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト3．3．2．2の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第11回	VLANのセキュリティ	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション3．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト3．4．1．3のトポロジーの実装をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第12回	VLAN間ルーティングの設定	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション5．0と5．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト5．1．2．4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第13回	VLAN間ルーティングのトラブルシューティング	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション5．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト5．2．2．4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第14回	Layer 3 スイッチング	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション5．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト5．3．2．4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第15回	スイッチネットワークの実装	
	事前学習（内容・時間）	テキストセクション5．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト5．4．1．2の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第16回（定期試験）	シスコネットワーキングアカデミーオンラインテストを行う。	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5862-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ルーティング技術	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・後期	2単位	選択	車　炳玘	
履修の前提条件	2年次科目「スイッチング技術」を70点以上の成績で単位を修得すること。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、LANにおけるルーティングに関する技術を実習を通して修得する。具体的には、RIP、EIGRP,OSPFなどダイナミックルーティングプロトコル及び高度なIPアドレッシング技法について学習する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

実習を中心に、情報通信ネットワークの基盤技術であるルーティング技術を習得し、エンタープライズLANの最適運用に必要なプロトコルの操作に関するスキルの習得を目標とする。本授業を履修すると、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。本講義履修と並行にCCNA（CCENT）資格の準備を始める。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。
オフィスアワー：:水曜日2、3時限、木曜日3時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（CCENT, CCNA, CCNP）
学習の確認：オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第12回目の授業時間に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
シスコネットワーキングアカデミーオンライン教材　（https://www.netacad.com）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
CCNA/CCENT 問題集	Gene	SBクリエイティブ	978-4797388824

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験・オンラインテスト（40%）、実習（40%）、その他（20%、課題、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ルーティングの概念	
	事前学習（内容・時間）	テキスト4．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4．0．1．2．を専用のノートにまとめておくこと。2時間
第2回	ルータの初期設定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト4．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習4．1．4．6をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第3回	ルーティングの決定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト4．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4．2．2．5を専用のノートにまとめること。2時間
第4回	ルータの動作	
	事前学習（内容・時間）	テキスト4．3と4．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4．3．1．4を専用のノートにまとめること。2時間
第5回	スタティックルーティングの実装	
	事前学習（内容・時間）	テキスト6．0と6．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題6．1．2．6を専用のノートにまとめること。2時間
第6回	スタティックルートとデフォルトルートの設定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト6．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習6．2．2．5をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第7回	CIDR、VLSMとIPアドレッシング	
	事前学習（内容・時間）	テキスト6．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習6．3．3．7をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第8回	スタティックルート及びデフォルトルートのトラブルシューティング	
	事前学習（内容・時間）	テキスト6．4～6．6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習6．5．2．5をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第9回	ダイナミックルーティングプロトコル	
	事前学習（内容・時間）	テキス7．0と7．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7．1．4．9～7．1．4．11を専用のノートにまとめること。2時間
第10回	ディスタンスベクターダイナミックルーティング	
	事前学習（内容・時間）	テキスト7．2と7．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習7．3．1．8をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第11回	リンクステートダイナミックルーティング	
	事前学習（内容・時間）	テキスト7．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7．4．2．9を専用のノートにまとめること。2時間
第12回	ルーティングテーブル	
	事前学習（内容・時間）	テキスト7．5と7．6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7．5．3．3を専用のノートにまとめること。2時間
第13回	シングルエリアOSPF	
	事前学習（内容・時間）	テキスト8．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題8．0．1．2を専用のノートにまとめること。2時間
第14回	OSPFの特性	
	事前学習（内容・時間）	テキスト8．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題8．1．3．5を専用のノートにまとめること。2時間
第15回	シングルエリアOSPFの設定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト8．2から8．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習8．2．4．5をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第16回（定期試験）	シスコネットワーキングアカデミー実施のオンラインテストを行う。	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5091-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
Webﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ Ⅰ	219～ 情報ネットワーク学科	2年生・後期	2単位	選択	車　炳玘	

履修の前提条件	「プログラミング初歩I」、「「プログラミング初歩II」を履修し、単位を修得すること。 注意事項：携帯電話・スマートフォンの利用は禁止します。

授業概要　（Course Outline）

HTML、CSSによるWebページの作成およびPHPとのデータ受け取るの仕組みについて実習を通して修得する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

学則第3条を踏まえて、Webシステムの開発に必要な基礎概念およびスキールの修得を目標とする。本授業を履修すると、WebシステムにおけるHTML,CSSおよびPHPの役割や基礎概念の修得は勿論、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ホームページのトレンドをつかむため、２人から4人のグループで必修技術や最新技術等をWeb上で調べ（5回以上）、ポートフォリオに記入すること。また、個人ホームページをレンタルサーバー（自己管理サーバー）上に作成し、第１５回目の授業時間にそのURLを提出すること。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日２、３時限、木曜日３時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：HTML5プロフェッショナル認定試験を受験すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
Web教材：アカデミックHTML4.0(http://www.tg.rim.or.jp/~hexane/ach/)			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
いきなりはじめるPHP	谷藤賢一	リックテレコム	978-4-89797-885-7

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（30%）、実習課題（50%）、その他（20%、レポート、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	HTMLの基礎	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Hello World HTML Section　1と2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題1を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第2回	Webシステムの概要、開発環境について	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Hello World HTML Section　3と4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題2と3を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第3回	開発用ソフトウェアの導入、設定	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Hello World HTML Section　5と6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4から6を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第4回	Webページの作成、保存、表示	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Hello World HTML Section　7と8を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7と8を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第5回	文字の操作（1）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Hello World HTML Section　9を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題9と10を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第6回	文字の操作（2）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　1と2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題11と12を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第7回	リンクについて	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　3と4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題13と14を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第8回	背景と罫線のデザイン	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　5と6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題15から17を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間

第9回	画像の操作（1）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　7と8を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題18と19を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第10回	画像の操作（2）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　9から11を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題20から22を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第11回	テーブルの操作	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 Try next HTML Section　12と13を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題23と24を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第12回	フォームの操作（1）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 First step CSS Section　1から3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題25と26を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第13回	フォームの操作（2）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 First step CSS Section　4から6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題27と28を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第14回	フォームデータのPHP操作の仕組み（1）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 First step CSS Section　7から9を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題29を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第15回	フォームデータのPHP操作の仕組み（2）	
	事前学習（内容・時間）	Web教材 First step CSS Section　10から12を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題30を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間
第16回（定期試験）	4択及び記述式問題による定期試験を行う。	

ナンバリング(Numbering)
1ENN-5092-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ	219～ 情報ﾈｯﾄﾜｰｸ学科	3・4年生・前期	2単位	選択	車　炳玘	

履修の前提条件	「Webプログラミング１」を70点以上の成績で、単位を取得すること。

授業概要　(Course Outline)

PHPプログラミング及びMySQLの基礎及びHTMLとの連携について実習を通して取得する。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

学則第3条を踏まえて、Webシステム開発の基礎知識であるPHPプログラミング及びMySQLデータベースに関するスキールの取得を目標とする。本授業を履修すると、HTMLデータの処理方法やDBへの登録、検索、修正、削除などに必要なスキールを取得できる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

授業内容を参考に各自Webシステムの設計及び実装を行い、第15回目の授業時に完成したのを発表する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日２、３時限、木曜日３時限　研究室：656号室

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

外部試験：PHP7技術者認定初級試験を受験すること。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
いきなりはじめるPHP	谷藤賢一	リックテレコム	978-4-89797-885-7

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
イラストでよくわかるPHP	岡本雄樹	インプレスジャパン	978-4-8443-3295-4

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

定期試験(30%)、実習課題(50%)、その他(20%、レポート、外部試験の結果)

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	入力フォームについて	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter 1と2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題1を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第2回	データの受け取り	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ３．１から３．３を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題2を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第3回	変数	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ３．４から３．６を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題3を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第4回	入力チェック	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ３．７から３．９を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第5回	入力フォームの操作（1）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ３．１０から３．１２を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題5を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第6回	入力フォームの操作（2）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ３．１３から３．１７を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題6を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第7回	データベースの概念	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．１を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第8回	MySQLの基本設定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．２を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題8を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第9回	データベースとテーブルの作成	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．３を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題9を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第10回	データのタイプ	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．４を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題１０を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第11回	データの検索	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．５から４．７を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題１１を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第12回	データの登録	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．８と9を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題１２を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第13回	データの修正	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．１０を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題１３を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第14回	データの削除	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter ４．１１と12を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題１４を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第15回	課題の発表	
	事前学習（内容・時間）	発表内容のPPTを作成し、予行演習を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	発表内容の修正及びコメントなどを取り入れ、プログラムを修正し、指定のフォルダに保存しておくこと。5時間
第16回（定期試験）	４択及び記述式問題による定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5093-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅢ	219～ 情報ﾈｯﾄﾜｰｸ学科	3・4年生・後期	2単位	選択	車　炳玘	

履修の前提条件	「Webプログラミング Ⅱ」を70点以上の成績で、単位を取得すること。

授業概要　（Course Outline）

関数の使い方など高度なPHPプログラミング技法及びデータベースの設計や管理、セキュリティ対策スキールを、実習を通して取得する。

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

学則第3条を踏まえて、実践的Webシステム開発に必要なPHP及びMySQLスキールの取得を目標とする。本授業を履修すると、セキュリティ対策などを取り入れた安全なWebシステムの設計・実装及び運用に関するスキールを身に着けることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業内容を参考に各自Webシステムの設計及び実装を行い、第10回目及び第15回目の授業時に発表する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日2、3時限、木曜日3時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（HTML5プロフェッショナル認定資格、PHP技術者認定試験、ITパスポート、基本情報技術者）　学習の確認：HTML・CSS・PHPのコマンドのテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第12回目の授業時間に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
よくわかるPHPの教科書	たにぐち まこと	マイナビ出版	978-4-83996468-9

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
スッキリわかるSQL入門	飯田理恵子	インプレス	978-4295005094

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験（30%）、実習課題（50%）、その他（20%、レポート、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	変数	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－1から3－3の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題1を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第2回	計算結果の表示	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－4から3－6の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題2を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第3回	繰り返し文（for）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－7から3－9の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題3を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第4回	繰り返し文（while）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－10から3－12の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題4を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第5回	条件分岐	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－13から3－15の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題5を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第6回	複数の条件分岐	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－16から3－18の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題6を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第7回	配列（1次元）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－19から3－21の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題7を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第8回	配列（2次元）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－22から3－25の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題8を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第9回	配列（多次元）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter3－26から3－28の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題9を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第10回	課題発表	
	事前学習（内容・時間）	発表PPTを作成し、予行練習を行うこと。3時間
	事後学習（内容・時間）	課題10を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第11回	関数とは	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter4－3から4－5の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題11を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第12回	関数の使い方	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter4－6から4－8の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題12を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第13回	phpMyAdmin操作	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter4－9と4－10の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題13を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第14回	phpMyAdmin（Table作成）	
	事前学習（内容・時間）	テキスト Chapter4－11から4－15の例題を行うこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題14を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間
第15回	課題発表	
	事前学習（内容・時間）	課題発表の予行練習を行うこと。3時間
	事後学習（内容・時間）	発表内容の修正及びコメントなどを取り入れ、プログラムを修正し、指定のフォルダに保存しておくこと。5時間
第16回（定期試験）	4択及び記述式問題による定期試験を行う。	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-6270-Z4ES

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ネットワークアプリケーション構築 （教職関連科目　選　高等学校　情報）	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・通年	4単位	選択	合田　和正	
	～218 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	原則として、プログラミングの経験があること。未経験者で履修を希望する場合には、開講前に事前相談すること。					

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野の情報システム、システム開発についての知識・技能を習得することを目標とする。
具体的には、Webアプリケーション開発のための技術について、アプリケーションの設計、プログラム開発の実習を含めて学ぶ。プログラミング言語としては、Java, Webサーバおよびアプリケーションをサーバ内で稼働させるコンテナとしてはTomcat、アプリケーションの記述としてはサーブレット、JSP、JavaBeansを学び、演習を通して実際に経験することによって構築技術を身に付ける。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

Javaによるプログラミングを通じて、アプリケーションを作成できるようになる。また、Javaを学ぶことにより、現在のシステム開発において重要なオブジェクト指向の基本を理解し説明できるようになる。今自分が利用しているWebのシステムがどのようにして構築されているかを理解し説明できるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

システム構築の基本はプログラム作成ですから、多くのプログラムを書いて基本を習得してください。関連書籍も多く、ネット上にも多くのサンプルプログラムがあります。これらを利用してプログラミングに慣れてください。プログラムの中で命令や論理に疑問を残さず、質問してください。課題は必ず提出してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認としてポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出してください（提出時期については指示します）。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新・解きながら学ぶJava	柴田望洋・由梨かおる	SB　Creative	978-4-7973-9050-+6

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
本格学習Java入門 基本の習得からゲームプログラミング作成まで　　改訂新版	佐々木　整	技術評論社	978-4-7741-4690-4

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

演習20%、 毎回の課題30%、 定期試験50%

授業計画　(Course Schedule)		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス（1）、Javaの環境設定とプログラム作成手順	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章（重点）、第2章のプログラムの説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	指定したプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第2回	ガイダンス（2）、Javaの環境設定とプログラム作成手順,プログラムの基本スタイルおよび変数	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章、第2章（重点）のプログラムの説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	指定したプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第3回	構造化プログラミング（1）、条件判断による処理の分岐（if文、switch文）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－1から問題3－21のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の条件分岐のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第4回	構造化プログラミング（2）、条件判断による処理の分岐（if文、switch文）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－1から問題3－21のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の条件分岐のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第5回	繰り返し処理（1）for文による回数指定の繰り返し、while文による条件指定の繰り返し（前判断型）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－1から問題3－16のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第6回	繰り返し処理（2）for文による回数指定の繰り返し、while文による条件指定の繰り返し（前判断型）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－1から問題3－16のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第7回	繰り返し処理（3）while文による繰り返し（後判断型）、強制終了と中断再開	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－17から問題3－29のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第8回	繰り返し処理（4）while文による繰り返し（後判断型）、強制終了と中断再開	
	事前学習（内容・時間）	教科書第3章の問題3－17から問題3－29のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第9回	オブジェクト指向プログラミング（1）オブジェクト指向の考え方、メソッドの作り方	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章の問題4－1から問題4－17のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第10回	オブジェクト指向プログラミング（2）オブジェクト指向の考え方、メソッドの作り方、アクセッサ	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章の問題4－1から問題4－17のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第11回	オブジェクト指向プログラミング（3）オブジェクトとクラス、初期化（コンストラクタ）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章の問題4－18から問題4－33のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第12回	オブジェクト指向プログラミング（4）オブジェクトとクラス、初期化（コンストラクタ）、後始末（デストラクタ）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第4章の問題4－18から問題4－33のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第13回	クラスの継承、インターフェイス、パッケージの作成（1）継承（インヘリタンス）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のクラスのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第14回	クラスの継承、インターフェイス、パッケージの作成（2）継承の用法	
	事前学習（内容・時間）	教科書第8章のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のクラスのプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第15回	例外（エラー）処理、ストリームによるデータのコンソールやファイルからの入出力とデータ送受信（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第16章のうち（前半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の例外処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第16回	例外（エラー）処理、ストリームによるデータのコンソールやファイルからの入出力とデータ送受信（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書第16章のうち（後半重点）指定した説明文を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題の例外処理のプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第17回	マルチスレッド（サーバーでの同時並行処理）、ソケットによるネットワークプログラミング、応用問題（1）	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布したマルチスレッド等の資料を読んで機能の概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のソケットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）

第18回	マルチスレッド（サーバーでの同時並行処理）、ソケットによるネットワークプログラミング、応用問題（2）	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布したマルチスレッド等の資料を読んで機能の概要を理解し、応用を考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のソケットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第19回	Webプログラミングとは、Tomcat（Webサーバとコンテナ）のインストール、設定と動作確認	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでWebプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自宅で操作手順を再度実行して操作法を確認する（2時間）
第20回	Webプログラミングとは、Tomcat（Webサーバとコンテナ）のインストール後の動作確認とサンプルの実行	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでWebプログラミングの概要を理解し、動作確認しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	自宅で操作手順を再度実行して操作法を確認する（2時間）
第21回	サーブレットの構造とプログラミング（アプリケーション制御機能）、その1：連携の概要	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第22回	サーブレットの構造とプログラミング（アプリケーション制御機能）、その2：実際の連携	
	事前学習（内容・時間）	サーブレットプログラミングの概要を理解し、サンプルを実行しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第23回	サーブレットプログラミング演習（1）概要	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第24回	サーブレットプログラミング演習（2）応用	
	事前学習（内容・時間）	サーブレットプログラミングの概要を理解し、サンプルを実行しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第25回	JSPのプログラミング（データの表示機能）、その1：　表示とその仕組み	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第26回	JSPのプログラミング（データの表示機能）、その2：　実際の表示	
	事前学習（内容・時間）	JSPプログラミングの概要を理解し、サンプルを実行しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）

第27回	JSPのプログラミング演習（1）概要	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第28回	JSPのプログラミング演習(2)応用	
	事前学習（内容・時間）	JSPプログラミングの概要を理解し、サンプルを実行しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第29回	JavaBeansのプログラミング、全体のまとめ(1)概要	
	事前学習（内容・時間）	事前に配布した資料を読んでJavaBeansプログラミングの概要をつかんでおく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJavaBeansプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第30回	JavaBeansのプログラミング、全体のまとめ(2)応用	
	事前学習（内容・時間）	JavaBeansプログラミングの概要を理解し、サンプルを実行しておく（2時間）
	事後学習（内容・時間）	課題のJavaBeansプログラムを作成し、提出用に保存する（2時間）
第31回（定期試験）	定期試験（Webプログラミング）	

ナンバリング（Numbering）
1ENN-5863-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
インターネット技術	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期	2単位	選択	車　炳玘	
ネットワーク演習	～218					

履修の前提条件	「ルーティング技術」を70点以上の成績で単位を修得すること。

授業概要　（Course Outline）

顧客の要求の収集方法、これらの要求に見合う設備と必要なプロトコル、および顧客のニーズに対処したネットワークトポロジーの設定方法などを実習を通して修得する。さらに、顧客に提案する設計をどう作成し、構築するか、その方法に習熟する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、小規模エンタープライズのためのLAN および WAN の設計に必要な技術力を養成することを目的とする。CCENT、CCNA、CCNPの資格取得を目指す。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡方法：学籍番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先：cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー：:水曜日2、3時限、木曜日3時限　研究室：656号室

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

外部試験：次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。（CCENT, CCNA, CCNP）
学習の確認：オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表」を第12回目の授業時間に提出すること。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
シスコネットワーキングアカデミーオンライン教材　（https://www.netacad.com）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
CCNA/CCENT 問題集	Gene	SBクリエイティブ	978-4797388824

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験・オンラインテスト（40%）、実習（40%）、その他（20%、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	アクセスコントロールリスト	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト9．0．1．1．の内容を専用のノートにまとめること。2時間
第2回	IP アクセスコントロールリストの動作	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題9．1．5．4を専用のノートにまとめること。2時間
第3回	標準アクセスコントロールリスト	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習9．2．3．4をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第4回	拡張アクセスコントロールリスト	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習9．3．2．13をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第5回	アクセスコントロールリストのトラブルシューティング1	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．4を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	課題9．3．2．7～9．3．2．9を専用のノートにまとめること。2時間
第6回	アクセスコントロールリストのトラブルシューティング2	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．5を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習9．3．2．10と9．3．2．11をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第7回	アクセスコントロールリストのトラブルシューティング3	
	事前学習（内容・時間）	テキスト9．6を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習9．3．2．12と9．3．2．13をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第8回	DHCP	
	事前学習（内容・時間）	テキスト第10章を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習10．1．4．4．をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第9回	ネットワークアドレス変換の概要	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11．0を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	テキスト11．0．1．1の内容を専用のノートにまとめること。2時間
第10回	ネットワークアドレス変換の動作	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11．1を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習11．1．2．6をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第11回	ネットワークアドレス変換の設定	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11．2を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習11．2．3．7をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第12回	ネットワークアドレス変換のトラブルシューティング	
	事前学習（内容・時間）	テキスト11．3を読んでおくこと。2時間
	事後学習（内容・時間）	実習11．3．1．5をパケットトレーサーで行うこと。2時間
第13回	LAN設計及び実装1	
	事前学習（内容・時間）	小規模LANのトポロジーを設計すること。2時間
	事後学習（内容・時間）	実装したLANに標準アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間
第14回	LAN設計及び実装2	
	事前学習（内容・時間）	中規模LANのトポロジーを設計すること。2時間
	事後学習（内容・時間）	実装したLANに拡張アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間
第15回	LAN設計及び実装3	
	事前学習（内容・時間）	大規模LANのトポロジーを設計すること。2時間
	事後学習（内容・時間）	実装したLANに拡張アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間
第16回（定期試験）	シスコネットワーキングアカデミー実施のオンラインテストを行う。	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-6372-22E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
ビジネスプログラミング	219～ 情報ネットワーク学科 ～218	2年生・前期	2単位	選択	ディンダ　プラマンタ	

履修の前提条件	プログラミング入門またはプログラミング初歩IIを履修していること。

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、Excelを高度に利用するためにVBA(Visual Basic for Application)を使用したマクロのプログラミングを学習する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

Excelのマクロの記録、VBAによるExcelデータに対するプログラミングの学習によってExcelの利用方法が広がり、今後の学習や仕事で広範囲に活用することができるようになる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学生のためのExcel VBA　第2版	若山芳三郎	東京電機大学出版局	978-4-501-55450-7

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

毎回のプログラミング課題50%、定期試験50%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス、自動記録によるマクロの作成と実行	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までにPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第2回	簡単なマクロの作成	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第3回	変数の使い方と計算	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第4回	セルの選択とコピー	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第5回	条件による分岐	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第6回	複数の条件による分岐（If...Then...Else...End Ifステートメント）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第7回	複数の条件による分岐（Select Caseステートメント）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第8回	処理の繰り返し（For...Nextステートメント）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第9回	二重の繰り返し	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第10回	処理の繰り返し（Do While...Loop）	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第11回	イベントプロシージャとSubプロシージャ	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第12回	一次元配列	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第13回	二次元配列	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第14回	ユーザーフォームの作成	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第15回	総合演習と復習	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義で行った例題を自力で解いてください。（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-6092-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
多変量解析	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期	2単位	選択	荒平　高章	
経営統計	～218	2年生・後期				

履修の前提条件	統計学入門、統計学を修得していること。 （履修していない場合は、先に上記科目を履修すること。）

授業概要　（Course Outline）

本講義では、ディプロマポリシーに基づき、多変量データによるデータ間の関連性の把握、予測、要因分析などを通して、新たな（潜在的な）情報を把握するため、身近で簡単な例題をもとに、代表的な手法の考え方、使い方、分析結果の見方を学びます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

【知識】
・分析手法（回帰分析・クラスター分析・主成分分析・判別分析・因子分析）を説明できる。
【態度・習慣】
・疑問点を尋ねることができる。・講義に参加できる。
【技能】
・教科書の例題を模倣し、演習問題を解くことができる。・時間内で、与えられた問題を解くことができる。
・任意のデータを適切に記述できる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

Excel 等を用いて、相関図、重回帰分析、判別分析、数量化理論Ⅰ類の実習を行いますので、積極的に取り組む様に心掛けてください。
また、インターネットの統計ポータルサイトから興味のあるデータをダウンロードして、実習で学んだ手法をもとに、卒業論文にも利用できるデータ解析を学びます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室を訪ねてください。
オフィスアワーの時間は、掲示を参照して下さい。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

6回目と9回目はPCを持参することが望ましい。
また、KIISNW にアクセスできるように環境を整えておいて下さい。
学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
例題でよくわかる はじめての多変量解析	加藤豊	森北出版	978-4-627-08221-2

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
経営のための多変量解析法	本多正久・島田一明	産能大学出版部	ISBN4 382-04511-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

演習やレポートなどの提出物（50%）、定期試験（50%）を総合的に評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	1章　多変量解析とは　1 （目的・準備、回帰分析、数量化の方法）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第2回	1章　多変量解析とは　2 （クラスター分析、主成分分析、因子分析、判別分析）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第3回	2章　統計の基礎事項の準備	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第4回	3章　線形代数の基礎事項の準備	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第5回	4章　単回帰分析	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第6回	回帰分析のPCによる演習	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第7回	5章　重回帰分析	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第8回	6章　数量化I類	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第9回	数量化理論Ｉ類のPCによる演習	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第10回	7章　クラスター分析	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第11回	8章　主成分分析1 （主成分の導出）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第12回	8章　主成分分析2 （主成分分析）	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第13回	9章　判別分析	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第14回	１０章　因子分析	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験を実施する。	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-6050-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
データ解析	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期	2単位	選択	宮﨑　武	
履修の前提条件	統計学入門，統計学を両方とも修得していること。					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、この授業ではデータサイエンスの基本となるデータ分析について，データの取得，分析，結果の解釈までを代表的な分析手法に適用し，一連のプロセスを学ぶ．また，最も重要な分析結果の解釈についてもクラス内で発表の機会を設ける．

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

データサイエンスの一連のプロセス（問題点の発見，関連データの取得，データの精査，分析，結果の解釈，問題解決）を経験・修得することを目標とする．

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

各自で実際にデータ解析をして発表をしてもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
入門統計学	栗原　伸一	オーム社	978-4-274-06855-3

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示します。			

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（課題・発表・授業中の発言など）50%、定期試験50%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	統計学入門および統計学の授業の復習をしておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う(2h)
第2回	推測統計学	
	事前学習（内容・時間）	教科書第1章から第3章までを読んでおく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第3章を再度読み、問題を解く(2h)
第3回	信頼区間の推定	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第4章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第4章を再度読み、問題を解く(2h)
第4回	χ 二乗分布とF分布	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第5章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第5章を再度読み、問題を解く(2h)
第5回	検定の基本	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第6章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第6章を再度読み、問題を解く(2h)
第6回	対応のない2群の差	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書7.3節を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書7.3節を再度読み、問題を解く(2h)
第7回	対応のある2群の差	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書7.4節を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書7.4節を再度読み、問題を解く(2h)
第8回	等分散の検定	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書7.5節を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書7.5節を再度読み、問題を解く(2h)
第9回	一元配置分散分析	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書8.1～8.4節を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書8.1～8.4節を再度読み、問題を解く(2h)
第10回	二元配置以上の分散分析	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書8.5節を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書8.5節を再度読み、問題を解く(2h)
第11回	多重比較法	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第9章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第9章を再度読み、問題を解く(2h)
第12回	実験計画法	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第10章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第10章を再度読み、問題を解く(2h)
第13回	カテゴリデータの検定	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第11章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第11章を再度読み、問題を解く(2h)
第14回	順位データの検定	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容を復習し、教科書第12章を予め読んで疑問点を整理しておく(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行う。教科書第12章を再度読み、問題を解く(2h)
第15回	データ解析発表	
	事前学習（内容・時間）	データ解析を行い発表の準備を行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	指摘された点について再度整理する(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-6070-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
データモデリング	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・後期	2単位	選択	宮﨑　武	
履修の前提条件	情報数学I、情報数学IIを合格する程度の線形代数および微分積分の知識があること					

授業概要　（Course Outline）

ディプロマポリシーに基づき、本講義では、大量データの処理において欠かせないモデル作成について学びます。自然現象をモデル化し、解析する手法の紹介を通して、蓄積されたデータから未来を予測するために必要な知識を身に付けます。微分方程式や行列の計算など情報数学Ⅰ、情報数学Ⅱで学んだ内容の応用になります。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

自然現象や社会現象に対して数理モデルを構築する考え方を身につける。
データに基づく考察が出来る。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

講義内容に関する応用問題を解き、説明をしてもらいます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは研究室（361）にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じてプリントを配布します			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
力学系入門 進化のダイナミクス 数理生物学	Morris W. Hirsch他 Martin A. Nowak 瀬野祐美	共立出版 共立出版 共立出版	978-4320111363 978-4320056657 978-4320056565

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

平常点（提出物・授業中の発言など）50%、定期試験50%

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読み、情報数学Ⅰ（線形代数）および情報数学Ⅱ（微分積分）の復習をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	情報数学Ⅰ（線形代数）および情報数学Ⅱ（微分積分）の復習をする(2h)
第2回	微分方程式	
	事前学習（内容・時間）	高校の数Ⅲの微分方程式および情報数学Ⅱ（微分積分）の復習をする(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第3回	微分方程式の解のふるまい	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第4回	ロジスティック方程式	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第5回	分岐現象	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第6回	2次元微分方程式	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第7回	固有値と固有ベクトル	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第8回	固有値が異なる2つの実数の場合	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第9回	複素数	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第10回	固有値が純虚数の場合	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第11回	固有値が1つの実数の場合	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第12回	線形計画法	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第13回	ベイズの定理	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第14回	ベイズ推定	
	事前学習（内容・時間）	前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第15回	総合演習と復習	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業内容について復習し、疑問点を洗い出す(2h)
	事後学習（内容・時間）	課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-6120-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
統計プログラミング	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・後期	2単位	選択	ディンダ　プラマンタ	
履修の前提条件	統計学を履修していること。					

授業概要　（Course Outline）

Rを用いて統計プログラミングに関する基本事項について学び、それらの知識・技能を活かして、より応用的な知識及び技能の獲得を目指す。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、以下の事項を目標とする。①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる。②統計的なサンプルプログラムを応用できる。 ③課題に応じて最適な処理構文を選択し、使用できる。 ④講義に参加できる。⑤課題解決のためにお互いに助けることができる。⑥疑問点を尋ねることができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
読む統計学使う統計学	広田すみれ	慶応義塾大学出版会	ISBN978-4-7664-2036-4

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
知識ゼロでも解析プログラムが無理なく組める! 最新版Windows/Macintosh対応。	金城 俊哉	秀和システム	978-4798050805

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

実習課題(講義中とレポート)と定期試験をもとに総合的に判断する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	講義ガイダンス、プログラミング概要	
	事前学習（内容・時間）	講義開始前までに、テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間)
第2回	Rの実行環境構築	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.22～24 を読んでおくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内にRのインストールできなかった人は必ず、完成させること。(2時間)
第3回	データ前処理	
	事前学習（内容・時間）	Webで第3回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第4回	データの読み込み	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.56～58 を読んでおくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第5回	Rの反復：ロジックとフローコントロール Ⅰ(IF・ELSE・ELSE IF)	
	事前学習（内容・時間）	Webで第5回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第6回	Rの反復：ロジックとフローコントロール Ⅱ （For Loop と While Loop）	
	事前学習（内容・時間）	Webで第6回のテーマを検索し、 選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第7回	グラフの作成	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.58～59とpp.70～73 を読んでおくこと(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第8回	中間課題演習	
	事前学習（内容・時間）	第2回～第7回を復習しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「統計データを可視化するのに最適なグラフは何か」、第9回前までにレポートを書いて送ること(自由フォーマット)。(2時間)
第9回	シミュレーション：乱数生成・線形モデル・無作為抽出	
	事前学習（内容・時間）	Webで第9回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第10回	t検定－対応なし	
	事前学習（内容・時間）	Webで第10回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第11回	t検定－対応あり	
	事前学習（内容・時間）	Webで第11回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第12回	分散分析(ANOVA)	
	事前学習（内容・時間）	Webで第12回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第13回	線形回帰	
	事前学習（内容・時間）	教科書 pp.118～119とWebで第13回のテーマ を読んでおくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第14回	多重線形回帰	
	事前学習（内容・時間）	Webで第14回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第15回	後期課題演習	
	事前学習（内容・時間）	第9回～第14回を復習しておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	「なぜ機械学習に統計的プログラミングが必要なのか」第16回前までにレポートを書いて送ること(自由フォーマット)。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング(Numbering)
1EDN-5251-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
機械学習	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・前期	2単位	選択	ディンダ　プラマンタ	

履修の前提条件	統計学・プログラミング実践IIを履修していること。

授業概要　(Course Outline)

近年、爆発的な進歩と普及を遂げている、いわゆる「人工知能(AI)技術」の根幹をなす機械学習技術について重要事項を学び、演習を通じてモデル構築を体験し、実践的な能力を身につける。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

ディプロマポリシーに基づき、この授業では、機械学習技術の重要事項を身につけ、目的に応じて、データを収集、モデルを構築、処理し、評価し、結果を導く能力(一定の実装能力を含む)を獲得することを目標とする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

すべての授業に出席することを期待しています。 授業では教科書には載っていない内容についてもカバーするので、これは特に重要なことです。 また、聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行います。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

連絡、問い合わせ、相談などは551研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

毎回の講義時間後、ポートフォリオシート「KIIS学修ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ」にオンライン自己評価を記入し、提出して下さい。
プログラミングには自身のPCでPythonを用い、環境としてGoogle Colaboratoryを活用する。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
scikit-learn、Keras、TensorFlowによる実践機械学習	Aurélien Géron	オライリージャパン	978-4873119281

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
必要に応じて指示する.			

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

毎回の課題orレポート50%、定期試験50%。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	機械学習イントロダクション	
	事前学習（内容・時間）	Webで第1回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第1回の内容を復習しておくこと。(2時間)
第2回	復習：確率.統計学	
	事前学習（内容・時間）	Webで第2回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第2回の内容を復習しておくこと。(2時間)
第3回	データの観察とはじめてのプロジェクト	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第3回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第4回	分類問題：MNISTデータを用いた分類問題と評価指標	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第4回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第5回	モデルの訓練：線形回帰	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第5回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第6回	モデルの訓練：正則化、ロジスティック回帰	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第6回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第7回	サポートベクタマシン(SVM)：線形SVM、ソフトマージン	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第7回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第8回	k近傍法	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第8回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第9回	パーセプトロン	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第9回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第10回	ニューラルネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１０回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第11回	人工ニューラルネットワーク（ANN）	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１１回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第12回	オートエンコーダ	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１２回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第13回	畳み込みニューラルネットワーク(CNN)	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１３回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第14回	CNNを用いたコンピュータビジョン（Computer Vision）	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１４回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第15回	敵対的生成ネットワーク（GANs）	
	事前学習（内容・時間）	Web、教科書で第１５回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	時間内に作成できなかったレポートやプログラムは必ず、完成させること。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
1EDN-5252-Z2E

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
人工知能	219～ 情報ネットワーク学科	3・4年生・後期	2単位	選択	荒平　高章	
履修の前提条件	情報リテラシー演習を修得していること. プログラミング実践I, 機械学習を修得していること. プログラミング実践IIを履修していること.					

授業概要　（Course Outline）

現在、人工知能技術は、私たちの生活の様々なところで使われている。本授業では、ディプロマポリシーに基づき，人工知能技術の基礎を体系的に学ぶ。また、基礎事項のみならず、授業の中で人工知能技術の応用例について触れ、実生活に密着してきつつある姿を垣間見る。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

①人工知能に関する基本用語が説明できる. ②講義に参加できる. ③課題解決のためにお互いに助けることができる. 疑問点を尋ねることができる.

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

聴講型講義と実習型講義を併用して実施する.

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡，問い合わせ，相談などは研究室（653）にて受け付ける. オフィスアワーの時間については掲示を確認すること.

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること.

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
基礎から学ぶ人工知能の教科書	小高知宏	オーム社	978-4-274-22426-3

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
あたらしい人工知能の教科書 プロダクト／サービス開発に必要な基礎知識	多田 智史	翔泳社	978-4798145600

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

レポート（30%），発表（20%）と定期試験（50%）をもとに総合的に判断する.

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを通読し，受講理由を明確にする．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第2回	人工知能とは（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.2-9)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第3回	人工知能とは（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.10-19)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第4回	人工知能の歴史（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.21-31)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第5回	人工知能の歴史（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.33-43)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第6回	機械学習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.49-77)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第7回	知識表現と推論	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.81-94)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第8回	ニューラルネットワーク	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.99-115)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第9回	深層学習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.121-132)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第10回	進化的計算と群知能	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.141-158)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第11回	自然言語処理	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.165-187)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第12回	画像認識	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.191-201)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第13回	エージェントと強化学習	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.211-226)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第14回	人工知能とゲーム（1）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.235-249)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第15回	人工知能とゲーム（2）	
	事前学習（内容・時間）	教科書の当該箇所(pp.249-251，259-265)を通読する．(2.0h)
	事後学習（内容・時間）	KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する．(2.0h)
第16回（定期試験）	定期試験を実施する	

教職に関する科目

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5010-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
「情報」教科教育法Ⅰ （教職に関する科目）	共通	3年生・前期	2単位	教必	合田　和正	
履修の前提条件	2年生までの教職科目・教科科目のすべてに合格済であることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野の情報教育、特に高等学校の情報科における教科教育法についての知識を習得することを目標とする。
具体的には、教科情報科が設置された経緯、教育目標と内容について理解し、情報技術の進展と社会への影響を踏まえ、情報に関する幅広い知識とともに、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する実践力と情報モラルの育成の方法について、実習を伴いながら習得し、教科情報科に対する内容的な理解を目指す。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

高等学校教育に教科「情報」として普通教科と専門教科の設置に始まり、共通教科情報科と専門教科情報科に再構成され、社会人として必要な情報活用能力を身につけることを狙いとした教育が実施されてきている。その中で情報化社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の育成が求められている。これらの要求に応えられる教員となるために教科設置の経緯、教科の配置、関係、構造、目的を理解するとともに、「情報」教科教育法Ⅱで実践していくための教科教育の基礎を学ぶ。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ただ授業を受けるだけでなく、学習指導案の作成を目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。また、ふだんから情報教育や教員採用に関するニュースに注意を払い、4年生での教育実習に備える。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メイルやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。
授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、
関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。（昨年度以前の講義資料を含む）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1) 高等学校学習指導要領解説 情報編	1) 文部科学省	1) 開隆館	1) 978-4304021633
2) 情報科教育法	2) 鹿野利春ほか編	2) 実教出版	2) 978-4407355215

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	概要と教育目標：教科「情報」の位置づけ、共通教科と専門教科の違い、各科目の概説	
	事前学習（内容・時間）	これまでの教職科目・教科科目でで学んだ内容をまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	共通教科・専門教科、科目「情報」の概要の復習。振り返りを書く。[1.0h]
第2回	教科「情報」の内容：「情報」教科教育法Ⅰの授業内容	
	事前学習（内容・時間）	指導要領解説を通読し、全体を大雑把に把握し、まとめておく [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業内容、特に指導要領解説の内容以外を中心に複数う。振り返りを書く [1.0h]
第3回	情報技術の進展と社会への影響：NW、DBを中心として情報技術の活用による社会の発展	
	事前学習（内容・時間）	データベース論など関連する教科科目の復習をしておく [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	情報技術の活用についての事例についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	模擬講義への参加と評価	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の単元についてまとめておく [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業について振り返り、自分に不足していることをまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	共通教科情報科目の科目と内容（1）社会と情報、および同実習	
	事前学習（内容・時間）	指導要領解説と(高校)教科書の目次を参照して、概要を自分の言葉でまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	実習課題を完成させ、類題を考えてみる（作問）。振り返りを書く [1.0h]
第6回	共通教科情報科の科目と内容（2）情報の科学、および同実習	
	事前学習（内容・時間）	指導要領解説と(高校)教科書の目次を参照して、概要を自分の言葉でまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	実習課題を完成させ、類題を考えてみる（作問）。振り返りを書く [1.0h]
第7回	共通教科情報科のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	共通教科情報科の2科目の共通する内容についてまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	自分のまとめと授業内容を比較・考察する。振り返りを書く。[1.0h]
第8回	専門教科情報科の科目と内容（1）システムの設計・管理分野の科目群	
	事前学習（内容・時間）	対応する教科科目群の概要をシラバス等を参照してまとめておく [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	科目群に共通する考え方・指導方法についてまとめる。振り返りを書く [1.0h]
第9回	専門教科情報科の科目と内容（2）情報コンテンツの制作・発信分野の科目群	
	事前学習（内容・時間）	対応する教科科目群の概要をシラバス等を参照してまとめておく [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	科目群に共通する考え方・指導方法についてまとめる。振り返りを書く [1.0h]
第10回	専門教科情報科の科目と内容（3）情報と問題解決ほか	
	事前学習（内容・時間）	日常生活における問題解決事例と(高校)教科書の対応について考察 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	問題解決の流れや実行の可視化について考察。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	社会と情報システム（1）情報システムと生活の変化	
	事前学習（内容・時間）	(高校)教科書の導入部分について、時代のギャップがあるか検証 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	情報システムと生活の変化の具体例・事例をまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第12回	社会と情報システム（2）情報の信頼性・公開・保護	
	事前学習（内容・時間）	技術・倫理・道徳・教育とソーシャルエンジニアリング事例について調べる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	(高校)教科書では足りない点の洗い出しと補強について考察。振り返りを書く [1.0h]
第13回	情報教育の課題と展望（1）教育方法・環境の情報化、情報の信頼性・公開・保護	
	事前学習（内容・時間）	現状のHW,SW,コンテンツ、インフラについてGIGAスクール構想について調べる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	理想と現実、地域格差、経済格差などの格差について考察。振り返りを書く [1.0h]
第14回	情報教育の課題と展望（2）最近の話題から	
	事前学習（内容・時間）	2020年度の遠隔教育について小中高についてっ国公立・私立別に事例を調べる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	2022年度以降の遠隔教育、ディジタル教科書について考察。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの内容について、特に興味を持った回次を中心にまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、教科教育法Ⅱに向けて、まとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5020-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
「情報」教科教育法Ⅱ （教職に関する科目）	共通	3年生・後期	2単位	教必	合田　和正	

履修の前提条件	「情報」教科教育法Ⅰに合格していること。

授業概要　（Course Outline）

学則第3条を踏まえて、
情報学分野の情報教育、特に高等学校の情報科における教科教育法についての知識を習得し、模擬授業や教育実習へ向けて、少しずつ実践してみることを目標とする。
具体的には、教科教育法Ⅰに引き続き、教育法の実践力を身につける。また、教科情報科の内容に即しながら教授システムの設計、学習指導計画の立案ができるようにし、それらを実施・評価することも身につける。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

指導案の作成及び教授法、観点別評価の理解。教育実習へ向けて、授業に必要な準備を把握する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

ただ授業を受けるだけでなく、学習指導案の作成を目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メイルやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
資料を配布します。（昨年度以前の講義資料を含む）			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
1) 高等学校学習指導要領解説 情報編	1) 文部科学省	1) 開隆館	1) 978-4304021633
2) 情報科教育法	2) 鹿野利春ほか編	2) 実教出版	2) 978-4407355215

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

1) 提出物（授業の振り返りや課題等）が約60%、
2) 小テスト・定期試験・授業態度等が約40%
であって、かつ、これら1),2)の両方について、各項目ごとの評価が30%以上であること。
具体的には、総合評価で60%以上でも、項目ごとの評価で30%未満があれば、不合格になる場合がある。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	「情報」のカリキュラム構成、教科教育法Ⅰの復習	
	事前学習（内容・時間）	教科教育法Ⅰおよび前期の教職科目についてまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業を受けて、各自の弱い点を補強する。振り返りを書く。[1.0h]
第2回	共通教科情報科（1）「社会と情報」	
	事前学習（内容・時間）	(高校)教科書の目次、本文を参照しつつ、教科内容についてのイメージをまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業内容と自分のイメージを比較して考察、まとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第3回	共通教科情報科（2）「情報の科学」	
	事前学習（内容・時間）	(高校)教科書の目次、本文を参照しつつ、教科内容についてのイメージをまとめる [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業内容と自分のイメージを比較して考察、まとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第4回	専門教科情報科	
	事前学習（内容・時間）	問題解決というキーワードで各分野、各科目の事例を調べる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業内容と事例について整理してまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第5回	「社会と情報」の詳細内容と評価に向けた内容・目標のマトリックス化	
	事前学習（内容・時間）	(高校)指導用教科書を参照しつつ、単元内容・単元目標についてまとめる。 [3.0h]
	事後学習（内容・時間）	マトリックス化により明らかになった濃淡・強弱に基づいて補強。振り返りを書く。[1.0h]
第6回	「社会と情報」指導書の活用	
	事前学習（内容・時間）	(高校)指導書を参照しつつ、より詳細な内容、目標、全体像についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	指導用教科書と指導書の使い分けや記述内容の違いについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第7回	目標と関連付けた評価	
	事前学習（内容・時間）	目標の詳細化と評価方法・基準についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	指導用教科書・指導書の強みと弱みについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第8回	授業展開法とメディアの利用（1）板書、黒板とホワイトボード	
	事前学習（内容・時間）	これまでに使用、見たことがある黒板、ホワイドボード、チョーク、マーカーについてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	これからの板書と資料提示について考察する。特にディジタル化の観点。振り返りを書く。[1.0h]
第9回	授業展開法とメディアの利用（2）投影、スライドやプロジェクタ	
	事前学習（内容・時間）	OHPやプロジェクタ、大画面ディスプレイなど光による資料提示についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	これからの遠隔を含めた資料提示について考察する。振り返りを書く。[1.0h]
第10回	授業展開法とメディアの利用（3）メディアの特性と工夫	
	事前学習（内容・時間）	提示（伝達）、記録の観点、教師・学生の観点からメディアについて調べる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	メディアの現状と今後について考察し、まとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第11回	授業展開法とメディアの利用（4）コンテンツのディジタル化と活用	
	事前学習（内容・時間）	身近なディジタルコンテンツについて事例をまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	今後の動向について、現状と最先端から予測してみる。[1.0h]
第12回	学習・教授評価と総括（1）評価について、位置と役割	
	事前学習（内容・時間）	計測と評価、主観的評価と客観的評価についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	評価の位置と役割についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第13回	学習・教授評価と総括（2）目的と役割、基本的性格、対象と主体	
	事前学習（内容・時間）	評価の対象と主体を中心に、目的・役割について調べてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	授業をうけて、基本的性格と目的役割についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h]
第14回	学習・教授評価と総括（3）評価のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	評価に向けての準備、シラバス、教材、試験、採点についてまとめる。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	評価についての全体的なまとめをする。振り返りを書く。[1.0h]
第15回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	14回までの授業をまとめておく。[3.0h]
	事後学習（内容・時間）	定期試験に向けて、教育実習に向けて、指導案の事例を収集分析する
第16回（定期試験）	定期試験等	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5080-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育哲学 （教職に関する科目）	共通	2年生・後期	2単位	教必	塚野　慧星	
履修の前提条件	教育に関して「当たり前」だと考えられていることを、根本から問い直そうとする意欲があることが望ましい。					

授業概要　（Course Outline）

教育という営みは、他の営みにも比して、私たちが「当たり前」だと思い込んでいる側面を多分に含んでいます。そしてこの側面は、私たちが意識しないところで、実践上の様々な問題を生じさせています。本授業の最大の目標は、私たちが教育に関して「当たり前」だと思い込んでいるものを、根本から問い直すことのできる力を身に付けることにあります。本授業ではそのために、教育および教育思想史に関する基本的理解や、教育と関わる個別のテーマに関する理解を通して、教育という営みを様々な角度から考えることを目指します。またこれらの取り組みは、建学の精神である「至心」を基盤とする教育者としての心構えを養うものであり、受講者には最終的にこうした心構えを体得して頂きます。なお、授業ではICTを活用したグループワーク等を取り入れると共に、受講者もまたその活用法を学ぶことができるよう、授業全体を通してICT教育に関する知見を説明する機会を設けます。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・教育に関する基本的理解を習得する。
・教育思想史に関する基本的理解を習得する。
・教育における「よさ」・「わるさ」を説明することができる。
・教育の「望ましいあり方」を自分なりに考えることができる。
・教職を目指すにあたって必要となる基本知識および態度を習得する。
・「至心」を基盤とする教育者としての心構えを体得する。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

各回の終わりにミニレポートの作成・提出をお願いします。各回で設けるテーマについて自由に記述して頂きます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

質問等は授業の前後の時間に受け付けます。
連絡先：　ym423a@gmail.com

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリント配布			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
冒険する教育哲学	土戸敏彦	勁草書房	978-4-326-29864-8

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

成績評価の方法：定期試験60%・平常点40%（ミニレポートを含む）
成績評価の基準：教育に関する諸問題を論理的・倫理的に考えることができるか否か

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション	
	事前学習（内容・時間）	教育に関する自らの興味や疑問点を整理し、説明することができるようにする（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第2回	教育の基本的理解①：学校の歴史的変遷と現代的課題	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第3回	教育の基本的理解②：教育を成り立たせる諸要因	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第4回	教育の基本的理解③：「教える」と「学ぶ」の関係性	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第5回	教育思想史に関する基本的理解①：コメニウスの教育思想	
	事前学習（内容・時間）	コメニウスについて事前に自分で調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第6回	教育思想史に関する基本的理解②：ルソーの教育思想	
	事前学習（内容・時間）	ルソーについて事前に自分で調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第7回	教育思想史に関する基本的理解③：カントの教育思想	
	事前学習（内容・時間）	カントについて事前に自分で調べる（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第8回	「主体性」をめぐる問題：教育は子どもの主体性を養うことができるか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第9回	「発達」をめぐる問題： 発達とは階段を登ることか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第10回	「道徳性」をめぐる問題①：道徳的であるとはどのようなことか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第11回	「道徳性」をめぐる問題②：道徳的であるとはどのようなことか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第12回	「人間性」をめぐる問題：人間らしいとはどのようなことか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第13回	「知識」をめぐる問題： 学校教育が伝達する知識とはどのようなものか？	
	事前学習（内容・時間）	授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第14回	教育者に求められる資質①：「当たり前」を問い直すことの意義とは何か？	
	事前学習（内容・時間）	教育者に求められる資質とは何かを自分なりに考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第15回	教育者に求められる資質②：「当たり前」を問い直す力をどのように発揮するか？	
	事前学習（内容・時間）	教育者に求められる資質とは何かを自分なりに考える（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業内容に関する疑問点・論点を整理する（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験はレポート形式とします。 授業内で提示するレポート課題に各自で応答して頂きます。分量等の基準については授業内で指示します。	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5100-12ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教師入門 （教職に関する科目）	共通	1年生・後期	2単位	教必	高橋　潤子	

履修の前提条件	①学校教育に関心があること。②ディスカッションに意欲的に取り組むこと。 ※禁止事項：私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退。

授業概要　（Course Outline）

一人最低2回は、問題提起をしてもらいます。それに対し、グループ又は個人としての意見・疑問を出し合い討論します。最終的に、理想の教育について考えます。その際、建学の精神である「至心」に基づいて、積極的かつ誠実な態度での討論をお願いします。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

この授業は、建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性」の育成を主な目標として、普通教育のみならず、不登校、生涯学習、特別支援教育、命の教育等についても講義をします。その講義の中で行うディスカッションやチーム活動を通じて、多様な考え方に触れると共に豊かな人間性を育成します。その過程で、児童生徒の授業に対する理解度や意欲を高めるために効果的である、ICTについての認識を深め、具体的な活用ができるよう指導します。最後に「理想とする」学校教育や教師について考えます。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

学校教育を多様な視点で捉え、主体的に事前事後の学習ができるようにしてください。
対話型の授業を心がけますので、意欲的な発言を期待しています。
授業の終わりには毎回コメントカードの作成・提出してください。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問合せ先は、kimandkayl@yahoo.co.jpにて随時受け付けます。
オフィスアワーは、授業日の授業の前後の時間になります。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して授業の前までに高橋までメールで提出してください。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
特に指定しませんが、必要に応じて資料を配布します。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
学校の戦後史 教育言説の歴史社会学	木村元 広田照幸	岩波書店 名古屋大学出版会	9784004315360 481580396X

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験50%、問題提起20%、平常点30%（ディスカッション、ポートフォリオ、レポート、コメントカードの作成等）
・成績評価の基準
①不登校、子どもの貧困、特別支援教育、命の教育等を理解しているか。
②創意工夫をして問題提起を行おうとしているか。ディスカッションに積極的に参加しているか。
③多様な意見を吸収し、建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性」に近づこうとしているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：授業の進め方，成績評価等についての説明等	
	事前学習（内容・時間）	教職とは何かについて調べて、まとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第2回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、少年犯罪とマスコの関係について解説を行います。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	身近な少年犯罪をマスコミがどう報じているかを調べ、その問題点をまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで200字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第3回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、マスコミの報道が教育に与える影響について考察します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	教育改革が議論された過去の少年犯罪について、どのような議論がなされたのかを、新聞等を用いてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第4回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、教師に対する保護者の願いが、どのように変容したのかを歴史的にみていきます。	
	事前学習（内容・時間）	戦後の教師の社会的立場がどのように変容していったのかを、調べてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで200字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第5回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、不登校や子どもの問題行動の背景に貧困があること、子どもの貧困に教師はどう向き合えばいいのか等を検討します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	子どもの貧困の解決策を考え、200字程度にまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第6回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、不登校の現状と、原因から解決策を考えます。その際、意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	不登校の実態や原因を、まとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第7回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、夜間中学校の種類や機能について解説します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	夜間中学校について、調べてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第8回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、夜間中学校の入学資格、教師の役割や指導等について解説します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	どのような場合に夜間中学校に入学できるのか、教師はどのように学習をフォローしているか等について、調べてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第9回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、定時制高校の種類や機能について説明します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	定時制高校について、調べてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第10回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、定時制高校の入学資格、教師の役割や指導等について解説します。	
	事前学習（内容・時間）	どのような場合に定時制高校に入学できるのか、教師の役割は何か等について300字程度にまとめてきてください。授業で質問します（2時間）
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第11回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、日本における特別支援教育の歴史等を解説します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	日本の特別支援教育の歴史を、300字程度にまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第12回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、現在行われている特別支援教育の実践を紹介します。そして、効果的な支援とは何かを考えます。その際、意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	現在、どのような特別支援教育がおこなわれているかを、調べてまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第13回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、命の教育が行われるようになった経緯や内容等を解説します。その際、必要に応じて意見交流をします。	
	事前学習（内容・時間）	なぜ命の教育が行われるようになったのか、300字程度にまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第14回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、各学校で実践されている命の教育について学び、どのような教育が効果的かについて意見交換をします。	
	事前学習（内容・時間）	過去に受けた命の教育、もしくは道徳教育について200字程度でまとめてください。授業で発表してもらいます（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第15回	まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、これからの時代に求められる「理想」の教師像について議論をします。	
	事前学習（内容・時間）	自分なりの「理想」の教師像を、200字程度でまとめてきてください。授業で質問します（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください（2時間）。
第16回（定期試験）	マスコミと教育の関係、教師を取り巻く環境の変化、不登校、子どもの貧困、夜間教育、命の教育等の学習したすべての事柄が試験の対象となります。	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5050-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育社会学 （教職に関する科目）	共通	2年生・後期	2単位	教必	平田 毅	
履修の前提条件	将来教職を目指す者に向けた授業であるので、教える＝学ぶという主客往復運動を自らの裡に作用させ主体的に取り組む姿勢と態度そして能力が求められる。					

授業概要 （Course Outline）

現代社会は大きな転換期を経験している。そうした状況のなか、2020年にはCOVID-19感染症パンデミックのなか、2月末から全国の小中学校が一斉に休校するという事態も起こった。学校や教育のあり方が大きく問われ、大きな変革を迫られた。この授業では、そうした状況も踏まえ、転換期の教育・学校の諸相とそれを取り巻く“問題”に焦点を当て、その構造とメカニズムを社会学的に考察・解明していくことを目的とする。
　一方的に私が講義する授業だけでなく、受講生のみなさんがそれぞれのテーマに基づいて作成したレポートの発表を取り入れた授業を行うので、問題意識を持って、積極的に課題に取り組んでほしい。
　なお、本授業は学則第23条の2により開講されるものであり、カリキュラムポリシーのⅠおよびⅥを満たす科目ともなる。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 （Objectives）

・教育・学校をとりまく状況や問題を社会学的に捉え、その相互関係のメカニズムを考察し理解する。
・教職を志望するに当たって、教育・学校における諸問題・諸事象を複眼的に捉える視点と態度を養う。
・PC、PowerPoint、電子黒板など情報ツールを有効に活用したプレゼンテーションができるスキルの習得も図る。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

テキスト沿ったテーマを分担して、PowerPointを用いて発表していきます。
①各自の担当テーマを十分にリサーチし、その内容や問題の十分な理解に努めます。
②オーディエンスにも「よくわかる発表」になるように工夫したPowerPoint原稿を作成します。
③作成したPowerPointをもとに発表の準備（練習）をします。
④発表します。
⑤聴き手の側は予めテキストの指定箇所を熟読し要点と疑問点を念頭に置きながらしっかりと発表に耳を傾けます。
⑤発表後、聴き手は積極的に質問し意見を述べるなど、発表に対して真摯に反応します。
※以上が、相互に学び合う場を創出していくうえで、不可欠な要素です。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。
メールアドレス： t-hirata@kiis.ac.jp

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎時のテーマ発表について「教育社会学 発表学習の記録』シートを記入し、学びの振り返りをします。
しっかり、記入するようにしてください。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
よくわかる教育社会学	酒井朗・多賀太・ 中村高康編著	ミネルヴァ書房 （2,600円税別）	978-4-623-06293-5

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
半径5メートルからの教育社会学	片山悠樹・内田良 古田和久・薪の智和 編	大月書店 （2,200円税別）	978-4-272-41238-9

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

テーマ発表の内容（40%）と期末レポート（60%）により総合的に評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	授業ガイダンス　教育社会学とは何か	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを精読し、教育社会学で学ぶことを把握しておく。自らの学校経験を振り返り、学校や教育の意味を考える。[2h]
	事後学習（内容・時間）	自らの学校経験や被教育体験を重ね合わせて、テキストを概観し、興味ある箇所を読む。[2h]
第2回	学校と社会 ～学校のある社会と学校のない社会	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第3回	階層と教育 ～近代化とメリトクラシー	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第4回	マイノリティと教育 ～社会的排除と教育	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第5回	ジェンダーと教育 ～隠れたカリキュラムとジェンダー形成	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第6回	教師の社会学 ～教師の役割と変わる教員養成	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第7回	子どもの社会学 ～子ども観の変遷と情報化のなかの子ども	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第8回	ライフコース ～ライフヒストリーとライフストーリー	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第9回	教育問題の社会学 ～非行・逸脱・不登校・いじめ	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第10回	教育改革 ～市場化する教育	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第11回	学校教育 ～公教育制度のなかの学校	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第12回	労働市場へのトランジション ～キャリア教育と進路指導	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第13回	教育と経済 ～人的資本論とシグナリング論、教育投資論	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第14回	今、学校・教師に求められていること ～学校と社会のつながり	
	事前学習（内容・時間）	テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表・授業で明らかになったことがらを確かめノートにまとめること。 テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h]
第15回	授業の振り返りとまとめ	
	事前学習（内容・時間）	これまでのテーマを振り返って、それぞれのエスプリを整理する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	期末レポート作成に向けて、テーマを明確にしその作成に取り組む。[2h]
第16回（定期試験）	レポート課題の提出	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5060-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育心理学 （教職に関する科目）	共通	2年生・前期	2単位	教必	長池　和代	○
履修の前提条件	「心理学」Ⅰ・Ⅱを履修(単位修得)もしくは同時履修していること。					

授業概要　（Course Outline）

建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性」を礎とし、学校教師(本学の場合、高校教諭)としての基本的条件(専門科目知識・技能は勿論)としての役割(自己管理、対人理解・共感力・支援力)に関する知識・態度を理解し、自らの課題として自覚できるための講義とグループワークから構成される。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性を培い、学校教師(本学の場合、高等学校教諭)としての基本的姿勢(教師役割への積極的態度、責任感)と専門性(教授・指導・支援の力量)の基礎となる心理学的知識への関心が高まることと、習得される(説明できる)こと。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業内容と関連させて、今日の学校教育をめぐる諸問題についてグループ・ディスカッションを導入する。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

初回講義時に説明する。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
はじめて学ぶ教育心理学	吉川成司・関田一彦・他	ミネルヴァ書房	978-4-623-07448-8

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code

補助教材として、授業内容に関連したプリント資料を配付・活用します。

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

期末試験の成績と授業中の参加度(質問・発表、グループワーク等)を総合的に評価します。
両者の比重は、概ね6対4。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：「教育心理学」を学ぶにあたって	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第2回	教育心理学の目的と意義	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第3回	教育心理学の方法：学校教師に求められる研究方法	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第4回	人間の発達(1)考え方・規程要因・過程	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第5回	人間の発達(2)発達の諸相	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第6回	学習(1)動機づけ	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第7回	学習(2)学習の評価	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第8回	学習(3)ICT教育とメディアリテラシー	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第9回	まとめと確認①：グループワークによる自己点検	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第10回	学級集団とその指導(1)学級の心理学的構造	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第11回	学級集団とその指導(2)心理教育	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第12回	生徒理解と個別指導	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第13回	問題行動と教育相談	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第14回	特別支援教育：発達の個人差への教育的対応	
	事前学習（内容・時間）	当日の授業内容に関係する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。（2h）
	事後学習（内容・時間）	授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第15回	まとめと確認②：グループワークによる自己点検	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業内容を総復習し、ノートにまとめる。（2h）
	事後学習（内容・時間）	難しく感じた問題等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。（2h）
第16回（定期試験）	定期試験(筆記試験)	

ナンバリング(Numbering)
2TTN-5140-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
特別支援教育 (教職に関する科目)	219～ 経営情報学科	2年生・後期	2単位	教必	鈴木　和也	
履修の前提条件	日本国憲法、心理学、教育哲学、教師入門、教育社会学、教育心理学、教育課程論を履修(あるいは単位を取得)していること。					

授業概要　(Course Outline)

この講義では、障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、教師として、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めて生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導と必要な支援を行うための基礎知識を学ぶ。優れた専門性を磨くことは勿論ではあるが、温かい人間性や豊かな人間性を育むことも同時に目指す。

授業を通して修得できる力　(Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　(Objectives)

・特別支援教育の考え方・基本的概念を理解し説明できる。(知識・理解)
・学習や生活上の困難さの原因・背景への関心をもつ。(態度・志向性)
・特別な教育的支援が必要な生徒に対して具体的な支援のアイディアと方法を提供できる。(技能)

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　(Active Learning)

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　(Office Hour)

質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)

その他　(Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出)について

kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。

教科書　(Textbooks)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
特別支援教育の基礎・基本 2020	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	株式会社ジアース教育新社	978-4-86371-548-6

参考文献　(Reference Books)

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
よくわかる 特別支援教育	湯浅恭正　編著	ミネルヴァ書房	978-4-623-05088-8

成績評価方法　(Grading Criteria / Method of Evaluation)

1.定期試験(80%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%)

授業計画 （Course Schedule）			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーション～支援教育と特別支援教育		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「特別支援教育とその現状」を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第2回	学校教育のシステムと個に応じた指導とは		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「学校教育のシステムと個に応じた指導」を通読	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第3回	通常学級で困っている子ども(生徒)たち		
	事前学習（内容・時間）	教科書68頁～76頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第4回	特別に支援を必要とする子ども(生徒)①知的障害		
	事前学習（内容・時間）	教科書152頁～183を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第5回	特別に支援を必要とする子ども(生徒)②発達障害(自閉性障害)		
	事前学習（内容・時間）	教科書302頁～320頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第6回	特別に支援を必要とする子ども(生徒)③学習障害（LD）		
	事前学習（内容・時間）	教科書323頁～331頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第7回	特別に支援を必要とする子ども(生徒)④注意欠陥多動性障害(ADHD)		
	事前学習（内容・時間）	教科書333頁～339頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第8回	特別に支援を必要とする子ども(生徒)⑤その他(文化マイノリティ)		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「文化マイノリティを通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第9回	特別支援教育の実際と課題①学級づくり～生徒指導、教育相談		
	事前学習（内容・時間）	教科書39頁～45頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第10回	特別支援教育の実際と課題②授業づくり～目標設定と方法・評価		
	事前学習（内容・時間）	教科書51頁～52頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第11回	特別支援教育の実際と課題③保護者・地域社会との連携～成長と理解		
	事前学習（内容・時間）	教科書64頁～66頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第12回	特別支援教育の実際と課題④専門機関との連携		
	事前学習（内容・時間）	教科書50頁～51頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第13回	特別支援教育の実際と課題⑤特別支援教育における情報機器の活用（アシスティブ・テクノロジーについて）		
	事前学習（内容・時間）	教科書61頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第14回	特別支援教育の実際と課題⑥特別支援教育における情報機器等の活用の実際（教材作成の道具としての活用、生徒の個別学習への活用について）		
	事前学習（内容・時間）	教科書119頁～122頁、176頁～178頁、257頁～261頁を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第15回	まとめ		
	事前学習（内容・時間）	配布資料「特別支援教育の課題と展望」を通読する	（2.0h）
	事後学習（内容・時間）	本時の内容の再確認と復習課題の解答	（2.0h）
第16回（定期試験）	定期試験の実施 （振り返りを行い、特別支援教育に対する見識を深める。）		

ナンバリング（Numbering）
2TTN-5130-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
総合的な探究の時間の指導法 （教職に関する科目）	219～	3年生・後期	2単位	教必	相良　誠司	
履修の前提条件	21世紀の高度情報化社会にあって、次世代の高等学校教育において「至心をもって事にあたる人間づくりをなす」という確固たる意思をもち、高等学校情報科教諭として修得すべき「総合的な探究の時間」の在り方について意欲的に学ぼうとする姿勢を有すること。					

授業概要　（Course Outline）

＜内容＞
1　新学習指導要領の背景や理念、及び高等学校の教育課程全体について理解を深める。
2　「総合的な探究（学習）の時間」の意義・目標・特質について理解を深める。
3　先進的な「総合的な探究の時間」の実践例について調査発表し、協議する。
4　「総合的な探究の時間」の体制づくり・全体計画・年間計画・単元構想・評価について理解を深める。
5　母校を想定した、総合的な探究の時間の単元の構想を発表し、協議する。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

【1.知識・理解】
・総合的な探究の時間の意義;・目標・特質について理解することができる。
【2.汎用的技能】
・カリキュラム・マネジメントの観点から、総合的な探究の時間の全体計画・単元計画等を立案し検討することができる。
【3. 態度・志向性】
・「総合的な探究の時間の指導法」の学びを調整しながら進め、振り返って成果と今後の課題を明らかにすることができる。
【4.統合的な学習経験と創造的思考力】
・先進的な総合的な探究の時間の実践例について探究し、自らの考えを構築することができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

適宜、ICTを活用したグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

問い合わせや質問には、主としてメールで対応する。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

・第15回後に、「学びの振り返りレポート」及び「KIIS学修ポートフォリオ＆ルーブリック」を提出する。
・可能であれば、授業以外の時間に、実際の「総合的な探究の時間」の取組を視察する機会を設ける。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編	文部科学省		

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(高等学校編)	文部科学省		

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

○授業課題への取組（39%）
○授業の振り返り（26%）
○自己探究課題への取組（13%）
○学びの振り返りレポート（22%）

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション　授業の目標・計画・方法等について　自己目標（なりたい自分）の設定	
	事前学習（内容・時間）	自分自身の体験した、「総合的な探究（学習）の時間」を想起し、メモする。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	授業への質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記載し、フォームで提出する。（2時間）
第2回	日本の学校教育の動向　　社会に開かれた教育課程	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第3回	教育課程の基準としての新学習指導要領（育成を目指す資質・能力の3本柱）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第4回	総合的な探究の時間の意義・目標・特質	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分の疑問や考えを記入しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第5回	総合的な探究の時間を柱とした教育課程編成の実際　（カリキュラム・マネジメント）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第6回	先進的な総合的な探究の時間の実践例①に学ぶ（山梨県立北杜高等学校）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第7回	先進的な総合的な探究の時間の実践例②③に学ぶ（岡山県立真庭高等学校・広島県立安芸南高等学校）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第8回	先進的な総合的な探究の時間の実践例④⑤に学ぶ（金沢大学附属高等学校・大分県立日田三隈高等学校）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第9回	総合的な探究の時間の体制づくり	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分の疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第10回	総合的な探究の時間のデザイン　（全体計画・年間指導計画）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第11回	総合的な探究の時間の単元の構想　指導とj評価	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第12回	総合的な探究の時間の構想①（プレゼンテーションと協議）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第13回	総合的な探究の時間の構想②（プレゼンテーションと協議）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第14回	総合的な探究の時間の構想③（プレゼンテーションと協議）	
	事前学習（内容・時間）	事前課題について、自分なりの疑問や考えを記入する。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	質問、学んだこと・気づき、調べたこと等を記入し、フォームで提出する。（2時間）
第15回	総合的な探究の時間の指導法のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	学びの振り返りレポートを作成しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	「KIIS学修ポートフォリオ＆ルーブリック」をまとめて提出する。（2時間）
第16回（定期試験）	まとめ	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5030-22ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育課程論（特別活動を含む）（教職に関する科目）	共通	2年生・後期	2単位	教必	岡野　亜希子	
履修の前提条件	原則として教師入門，教育心理学を履修していること					

授業概要　（Course Outline）

学校の教育課程とその内容について理解する。とくに特別活動の意義や基本的な性格について理解を深めるとともに，その教育課程上の位置づけ，学習指導要領改訂の経緯などを踏まえて，特別活動の役割について考える。さらに，特別活動の目標や内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについて，高等学校学習指導要領を中心に基礎的概念の理解と具体的指導法の基礎を学ぶ。

本学の建学の精神である「至心」に必要な教養を身につける。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

・学校の教育課程について知る。とくに特別活動の教育課程上の位置づけとその基本的な性格について理解する。
・学習指導要領における特別活動の目標や内容，内容の取扱いについて理解する。
・集団活動の教育的な意味について考える。
・遠隔・オンライン教育も含め，情報通信技術を用いた学習活動の意義および課題を理解する。
・遠隔・オンライン教育も含め，情報通信技術を効果的に活用した特別活動の授業案を考える。
・教育が人間と社会とをつなぐ役割をもつことを理解し，教職を目指すうえでの基礎的な教養を身につける。
・レポート作成などを通じて自分の考えを客観的な言葉で表現することができるようにする。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

・授業内容に基づきテーマを設定し、ディスカッションを行います。
・基本的に毎回、授業後半で小レポートを作成します。
・LMSなどを用いて各自で課題に取り組み、その成果について議論します。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

mail:aokano@fuk.kindai.ac.jp
授業の前後で質問など受けつけています。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
高等学校学習指導要領(平成30年告示)	文部科学省	東山書房	4827815674
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	4487286352

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新しい時代の教育課程 第4版	田中耕治ほか	有斐閣	4641221073

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

小レポート(20%)，中間レポート(30%)，定期試験(50%)の結果を総合的に判断する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション：この科目について，授業の進め方や成績評価について	
	事前学習（内容・時間）	シラバスを読む，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，課題レポートの作成（2時間）
第2回	学校の教育課程についての基礎知識：教育課程，学習指導要領，教育関連法規	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第3回	戦後の教育課程(1)教育改革と学校教育制度	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第4回	戦後の教育課程(2)学習指導要領の登場，高度経済成長期における学校	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第5回	戦後の教育課程(3)進学率の上昇と学校の新たな問題	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第6回	戦後の教育課程(4)学校週5日制と総合的な学習の時間	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第7回	戦後の教育課程(5)新しい学力観と今後の方向性	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第8回	現在の教育課程	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第9回	前半内容の振返りと中間レポート	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第10回	特別活動についての基本知識	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第11回	特別活動の内容(1)学級・ホームルーム活動	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第12回	特別活動の内容(2)学校行事	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第13回	特別活動の内容(3)生徒会活動	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第14回	特別活動と他の教育課程とのかかわり：各教科・科目，総合的な学習(探究)の時間，道徳教育，キャリア教育	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第15回	後半内容の振り返りと，全体のまとめ	
	事前学習（内容・時間）	前回の配布資料とノートの確認，前回作成したレポートの確認，指定テキストと参考図書を読む（2時間）
	事後学習（内容・時間）	配布資料とノートの確認，指定テキストや参考図書の該当部分を読む，課題レポートの作成（2時間）
第16回（定期試験）	定期試験	

ナンバリング（Numbering）
2TTB-5090-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育方法学（ICT活用を含む） （教職に関する科目）	共通	3年生・前期	2単位	教必	高橋　潤子 荒平　高章	
履修の前提条件	①学校教育に関心があること。 ②ICTを用いた授業計画を作成し、これを用いた授業を展開すること。 ③意欲的にプレゼンテーションを行うと共に、ディスカッションに積極的に参加すること。 ※禁止事項：私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退。					

授業概要　（Course Outline）

本授業では、ディプロマポリシーに基づき、教育方法に関する歴史・理論・実践の基礎的な知識・技能を学ぶ。その過程において、今日、特に求められるICTを用いた授業方法等を学ぶ。これらを受けて、各自がICTを用いた学習指導案を作成し、それをもとに、各自がプレゼンテーションを行う。その後、授業内容やICTの使用方法等が、適切であったかどうかについての意見交流を行う。そして、不十分であった点を改善し、次年度の教育実習に向けて備える。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	○
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標　（Objectives）

本科目の到達目標は、①教育方法の歴史・理論・実践を理解している。②適切にICTを教科指導に用いることができる。③授業を実践するにあたって、ICTを用いた学習指導案を作成することができる。④プレゼンテーションで不十分であった点を、話合って改善することができる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

プレゼンテーション終了後に、ディスカッションを行う。
対話型の授業を行うので、意欲的な発言を期待する。
授業の終わりに、コメントカードの作成・提出を行う。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡問合せは、kimandkayl@yahoo.co.jpにて随時受け付ける。
オフィスアワーは、授業日の授業の前後の時間になる。
また、クラスルームを開設するので、講義以外での連絡等はクラスルームで行う。

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して授業の前までに高橋までメールで提出。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
教育方法の理論と実践	小川哲生、菱山覚一郎	明星大学出版部	9784895491549
高等学校学習指導要領解説情報編	文部科学省	開隆堂出版	9784304021633

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

・成績評価の方法：定期試験40%、学習指導案と実技40%、平常点20%（ディスカッション、ポートフォリオ、模擬授業評価表、コメントカードの作成）
・成績評価の基準
①教育の理論や歴史を理解しているか。
②創意工夫を行い、分かりやすい学習指導案を作成しようとしているか。
③ディスカッションに、積極的に参加しようとしているか。
④ICTの使い方を理解し、授業で適切に使おうとしているか。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	導入の講義。授業の概要を説明する。また、学習指導案作成の教材決め等を行う。（担当：荒平、高橋）	
	事前学習（内容・時間）	高校時代に用いていた教科書等から、事前に学習指導案を作成するための単元（教材）を決めておくこと。授業で質問する（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	教材、授業目標等を、wordで100字程度にまとめ、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第2回	ICTと教育（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	自身がこれまでの受けてきた講義を振り返り、どのようなICT機器が使用されていたか，どのように講義で使用されていたかを考えておく．（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して，気づき・発見等についてワード等の電子ファイルにまとめる．（2時間）
第3回	ICT機器の教育への応用（Microsoft Office）（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	自身の講義にどのようなICT機器やICT技術が使えるのかについて考え、ノートにまとめておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。（2時間）
第4回	ICT機器の教育への応用（プログラミング①）（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	自身がこれまでの受けてきたプログラミング系講義を振り返り、どのようなプログラミング言語を学んできたか、また情報科目で取り扱われているプログラミングの単元について調査しておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。（2時間）
第5回	ICT機器の教育への応用（プログラミング②）（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	第4回の講義を振り返り、情報科目で自身が教えることができる内容について考えておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。（2時間）
第6回	ICT機器・技術を用いた模擬講義計画（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	第4回、5回の講義を振り返り、情報科目で自身が教えることができる内容について考えておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。（2時間）
第7回	ICT機器・技術を用いた模擬講義実践（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	第6回の講義を振り返り、講義ができるように教材の準備をしておく。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	今回の講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。他者の講義に対して評価票を作成する。（2時間）
第8回	ICT機器・技術を用いた模擬講義改善とフィードバック（担当：荒平）	
	事前学習（内容・時間）	他者の講義に対して評価票を作成する。自身の模擬講義の反省点をワードファイルにまとめる。（2時間）
	事後学習（内容・時間）	第2回から第8回までの講義を通して、気づき・発見等についてワードファイルにまとめる。模擬講義に関するフィードバックを反映させたレポートを作成する。（2時間）
第9回	教育方法の史的変遷を知る。 日本の教育方法が、戦後どのような変遷をたどって発展したのかを解説する。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	体系的教授法、経験主義とは何かについて調べ、500字程度にまとめておくこと。授業で質問する（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第10回	学習指導要領の変遷について学ぶ。 戦後からの学習指導要領の変遷を学んだ後に、効果的な教育方法、基礎的な学習評価方法、ICTの活用法を説明する。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	学習指導要領とは何かについて調べ、500字程度にまとめておくこと。授業で質問する（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第11回	優れた特色ある教育実践に学ぶ。 優れた教育実践についていくつか紹介する。これらの実践を通して、効果的な教育方法について考える。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	無着成恭、東井義雄、斎藤喜博の教育実践について調べ、簡単にまとめてくること。授業で質問する（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第12回	学習指導案を作成する① 授業の要素、授業の要件、教材研究、学習の形態について解説する。その後、学習指導案作成に入る。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時に選択した教材をもとに、教材研究を行っておく。授業で発表させる。
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題を作成し、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第13回	学習指導案を作成する② 効果的な発問方法・板書計画・机間指導方法・評価方法等の説明をする。その後、学習指導案を作成する。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時に選択した教材をもとに、発問計画、板書計画、机間指導をまとめておく。授業で発表させる（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	授業中の課題を作成し、メールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第14回	プレゼンテーション① この授業では、2人にプレゼンテーションを行ってもらう。それぞれ、20分間のプレゼンを行った後に、10分間の質疑応答を行う。その後、改善した方が良い点等を話し合う。これを繰返す。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	学習指導案を作成させておくこと（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	プレゼン者の発表に対する感想を、wordで100字以内にまとめメールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第15回	プレゼンテーション② この授業では、2人にプレゼンテーションを行ってもらう。それぞれ、20分間のプレゼンを行った後に、10分間の質疑応答を行う。その後、改善した方が良い点等を話し合う。これを繰返す。（担当：高橋）	
	事前学習（内容・時間）	学習指導案を作成させておくこと（2時間）。
	事後学習（内容・時間）	プレゼン者の発表に対する感想を、wordで100字以内にまとめメールで送ること。回答がないと本日の授業は欠席となるので注意するように（2時間）。
第16回（定期試験）	教育方法の歴史、理論、ICT、優れた実践、教材研究等の学習したすべての事柄が試験の対象となる。	

ナンバリング（Numbering）
2TTA-5120-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
生徒指導(進路指導を含む)（教職に関する科目）	共通	3年生・前期	2単位	教必	松尾　公孝	
履修の前提条件	「教育心理学」を履修済みもしくは同時履修していること					

授業概要 （Course Outline）

現在、生徒を取り巻く環境は様々な困難を抱えており、いじめ、不登校、非行、親による虐待など学校現場での生徒指導は非常に難しくなっている。生徒指導とは、生徒一人ひとりのよさや違いを大切にしながら、彼らの発達に伴う学習面、心理社会面、進路面、健康面などの悩みの解決と夢や希望の実現を目指す総合的な個別発達支援である。また、進路指導とは、生徒が、自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に自己の進路を選択し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育てるものである。いずれも、「生き方」の教育に直接かかわることである。本講では、学校教育の現状を踏まえながら、教師としてどのように支援していくのかについて考察する。また、学校現場での情報教育の現状を折に触れて講じていく。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

学校教師(本学の場合、高等学校教諭)としての基本的姿勢(教師役割への積極的態度、責任感)と専門性(教授・指導・支援の力量)をもって子ども達の「現実を生きる力」を引き出し育てるという学校教師の役割と責任性を確認できること。これは、本学の建学の精神『至心』が行動に反映できるように培っていかねばならない。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

授業中に一部ディスカッションの時間を設ける。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

授業の前後、メールmatsuo@g.kiis.ac.jpで受け付けます。

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

授業後に「授業の振り返り」を提出してください。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
配布資料			

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
生徒指導提要	文部科学省	教育図書株式会社	978-4-87730-274-0

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験(60%) 授業中のレポート(10%) 授業ごとの振り返り(10%) 授業で学んだことを発表する(20%)

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション:「生徒指導・進路指導」を学ぶために	
	事前学習（内容・時間）	本授業のシラバスを読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第2回	生徒指導の意義と原理1　教育課程上の位置づけ	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」のP1～P13を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第3回	生徒指導の意義と原理2　各教科、道徳教育等との関連	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」のP23～P39を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第4回	生徒指導の意義と原理3　集団指導と個別指導	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」のP14～P20。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第5回	進路指導・キャリア教育の必要性と意義1　教育課程上の位置づけ	
	事前学習（内容・時間）	「高等学校キャリア教育の手引き」P9～P35を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第6回	進路指導・キャリア教育の意義と理論2　キャリア教育の視点と指導の在り方	
	事前学習（内容・時間）	「高等学校キャリア教育の手引き」P36～P44, P129～P152を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第7回	生徒指導体制	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P75～P81, P88～P91を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第8回	生徒全体への指導1　指導方針、年間指導計画	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P127～P137, P82～P83を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第9回	生徒全体への指導2　ガイダンスの機能を生かした指導	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P138～P141, P92～P93を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第10回	生徒全体への指導3　生活習慣の確立と規範意識、自己存在感の醸成に向けて	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P142～P147,P9～P13。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第11回	生徒全体への指導4　インターンシップとの関係	
	事前学習（内容・時間）	高等学校キャリア教育の手引きP97～P118を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第12回	個別の課題への対応1　生徒指導上の法令(校則、懲戒、体罰など)	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P192～P207を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第13回	個別の課題への対応2　生徒指導上の課題(不登校、いじめ、問題行動など)	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P152～P191を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第14回	個別の課題への対応3　カウンセリングとしての指導	
	事前学習（内容・時間）	「生徒指導提要」P92～P126を読む。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を読み整理する。(2時間)
第15回	まとめ・授業で学んだことを発表する。	
	事前学習（内容・時間）	授業で学んだことを整理して発表原稿を作る。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	他学生の発表を振り返り整理する。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験(筆記試験)	

ナンバリング（Numbering）
2TTA-5070-32ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育相談 （教職に関する科目）	共通	2年生・後期	2単位	教必	松尾　公孝	
履修の前提条件	教師入門、教育心理学を履修していること(履修規定第5条3項に基づく)。					

授業概要　（Course Outline）

教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人またはその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。この授業では、教育相談を実践していく上で基本的に必要な以下の項目について具体的に取り上げ、考察する。①学校で生じる様々な現象についてその背景を考慮する。②生徒や保護者等から話を聴くことができる。③関係職員と連携して問題の解決に向けて見通しを持てる。④継続的な努力を重ねられる。また、学校現場での情報教育の現状を折に触れて講じていく。

授業を通して修得できる力　（Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標　（Objectives）

本学の建学の精神である『至心』を基本として
1）学校における教育相談の意義と理論を理解している。
2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。
3）教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容　（Active Learning）

授業中に一部ディスカッションの時間を設けます。

教員との連絡方法・オフィスアワー　（Office Hour）

連絡、問い合わせ、相談などはメールにて受け付けます。
matsuo@g.kiis.ac.jp

その他　（Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

毎回の授業の終わりに「授業の振り返り」の提出をお願いします。

教科書　（Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
プリント配布			

参考文献　（Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
教室で生かす カウンセリング・マインド 教師の立場でできるカウンセリングとは	桑原知子	日本評論社	4-535-56146-x

成績評価方法　（Grading Criteria / Method of Evaluation）

定期試験(60%)　授業の振り返り(10%)　授業中のレポート(10%)　課題レポート(20%)

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	オリエンテーション　授業全体の概要説明及び学校教育相談の概要の解説	
	事前学習（内容・時間）	事前に本授業のシラバスを読む。疑問点を確認しておく。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第2回	学校教育相談の意義と課題	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第3回	教育相談の基礎理論	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第4回	教育相談の方法　1　生徒の不適応や問題行動の意味の把握	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第5回	教育相談の方法　2　カウンセリングマインドとは	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第6回	教育相談の方法　3　カウンセリングの姿勢と技法	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第7回	教育相談の展開　1　校務分掌と教育相談体制	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第8回	教育相談の展開　2　地域の専門機関との連携	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第9回	青年期の心身の発達の特徴	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第10回	不登校の背景と基本的対処法	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第11回	いじめの背景と基本的対処法	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第12回	少年非行の背景と基本的対処法	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第13回	神経発達症の背景と基本的対処法	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第14回	アサーショントレーニング	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第15回	まとめ・授業で学んだことを発表する	
	事前学習（内容・時間）	授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間)
	事後学習（内容・時間）	配布資料を復習し、疑問点を調べる。(2時間)
第16回（定期試験）	定期試験(筆記試験)	

ナンバリング（Numbering）
2TTA-5110-42ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教職実践演習（高） （教職に関する科目）	共通	4年生・後期	2単位	教必	平田 毅	
履修の前提条件	将来教職を目指す者に向けた授業であるので、教える＝学ぶという主客往還運動を自らの裡に作用させ主体的に取り組む姿勢と態度そして能力が求められる。					

授業概要 （Course Outline）

教職に必要な実践的総合的な能力の育成をめざすため、①自らのこれまでの教職課程での学びを振り返り、相互に交流するなかで、②教職に就いたときに直面すると考えられる学級経営や授業実践上の諸問題に模擬的に取り組み、問題解決能力を育むとともに、③教員の資質能力とは何かを自らの問題として把握しようとする態度を養うことを目的とする。
　そのため、これまでの「受動的」な姿勢での“学び”ではなく、常に具体的な－例えば、学生相互の討論やグループワーク、現場教師からの聞き取り、さらには模擬授業などの－取り組みを通して「能動的」に、つまり反省的実践的に、何ものかをしっかりと“学びとる”ことを目指した授業となる。
上記のことを実現するために、教育現場における情報化の状況をリサーチに、活用されてている通信メディアや機器を積極的に活用するとともに、それらを活用できるスキル習得にも努める。
なお、本授業は学則第23条の2により開講されるものであり、カリキュラムポリシーのⅠおよびⅥを満たす科目ともなる。

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	

到達目標 （Objectives）

・教職に必要な実践的総合的な資質・能力とは何かを理解し、それを自ら培おうとする態度を身につける。
・教職に求められているメディアリテラシーについて理解をするとともに、情報通信機器を有効に活用できるスキルの習得を図る。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

教職に関する課題について、
・調べ学習・グループ討議・発表 が中心の演習を行う。
・卒業後教職に就いている先輩（現場の教員）からの聞き取りや交流を通して、教育の課題や理想について深く考える機会を設ける。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。
オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。
メールアドレス： t-hirata@kiis.ac.jp

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

4年間の教職課程で学んだことを確認し、卒業後のキャリア形成に繋げていきます。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
新しい時代の教職入門 改訂版	秋田喜代美・佐藤学 編著	有斐閣アルマ	978-4641220607

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
リーディングス日本の教育と社会⑧ 「いじめ・不登校」	伊藤茂樹 編著	日本図書センター （3,500円税別）	978-4-254-30123-7

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

グループワーク・討論への取り組みと小レポート（40%）、および、期末レポート（60%）に基づき総合的に判断し、評価する。

授業計画 （Course Schedule）		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス：教職実践演習の目指すもの・進め方	
	事前学習（内容・時間）	これまで教職課程で学んできたことを振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	これまで教職課程で学んできたことを「振り返ってシート」にまとめる。[2h]
第2回	教育実習で学んだこと(1) （グループ討論を通して、実習での学びを総括する）	
	事前学習（内容・時間）	教育実習で学んできたことを振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	意見交換した内容を振り返りまとめる。[2h]
第3回	教育実習で学んだこと(2) （教育実習報告会の準備・予行演習）	
	事前学習（内容・時間）	PowerPoint原稿の素案を作成する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	PowerPoint原稿を完成させる。[2h]
第4回	教育実習で学んだこと(3) （発表・教育実習報告会発表）	
	事前学習（内容・時間）	PowerPointでの発表の練習をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	報告会での協議を踏まえて、教育実習の学びをまとめる。[2h]
第5回	教師の教育実践とはなにか(1)：授業づくり・学級づくりの重要性（生徒理解と教材研究・集団づくり）	
	事前学習（内容・時間）	テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h]
第6回	教師の教育実践とはなにか(2)：教師集団の相互理解と学校づくり	
	事前学習（内容・時間）	テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h]
第7回	教師の教育実践とはなにか(3)：保護者・地域との連携と授業づくり・学級づくり・学校づくり	
	事前学習（内容・時間）	テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h]
第8回	教師の教育実践とはなにか(4)：教師集団の相互理解と学校づくり　※現場教員（卒業生）との交流	
	事前学習（内容・時間）	テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h]
第9回	教師は教育課題にどう向き合うべきか(1)：コロナショックは学校に何をもたらしたか	
	事前学習（内容・時間）	コロナ禍の学校について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる事実を整理する。[2h]
第10回	教師は教育課題にどう向き合うべきか(2)：ポスト･コロナ（ウィズ・コロナ）の学校の姿はどうあるべきか	
	事前学習（内容・時間）	コロナ禍後の学校・教育のあるべき姿について、自分なりにデザインしてみる。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる将来像を描写してみる。[2h]
第11回	教師は教育課題にどう向き合うべきか(3)：「いじめ」問題(1)（事例・事件に学ぶ）	
	事前学習（内容・時間）	「いじめ」問題について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる事実を整理する。[2h]
第12回	教師は教育課題にどう向き合うべきか(4)：「いじめ」問題(2) （問題の所在について討議する）	
	事前学習（内容・時間）	「いじめ」問題について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「いじめ」問題について、その問題の在処を整理する。[2h]
第13回	教師は教育課題にどう向き合うべきか(5)：「いじめ」問題(3)（対応策について考え討議する）	
	事前学習（内容・時間）	「いじめ」問題の対応策や解決策について、自分なりに考え整理しておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる対応策・解決策を描写してみる。[2h]
第14回	教師の教育実践とはなにか：教師・学校への社会の期待と教育実践の創造	
	事前学習（内容・時間）	これまでの授業内容で学んだことをもとに教師・学校の社会的役割について考えておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業での討議内容などを振り返り、教師･学校への社会的期待を具体的に描写してみる。[2h]
第15回	まとめ：いま、教員に求められる資質能力とは何か	
	事前学習（内容・時間）	これまで教職課程で学んだことをもとに、これからの教師・学校に求められていることを考えておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	こてまでのすべての“学び”を振り返り、自らが社会的に果たすべき使命について具体的にデザインする。[2h]
第16回（定期試験）	期末レポートの提出	

ナンバリング（Numbering）
2TTA-5040-43ET

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務経験
教育実習（事前事後指導） （教職に関する科目）	共通	4年生・前後期	3単位	教必	平田 毅	
履修の前提条件	教職科目と教科専門科目を規定単位数修得しておくこと。 また、情報科教育法をはじめその他の教職科目で学んだことを再度復習しておくこと。					

授業概要 （Course Outline）

教育実習は、短期間ではあるが、「教師」として教壇に立つという極めて実際的で実践的なものである。生徒への影響を勘案すると極めて責任のある場である。このことをしっかりと自覚し、この「事前事後指導」の時間は、主体的かつ積極的に、かつ真摯な態度で臨むことが必要とされる。
この事前事後指導では、教育実習に赴くに当たって必要となる事柄の理解を通して、教育実習生としての心構えや態度を養うとともに、模擬授業をつくる作業を通して、基本的な授業技術の習得と授業実習への構えを身につけることを目的とする。
“教師になる”との自覚のもと、いい加減な気持ちで取り組むことは厳に慎み、すべての活動に主体的に取り組むこと。
また、事前指導においては、近年の学校のICT化の状況をしっかりと見据え、情報通信機器を有効に活用できるスキルも実践を通して身に付ける。
なお、本授業は学則第23条の2により開講されるものであり、カリキュラムポリシーのⅠおよびⅥを満たす科目とも

授業を通して修得できる力 （Competency Goals）

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解　Multiple Culture / Different Culture	○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解　Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル　Reading / Writing / Speaking / Listening	○
	数量的スキル　Mathematics	
	情報リテラシー　Information Literacy	○
	論理的思考力　Logical Thinking / Creative Thinking	○
	問題解決力　Problem Solving	○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy	○
	自己管理力　Self-management	○
	チームワーク　Teamwork	○
	リーダーシップ　Leadership	○
	倫理観　Ethical Sense	○
	市民としての社会的責任　Social Responsibility	○
	生涯学習力　Lifelong Learning	○

到達目標 （Objectives）

①教育実習に赴くにあたり、その意義・目的および留意点を把握し、実習の心構えを身につける。
②教育実習に当たって、同和教育の実践例などを通して人権教育の視点を理解する。
③模擬授業を通して、授業づくりの基本的な視点および技術を身につける。
③通信情報機器を活用した情報教育を視野に入れた授業づくりを行うとともに、そのためのスキル習得を図る。
④教育実習で学んだことを相互に交流することをとおして、教育実習を意義あるものとして定着させる。

能動的学習【アクティブラーニング】の内容 （Active Learning）

教育実習---これこそがアクティヴラーニングそのものである。
事前：「授業をつくる」という取り組み（教材研究・指導案づくり）を経て、模擬授業を実際に行う。
事後：教育実習で学んだことを発表する。

教員との連絡方法・オフィスアワー （Office Hour）

研究室を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。
メールアドレス： t-hirata@kiis.ac.jp

その他 （Others）・外部試験との関連・学習の確認（ポートフォリオ＆ルーブリックの作成と提出）について

教育実習を終え、必要単位を充足によって、教員免許（高・情報）の申請となる。
教育実習---実習校にとっても受講生（実習生）にとっても意義あるものにするために、事前準備と事後総括の取り組みは極めて重要である。このことを自覚して、教育実習およびその事前事後に主体的に取り組んでほしい。
学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。

教科書 （Textbooks）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
ベストをつくす教育実習	筒井美紀・遠藤野ゆり編	有斐閣	978-4-641-17432-0

参考文献 （Reference Books）

書名　Title	著者名　Author	出版社　Publisher	ISBNコード　ISBN Code
教育実習完全ガイド	山崎英則編著	ミネルヴァ書房	978-4-623-03913-5

成績評価方法 （Grading Criteria / Method of Evaluation）

教育実習校の評価（80%）、
〔事前指導〕模擬授業への取り組み（10%）
〔事後指導〕教育実習報告会の取り組み（10%）
に基づき、総合的に評価する。

授業計画　(Course Schedule)		
テーマ Theme		
第1回	ガイダンス～教育実習とは何か	
	事前学習（内容・時間）	これまでに履修した教職科目の授業内容について振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	自らの教員志望の動機を文章で記述する。[2h]
第2回	教育実習の意義と目的	
	事前学習（内容・時間）	実習に行くにに当たっての自らの抱負を文章で記述する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	教員志望の動機と教育実習の抱負をまとめなおす。[2h]
第3回	高校にとっての教育実習と実習生	
	事前学習（内容・時間）	高校時代の被教育経験を振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	実習先高校の概要や教育理念等について調べ、プリントに書き込む。[2h]
第4回	人権教育の視点～ひとり一人を大切にした授業	
	事前学習（内容・時間）	これまでに学校等で経験した「人権に関する学習」の内容について振り返っておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「ひとり一人を大切にした授業」について小論文（1000字程度）を作成する。[2h]
第5回	教育実習の準備と心得（1）	
	事前学習（内容・時間）	事前配布の授業プリントの指定された箇所を読んでおく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業プリントの本時で扱った箇所を再読してミニ課題に答える。[2h]
第6回	教育実習の準備と心得（2）	
	事前学習（内容・時間）	事前配布の授業プリントの指定された箇所を読んでおく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	授業プリントの本時で扱った箇所を再読してミニ課題に答える。[2h]
第7回	教材研究と授業構想（1）	
	事前学習（内容・時間）	高校情報の教科書を概観し、模擬授業で取り上げる単元の目星をつける。[2h]
	事後学習（内容・時間）	高校情報の教科書の該当単元を熟読する。[2h]
第8回	教材研究と授業構想（2）	
	事前学習（内容・時間）	該当単元の授業計画を作成する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	該当単元の授業計画を再考しリメイクする。[2h]
第9回	授業をつくる（1）～模擬授業に向けて	
	事前学習（内容・時間）	高校情報の教科書の該当単元を熟読し、単元の目標を作成しておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	高校情報の教科書の該当単元を熟読し、単元目標の内容を再考しリメイクする。[2h]
第10回	授業をつくる（2）～学習指導（案）とは何か	
	事前学習（内容・時間）	該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業のめあてを作成しておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業のめあてを再考しリメイクする。[2h]
第11回	授業をつくる（3）～学習指導案作成の仕方	
	事前学習（内容・時間）	該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業の展開イメージを作る。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業で必要な教材等の構想を練る。[2h]
第12回	授業をつくる（4）～学習指導案の作成・教材づくり ①	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の展開を「授業構想メモ」を用いて構想を練る。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業の展開について再考し、構想をより具体化する。[2h]
第13回	授業をつくる（5）～学習指導案の作成・教材づくり ②	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の展開を「授業構想メモ」を用いてより具体的に再度練り直す。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業の教材等を具体的にデザイン（設計）する。[2h]
第14回	授業をつくる（6）～模擬授業（予行練習）	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の「授業構想」を完成させ、必要な教材等を作成する準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業の「授業構想」と必要な教材等を完成させる。[2h]
第15回	授業をつくる（7）～模擬授業①	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業の反省をし、成果と課題、教訓を明らかにする。[2h]
第16回	授業をつくる（8）～模擬授業②	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	模擬授業の内容を振り返る。[2h]
第17回	授業をつくる（9）～模擬授業の総括	
	事前学習（内容・時間）	模擬授業の成果と課題、教訓を明らかにする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	他の模擬授業から学んだことも含めて、模擬授業の総括レポートにまとめる。[2h]

第18回	教育実習簿の書き方（1）	
	事前学習（内容・時間）	配布された「教育実習簿」を内容を把握しておく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「教育実習簿」の指定箇所を清書する。[2h]
第19回	教育実習簿の書き方（2）	
	事前学習（内容・時間）	「教育実習簿」の「実習の心得」など指定された箇所を読んでおく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「実習の心得」など指定された箇所を再度熟読し、指定された箇所を清書する。[2h]
第20回	教育実習簿の書き方（3）	
	事前学習（内容・時間）	「教育実習簿」の「実習の心得」など指定された箇所を読んでおく。[2h]
	事後学習（内容・時間）	「実習の心得」など指定された箇所を再度熟読し、指定された箇所を清書する。[2h]
第21回	教育実習に向けて（心構え）	
	事前学習（内容・時間）	教育実習の向けての抱負を確認し、自己紹介の内容を準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	教育実習の向けての抱負を再確認し、自己紹介の予行練習を行う。[2h]
第22回	**教育実習（1）**	
	事前学習（内容・時間）	実習校の指示に従った事前学習を行う。[2h以上、実習校指導教諭の指導に従う]
	事後学習（内容・時間）	実習校の指示に従った事後学習を行う。[2h以上、実習校指導教諭の指導に従う]
第23回	**教育実習（2）**	
	事前学習（内容・時間）	実習校の指示に従った事前学習を行う。[2h以上、実習校指導教諭の指導に従う]
	事後学習（内容・時間）	実習校の指示に従った事後学習を行う。[2h以上、実習校指導教諭の指導に従う]
第24回	教育実習簿の提出	
	事前学習（内容・時間）	「教育実習簿」を整理し、内容や誤字脱字・表現上の誤記がないか点検する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	教育実習の内容を振り返る。[2h]
第25回	教育実習を振り返る	
	事前学習（内容・時間）	教育実習のまとめの発表コンテンツの構想を練る。[2h]
	事後学習（内容・時間）	他の実習先の報告も考慮して、自ら教育実習のまとめを整理する。[2h]
第26回	教育実習の総括（1）	
	事前学習（内容・時間）	教育実習の報告発表のコンテンツ構想を具体化するための材料の準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	教育実習の報告会の発表コンテンツの構想をまとめる。[2h]

第27回	教育実習の総括（2）	
	事前学習（内容・時間）	発表原稿の下書きを作成する。[2h]
	事後学習（内容・時間）	発表原稿を完成させ、報告発表の準備をする。[2h]
第28回	教育実習で学んだこと（1） 報告発表	
	事前学習（内容・時間）	報告発表のリハーサルをする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	報告発表の成果と課題、教訓を明らかにする。[2h]
第29回	教育実習で学んだこと（2）発表	
	事前学習（内容・時間）	報告発表のリハーサルをする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	報告発表の成果と課題、教訓を明らかにする。[2h]
第30回	まとめ	
	事前学習（内容・時間）	教育実習で得たものをレポートにまとめる準備をする。[2h]
	事後学習（内容・時間）	レポートを完成させ、提出する。[2h]
第31回（定期試験）	教育実習簿（レポート）の提出	

□専任教員

職　名	氏　名	担　当　科　目	研究室（内線）
学長 教授	麻生　隆史	計測・制御論，建学の精神と人生	1号館1階(103) 学長室 2号館3階(357)
副学長 教授	桑野　裕文	ｽﾎﾟｰﾂ理論，ｳｪﾙﾈｽ理論，建学の精神と人生，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	1号館1階(102) 副学長室 2号館3階(359)
副学長	麻生　尚寛		1号館1階(108) 副学長室
学部長、学術・教育研究所長 教授	平田　毅	社会学(社会学Ⅱ)，文章表現Ⅰ(大学基礎総合Ⅰ)，文章表現(文章表現Ⅱ(大学基礎総合Ⅱ))，大学基礎総合，教育社会学，教職実践演習(高)，教育実習(事前事後指導)，建学の精神と人生，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館3階(360)
研究科長 教授	小川　雄平	国際経営論，国際経済論	2号館1階(182)
経営情報学科長 准教授	秋吉　浩志	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論，消費者行動論，Webｻｰﾋﾞｽ論，経営組織論，経営情報論Ⅰ，SNS活用と問題解決(ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ)，特別講義(経営)ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ論，建学の精神と人生，ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ・Ⅱ，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館5階(555)
情報ﾈｯﾄﾜｰｸ学科長 教授	車　炳玘	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ入門，ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ技術(ﾈｯﾄﾜｰｸ演習)，ｽｲｯﾁﾝｸﾞ技術，情報ｾｷｭﾘﾃｨ，WebﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・Ⅱ・Ⅲ，ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ技術，建学の精神と人生，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ・Ⅱ	2号館6階(656)
教務部長 教授	坂上　宏	政治学(政治学Ⅰ)，日本事情(日本事情B)，国際政治学，経営思想(特別講義(経営)産業社会論)，哲学(政治学Ⅱ)，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ，建学の精神と人生，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館3階(363)
学生部長 教授	長友 陛富	簿記Ⅰ(初級簿記(簿記Ⅰ))，簿記Ⅱ，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ，建学の精神と人生，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館5階(556)
附属図書館長 教授	丹羽　崇之	民事法(民法Ⅰ(契約総論))，知的所有権，法学，情報倫理，特別講義(経営)医事法，基礎演習，専門演習Ⅰ	2号館5階(552)
教授	遠藤　真紀	経営戦略論，中小企業論，ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ，ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論，経営学総論Ⅰ(経営学入門)，経営学総論Ⅱ(経営学総論)，ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽ入門，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ	2号館6階(655)
教授	春日　克則	税務会計論(税務会計論Ⅰ)，監査論，原価計算論Ⅱ，専門ｾﾞﾐⅠ	2号館4階(455)
教授	倉地　和敏	専門ｾﾞﾐⅠ	2号館4階(454)
教授	クリス フリン	英会話BasicⅠ・Ⅱ，英会話AdvancedⅠ・Ⅱ，国際情報分析，英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ(TOEICⅠ(英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ))，英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ(TOEICⅡ(英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ))，建学の精神と人生，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ・Ⅱ	2号館3階(362)
教授	全　彰煥	日本語Ⅰ・Ⅱ，初級韓国語，中級韓国語，文学，大学基礎総合，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館4階(453)
教授	吉野 正	日本国憲法，会社法	2号館3階(358)
教授	平山　誠一郎	税法学(税法学総論)，専門ｾﾞﾐⅠ	2号館4階(456)
教授	片山　准一	企業金融(金融論)，財務管理(財務管理論Ⅰ)	2号館4階(454)
教授	山下　壽文	財務会計論(財務会計論Ⅰ)，経営分析，原価計算論Ⅰ(原価計算論)	2号館4階(451)
准教授	岩下　昌美	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計Ⅰ)，簿記Ⅰ，簿記Ⅱ(簿記演習(簿記Ⅱ))，中級簿記演習Ⅰ・Ⅱ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ，基礎ｾﾞﾐ，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館2階(270)
准教授	合田　和正	「情報」教科教育法Ⅰ・Ⅱ，情報学入門，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅰ(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門)，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ初歩Ⅱ(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論)，初級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習，ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ論，ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ構築，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ・Ⅱ	2号館2階(269)
准教授	鈴木　和也	日本経営史(特別講義(経営)経営史)，労務管理論，心理学(心理学Ⅰ)，ｺﾏｰｽ論Ⅰ・Ⅱ(中級小売商業Ⅰ・Ⅱ)，ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務(ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務Ⅰ)，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ，特別支援教育，ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ・Ⅱ，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ・Ⅱ	2号館5階(553)
准教授	竹石　洋介	ｳｪﾙﾈｽ(ｽﾎﾟｰﾂ実技Ⅰ(ｳｪﾙﾈｽ))，ｽﾎﾟｰﾂ(ｽﾎﾟｰﾂ実技Ⅱ(ｽﾎﾟｰﾂ))，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ，基礎演習，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	体育館2階(502)
准教授	藤内　響子	総合英語，ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語Ⅰ・Ⅱ，英検中級・TOEIC基礎，専門演習Ⅰ，専門ｾﾞﾐⅡ	2号館2階(272)
准教授	荒平　高章	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ論，情報ｼｽﾃﾑの開発と管理，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅰ，情報数学Ⅰ(情報数学)，多変量解析(経営統計)，教育方法学(ICT活用を含む)，人工知能，統計学，情報ﾘﾃﾗｼｰ演習，ﾌﾟﾚｾﾞﾐⅠ・Ⅱ，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ・Ⅱ	2号館6階(653)
講師	宮崎　裕士	会計学入門，会計学(会計学総論)，簿記Ⅰ，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ	2号館2階(273)
講師	宮﨑　武	中級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習，ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論，ﾃﾞｰﾀ解析，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門，基礎数学，情報数学Ⅱ，統計学入門，ﾃﾞｰﾀﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ，情報ﾘﾃﾗｼｰ演習，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己発見Ⅰ・Ⅱ	2号館2階(274)
助教	ディンダ　プラマンタ	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ，情報ﾘﾃﾗｼｰ演習，情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ，情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅰ，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実践Ⅱ，機械学習，統計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ，基礎ｾﾞﾐ，専門ｾﾞﾐⅠ	2号館5階(551)

□非常勤講師

職　名	氏　名	担　当　科　目	研究室
九州産業大学 教授	朝廣　雄一	計算機ｼｽﾃﾑ論，ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造	2号館1階 講師控室
	安達　義弘	宗教学（宗教と人生）	
九州大学大学院 人文科学府	内田　水生	総合英語	
	大多　正人	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ，ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ・Ⅱ	
近畿大学 准教授	岡野　亜希子	教育課程論（特別活動を含む）	
	相良　誠司	総合的な探究の時間の指導法	
	喬　秦寧	初級中国語，中級中国語	
九州情報大学 名誉教授	岸川　洋	ﾓﾊﾞｲﾙﾈｯﾄﾜｰｸ，経営情報論Ⅱ	
九州情報大学 名誉教授	坂本　徹	経済学（経済学Ⅰ），計量経済分析，ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾘｻｰﾁ	
国文学研究資料館(非) 研究調査員	進藤　康子	日本文化論，日本語Ⅰ	
	高橋　潤子	教育方法学（ICT活用を含む），教師入門	
	塚野　慧星	教育哲学	
九州大学大学院 芸術工学研究院教授	鶴野　玲治	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ論	
	長池　和代	組織心理学，教育心理学	
	平川　淳一	ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習（ﾋﾞｼﾞﾈｽｿﾌﾄ活用演習Ⅰ・Ⅱ），簿記Ⅰ・Ⅱ，情報ﾘﾃﾗｼｰ演習（情報ﾘﾃﾗｼｰ演習Ⅰ），特別講義（会計）ＦＰ初級，特別講義（会計）ＦＰ中級，情報ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ演習Ⅱ，ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ	
株式会社 ブラテック	平塚　智一	Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅰ（Webﾃﾞｻﾞｲﾝ），Webｺﾝﾃﾝﾂ制作Ⅱ（Webｼｽﾃﾑ）	
	古川　幸子	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
九州大学大学院 経済学研究院教授	古川　哲也	ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ科学，ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ	
	松尾　公孝	生徒指導，教育相談	

大　学　院

2022年度　学年暦

期	行　事	期　日	備　考
前期	入学式	4月6日(水)	
	新入生オリエンテーション	4月6日(水)	履修登録
	授業開始	4月11日(月)	
	開学記念日	5月27日(金) ※注	※通常授業
	前期授業終了	7月29日(金)	
	夏季休業	8月11日(木) ～ 9月21日(水)	
	合同ゼミ研修	9月6日(火)、7日(水)	
後期	授業開始	9月26日(月)	後期授業開始
	学園祭	10月29日(土)、10月30日(日)	
	冬季休業	12月24日(土) ～ 1月9日(月)	
	授業開始	1月10日(火) ※注	※月曜日の授業
	休講日	1月13日(金)	
	修士論文締切	1月20日(金)	1月20日固定 (土日の場合直後の平日とする)
	後期授業終了	1月27日(金)	
	修士論文発表会	2月15日(水)	2月15日固定 (土日の場合直後の平日とする)
	学位記授与式	3月18日(土)	
	春季休業	3月25日(土) ～31日(金)	

	4月				5月					6月					7月					8月				授業コマ数
月		11	18	25	2	9	16	23	30		6	13	20	27		4	11		25	補				15
火		12	19	26		10	17	24	31		7	14	21	28		5	12	19	26	補				15
水		13	20	27		11	18	25		1	8	15	22	29		6	13	20	27	補				15
木		14	21	28		12	19	26		2	9	16	23	30		7	14	21	28	補				15
金		15	22		6	13	20	27		3	10	17	24		1	8	15	22	29	補				15
土																								

	9月			10月					11月					12月				1月					2月		授業コマ数
月		26		3		17	24	31		7	14	21	28		5	12	19			16	23	補			15
火		27		4	11	18	25		1	8	15	22	29		6	13	20		10	17	24	補			15
水		28		5	12	19	26		2	9	16		30		7	14	21		11	18	25		補		15
木		29		6	13	20	27			10	17	24		1	8	15	22		12	19	26		補		15
金		30		7	14	21	28		4	11	18	25		2	9	16	23			20	27		補		15
土																									

※1/10(火)は、月曜日の授業を実施

2022年度 大学院 学年暦

日	4月		5月		6月		7月		8月		9月		日	10月		11月		12月		1月		2月		3月		日
1	金		日	休日	水	7	金	11	月	補講日	木		1	土		火	6	木	9	日	元日	水	補講日	水		1
2	土		月	4	木	7	土		火	補講日	金		2	日		水	6	金	10	月		木	補講日	木		2
3	日		火	憲法記念日	金	7	日		水	補講日	土		3	月	2	木	文化の日	土	10	火		金	補講日	金		3
4	月		水	みどりの日	土		月	13	木	補講日	日		4	火	2	金	6	日		水		土		土		4
5	火		木	こどもの日	日		火	12	金	補講日	月		5	水	2	土		月	10	木		日		日		5
6	水	入学式 新入生オリエン	金	3	月	9	水	12	土		火	合同ゼミ研修	6	木	2	日		火	11	金		月		月		6
7	木		土		火	8	木	12	日		水	合同ゼミ研修	7	金	2	月	6	水	10	土		火		火		7
8	金		日		水	8	金	12	月		木		8	土		火	7	木	10	日		水		水		8
9	土		月	5	木	8	土		火		金		9	日		水	7	金	11	月	成人の日	木		木		9
10	日		火	4	金	8	日		水		土		10	月	スポーツの日	木	6	土		火	13 授業開始 （月曜日の授業）	金		金		10
11	月	1 前期授業開始	水	4	土		月	14	木	山の日 / 夏季休業 （8/11～9/21）	日		11	火	3	金	7	日		水	13	土	建国記念日	土		11
12	火	1	木	4	日		火	13	金		月		12	水	3	土		月	11	木	13	日		日		12
13	水	1 履修登録期間 （4/11～15）	金	4	月	10	水	13	土	事務室夏季休業 （8/13～15）	火		13	木	3	日		火	12	金	休講日	月		月		13
14	木	1	土		火	9	木	13	日		水		14	金	3	月	7	水	11	土		火		火		14
15	金	1	日		水	9	金	13	月		木		15	土		火	8	木	11	日		水	修士論文発表会	水		15
16	土		月	6	木	9	土		火		金		16	日		水	8	金	12	月	14	木		木		16
17	日		火	5	金	9	日		水		土		17	月	3	木	7	土		火	14	金		金		17
18	月	2	水	5	土		月	海の日	木		日		18	火	4	金	8	日		水	14	土		土	学位記授与式	18
19	火	2	木	5	日		火	14	金		月	敬老の日	19	水	4	土	8	月	12	木	14	日		日		19
20	水	2	金	5	月	11	水	14	土		火		20	木	4	日		火	13	金	14修士論文締切	月		月		20
21	木	2	土		火	10	木	14	日		水		21	金	4	月	8	水	12	土		火		火	春分の日	21
22	金	2	日		水	10	金	14	月		木		22	土		火	9	木	12	日		水		水		22
23	土		月	7	木	10	土		火		金	秋分の日	23	日		水	勤労感謝の日	金	13	月	15	木	天皇誕生日	木		23
24	日		火	6	金	10	日		水		土		24	月	4	木	8	土	冬季休業 （12/24～1/9）	火	15	金		金		24
25	月	3	水	6	土		月	15	木		日		25	火	5	金	9	日		水	15	土		土	春季休業 （3/25～3/31）	25
26	火	3	木	6	日		火	15	金		月	1 後期授業開始	26	水	5	土		月		木	15	日		日		26
27	水	3	金	6 開学記念日 （通常授業）	月	12	水	15	土		火	1	27	木	5	日		火		金	15後期授業終了	月		月		27
28	木	3	土		火	11	木	15	日		水	1	28	金	5	月	9	水		土		火		火		28
29	金	昭和の日	日		水	11	金	15前期授業終了	月		木	1	29	土	学園祭	火	10	木	事務室冬季休業 （12/29～1/3）	日				水		29
30	土		月	8	木	11	土		火		金	1	30	日	学園祭	水	9	金		月	補講日			木		30
31			火	7			日		水				31	月	5			土		火	補講日			金		31

九州情報大学　教務課

大　学　院

（博士前期課程）

2022年度　博士前期課程　開設授業科目

	授業科目の名称			職名	担当教員	授業を行う年次	単位数		備考
							必修	選択	
授業科目の概要	経営情報学科目群	経営学部門	経営学特論	教授	片山　准一	1・2		2	
			日本経営史特論	非常勤講師	加来 祥男	1・2		2	
			経営組織特論	非常勤講師	黄　在南	1・2		2	
			財政学特論	非常勤講師	甘　長青	1・2		2	
			財務管理特論	教授	片山　准一	1・2		2	
			経営戦略特論	教授	遠藤　真紀	1・2		2	
			労働経済特論	非常勤講師	今村　寛治	1・2		2	
			国際経営特論	教授	小川　雄平	1・2		2	
			ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸｽ特論	教授	小川　雄平	1・2		2	
			経営科学特論	非常勤講師	福山　博文	1・2		2	
		会計学部門	会計情報学特論	教授	山下　壽文	1・2		2	
			会計監査特論	非常勤講師	伊藤　龍峰	1・2		2	
			税務会計特論	教授	春日　克則	1・2		2	
		税法学部門	税法学特論Ⅰ（租税法総論）	教授	平山　誠一郎	1・2		2	
			税法学特論Ⅱ（所得税法）	教授	平山　誠一郎	1・2		2	
			税法学特論Ⅲ（法人税法①）	講師	宮崎　裕士	1・2		2	
			税法学特論Ⅳ（法人税法②・消費税法）	講師	宮崎　裕士	1・2		2	
			税法学特論Ⅴ（相続税法・手続法・争訟法）	教授	丹羽　崇之	1・2		2	
			民法特論	教授	丹羽　崇之	1・2		2	
			会社法特論	教授	吉野　正	1・2		2	
			民事・行政訴訟特論	教授	吉野　正	1・2		2	
		情報学部門	情報科学特論	准教授	荒平　高章	1・2		2	
			情報ﾒﾃﾞｨｱ特論	教授	麻生　隆史	1・2		2	
			情報ﾈｯﾄﾜｰｸ特論	教授	車　炳玘	1・2		2	
			情報ｾｷｭﾘﾃｨ特論	教授	車　炳玘	1・2		2	
			経営情報ｼｽﾃﾑ設計特論	非常勤講師	岸川　洋	1・2		2	
			ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ特論	助教	ディンダ　プラマンタ	1・2		2	
			ﾃﾞｰﾀ解析特論	准教授	荒平　高章	1・2		2	
			数値解析特論	教授	車　炳玘	1・2		2	
			人工知能特論	助教	ディンダ　プラマンタ	1・2		2	
	演習		演習Ⅰ	麻生　隆史 荒平　高章 遠藤　真紀 小川　雄平 春日　克則 片山　准一 車　炳玘 丹羽　崇之 平山　誠一郎 宮崎　裕士 山下　壽文		1	4		
			特別演習Ⅰ	麻生　隆史 荒平　高章 遠藤　真紀 小川　雄平 春日　克則 片山　准一 倉地　和敏 車　炳玘 丹羽　崇之 平山　誠一郎 宮崎　裕士 山下　壽文		1	4		
			演習Ⅱ	特別演習Ⅰに同じ		2	4		
			特別演習Ⅱ	特別演習Ⅰに同じ		2	4		

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経営学特論	1・2年生	選択	2単位	片山准一

授業の到達目標及びテーマ

企業の経営行動とビジネス倫理を歴史的・論理的にとらえる。

企業行動を客観的に直視し、ビジネス倫理に関する基本的な考え方を習得することを到達目標とする。

授業の概要

企業は、ﾋﾄ､ﾓﾉ､ｶﾈ､情報等を駆使して熾烈な企業間競争を闘い抜いている。こうした競争に勝ち抜くために、企業は時として不正行為を行うことがある。近年では、例えば、某Ｔ芝社が長年にわたって不適切な会計処理を行ってきたり、某Ａ化成建材会社が短小のクイ打ちをしてクイの残る仕事をしたり、某Ｋ戸製鋼が製品強度データの改竄をしたり、某Ｎ産自動車が完成検査の不正を行ったり。こうした企業の不正行為は枚挙に暇ない。

本講義では企業のガバナンス問題や CSR（企業の社会的責任）等を視座にビジネス倫理を中心に論じていきたい。

授業計画

第１回　　はじめに
第２回　　資本概念と資本の循環・回転について
第３回　　資本及び、資本家について
第４回　　生産過程（協業・分業）について①
第５回　　生産過程（機械制大工業）について②
第６回　　生産管理（テイラー・システム）について①
第７回　　生産管理（フォード・システム）について②
第８回　　企業形態の展開について
第９回　　株式会社について
第１０回　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽについて①
第１１回　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽについて②
第１２回　企業間競争と独（寡）占化について①
第１３回　企業間競争と独（寡）占化について②
第１４回　環境（公害）問題について
第１５回　経営学特論（ビジネス倫理）の総括
第１６回　レポート作成

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

事前：最低限ネット検索で良いので、下調べをしておくこと。(120 分)
　　授業中、基本的な質問を行うので、回答できるように準備しておくこと。
事後：講義内容を、文献等で確認・復習すること。(120 分)

テキスト

使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書・参考文献・参考資料等

馬場克三著『経営経済学』(税務経理協会)
講義の進捗度に沿って適宜、紹介する。

成績評価の方法・基準

授業中の質疑・応答、報告、レポート等によって総合評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
日 本 経 営 史 特 論	1・2年生	選択	2単位	加来　祥男

授業の到達目標及びテーマ

形成期から今日に至る日本企業の発展とその特質を明らかにすることを目標とする。しかし、それにとどまらず、より一般的に企業とその発展全体像を把握する枠組みを構想できるようにしたい。

授業の概要

形成期から今日までを見通しながら、日本企業の発展とその特質について考察する。とくに第 2 次世界大戦後の高度成長期に重点がおかれる。

授業計画

第１回　講義のはじめに―構成と狙い
第２回　資本主義の発展と企業
第３回　企業システム把握の枠組み
第４回　日本における資本主義企業の形成
第５回　形成期日本企業の特質と類型（1）
第６回　形成期日本企業の特質と類型（2）
第７回　産業構造の高度化と巨大企業の生成
第８回　戦時経済
第９回　戦後改革
第１０回　高度成長の時代
第１１回　高度成長期の産業と企業（1）
第１２回　高度成長期の産業と企業（2）
第１３回　日本的生産システム
第１４回　日本的雇用システム
第１５回　法人資本主義
第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

授業では第 2 次世界大戦後の日本経済の高度成長を担った企業のシステムを理解することに重点がおかれるが、他の国や他の時代についても理解できるような視野の広さを養って欲しい。そのために、基本的なことがらを正確に把握することが必要である。毎時限で扱われる内容を事後的に反芻すること（2ｈ）、次回の授業で扱われる内容を予想し、実際との異同を確認してみること（2ｈ）が望ましい。

テキスト

さしあたり、宮本又郎他『日本経営史』、新版、有斐閣、2007 年、をあげておく。
（変更する可能性あり）

参考書・参考文献・参考資料等

香西泰『高度成長の時代』、日経ビジネス人文庫、2001 年
田村正紀『消費者の歴史』、千倉書房、2011 年

成績評価の方法・基準

レポート。ただし、平素の講義への参加態度も重視する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経　営　組　織　特　論	1・2年生	選択	2単位	黄　在南

授業の到達目標及びテーマ
企業の競争優位をもたらす組織のインタンジブル（見えざる資産）をどう構築するかを考える。

授業の概要
　本授業では、組織でリーダーがインタンジブルをどのように構築すればいいかについて考える。なぜなら、昨今、企業の競争優位と組織のインタンジブルとの関連性が注目を浴びているからである。したがって、話はかなり実践的である。とはいえ、大学院の授業であることを考え、実践的な事例に対して、事例の紹介だけに終わらず、組織論の範疇（組織行動論、組織論など）の中で理論的な解釈を加える。
　各回では、インタンジブルの構造を構成する要素を提示し、それが今までどのように利用されてきたかという実例と、リーダーがインタンジブルを実現できるようにするためのツールを示す。すなわち、本授業では、インタンジブルを築き上げるためにリーダーにできること、またリーダーがすべきことを紹介することに注力する。なお、その過程の中で、学問的な研究の対象になりうる研究課題に対して、初期的な考察も行う。

授業計画
第　１回　オリエンテーション：組織について学ぶこととは。
第　２回　形のないインタンジブル
第　３回　信用を築く
第　４回　成長のための戦略を立てる（１）
第　５回　成長のための戦略を立てる（２）
第　６回　コア・コンピテンシーを構築する（１）
第　７回　コア・コンピテンシーを構築する（２）
第　８回　人材を育成する（１）
第　９回　人材を育成する（２）
第１０回　シェアド・マインドを作り出す
第１１回　学習力を高める
第１２回　説明責任を持つ
第１３回　コラボレーショを実現する
第１４回　リーダーシップ・ブランドを確立する（１）
第１５回　リーダーシップ・ブランドを確立する（２）

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
（事前）配布する資料および授業に関係する内容については、教科書などで必ず確認しておくこと。
　　講義中に質疑・討論をおこなう。
（事後）授業でおこなったことを、必ず復習して積み上げる事。
　　各回、少なくとも、１～２時間程度の事前・事後学習が必要である。

テキスト
デイブ・ウルリッチ　ノーム・スモールウッド（著）淡川桂子（訳）伊藤邦雄（監訳）『インタンジブル経営――競争優位をもたらす「見えざる資産」構築法』株式会社ランダムハウス講談社、2004年。
ISBN:4-270-00017-1

参考書・参考文献・参考資料等
適宜、紹介する。

成績評価の方法・基準
平常点：授業参加・役割履行(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ)、等・・・100％

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
財政学特論	1・2年生	選択	2単位	甘　長青

授業の到達目標及びテーマ
　財政学の基礎理論を理解し、日本の財政の現状と問題、そしてそれらを巡る改革の方向性等について自分の言葉で説明・議論できる。

授業の概要
　財政学の一般知識、国の財政制度等を解説する。国・地方の財政の仕組みが毎年のように変わる中で、逐一フォーロするではなく、核心的な部分を把握し、大局的な見地から財政システムを解明する。

授業計画
第１回　財政学への旅立ち（テキスト第1章）
第２回　財政と三つのサブシステム（テキスト第2章）
第３回　財政学の生成；財政学の展開（テキスト第3～4章）
第４回　現代財政学の諸潮流（テキスト第5章）
第５回　財政のコントロール・システムとしての予算；予算の原則（テキスト第6～7章）
第６回　予算制度の構造と機能；予算過程の論理と実態；予算改革（テキスト第8～10章）
第７回　租税原則（テキスト第11章）
第８回　租税の分類と体系（テキスト第12章）
第９回　法人税の仕組みと実態（テキスト第13章）
第１０回　生産物市場税の仕組みと実態（テキスト第14章）
第１１回　要素市場税の仕組みと実態（テキスト第15章）
第１２回　オプションとしての公債と公債原則（テキスト第16章）
第１３回　貨幣支出としてのアウトプット；公共サービスの供給としてのアウトプット、
　　三つのサブシステムと公共支出（テキスト第17～19章）
第１４回　地方財政と中央財政；地方財政の理論と実際（テキスト第20～21章）
第１５回　政府としての社会保障基金；公企業と財政投融資；財政の過去から未来へ
　　（テキスト第22～終章）
第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
　財政学は現代経済学の基礎であるミクロ経済学とマクロ経済学の上に成り立つ応用科目なので、この二つの科目を既に履修したうえでの受講が望まれる。
　なお、授業計画の各内容は、教室での講義と受講生の自習から構成されている。1回の講義時間に対してその2～3倍程度の自習時間を目安として組み立てている。講義ではテキストに沿って、基礎的な理論を解説しながら日本の財政制度、実態について話す。自習では、講義の予習（2ｈ）と復習（2ｈ）、各単元の終了後に出される課題やレポートに取り組んでもらう。

テキスト
　神野直彦『財政学　改訂版』有斐閣、2007年4月

参考書・参考文献・参考資料等
『図説 日本の財政（令和2年度版）』、財経詳報社、2021年1月

成績評価の方法・基準
受講態度、課題の提出状況を踏まえて総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
財務管理特論	1・2年生	選択	2単位	片山准一

授業の到達目標及びテーマ
企業の財務管理の諸問題を資本調達論の観点から歴史的・論理的に論ずる。
講義全体を通じて、唯物弁証法的論理思考の構築を到達目標とする。

授業の概要
財務管理の諸問題を資本調達論の観点から、商法（会社法）と関連付けて論じる。
財務管理を歴史的・論理的且つ、具体的な事例を通して分析・論証する。

授業計画
第１回　はじめに
第２回　資本概念と資本の循環・回転について
第３回　資本・資本家概念について
第４回　企業形態の展開過程について
第５回　株式会社について
第６回　株価形成の理論について
第７回　株式会社の設立過程について
第８回　株式―株主権について
第９回　自己（内部）金融について
第１０回　優先株式について①
第１１回　優先株式について②
第１２回　無額面株式について
第１３回　自己株式について①
第１４回　自己株式について②
第１５回　財務管理特論の総括
第１６回　レポート作成

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
事前：最低限ネット検索で良いので、下調べをしておくこと。(120 分)
授業中、基本的な質問を行うので、回答できるように準備しておくこと。
事後：講義内容を、文献等で確認・復習しておくこと。(120 分)

テキスト
使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書・参考文献・参考資料等
馬場克三著『株式会社金融論』(森山書店)
講義の進捗度に沿って適宜、紹介する。

成績評価の方法・基準
授業中の質疑・応答、報告、レポート等によって総合評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経営戦略特論	1・2年生	選択	2単位	遠藤　真紀

授業の到達目標及びテーマ
現代企業の経営における戦略の意義や必要性および主な経営戦略理論（分析型・プロセス型経営戦略，ドメイン、製品・市場戦略、経営資源、競争戦略等）について理解していること。具体的には、企業の経営戦略等が理解でき、自身の自律的・自発的な行動への判断基準が持てるようになること。また例えば、企業物とよばれる小説またはビジネス雑誌・書籍等の理解が促進されるようになること。

授業の概要
経営戦略に関するこれまでの理論を体系的に理解すると共に、その理論の背景や意義等について考察します。このため、経営戦略論の基本的テキストを基に、現代の戦略論がどのように形成されてきたのか、そのプロセスについても考察していきます。また現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワークおよび web ビジネス等との関わりで進化していることから、この点についても検討していきます。

授業計画
第１回　経営戦略とは
第２回　経営戦略の基本　①ミッション
第３回　経営戦略の基本　②ドメイン
第４回　経営戦略の基本　③環境・資源分析
第５回　事例演習：ケーススタディ①
第６回　成長戦略　①成長ベクトル
第７回　成長戦略　②多角化
第８回　成長戦略　③ポートフォリオ・マネジメント
第９回　成長戦略　④成長戦略の展開
第１０回　事例演習：ケーススタディ②
第１１回　競争戦略　①業界の競争分析
第１２回　競争戦略　②競争の基本戦略
第１３回　競争戦略　③バリュー・チェーン
第１４回　競争戦略　④競争戦略の展開
第１５回　経営戦略の実行と評価
第１６回　まとめとレポート作成等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
学部等において，経営学関連科目（経営管理論，マーケティング論，会計学等）を履修しておくことが望ましい。授業の前にはテキスト等を読み情報収集をして，担当した課題を発表するための準備をしておくこと。授業の後は，実際の事例などの関連情報をあたり，理解を深める努力を行うこと。(毎回 4.0h)

テキスト
岸川善光『経営戦略要論』同文舘または井上善海ほか『経営戦略入門』中央経済社など

参考書・参考文献・参考資料等
岸川善光ほか『ケースブック経営管理要論』同文舘
井上善海・佐久間信夫『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

成績評価の方法・基準
授業への積極的な参加および授業中の報告・発表，質疑・応答および提出したレポート等を総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
労　働　経　済　特　論	1・2年生	選択	2単位	今村　寛治

授業の到達目標及びテーマ

労働力の効率的利用を目的とする労務管理の具体的展開をテーマとし、現代社会と労働を実践的な視点からイメージできるようになることが、この講義の到達目標である。

授業の概要

労働力の効率的利用を一義的な目標とする労務管理も、当然のことながら時代とともに変化する。講義では、バブル崩壊後の不況、IT 革命、グローバリゼーション、少子高齢化の進展といった環境変化によって、近年大々的な変化をみせている日本的労務管理の実像を探る。

授業計画

第１回　労務管理とは何か
第２回　雇用
第３回　採用配置
第４回　キャリア開発
第５回　人事評価
第６回　昇進・昇格
第７回　賃金
第８回　退職
第９回　労使関係
第１０回　労働時間
第１１回　勤務場所
第１２回　高齢者雇用
第１３回　女性労働
第１４回　ディーセントワーク
第１５回　全体のまとめ
第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

（留意点）労務管理の専門用語を理解すること。
（準備学習）
事前： テキストを事前に読み、ポイントをまとめてくること（2時間）
事後： 専門用語を簡単に説明できるかを確認すること（2時間）

テキスト

書　名：経験から学ぶ人的資源管理［新版］
著　者：上林憲雄・厨子直之・森田雅也
発行所：有斐閣

参考書・参考文献・参考資料等

適宜指示する

成績評価の方法・基準

出席状況や報告内容等を総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
国際経営特論	1・2年生	選択	2単位	小川　雄平

授業の到達目標及びテーマ

著しくグローバル化した世界経済の実態について理解を深め、変化する経済環境に対応した企業の国際経営戦略上の課題を明らかにすることを目標とする。なお、授業を通して修士論文の作成にも役立てることを目指す。

授業の概要

日本企業の海外進出の進展とそれに伴う企業内貿易の展開や部品調達網の構築等の現状について解説し、為替レートの変動や急増する FTA 等国際経済環境に対応した企業経営の在り方を検討する。新聞報道から具体的な事例を取り上げてケーススタディを行う。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　日本的経営、日本企業の対外進出と空洞化
第３回　企業経営の国際化Ⅰ：対米貿易摩擦･円高と輸出企業による生産基地の移転、
第４回　企業経営の国際化Ⅱ：製造業企業による国際部品供給網の構築と国際分業の深化
第５回　企業経営の国際化Ⅲ：対米貿易摩擦･生産コストの上昇と生産基地の再移転、
第６回　企業経営の国際化Ⅳ：中間層の増大=消費市場としてのアジア、企業の現地化と M&A
第７回　企業経営の国際化Ⅴ：国際物流の進展とサプライチェーンマネジメント
第８回　小括と討論
第９回　貿易取引・決済の実際と外国為替の原理
第１０回　企業内貿易の実態Ⅰ：企業の多国籍化と企業内取引の実際
第１１回　企業内貿易の実態Ⅱ：タックス･ヘイブン(租税回避地)と移転価格税制
第１２回　小括と討論
第１３回　FTA と企業経営Ⅰ：日本の関税と FTA･EPA 戦略
第１４回　FTA と企業経営Ⅱ：メガ FTA(TPP11・EU 日・RCEP)と企業経営
第１５回　小括と討論
第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

事前学習：テキストの該当箇所及びプリントに目を通して疑問点を明確にしておくこと。（２時間）
事後学習：講義内容の復習と授業中に指示された課題に取組むこと。（２時間）

テキスト

小川雄平・猿渡剛編著『国際ビジネス論を学ぶ』中央経済社、2,500 円（ISBN978-4-502-35761-9）
吉原英樹著『国際経営』第４版、有斐閣、2,000 円（ISBN978-4-641-22064-5）
テキストの他にプリントも準備する。

参考書・参考文献・参考資料等

授業中に適宜指示する。

成績評価の方法・基準

成績は、授業への取組み（70%）とレポート（30%）で評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年・学期	必・選	単位数	担当教員名
ロジスティックス特論	１・２年生	選択	２単位	小川　雄平

授業の到達目標及びテーマ

企業の原料調達から生産・製品販売に至るまでの物流・管理の現状について理解を深め、その課題を明らかにすることを目標とする。なお、授業を通して修士論文の作成にも役立てることを目指す。

授業の概要

ロジスティックス（Logistics）とは、元来は軍隊の兵站を意味したが、企業の部品・原料調達から生産・製品販売までの物流過程とその管理を指すようになった。経済のグローバル化に伴い企業の部品調達網（サプライチェーン）は、アジアを巻き込んで重層化・複雑化している。本講義では、主にNIEｓ・ASEAN・中国等の東アジア経済との関連で企業の物流過程を解明し、新聞報道の事例等も取り上げて詳細に解説する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　生産の国際化・国際分業の重層化と企業内貿易
第３回　貿易摩擦・円高と日本企業の生産・輸出基地の移転・再移転
第４回　NIEｓ・ASEAN・中国の経済発展とサプライチェーンの構築
第５回　自動車産業に見るFTA利用のサプライチェーン
第６回　小括と討論
第７回　輸送量の増大・効率化とコンテナリゼーション
第８回　コンテナ船の大型化と海運業の国際アライアンス
第９回　パナマ運河の拡張とパナマックス型コンテナ船・大型タンカー輸送
第１０回　東アジアの港間競争の激化と中国港湾の躍進
第１１回　日本企業のグローバル化と国際物流の変化
第１２回　地方港湾の国際化=釜山港のハブ化と５大港湾の地位低下
第１３回　小括と討論
第１４回　東アジアの地域経済協力と物流協力体
第１５回　シベリア鉄道・中欧班列・朝鮮半島南北間鉄道・日韓トンネル
第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

事前学習：プリントとテキストの該当箇所に目を通して疑問点を明らかにしておくこと。（２時間）
事後学習：講義内容の復習と授業中に指示された課題に取組むこと。（２時間）

テキスト

柴崎隆一編『グローバル・ロジスティクス・ネットワーク』成山堂2,800円（ISBN978-4-425-93161-3）
テキストに加え、プリントも準備する。

参考書・参考資料等

苦瀬博仁編著『ロジスティクス概論』白桃書房、2,800円（ISBN978-4-561-75200-4）

成績評価の方法・基準

成績は、授業への取組み（70%）とレポート（30%）により評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経　営　科　学　特　論	１・２年生	選択	２単位	福山　博文

授業の到達目標及びテーマ

データ包絡分析法（Data Envelopment Analysis）を学び、それを実践的に適用する能力の習得を目指します。

授業の概要

本講義では、企業等の組織体の生産効率性を分析・解析するデータ包絡分析法(Data Envelopment Analysis: DEAと略）について学びます。DEA は，複数生産物での総合評価や改善策の定量的な把握と提案ができるといった特徴があります。講義では、DEA の基本的な考え方について，簡単な計算事例を用いて概説した後で、様々な分析事例を紹介します。

私は、エルゼビアが出版しているOMEGA：International Journal of Management Science（インパクトファクター：7.084）という経営科学の英文専門誌の担当編集委員（Associate Editor）を務めているので、この分野の最近の研究動向などについても、お話したいと思います。私の研究に興味のある方は、次のURLなどを参考にしてください。https://scholar.google.com/citations?user=BUHhDAwAAAAJ&hl=en

授業計画

第１回　　オリエンテーション（授業の概要を説明します。）
第２回　　線形計画法モデル１（数学的準備をします。）
第３回　　線形計画法モデル２（数学的準備をします。）
第４回　　ソルバーの使い方（Excel ソルバーについて学びます。）
第５回　　データ包絡分析法DEAの基本１
第６回　　データ包絡分析法DEAの基本２
第７回　　分析事例：電気事業１
第８回　　分析事例：電気事業２
第９回　　分析事例：保健医療政策１
第１０回　分析事例：保健医療政策２
第１１回　分析事例：都道府県の生産活動の効率性評価１
第１２回　分析事例：都道府県の生産活動の効率性評価２
第１３回　分析事例：金融１
第１４回　分析事例：金融２
第１５回　レポート提出課題について
第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

・ＥＸＣＥＬの基本的操作を習得していること（高度のレベルでなくてもよい）を前提に講義を進めます。
・報告担当者は、配布用レジュメを作成すること。
・次回の授業範囲を十分に予習し、講義に臨むこと。
・事前に配布された資料がある場合には、熟読して講義に臨むこと。(2.0ｈ)
・事後学習として受講ノートを作成すること。(2.0ｈ)
・数学は初歩的レベルから始めるので、高度な数学的知識は必要ではありませんが、受講者は数学が嫌いでないことが重要です。

テキスト

発行予定の教科書(刀根薫編著)が講義に間に合えば、この教科書を使用します。発行された場合、教育版のソフトDEA-Solverを利用可能となる予定です。

参考書・参考資料等

● 刀根薫『経営効率性の測定と改善―包絡分析法DEAによる』日科技連出版社、1993、ISBN978-4817150226
● Wade D. Cook and Joe Zhu（森田浩　訳）『データ包絡分析法DEA』静岡学術出版ISBN978-4-86474030-2

成績評価の方法・基準

方法：課題レポートの評価（50%）、発表・プレゼンテーションの評価（50%）
基準：学んだ数理モデルを理解して、実証研究ができるようになる。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
会　計　情　報　学　特　論	1・2年生	選択	2単位	山下　壽文

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：会計情報作成・開示に関する理論的・制度論的知識の習得
テ ー マ：現代会計基準に関する主要論点の研究

授業の概要

現代経済社会を生きる私たちにとって、会計知識の習得は必須の要件となっている。この講義では、会計制度の変化と会計情報の新しい特徴を正確に理解し、企業の会計政策の決定と会計情報の分析とを行う能力を養うための専門知識を身に付けることを目的として、会計基準および概念フレームワークの主要な論点について体系的に説明し、討論する。

授業計画

第１回　会計を取り巻く環境と会計情報の意義・役割
第２回　概念フレームワーク：収益費用アプローチと資産負債アプローチ、公正価値
第３回　会計公準・企業会計原則・会社法会計・金融商品取引法会計・税務会計
第４回　流動資産（1）現金・金銭債権
第５回　流動資産（2）有価証券・棚卸資産
第６回　有形固定資産・圧縮記帳・無形固定資産・繰延資産
第７回　固定資産の減損
第８回　リース（1）ファイナンス・リース取引とオペレーション・リース取引
第９回　リース（2）セール・アンド・リースバック取引
第１０回　負債（1）資産除去債務
第１１回　負債（2）社債
第１２回　負債（3）退職給付
第１３回　キャツシュ・フロー計算書（1）直接法と間接法による作成
第１４回　キャツシュ・フロー計算書（2）作成演習
第１５回　まとめ
第１６回　定期試験

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

(留 意 点)　簿記・会計に関する基本的な知識を有していること。
(事前学習)　受講者全員が次回の学習領域について事前にテキストを読み、疑問点や質問事項等を整理した上で講義に参加すること。(2時間程度)
(事後学習)　講義中に理解したことをまとめ、疑問点や質問事項等が解決したかどうかを確認すること。その後、授業内容を再検討し、理解を深める必要がある。(2時間程度)

テキスト

林　兵磨『財務会計論講義』創成社

参考書・参考文献・参考資料など

中央経済社編『新版会計法規集』中央経済社

成績評価の方法・基準

定期試験果（60%）、レポート(20%)、討議への参加状況(20%)を総合的に判断して評価します。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
会　計　監　査　特　論	1・2年生	選択	2単位	伊藤 龍峰

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：財務諸表監査の社会的役割の理解と理論的・制度的な専門知識の習得
テ ー マ：財務諸表監査における枠組みと主要論点の研究

授業の概要

私たちは社会生活を営むかぎり、各種の組織や団体等と無関係ではありえません。このような組織や団体等では、必ず誰かが会計報告を作成し、また誰かがその会計報告を監査しているのです。これまで一部の人達を除いて、監査に対しては比較的無関心であったと言えるでしょう。ただ、監査は身近なところにあり、直接・間接に私たちと深い関わりを持って存在しています。とりわけ、企業と利害関係を持つ場合、企業が公表する財務諸表は、私たちと企業とを結ぶ重要な連結環であり、そのため、財務諸表が信頼できるものであるという保証があってこそ、私たちは安心して財務諸表を利用することができることになります。監査は、このような財務諸表の信頼性の保証に大きな役割を果たします。

会計監査特論では、公認会計士や監査法人による財務諸表監査の意義と役割を意識しながら講義を展開していきます。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　監査の必要性と法定監査制度
第３回　監査全体の流れ
第４回　監査基準
第５回　リスク・アプローチ監査
第６回　内部統制
第７回　監査計画
第８回　監査の実施
第９回　監査結果の報告
第１０回　監査の品質管理
第１１回　監査をめぐる国際的な動向
第１２回　内部統制監査
第１３回　公監査
第１４回　財務諸表監査の周辺業務
第１５回　まとめ
第１６回　定期試験等（課題研究レポート）

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

(留 意 点)簿記や会計学に関する学部レベルの知識を有していること。
(事前学習)毎回、次回の報告予定者を指名しますが、報告予定者ばかりではなく、受講者全員が次回の学習領域について事前にテキストを読み、疑問点や質問事項等を整理した上で授業に参加してください。(2時間程度)
(事後学習)講義中に理解したことを纏め、疑問点や質問事項等が解決したかどうかを確認してください。その後に、授業内容に関する深掘りを行い、自分のものにしてください。(2時間程度)

テキスト

『監査論入門 第4版』 長吉眞一、伊藤龍峰、北山久恵 井上善弘、岸牧人、異島須賀子 著　中央経済社

参考書・参考文献・参考資料等

適宜、資料配布を行うとともに、参考書についても具体的に指示します。

成績評価の方法・基準

定期試験の結果と課題研究レポートの内容(60%)、授業での報告内容や討議への参加状況(40%)を総合的に判断して評価します。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税務会計特論	1・2 年生	選択	2 単位	春日 克則

授業の到達目標及びテーマ

事例を研究することで、税務会計が課税所得計算の領域において、どのような特徴を有しているかを探るものである。税務会計は、企業会計、租税法、商法・会社法と密接に関連している。そこで、税務会計がこれらの学問領域に還元される単なる技法なのか、それとも独自の所得計算構造を有しているのか（有しているならその内容）について、事例（判例）研究を通じて、具体的に理解することを目標としている。

授業の概要

税務会計は、単なる所得計算のためのパッチワーク的な技法であるのか、あるいは企業会計や租税法という隣接する諸領域とは異なる独自の理論体系を有するものなのかについて、非営利法人の収益事業を含む事例研究を通じて明らかにして行く。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　会計学との関わりから税務会計の特質を考える
第３回　「企業会計原則」と税務会計との関係
第４回　事例研究「リースの税務処理（福岡地裁)」「商品券の税務処理（名古屋地裁)」
第５回　事例研究「大竹貿易事件」
第６回　事例研究「オリックス銀行事件」
第７回　事例研究「ビックカメラ事件」
第８回　税務会計と企業会計との境界線
第９回　事例研究「レーシングカー事件」「ホステス源泉徴収事件」「武富士事件」
第 10 回 事例研究「治験事件」「流山事件」
第 11 回　事例研究「ペット葬祭事件」
第 12 回　法人区分と「所得の金額」の計算
第 13 回　独立行政法人と公益法人の会計基準
第 14 回　非営利法人の資本概念
第 15 回　まとめ
第 16 回　試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

（留意点）学部レベルの財務会計（会計学）の知識を有すること。
（準備学習）
事前：毎回、事前に資料を配付するので当該資料を学習すること。必要であれば、参考書で補いながら疑問点を整理して授業に臨むこと。（各回 2 時間）
事後：ほとんどの事例が、最高裁まで争われた事件であるので、講義中はポイントのみを検討することになる。そこで、地裁、高裁を含む判決の全文を判読することにより、さらに理解が深まる。（各回 2 時間）

テキスト

事前にプリントを配布する。

参考書・参考文献・参考資料等

・中里実他編『租税判例百選[第 6 版]』有斐閣
・金子宏『租税法』弘文堂
・富岡幸雄『税務会計学原理』中央大学出版部
・中里実『金融取引と課税』有斐閣

成績評価の方法・基準

課題 50％と試験 50％の結果による評価で、60％以上を合格とする。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅰ（租税法総論）	1・2 年生	選択	2 単位	平山　誠一郎

授業の到達目標及びテーマ

租税法総論について学ぶ。説明、討議及びレポート作成等により、租税法の知識、考え方を身に付ける。

授業の概要

授業の該当テーマについて、金子宏『租税法〔第 24 版〕』を精読し、法令、判例、学説等の理解を深める。
各税法に共通する基本的かつ重要な事項であり、1 回当たりのボリュームもかなりあるため、相当の準備が不可欠である。

授業計画

第１回　租税の意義
第２回　租税法の意義と特質
第３回　わが国における租税制度の発達
第４回　租税法の法源と効力
第５回　租税法の基本原則(1)　租税法律主義
第６回　租税法の基本原則(2)　租税公平主義、自主財政主義
第７回　租税法の解釈と適用
第８回　課税要件総論(1)　納税義務者
第９回　課税要件総論(2)　課税物件、課税標準、税率
第１０回　納税義務の成立・承継及び消滅
第１１回　附帯税、納税者の債権
第１２回　租税手続法序説、租税確定手続(1)　確定の方式
第１３回　租税確定手続(2)　申告納税方式、更正の請求、更正・決定
第１４回　租税確定手続(3)　推計課税、賦課課税方式、確定権の除斥期間、質問検査権
第１５回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

憲法、行政法、民法等の知識が必要である。
各回、少なくとも、２時間程度の事前学習、２時間程度の事後学習が必要である。

テキスト

金子宏『租税法〔第 24 版〕』（弘文堂）
『実務 税法六法』（新日本法規出版）または『税務六法』（ぎょうせい）
中里実他編『租税判例百選〔第 7 版〕』（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等

税務大学校講本『税法入門』『国税通則法（基礎編）』
伊藤義一『税法の読み方　判例の見方』（ＴＫＣ出版）
佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法』（有斐閣）
法令用語研究会『法律用語辞典』（有斐閣）
中里実ほか『租税法概説』（有斐閣）

成績評価の方法・基準

授業への取組状況（事前・事後の学習状況、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅱ（所得税法）	1・2年生	選択	2単位	平山　誠一郎

授業の到達目標及びテーマ
所得税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。
所得税法の体系的知識を習得する。

授業の概要
授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の３班に分かれて討議を行う方式による。
そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。
討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。

授業計画
第１回　総説（所得税の意義、所得の意義・概念、所得税の類型、課税単位）
第２回　所得税制度の基本的仕組（納税義務者、課税標準）
第３回　各種所得の意義と範囲（不動産所得、事業所得）
第４回　各種所得の意義と範囲（給与所得、退職所得）
第５回　各種所得の意義と範囲（山林所得、譲渡所得①）
第６回　各種所得の意義と範囲（譲渡所得②）
第７回　各種所得の意義と範囲（利子所得、配当所得、一時所得、雑所得）
第８回　所得計算の通則（収入金額）
第９回　所得計算の通則（必要経費①（総説～売上原価））
第１０回　所得金額の通則（必要経費②（販管費～所得金額の計算の特例））
第１１回　課税標準の計算（所得金額の総合、損益通算、損失の繰越控除）
第１２回　所得控除、税額の計算
第１３回　源泉徴収制度、非居住者及び法人の納税義務
第１４回　申告、納付及び還付
第１５回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
簿記・会計の知識が不可欠である。
税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第３版〕』（ＴＫＣ出版）」によりマスターしておくこと。
授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。
各回、少なくとも、２時間程度の事前学習、２時間程度の事後学習が必要である。
特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。

テキスト
『実務 税法六法（法令編・通達編）〔令和３年版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第 24 版〕』（弘文堂）、『スタンダード所得税法〔第２版補正２版〕』（弘文堂）、『所得税法（基礎編）〔令和４年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第３版〕』（ＴＫＣ出版）、中里実他編『租税判例百選〔第７版〕』（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等
『ポケット六法』（有斐閣）、注解所得税法研究会『注解 所得税法』（大蔵財務協会）、中里実ほか『租税法概説』（有斐閣）、金子宏ほか『税法入門』（有斐閣）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、金子宏ほか『ケースブック租税法』（弘文堂）、川田剛『租税法入門』（大蔵財務協会）

成績評価の方法・基準
授業への取組状況（事前・事後の学習状況、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅲ（法人税法①）	1・2 年生	選択	2	宮崎裕士

授業の到達目標及びテーマ
法人税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 法人税法の体系的知識を習得する。

授業の概要
授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の３班に分かれて討議を行う方式による。そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。

授業計画
第１回　総説
第２回　法人所得の意義と計算（総説）①益金
第３回　法人所得の意義と計算（総説）②損金
第４回　資本等取引
第５回　企業会計と租税会計との関係①
第６回　企業会計と租税会計との関係②
第７回　益金の額の計算
第８回　損金の額の計算①（売上原価～資産の評価損）
第９回　損金の額の計算②（役員給与等）
第１０回　損金の額の計算③（寄附金～準備金）
第１１回　損金の額の計算④（交際費等～使途秘匿金）
第１２回　損金の額の計算⑤（繰越欠損金～組合等の法人組合員の損失）
第１３回　同族会社と所得課税
第１４回　公益法人等関係税制
第１５回　法人税額の計算および法人税の申告等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
簿記・会計の知識が不可欠である。
税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第 3 版〕』（ＴＫＣ出版）」によりマスターしておくこと。
授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。
各回、少なくとも、２時間程度の事前学習、２時間程度の事後学習が必要である。
特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。

テキスト
『実務 税法六法（法令編・通達編）〔最新版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第 24 版〕』（弘文堂）、『スタンダード法人税法〔第２版〕』（弘文堂）、『法人税法（基礎編）〔令和４年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第３版〕』（ＴＫＣ出版）、『租税判例百選〔第７版〕』（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等
『ポケット六法』（有斐閣）、『租税法概説』（有斐閣）、『税法入門』（有斐閣）、『体系法人税法』（税務経理協会）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、『ケースブック租税法』（弘文堂）、『税法学・税務会計の論点（改訂版）』（五弦舎）、」『課税所得計算の形成と展開』（中央経済社）

成績評価の方法・基準
授業への取組状況（事前・事後の学習状況等）、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅳ （法人税法②・消費税法）	1・2 年生	選択	2	宮崎裕士

授業の到達目標及びテーマ

法人税法および消費税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 法人税法の体系的知識を習得する。

授業の概要

授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の３班に分かれて討議を行う方式による。そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。

授業計画

第１回　グループ法人税制およびグループ通算制度（旧連結納税制度）

第２回　法人組織税制（総説、法人の設立、合併、分割）

第３回　法人組織税制（非適格合併等による資産等の受入処置、組織再編に係る行為・計算の否認等）

第４回　法人課税信託、退職年金積立金に対する法人税、多様な事業体と投資媒体

第５回　国際取引（総説）

第６回　国際取引（二重課税の排除、非居住者及び外国法人に対する所得課税）

第７回　国際取引（移転価格税制）

第８回　国際取引（過少資本税制、過大支払利子税制）

第９回　国際取引（タックス・ヘイブン対策税制）

第１０回　国際取引（国際的企業再編成と租税回避）

第１１回　消費税（総説）

第１２回　消費税（課税の対象）

第１３回　非課税と免税、納税義務者と納税義務の成立

第１４回　課税標準と税率、税額控除

第１５回　申告納付と納税地、国、地方公共団体等に係る特例等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

簿記・会計の知識が不可欠である。

税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第 3 版〕』（ＴＫＣ出版）」によりマスターしておくこと。

授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。

各回、少なくとも、２時間程度の事前学習、２時間程度の事後学習が必要である。

特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。

テキスト

『実務 税法六法（法令編・通達編）〔最新版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第 24 版〕』（弘文堂）、『スタンダード法人税法〔第２版〕』（弘文堂）、『法人税法（基礎編）〔令和４年度版〕』（税務大学校）、『消費税法（基礎編）〔令和２年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第３版〕』（ＴＫＣ出版）、『租税判例百選〔第７版〕』（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等

『ポケット六法』（有斐閣）、『租税法概説』（有斐閣）、『税法入門』（有斐閣）、『体系法人税法』（税務経理協会）、『図解国際税務（最新版）』（大蔵財務協会）、『消費税法講義録（第２版）』（中央経済社）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、『ケースブック租税法』（弘文堂）、『税法学・税務会計の論点（改訂版）』（五弦舎）、『課税所得計算の形成と展開』（中央経済社）

成績評価の方法・基準

授業への取組状況（事前・事後の学習状況等）、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅴ （相続税法・手続法・争訟法）	１・２年生	選択	２単位	丹羽　崇之

授業の到達目標及びテーマ

相続税法、租税徴収手続、租税争訟法、租税処罰法について学ぶ。報告、討論及びレポート作成等により、租税法の知識、考え方を身に付ける。

授業の概要

授業の該当テーマについて、金子宏『租税法〔第 24 版〕』を精読し、法令・判例等の理解を深める。

各テーマについてかなり速いスピードで授業が進められる。授業１回当たりのボリュームも多いため、相当の準備が不可欠である。

授業計画

第１回　相続税(1)　　総説、相続税の類型、納税義務者

第２回　相続税(2)　　課税物件

第３回　相続税(3)　　税負担の不当な減少の防止

第４回　相続税(4)　　課税標準と税額

第５回　贈与税

第６回　財産の評価

第７回　事業承継税制

第８回　地価税・固定資産税

第９回　租税徴収手続(1)　　納付と徴収①

第１０回　租税徴収手続(2)　納付と徴収②

第１１回　租税徴収手続(3)　滞納処分①

第１２回　租税徴収手続(4)　滞納処分②

第１３回　租税争訟法(1)　　租税不服申立

第１４回　租税争訟法(2)　　租税訴訟

第１５回　租税処罰法

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

行政法、民法、刑法、民事訴訟法等の知識が必要である。

各回４～８時間程度の事前・事後学習を求める。

テキスト

金子宏『租税法〔第 24 版〕』（弘文堂）

『実務税法六法』（新日本法規出版）または『税務六法』（ぎょうせい）

中里実他編『租税判例百選〔第７版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等

中里実他編『租税法概説〔第４版〕』（有斐閣）

税務大学校講本『相続税法（基礎編）』『国税通則法（基礎編）』『国税徴収法（基礎編）』

伊藤義一『税法の読み方　判例の見方〔改訂第３版〕』（TKC 出版）

佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法　令和４年版』（有斐閣）

成績評価の方法・基準

授業への取り組み（事前・事後の学習、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
民法特論	１・２年生	選択	２単位	丹羽　崇之

授業の到達目標及びテーマ
　各回のテーマについて、条文を熟読し、どのような状況をどのように規律しようとしているのか、なぜそのように規定されているのか、各条文の関係はどのようになっているのか等を考え、さらに重要判例を検討することにより、民法の解釈適用力を涵養する。

授業の概要
　上記の目標到達のため、テキストにもとづいて民法全体を学ぶ。重要判例に関しては、事実の概要、争点、判旨、判決の意義等について討論する。授業１回当たりのボリュームも多いため、相当の準備が不可欠である。

授業計画
　第１回　民法序論
　第２回　総則（1）　人、法人
　第３回　総則（2）　法律行為、意思表示
　第４回　総則（3）　代理、無効と取り消し
　第５回　総則（4）　条件・期限・期間、時効
　第６回　債権（1）　総論
　第７回　債権（2）　契約総論
　第８回　債権（3）　契約各論
　第９回　債権（4）　事務管理、不当利得、不法行為
　第１０回　物権（1）　物権総論
　第１１回　物権（2）　占有権、所有権、用益物権
　第１２回　物権（3）　担保物権
　第１３回　親族
　第１４回　相続（1）　総則、相続人、相続の効力
　第１５回　相続（2）　相続の放棄・承認、遺言、遺留分

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
　未習者を対象としているが、民法は範囲が広いため、学習量が多いことを覚悟しておいてほしい。
　各回４～８時間程度の事前・事後学習を求める。

テキスト
　新井誠他編『民法講義録〔改訂版〕』（日本評論社）
　佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法　令和４年版』（有斐閣）

参考書・参考文献・参考資料等
　潮見・道垣内編『民法判例百選Ⅰ　総則・物権〔第８版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）
　窪田・森田編『民法判例百選Ⅱ　債権〔第８版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）
　水野・大村編『民法判例百選Ⅲ　親族・相続〔第２版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）

成績評価の方法・基準
　授業への取り組み（事前・事後の学習、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
会社法特論	１・２年生	選択	２単位	吉野　正

授業の到達目標及びテーマ
　学則第３条を踏まえて、会社法及び関連法について、基本的知識を学ぶ

授業の概要
　基本教科書を事前に読んでもらい、適宜講義ノートを議論しながら学ぶ

授業計画
　第１回　株式会社の設立
　第２回　株式について
　第３回　株式会社の機関１、株主総会
　第４回　株式会社の機関２、取締役会設置会社と取締役会非設置会社
　第５回　株式会社の機関３、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社
　第６回　株式会社の機関４、取締役、監査役、会計監査人、会計参与の義務と責任
　第７回　株式の譲渡
　第８回　会社の計算
　第９回　募集株式の発行等と資金調達
　第１０回　定款変更
　第１１回　会社の解散と清算
　第１２回　企業の結合と再編
　第１３回　組織再編の手続
　第１４回　事業譲渡
　第１５回　持分会社
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
教科書を事前に読んでおく、事後は講義ノートと会社法該当条文をよく読む。

テキスト
　会社法　（株）有斐閣　伊藤靖史、大杉謙一、田中亘、松井秀征　著者

参考書・参考文献・参考資料等
　会社法判例百選

成績評価の方法・基準
　成績評価方法：定期試験９５％　平常点（レポートの提出状況等）5%。　成績評価の基準：①会社の特徴について理解をしているか。②株式会社、合名会社、合資会社、合同会社のそれぞれの性質の違いを理解しているか。③株式会社のうち取締役会を設置会社、指名委員会等設置会社、監査等員会設置会社を理解しているか。④取締役にどのような責任が課せられているか説明できること⑤会社の計算について十分理解していること⑥株式の譲渡及び金融商品取引について理解していること。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
民事・行政訴訟特論	1・2年生	選択	2単位	吉野　正

授業の到達目標及びテーマ
　学則第３条を踏まえて民事訴訟、行政訴訟の裁判手続全般について基本的知識を学ぶ。
　民事訴訟、行政訴訟の裁判手続の基本を理解する。

授業の概要
　民事訴訟、行政訴訟の裁判手続を学ぶため、基本教科書を事前に読んでもらい、また適宜、教材を議論をしながら学ぶ。

授業計画
　第１回　　訴訟の当事者と訴の類型
　第２回　　訴訟の客体（訴訟物）１
　第３回　　訴訟の客体（訴訟物）２
　第４回　　請求の客観的併合
　第５回　　多数当事者訴訟１
　第６回　　多数当事者訴訟２
　第７回　　処分権主義と弁論主義
　第８回　　訴訟審理の原則
　第９回　　証拠
　第１０回　判決の効力１
　第１１回　判決の効力２
　第１２回　行政不服審査
　第１３回　行政訴訟１
　第１４回　行政訴訟２
　第１５回　上訴
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
講義のテーマについて、事前に該当箇所を読んでおく、事後は講義ノートを復習する

テキスト

適宜、資料を配布します

参考書・参考文献・参考資料等
「民事訴訟法（法学ライブラリー）」小林　秀之著
「民事訴訟法」伊藤　眞著
「行政法」櫻井　敬子，橋本　博之著
「租税判例百選」
「民事訴訟判例百選」

成績評価の方法・基準
通常授業による学習態度の評価と試験を総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年・学期	必・選	単位数	担当教員名
情　報　科　学　特　論	1・2年生	選択	2単位	荒平 高章

授業の到達目標及びテーマ
　情報の収集、加工、蓄積、伝達という観点から情報科学システムを分析し、経営情報学の研究において必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。

授業の概要
　計算機の基本構成や動作原理、アルゴリズムとデータ表現、応用ソフトウェア、プログラミング言語、インターネットの仕組みおよび特徴、ウェブ検索、セキュリティ、プレゼンテーション資料の作成法などについて修得する。また、授業内容に関連するレポート作成やプレゼンテーションを実施する。

授業計画
　第１回　情報科学と計算機の基本構成、OS
　第２回　ウェブサーフィン、情報検索
　第３回　情報の表現とアルゴリズム
　第４回　プログラミング言語、ファイルシステム
　第５回　データベース
　第６回　ウェブサーバ、HTML、PHP
　第７回　インターネットの仕組み、特徴
　第８回　情報セキュリティ（ファイアウォール、プロキシ）
　第９回　情報セキュリティ（マルウェア、暗号技術）
　第１０回　ウェブ検索
　第１１回　LAN、WAN、プロトコル
　第１２回　アプリケーションソフトの紹介Ⅰ（Word、Excel、Power Point、LaTex、TeraPad）
　第１３回　アプリケーションソフトの紹介Ⅱ（Word、Excel、Power Point、LaTex、TeraPad）
　第１４回　公開鍵暗号、デジタル証明
　第１５回　プレゼンテーション、著作権、個人情報保護法
　第１６回　レポート、定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
授業計画に従ってテキストの該当箇所を熟読しておくこと。
用語の整理や参考書等を利用して授業内容の理解を深めておくこと。
各回、少なくとも、１～２時間程度の事前・事後学習が必要である。

テキスト
書　名：コンピュータ概論（ソフトウェア・通信ネットワーク）
著　者：橋本洋志
発行所：オーム社

参考書・参考資料等
コンピュータネットワーク第５版、アンドリュー.Ｓタネンバウム、日経BP

成績評価の方法・基準
　プレゼンテーション：３０％、レポート：３０％、試験：４０％

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年・学期	必・選	単位数	担当教員名
情 報 メ デ ィ ア 特 論	1・2年生	選択	2単位	麻生　隆史

授業の到達目標及びテーマ
　現代の情報メディア、及びインターネット、ネットワークについて理解し、議論する。

授業の概要
　情報メディア即ち、マルティメディアとは、複数の異なる媒介によって表現される、総合的な情報である。ディジタル技術などのコンピュータ技術の急速な発展によって、現在、マルティメディアの重要性は非常に高くなってきている。本講義ではまず、マルティメディアの種類及び、特徴を述べる。さらに、インターネット、及び現代のネットワークについて述べ、その将来性について議論する。

授業計画
　第１回　マルティメディア・システム
　第２回　ハードウエア
　第３回　ソフトウエア
　第４回　メディアのディジタル化
　第５回　音声メディア
　第６回　画像メディア
　第７回　映像メディア
　第８回　インターネット
　第９回　音声処理
　第１０回　画像処理
　第１１回　コンピュータ・グラフィックス
　第１２回　コンテンツ・デザイン
　第１３回　Ｅコマース
　第１４回　セキュリティー
　第１５回　知的財産権
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
　情報リテラシーの技能を持っていることが望ましい。
　毎回授業計画に示すテーマについて事前に調べ（2時間）、知見を得ておくこと。さらに授業後にその復習をすること（2時間）。

テキスト
書　名：マルティメディア入門
著　者：赤間世紀
発行所：工学社

参考書・参考資料等
　香取淳子著『情報メディア論(メディアの系譜と開発原理)』北樹出版

成績評価の方法・基準
　毎回の講義での討論及びレポート、最終定期試験により評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
情 報 ネ ッ ト ワ ー ク 特 論	1・2年生	選択	2単位	車　炳玘

授業の到達目標及びテーマ
　本特論では，情報サービスの基礎となる要素技術や適用事例について学ぶことを目的とする。中でもマッシュアップなどと称されるネットワークサービス統合化技術は極めて重要性が高く，本特論においても詳しく調査し，学ぶことを目指す。

授業の概要
　本特論では受講生自らがインターネット環境における多種多様の情報サービスを自発的に調査し，議論を通じてその本質的な重要性を理解することを目指す。また，新しい情報サービスを発想できるよう思索を深めることを期待する。調査・学習の過程で生じた疑問点をさらに追究するなど，受講生の要望や状況などを反映させ臨機応変に対応する。

授業計画
　第１回　授業全体の概要説明
　第２回　情報ネットワーク社会とは
　第３回　情報ネットワーク社会における情報サービス
　第４回　情報サービスの基盤技術（Internet・Web）
　第５回　情報サービスの基盤技術（Ubiquitous）
　第６回　情報サービスの基盤技術（Data Mining）
　第７回　情報サービスの統合化技術（Multi Agent System）
　第８回　情報サービスの統合化技術（Agent Communication Language）
　第９回　情報サービスの統合化技術（Mashup）
　第１０回　情報サービスの応用事例（Net Shopping）
　第１１回　情報サービスの応用事例（SNS）
　第１２回　情報サービスの応用事例（Mobile）
　第１３回　図書館における情報サービス事例（図書館システム）
　第１４回　図書館における情報サービス事例（次世代 OPAC）
　第１５回　まとめ
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
（留意点）情報ネットワーク、情報サービスについて概略を記した参考書を読んで予備知識を得ておくことが望ましい。
（準備学習）
事前：前回の授業で指示したテキストの部分を読んで準備をしておくこと。疑問点があれば要点をまとめておく。（1～2時間程度）
事後：講義内容の要点、議論して点および新たな疑問を数ページにまとめる。それを基に次の授業でフォローする。（2～3時間程度）

テキスト
　Web 教材（シスコネットワーキングアカデミー）
　その他、必要に応じて資料を提示する。

参考書・参考文献・参考資料等
　Web 文書など必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準
　発表：２０％、レポート：３０％、試験：５０％

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年・学期	必・選	単位数	担当教員名
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 特 論	1・2年生	選択	2単位	車　炳玘

授業の到達目標及びテーマ
　個人として知っておくべき情報セキュリティの基礎知識について事例を中心に学び、情報システムのセキュリティ確保に関する情報や技術の習得を目標とする。

授業の概要
　IT インフラの整備およびインターネットの普及・発展により、個人情報や機密情報の漏えい、マルウェア感染など様々なセキュリティリスクに対して安全な情報セキュリティ対策を立てるのが重要な課題となっている。本授業では、事例を中心にセキュリティリスクの種類やその対策について修得した上で、セキュリティ技術について修得する。

授業計画
　第１回　情報セキュリティの概念
　第２回　インターネットにおけるセキュリティの現状
　第３回　脆弱性と攻撃
　第４回　マルウェアの種類とその対策（ウィルス、トロイの木馬、ワーム）
　第５回　マルウェアの種類とその対策（スパイウェア、ボット）
　第６回　被害事例：フィッシング詐欺、ワンクリック請求
　第７回　スマートフォン、無線 LAN における脅威と対策
　第８回　組織におけるセキュリティ対策
　第９回　セキュリティ技術（アカウント、ID、パスワード、ファイアウォール、IDS）
　第１０回　暗号技術（共通鍵、公開鍵）
　第１１回　暗号技術（デジタル証明）
　第１２回　OS のアクセス制御とセキュリティ
　第１３回　ユーザ認証技術とアクセスコントロール
　第１４回　電子商取引
　第１５回　セキュリティの認証と法律（サイバー法、著作権、個人情報保護法）
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
用語の整理や参考書等を利用して授業内容の理解を深めておくこと。
（準備学習）
事前：授業内容に該当するテキストの部分を読んで準備をしておくこと。疑問点があれば要点をまとめておく。(1～2 時間程度)
事後：講義内容の要点、議論して点および新たな疑問を数ページにまとめる。それを基に次の授業でフォローする。(2～3 時間程度)

テキスト
書　名：情報セキュリティ読本
著　者：三輪賢一
発行所：実業出版

参考書・参考資料等
　情報セキュリティ白書、情報処理推進機構、2013

成績評価の方法・基準
　　発表：２０％、レポート：３０％、試験：５０％

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経営情報システム設計特論	1・2年生	選択	2単位	岸川　洋

授業の到達目標及びテーマ
　経営情報システムにおけるシステム開発工程全般と特にその中でも設計工程における方法論・技法を理解し、利用できるようにする。さらに、プロジェクト管理の立場から設計工程で留意すべきことについて理解し、利用できるようにする。

授業の概要
　構築するシステムの特性に応じた設計法を適用することは重要である。まず、単純なシステム設計例により各種方法論・技法を理解する。さらに、プロジェクト管理の立場から設計工程で発生する失敗について理解する。

授業計画
　第１回　ガイダンス、システム開発工程全般と設計工程
　第２回　共通フレーム、各種設計技法
　第３回　帰納的アプローチと演繹的アプローチ
　第４回　プロセス中心アプローチ
　第５回　データ中心アプローチ
　第６回　オブジェクト指向アプローチ
　第７回　ウォータフォール型とプロトタイプ型
　第８回　単純なシステムの設計例（マスタファイル、イベントファイル）
　第９回　単純なシステムの設計例（DFD）
　第１０回　プロジェクト管理
　第１１回　PMBOK、WBS
　第１２回　失敗例（設計者に起因）
　第１３回　失敗例（プロジェクトに起因）
　第１４回　失敗例（ステークホルダーに起因）
　第１５回　まとめ
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
　事前学習：次回の授業内容について調べ、疑問点について整理する。(授業計画の欄を参照)
　　(1～2 時間程度)
　事後学習：毎回の課題であるキーワードについて、説明できるようにする。(1～2 時間程度)

テキスト
　布広 永示他,「システム設計論（改訂版）」, コロナ社, 2017 年 9 月

参考書・参考文献・参考資料等
　木暮 仁,「利用部門のための情報システム設計論」, 日科技連, 2007 年 10 月

成績評価の方法・基準
　毎回の授業での取組み状況及び課題の提出状況で総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
データベース特論	1・2年生	選択	2単位	ディンダ　プラマンタ

授業の到達目標及びテーマ

目標　：リレーショナルデータベースの基礎知識を習得すること

テーマ：リレーショナルデータベースのモデル

授業の概要

データベースを構築し利用するための基礎的な知識を習得する。すなわち、データベースの目的や概念を理解し、データベースを構成するデータモデルを学ぶ。特に、リレーショナルデータベースについては、データベースの構成と設計、問い合わせ言語(SQL)などを詳しく学ぶ。

授業計画

第１回　オリエンテーション

第２回　データベース：データベースとは

第３回　データモデル（1）：データモデルとは

第４回　データモデル（2）：概念データモデル

第５回　リレーショナルデータベース（1）：リレーショナルデータベースとは（1）

第６回　リレーショナルデータベース（2）：リレーショナルデータベースとは（2）

第７回　リレーショナルデータベース（3）：整合性制約（1）

第８回　リレーショナルデータベース（4）：整合性制約（2）

第９回　リレーショナルデータベース（5）：正規化（1）

第１０回　リレーショナルデータベース（6）：正規化（2）

第１１回　リレーショナルデータベース（7）：正規化（3）

第１２回　リレーショナルデータベース（8）：正規化（4）

第１３回　リレーショナルデータベース（9）：ＳＱＬ（1）

第１４回　リレーショナルデータベース（１０）：ＳＱＬ（2）

第１５回　リレーショナルデータベース（１１）：ＳＱＬ（3）

第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

（留意点）各回担当を決め、担当の内容を講義してもらいます。

（準備学習）

事前：講義用パワーポイント資料を作成する。(3～4 時間程度)

事後：自分が講義担当でない回にはレポートを課しますので、翌週の授業時に提出してください。
（1～2 時間程度）

テキスト

増永良文著「リレーショナルデータベース入門」サイエンス社、2003 年

参考書・参考文献・参考資料等

たにぐちまこと著「よくわかるＰＨＰの教科書」マイナビ、2014 年

成績評価の方法・基準

１．講義の準備状況　　２．課題の提出状況　　３．授業中の質疑の状況

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
データ解析特論	1・2年生	選択	2単位	荒平　高章

授業の到達目標及びテーマ

データ解析は、社会調査や企業や人間の様々な活動によって生じたデータから有用な知見やルールを見つけだし、予測や判断に利用しようとするものです。本講義では、代表的なデータ解析手法の修得、問題解決に必要なモデル化、有用かつ多様なデータ取得などを通して、データ活用の素養を身につけることを目標とします。「実践的なデータ解析」がテーマです。

授業の概要

基本統計量や視覚化によるデータの現状や関連性の把握、問題解決のための統計的手法を用いたデータの統合や縮約、構造分析を中心に行います。さらに、1次データ（アンケートデータ）や2次データ（公開データ）の取得や活用などを通した演習も行います。演習にはフリー統計ソフトである R を利用します。

授業計画

第１回　データ解析とは

第２回　データの現状把握と基本統計量

第３回　データの視覚化

第４回　データの関連性と予測　（相関と回帰分析）

第５回　データの種類と分析手法　（多変量解析）

第６回　データの統合１　（主成分分析）

第７回　データの統合２　（主成分分析によるデータ解析）

第８回　データの縮約１　（因子分析）

第９回　データの縮約２　（因子分析によるデータ解析）

第１０回　データの構造分析　（共分散構造分析）

第１１回　データマイニングとテキストマイニング

第１２回　データの取得１　（独自データの取得と精査）

第１３回　データの取得２　（公開データの入手と利用方法）

第１４回　データの分析と解釈１

第１５回　データの分析と解釈２

第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

（留意点）入門程度の統計知識があると望ましい。

（準備学習）

事前：授業計画に沿ってテキストを通読し、必要ならば参考書で補完しておくこと。また、疑問点などを整理して、講義中に確認すること。(1～2 時間程度)

事後：テキストの例題を参考にデータ解析の手法と R の利用法を修得すること。また、実際にポータルサイトなどからデータを取得し、R を用いてデータ分析を行ってみること（2～3 時間程度）

テキスト

書　名：R によるデータサイエンス　第 2 版

著　者：金　明哲

発行所：森北出版

参考書・参考文献・参考資料等

・中川　慶一郎他「データサイエンティストの基礎知識　挑戦する IT エンジニアのために」リックテレコム

・本多正久・島田一明『経営のための多変量解析法』産能大学出版部

・青木繁伸『R による統計解析』オーム社

・佐藤博樹 他『社会調査の公開データ ２次分析への招待』東京大学出版会

成績評価の方法・基準

課題 50%とレポート 50%の結果による総合評価で、60%以上を合格とする

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
数　値　解　析　特　論	1・2年生	選択	2単位	車　炳玘

授業の到達目標及びテーマ
　統計解析ソフトRの使い方及び情報システムにおける各種数値計算手法の習得を目標とする。

授業の概要
　データの収集、加工、解析などについて、まずRの基本操作、データの入出力、データの図示などについて実習を通して習得する。また、情報システムの数値解析分野において使われる数値計算や誤差解析などの基礎知識を習得する。

授業計画
　第１回　Rの基礎、データの入出力・編集
　第２回　変数とベクトル
　第３回　ベクトル応用
　第４回　関数の作成
　第５回　論理型ベクトル
　第６回　行列と繰り返し
　第７回　データの視覚化
　第８回　整列アルゴリズム
　第９回　待ち行列と２分探索
　第１０回　データの演算と固有値
　第１１回　データ解析手法
　第１２回　主成分分析
　第１３回　因子分析
　第１４回　クラスター分析
　第１５回　線形判別分析
　第１６回　定期試験等

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
（留意点）ある程度数式が読めること、初等統計学を理解していることが望ましい
（準備学習）
事前：授業内容に沿ってテキストの数式を書き写しながら通読し、疑問点などを整理して、講義中に質問すること。(2時間程度)
事後：自身で数式を作成したり、そのグラフや相線を描いたりして理解を深めること。(2時間程度)

テキスト
船尾暢男著「Rで学ぶプログラミングの基礎の基礎」カットシステム共立出版、2016年

参考書・参考文献・参考資料等
金明哲「Rによるデータサイエンス」森北出版、2017年
山田剛史著「Rによるやさしい統計学」オーム社、平成23年

成績評価の方法・基準
小テストや試験の結果を総合的に評価する。

シラバス（授業計画）

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
人工知能特論	1・2年生	選択	2単位	ディンダ　プラマンタ

授業の到達目標及びテーマ
　現在、人工知能技術は、私たちの生活の様々なところで使われている。本授業では、人工知能技術の基礎技術と具体的に扱う。また、アルゴリズム表現や数式を用いて、具体的な処理過程を説明し、Python を用いたAIプログラミングの応用例について触れ、実生活に密着してきつつある姿を垣間見る。

授業の概要
　本授業では、テキストの内容について講義および討論を行う。それ以外は、プリントを配布するもある。その結果にもとづいて、レポートの作成を行う。

授業計画
　第１回　人工知能の歴史、研究分野
　第２回　問題解決
　第３回　系統的探索と発見的探索
　第４回　問題分解法とゲーム探索
　第５回　記号論理
　第６回　機械学習
　第７回　知識表現と推論
　第８回　ニューラルネットワーク
　第９回　深層学習
　第１０回　遺伝的アルゴリズム
　第１１回　自然言語処理
　第１２回　画像認識
　第１３回　エージェント
　第１４回　強化学習
　第１５回「人工知能はどこに向かうのか」
　第１６回　まとめ

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）
　事前学習に関しては、各授業回の見出しはテキストの各章に対応しているので、テキストの該当箇所を通読しておくこと。(各回ごとに2.0h)
　事後学習に関しては、授業で学んだことを整理し、各自の研究生活へ役立てていくこと。(各回ごとに2.0h)

テキスト
　小高 知宏「基礎から学ぶ人工知能の教科書」オーム社、2019年

参考書・参考文献・参考資料等
　小林一郎著「人工知能の基礎」サイエンス社、2008年

成績評価の方法・基準
　　成績は①授業への参加状況および②レポートの提出状況によって評価する。
　③レポートの提出状況とは、提出期限の遵守だけでなく、レポート内容も含むことに注意すること。

講　義　等　の　内　容（博士前期課程）

授業科目名 （担当者名）	講　義　等　の　内　容
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （麻生隆史）	近年、情報技術が様々な分野で普及している中、その基礎理論をアナログとディジタルを比較することにより学ぶ。その際、ディジタル信号処理の基本的な概念を中心に、具体例を挙げて説明し、さらに情報機器を使用して実践的にシミュレーションを行う。また、研究を進めるにあたっての必要な文献調査の方法や論文の読み方を指導する。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （荒平高章）	工学的手法や情報学的手法は，様々な分野で使用され，新たな技術が次々と創出している．そこで，これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する．具体的には，組織工学に基づく材料設計，in vitro 実験，生体工学に基づく数値解析などである．
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （遠藤真紀）	コロナ禍への対応など企業の経営環境は激変しており，市場環境の認識と経営戦略の重要性が増している。演習Ⅰでは，様々な企業の具体的な事例（社会人においては自社の経営戦略等）について考察し，基本的な戦略理論について概観・理解するとともに，修士論文のテーマ設定に必要な研究を行う。特別演習Ⅰでは，自身の研究テーマに必要な文献・資料の収集・考察等を通して，問題意識（仮説・視座等）の設定・明確化と修士論文の骨子について検討する。 机上での学習・研究だけでなく，必要に応じてフィールドワークを行う事がある。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （小川雄平）	経済のグローバル化が進展した結果、企業経営は、変化の激しい経済環境に対応した国際経営戦略の下に遂行せざるを得なくなっている。演習Ⅰでは、多くの日本企業が事業展開している東アジア地域を中心に、企業を取り巻く国際経済環境を考察し、それに対応する企業の国際経営戦略を理論的・実証的に検証する。 特別演習Ⅰでは、各自の個別研究課題の設定・明確化を図り、修士論文のスケルトンの作成を目指す。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （春日克則）	いわゆる会計ビッグバン以降、わが国の会計基準ないし制度の多様化・複雑化が進展しており、これを受け会計学もまた、大学の４年間では修得できない程その研究領域が拡大している。そこで、演習Ⅰではこの拡大した領域について大学院生として求められる知識（とりわけ財務会計分野）の習得と、修士論文のテーマ設定に有用な研究を行うことを目的としている。 特別演習Ⅰは、修士論文の作成に必要な、問題意識の明確化、先行研究のレビュー、そして当該先行研究に対する自らの研究の位置付けを行っていく。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （片山准一）	現代の企業経営は、周りの環境も含めて高度化・専門化・複雑化してきている。こうした状況を踏まえて、具体的な事例を挙げながら研究指導にあたりたい。各自の研究テーマに沿った形で研究指導していきたい。
特別演習Ⅰ （倉地和敏）	租税は国民生活の基盤を支える重要なものであり、日本国憲法をはじめ各租税法等においてその義務と手続きについて定められている。 日本国における税制について、現行法の状況、立法趣旨、判例・学説の動向を研究する。 具体的には、修士論文の研究対象として選んだテーマの文献収集・読解、論点の取りまとめを、指導教員との議論を通じて行っていく。

授業科目名 （担当者名）	講　義　等　の　内　容
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （車炳玘）	演習Ⅰでは、最近インターネット技術の進歩やパソコンおよびデジタルカメラの普及により多くの分野において情報発信手段として用いられているカラー画像の処理技術、つまりデジタル画像処理の基盤技術およびその最新研究動向を把握するのを目的とする。また、MATLAB による画像情報処理の基礎的な関数について演習を行う。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （丹羽崇之）	演習Ⅰでは、各回租税法の重要判例を検討する。判決（決定）について、第一審から判例集を読み込んだ上で、関係条文を熟読し、事実、争点（当事者の主張）、それに対する裁判所の判断、判決（決定）の意義及び課題等について討論することにより、租税法条文の具体的適用力、法的思考力、紛争処理能力を涵養する。 特別演習Ⅰでは、各人の研究課題に取り組む。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （平山誠一郎）	演習Ⅰでは、主要な裁判例を基に討議を行う。そのため、判決文（原文）を第一審から読み、基礎事実、争点及び争点に対する原告・被告双方の主張並びに裁判所の判断（法令解釈、事実認定、あてはめ）を整理し、理解しておく。 特別演習Ⅰでは、修士論文の研究テーマに関する条文・定義の理解、関連文献の収集・検討、論点整理等に取り組む。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （宮崎裕士）	演習Ⅰでは、年間で 30 の主要な租税法判例研究を通じた租税法における基礎概念の定着、および法条文の読み方、判例研究のやり方と研究課題の選定を目標とする。 具体的には、テキスト等による租税法理論の事前学習と理論の実証場面としての判例研究を対応させながら、課題研究を報告してもらい、それに対するコメントを付すという形式で行っていく。 特別演習Ⅰでは、実際に自分の研究課題について取り組んでもらい、自身の研究課題と研究計画のアップデートを計画的に行っていく。その際、資料収集の方法等の指導も行う。社会人、特に会計事務所勤務の方が大半を占める環境の中で、一般的な閑散期である 6 月から 11 月までの期間で集中的に資料収集や研究の基礎を形作ることで、各自の効率的な研究の発展に寄与することを狙う。 研究とは、基本的には一人で行うものであるが、対話により発展するものでもある。院生同士、あるいは教員と自由闊達に議論を行うことで、院生自身の知識の定着と、知識の論理への発展を期待する。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ （山下壽文）	会計基準のグローバル化のもとでわが国の会計基準がどのように変容したか、国際会計基準とわが国の会計基準の比較検討を行うことにより検証する。その際に、会計基準設定の基礎となる会計公準と会計原則の構造および「概念フレームワーク」について、その前提となるアプローチ（収益費用アプローチから資産負債アプローチへの展開）と関連づけて考察する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （麻生隆史）	情報技術を駆使して実際に利用されているソフトウェア・ハードウェアを調査し、プログラミング技術やハードウェアの開発プロセスを学び、それをどのような手法を用いて応用するかを指導する。特にソフトコンピューティングの基礎については詳細に説明する。同時に文献調査や英文論文読解も行う。また、情報科学の分野における論文作成手法を指導する。

授業科目名 （担当者名）	講　義　等　の　内　容
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （荒平高章）	演習Ⅰ・特別演習Ⅰを受け，自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で，引き続き研究を継続し，実験データを整理し，考察を進める．得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う．
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （遠藤真紀）	演習Ⅰおよび特別演習Ⅰで設定した各自の問題意識（仮説，視座等）を掘り下げるとともに，修士論文作成に必要な分析・検証手法を含めた研究方法等について指導する。文献・資料やフィールドワーク等を通して得られた情報を考察していき，修士論文の完成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （小川雄平）	演習Ⅰ・特別演習Ⅰで設定・明確化した各自の個別研究課題を深く掘り下げ、先行研究を検証した上で、修士論文の完成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （春日克則）	演習Ⅱと特別演習Ⅱは、修士論文の作成（完成）を目的としている。 具体的には、①自らの研究に係わる先行研究を過不足なく取り上げること、②仮説の提示、③論文の中核である仮説の検証・論証テスト、④結論、の各要素を意識しながら仕上げることである。なお、論文には、結論の新規性、分析の独自性、そして、インプリケーションが求められていることも念頭に置く必要がある。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （片山准一）	演習Ⅰ及び特別演習Ⅰで基礎部分を構築し、本演習では修士論文作成に向けて指導を行う。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （倉地和敏）	演習Ⅱ及び特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けて修士論文の作成に取り組む。 具体的には、論点の整理の仕方、論理展開の進め方、先行研究の引用の仕方、文章の作成の仕方など、修士論文の作成に必要な事項について、一つ一つ指導を受けながら習熟した上で、修士論文の完成を目指す。研究結果を論文等にまとめる能力を向上し、充実した内容と整った形式を備えた論文の作成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （車炳玘）	演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き人間の色覚情報に基づいたデジタル画像処理に関する演習を行う。具体的には、画像の特徴抽出及び領域分割、色変換などの諸手法について MATLAB を用いて演習を行い、色覚バリアフリー社会の実現に向けた高汎用性の新しい手法の提案を試みる。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （丹羽崇之）	演習Ⅱ・特別演習Ⅱでは、各人の研究課題をさらに探求し、修士論文に結実させる。先行研究を網羅的に検討したうえで、租税法の基本原理から出発し、租税法解釈学の発展を目指すことになる。なお、租税法の正確な理解のためには、隣接諸科学に関する知識と理解が不可欠であることを銘記しておかなければならない。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （平山誠一郎）	演習Ⅱ及び特別演習Ⅱでは、各人の研究課題について、先行研究の検討、裁判例の分析、問題点の検証などを行い修士論文の完成を目指す。

授業科目名 （担当者名）	講　義　等　の　内　容
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （宮崎裕士）	演習Ⅱおよび特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けながら修士論文の作成に取り組んでもらう。 具体的には、修士論文の作成に必要な事項や留意すべき点について講義中に指導をし、また、論文を実際に作成しながらそれらを習熟してもらうことで、修士の学位に相応しいのみならず、社会一般に寄与するような研究を目指してもらいたい。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ （山下壽文）	わが国の会社法会計、金融商品取引法会計および税務会計の比較検討をとおしてわが国の制度会計の体系を考察する。とくに、シャウプ勧告にもとづく戦後税制改革において会計基準が果たした役割、法人税法第 22 条の公正処理基準との関係について検証する。なお、公表財務諸表についての分析手法についても併せて検討する。

大　学　院

（博士後期課程）

2022年度　博士後期課程　開設授業科目

授業科目の概要	授業科目の名称		職名	担当教員	授業を行う年次	単位数	
						必修	選択
	経営情報学科目群	経営学特別研究	教　授	片山　准一	1・2・3		2
		日本経営史特別研究	非常勤講師	加来 祥男	1・2・3		2
		企業経済分析特別研究	教　授	片山　准一	1・2・3		2
		国際経営特別研究	教　授	小川　雄平	1・2・3		2
		会計情報学特別研究	教　授	山下　壽文	1・2・3		2
		会計監査論特別研究	非常勤講師	伊藤　龍峰	1・2・3		2
		税務会計特別研究	教　授	春日　克則	1・2・3		2
		税法学特別研究	講　師	宮崎　裕士	1・2・3		2
		民法特別研究	教　授	丹羽　崇之	1・2・3		2
		情報科学特別研究	教　授	車　炳玘	1・2・3		2
		情報ﾒﾃﾞｨｱ特別研究	教　授	麻生 隆史	1・2・3		2
		情報ｾｷｭﾘﾃｨ特別研究	教　授	車　炳玘	1・2・3		2
		情報・信号処理特別研究	教　授	麻生 隆史	1・2・3		2
		数値解析特別研究	准教授	荒平　高章	1・2・3		2
		応用数値解析特別研究	教　授	車　炳玘	1・2・3		2
		人工知能特別研究	准教授	荒平　高章	1・2・3		2
	演習	演習Ⅰ	麻生 隆史 荒平　高章 小川　雄平 春日　克則 片山　准一	車　炳玘 宮崎　裕士 山下　壽文	1	4	
		演習Ⅱ	演習Ⅰに同じ		2	4	
		演習Ⅲ	演習Ⅰに同じ		3	4	

講　義　等　の　内　容（博士後期課程）

授業科目名	講　義　等　の　内　容
経営学特別研究 （片山准一）	経営学における主要なテーマ（ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ･ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ、企業の社会的責任、ビジネス倫理等）について考察する。
日本経営史特別研究 （加来祥男）	第２次世界大戦後の日本企業の発展とその仕組みにみられる特徴を、生産システム、雇用システム、株式会社制度を中心に、国際比較を念頭におきながら考察する。
企業経済分析特別研究 （片山准一）	戦後日本に於ける株式会社の所有と支配構造の変遷過程を商法（会社法）と関連付けながら歴史的・論理的に分析を行う。
国際経営特別研究 （小川雄平）	グローバル化が進展した世界経済の現状の分析・把握と、それに伴う変容著しい国際経営環境に日々直面・対応している個別企業の国際経営戦略を理論的・実証的に考察する。
会計情報学特別研究 （山下壽文）	国際会計基準とわが国の会計基準の比較検討を行う。まず、概念フレームワークの構造とそのアプローチ（費用収益アプローチ・資産負債アプローチ）の検討、次に国際会計基準とわが国会計基準の相違点の検証、さらに国際会計基準によるわが国の制度会計への影響を分析する。また、わが国の制度会計における企業会計（会計基準など）と法人税法の公正処理基準との関係について考察する。
会計監査論特別研究 （伊藤龍峰）	我が国の会計監査論の先行研究を整理しながら、企業の財務諸表に対する公認会計士・監査法人による監査制度を中心に、その問題点を検討・解明します。絶えず、財務諸表監査制度の本質とは何かという問題意識を持ちながら研究を進めてください。
税務会計特別研究 （春日克則）	近年、営利法人と非営利法人の活動領域の重なりが拡大するなか、両者を分離して規定するこれまでの会計基準のあり方が問われている。さらに、法人税法の分野においても､非営利法人の収益事業課税について 34 種を限定列挙する現行方式が限界を迎えている。そこで、本講義では、営利法人と非営利法人を統合する会計基準（所得の計算原理）を考察するものであり、このために必要な専門的知識の習得を目標としている。 具体的には、非営利法人における利益計算構造について、財務会計（報告）と税務会計の視点から考察する。具体的には、FASB、ロバート N. アンソニー及び JICPA が提唱する非営利法人に関する概念フレームワークを比較検討することにより､非営利法人の利益測定の意義及び測定方法並びに純資産(資本）概念について研究していく。この考察を踏まえ、非営利法人の課税所得概念及び計算構造についても研究を進める。
税法学特別研究 （宮崎裕士）	本講義は、租税実体法を中心に前期課程での学習内容を振り返りながら、税法学における古くて新しい問題とは何かに気づかせる基礎となるものである。我々は日常の生活や仕事の上で税というものと関わり合いを持たざるを得ないが、それらの日常や社会慣習に潜む税法の課税根拠について、判例を交えて洞察を深めていくことで、自身の論文の理論的基礎を見出していく。

授業科目名	講　義　等　の　内　容
民法特別研究 （丹羽崇之）	英米契約法・財産法・不法行為法の古典的判例を講読し、その歴史的意義、実体法理の形成、さらにわが国の判例法理、学説の発展に与える影響を考察する。
情報科学特別研究 （車炳玘）	大量の情報がネットワーク上に存在し、今後も爆発的に増大する。広大な情報の海から、求める情報を捜し出すために、膨大な情報を収集・分析し、再構築する必要がある。ネットワークの広域性、データの多様性・分散性・不均一性を考慮した広域情報検索システムについて研究する。また、ネットワーク接続された計算資源を用いて大規模分散計算を行う Grid コンピューティングの研究も行う。国内外の研究組織とも協力しつつ、計算問題分割、計算資源の分散管理、自動スケジューリング等を研究する。
情報ﾒﾃﾞｨｱ特別研究 （麻生隆史）	ディジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。
情報ｾｷｭﾘﾃｨ特別研究 （車炳玘）	組織における情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の設計・導入・運用・見直しについて事例を中心に考察する。
情報･信号処理特別研究 （麻生隆史）	多くの実験データには様々なノイズが乗る為，フィルタを通すなどそれぞれ適切な処理を実施することでノイズを除去し，　その後何らかの知見を得る為のデータ処理を行っている。各自の研究テーマの関連研究においてどのような情報処理もしくは信号処理を利用しているかについて議論し，情報処理および信号処理についての理解を深める。
数値解析特別研究 （荒平高章）	自然科学系では偏微分方程式等で記述された数理モデルが多く存在し、その数値解析手法もかなり確立されている。近年では、社会科学系についても同様なモデル化が盛んに行われている。数値解析特別研究では、このような数理モデルについて色々な基準による分類を試み、それらの特徴や一般的な解法、解析条件などについて調査研究する。また、楕円型 Laplace 方程式について、数値解析手法の１つである有限要素法の代表的な離散化手法を修得し、具体的な境界値問題について解析システムを利用したシミュレーションを試みる。
応用数値解析特別研究 （車炳玘）	数値解析特別研究を踏まえて、自然科学系では数多く利用されている微分方程式の解の振る舞いの求め方について調査研究する。解の周期性や安定性、カオスなどについて検討し、それぞれ実世界でどういう事例の数理モデルとなるかなどについても深く考察する。
人工知能特別研究 （荒平高章）	1950 年代頃から本格的に発展してきた人工知能技術は､今日も様々な分野で応用されている．本研究は、どのような人工知能技術があるかについて，様々な分野の研究事例を通して議論し、考察をすすめる。
演習Ｉ （麻生隆史）	情報科学の分野でも近年特に注目を浴びている、ディジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にフィルタリング処理や領域分割等を学び、それをディジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。その際必要である様々なプログラミング技術（MATLAB 等を含む）もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。

授業科目名	講　義　等　の　内　容
演習Ⅰ （荒平高章）	工学的手法や情報学的手法は，様々な分野で使用され，新たな技術が次々と創出している．そこで，これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する．具体的には，組織工学に基づく材料設計，in vitro 実験，生体工学に基づく数値解析などである．
演習Ⅰ （小川雄平）	各自の研究テーマの具体化・明確化を図り、修士論文を再検討してリライトし、学会誌・学術誌への掲載に堪える論文に仕上げることを目標とする。そのための文献・資料の収集・解析等研究の進め方を指導する。
演習Ⅰ （春日克則）	近年、会計基準のコンバージェンスにより、税務会計と財務会計（報告）との差異が鮮明となっている。そのため、法人税法 22 条 4 項の公正処理基準について、研究者からは確定決算主義を廃止すべき旨の主張がなされ、判例においても公正会計基準と税会計処理基準（ビックカメラ事件）との分離が示されている。このような状況下において、税務会計と財務会計とのあるべき関係性（協調、補完、あるいは独立）について議論を深めて行きたい。そのために、演習Ⅰでは、税務会計と財務会計（報告）のそれぞれについての先行研究について考察する。
演習Ⅰ （片山准一）	修士論文の再検討及び、特別研究において指導した内容から、各自のテーマを選別し、それに沿って研究指導を行う。
演習Ⅰ （車炳玘）	インターネット技術や計算能力の進化に伴い、高機能、高性能の知的情報処理に関する研究にますます関心が高まっている。演習Ⅰでは、人間の視聴覚情報処理に関する最新の研究動向について視野を広げるために、画像、映像、音声などを中心とするメディア情報の知的処理に関する基礎理論や先端技術等について知識を広め、研究に必要な基礎知識を習得する。
演習Ⅰ （宮崎裕士）	演習Ⅰでは、自分の研究課題について実際に取り組んでもらい、自身の研究課題と研究計画のアップデートを計画的に行っていく。その際、資料収集の方法等の指導も行う。 特に、年１報のペースで研究論文の作成、報告を院生に課し、計画的に研究を進捗させていくことを意識させる。 また、適宜最新判例や、学術論文、税制改正等について対話をしながら、租税法への関心や理解を深めていく。
演習Ⅰ （山下壽文）	博士論文作成に必要な会計理論に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、「古典的アプローチ」と対比しながら、「意思決定有用性アプローチ」の特徴を整理し、「財務会計概念フレームワーク」の主要な論点、とりわけ「公正価値会計」に関する理論的研究を深める。
演習Ⅱ （麻生隆史）	高度なディジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にニューラルネットワーク、ファジィ理論、カオス理論等のソフトコンピューティング技術を学び、それをディジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。FPGA 等を用いたハードウエア技術もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアをさらに討論し、高度な研究の進め方を指導する。

授業科目名	講　義　等　の　内　容
演習Ⅱ （荒平高章）	演習Ⅰを受け，自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で，引き続き研究を継続し，実験データを整理し，考察を進める．得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う．
演習Ⅱ （小川雄平）	演習Ⅰに引き続いて研究の進め方を指導し、研究成果を関係学会で報告させる。学会報告の内容を基にした学術論文をもう一編完成させることに目標を置いて指導する。
演習Ⅱ （春日克則）	演習Ⅱでは、演習Ⅰの考察を踏まえ、税務会計と財務会計との関係性が、各時代においてそれぞれどのように把握されていたかについて研究して行く。
演習Ⅱ （片山准一）	演習Ⅰで構築した研究成果を発展させるべく、様々な文献収集を通してより高次な研究指導を行う。
演習Ⅱ （車炳玘）	演習Ⅰで習得した知識をベースに博士後期課程で行う研究のテーマを決め、その関連資料の収集及び輪読、追実験などを中心に研究を進めるとともにその研究成果を随時論文にまとめ、発表する。また、研究課程で出てきた諸問題点の検討および改良を行う。
演習Ⅱ （宮崎裕士）	演習Ⅱでは、引き続き博士論文の作成に取り組んでもらう。また、適宜最新判例や、学術論文、税制改正等について対話をすることで、博士論文作成に必要な租税制度に関する体系的知見を習得させる。 さらに、年１報のペースで研究論文の作成、報告を院生に課し、計画的に研究を進捗させていく。
演習Ⅱ （山下壽文）	博士論文作成に必要な会計制度に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、わが国とアングロ・アメリカン系主要諸国における会計規制、コーポレート・ガバナンスの相違と国際的な趨勢について整理し、会計のグローバル化に関する理論的研究を深める。
演習Ⅲ （麻生隆史）	ディジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを再検討し、より高度な研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を検証する。
演習Ⅲ （荒平高章）	演習Ⅱを受け，博士論文執筆のために自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で，必要な実験データを取得・整理し，考察を進める．得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う．

授業科目名	講　義　等　の　内　容
演習Ⅲ （小川雄平）	演習Ⅰ及びⅡで作成した２編の学術論文を核に学位論文のスケルトンを検討・確立し、関係学会での報告を経て、学位論文にまとめ上げるように指導する。
演習Ⅲ （春日克則）	演習Ⅲでは、課税所得計算原理を追求する税務会計と、意思決定有用性を指向する財務会計とを統合することの可能性について探ることとしたい。
演習Ⅲ （片山准一）	演習Ⅰ・Ⅱで培った研究成果を学位論文として纏め上げられるよう、論文指導を行う。
演習Ⅲ （車炳玘）	演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、研究成果を学会発表及びジャーナル論文として投稿する。また、研究課程で出てきた諸問題の改良を進めるとともに知的メディア情報処理に関する知見をまとめ、より高度な知的処理手法の開発を目指す。
演習Ⅲ （宮崎裕士）	演習Ⅲでは、引き続き博士論文の作成に取り組んでもらう。また、適宜最新判例や、学術論文、税制改正等について対話をし、自身の研究と結びつけて考えさせることで､博士論文完成に必要な集合知からの知見を現出させる。 さらに、１報以上の研究論文の作成、報告を院生に課し、演習Ⅱまでに作成した論文と組み合わせて、最終的な博士学位論文の骨格とする。
演習Ⅲ （山下壽文）	演習Ⅰおよび演習Ⅱにおける「意思決定有用性アプローチ」、わが国の会計制度および会計のグローバル化の研究を土台に据えながら、博士論文のテーマをもとに論文作成指導を行う。その際、博士論文作成者の研究テーマに関する研究報告とそれに対するディスカッションを中心にして進める。

□専任教員

氏　名	担　当　科　目
麻生　隆史	情報ﾒﾃﾞｨｱ特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ 情報ﾒﾃﾞｨｱ特別研究，情報･信号処理特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
小川　雄平	国際経営特論，ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸｽ特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ 国際経営特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
車　炳玘	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ特論，情報ｾｷｭﾘﾃｨ特論，数値解析特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ 情報科学特別研究，情報ｾｷｭﾘﾃｨ特別研究，応用数値解析特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
丹羽　崇之	税法学特論Ⅴ（相続税法･手続法･争訟法），民法特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ，民法特別研究
遠藤　真紀	経営戦略特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ
春日　克則	税務会計特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ，税務会計特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
倉地　和敏	演習Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ
吉野　正	会社法特論，民事･行政訴訟特論
平山　誠一郎	税法学特論Ⅰ（租税法総論），税法学特論Ⅱ（所得税法），演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ
片山　准一	経営学特論，財務管理特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ 経営学特別研究，企業経済分析特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
山下　壽文	会計情報学特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ，会計情報学特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
荒平　高章	情報科学特論，ﾃﾞｰﾀ解析特論，演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ 数値解析特別研究，人工知能特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
宮崎　裕士	税法学特論Ⅲ（法人税法①），税法学特論Ⅳ（法人税法②･消費税法），演習Ⅰ・Ⅱ，特別演習Ⅰ・Ⅱ， 税法学特別研究，演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
ﾃｨﾝﾀﾞ　ﾌﾟﾗﾏﾝﾀ	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ特論，人工知能特論

□非常勤講師

氏　名	担　当　科　目
今村　寛治	労働経済特論
伊藤　龍峰	会計監査特論，会計監査論特別研究
甘　長青	財政学特論
加来　祥男	日本経営史特論，日本経営史特別研究
岸川　洋	経営情報ｼｽﾃﾑ設計特論
黄　在南	経営組織特論
福山　博文	経営科学特論

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表≪省令で定める単位数等の基準数相当分≫

担当教員名	授業科目名	学科	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
大多　正人	キャリアデザイン入門Ⅰ	学科共通	2・必 前期	2	キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、実社会で必要となる能力・資質を示し、大学生活を充実させることでそれらを磨くよう促します。建学の精神である「優れた社会人たるにふさわしい温かい人間性を」「優れた科学技術者になる前に豊かな人間性を」はまさに「実社会で必要となる資質」といえます。この講座は、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。様々なワークを通じて、自分で考え行動し、周りと協働して成果を生み出すことで、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」など、「社会人基礎力」を修得していく構成となっています。学生が自らの将来を主体的に「キャリアデザイン」し、人間性を磨くことで、悔いのない進路選択ができるようサポートします。
大多　正人	キャリアデザインⅠ	学科共通	3・選 前期	2	「何のために働くのか？」「働くことで何が得られるのか？」「どんな仕事があるのか？」「働くうえで大切にしたいことは何か？」「社会に出るうえで学生生活を通してどんな準備をすればいいのか？」地場中小企業の経営者6人の講話から「生の声」を聴くことができる貴重な「体験」の機会です。経営理念や指針、ビジネスの現場の具体事例などに触れ、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深めます。複数の企業を経験の後、キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援を豊富に経験し、更に人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、経営者と学生との間に立ち理解がより深まるように講演をコーディネイトします。また、経営者の講話を受けて学生同士でディスカッションするアクティブラーニングの場を通じ、「学んだこと・発見したことを今後にどう活かすか」を共有し、語り合うことで、自分ではキャッチできなかったメッセージに気づく「目からウロコ体験」の機会にもなります。ここでも、学生が相互に気づきを共有し、自分の糧として活かせるように、講師がこれまでのキャリアコンサルタントとしての知識・経験を活かして導きます。また、この講座は、「社会基準」を重視した授業を行うことで、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。これらのアプローチを通して、「社会を知る」ことはもちろん、大学生活をさらに充実したものにし、自身の「キャリアデザイン」に磨きをかけていくことにつながります。

担当教員名	授業科目名	学科	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
大多　正人	キャリアデザインⅡ	学科共通	3・選後期	2	キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、進路決定する上で必要な最新の情報を提供するとともに、実践的な就職活動の準備をエスコートします。悔いのない進路選択、納得のいく就職先に進むための準備講座です。キャリア科目の集大成となる「実戦」的なアプローチで、直前に迫った就職活動に自信を持って臨めるよう最新情報でチューンナップしていきます。そのためには、確かな情報を手にしてしっかり準備することが必要で、それにより自信をもって採用選考に臨むことができます。また、この講座は、「社会基準」を重視した授業を行うことで、ディプロマポリシーⅢ（建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること）を目指し、カリキュラムポリシーⅠ（建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと）及びⅥ（キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること）に取り組んでいきます。就職を希望する3年生には是非とも履修して欲しい科目です。
遠藤　真紀	経営学総論Ⅰ	学科共通	1・必前期	2	本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営に関する基本理論を体系的に理解するとともに，その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に，伝統的な理論から現代の経営学まで，その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は，情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから，これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。 「経営学総論Ⅰ（経営学入門）」では，企業と社会についての基本的な視点から考察を進めます。
岸川　洋	経営情報論Ⅱ	学科共通	2・3・選後期	2	電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門（公共・金融）の業務経験がある教員が、経営環境の変化や情報技術の進展により、経営情報システムがどのように発展してきたかを解説することにより、各経営情報システムの利点・欠点・留意点について学修する。 ITパスポート試験（ストラテジー分野）から出題した小テストを毎回実施する。
学科共通　計				10	

担当教員名	授業科目名	学科	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
遠藤　真紀	経営学総論Ⅱ	経営情報	1・必後期	2	本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として，企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営のあり方等について理解するとともに，各理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に，伝統的な理論から現代の経営学まで，その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は，情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから，これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。 「経営学総論Ⅱ」では，「経営学総論Ⅰ」で理解した内容を基礎に，より理解を深めるため現実の企業経営政策・経営現象について，経営管理という視点で客観的に考察を行っていきます。
遠藤　真紀	ビジネスプラニング	経営情報	3・4・選後期	2	本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の事業計画や創業計画の作成支援等，経営コンサルティング実務の経験を持つ教員が担当します。新しくビジネスを興す場合，製品・サービスの市場性等の見きわめ（市場調査・需要予測などの外部環境分析）や自社（自分）の能力評価（内部環境分析）が必要なため，過去の実務経験を踏まえ，アイディアの出し方やまとめ方および事業計画の作成方法をテキストやワークシート等を使って講義します。最終的には，IT人材として自分のビジネスアイディアを事業計画書としてまとめ，その内容をプレゼンテーションしてもらいます。
遠藤　真紀	ベンチャー企業論	経営情報	2・3・選後期	2	本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。ベンチャーだけでなく，ビジネスや経営は，実際に行ってみないと本当の理解はできません。しかしテキストによる基本理論の理解だけでなく，ビデオ等による演習を通じて疑似体験する事は可能です。これまでの実務経験を踏まえ、企業経営が身近に感じられるような講義を行い，IT人材として必要なベンチャー企業に関する基本的な知識だけでなく，自身と社会や企業との関わりについて深く知ろうとする積極性を養っていきます。
遠藤　真紀	経営戦略論	経営情報	1・選前期	2	本学の建学の精神、3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ、中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。IT人材として必要な、経営戦略に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の戦略論まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。

担当教員名	授業科目名	学科	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
遠藤　真紀	中小企業論	経営情報	2・3・選前期	2	本学の建学の精神，3つのポリシーおよび学習目標を踏まえ，中小企業診断士として企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等，経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。中小企業は，わが国において企業数および雇用される従業員数とも圧倒的多数を占め，またわが国産業の競争力を下支えしています。IT人材として必要な知識として，講義では，大企業との格差問題や下請問題のみならず，中小企業が社会や地域経済に寄与していることについて議論していきます。テキストだけでなくビデオ教材等を活用し，また実務経験を踏まえ具体的な事例を交え，構造的・政策的・実践的な議論を展開していきます。
平山　誠一郎	税法学	経営情報	3・4・選後期	2	「租税は、…およそ民主主義国家にあっては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものであ」る(大島判決（最判：昭和60年3月27日判決））とされている。税とは何か、税による国家の活動にはどのようなものがあるかを学ぶ。また、身近な税である所得税・消費税を取り上げ、今後学生諸君が実生活に出てどのようにかかわっていくかなどを学ぶ。 なお、所得税の確定申告書を作成するなど実践的な学習を行う。 国税庁ホームページにアクセスして、所得税の申告書作成システムを利用した所得税確定申告書の作成模擬演習を行うなど、電子機器を取り入れた授業も予定している。 担当教員は、国税組織において、税法の解釈・適用に関する審理事務や課税処分に対する不服審査事務などの実務経験がある。
経営情報学科　計				12	

担当教員名	授業科目名	学科	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
岸川　洋	モバイルネットワーク	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ	3・4・選前期	2	電気通信事業会社で、交換設備部門（開発、計画、設計、調達、保守）の業務経験のある教員が、モバイル通信のしくみ、今後の動向及び課題を解説することにより、第5世代・第6世代への基礎知識を学修する。
平塚　智一	Webコンテンツ制作Ⅰ	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ	1・選後期	2	ディプロマポリシーに基づき、この授業では、ビジネスパーソンおよびITエキスパートとして仕事をする上で必須となるWeb技術の基礎について、現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。 ビジネスとインターネット、各種サービスとインターネットを概観する。ユーザ・インターフェイスと提供したいサービスの機能・構造との関係をどのようにデザインするか考察する。簡単なHTMLファイルについて学習する。
平塚　智一	Webコンテンツ制作Ⅱ	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ	2・選前期	2	ディプロマポリシーに基づき、この授業では、ビジネスパーソンおよびITエキスパートとして仕事をする上で必須となるWeb技術の基礎について、現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。 科目「Webコンテンツ制作Ⅰ（Webデザイン）」での学習を踏まえて、各種Webサービスが提供する機能とそのための構造、それらを支える基盤技術やプログラミング技術について総合的に学習する。Web関連ファイルについて理解を深める。
情報ネットワーク学科　計				6	
経営情報学部　合計				28	